

2022

第
287
集

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第287集

岩村田遺跡群

西八日町遺跡 I

西八日町遺跡 I

長野県佐久市教育委員会

2022.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第287集

岩村田遺跡群

西八日町遺跡 I

2022.3

佐久市教育委員会



H38 号竪穴建物出土土偶（弥生時代）



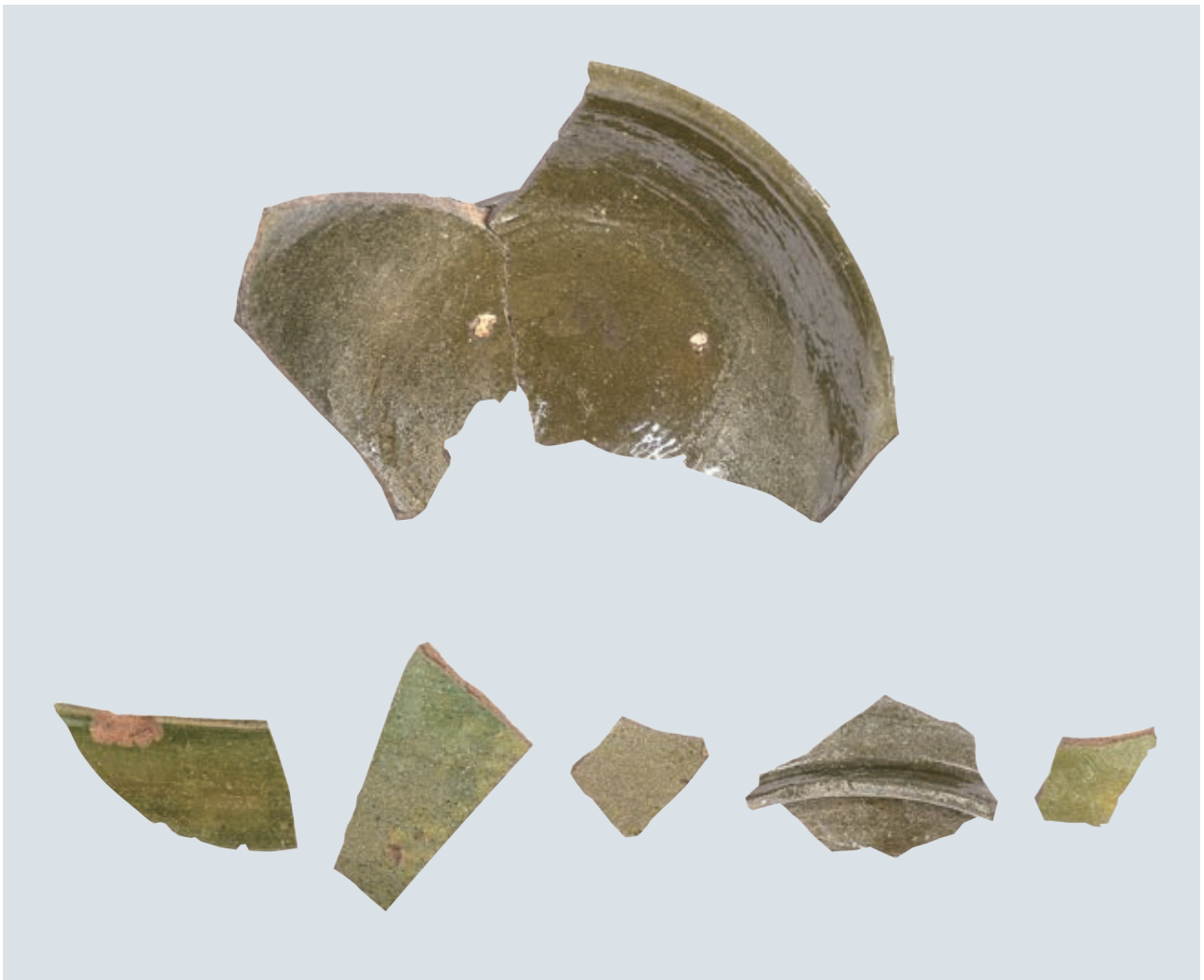
弥生時代前期の土器（浮線文）



Y3 号竪穴建物出土土器（弥生時代中期後半）



H92 号竪穴建物出土銅碗（平安時代）



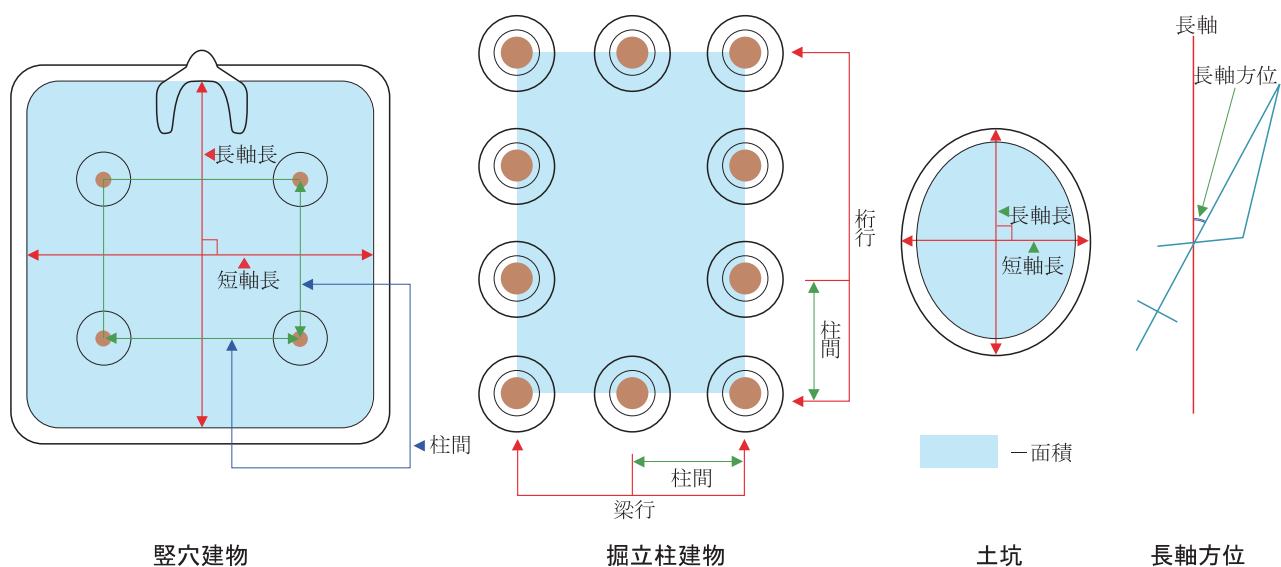
遺跡出土緑釉陶器（平安時代）

例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する岩村田遺跡群西八日町遺跡 I の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 有限会社三和開発が行う宅地造成に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 西八日町遺跡 I (INC I) 佐久市岩村田 2152-13 外
- 4 調査期間及び面積 発掘作業：昭和 58 年 5 月 8 日～8 月 31 日
整理作業：昭和 58 年 9 月 1 日～9 月 16 日
平成 30 年 4 月 23 日～令和 4 年 3 月 31 日
- 5 発掘作業及び昭和 58 年 9 月 16 日までの整理作業については、原因者負担により実施し、平成 30 年 4 月 23 日～令和 4 年 3 月 31 日の整理作業及び報告書刊行は全額を国庫補助金及び市費の公費により作成した。(平成 30 年度～令和 3 年度市内遺跡発掘調査事業)
- 6 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図 (1:2,500)、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図 (1:5,000) である。
- 7 本書に掲載した遺構図は、平板測量で作成されたものを、図面修正し、Adobe Illustrator でデジタルトレースし作成した。
- 8 遺物実測図は手取り実測を行い、Adobe Illustrator でデジタルトレースし作成した。
- 9 遺構写真は当時の調査団が撮影したカラーポジをスキャニング、モノクロネガをデジタルカメラを用いデュープし、遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshop で補正等を行い使用した。
- 10 本書は Adobe InDesign を用い小林が編集した。
- 11 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

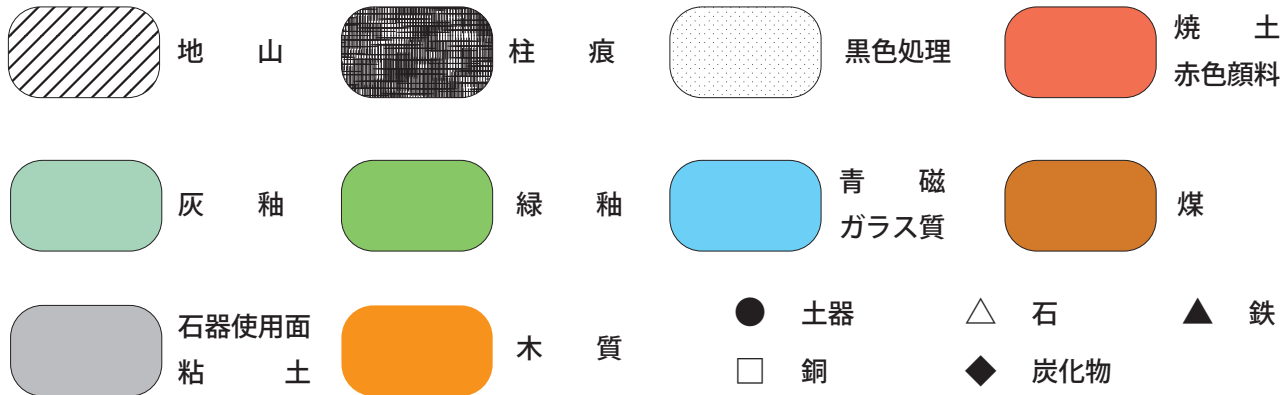
凡 例

- 1 遺構の略記号は竪穴建物－H (ただし、弥生時代は Y 中世は Ta である)、掘立柱建物－F、土坑－D、溝址－M、ピット－P である。
- 2 挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4 を基本とする。これ以外のは挿図中のスケールを参照されたい。
- 3 遺跡の海拔標高については、当時の記録に記載がないため不明である。土層の色調は、標準土色帖を用いたものでなく、個々の調査員の主観に基づく色調である。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 5 調査区グリッドは任意に設定されており、間隔は 3 m である。
- 6 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。



- 7 竪穴建物の形態は長軸長と短軸長の差が 1 割を超えたものを長方形とした。
- 8 竪穴建物の軸は長軸長より計測し、正方形の場合はカマド側を長軸とした。

- 9 遺構・遺物の計測値の () は推定値、<>は残存値、-は不明である。
 10 遺構の時期は弥生時代は小山岳夫の編年を、古墳時代については富沢一明の編年を、奈良・平安時代については聖原編年に準拠した。
 11 挿図中における網掛けは以下の表現である。



目 次

例言・凡例

目 次

第 I 章 発掘調査の経緯	1
第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 調査体制	1
第 II 章 遺跡の立地と環境	3
第 1 節 自然的環境	3
第 2 節 歴史的環境	3
第 3 節 基本層序	5
第 III 章 調査の方法	5
第 1 節 調査の方法	5
遺跡略記号・遺構略記号	5
遺構調査	5
遺構測量	5
写真	5
遺構・遺物の整理等	6
報告書	7
第 2 節 検出遺構・遺物の概要	7
検出遺構	7
出土遺物	7
第 IV 章 遺構と遺物	7
第 1 節 竪穴建物	7
H 1 号竪穴建物 (第 4 図)	7
H 2 号竪穴建物 (第 5 図)	7

H 3号豎穴建物(第6图)	7
H 4号豎穴建物(第7·8图)	7
H 5号豎穴建物(第9·10图)	8
H 6号豎穴建物(第11图)	8
H 7号豎穴建物(第12图)	9
H 8号豎穴建物(第13图)	10
H 9号豎穴建物(第14图)	12
H 10号豎穴建物(第15图)	12
H 11号豎穴建物(第16·17图)	12
H 12号豎穴建物(第18·19图)	12
H 13号豎穴建物(第20图)	20
H 14号豎穴建物(第21图)	22
H 15号豎穴建物(第22图)	22
H 16号豎穴建物(第23图)	22
H 17号豎穴建物(第24·25图)	24
H 18号豎穴建物(第26·27图)	24
H 19号豎穴建物(第28图)	24
H 20号豎穴建物(第29·30图)	27
H 21号豎穴建物(第31图)	27
H 22号豎穴建物(第32图)	29
H 23号豎穴建物(第33图)	29
H 24号豎穴建物(第34图)	29
H 25号豎穴建物(第35~37图)	33
H 26号豎穴建物(第38~40图)	33
H 27号豎穴建物(第41图)	33
H 28号豎穴建物(第42·43图)	35
H 29号豎穴建物(第44·45图)	35
H 30号豎穴建物(第46图)	35
H 31号豎穴建物(第47图)	38
H 32号豎穴建物(第48·49图)	38
H 33号豎穴建物(第50图)	38
H 34号豎穴建物(第51图)	38
H 35号豎穴建物(第52图)	38
H 36号豎穴建物(第53图)	41
H 37号豎穴建物(第54·55图)	41
H 38号豎穴建物(第56·57图)	41
H 39号豎穴建物(第58图)	41
H 40号豎穴建物(第59图)	41
H 41号豎穴建物(第60图)	46
H 42号豎穴建物(第61图)	46
H 43号豎穴建物(第62图)	46
H 44号豎穴建物(第63·64图)	46
H 45号豎穴建物(第65·66图)	46
H 46号豎穴建物(第67图)	47
H 47号豎穴建物(第68·69图)	48
H 48号豎穴建物(第70·71图)	48

H 49 号竪穴建物 (第 72 図)	48
H 50 号竪穴建物 (第 73・74 図)	48
H 51 号竪穴建物 (第 75 図)	50
H 52 号竪穴建物 (第 76 図)	50
H 53 号竪穴建物 (第 77 図)	52
H 54 号竪穴建物 (第 78・79 図)	52
H 55 号竪穴建物 (第 80 図)	52
H 56 号竪穴建物 (第 81 図)	52
H 57 号竪穴建物 (第 82 図)	52
H 58 号竪穴建物 (第 83 図)	53
H 59 号竪穴建物 (第 84 図)	53
H 60 号竪穴建物 (第 85・86 図)	55
H 61 号竪穴建物 (第 87・88 図)	55
H 62 号竪穴建物 (第 89 図)	55
H 63 号竪穴建物 (第 90 図)	55
H 64 号竪穴建物 (第 91 図)	55
H 66 号竪穴建物 (第 92 図)	58
H 67 号竪穴建物 (第 93 図)	58
H 68 号竪穴建物 (第 94 図)	60
H 69 号竪穴建物 (第 95 図)	61
H 70 号竪穴建物 (第 96 図)	61
H 71 号竪穴建物 (第 97 図)	66
H 72 号竪穴建物 (第 98 図)	66
H 73 号竪穴建物 (第 99 図)	69
H 74 号竪穴建物 (第 100 図)	69
H 75 号竪穴建物 (第 101 図)	71
H 76 号竪穴建物 (第 102 図)	71
H 77 号竪穴建物 (第 103・104 図)	71
H 78 号竪穴建物 (第 105・106 図)	71
H 79 号竪穴建物 (第 107 図)	71
H 80 号竪穴建物 (第 108・109 図)	74
H 81 号竪穴建物 (第 110 図)	74
H 82 号竪穴建物 (第 111 図)	74
H 83 号竪穴建物 (第 112 図)	74
H 84 号竪穴建物 (第 113 図)	74
H 85 号竪穴建物 (第 114・115 図)	77
H 86 号竪穴建物 (第 116 図)	82
H 87 号竪穴建物 (第 117・118 図)	82
H 88 号竪穴建物 (第 119・120 図)	82
H 89 号竪穴建物 (第 121 図)	82
H 90 号竪穴建物 (第 122 図)	82
H 91 号竪穴建物 (第 123 図)	82
H 92 号竪穴建物 (第 124・125 図)	85
H 93 号竪穴建物 (第 126 図)	85
H 94 号竪穴建物 (第 127・128 図)	85
H 95 号竪穴建物 (第 129 図)	85

H 96 号豎穴建物 (第 130 图)	85
H 97 号豎穴建物 (第 131 图)	88
H 98 号豎穴建物 (第 132 图)	88
H 99 号豎穴建物 (第 133 图)	88
H 100 号豎穴建物 (第 134 图)	90
H 101 号豎穴建物 (第 135 图)	90
H 102 号豎穴建物 (第 136 图)	90
H 103 号豎穴建物 (第 137·138 图)	91
H 104 号豎穴建物 (第 139 图)	91
H 105 号豎穴建物 (第 140·141 图)	92
H 106 号豎穴建物 (第 142 图)	93
H 107 号豎穴建物 (第 143 图)	93
H 108 号豎穴建物 (第 144·145 图)	94
H 109 号豎穴建物 (第 146 图)	94
H 110 号豎穴建物 (第 147 图)	95
H 111 号豎穴建物 (第 148·149 图)	95
H 112 号豎穴建物 (第 150 图)	96
H 113 号豎穴建物 (第 151 图)	96
H 114 号豎穴建物 (第 152 图)	97
H 115 号豎穴建物 (第 153·154 图)	97
H 116 号豎穴建物 (第 155 图)	98
H 117 号豎穴建物 (第 156·157 图)	100
H 118 号豎穴建物 (第 158 图)	100
H 119 号豎穴建物 (第 159 图)	100
H 120 号豎穴建物 (第 160 图)	100
H 121 号豎穴建物 (第 161 图)	100
H 122 号豎穴建物 (第 162·163 图)	102
H 123 号豎穴建物 (第 164 图)	102
H 124 号豎穴建物 (第 165 图)	102
H 125 号豎穴建物 (第 166·167·168 图)	103
H 126 号豎穴建物 (第 169 图)	105
H 127 号豎穴建物 (第 170 图)	105
H 128 号豎穴建物 (第 171·172 图)	106
H 129 号豎穴建物 (第 173 图)	107
H 130 号豎穴建物 (第 174·175 图)	108
H 131 号豎穴建物 (第 176 图)	108
H 132 号豎穴建物 (第 177·178 图)	109
H 133 号豎穴建物 (第 179 图)	109
H 134 号豎穴建物 (第 180·181 图)	109
H 135 号豎穴建物 (第 182 图)	111
H 136 号豎穴建物 (第 183 图)	111
H 137 号豎穴建物 (第 184 图)	111
H 138 号豎穴建物 (第 185 图)	111
Y 1 号豎穴建物 (第 186 图)	111
Y 2 号豎穴建物 (第 187 图)	111
Y 3 号豎穴建物 (第 188~191 图)	114

Y 4号竪穴建物(第192図)	114
Y 5号竪穴建物(第193図)	114
Y 6号竪穴建物(第194図)	114
Y 7号竪穴建物(第195図)	116
Ta1号竪穴建物(第196図)	116
Ta2号竪穴建物(第197・198図)	116
Ta3号竪穴建物(第199図)	116
Ta4号竪穴建物(第200図)	116
Ta5号竪穴建物(第201図)	117
第2節 掘立柱建物	118
F 1号掘立柱建物(第202図)	118
F 2号掘立柱建物(第203図)	118
第3節 土坑	118
D 1号土坑～D 11号土坑(第204～214図)	118
第4節 ピット	119
P 1～P 16(第215～216図)	119
第5節 溝址	119
M 7～M 9(第217～219図)	119
第6節 遺構外出土遺物	119
縄文土器(第220図)	119
弥生土器(第220図)	122
土師器(第220～222図)	122
須恵器(第222～223図)	122
灰釉陶器、緑釉陶器、青磁(第223図)	122
土製品(第223図)	122
石器、石製品(第223～224図)	122
金属器・金属製品(第224図)	124
第V章 まとめ	124
第1節 弥生時代	124
前期	124
中期前半	126
中期後半	128
後期	128
第2節 古代	130
引用・参考文献	142
表	197
写真図版	285
報告書抄録	
奥付	

第I章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯

昭和58年2月、有限会社三和開発により岩村田遺跡群西八日町遺跡内で宅地造成を行う目的で、佐久市農業委員会に農地転用の申請が出された。農業委員会で承認され、同年3月県知事より許可を受けた。市教委では農業委員会農地部会の議決一覧表から当該地の埋蔵文化財が破壊されると判断し、三和開発に対し文化財保護法の定めによる埋蔵文化財発掘届の提出を求めた。その後、3月31日に埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施する旨連絡をした。4月1日試掘調査を行った結果、数件の住居址を確認した。4月22日に三和開発、市教委、地元研究者で協議を行い、4月23日に市教委は三和開発と埋蔵文化財調査委託契約を締結し、5月8日から調査に着手した。7月14日に現場作業期限を7月31日から8月31日に延長する変更契約を締結し、8月31日に現場作業は終了した。その後9月16日まで整理作業を行った。

平成30年、31年度市内遺跡発掘調査事業の一環として、整理作業を行い本書を刊行した。

第2節 調査体制

昭和58年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	戸塚平一郎（昭和58年10月退任） 大井昭二（昭和58年11月就任）
事 務 局	社会教育課	次 長	大井昭二（昭和58年10月退任） 森泉郁太郎（昭和58年11月就任）
		課 長	並木 進
		係 長	相沢幸男
		係	関本 功、林 幸彦 細萱健一（昭和58年7月就任）
		社会教育指導員	森泉かよ子、小山岳夫 三村美穂子（昭和58年12月退任） 大井和子（昭和59年1月就任）
調 査 団		団 長	藤沢平治
		調 査 担 当	林 幸彦
		調 査 主 任	小山岳夫
		調 査 員	井上行雄、大井今朝太、原田政信
		協 力 者	遠藤しづか、篠原浩江、並木ことみ、早川俊彦 丸山勝子、御園孝子

平成30、令和元・2・3年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹 吉岡道明（令和3年5月～）
事 務 局	社会教育部	部 長	青木 源（平成30、令和元年度） 三浦一浩（令和2年度） 土屋 孝（令和3年度）
	文化振興課	課 長	小林義夫（平成30年度） 東城 洋（令和元、2年度） 平林照義（令和3年度）

	企 画 幹	武者新一（平成 30 年度） 吉田 晃（令和元年度） 岡部政也（令和 2 年度） 谷津和彦（令和 3 年度）
文化財調査係	係 長	塩川宏幸（平成 30 年度） 山本秀典（令和元年～）
	係	小林眞寿 富沢一明 上原 学 久保浩一郎 岩下 琴（平成 30 年 6 月まで） 荻原義春（平成 30 年 7 月～平成 31 年 3 月まで） 羽毛田卓也（令和元年度～）
	臨時職員	森泉かよ子（平成 30 年度）
	調 査 員	甘利隆雄 岩松茂年 大矢志穂 小林喜久子



第 1 図 西八日町遺跡 I の位置（1：50,000）

小林節子 小林敏雄 堺益子 清水律子
 副島充子 田中ひさ子 花岡美津子 細谷秀子
 堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 山村容子
 柳沢孝子 柳澤千賀子 山田叔正 油井満芳

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 自然的環境

千曲川上流域の東西幅約6km、長さ約15kmの南北に長い菱形の平野部が佐久平であり、標高は660～740mを測る。行政区分的にはほぼ佐久市に属する。地形地質の成因的には二大別され、旧佐久市の中心部を東西に流れる滑津川を境に著しい差異が認められる。滑津川以南の佐久平は千曲川流域沖積層地帯で標高680m内外の平坦地で、千曲川とその支流の用水を活用した水田地帯である。滑津川以北は千曲川右岸にあたり、北部県境にそびえている浅間火山の堆積物分布地帯で標高700m内外と以南に比べ一段高台をなしている。浅間火山はわが国の火山としては最も新しい三重式成層火山で現在も活動を続けている。佐久平北部はその噴出物に覆われており、噴出物の南縁部は旧岩村田町・中込原にまで及んでいる。西八日町遺跡は旧岩村田町の西南端湯川右岸沿に立地している。

西八日町遺跡付近の地層の最下部層は浅間火山第一次黒斑火山の最活動期の山体を破壊した水蒸気爆発による塚原泥流が山麓南面一帯に流下して、平坦部千曲川沿岸で圧力を減じ溶岩熱泥流の内容物を散在堆積したものである。この塚原泥流は塚原部落・三岡駅付近まで流れ大小100ヶを越す残丘を作っている。これらの残丘は基盤整備以前は現在よりも多数存在しており、古墳や墓地に利用されている例も多い。

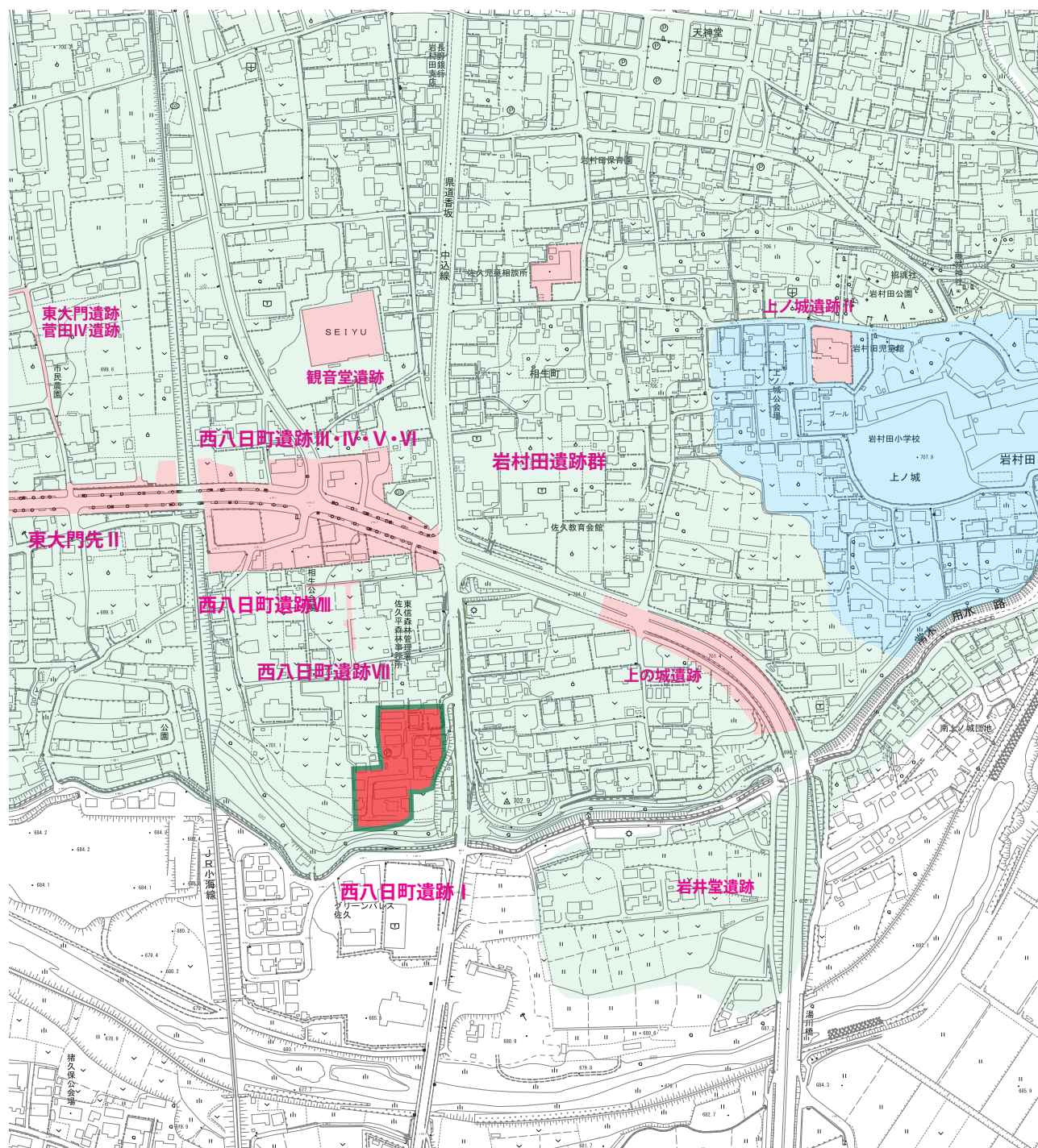
この塚原泥流の堆積上面は不規則な凹凸であったが、黒斑火山の長期に亘る火山活動の火山弾火山灰砂礫が厚く堆積し平準化した。佐久市北部の火山堆積物は全てこれに属し、第一軽石流(P1)第二軽石流(P2)の二期に大別され小諸懐古園や鼻顔稲荷神社付近でその厚い堆積層を見ることが出来る。この軽石流の堆積時期は内部に包含されている自然木炭のC14の測定によって10,650±250YBP 洪積期終期とされている。この堆積層は主として火山灰砂礫浮石によって構成されているため水の浸食に弱く、山麓緩傾斜地では水流洪水に浸食され、御代田・三岡付近では火山地域特有の「田切り地形」が見事に発達し、長土呂・小田井にまで及んでいる。

西八日町遺跡付近は塚原泥流最終末端部分にあたり、その地表面の低所には地下水の湧出、雨水湧水の貯留等による湿地沼沢地も形成されており、若宮神社付近には沼沢状湿田が分布しており、古くから開拓された水田地帯であるといわれている。(1990 佐久埋蔵文化財センター調査報告書第22集 故白倉盛男先生の文書を一部割愛引用)

第2節 歴史的環境

第1節で記述しているように、佐久市北部は浅間火山の火山堆積物で厚く覆われているため、11,000年以前の遺跡が発見される可能性は山地部分を除きない。遺跡は浅間火山の堆積物が侵食され形成された田切台地上に立地することから、旧石器時代から縄文時代草創期の古い部分の遺跡が存在したとしても、開発行為に際し露呈したことは今まではなく、縄文時代の集落遺跡が岩村田周辺で発見されたこともない。ただ、未発達の田切や、窪地が低湿地化した部分に縄文時代のものと思われる陥穴や、明確な遺構に伴い土器が発見されることがあることから、此の地域は縄文時代には狩場やそれに伴うキャンプ地であったものと思われる。弥生時代前期になると湯川の河岸段丘斜面や段丘縁に、下信濃石遺跡や西八日町遺跡が出現するようになる。佐久地方で最も古く稲作が開始された地域である可能性が高い。しかし、続く中期前半の遺跡が発見されていないことから、水稻栽培が軌道に乗らなかったものと思われる。中期後半になると、北西の久保遺跡、五里田遺跡、西一本柳遺跡、北一本柳遺跡、円正坊遺跡、根々井芝宮遺跡などの遺跡が林立し隆盛する。そ

の隆盛は弥生時代後期まで継続するが、古墳時代前期には急激に衰退してしまう。近年、佐久市北部から群馬県にかけて、弥生時代の人物造形品の出土が相次いでおり、特に後期のものについては、この地域がその発祥ではないかとの推測もされている。また、金属製品の出土も多く、上直路遺跡の銅釧や、北一本柳遺跡の板状鉄斧・鉄剣、五里田遺跡の布巻の鉄剣など貴重な発見が多い。古墳時代5世紀後半になると再び集落規模が拡大し、6世紀には群馬系の多彩な形象埴輪で飾られた、北西の久保遺跡の北西の久保古墳17号墳が出現する。平野部を囲む山地斜面に無数に展開する群集墳が多い佐久地域で、平地に展開する東一本柳古墳群は7世紀後半から8世紀のものである。この古墳群の中の1基から豪華な金銅製の馬具が出土した。古代の公・私牧が多数存在した東信濃においても、名だたる望月牧が存在する佐久地域は滋野氏系の牧経営に長けた豪族が多く、馬に関連した遺物が多い。奈良・平安時代には岩村田よりも北部の長土呂地域に巨大な計画集落が出現するが、西八日町遺跡から和同開珎が、上の城遺跡から神功開寶が、円正坊遺跡から貞観永寶が出土するなど衰退した状況は認められない。鎌倉時代、信濃守護小笠原長清の七男大井朝光が大井荘の



第2図 周辺遺跡分布図

地頭となり、国府と並び称されるほどの賑わいを呈するが、次第に衰退し 1484 年村上正清により攻められ、落城し町は焼き払われてしまった。江戸時代末に、藤ヶ城が内藤氏により築城される以前から彼の地は上の城と呼ばれており、四隣譚藪にも「黒岩陣城の南四丁（約 436 m）を隔て、上の城といふあり、南北式丁半（約 270 m）、東西式丁（約 220 m）、堀かた橋台あり、八日町へ三丁半（約 380 m）東南岸高く湯川を帯ひたり」とあることから古くから城跡であることは認識されていたようであり、大井氏累世居館の跡との説もある。上の城遺跡Ⅱの発掘調査では上の城に接続するものと思われる溝址が検出されており、現地地形図上でもこれに連なるように北方向に延びる地割が確認できる。

第3節 基本層序

昭和 58 年当時の調査においては、「標準土色帖」は用いていない。また、基本層序に関する記録類も存在しないため、調査区際の土層図や工事時の地山断ち割り写真などから、基本層序を復元した。

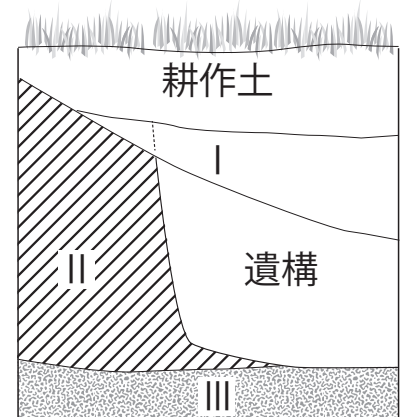
耕作土—20cm～100cmの堆積が認められる。

第Ⅰ層—第Ⅲ層 P1 の漸移層。

第Ⅱ層—P 1。浅間火山第一軽石流の堆積層。

第Ⅲ層—砂礫層。湯川の氾濫によるものと思われる。

遺構は、第Ⅰ層上面から確認可能であるが、検出は第Ⅱ層上面で行われている。



第3図 基本層序模式図

第三章 調査の方法

第1節 調査の方法

遺跡名・調査区

昭和 58 年の調査時点では上の城遺跡群西八日町遺跡であったが、平成 15・16 年度に実施した旧佐久市の遺跡詳細分布図のデジタル化に伴う、遺跡範囲の見直しにより岩村田遺跡群西八日町遺跡となった。西八日町遺跡における最初の調査であったが、当時は調査次数を遺跡名の末尾には付さなかった。現在は西八日町遺跡Ⅰと表記される。

調査区は南北方向にアルファベット、東西方向に数字を付している。当初付した部分よりも北及び東の箇所については、「'」を付加して表記されている。分割単位は 3 m である。

遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付されている。

- アルファベット 3 文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。I = 岩村田
- アルファベット 3 文字の 2 番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。N = 西八日
- アルファベット 3 文字の 3 番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。C = 町のチ
- 末尾のローマ数字は発掘調査の次数を表す。第 1 次調査 = I

遺構の略記号は以下のとおりである。

H = 古墳時代以降の竪穴建物、Y = 弥生時代の竪穴建物、Ta = 中世の竪穴建物、F = 掘立柱建物、D = 土坑、M = 溝、P = ピット

遺構調査

竪穴建物は均等に 4 分割し、十字にセクションベルトを残し掘り下げている。カマド部分は掘り下げず、4 ないし 6 分割して住居址覆土とは別に掘り下げている。堀方の調査は行っていない。

遺構測量

縮尺 1/20 で平面図、断面図共に作成しているが、カマドは 1/10 で作成されている。平板測量と簡易造り方測量を併用している。

写真

35 ミリ一眼レフカメラを用い、白黒ネガ、カラーリバーサルで同一カットを撮影している。空中写真は撮影されていない。

遺構・遺物の整理等

調査後遺構番号の付け替えが行われている。遺物洗浄、注記まで終了していた遺物は、セメダインCによ



昭和 47 年 岩村田地域航空写真

り接合作業を行い、エポキシ樹脂を充填剤として復元作業を行った後、手取り実測を行った。図面については各遺構毎にまとめられていたが、修正作業は一切行われていなかったため、手作業による修正作業を行った。遺構写真はカラーポジ、白黒ネガをデジタル一眼レフカメラによりデュープしデジタル化した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラを用い撮影した。遺物の保管に際しては、報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。

報告書

表はMS社製「エクセル」で作成した。遺構・遺物実測はアドビ社製「イラストレーター」によりデジタルトレースを行った。写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらのデータをアドビ社製「インデザイン」でレイアウトし、印刷原稿を作成した。

第2節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

検出遺構

竪穴建物 150 軒 掘立柱建物 2 棟 溝址 3 条 土坑 11 基 ピット 16 基

出土遺物

縄文土器（早期）、弥生土器（前期・中期後半・後期）、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、磁器、土製品、石器・石製品、鉄器・鉄製品、銅製品、古銭、木器

第IV章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物

H 1 号竪穴建物 (第 4 図)

F'12 グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-3°-E に主軸方位をとる。長軸長 3.76 m、短軸長 3.00 m、壁残高 0.4 m、面積 10.25㎡の規模である。他遺構との重複関係は有さない。北壁中央部分にカマドが粘土で構築される。ピットは 2 基検出されているが、柱穴は判然としない。

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、鉢、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 2 号竪穴建物 (第 5 図)

E'8 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-18°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.8 m、短軸長 4.32 m、壁残高 0.48 m、面積 21.59㎡の規模である。H70 に切られ、H69 を切る。北壁中央部分にカマドが構築され、均等配置される 4 基の支柱穴が検出されている。

遺物は土師器と須恵器が出土しているが、土師器 1、4 と須恵器 5 は混入である。器種的には坏、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

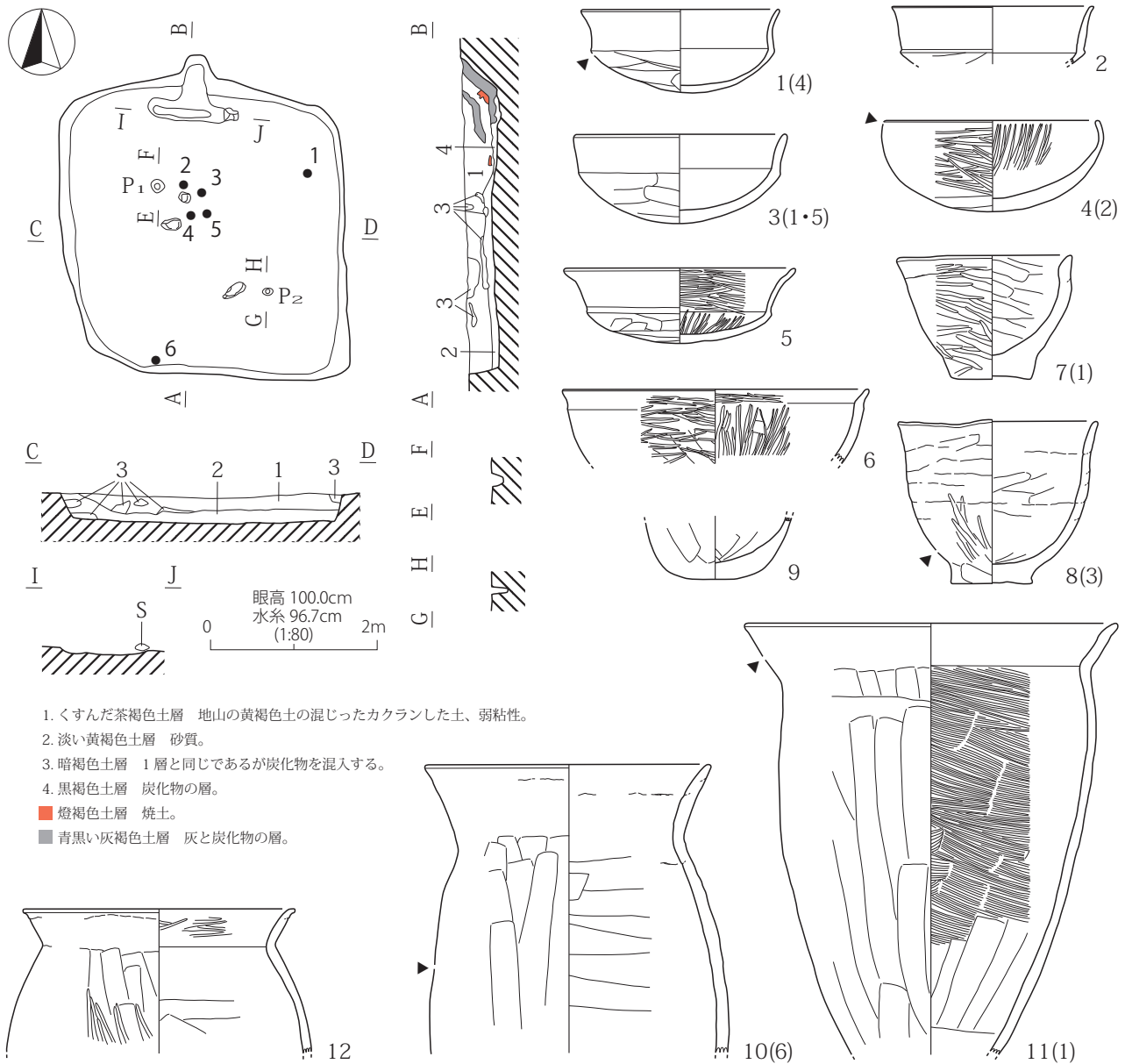
H 3 号竪穴建物 (第 6 図)

C'5 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-71°-E に主軸方位をとる。長軸長 5.8 m、短軸長 5.36 m、壁残高 0.56 m、面積 30.79㎡の規模である。H71 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築され、均等配置される 4 基の支柱穴が検出されている。西南隅部分の壁下には周溝が存在する。

遺物は土師器、灰釉陶器、弥生土器が出土しているが、灰釉陶器 3、弥生土器 11 は混入である。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 4 号竪穴建物 (第 7・8 図)

C'2 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-71°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.0 m、短軸長 5.72 m、壁残高 0.56 m、面積 34.18㎡の規模である。他遺構との重複関係は有さない。西壁中央部分にカマドが構築され、均等配置される 4 基の支柱穴と、建て替えと思われる柱穴 1 基が検出されている。



第4図 H1号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、石器が出土しているが、須恵器 18、19 は混入である。器種的には坏、甕、壺、甑、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

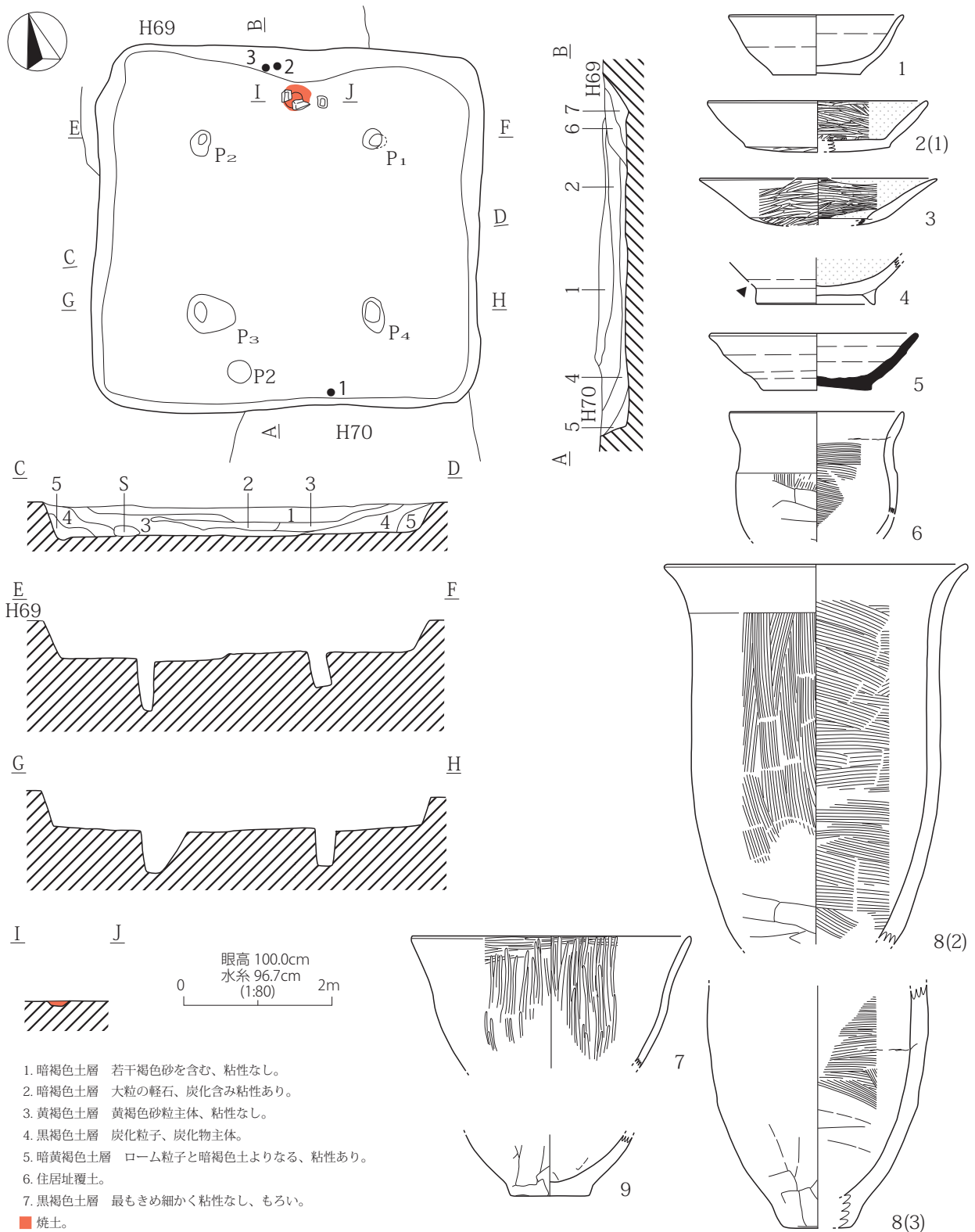
H 5 号竪穴建物 (第 9・10 図)

A 12 グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-9°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.92 m、短軸長 6.0 m、壁残高 0.6 m、面積 38.3㎡の規模である。H73、F1 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築され、均等配置される 4 基の主柱穴と、カマド東脇に貯蔵穴と思われるピットが検出された。また、床面上には炭化材が散乱していた。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄器が出土しているが、須恵器 14、15、17、18、弥生土器は混入である。器種的には坏、高坏、甕、壺、甑、鏝が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 6 号竪穴建物 (第 11 図)

C 6 グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-9°-W に主軸方位をとる。長軸長 6.0 m、短軸長 4.84 m、壁残高 0.44 m の規模である。H7、H75、H76、D2、P5 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。14 基検出されたピットの内、P1、P2、P8、P12 が主柱穴と思われる。また、堀方の調査は行われていないが、床面を下げすぎた部分から、火床や壁の一部分が検出されており、本址は建て替えが行われたことが推測される。



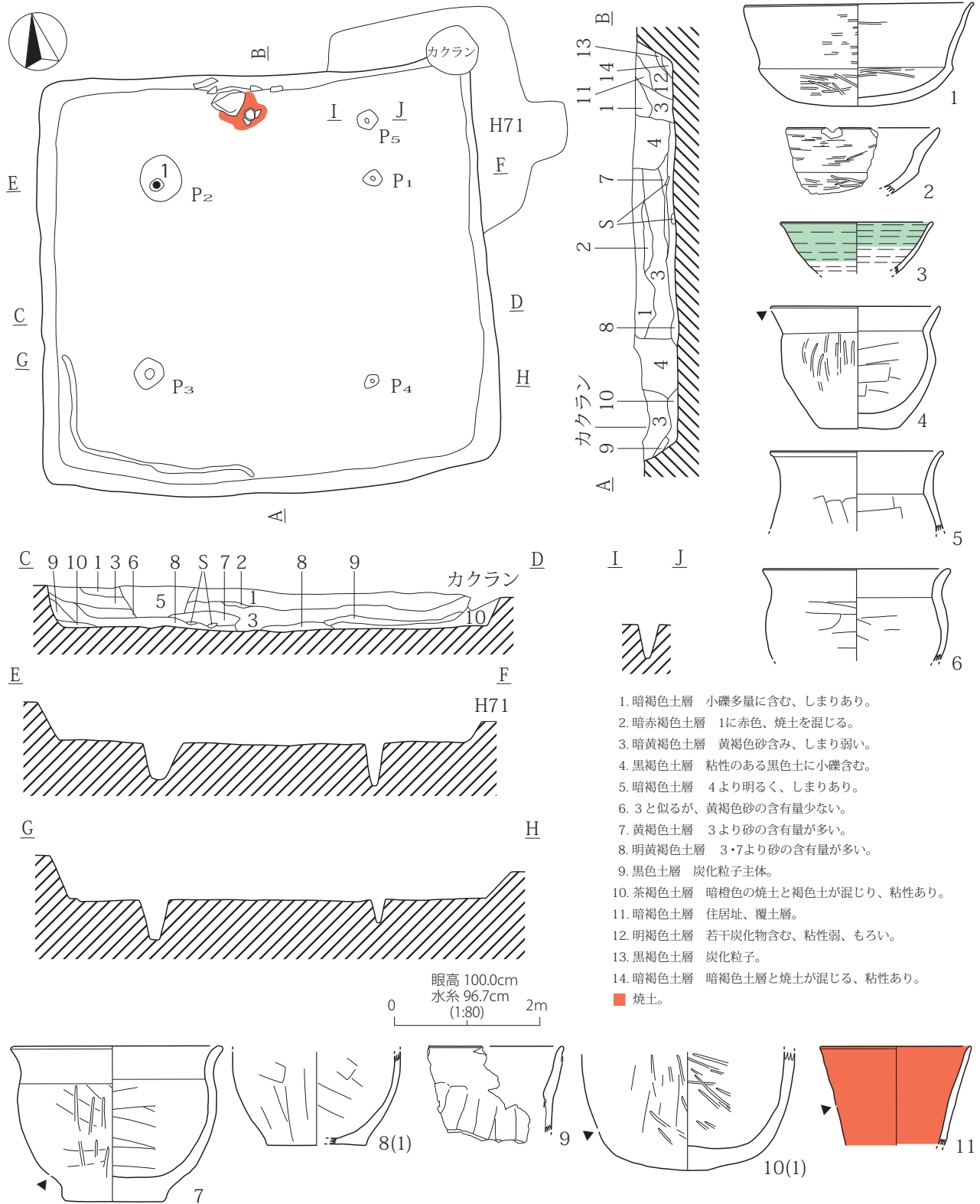
第5図 H2号竪穴建物

遺物は土師器、石器が出土している。器種的には坏、甕、壺、打製石斧、敲石が認められるが、打製石斧は混入品である。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。

H7号竪穴建物(第12図)

C5グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、壁残高0.2mの規模である。H6を切り、H76、H81に切られる。ピットは3基検出されたが支柱穴ではない。

遺物は土師器坏が2点出土している。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。

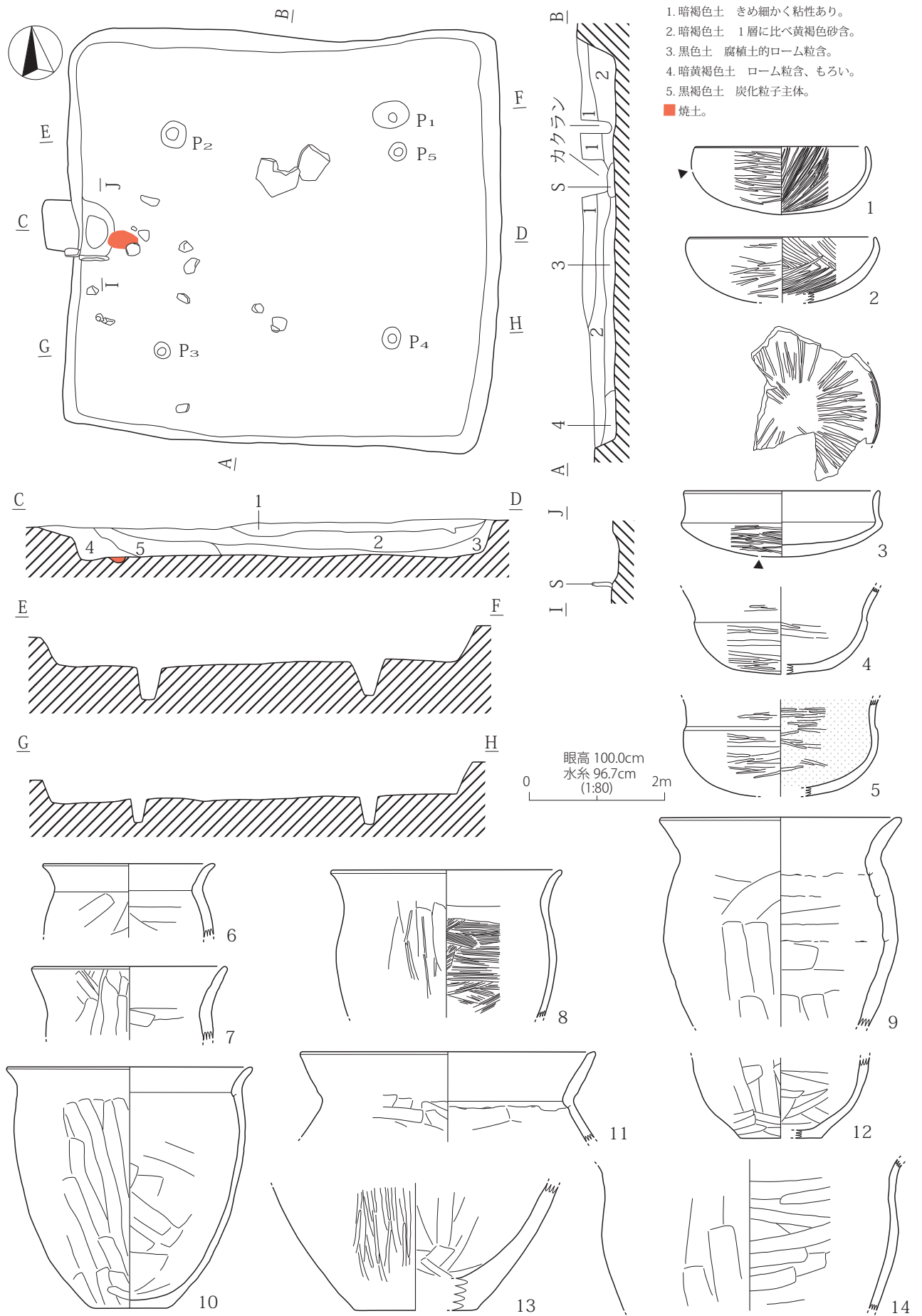


第6図 H3号竪穴建物

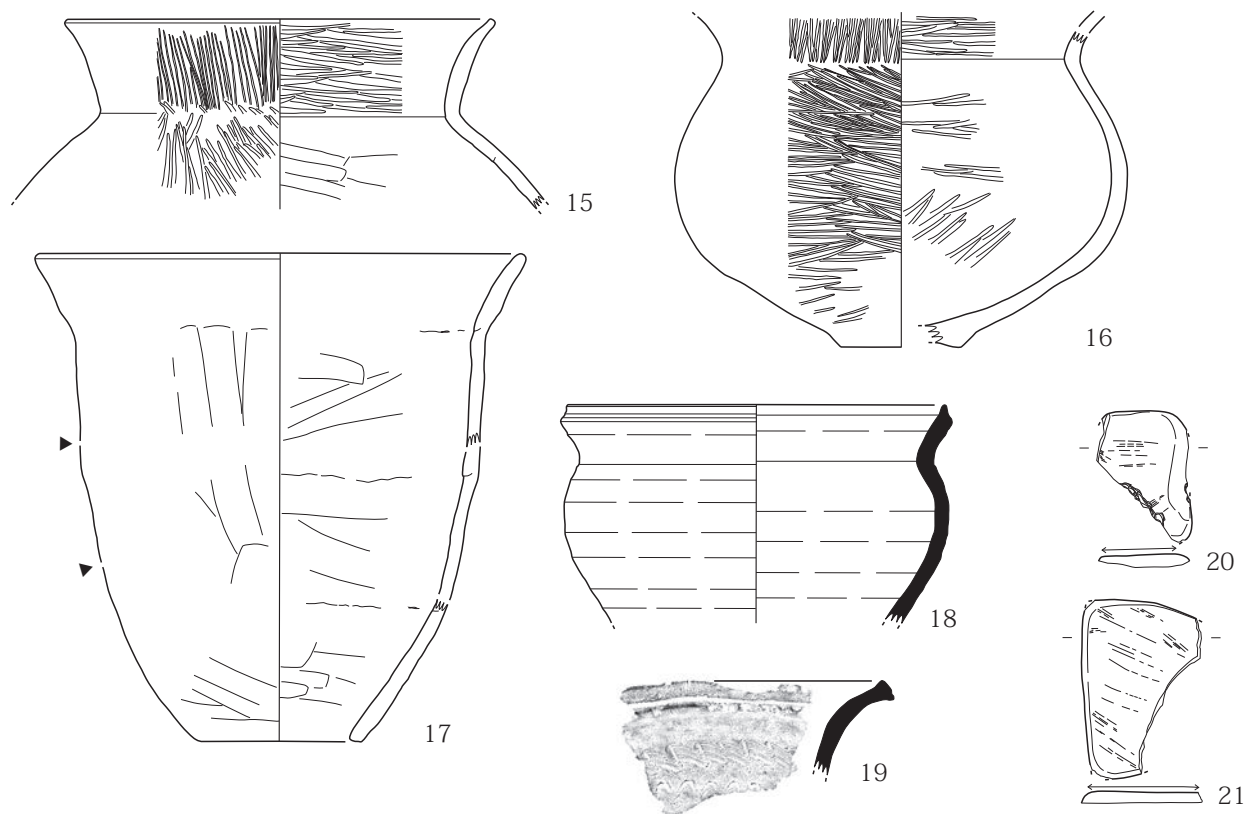
H8号竪穴建物(第13図)

E2 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-2°-Eに主軸方位をとる。長軸長 4.56 m、短軸長 4.52 m、壁残高 0.5 m、面積 17.81㎡の規模である。H9、H78に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等配置される4基の支柱穴検出されている。

遺物は土師器、石製品が出土している。器種的には坏、甕、壺、白玉が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。



第7図 H4号竖穴建物(1)



第8図 H4号竪穴建物(2)

H 9号竪穴建物(第14図)

F 3グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、真北に主軸方位をとる。長軸長 6.72 m、短軸長 6.08 m、壁残高 0.56 m、面積 36.58㎡の規模である。H8 を切り、H51、H81、H83、H84 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。9 基検出されたピットの内均等配置される、P1～P4 の 4 基が支柱穴である。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器が出土しているが、須恵器は混入品である。器種的には坏、甕、壺、土器片円盤、磨石、敲石、石錘が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 10号竪穴建物(第15図)

A 1グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-7°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.08 m、短軸長 4.0 m、壁残高 0.52 m、面積 14.96㎡の規模である。H74、H77、H79 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等配置される、P1～P4 の 4 基が支柱穴である。

遺物は土師器、石器が出土している。器種的には坏、甕、磨・敲石が認められるが、土師器甕 4 は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 11号竪穴建物(第16・17図)

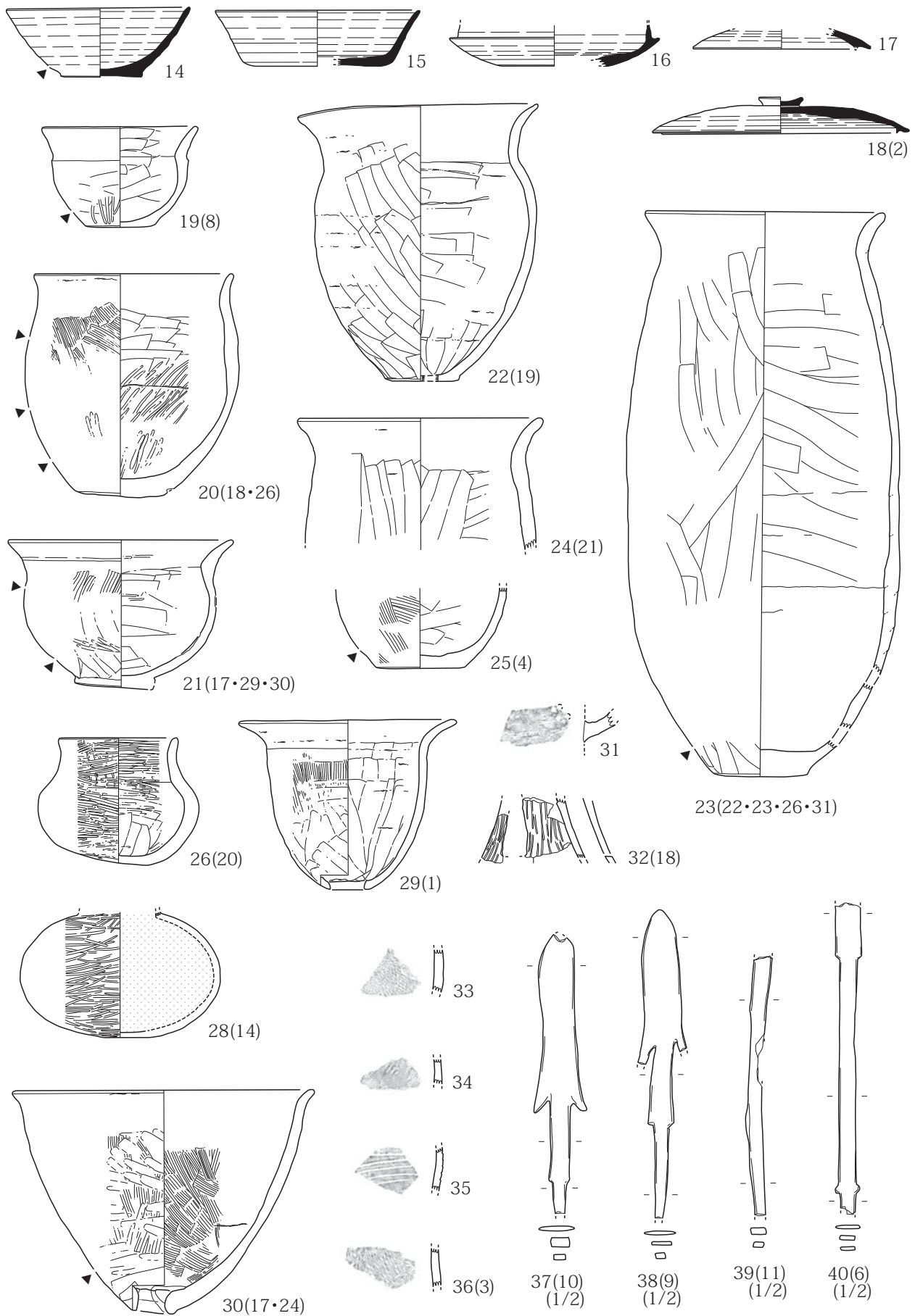
C 1グリットで検出された。平面形状は判然としない。壁残高 0.2 m の規模である。H10、H77～80 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 11 基検出されたが、支柱穴は不明である。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器が出土している。器種的には坏、甕、壺、甗、横瓶、土器片円盤、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

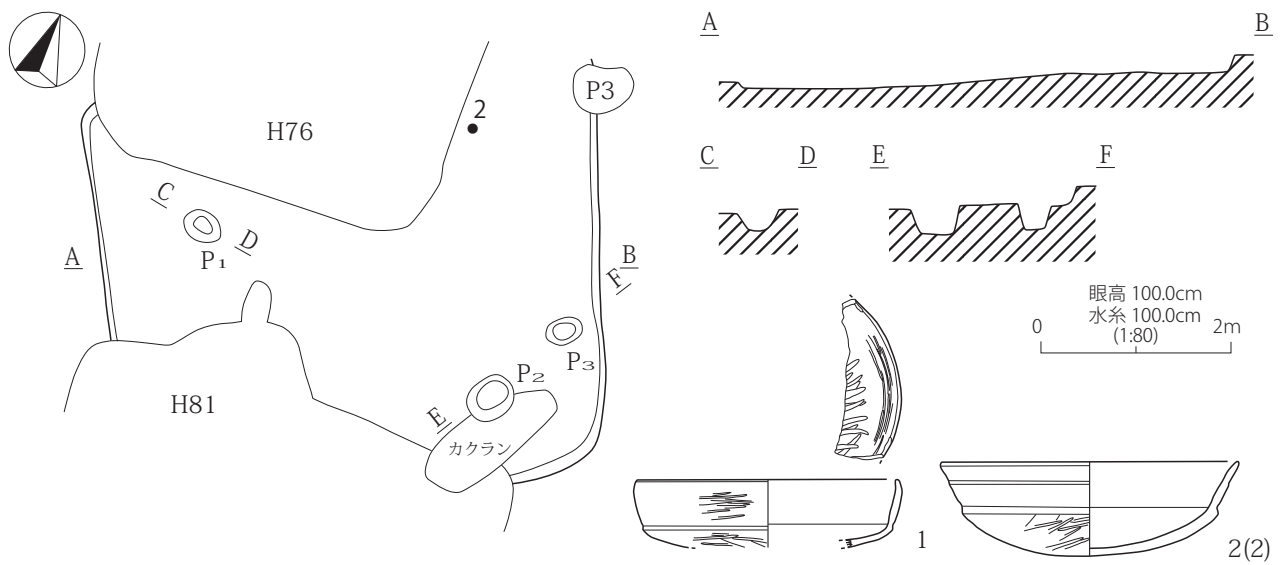
H 12号竪穴建物(第18・19図)

D-2グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈するものと思われる。壁残高 0.52 m の規模である。H80 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが支柱穴である。P5 は出入口施設、D1 は貯蔵穴であろう。壁下には周溝が巡り、ここから 9 条の間仕切りが延びている。

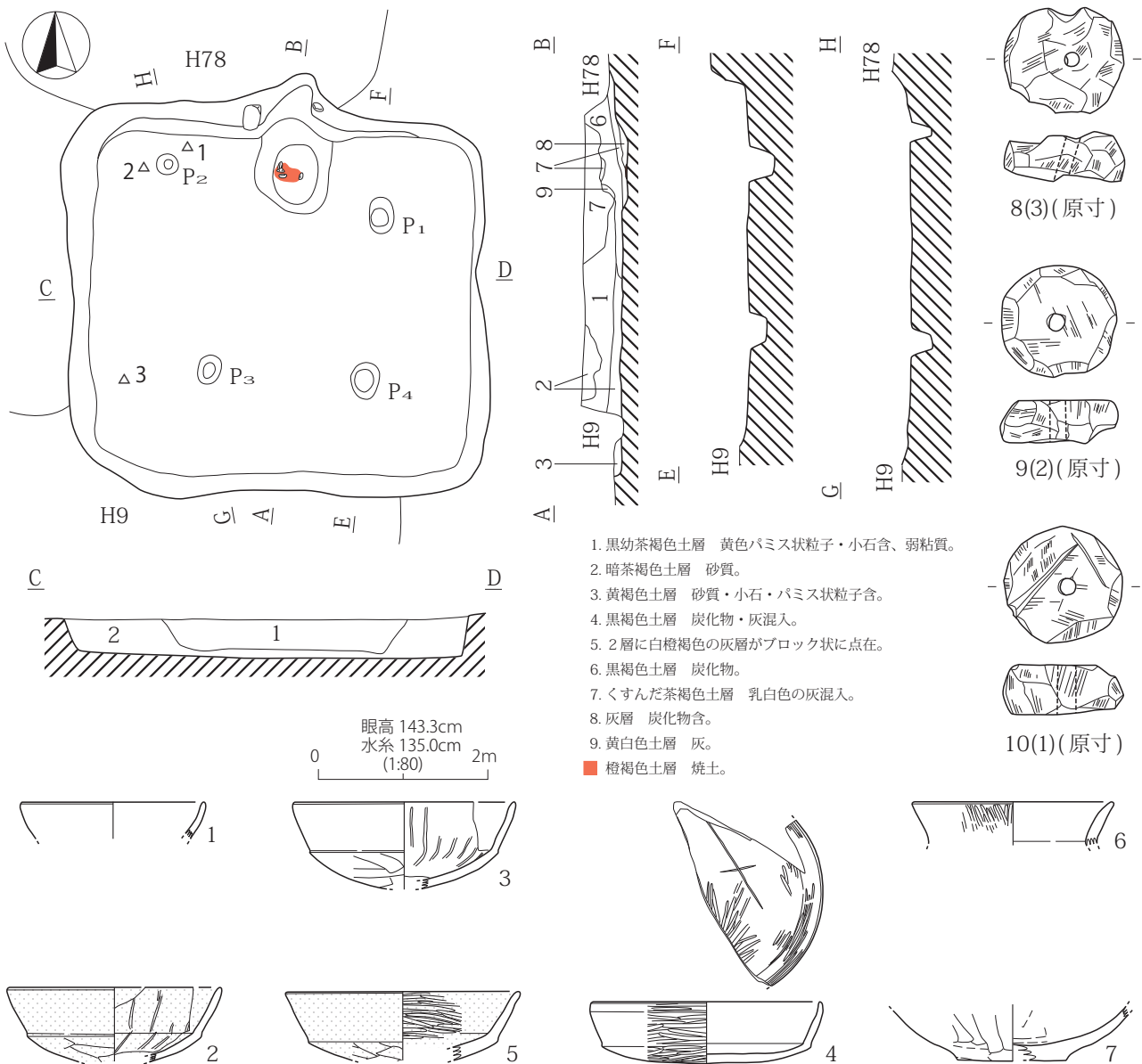
遺物は土師器、須恵器、石器、石製品、鉄器が出土している。器種的には坏、坏蓋、高坏、甕、鉢、壺、



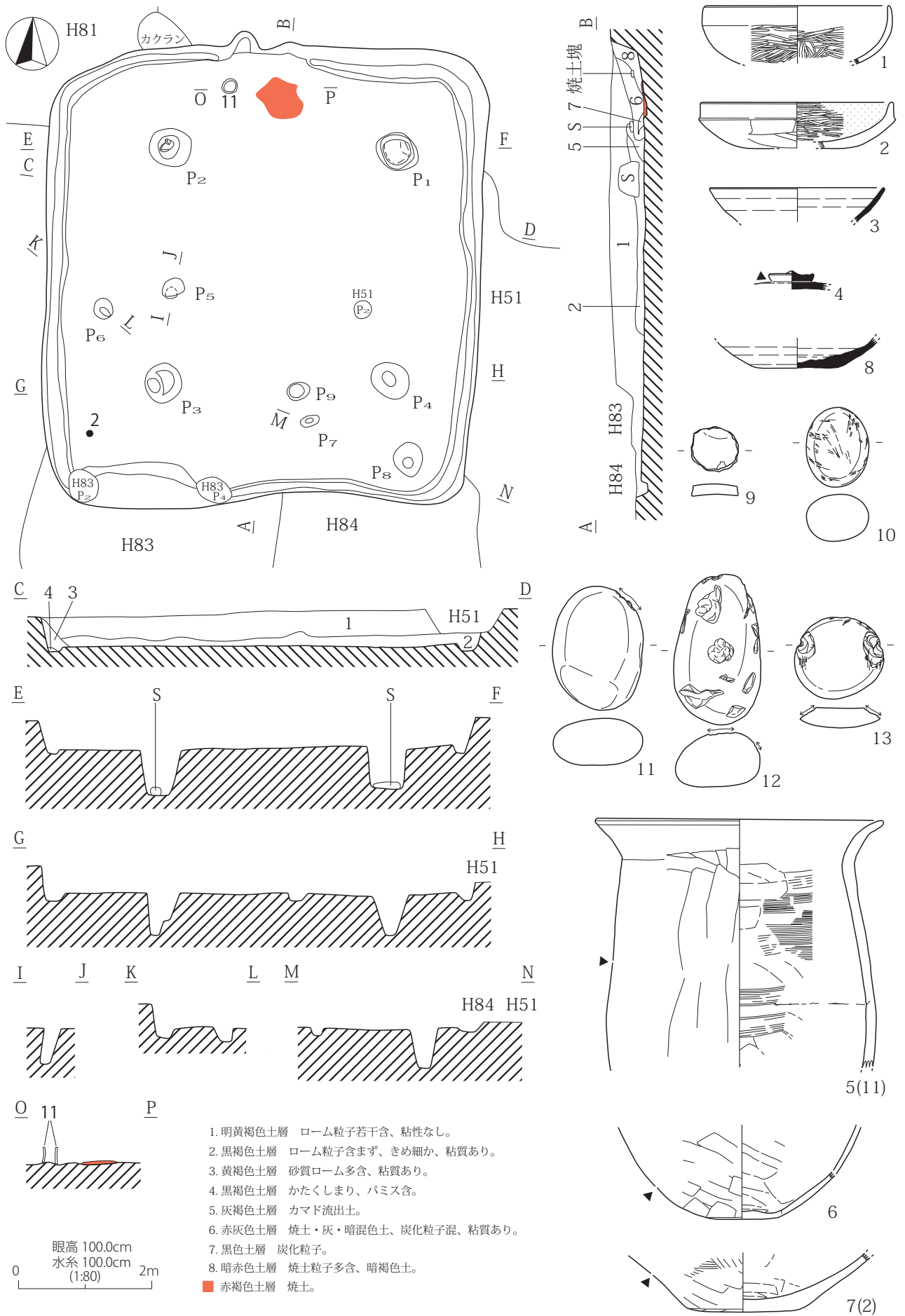
第 10 图 H5 号竖穴建物 (2)



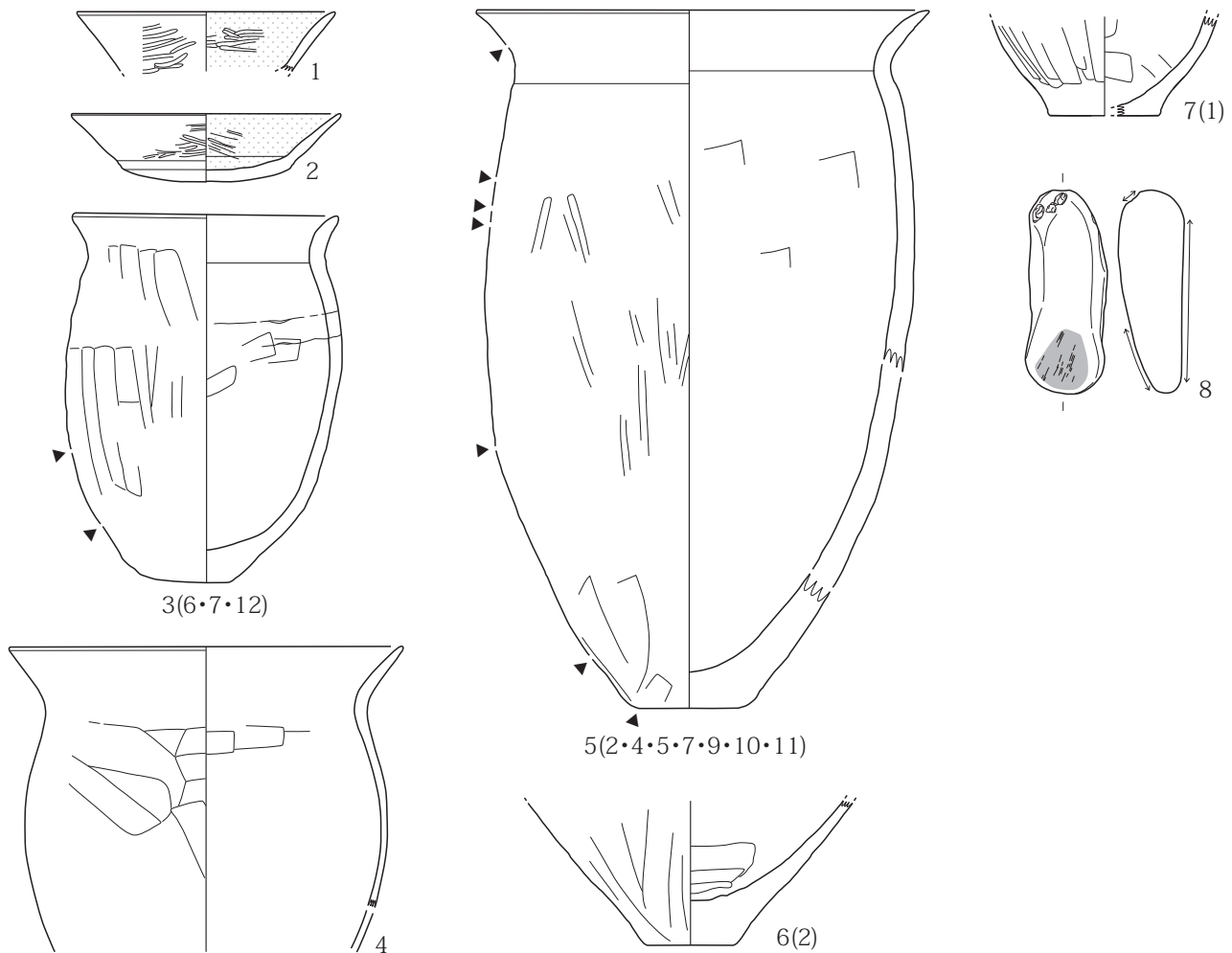
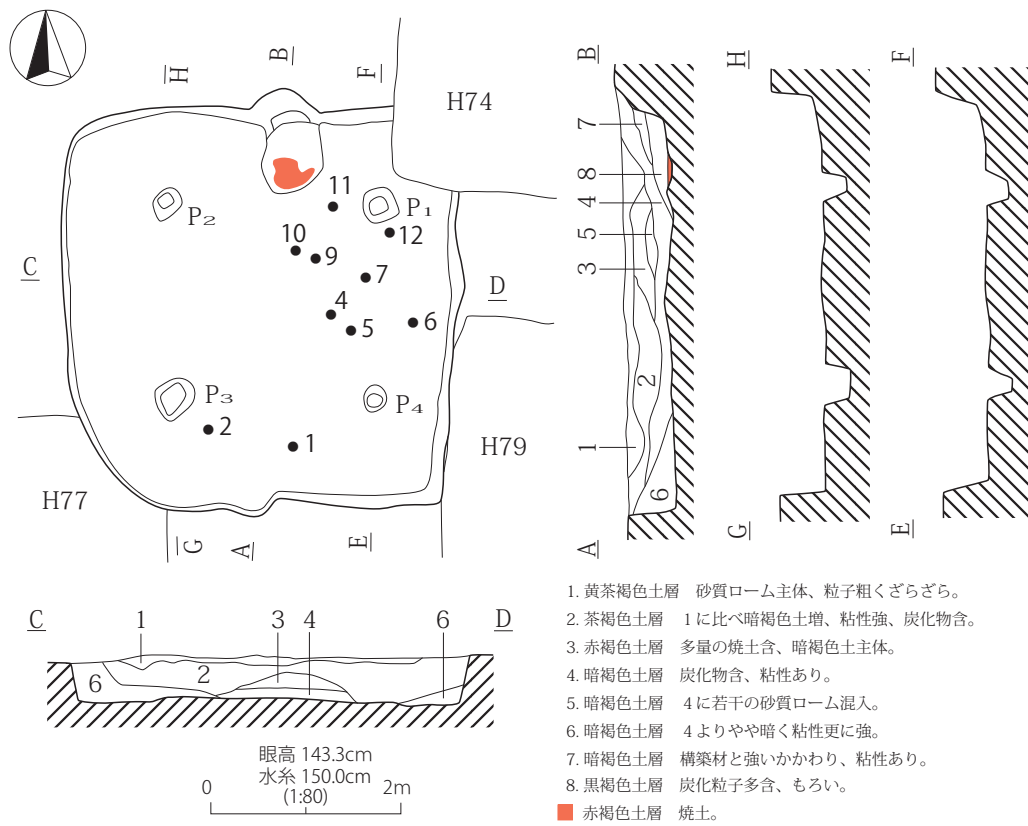
第12図 H7号竪穴建物



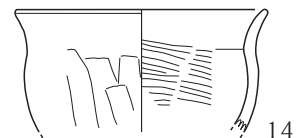
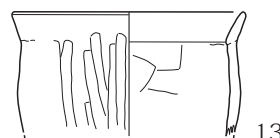
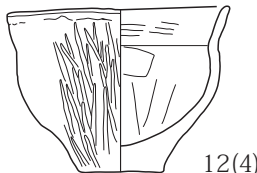
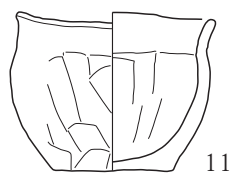
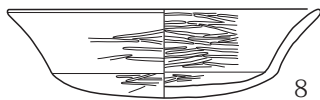
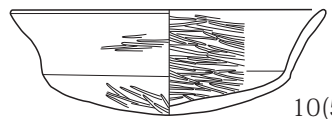
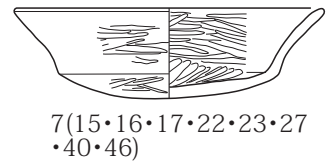
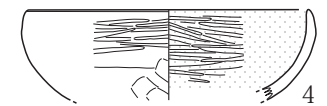
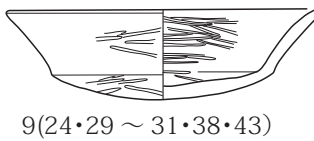
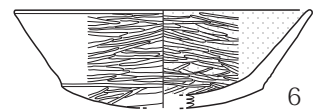
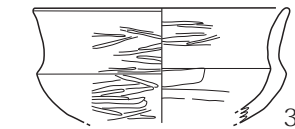
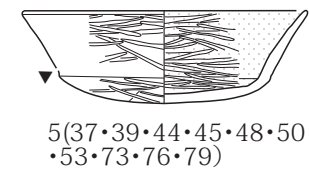
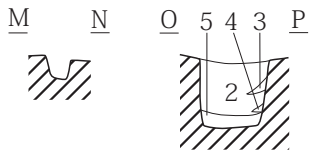
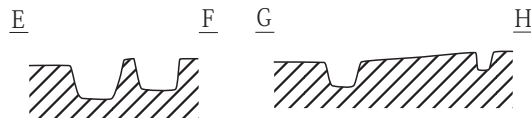
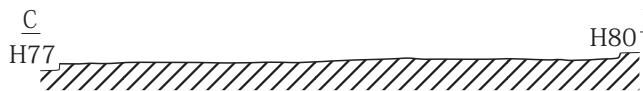
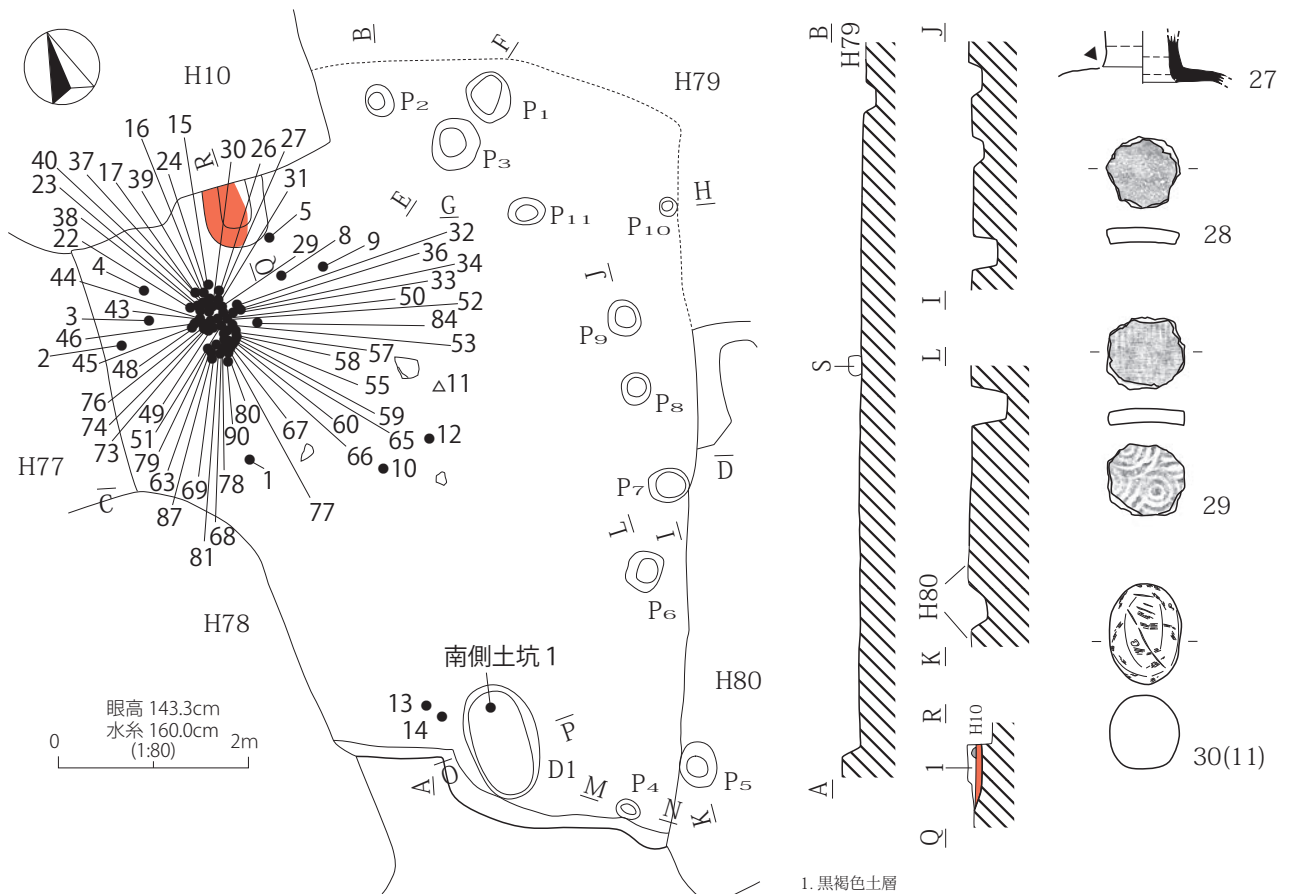
第13図 H8号竪穴建物



第 14 図 H9 号竪穴建物

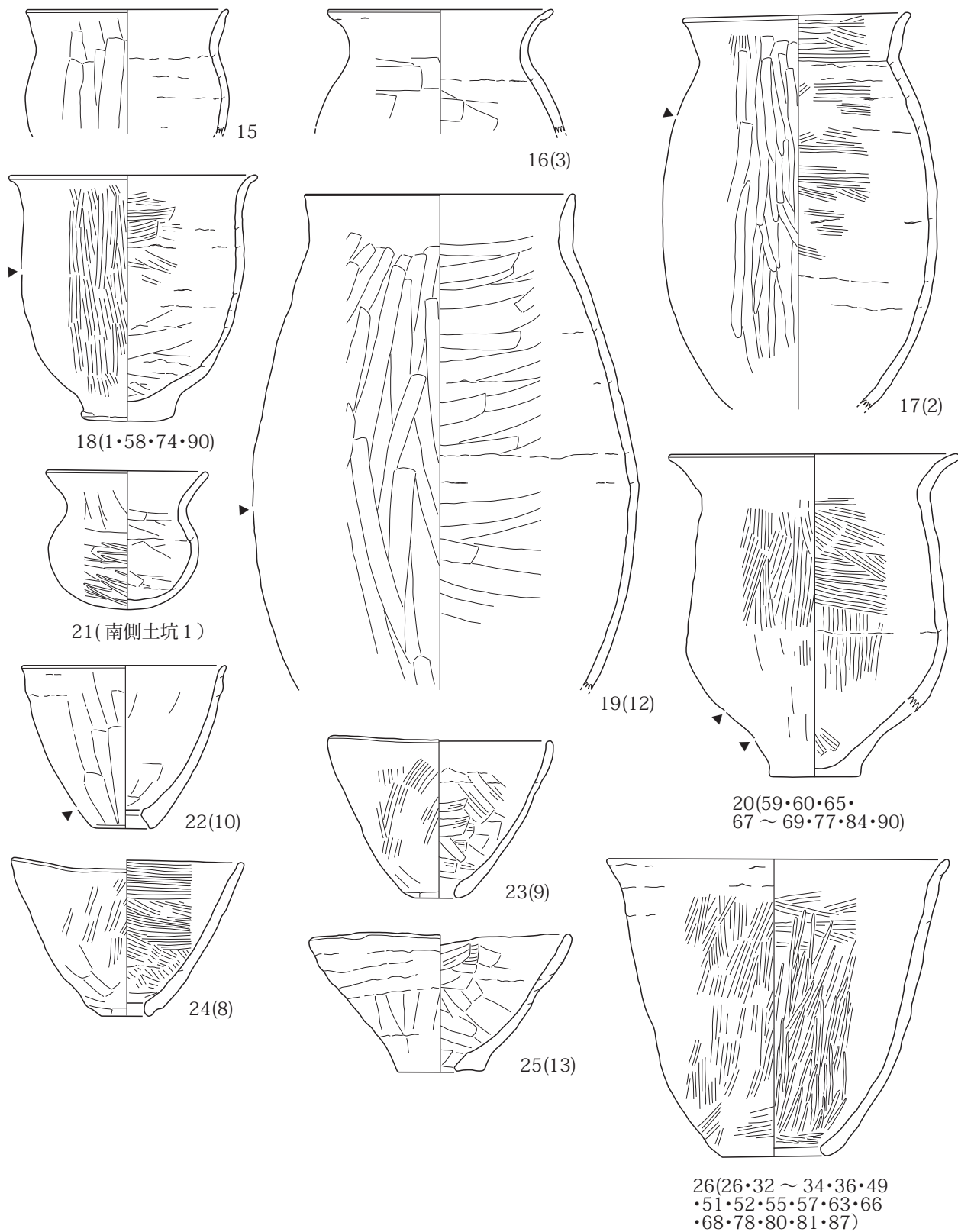


第15図 H10号竪穴建物



- 1. 黒褐色土層
 - 2. 暗褐色土層 若干ローム粒子含、非常にきめ細かく柔らかい。
 - 3. ローム粒子主体。
 - 4. 砂層のくずれか。
 - 5. 黒褐色土層 ローム粒子含まず、柔らかい、粘性帯びる。
- 粘土。
■ 焼土。

第16図 H11号竪穴建物(1)

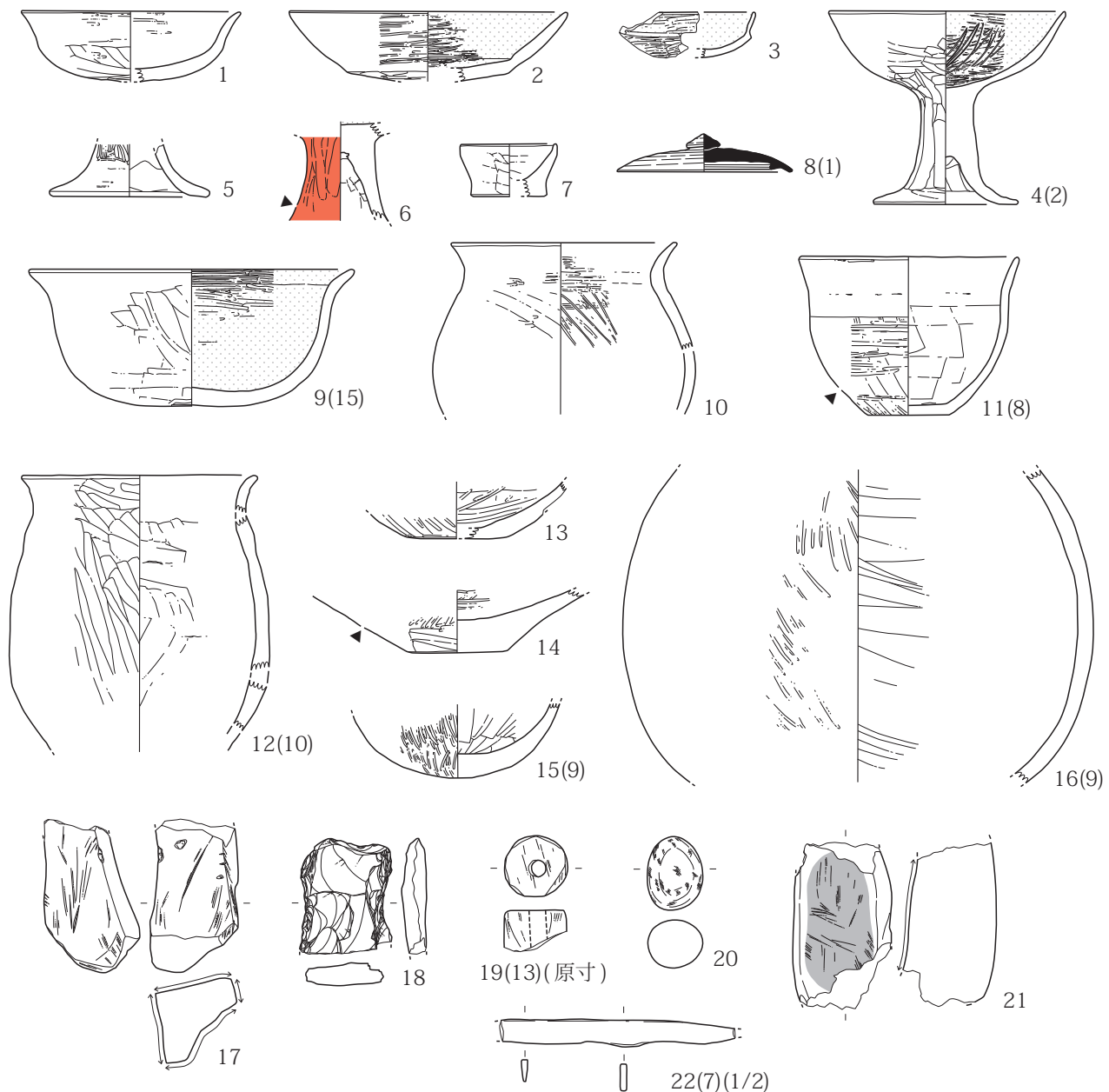


第 17 図 H11 号竪穴建物 (2)

ミニチュア土器、砥石、打製石斧、白玉、磨石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀中葉の所産と考えられる。

H 13 号竪穴建物 (第 20 図)

F-1 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-3°-W に主軸方位をとる。長軸長(5.44) m、短軸長(5.12) m、壁残高 0.24 m の規模である。H82、H85 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。



第 19 図 H12 号竪穴建物 (2)

遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品、石器が出土している。器種的には坏、高坏、甕、壺、甗、土器片円盤、紡錘車、磨石が認められるが、土師器甕 4 は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 14 号竪穴建物 (第 21 図)

H-2 グリットで検出された。壁残高 0.24 m の規模である。H13、H52 に切られる。2 基検出されたピットは支柱穴と思われる。東壁中央部分の土坑状の掘り込みは本址よりも新しいものである。

遺物は土師器坏が 1 点出土しているが、本址の時期を確定出来るものではない。

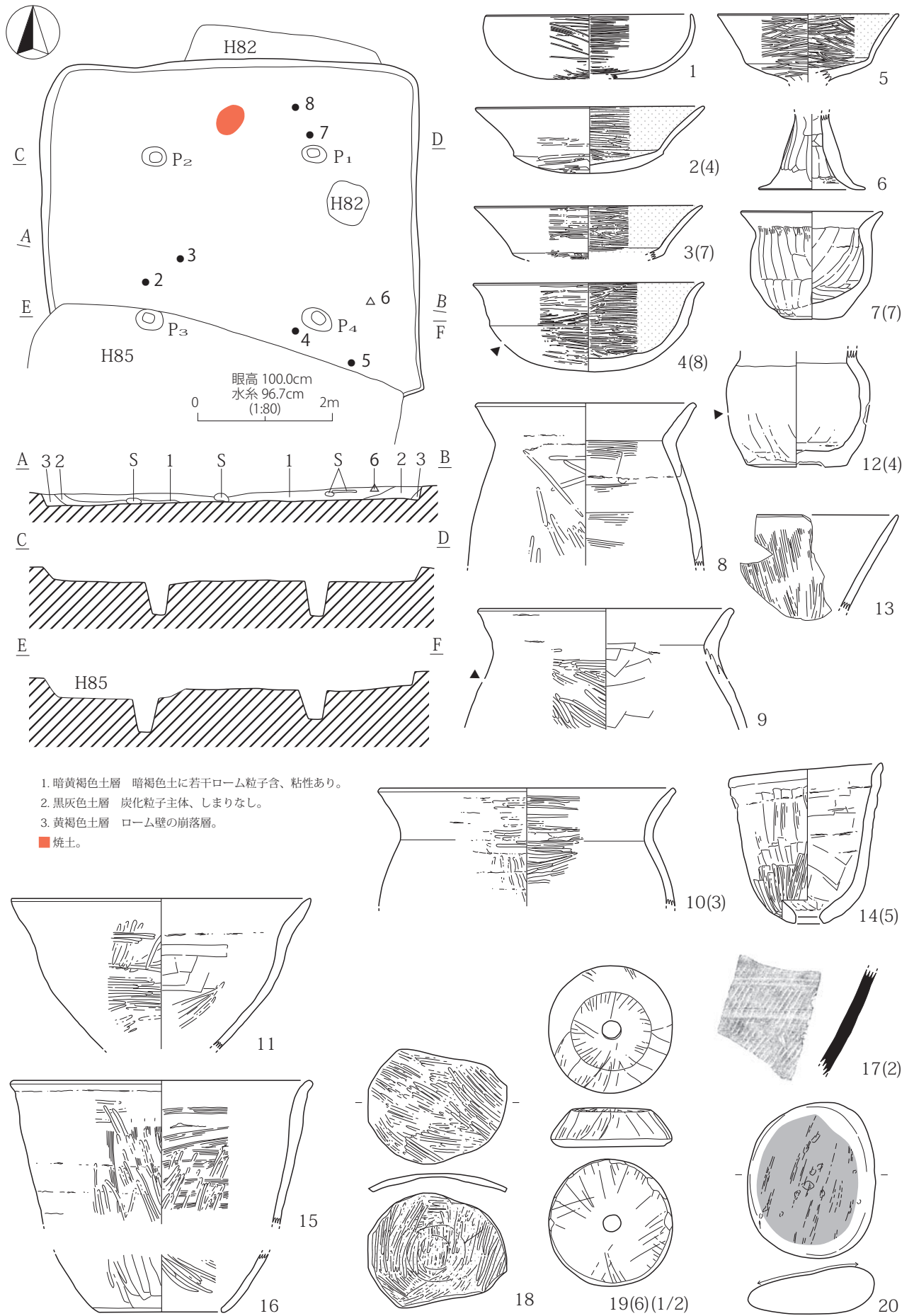
H 15 号竪穴建物 (第 22 図)

F 7 グリットで検出された。壁残高 0.16 m の規模である。ピットが 1 基検出されている。

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

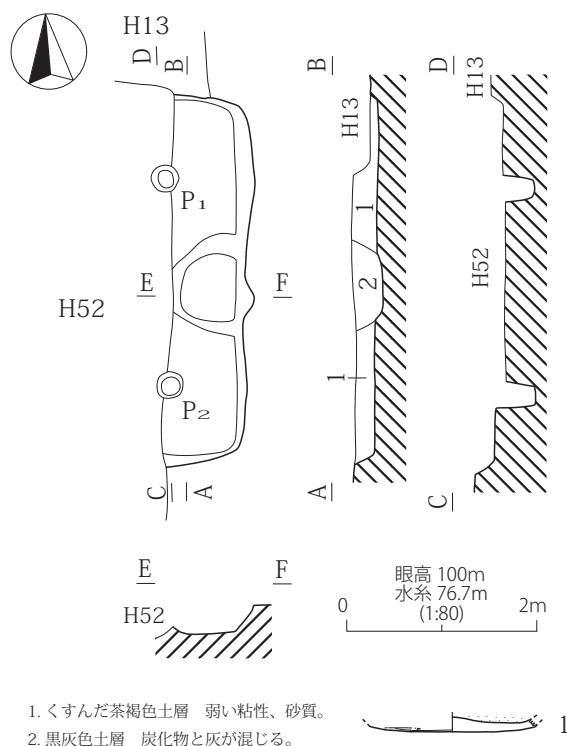
H 16 号竪穴建物 (第 23 図)

G 7 グリットで検出された。壁残高 0.16 m の規模である。H15 を切り、H17、H18 に切られる。ピットが 5 基検出されているが支柱穴は不明である。遺物は土師器、弥生土器が出土しているが、弥生土器は混入



- 1. 暗黄褐色土層 暗褐色土に若干ローム粒子含、粘性あり。
 - 2. 黒灰色土層 炭化粒子主体、しまりなし。
 - 3. 黄褐色土層 ローム壁の崩落層。
- 焼土。

第 20 図 H13 号竪穴建物



第 21 図 H14 号竪穴建物

である。器種的には坏、鉢、甕、甑が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀前半の所産と考えられる。

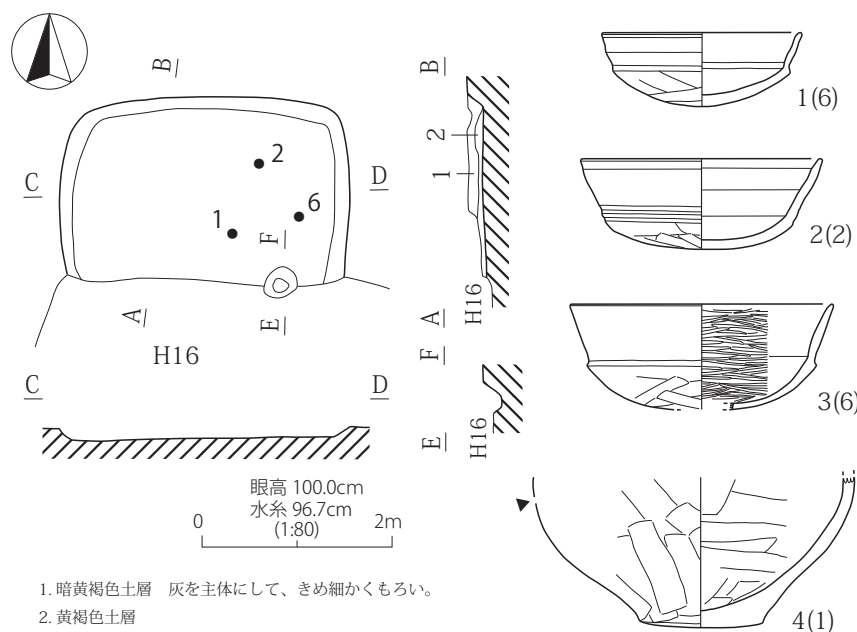
H 17 号竪穴建物 (第 24・25 図)

H 7 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-6°-W に主軸方位をとる。長軸長 6.72 m、短軸長 6.48 m、壁残高 0.40 m、面積 39.53㎡の規模である。H16 を切り、H18 に切られる。北壁中央部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。北西隅の壁下には周溝が存在する。

遺物は土師器、須恵器、石製品、石器が出土している。器種的には坏、高坏、鉢、甕、壺、甑、砥石、磨製石斧、磨製石鏃、編物石、磨石が認められるが、土師器高坏や鉢 12、甕 13、壺 18、磨製石斧、磨製石鏃は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀中葉の所産と考えられる。

H 18 号竪穴建物 (第 26・27 図)

I 7 グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-10°-W に主軸方位をとる。長軸長 7.28 m、短軸長 6.26 m、壁残高 0.8 m、面積 35.63㎡の規模である。H16、H17 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。8 基検出されたピットの内、均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。遺物は土師器、弥生土器、土製品、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、甕、鉢、壺、土器片円盤、土錘、編物石、長頸鏃が認められるが、須恵器坏 4、5、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀後半の所産と



第 22 図 H15 号竪穴建物

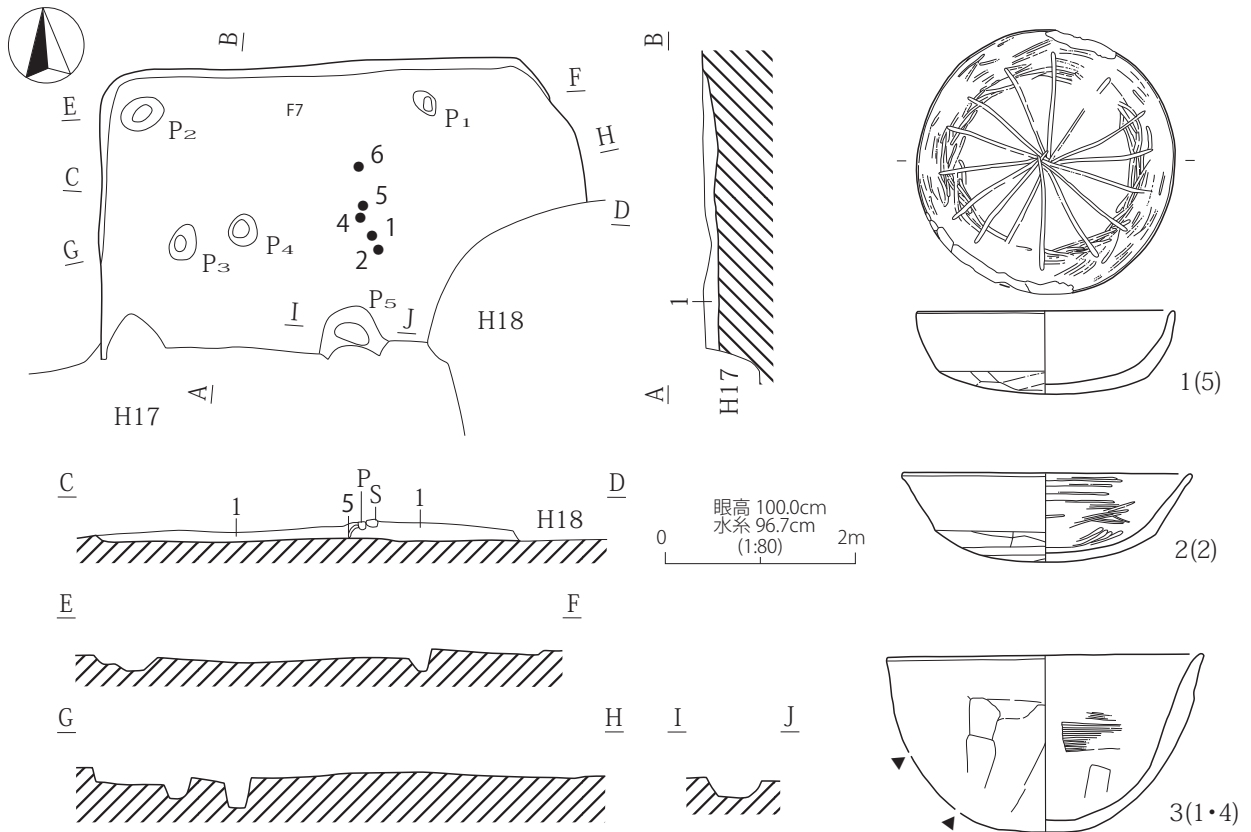
考えられる。

尚、本址からは炭化した木製の横櫓が出土している。極めて脆弱なため図化は不可能であり、写真のみ掲載した。

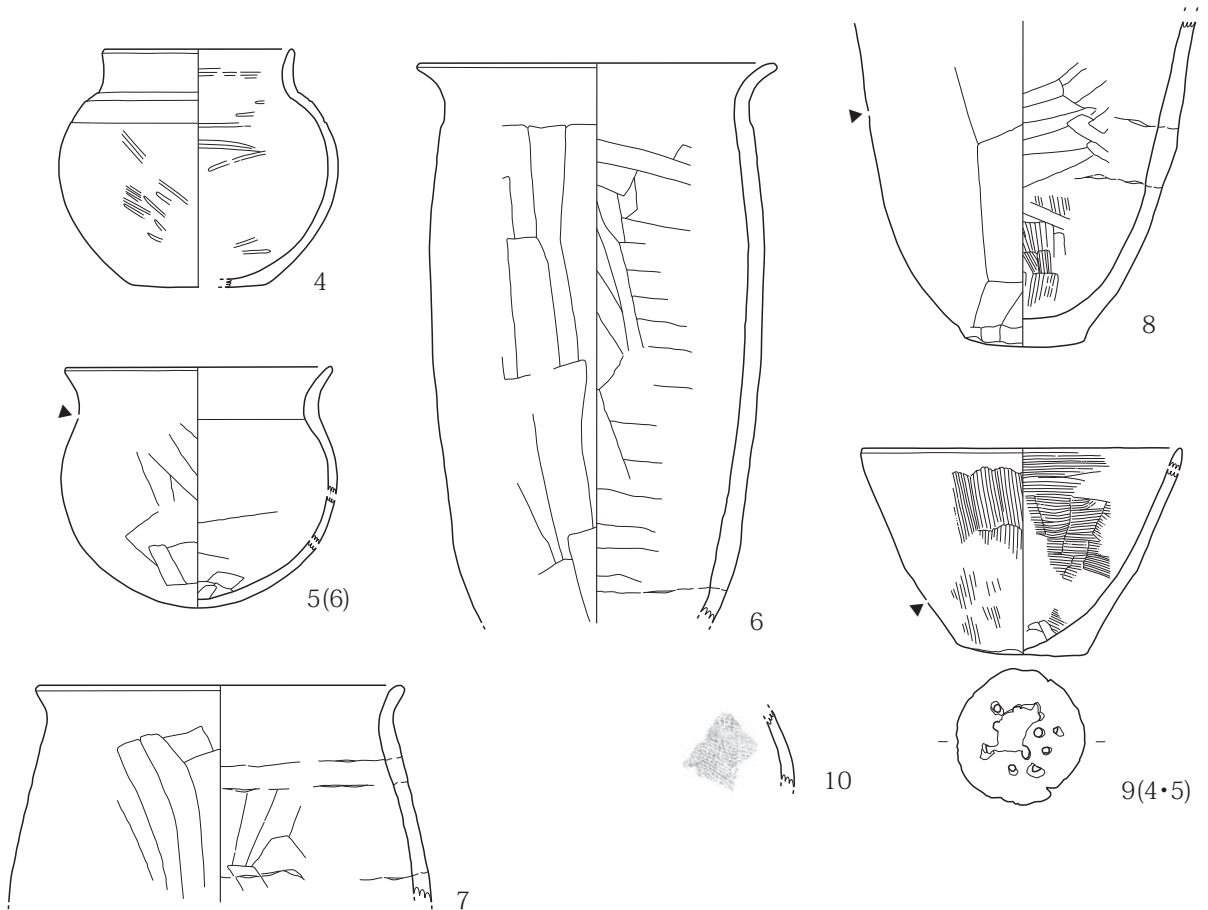
H 19 号竪穴建物 (第 28 図)

J 9 グリットで検出された。壁残高 0.52 m の規模である。H20 を切り、H17、H100、M 7 に切られる。均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。

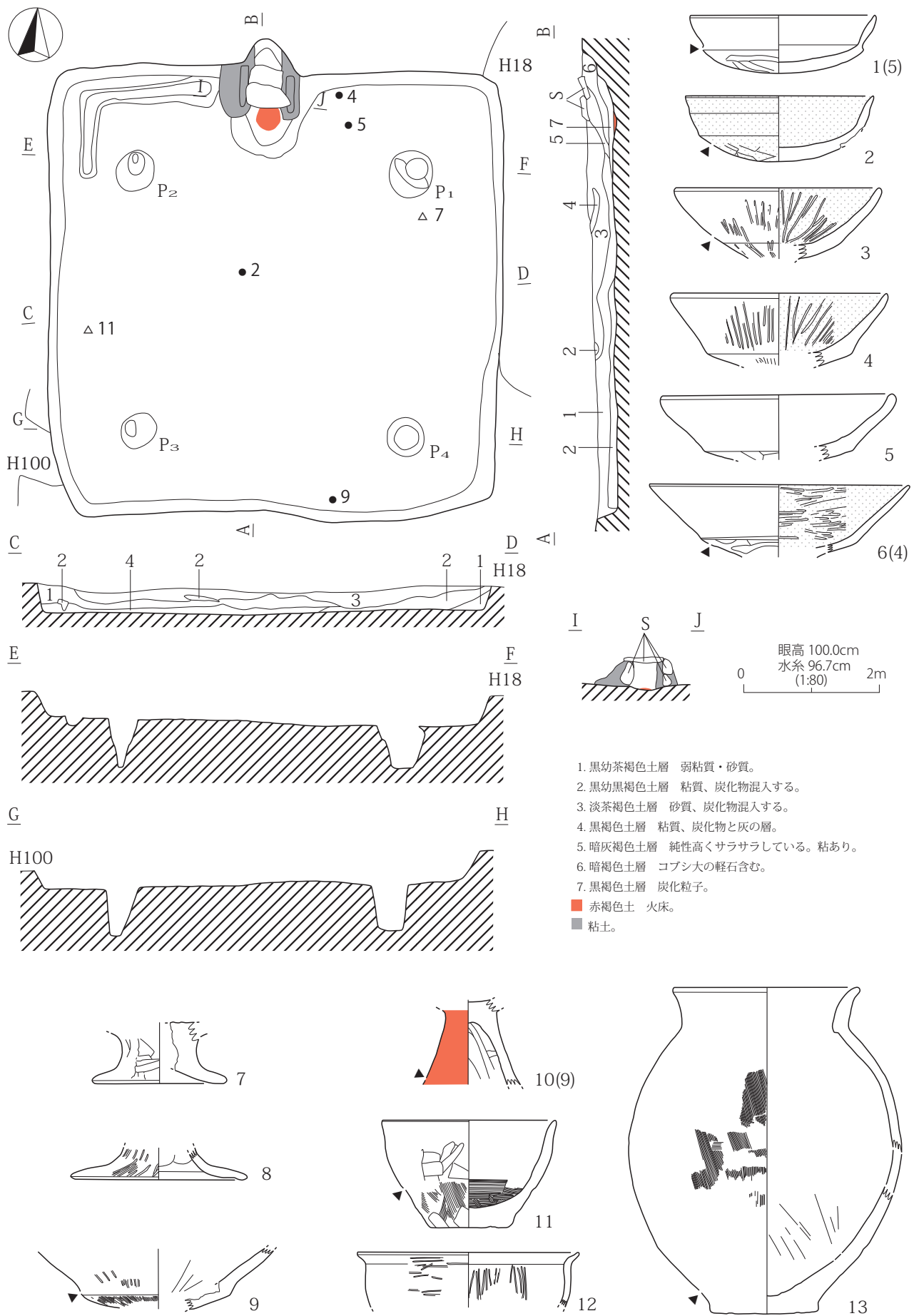
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、甕、鉢、壺、編物石、磨石が認められるが、須恵器坏 1、2、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。



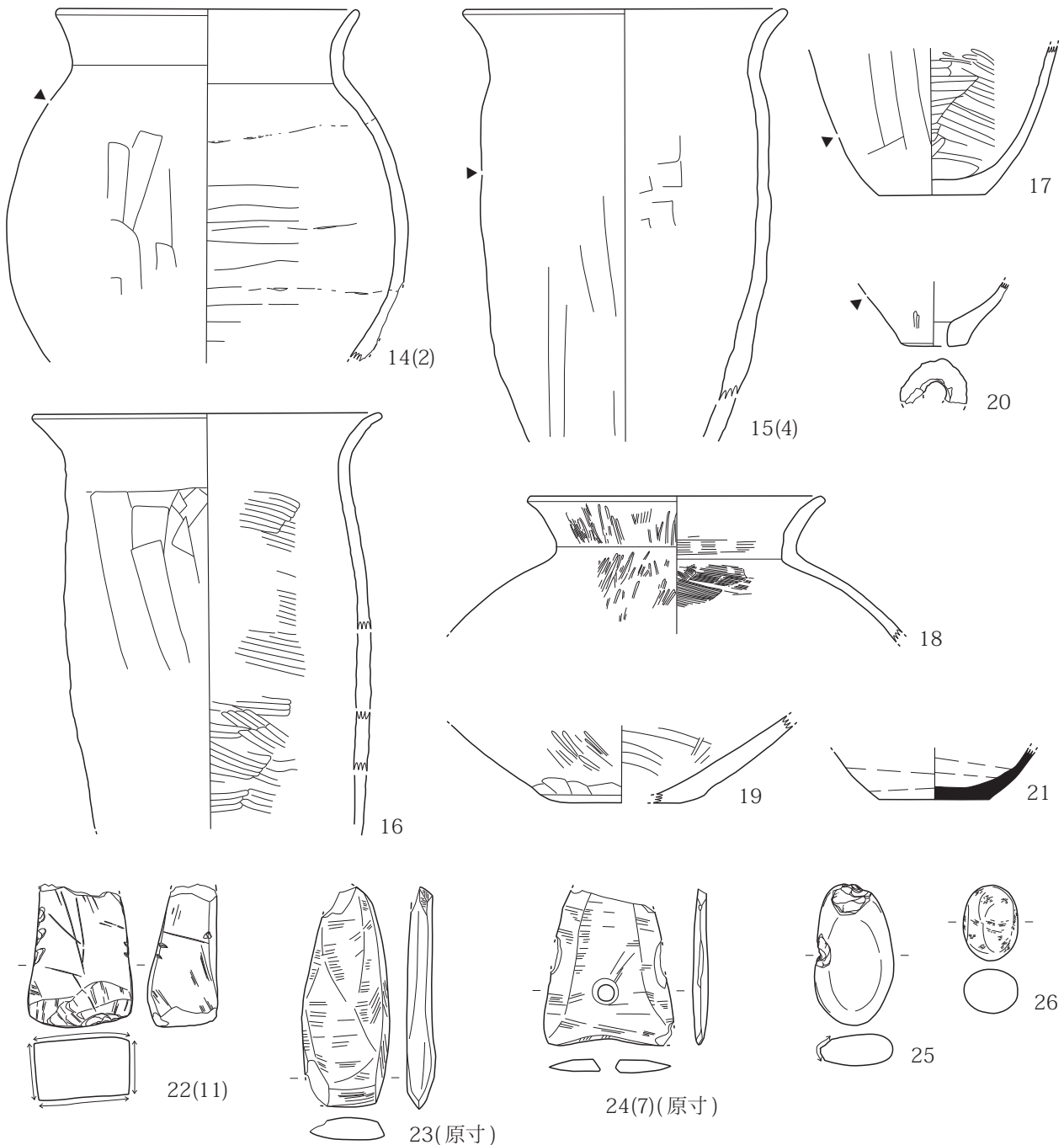
1. 暗褐色土層 弱粘性、砂質あり、黄褐色土がブロック状に入っている。



第 23 図 H16 号竪穴建物



第 24 図 H17 号竪穴建物 (1)



第25図 H17号竪穴建物(2)

H 20号竪穴建物(第29・30図)

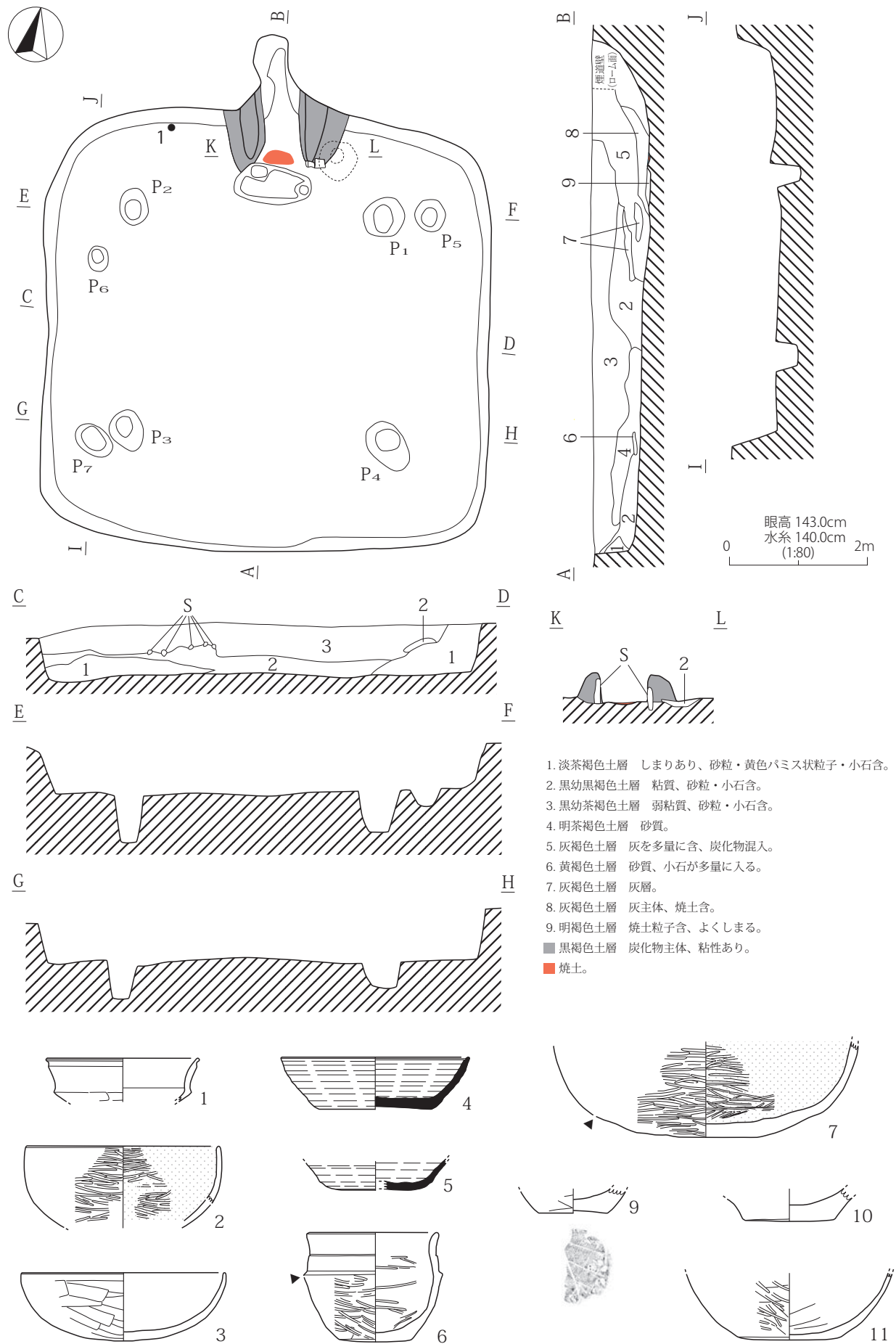
J7グリットで検出された。壁残高0.32mの規模である。H17、H19に切られる。ピットは3基検出されているが、支柱穴は判然としない。残存部分の壁下には周溝が巡る。本址は焼失家屋であり、床面上には炭化材が散乱している。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄滓が出土している。器種的には坏、甕、壺、二次加工のある剥片、打製石斧が認められるが、須恵器、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉から6世紀前葉の所産と考えられる。

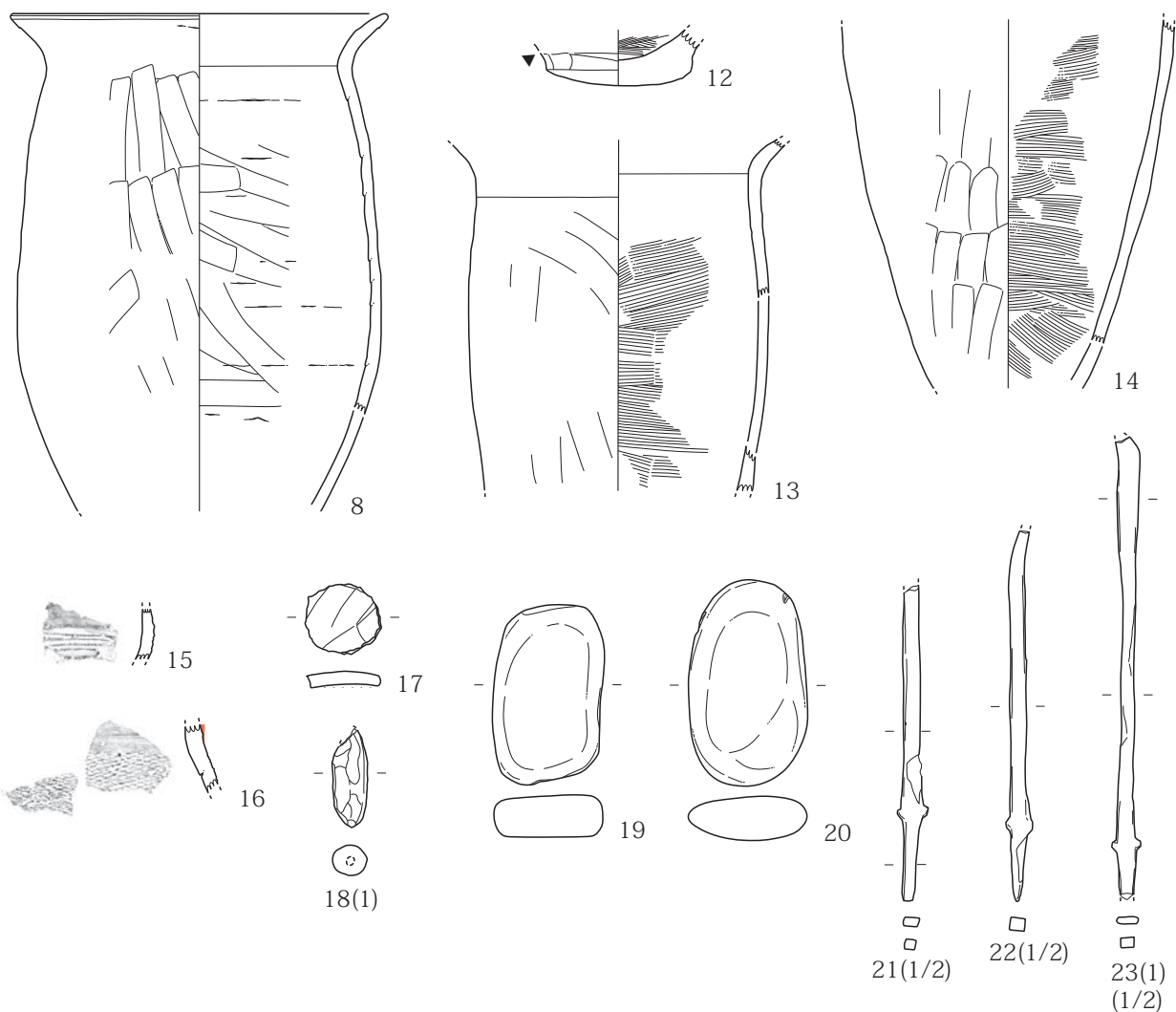
H 21号竪穴建物(第31図)

L7グリットで検出された。長軸長(6.12)m、短軸長(5.84)m、壁残高0.6mの規模である。H43、H66に切られる。均等配置される、P1～P4の4基が支柱穴である。床面中央部分にはベンガラ散布していた。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、高坏、坏蓋、甕、壺、甑、打製石斧が認



第 26 図 H18 号竪穴建物 (1)



第27図 H18号竪穴建物(2)

められるが、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。

H 22号竪穴建物(第32図)

I 1グリットで検出された。壁残高0.35 mの規模である。H45、H85、H86、H23に切られる。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には甕、壺、甗が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。

H 23号竪穴建物(第33図)

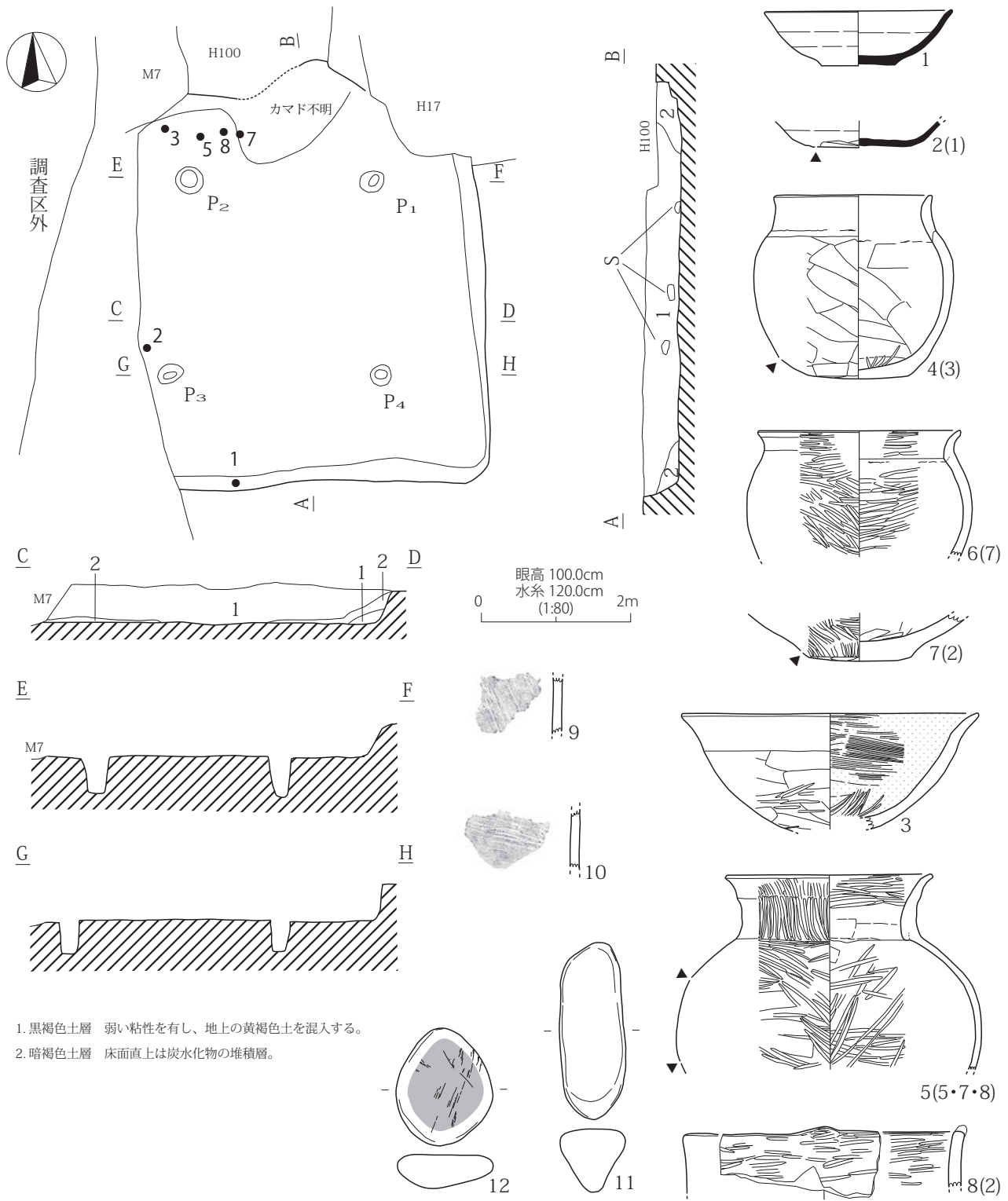
K 1グリットで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.4 m、短軸長4.16 m、壁残高0.4 mの規模である。H22を切り、H86に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP 1～P 4の4基のピットが支柱穴である。東壁の南半部分と南壁中央部分の壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には坏、甕、壺、甗、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀前半の所産と考えられる。

H 24号竪穴建物(第34図)

G 20グリットで検出された。壁残高0.6 mの規模である。Y1を切る。ピットは3基検出されているが、支柱穴は不明である。

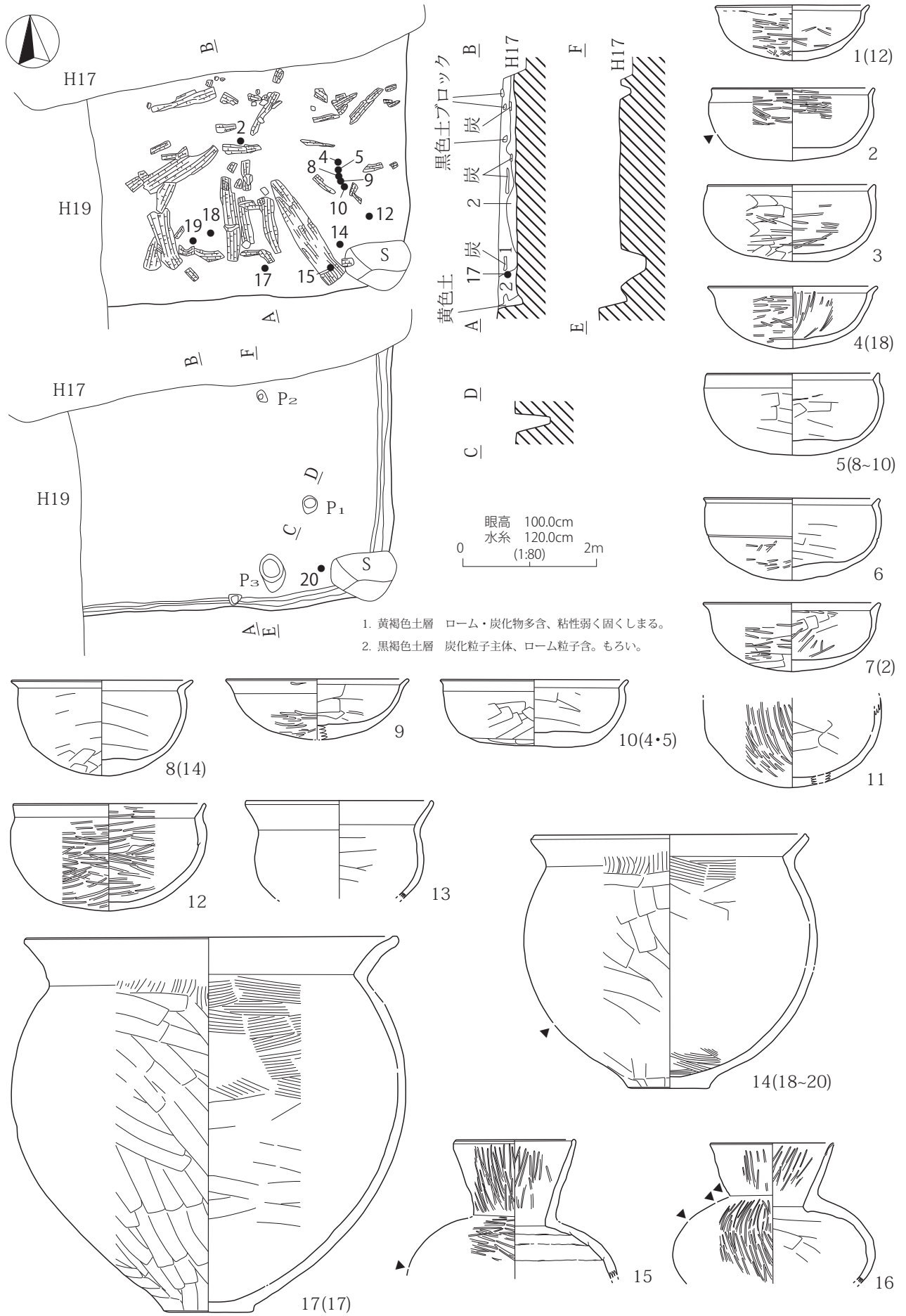
遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、高坏、高盤、甕、壺、甗が認められるが、土師器碗3、須恵器高盤5・甕10・11、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。



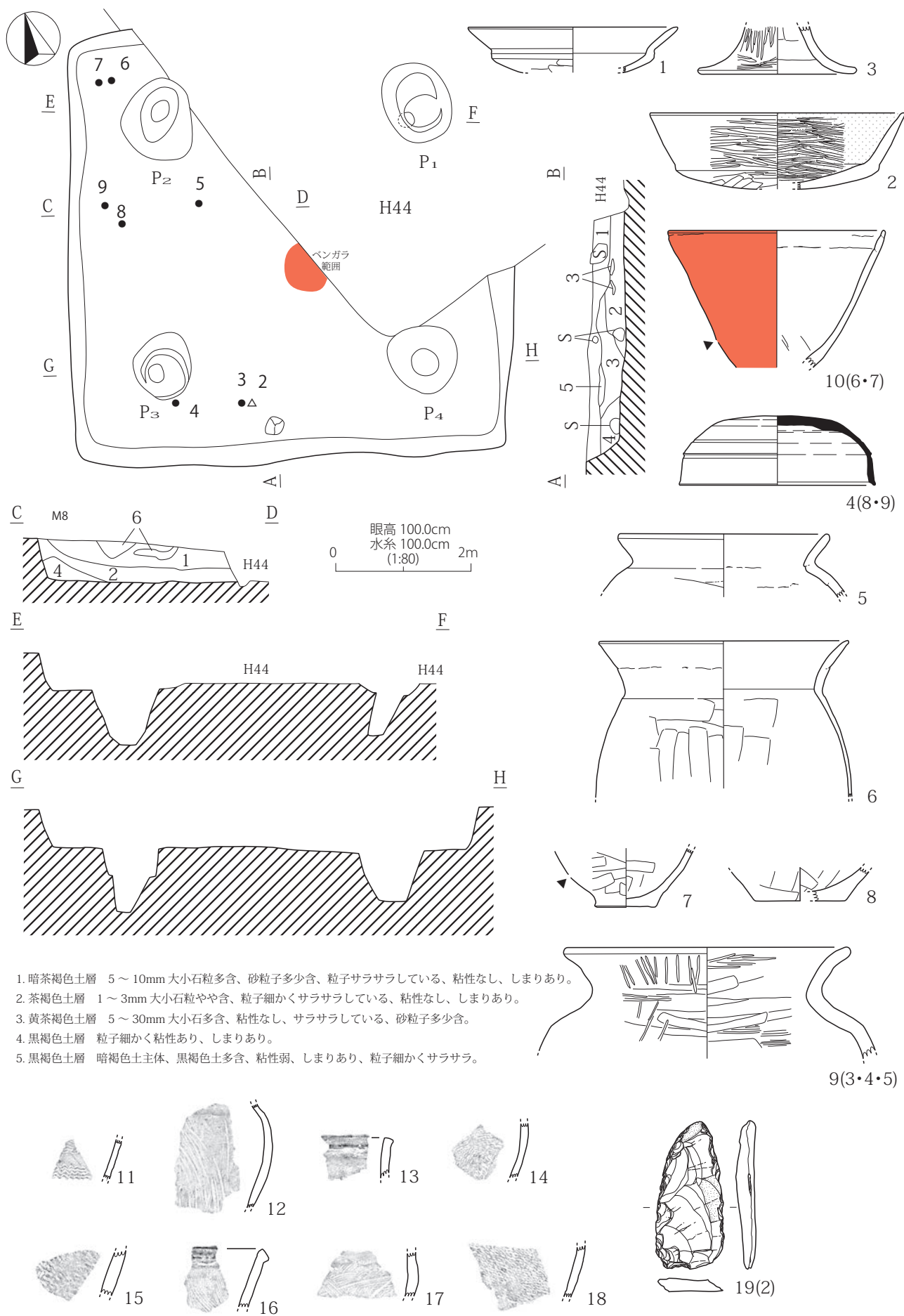
第 28 図 H19 号竪穴建物

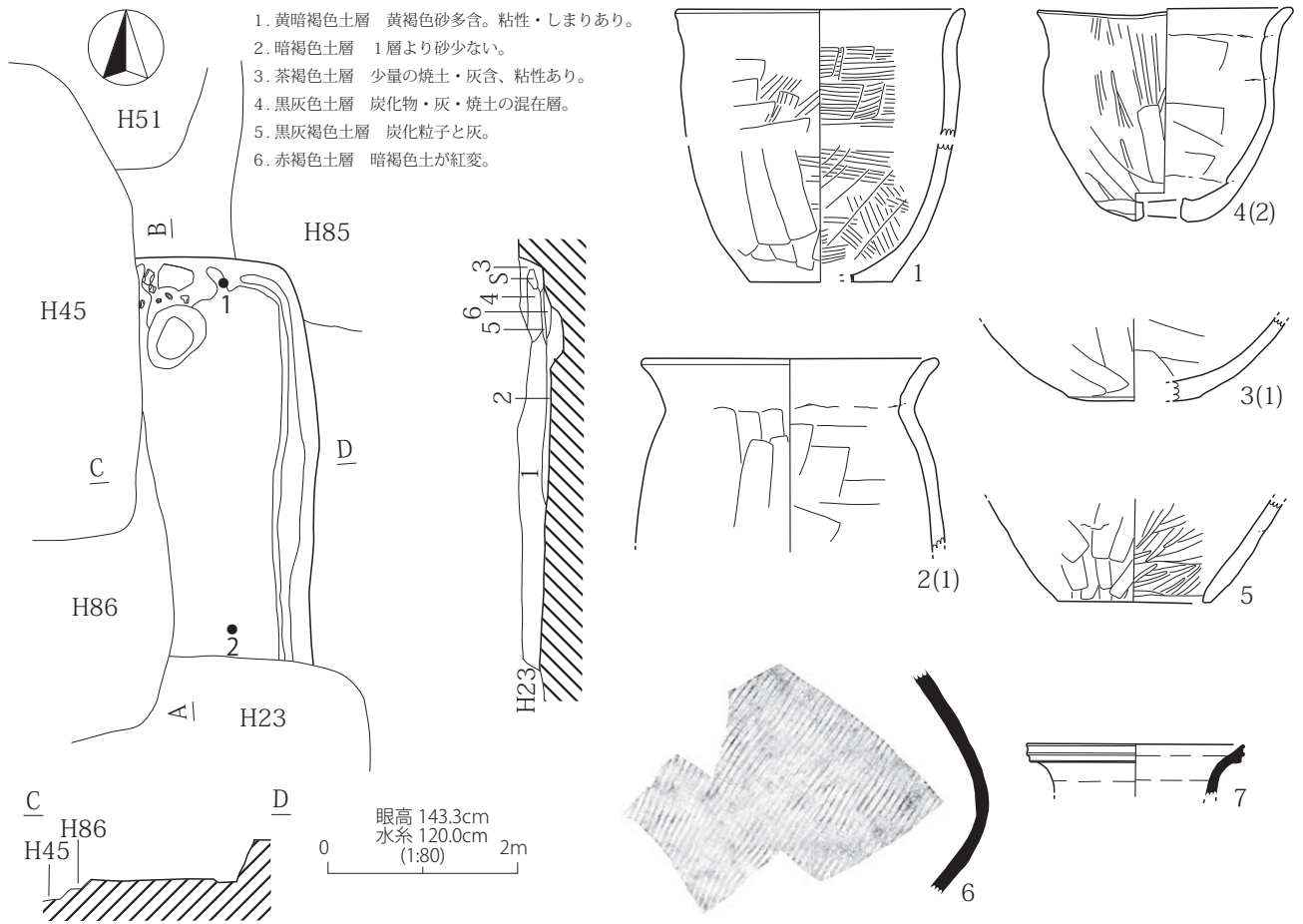


第 30 図 H20 号竪穴建物 (2)



第 29 図 H20 号竪穴建物 (1)





第 32 図 H22 号竪穴建物

H 25 号竪穴建物 (第 35 ~ 37 図)

J 20 グリットで検出された。N-30°-E に主軸方位をとる。不整な隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 7.32 m、短軸長 7.32 m、壁残高 0.68 m、面積 47.4㎡の規模である。H104、H105 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1 ~ P 4 の 4 基のピットが支柱穴である。北・東壁と南壁東半部分の壁下には断続的に周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、土製品が出土しているが、土師器耳皿 7、須恵器坏 8、弥生土器は混入品である。器種的には坏、耳皿、鉢、甕、壺、甑、土器片円盤が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀前半の所産と考えられる。

H 26 号竪穴建物 (第 38 ~ 40 図)

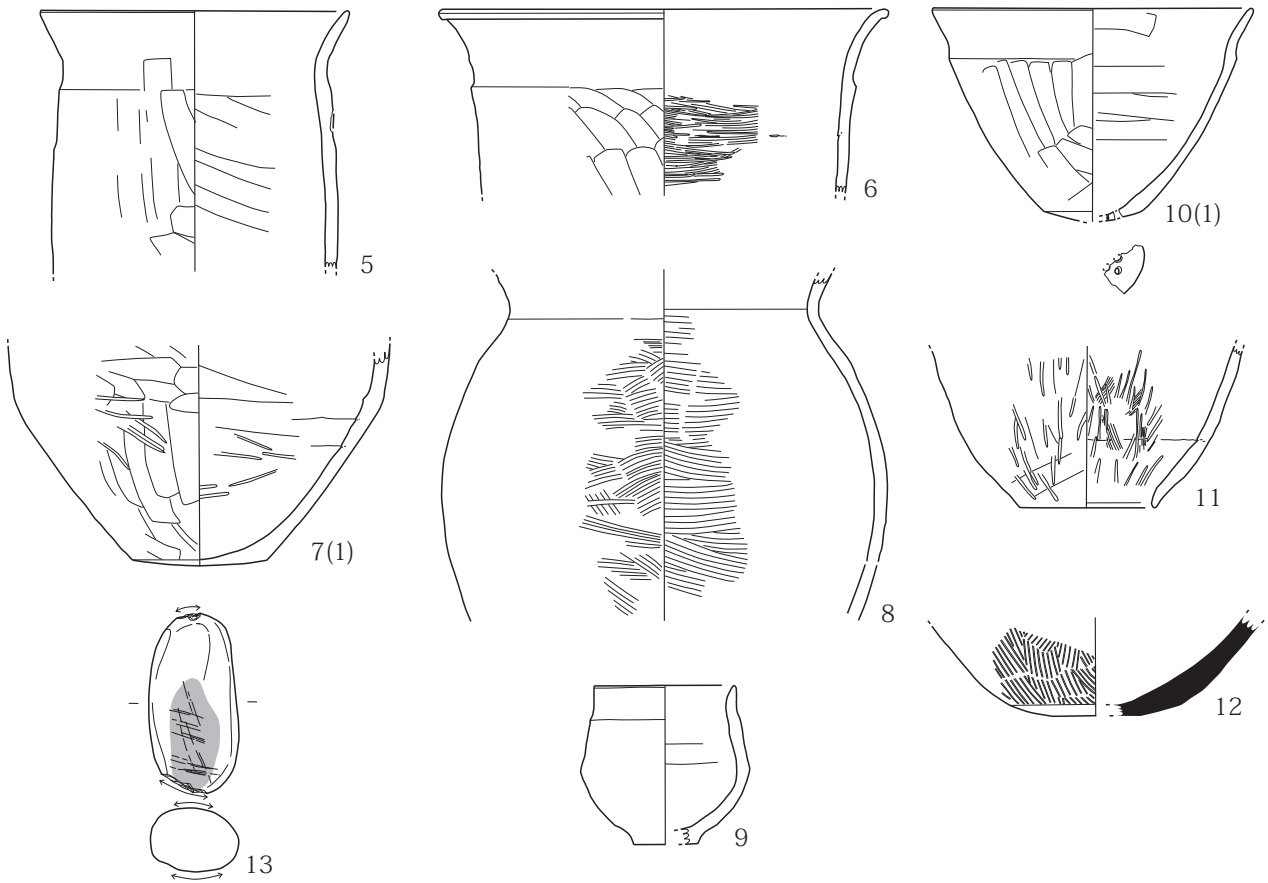
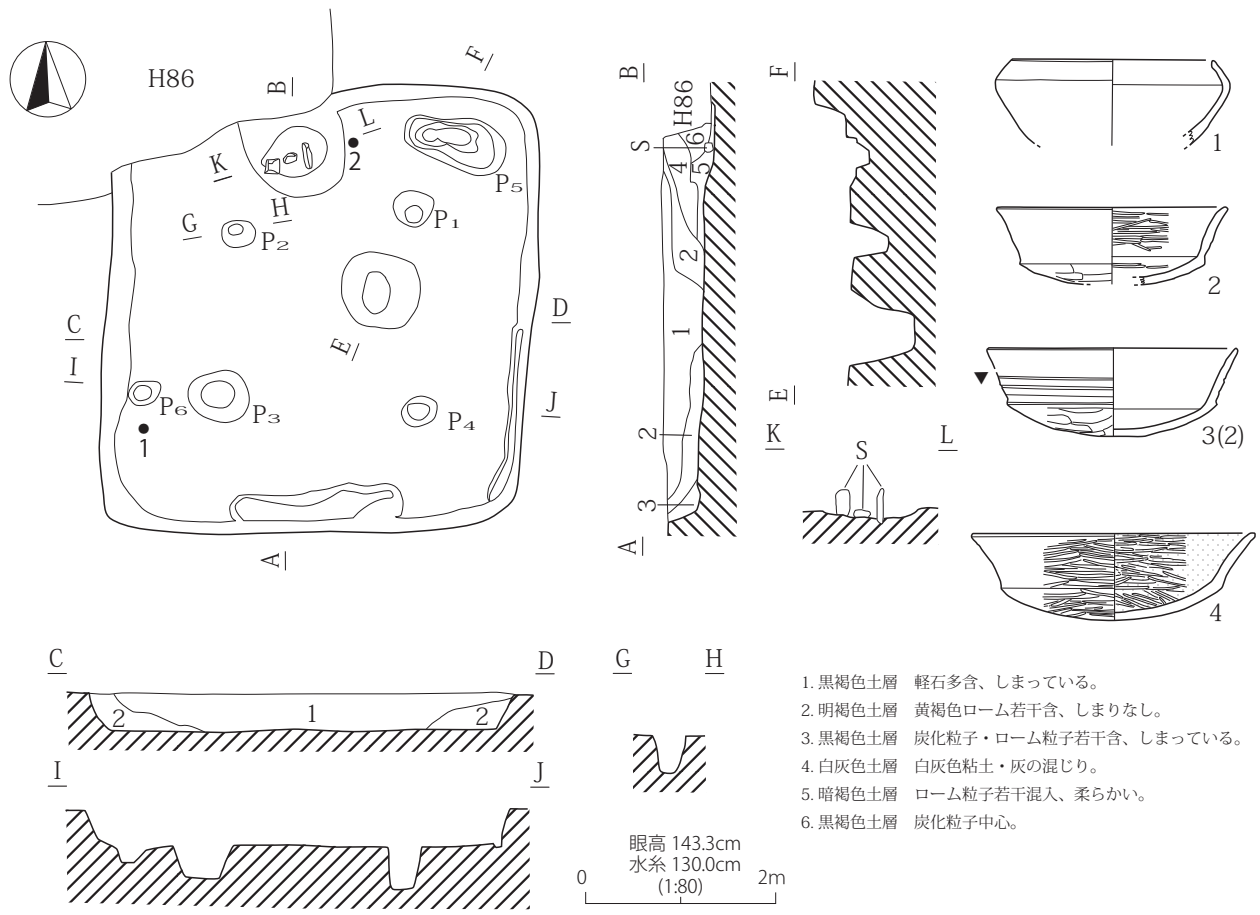
L 22 グリットで検出された。N-0°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.12 m、短軸長 5.60 m、壁残高 0.4 m、面積 (30.0) ㎡の規模である。H105、Ta2 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1 ~ P 4 の 4 基のピットが支柱穴である。北西隅を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、石製品が出土しているが、土師器坏 1 ~ 3・7 ~ 11、13・14・17・18、碗 19・20、須恵器坏 23、有台坏 24、坏蓋 27・28、灰釉陶器碗 29、弥生土器は混入品である。器種的には坏、高坏、有台坏、碗、坏蓋、鉢、甕、壺、甑、隼、横瓶、ミニチュア土器、凹石、搗臼、編物石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀前半の所産と考えられる。

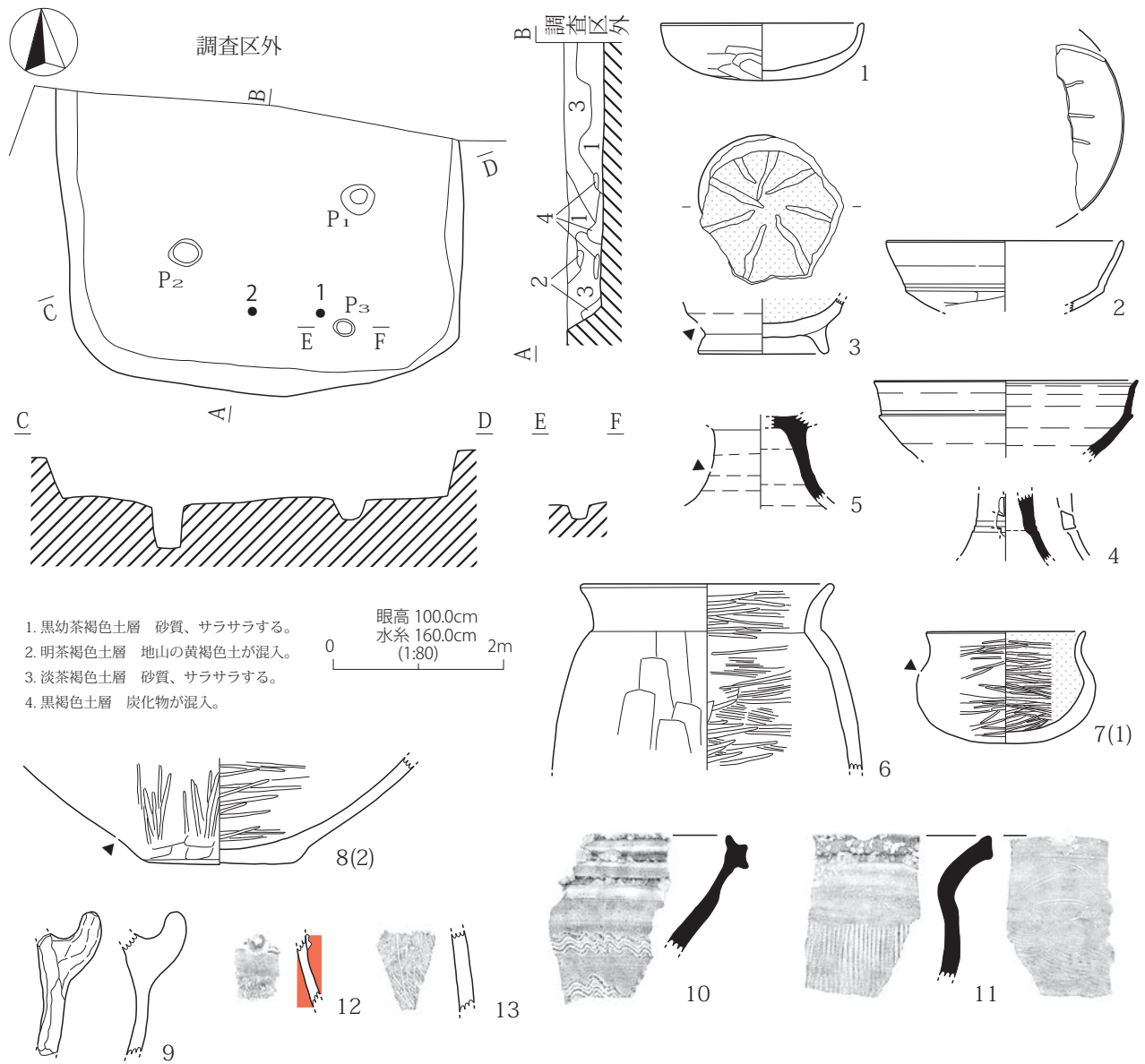
H 27 号竪穴建物 (第 41 図)

K 15 グリットで検出された。N-0°-E に主軸方位をとる。長軸長 5.6 m、短軸長 5.6 m、壁残高 0.4 m、面積 30.4㎡の規模である。H103 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1 ~ P 4 の 4 基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には坏、鉢、甕、壺、甑、ミニチュア土器、打製石斧、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えら



第 33 図 H23 号竪穴建物



第34図 H24号竪穴建物

れる。

H 28号竪穴建物 (第42・43図)

M 16 グリットで検出された。N-5°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長7.08 m、短軸長7.0 m、壁残高0.8 m、面積41.1㎡の規模である。H108・109に切られ、H29を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP 1～P 4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、弥生土器、石器、石製品が出土しているが、土師器碗3、弥生土器は混入品である。器種的には坏、碗、高坏、鉢、甕、壺、軽石製品、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。

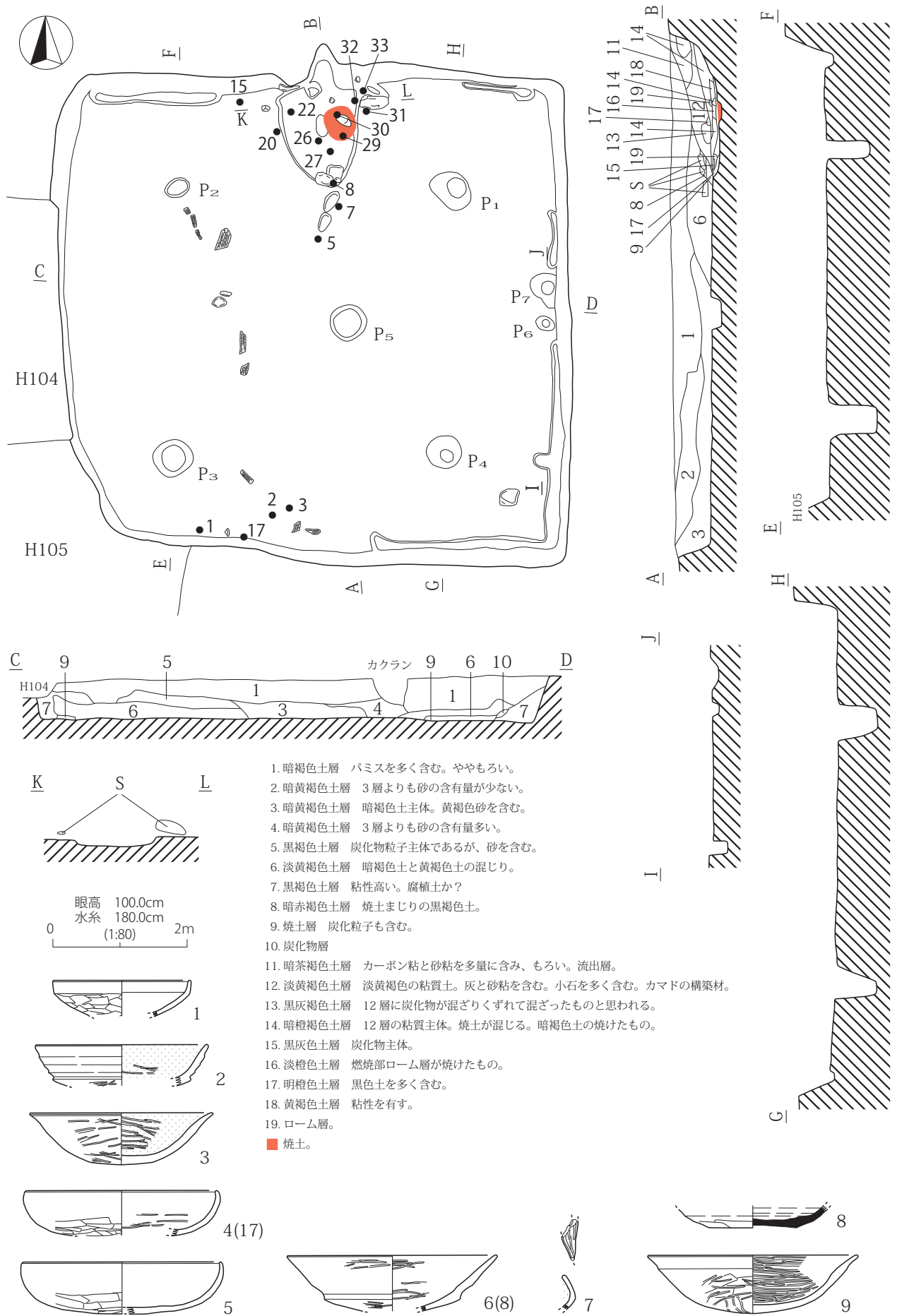
H 29号竪穴建物 (第44・45図)

M 15 グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.52 mの規模である。Y4を切り、H28、D5に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。検出された2基のピットは支柱穴である。

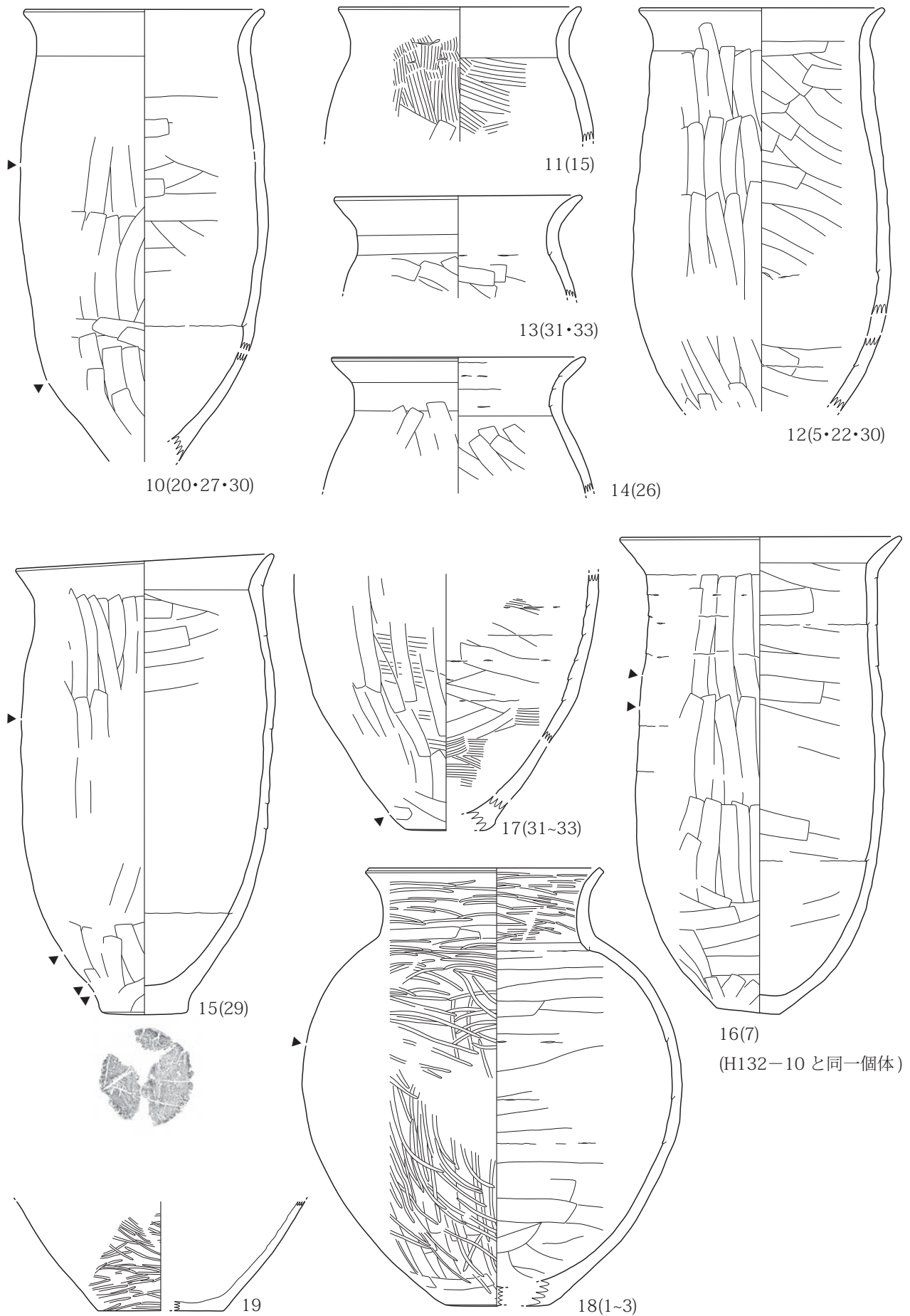
遺物は土師器、灰釉陶器、弥生土器、縄文土器、土製品、鉄製品が出土しているが、土師器坏1・5、灰釉陶器8、弥生土器、縄文土器は混入品である。器種的には坏、碗、鉢、甕、壺、甗、紡錘車、不明鉄製品が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。

H 30号竪穴建物 (第46図)

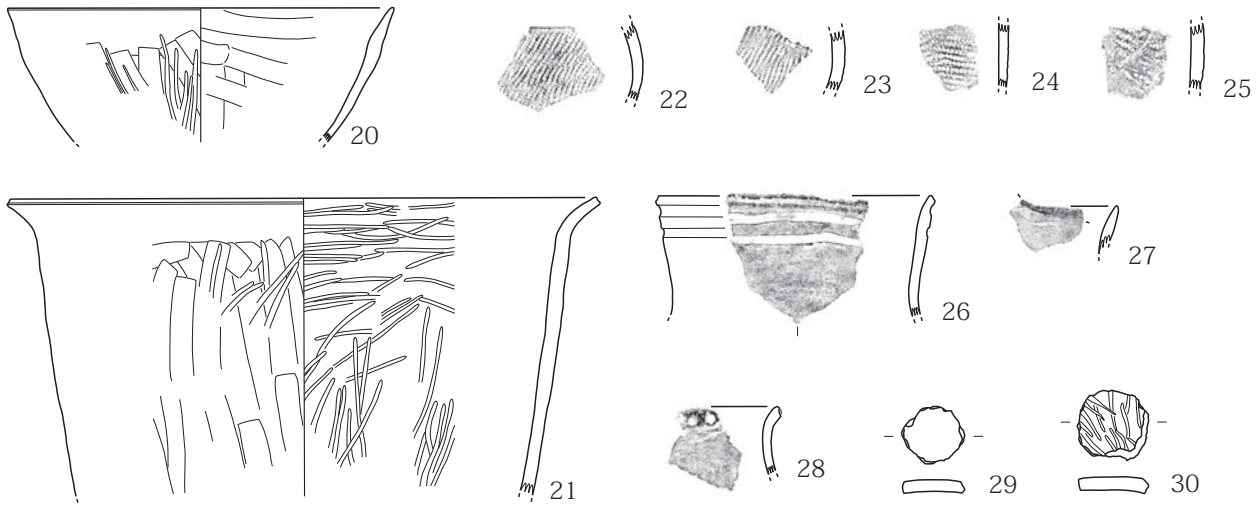
M 23 グリットで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.24 mの規模である。H31・116



第 35 図 H25 号竪穴建物 (1)



第36図 H25号竪穴建物(2)



第 37 図 H25 号竪穴建物 (3)

に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 2 基検出されたが、支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土しているが、須恵器と弥生土器は混入品である。器種的には甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 31 号竪穴建物 (第 47 図)

O 22 グリットで検出された。N - 4° - E に主軸方位をとる。壁残高 0.4 m の規模である。H113・114・116、Ta2 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 1 基検出されたが、支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土しているが、土師器坏 2、須恵器、弥生土器は混入品である。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

H 32 号竪穴建物 (第 48・49 図)

N 11 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N - 81° - E に主軸方位をとる。長軸長 4.24 m、短軸長 3.88 m、壁残高 0.68 m、面積 15.12m² の規模である。H33・120 を切り、M7 に切られる。東壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1 ~ P 4 の 4 基のピットが支柱穴である。北壁と北西隅を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土しているが、10 を除く須恵器と土師器坏 5・6・7 は混入品である。器種的には坏、碗、高坏、坏蓋、甕、甗、壺、凹石、磨石、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 33 号竪穴建物 (第 50 図)

O 10 グリットで検出された。壁残高 0.18 m の規模である。H32・34・122、F2 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 11 基検出されたが、支柱穴は判然としない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には坏、甕、壺、PSSQ、編物石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 34 号竪穴建物 (第 51 図)

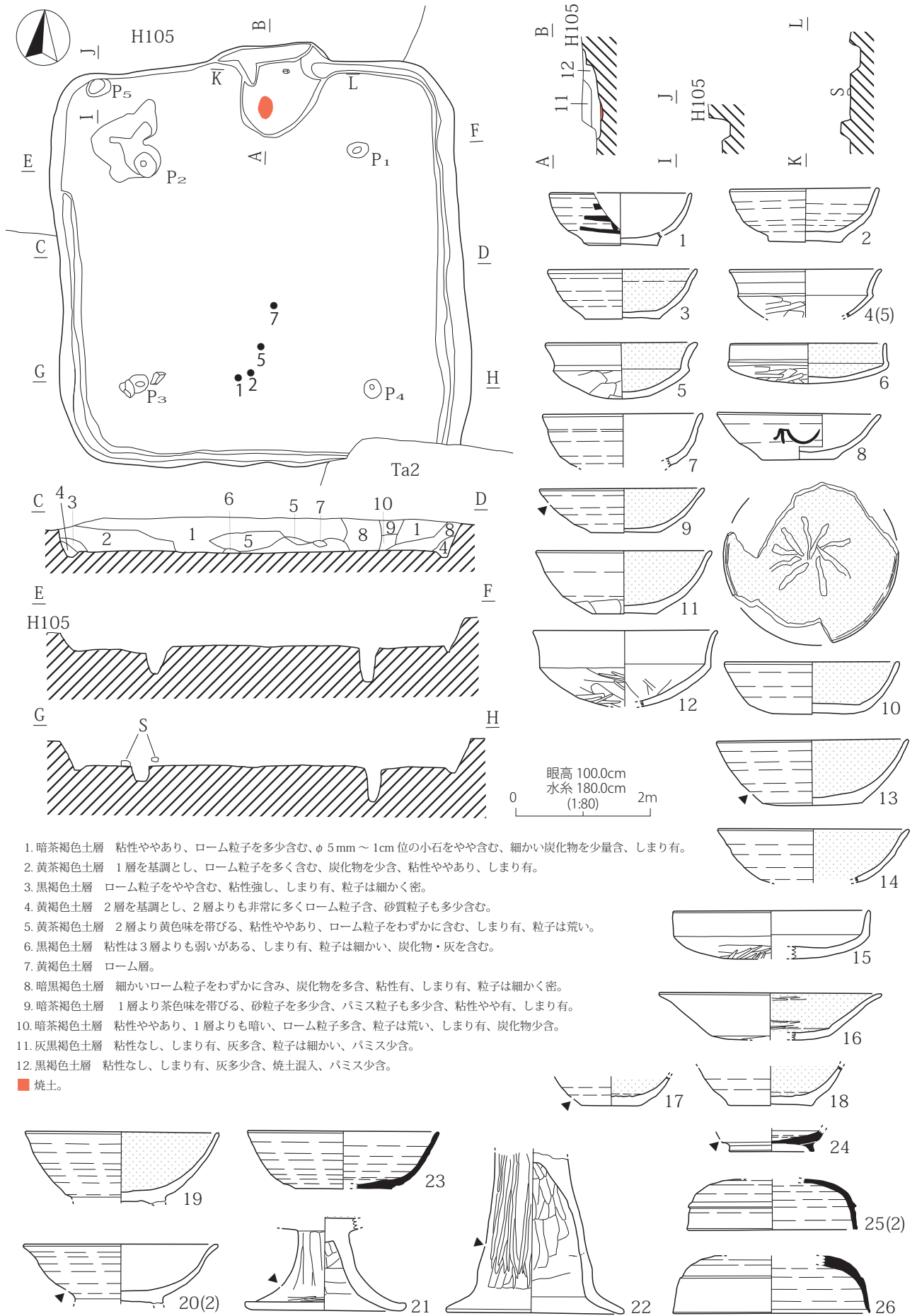
P 10 グリットで検出された。壁残高 0.28 m の規模である。H122、F2、M 7、P 8 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 5 基検出されたが、支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、弥生土器が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には甕が認められる。本址の年代は不明である。

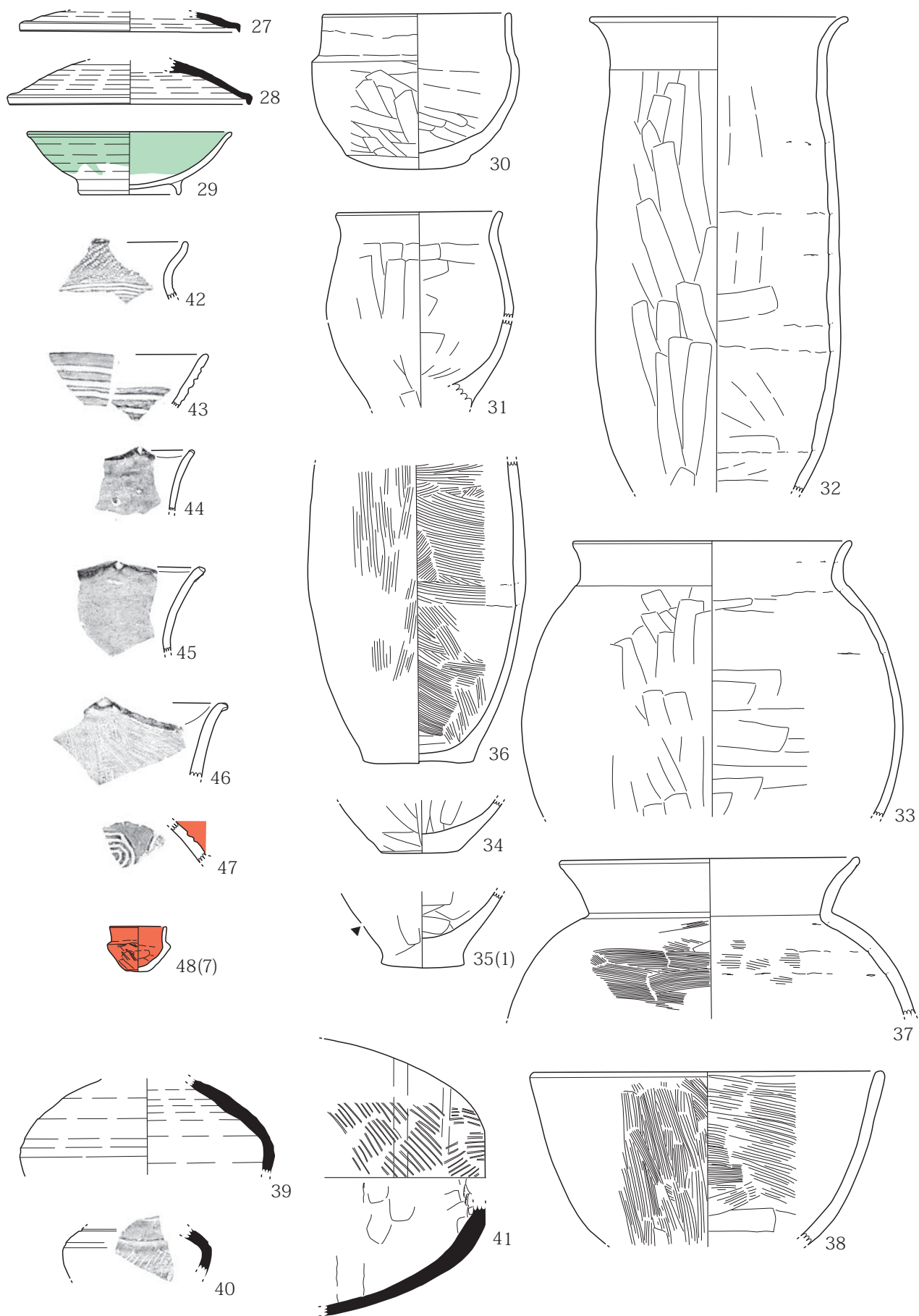
H 35 号竪穴建物 (第 52 図)

P 8 グリットで検出された。壁残高 0.6 m の規模である。H123 に切られる。壁下には周溝が巡る。ピットは 4 基検出された。P1・P4 は支柱穴である。

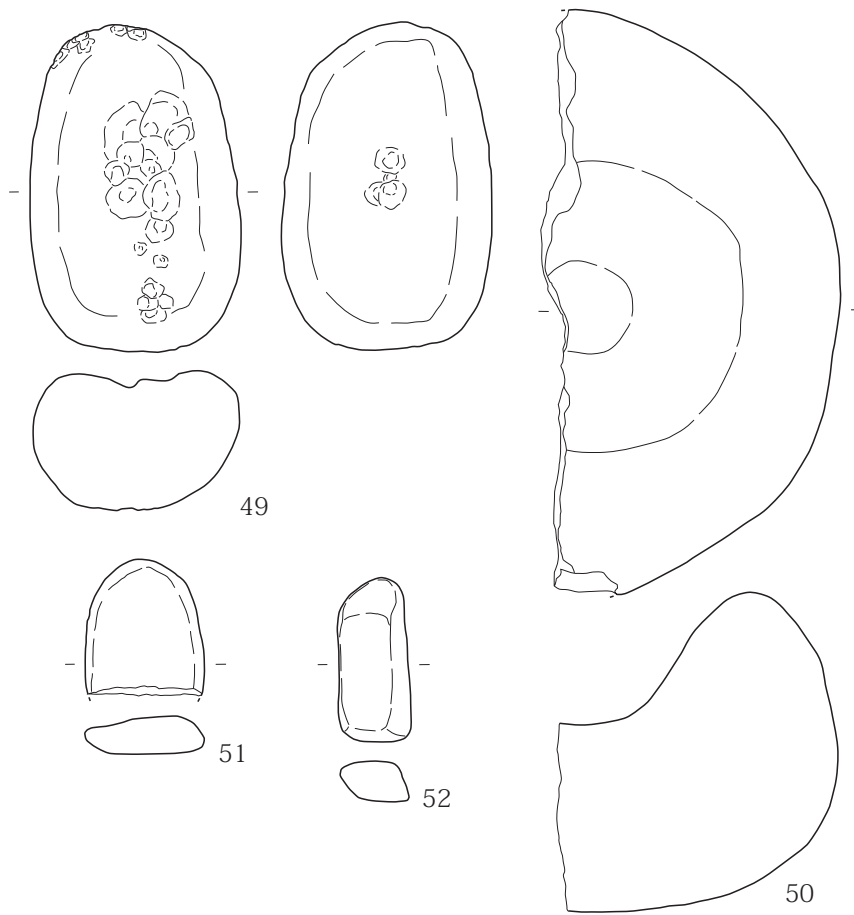
遺物は土師器、土製品が出土している。器種的には坏、甕、紡錘車が認められる。出土遺物の特徴から本



第38図 H26号竪穴建物(1)



第 39 図 H26 号竪穴建物 (2)



第40図 H26号竪穴建物(3)

址は7世紀前半の所産と思われる。

H 36号竪穴建物(第53図)

R 8グリットで検出された。N-32°-Wに主軸方位をとる。壁残高0.4mの規模である。北西隅の床面に焼土が認められたが、カマドではない。4基検出されたピットの内、P1、P2は支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土しているが、須恵器は混入品である。器種的には坏、坏蓋、甕、壺、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

H 37号竪穴建物(第54・55図)

R 23グリットで検出された。N-80°-Wに主軸方位をとる。長軸長8.0m、短軸長6.56m、壁残高0.6m、面積45.3㎡の規模である。H38を切り、H31、114、118に切られる。

南壁中央部に方形の張出を有し、貯蔵穴が掘りこまれている。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には坏、甕、壺、白玉、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と思われる。

H 38号竪穴建物(第56・57図)

S 23グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.92m、短軸長4.20m、壁残高0.28m、面積18.39㎡の規模である。H38を切り、H31、114、118に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、土製品、石器が出土しているが、土師器坏4、須恵器坏7、土製品(土偶)、弥生土器は混入品である。器種的には坏、高坏、甕、壺、甗、編物石、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉から6世紀前葉の所産と思われる。

H 39号竪穴建物(第58図)

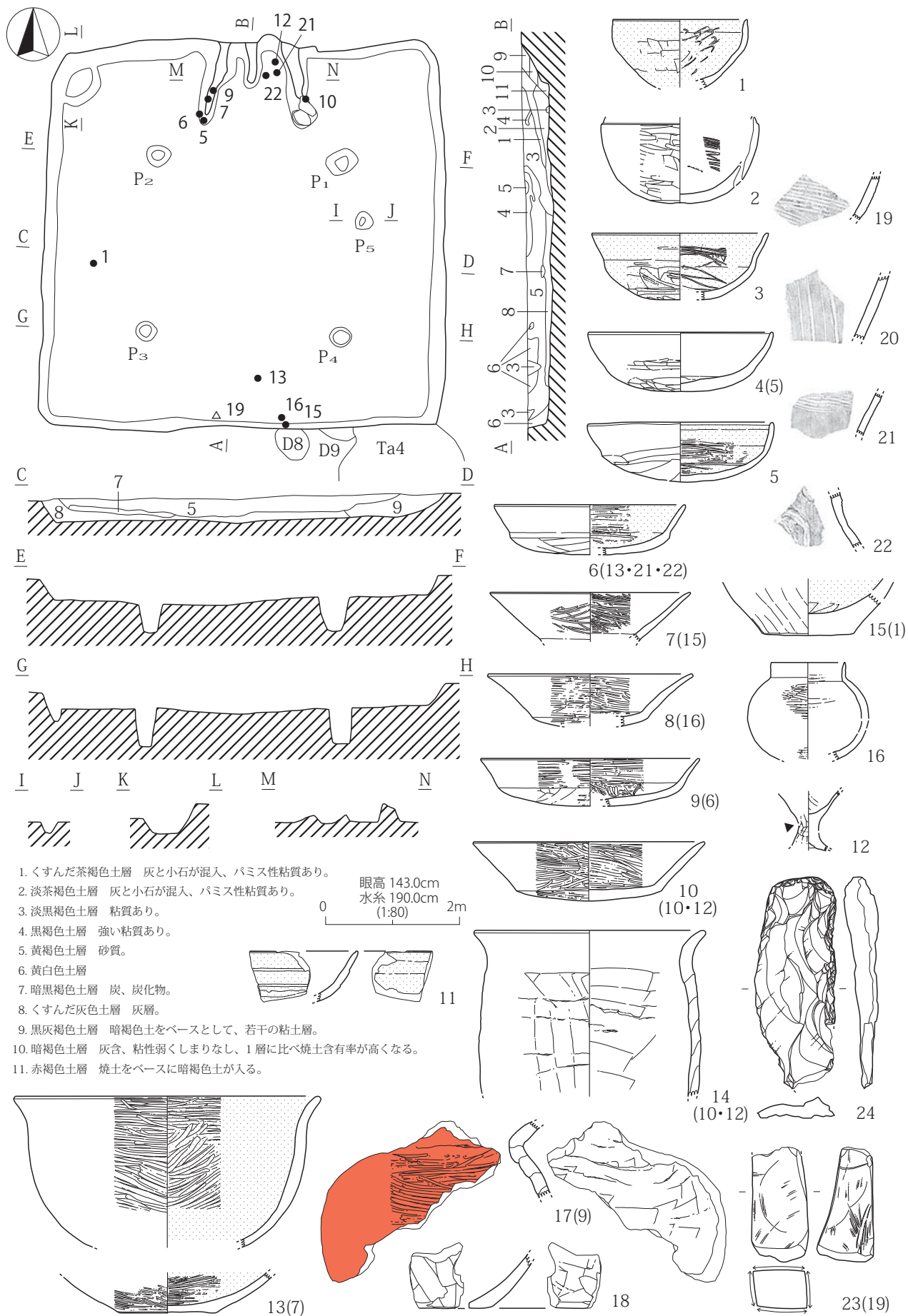
R 20グリットで検出された。N-11°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長6.08m、短軸長5.60m、壁残高0.36mの規模である。H40を切り、H55、118、124に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器が出土している。器種的には高坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀後半の所産と思われる。

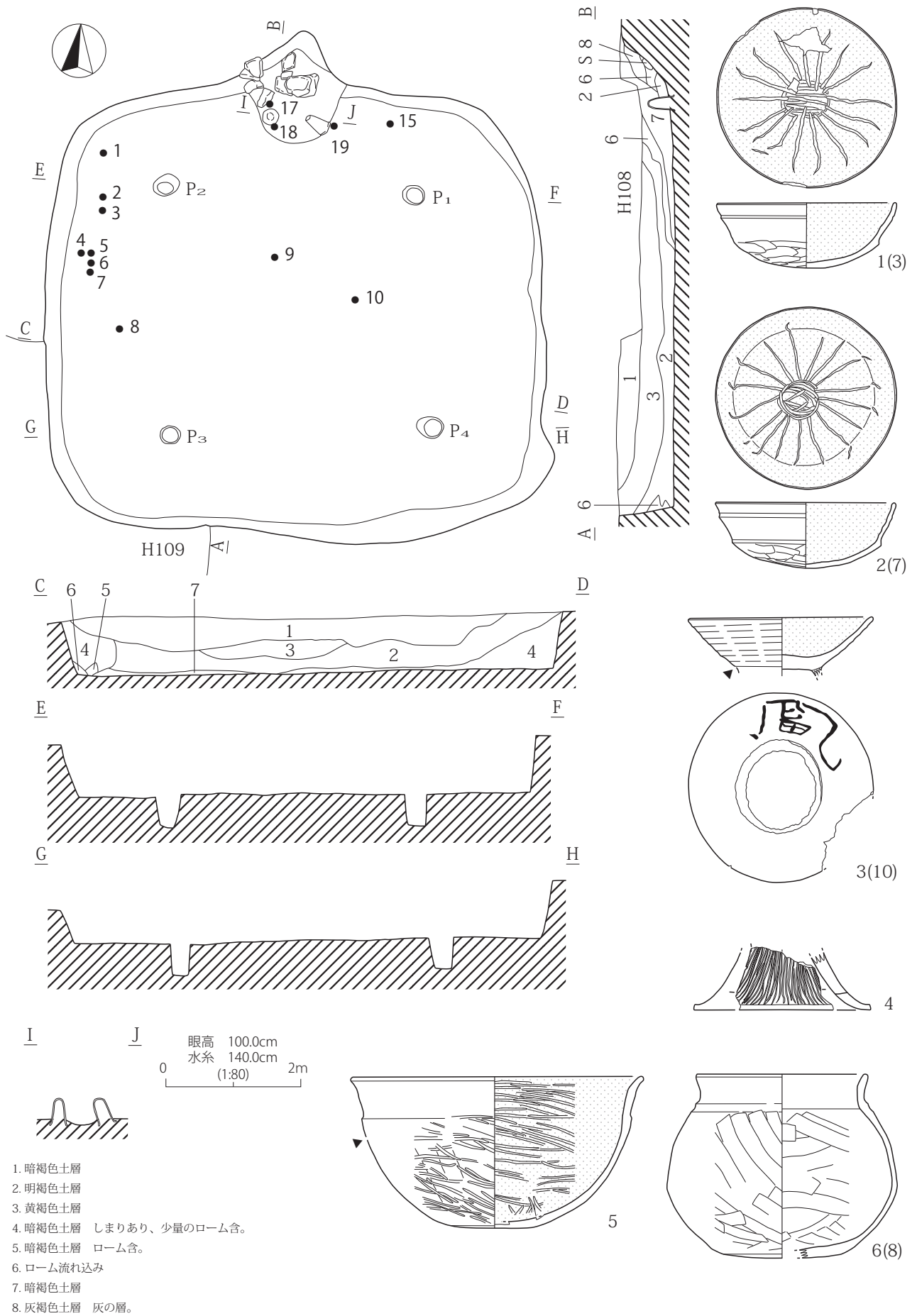
H 40号竪穴建物(第59図)

T 20グリットで検出された。N-80°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長5.76m、短軸長5.6m、壁残高0.24mの規模である。Y6を切り、H39、129に切られる。西壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

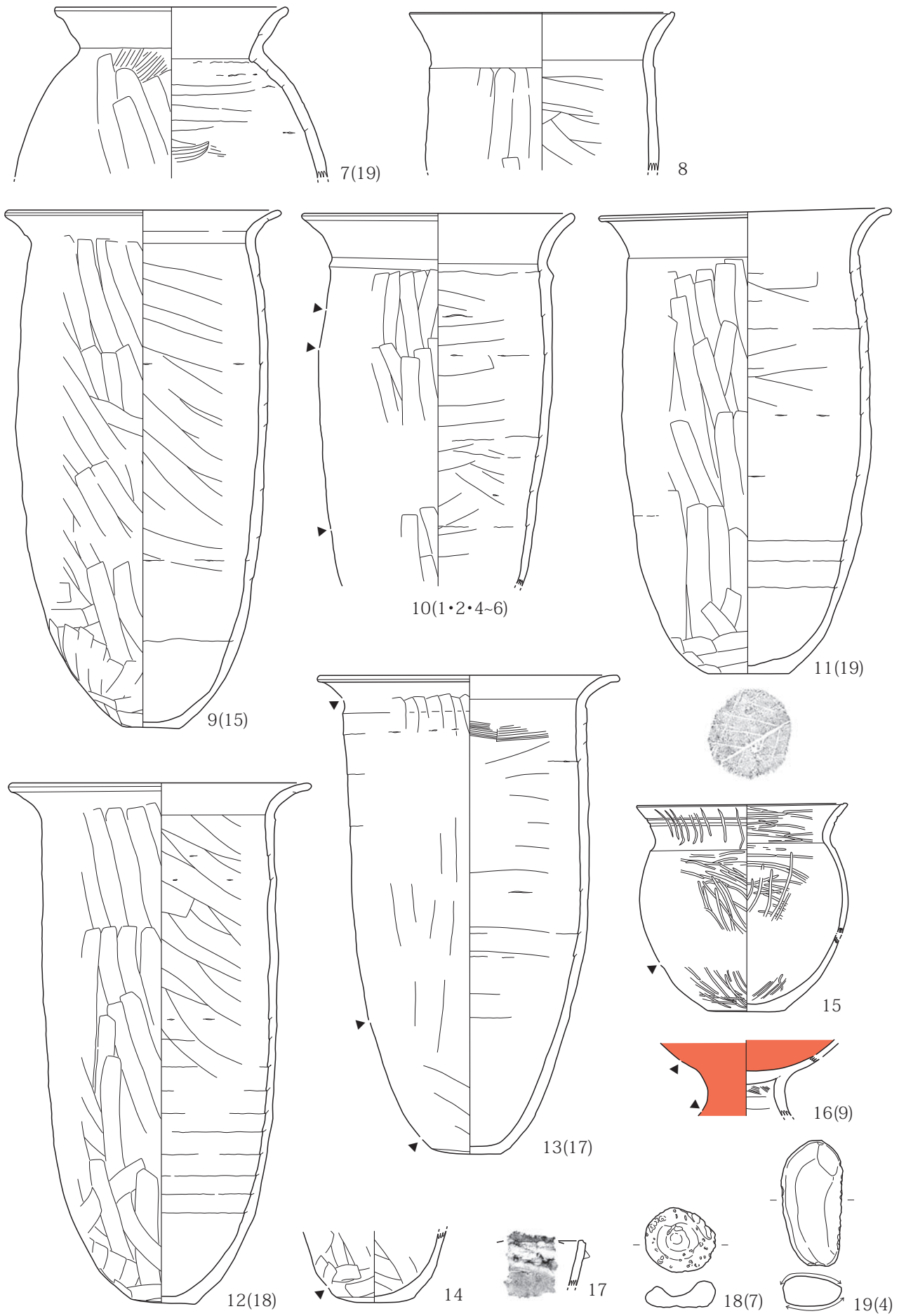
遺物は土師器、縄文土器、石器が出土しているが、縄文土器は混入品である。器種的には坏、鉢、甕、壺、



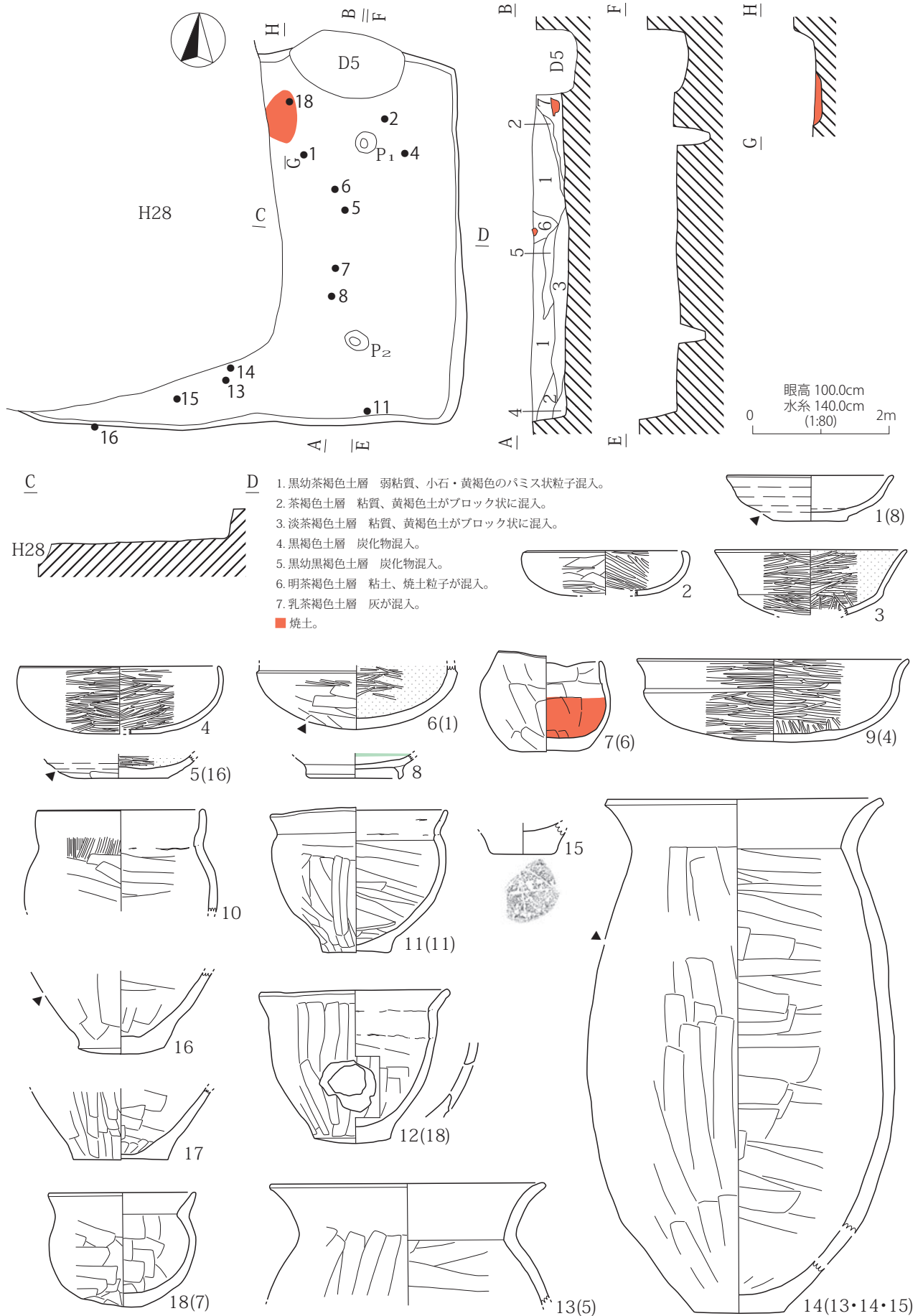
第 41 図 H27 号竪穴建物



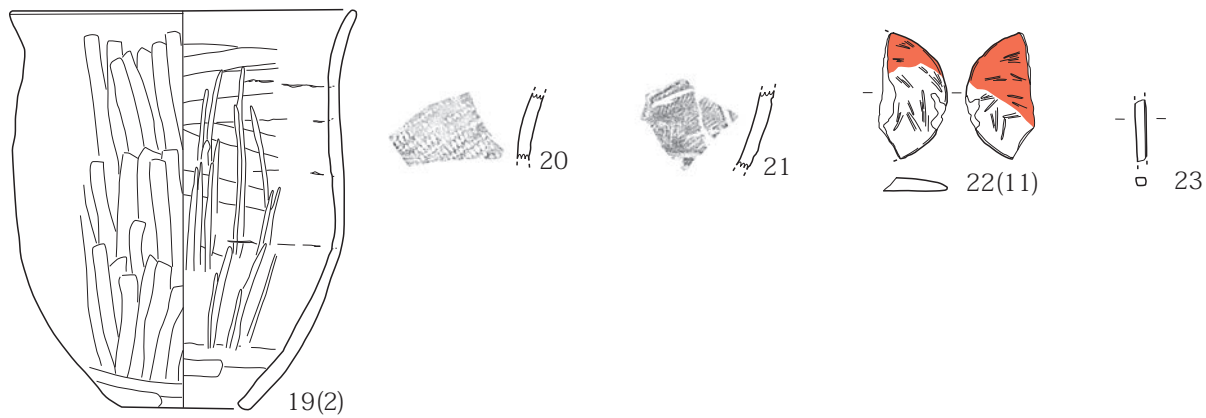
第42図 H28号竪穴建物(1)



第 43 図 H28 号竪穴建物 (2)



第44図 H29号竪穴建物(1)



第 45 図 H29 号竪穴建物 (2)

使用痕が有る剥片が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 41 号竪穴建物 (第 60 図)

V 17 グリットで検出された。N-0°-E に主軸方位をとる。不整形の平面形状を呈し、長軸長 8.0 m、短軸長 7.52 m、壁残高 0.32 m の規模である。H125～128 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1～P 4 の 4 基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 42 号竪穴建物 (第 61 図)

S 14 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 5.36 m、短軸長 5.09 m、壁残高 0.24 m の規模である。H129、130 に切られる。ピットは 2 基検出されたが支柱穴は判然としない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、石器が出土しているが、土師器坏 2、3 は混入品である。器種的には坏、甕、甗、台石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 43 号竪穴建物 (第 62 図)

T 13 グリットで検出された。N-10°-E に主軸方位をとる。方形の平面形状を呈し、長軸長 5.04 m、短軸長 4.80 m、壁残高 0.4 m、面積 20.03m² の規模である。H42 を切り、H130、131 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが支柱穴である。カマドから北西隅を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、石器、石製品が出土しているが、須恵器は混入品である。器種的には有台坏、甕、壺、打製石斧、白玉が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と思われる。

H 44 号竪穴建物 (第 63・64 図)

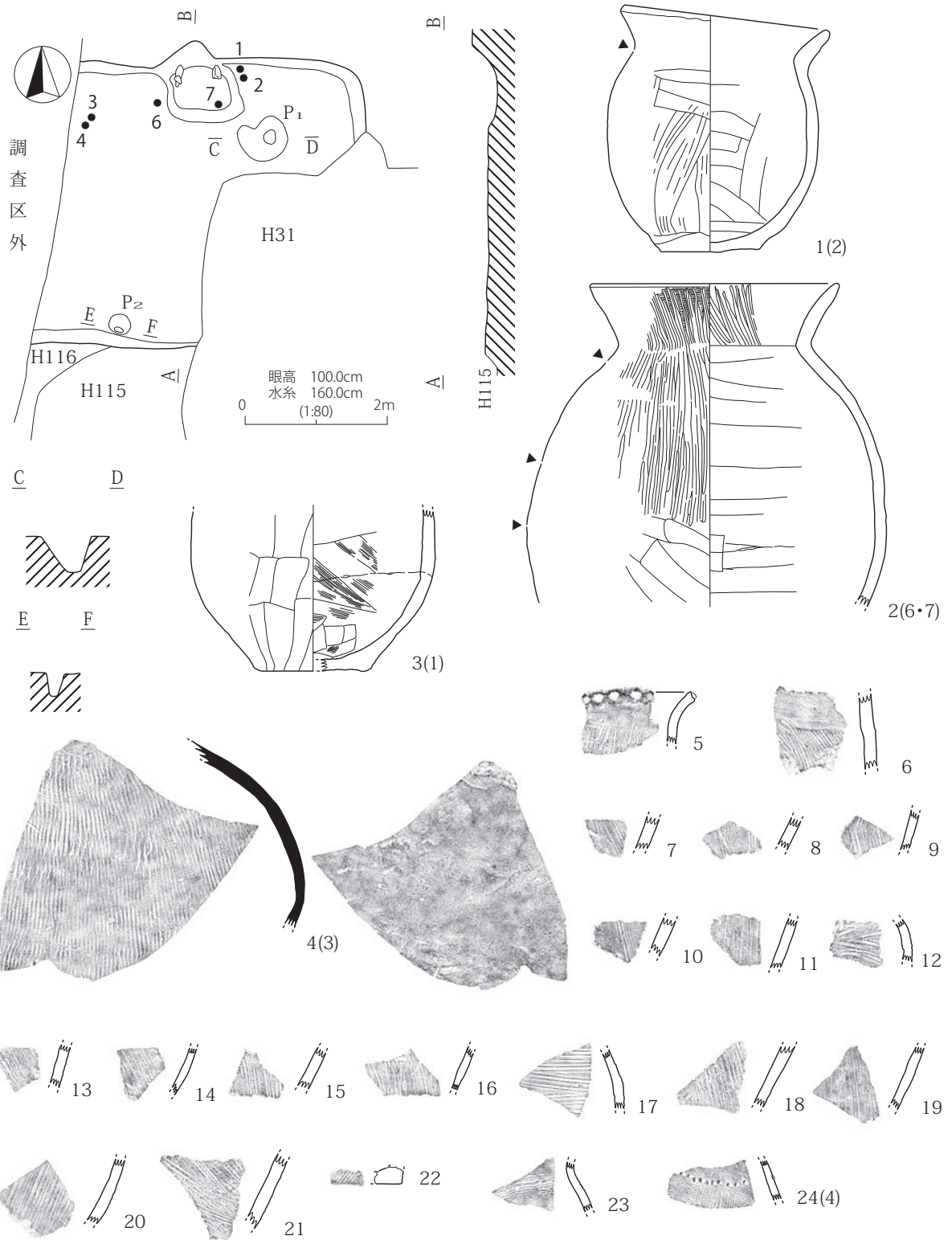
K 5 グリットで検出された。N-20°-W に主軸方位をとる。方形の平面形状を呈し、長軸長 7.76 m、短軸長 7.76 m、壁残高 0.56 m、面積 50.19m² の規模である。H21 を切り、H53、63、89 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P6 の 6 基のピットが支柱穴である。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、石製品が出土しているが、土師器 16、18、須恵器 22 は混入品である。器種的には坏、碗、高坏、甕、壺、甗、土器片円盤、丸玉、白玉、台石、編物石、磨石、磨・敲石、石材が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀前半の所産と思われる。

H 45 号竪穴建物 (第 65・66 図)

I 2 グリットで検出された。N-11°-W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 5.2 m、短軸長 4.72 m、壁残高 0.52 m の規模である。H22 を切り、H83～87 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、勾玉、凹石、編物石、長頸鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀後半の所産と思われる。

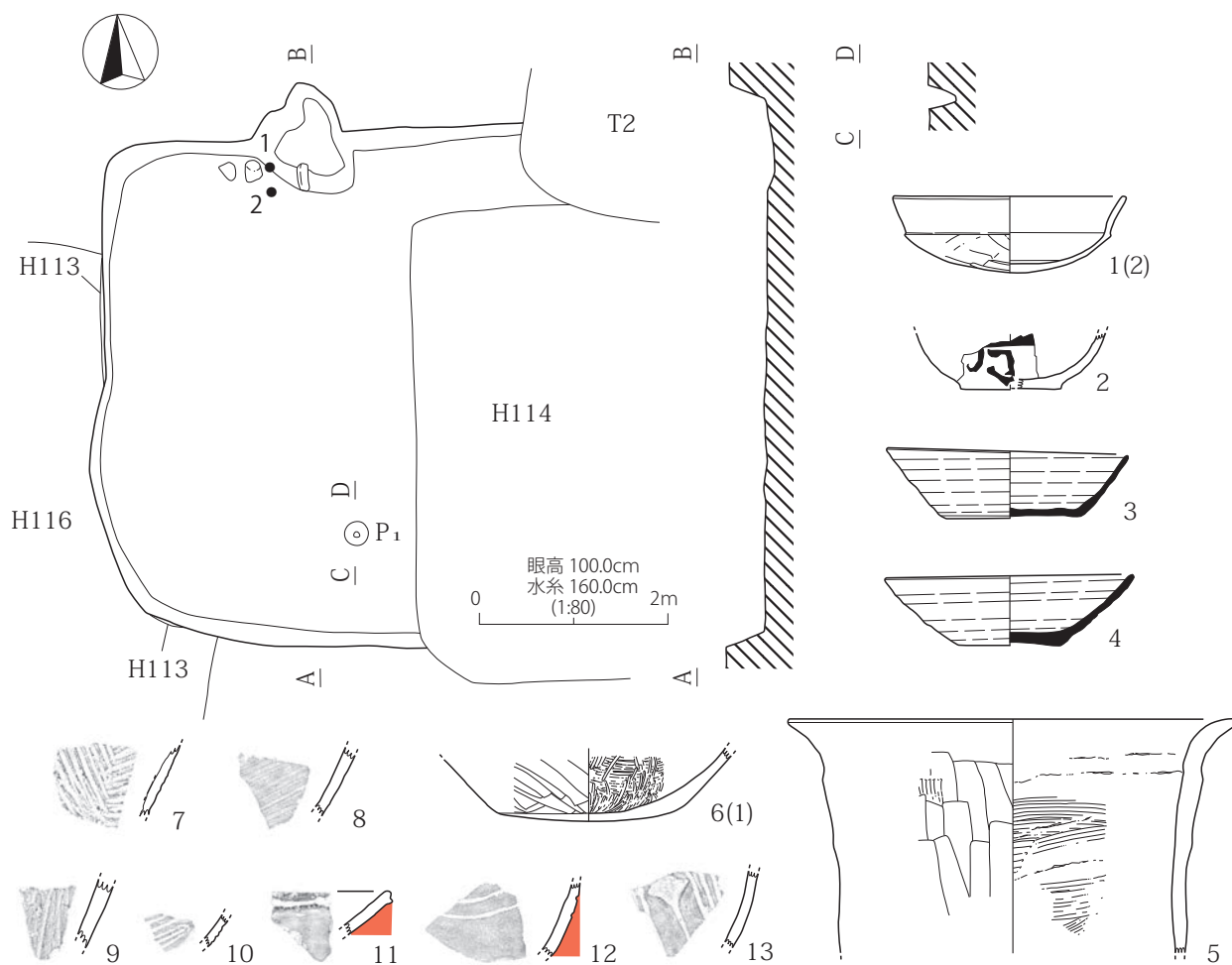


第46図 H30号竪穴建物

H 46号竪穴建物(第67図)

J 4グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.4mの規模である。H53、87に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは2基検出されたが支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土している。器種的には坏、甕、搗臼が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。



第47図 H31号竪穴建物

H 47号竪穴建物 (第68・69図)

I-1グリットで検出された。N-7°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.36m、短軸長4.6m、壁残高0.48m、面積24.27㎡の規模である。H52を切り、H47、85、88に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には坏、高坏、鉢、甕、壺、甑、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀後半の所産と思われる。

H 48号竪穴建物 (第70・71図)

L11グリットで検出された。N-87°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長5.28m、短軸長5.2m、壁残高0.52m、面積27.09㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、縄文土器が出土しているが、縄文土器は混入品である。器種的には坏、ミニチュア土器、鉢、甕、壺、甑が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

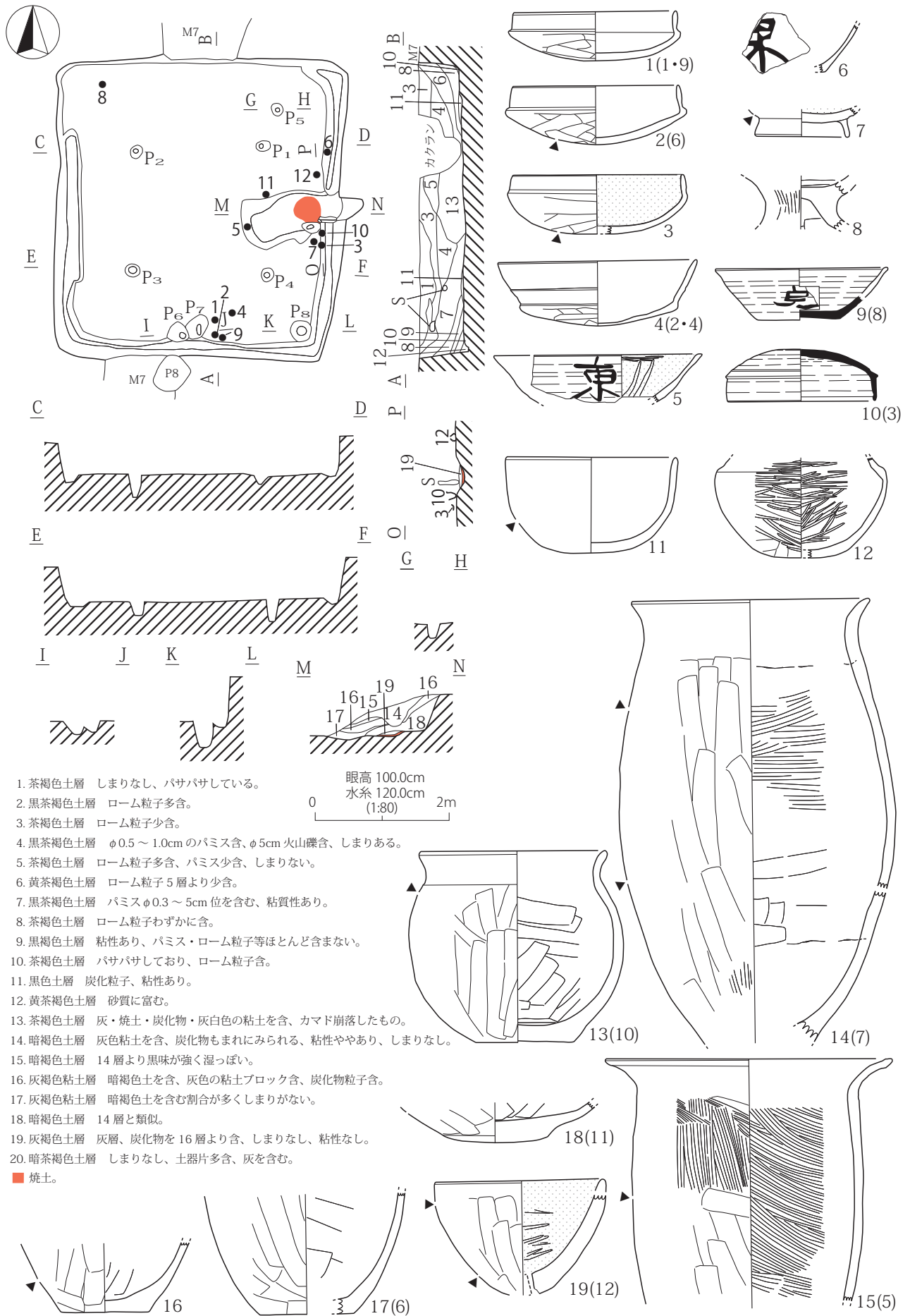
H 49号竪穴建物 (第72図)

A'7グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.08m、短軸長4.08m、壁残高0.52m、面積13.97㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

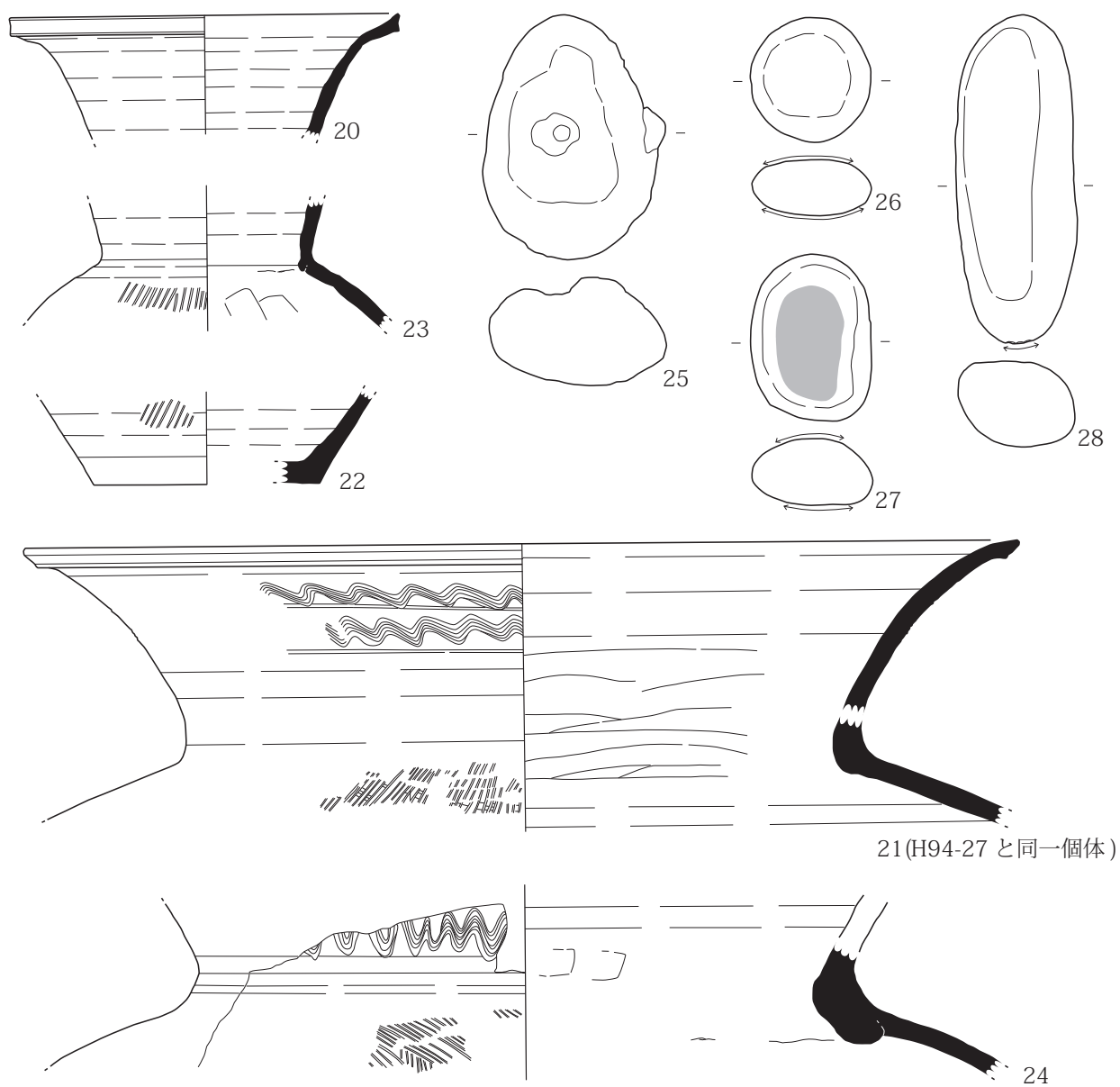
遺物は土師器、須恵器、土製品、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、壺、土器片円盤、刀子、長頸鍬が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 50号竪穴建物 (第73・74図)

D11グリットで検出された。N-17°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.64



第48図 H32号竪穴建物(1)



第 49 図 H32 号竪穴建物 (2)

m、短軸長 4.52 m、壁残高 0.36 m の規模である。Y7 を切り、H92 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ～ P4 の 4 基のピットが支柱穴である。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、砥石、敲石、剥片が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 II 四半期の所産と思われる。

H 51 号竪穴建物 (第 75 図)

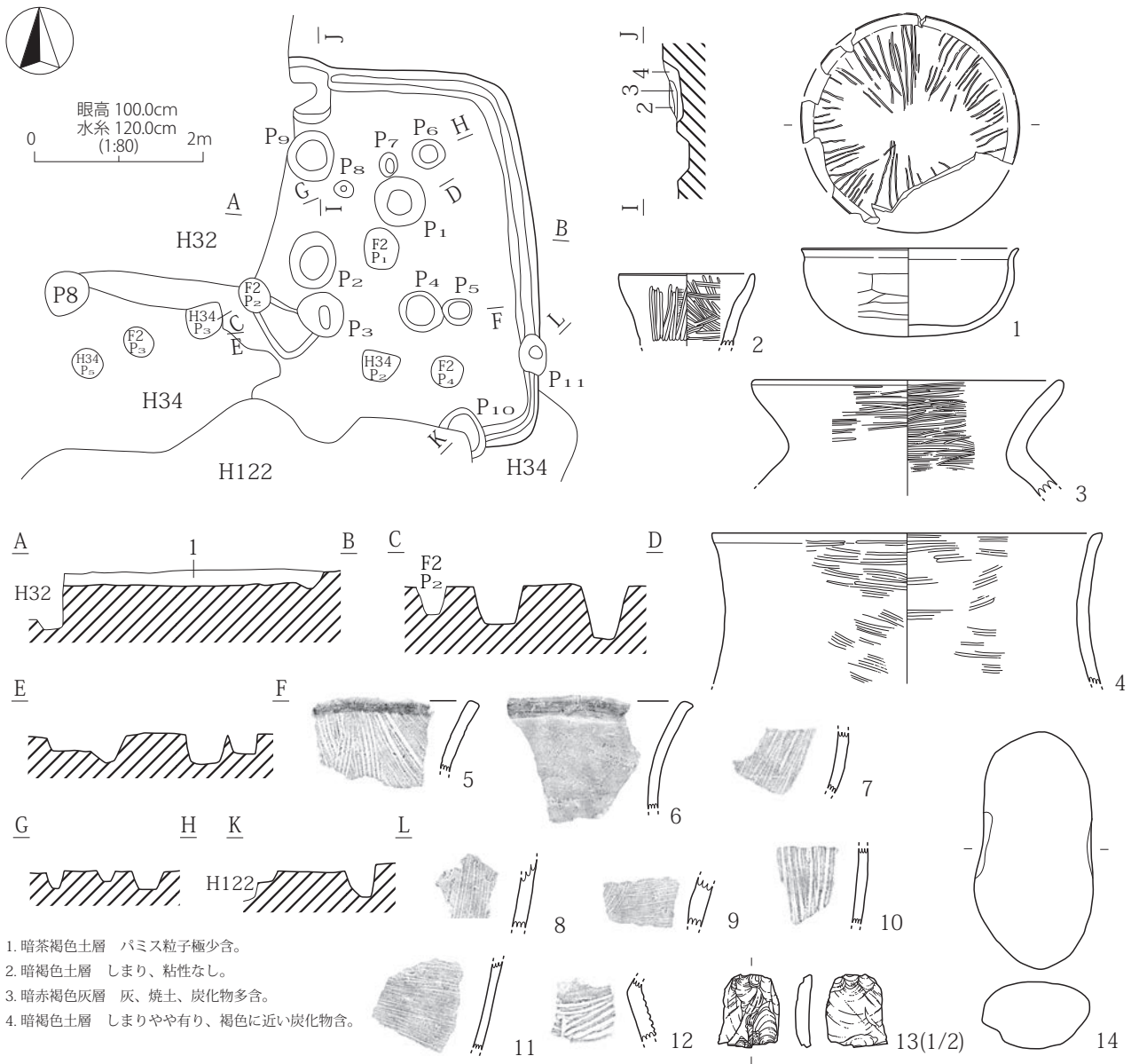
G 2 グリットで検出された。N - 5° - E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 6.32 m、短軸長 4.78 m、壁残高 0.36 m の規模である。H9、45 を切り、H83、84 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。P1 ～ P3 の 3 基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、鉄器が出土している。器種的には坏、壺、甕、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 I 四半期の所産と思われる。

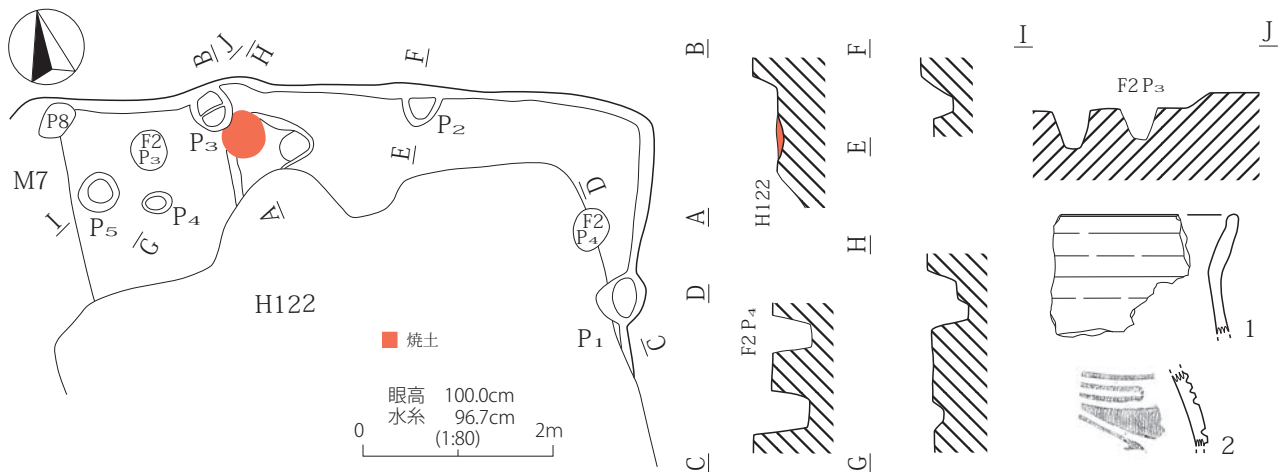
H 52 号竪穴建物 (第 76 図)

G - 1 グリットで検出された。N - 15° - E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 5.16 m、短軸長 4.40 m、壁残高 0.36 m、面積 22.63㎡ の規模である。H9、45 を切り、H83、84 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築され、西南隅とカマド部分を除く壁下には周溝が巡る。均等に配置される P1 ～ P4 の 4 基のピットが支柱穴である。P5 は出入口施設と思われる。

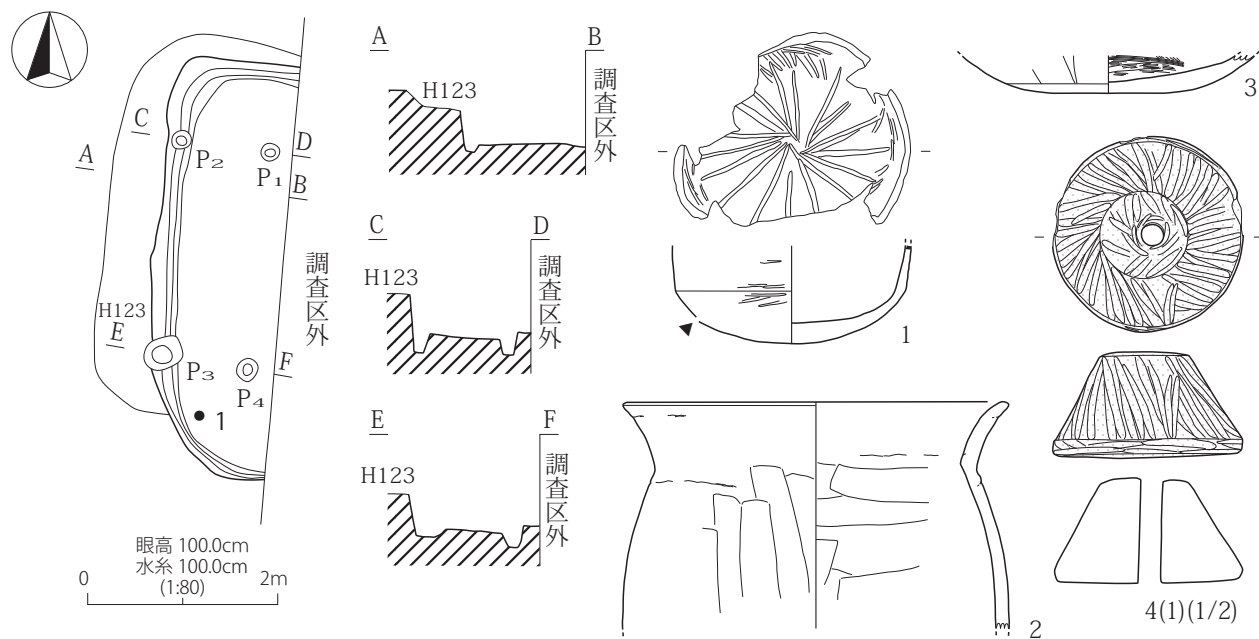
遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、土器片円盤、



第 50 図 H33 号竪穴建物



第 51 図 H34 号竪穴建物



第 52 図 H35 号竪穴建物

丸玉、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 53 号竪穴建物 (第 77 図)

J 4 グリットで検出された。N-12.5°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.2 m、短軸長 3.92 m、壁残高 0.44 m、面積 12.51m²の規模である。H44、46 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。P1 ~ P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、深鉢、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 54 号竪穴建物 (第 78・79 図)

P 18 グリットで検出された。N-110°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 5.84 m、短軸長 5.44 m、壁残高 0.12 m、面積 30.68m²の規模である。H109、111 に切られ、H 112、Ta3 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、甑、鉢、砥石、PSSQ、二次加工の有る剥片、刀子、長頸鏃が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅰ四半期の所産と思われる。

H 55 号竪穴建物 (第 80 図)

R 20 グリットで検出された。N-1.5°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.92 m、短軸長 4.84 m、壁残高 0.32 m、面積 22.51m²の規模である。H39 を切り、H118 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

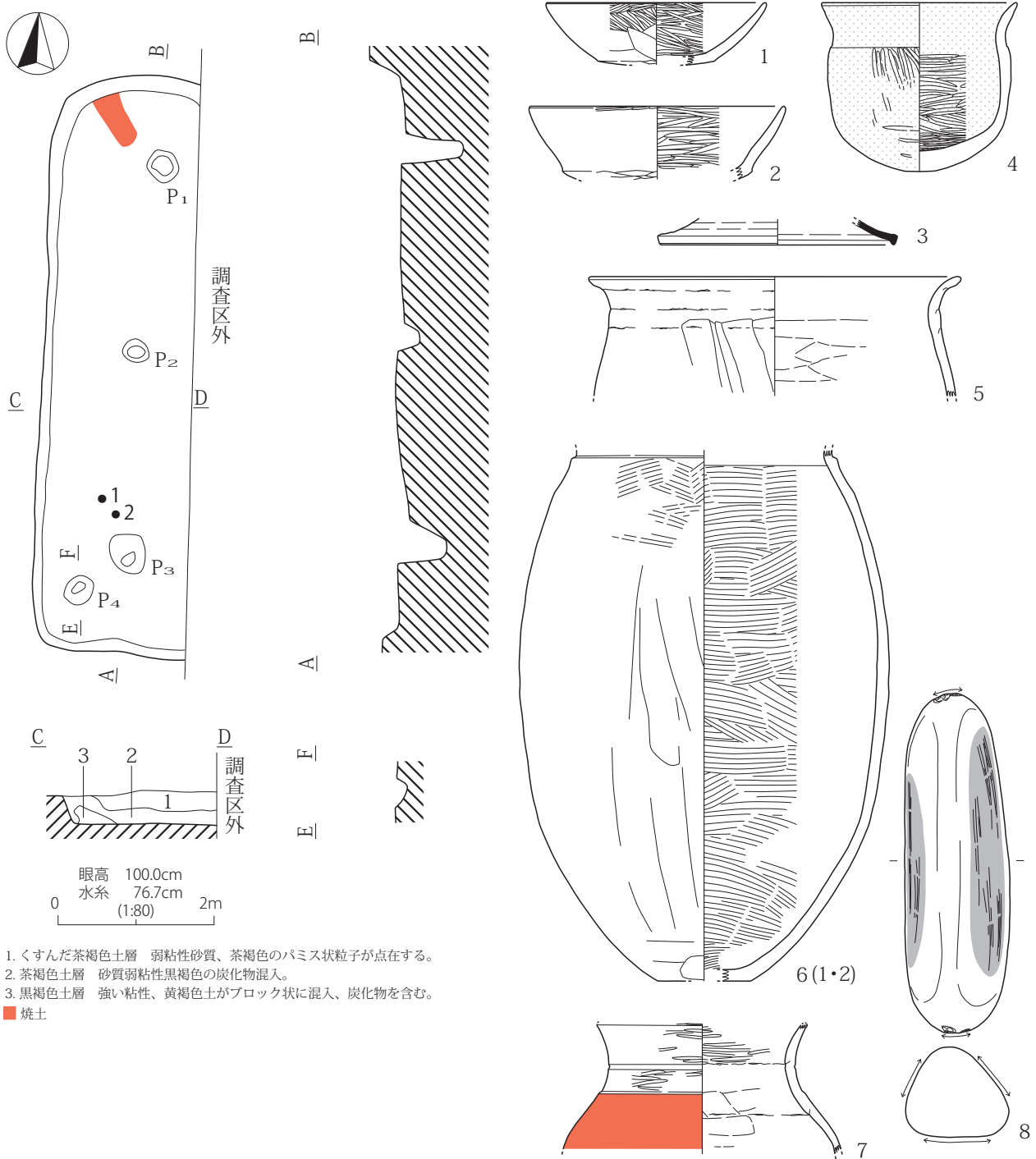
H 56 号竪穴建物 (第 81 図)

T 17 グリットで検出された。N-2°-W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈するものと思われる。壁残高 0.52 m の規模である。H41 を切り、H125、126、127 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器武蔵甕、須恵器坏が各 1 点出土している。本址の所産期は不明である。

H 57 号竪穴建物 (第 82 図)

I 18 グリットで検出された。N-12°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.56 m、短軸長 3.04 m、壁残高 0.36 m、面積 10.70m²の規模である。H106 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われる。



- 1. くすんだ茶褐色土層 弱粘性砂質、茶褐色のパミス状粒子が点在する。
- 2. 茶褐色土層 砂質弱粘性黒褐色の炭化物混入。
- 3. 黒褐色土層 強い粘性、黄褐色土がブロック状に混入、炭化物を含む。
- 焼土

第 53 図 H36 号 縦穴建物

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

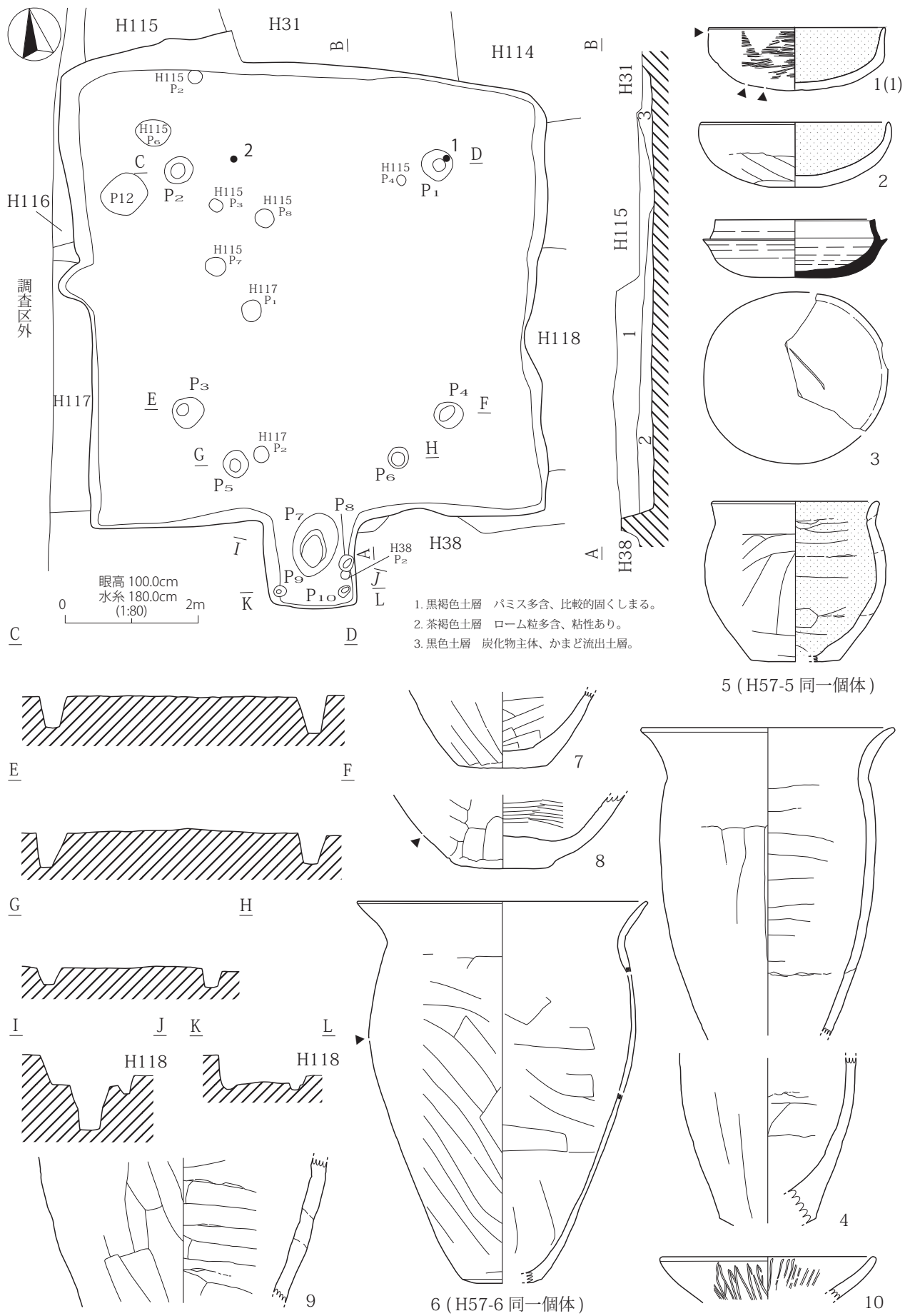
H 58 号 縦穴建物 (第 83 図)

T'12 グリットで検出された。調査区外に延びるため詳細は不明である。壁残高 0.16 m の規模である。H66 に切られる。ピットは検出されていない。

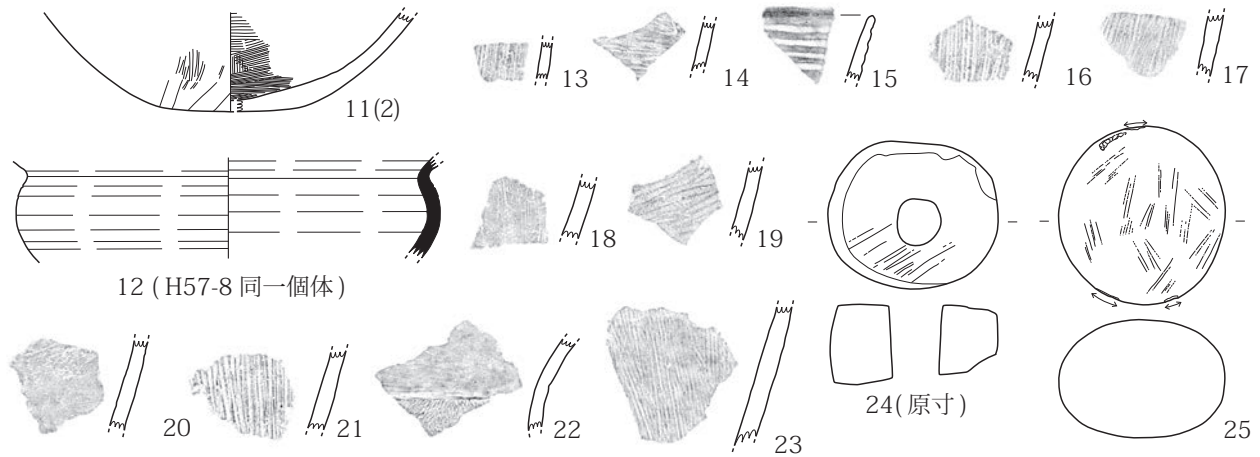
遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 59 号 縦穴建物 (第 84 図)

I'6 グリットで検出された。N-9°-W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.60 m、短軸長 4.48 m、壁残高 0.28 m、面積 19.86㎡の規模である。P7 に切られる。北壁中央部分にカマドが構



第 54 図 H37 号竪穴建物 (1)



第55図 H37号竪穴建物(2)

築される。P1～P4の4基のピットが支柱穴である。P5は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石製品、鉄製品が出土している。器種的には坏、高坏、甕、砥石、軽石製品、軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 60号竪穴建物(第85・86図)

I'11グリットで検出された。N-2.5°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.16m、短軸長4.00m、壁残高0.52m、面積14.30㎡の規模である。H67に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、鉢、甕、編物石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 61号竪穴建物(第87・88図)

F'7グリットで検出された。N-13°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.48m、短軸長4.28m、壁残高0.36m、面積21.68㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。北西隅とカマド部分を除く壁下には周溝が巡る。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、甕、横瓶、砥石、台石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅰ四半期の所産と思われる。

H 62号竪穴建物(第89図)

F'3グリットで検出された。N-13°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.00m、短軸長3.60m、壁残高0.24m、面積14.29㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、砥石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

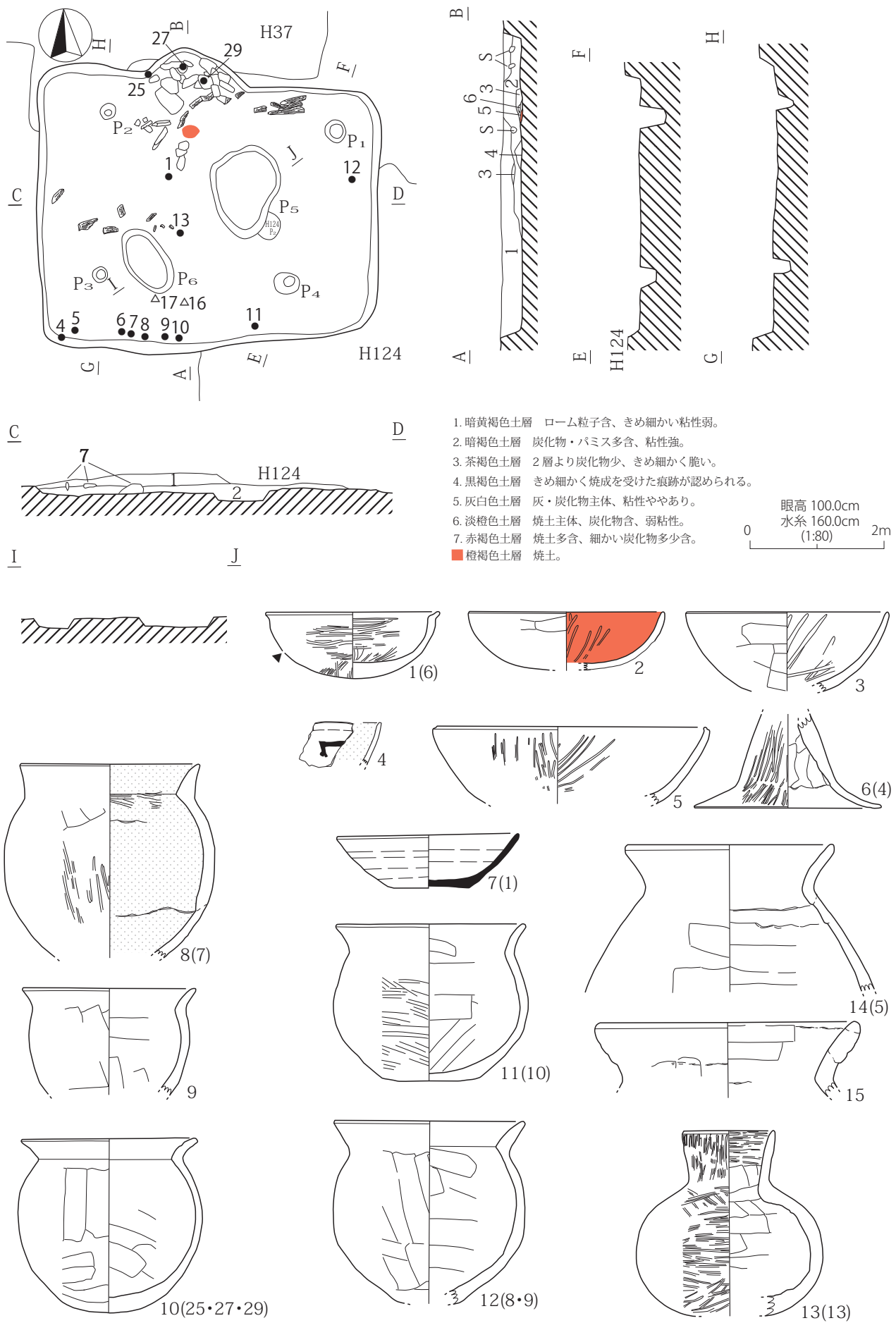
H 63号竪穴建物(第90図)

K6グリットで検出された。N-77°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.00m、短軸長3.64m、壁残高0.36m、面積13.08㎡の規模である。H21、44を切る。西壁中央部分にカマドが構築される稀有な例である。均等に配置されるP1～P6の6基のピットが支柱穴と思われる。

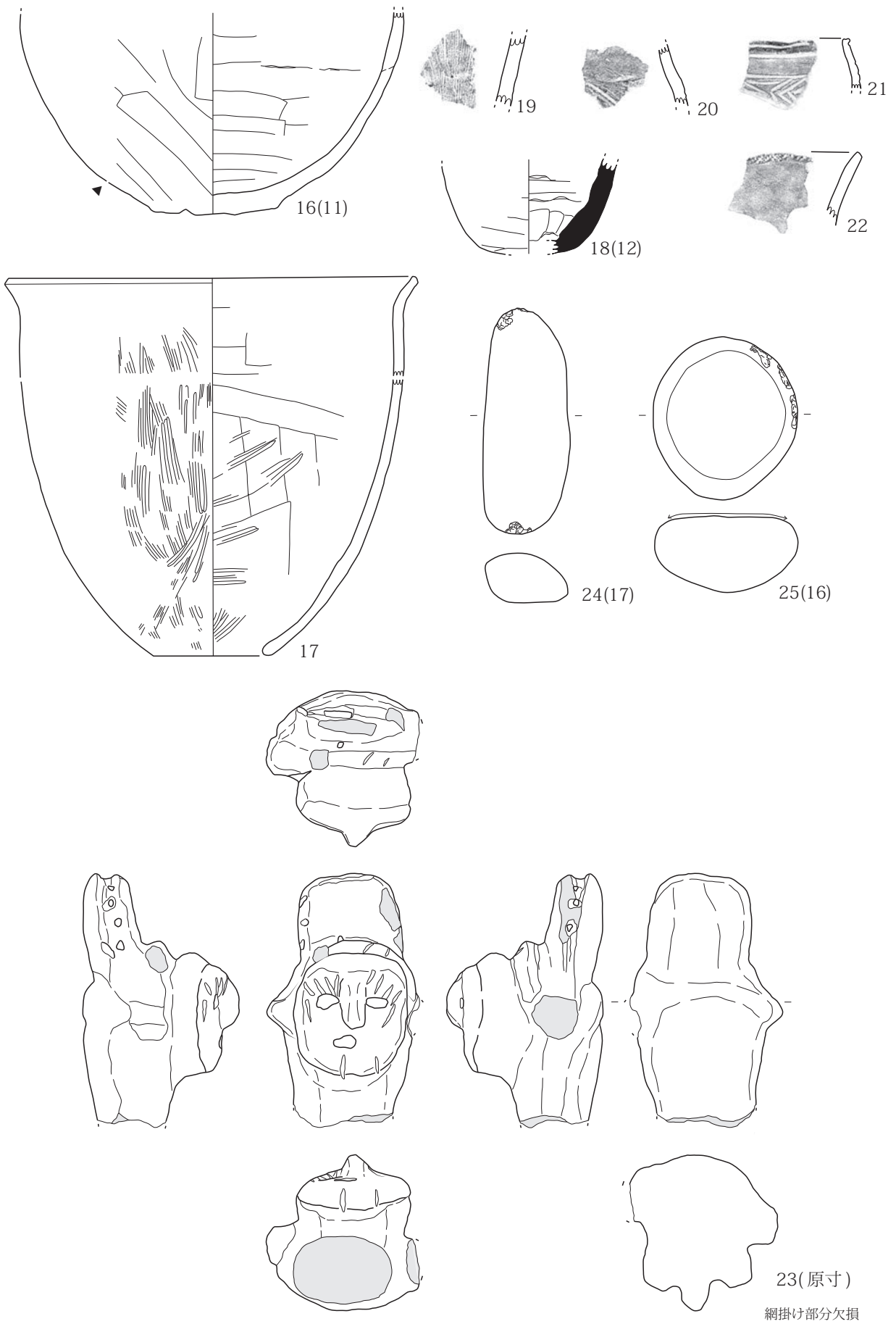
遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器が出土している。器種的には坏、高坏、甕、深鉢、土器片円盤、凹石、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅳ四半期の所産と思われる。

H 64号竪穴建物(第91図)

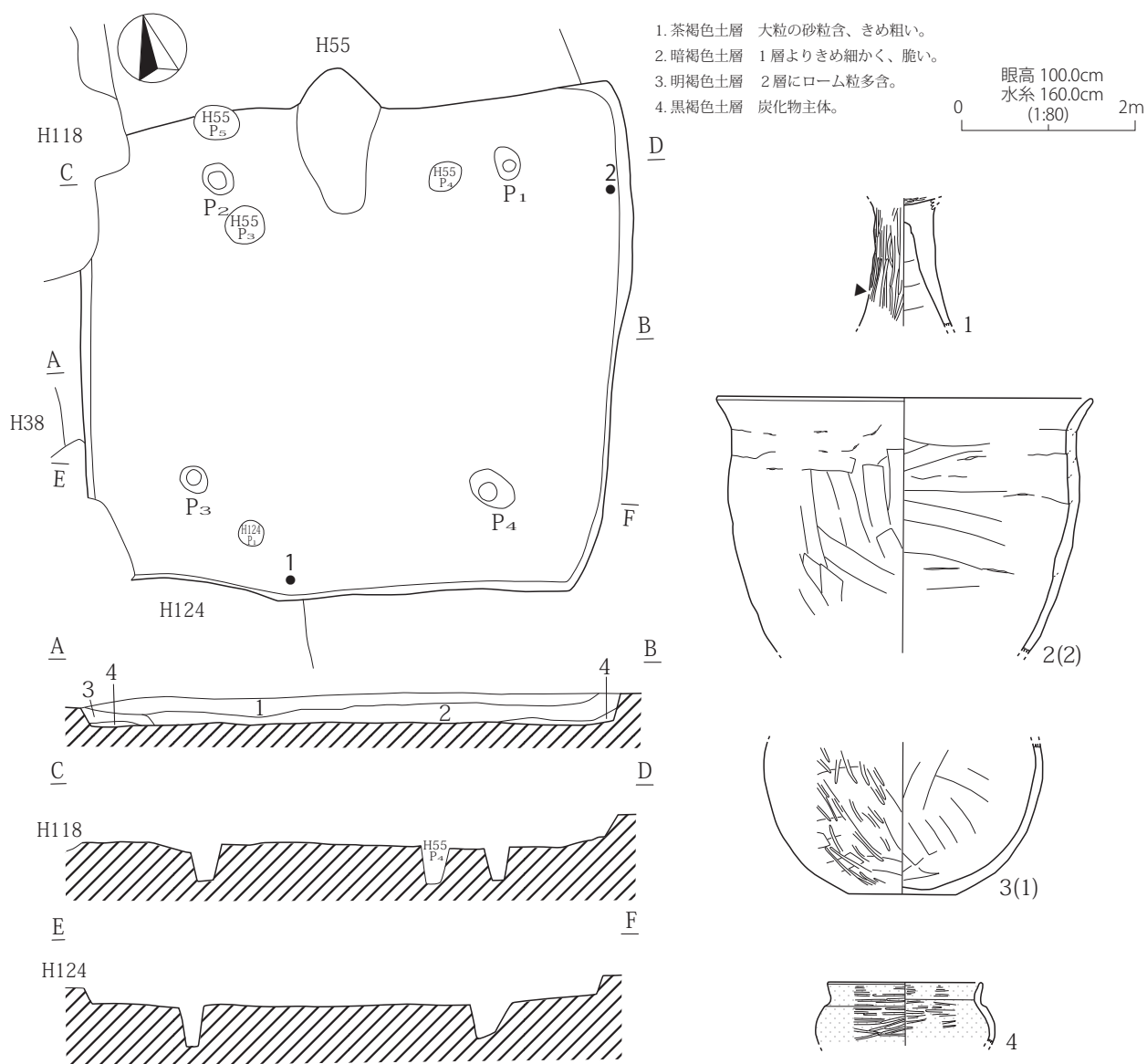
W11グリットで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.12m、短軸長3.40m、壁残高0.20mの規模である。H138を切り、H137に切られる。北壁中央部分にカマ



第 56 図 H38 号竪穴建物 (1)



第 57 図 H38 号竪穴建物 (2)



第 58 図 H39 号竪穴建物

ドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のピットの支柱穴である。P6 は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 66 号竪穴建物 (第 92 図)

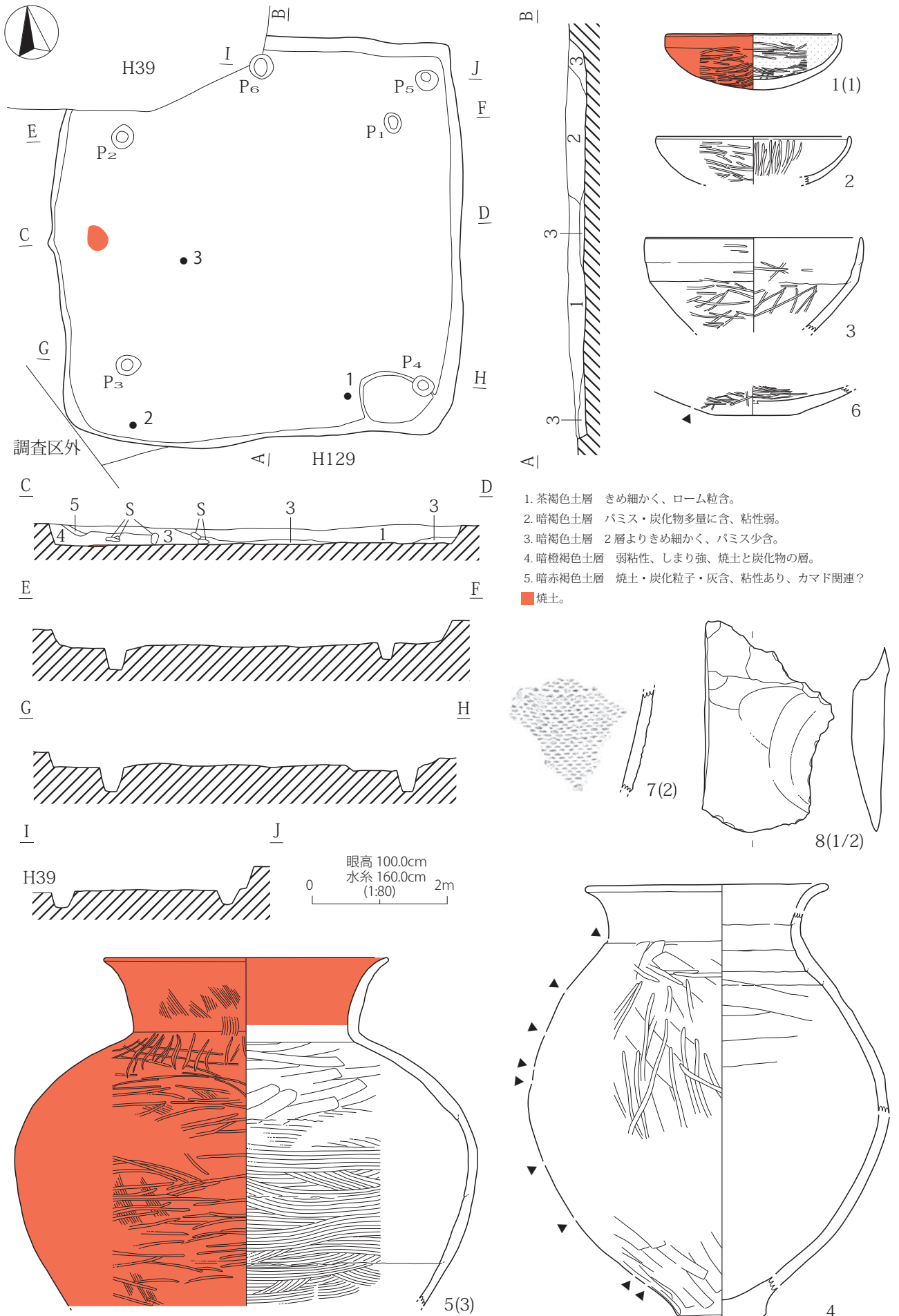
J '12 グリットで検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。N - 89° - W に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、壁残高 0.20 m の規模である。H58 を切る。東壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 2 基検出されたが、支柱穴は判然としない。

遺物は土師器と須恵器が出土している。器種的には坏、碗、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

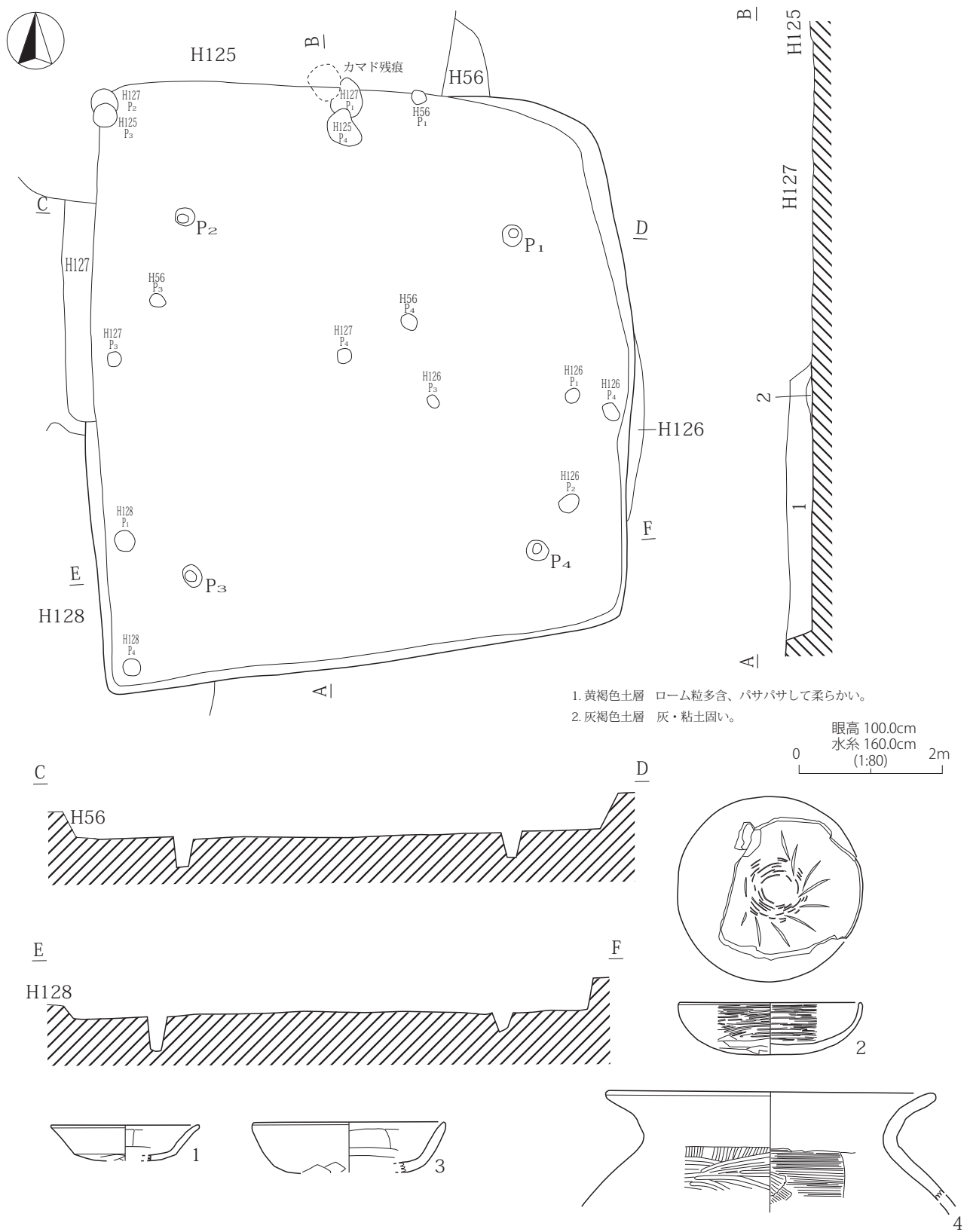
H 67 号竪穴建物 (第 93 図)

H '12 グリットで検出された。N - 8° - E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 3.24 m、短軸長 2.48 m、壁残高 0.40 m、面積 7.43㎡ の規模である。H60 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のピットの支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅳ四半期の所産と思われる。



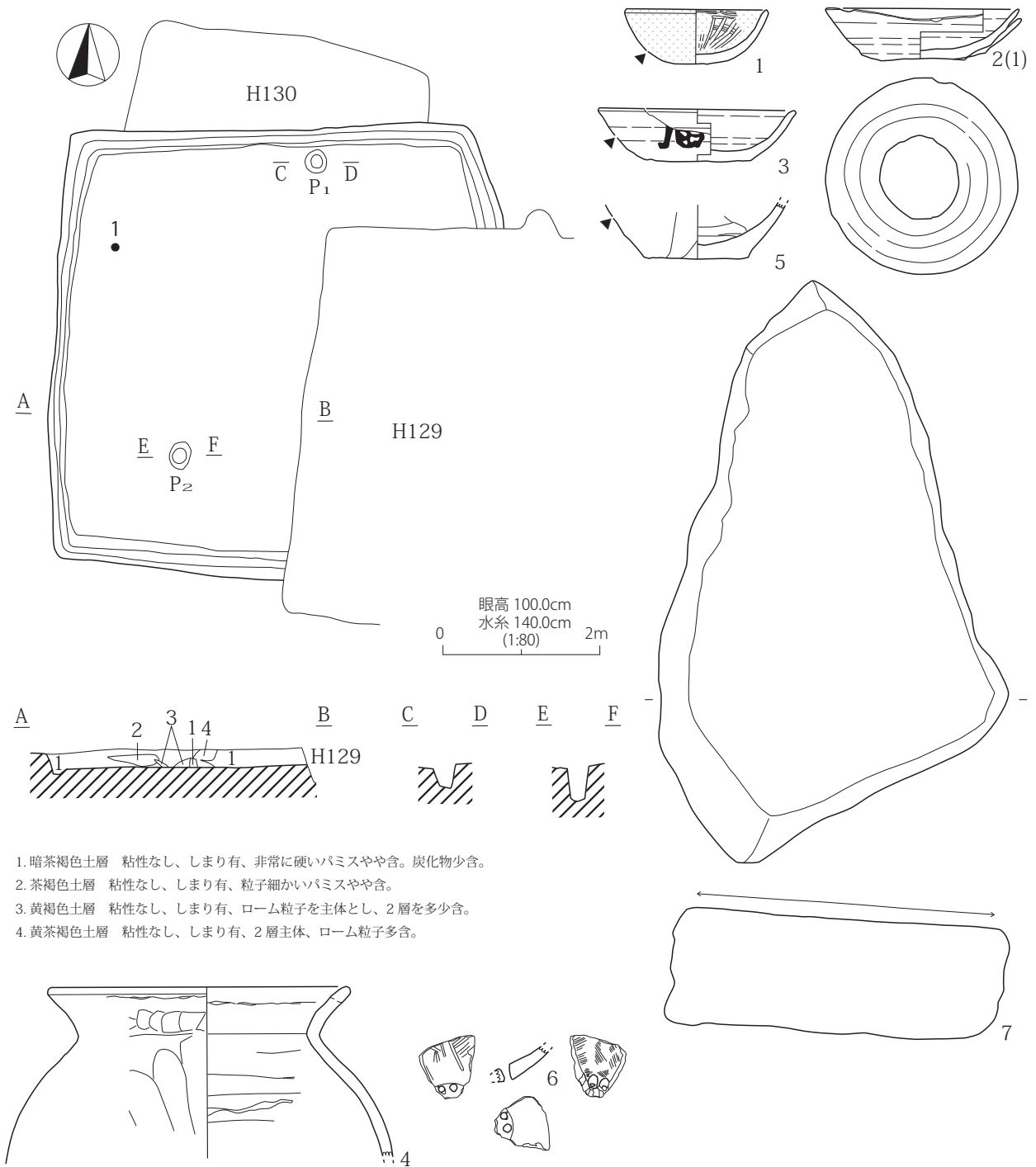
第 59 図 H40 号竪穴建物



第 60 図 H41 号竪穴建物

H 68 号竪穴建物 (第 94 図)

G'9グリットで検出された。N-5°-Wに主軸方位をとる。平面形状は不整形である。長軸長 3.00 m、短軸長 1.60 m、壁残高 0.48 mの規模である。H60を切る。カマドやピットは有さない。調査時の名称・見解を尊重し建物として便宜上記載したが、倒木痕と思われる。南側のフラットな面は H69の床面の一部であろう。



1. 暗茶褐色土層 粘性なし、しまり有、非常に硬いワミスやや含。炭化物少含。
2. 茶褐色土層 粘性なし、しまり有、粒子細かいワミスやや含。
3. 黄褐色土層 粘性なし、しまり有、ローム粒子を主体とし、2層を多少含。
4. 黄茶褐色土層 粘性なし、しまり有、2層主体、ローム粒子多含。

第 61 図 H42 号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には碗、甕、甃、軸が認められる。本址の所産期は不明である。

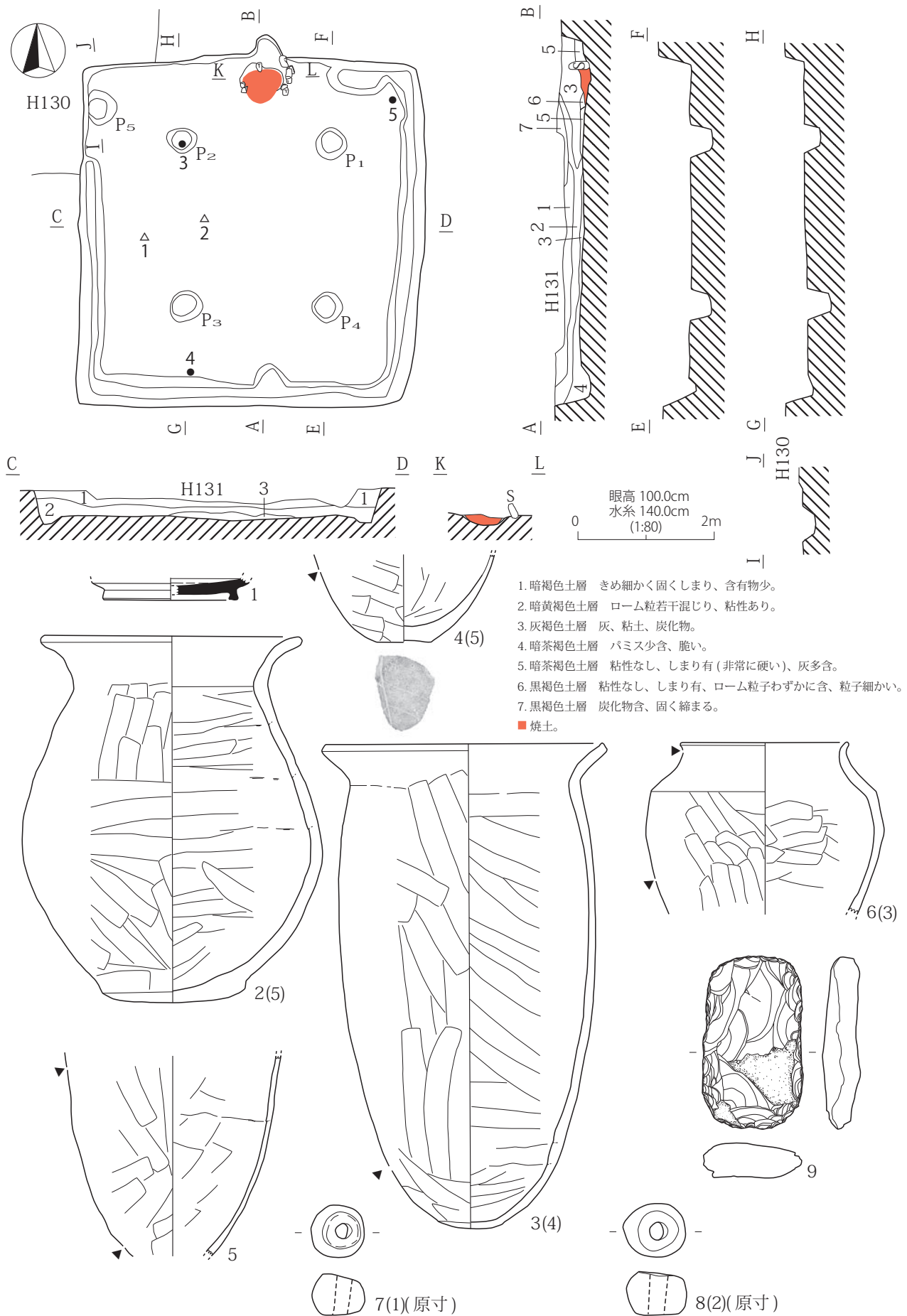
H 69 号竪穴建物 (第 95 図)

E'9グリットで検出された。N-82°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長3.52m、短軸長3.16m、壁残高0.16m、面積12.53㎡の規模である。H2を切り、H68に切られる。東南隅部分にカマドが構築される。ピットは2基検出されたが、支柱穴は判然としない。

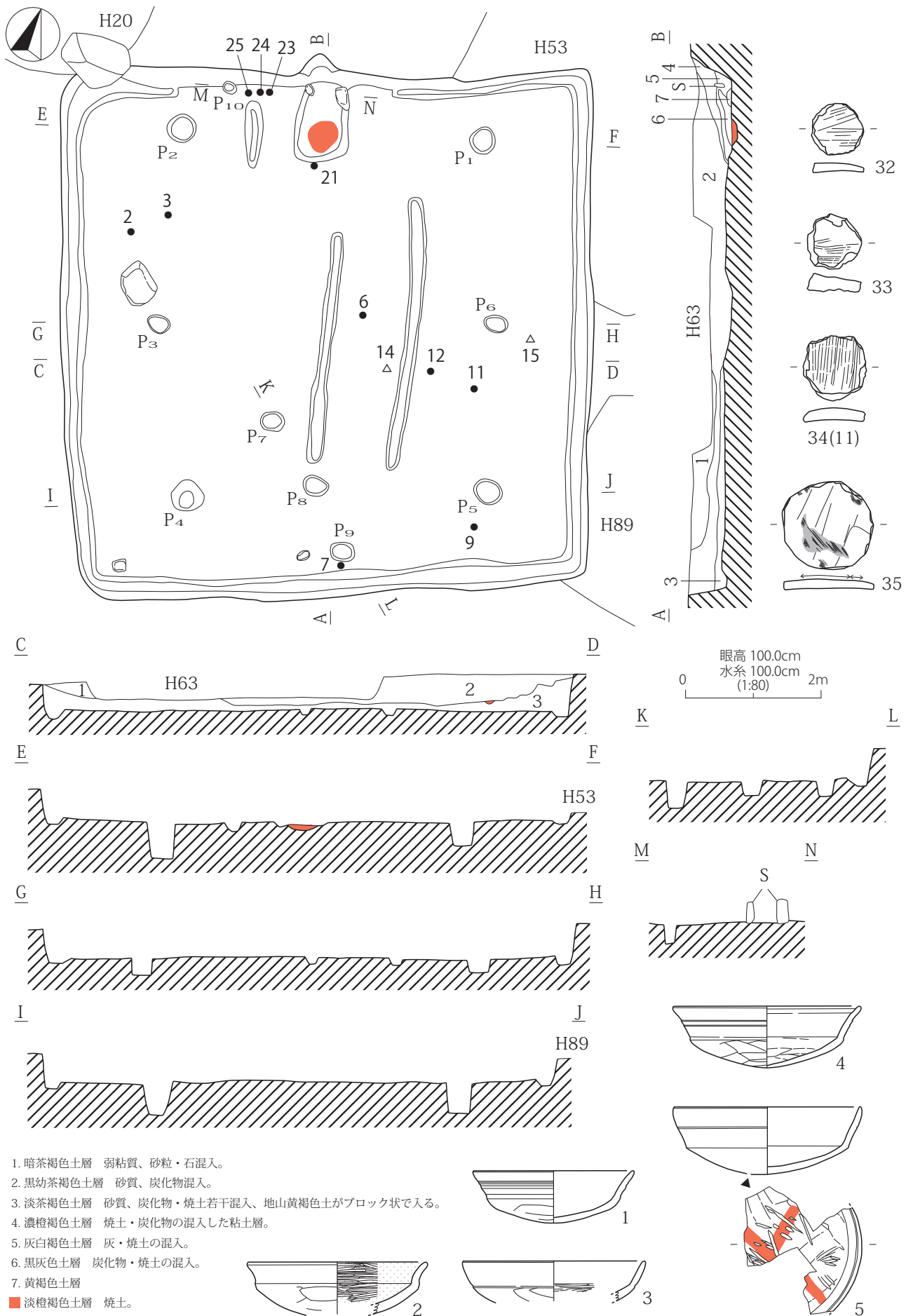
遺物は土師器、灰釉陶器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 70 号竪穴建物 (第 96 図)

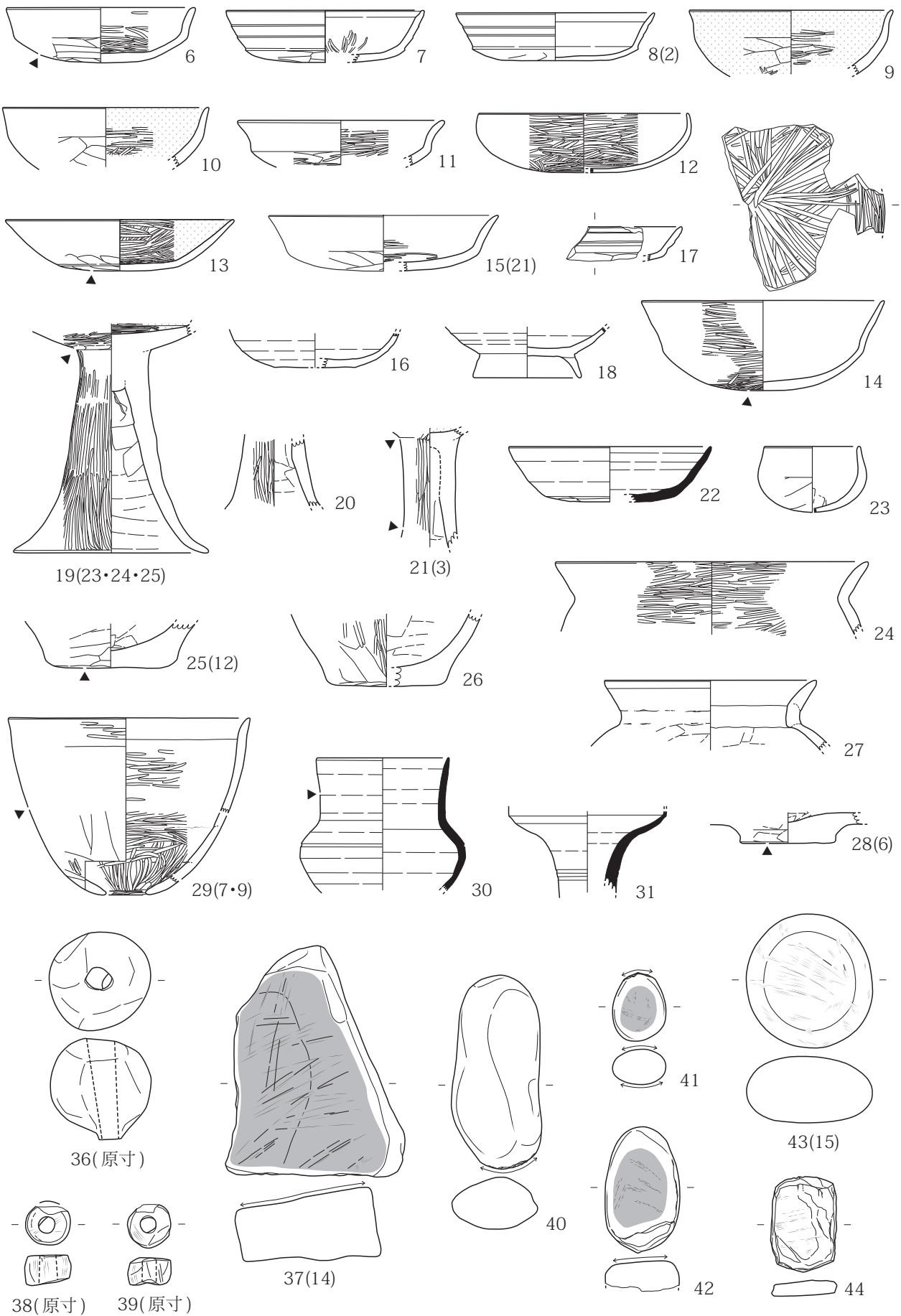
C'9グリットで検出された。N-40°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長3.64m、



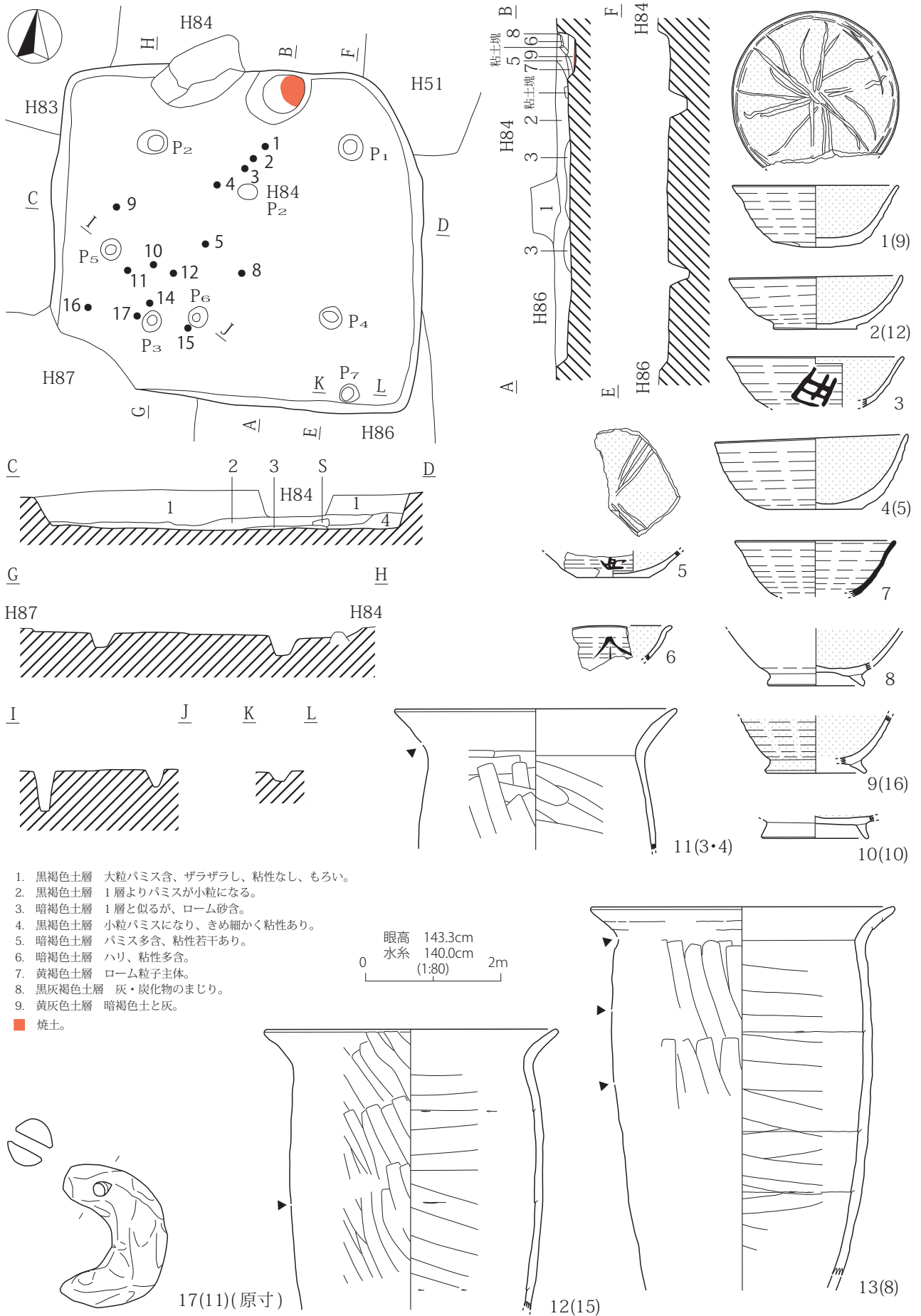
第 62 図 H43 号竪穴建物



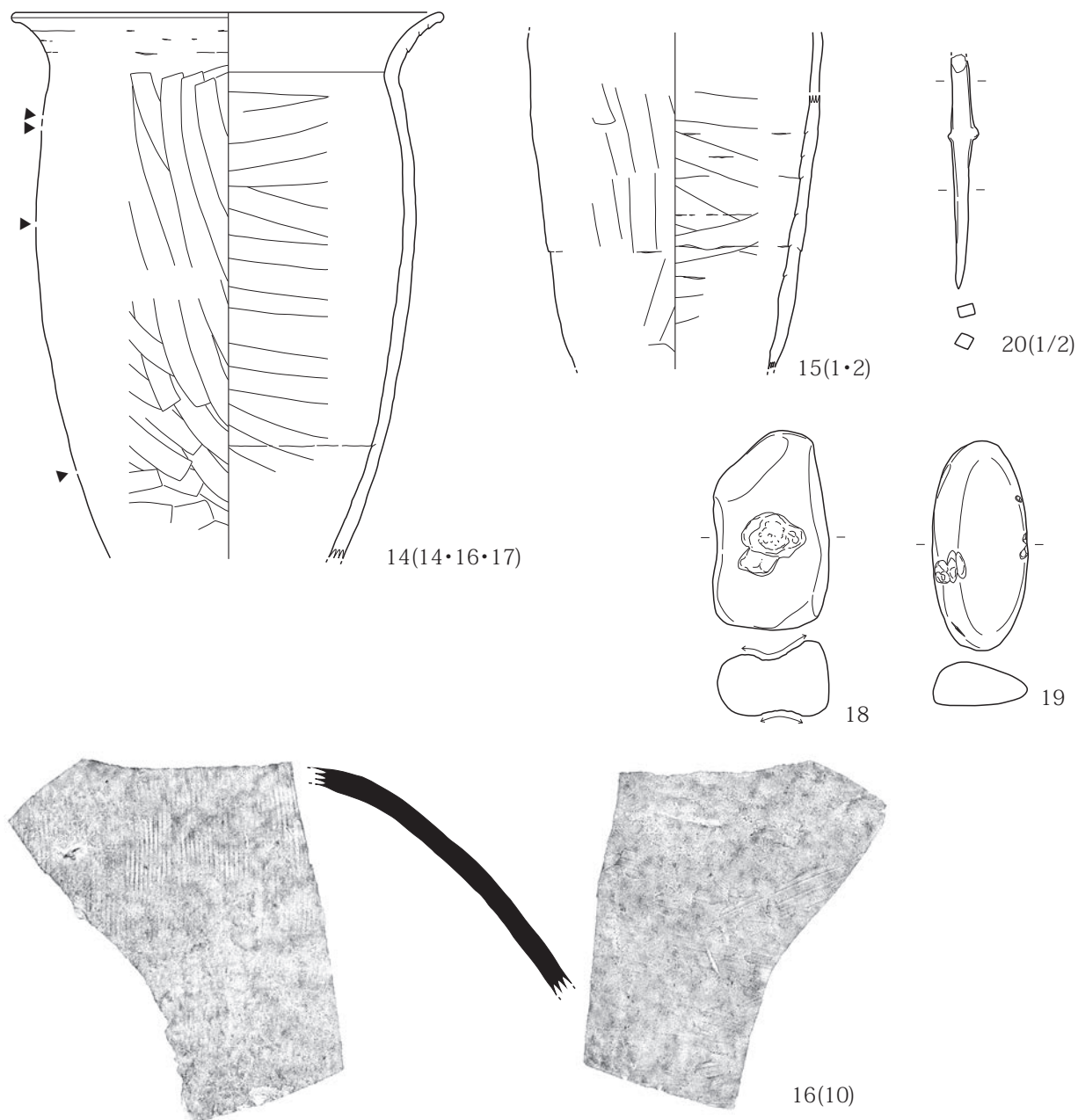
第 63 図 H44 号竪穴建物 (1)



第 64 图 H44 号竖穴建物 (2)



第 65 図 H45 号竪穴建物 (1)



第66図 H45号竪穴建物(2)

短軸長 3.36 m、壁残高 0.14 m、面積 11.15㎡の規模である。H2 を切る。東南隅部分にカマドが構築される。P1 ～ P4 の 4 基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

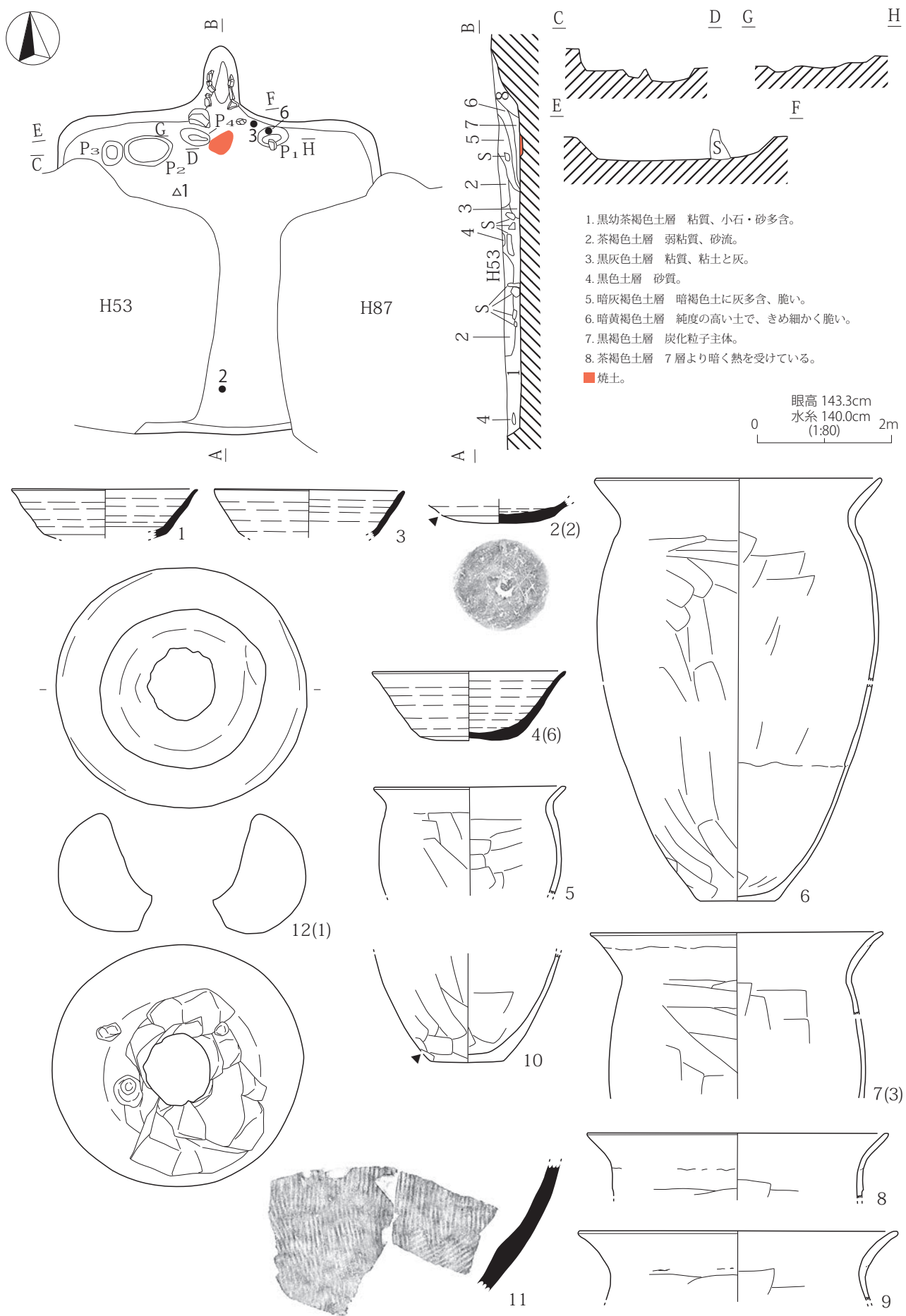
H 71 号竪穴建物 (第 97 図)

D' 4 グリットで検出された。N - 88° - W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 2.76 m、短軸長 2.28 m、壁残高 0.28 m、面積 6.33㎡の規模である。H3 を切る。東壁中央部分にカマドが構築される。P1 ～ P3 の 3 基のピットは支柱穴と思われる。

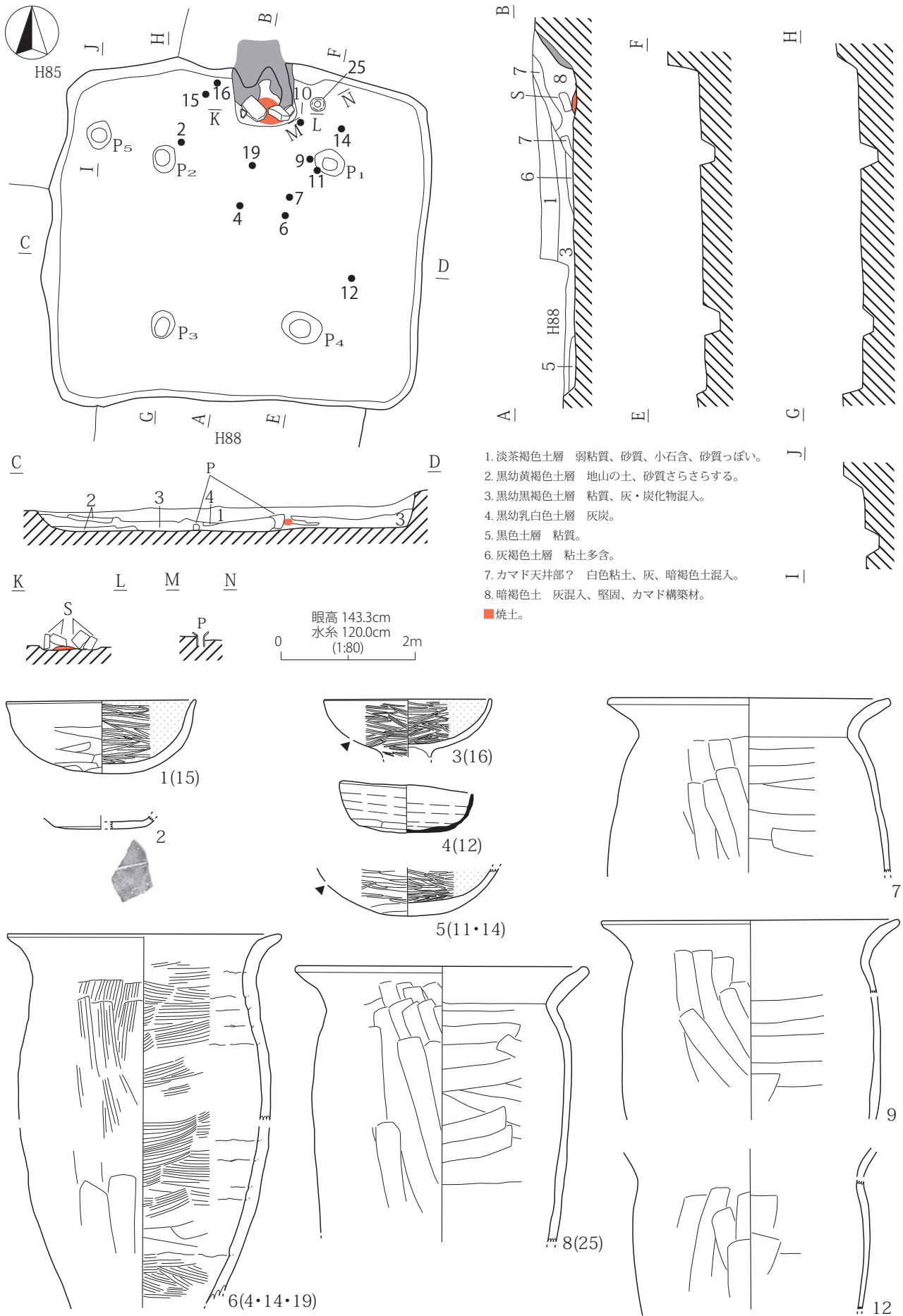
遺物は土師器、灰釉陶器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、打製石斧、刀子、軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 72 号竪穴建物 (第 98 図)

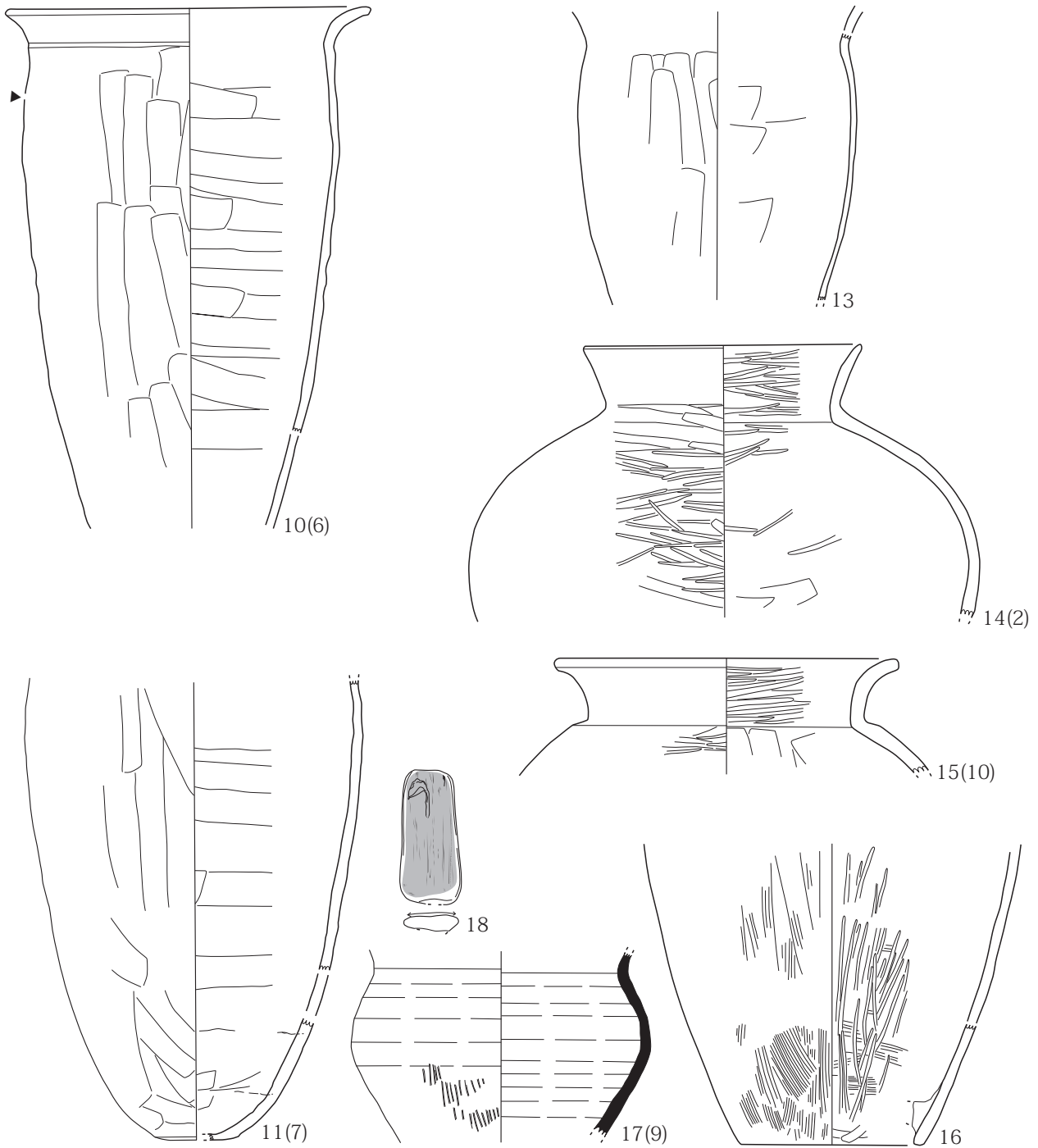
A' 5 グリットで検出された。N - 3° - W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.24 m、短軸長 3.16 m、壁残高 0.24 m、面積 8.48㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。P1 ～ P4 の 4 基のピットが支柱穴と思われる。



第 67 図 H46 号竪穴建物



第 68 図 H47 号竪穴建物 (1)



第 69 図 H47 号竪穴建物 (2)

遺物は土師器壺が 2 点出土している。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀後半の所産と思われる。

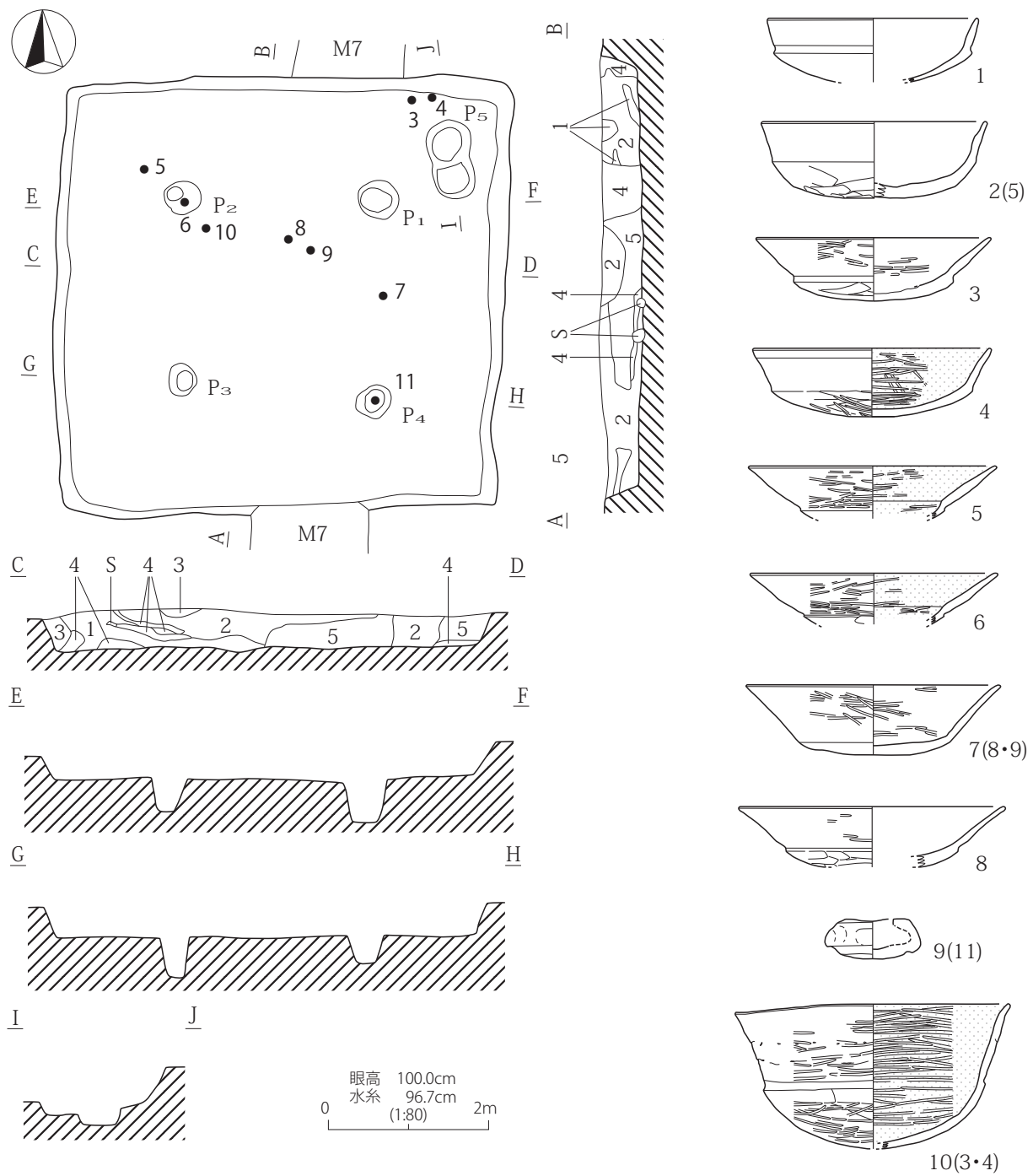
H 73 号竪穴建物 (第 99 図)

A'12 グリットで検出された。N-64°-W に主軸方位をとる。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.36 m の規模である。H5 を切る。東壁中央部分と思われる位置にカマドが構築されている。調査範囲にはピットは存在しない。

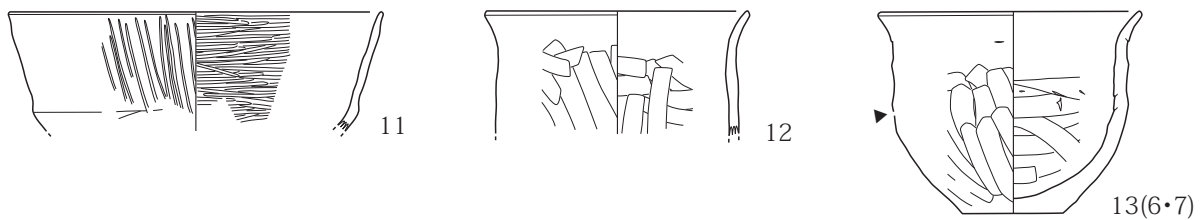
遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、鉢が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 74 号竪穴建物 (第 100 図)

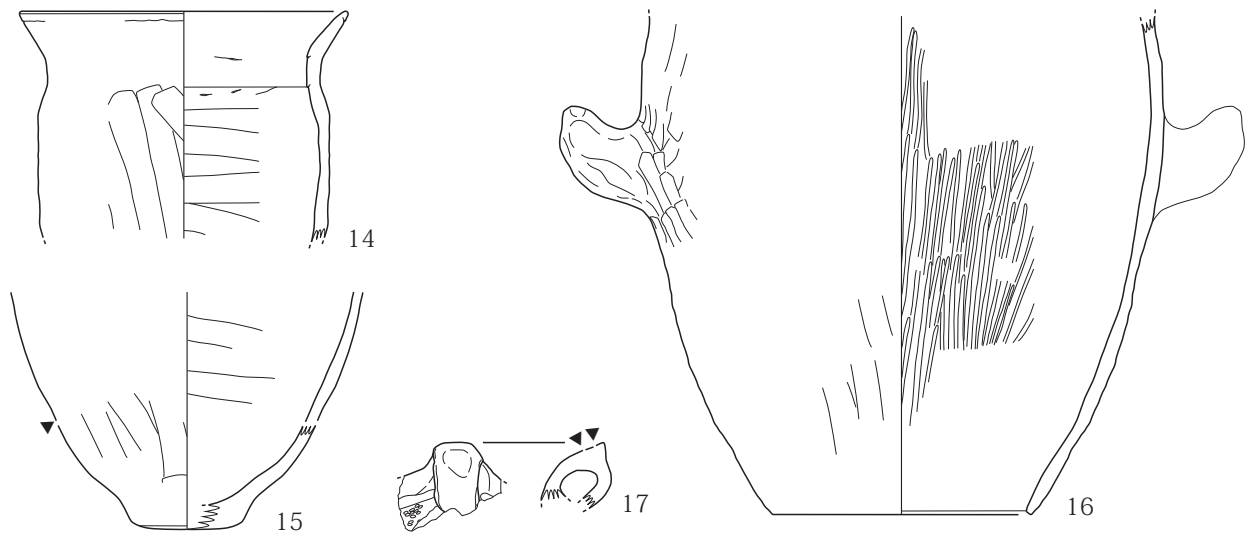
A'1 グリットで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.12 m、短軸長 4.04 m、壁残高 0.44 m の規模である。H10 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。P2、4、



1. 茶褐色土層 粘性なし、しまりあり、粒子は細かくサラサラしている。ローム粒子をわずかに含む。
2. 暗褐色土層 粘性、しまりあり、2mm～30mm大の小石粒を多少含み、ローム粒子を多少含む。
3. 黄褐色土層 粘性なし、しまりあり、ローム粒子を多く含む。
4. 黒褐色土層 粘性あり(2層より強い)、しまりあり、粒子は細かく密、ローム粒子をわずかに含む。
5. 暗茶褐色土層 1層を主体としており粘性、しまりあり。



第70図 H48号竪穴建物(1)



第71図 H48号竪穴建物(2)

5の3基のピットは支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、台付甕、横瓶、磨石、長頸鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 75号竪穴建物(第101図)

B 4グリットで検出された。N-2°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.16 mの規模である。H6、7、96に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは4基検出されたが支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、鉄器が出土している。器種的には坏、甕、台付甕、壺、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は5世紀後半の所産と思われる。

H 76号竪穴建物(第102図)

C 4グリットで検出された。N-8°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長3.76 m、短軸長3.48 m、壁残高0.20 m、面積13.78㎡の規模である。H6、7、75を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは有さない。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器が出土している。器種的には坏、皿、甕、編物石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅰ四半期の所産と思われる。

H 77号竪穴建物(第103・104図)

B 3グリットで検出された。N-14°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.52 m、短軸長4.16 m、壁残高0.40 m、面積19.08㎡の規模である。H10、11を切り、H78に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは6基検出されており、P1、2は支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、土錘、砥石、磨石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

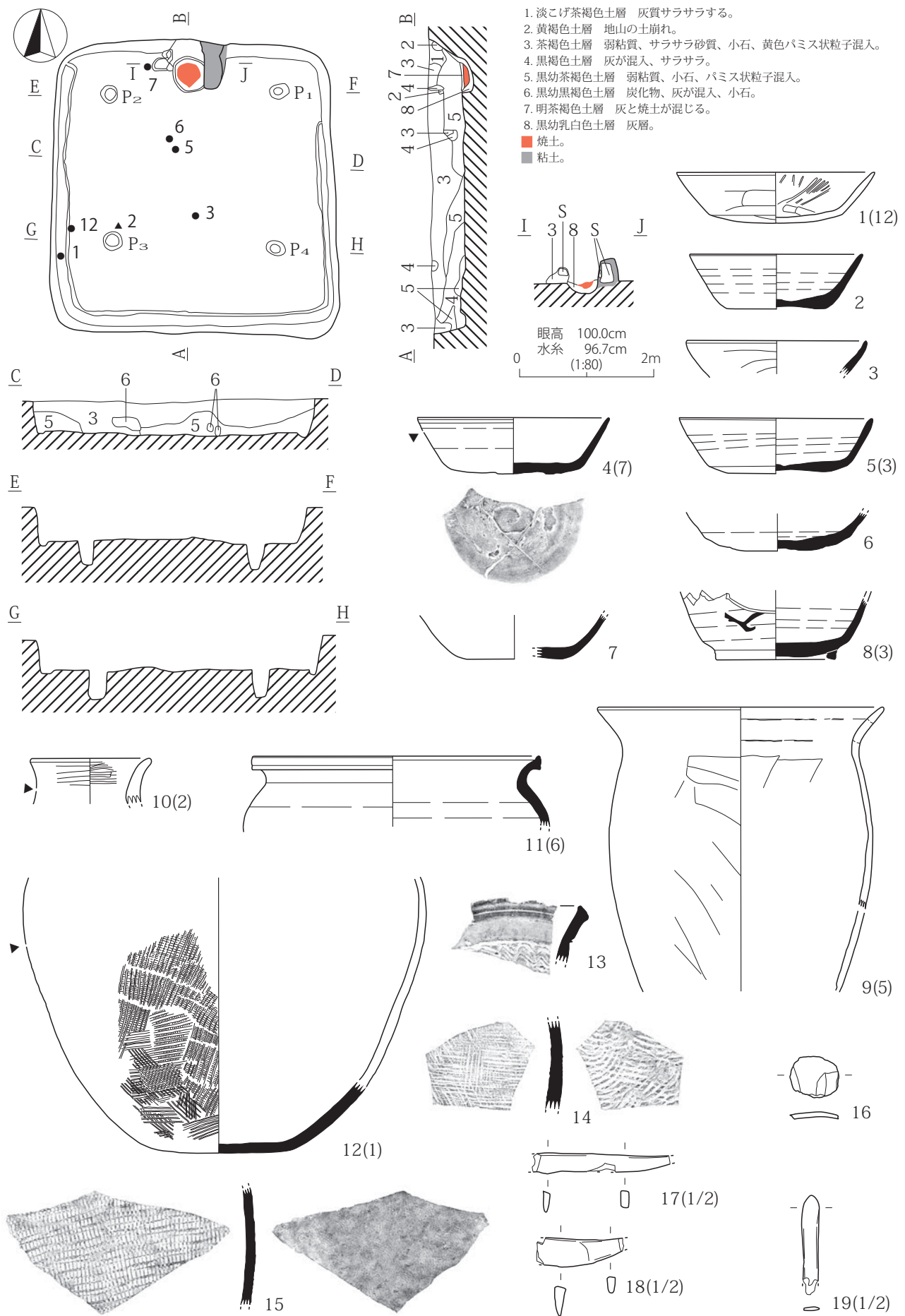
H 78号竪穴建物(第105・106図)

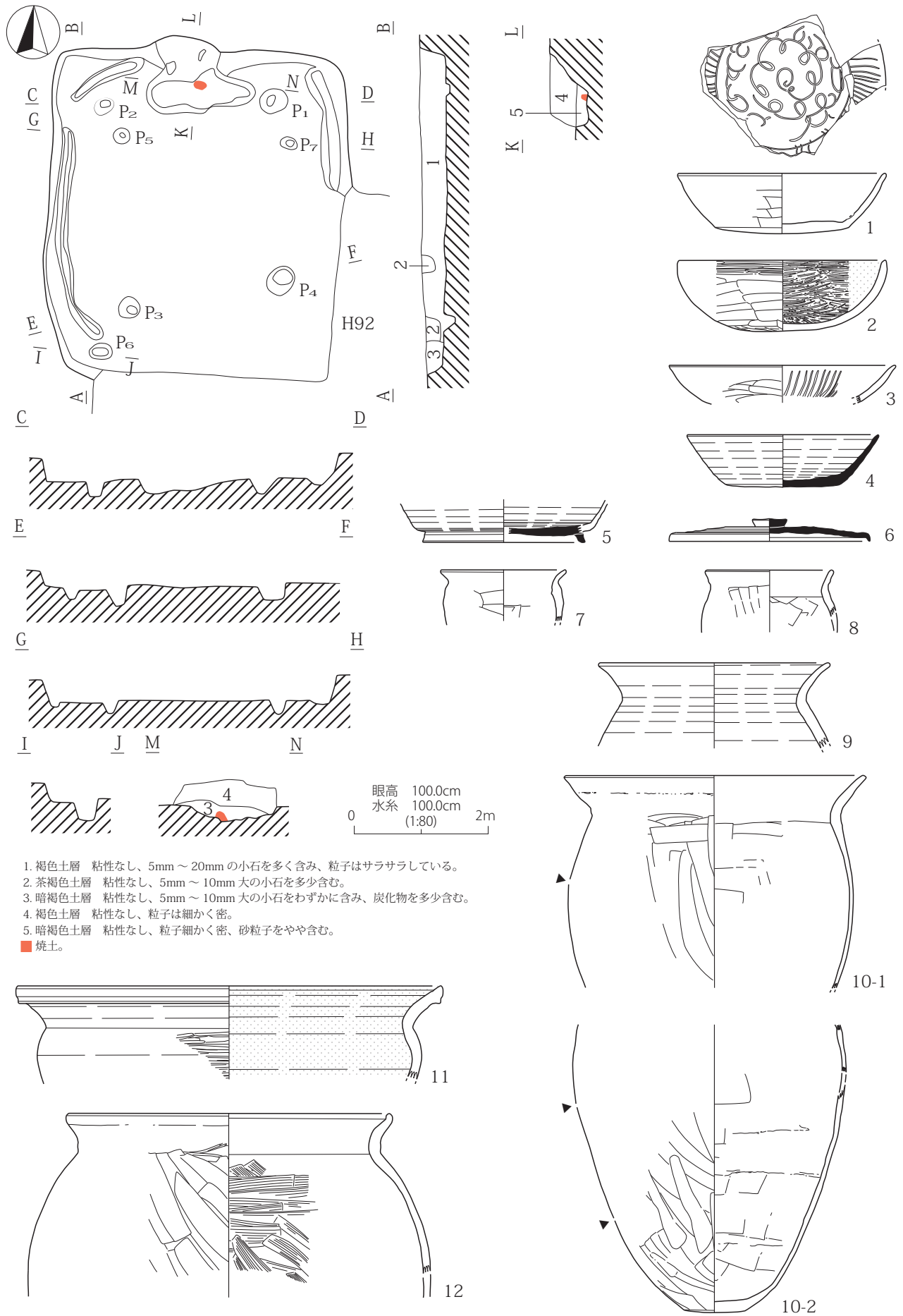
D 3グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長5.12 m、短軸長4.40 m、壁残高0.48 m、面積20.79㎡の規模である。H8、77を切る。カマドは存在しないが、北壁近くのP7周囲に、火床と思われる焼土が存在する。ピットは11基検出されており、P1～P4の4基が支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石器、石製品、鉄塊が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、羽釜、壺、土錘、管玉、砥石、軽石製品、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

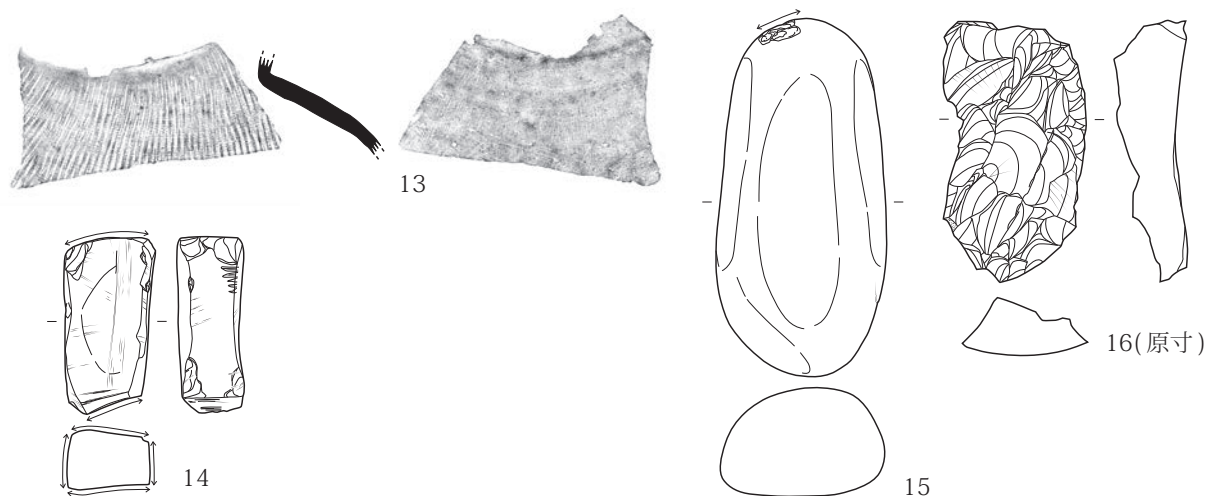
H 79号竪穴建物(第107図)

B 2グリットで検出された。N-6°-Eに主軸方位をとる。不整な方形の平面形状を呈し、長軸長4.80 m、短軸長4.76 m、壁残高0.28 mの規模である。H10、11を切る。判然としないが、北壁中央部分の掘り込





第73図 H50号竪穴建物(1)



第74図 H50号竪穴建物(2)

みがカマドと思われる。ピットは9基検出されているが、支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、甗、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 80号竪穴建物(第108・109図)

D 0グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.88m、短軸長4.32m、壁残高0.32m、面積21.17㎡の規模である。H11、12を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは7基検出されており、均等に配置されるP1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、甗、台石、紡錘車が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 81号竪穴建物(第110図)

E 4グリットで検出された。N-16°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.60m、短軸長4.00m、壁残高0.20mの規模である。H 7、9を切る。北壁中央西寄部分にカマドが構築される。ピットは18基検出されたが支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、土製品、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、羽口、軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 82号竪穴建物(第111図)

F-2グリットで検出された。N-84°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長2.96m、短軸長2.64m、壁残高0.16m、面積8.08㎡の規模である。H12を切る。東壁中央南寄部分にカマドが構築される。ピットは有さない。

遺物は土師器、土製品、鉄器が出土している。器種的には坏、鉢、甕、羽釜、壺、人型土器、芋引金具が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀後半の所産と思われる。

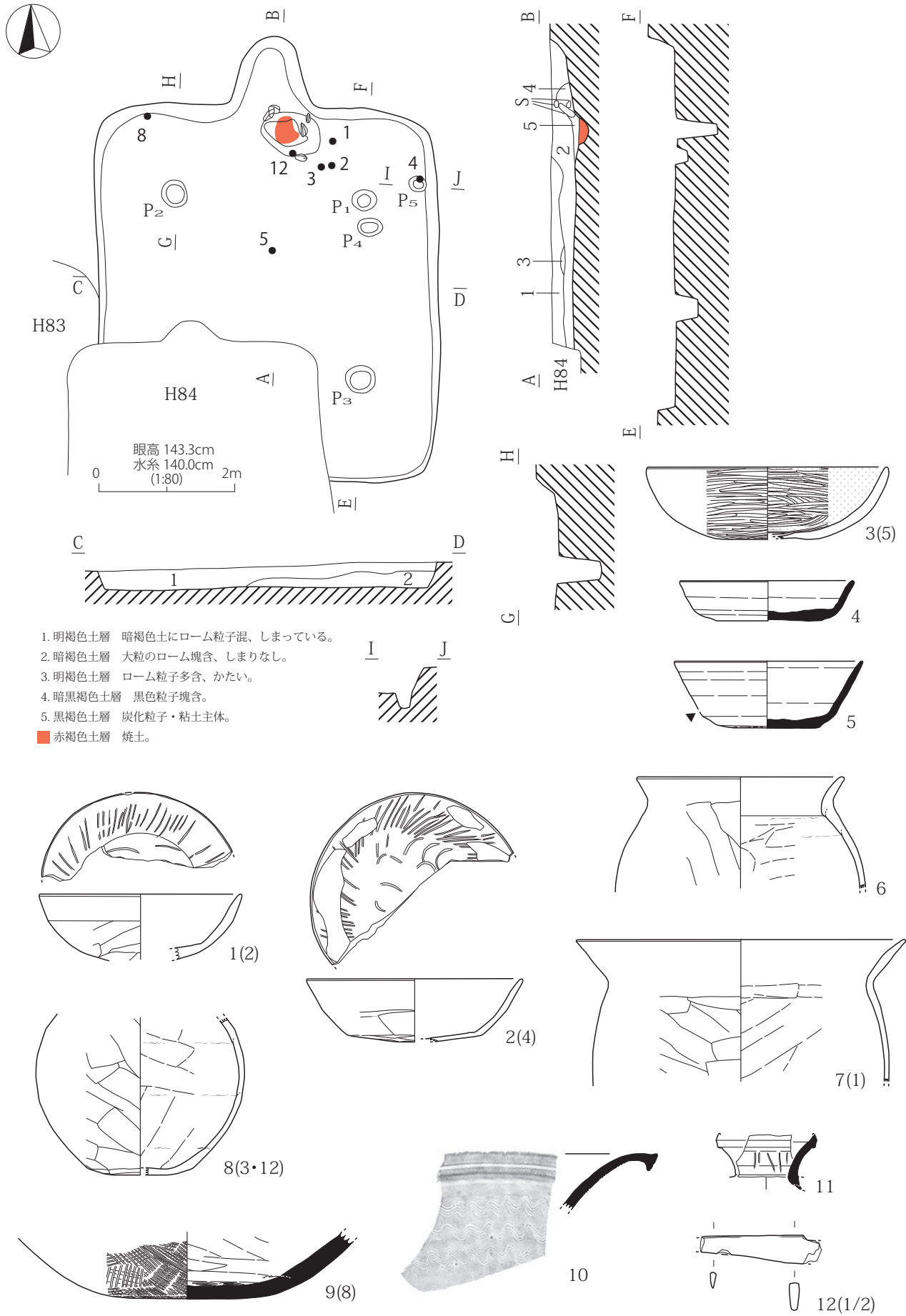
H 83号竪穴建物(第112図)

H 3グリットで検出された。N-33°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長3.64m、短軸長3.36m、壁残高0.32m、面積11.50㎡の規模である。H 9、45、51、84を切る。東南隅部分にカマドが構築される。ピットは3基検出されているが、支柱穴は判然としない。

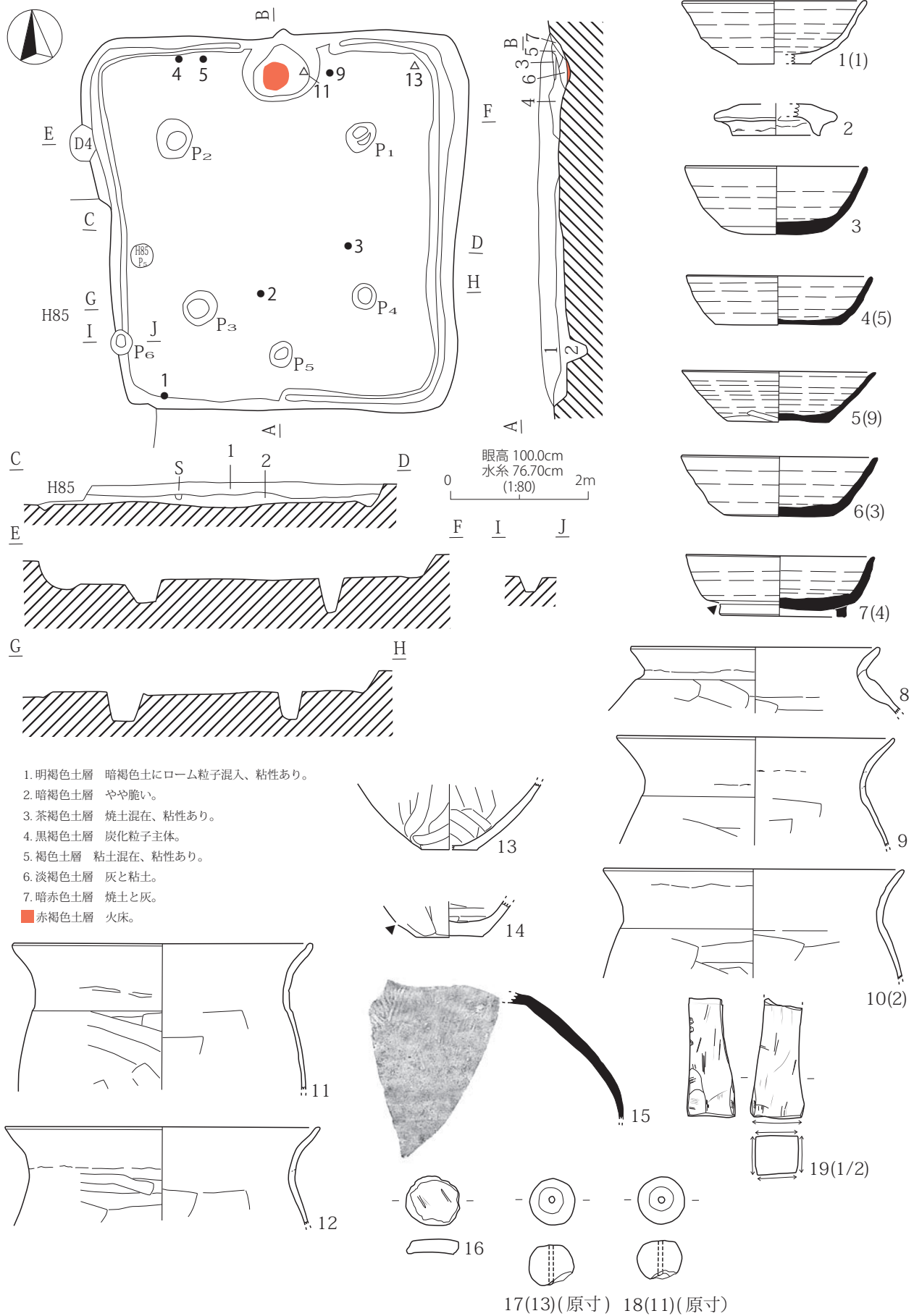
遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、甕、壺、金具が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 84号竪穴建物(第113図)

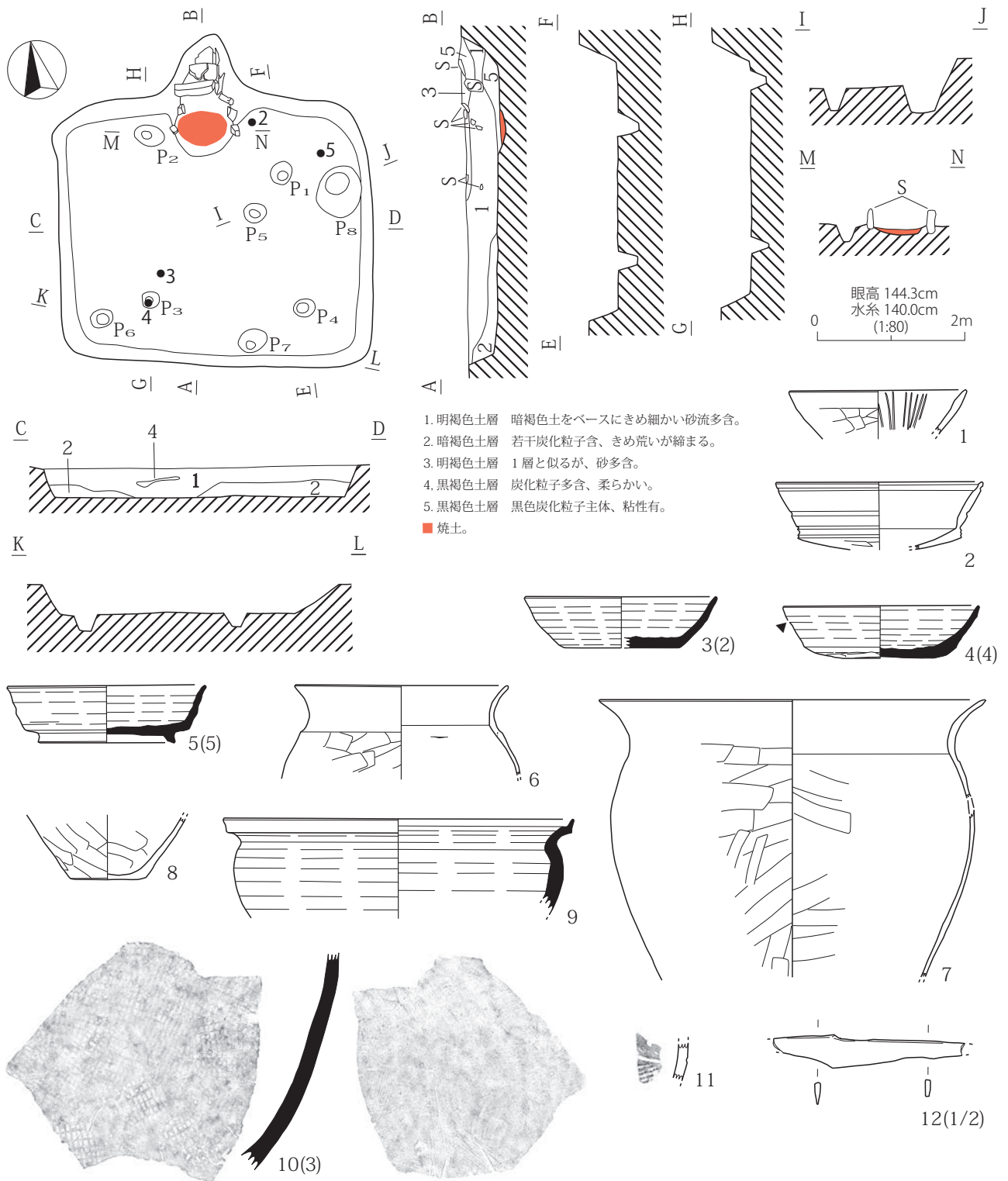
H 2グリットで検出された。N-12°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長3.68m、短軸長3.48m、壁残高0.40m、面積11.93㎡の規模である。H45、51を切り、H83に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは3基検出されているが、支柱穴は判然としない。



第75図 H51号竪穴建物



第76図 H52号竪穴建物



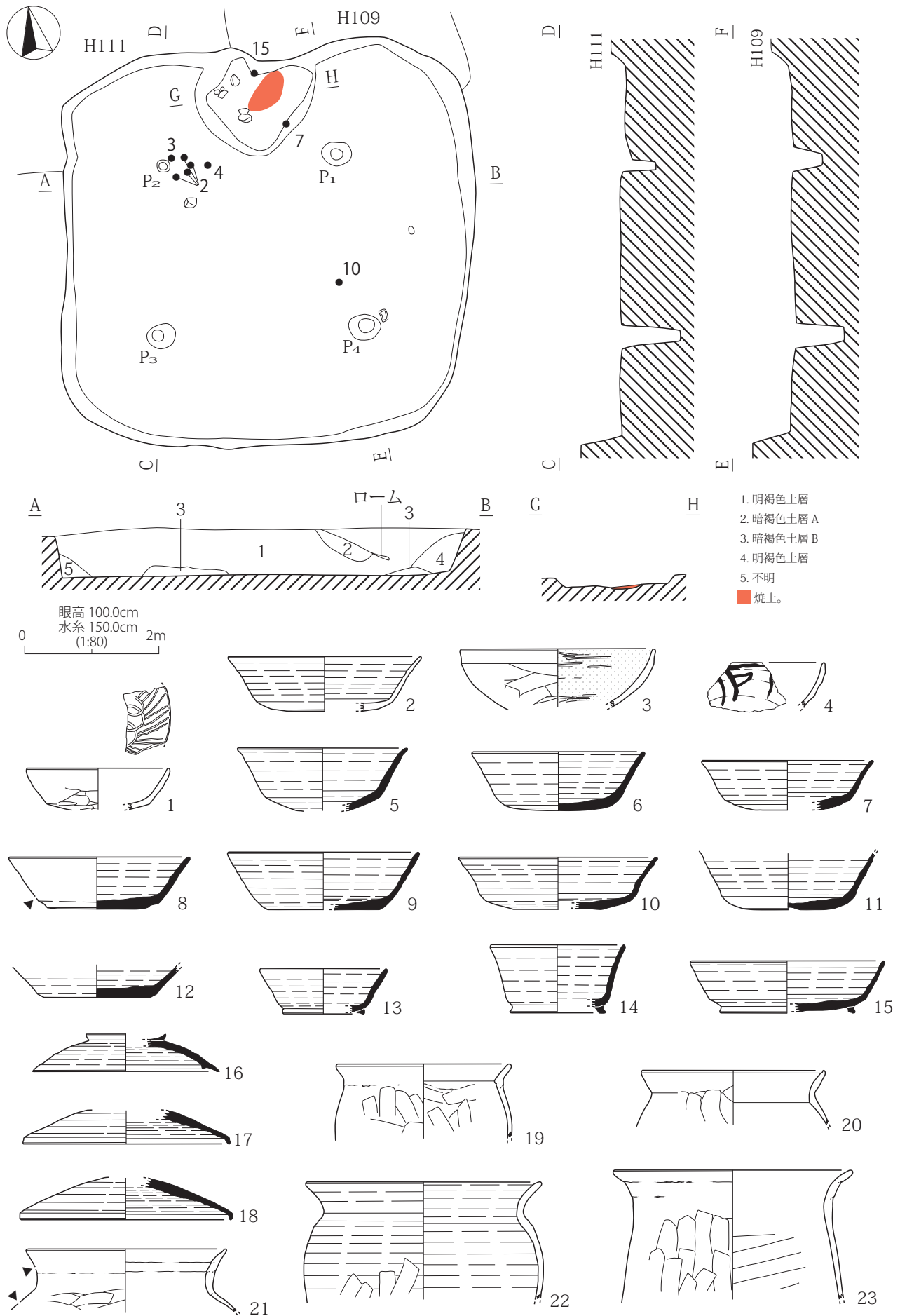
第77図 H53号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

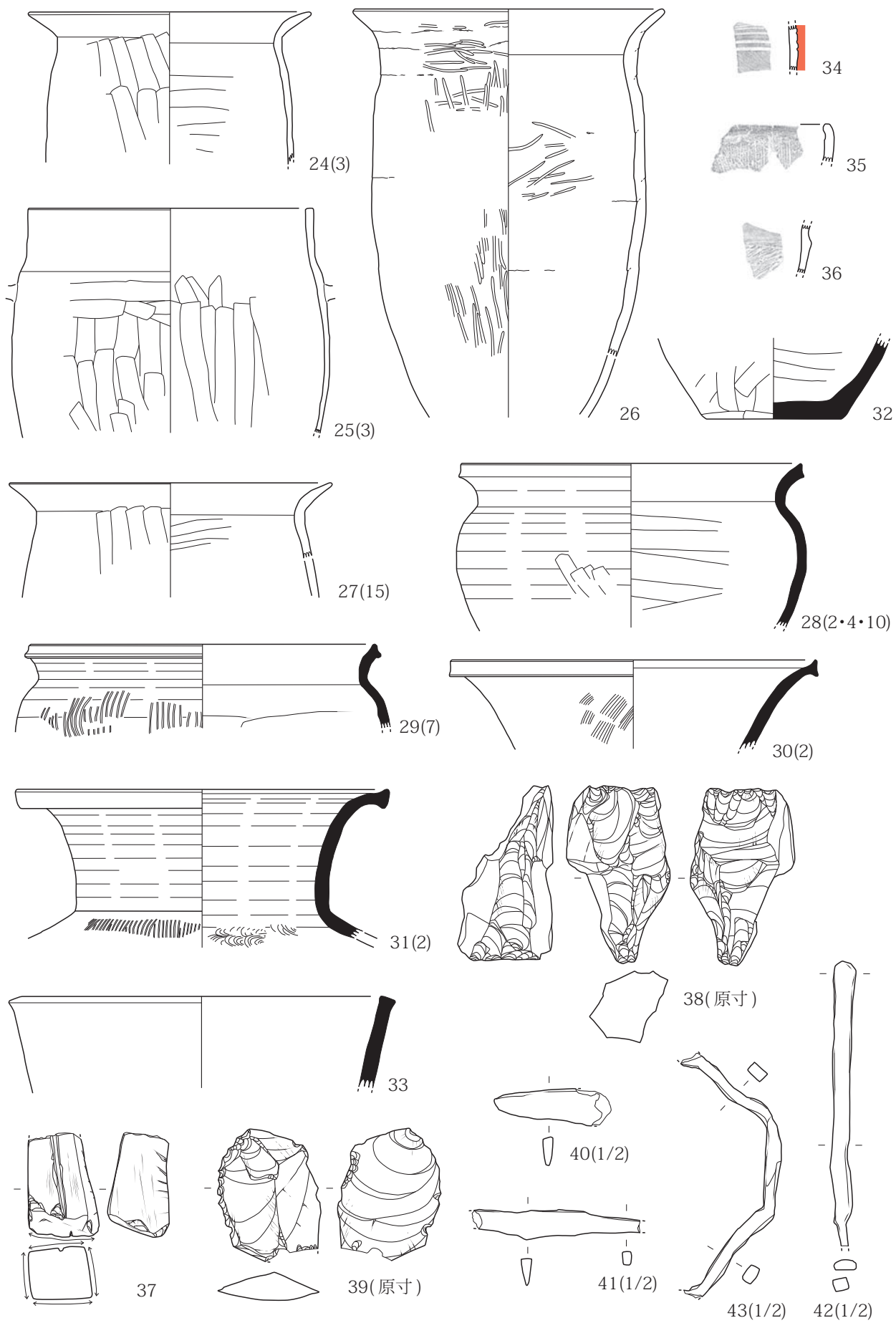
H 85号竪穴建物(第114・115図)

H0グリッドで検出された。N-6°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.20m、短軸長4.32m、壁残高0.30m、面積21.12㎡の規模である。H22、47、52を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは6基検出されており、均等に配置されるP1～P4の4基のピットが主柱穴である。南壁中央下に構築されるP6は出入口施設と思われる。

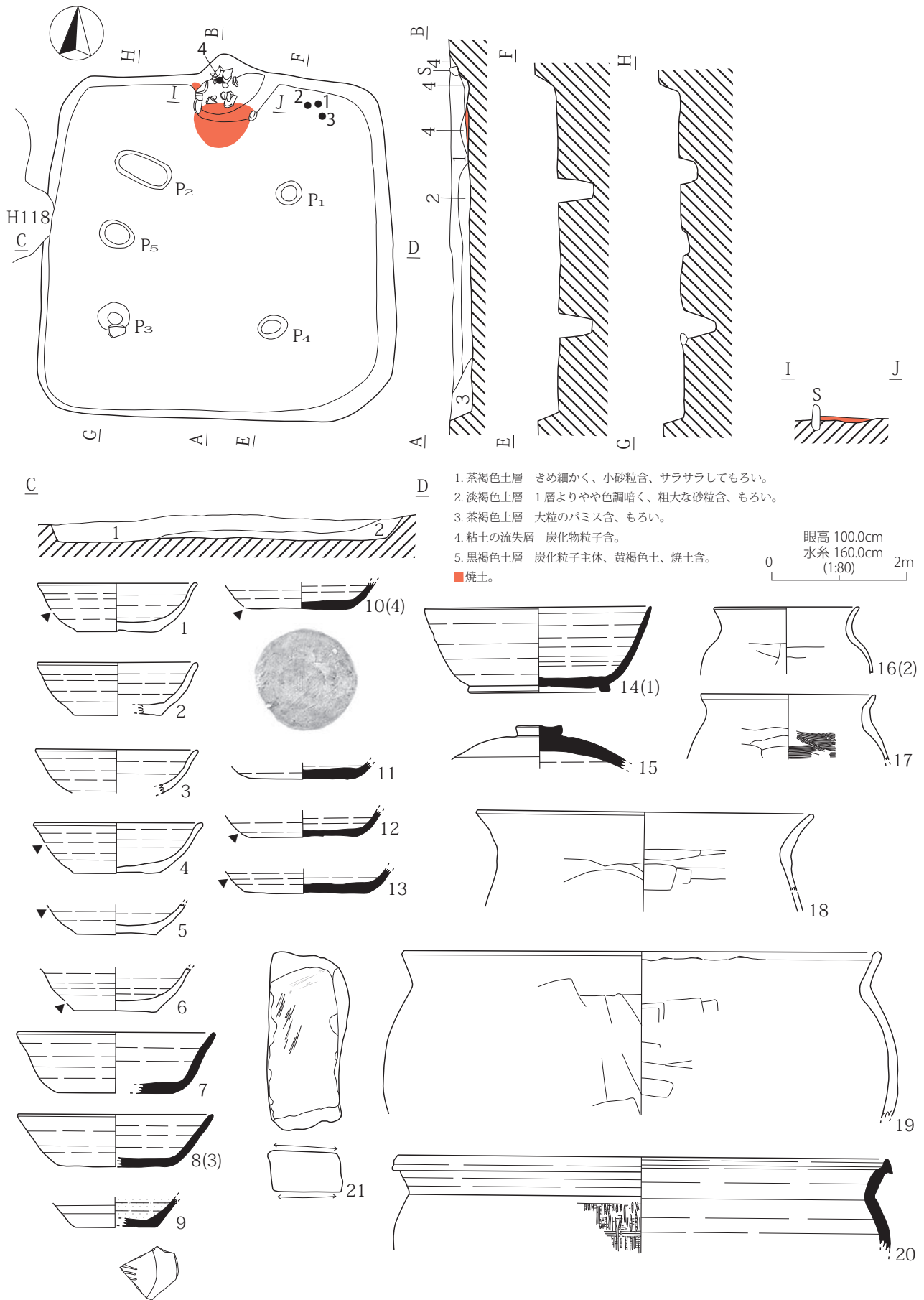
遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、坏蓋、甕、壺、編物石、



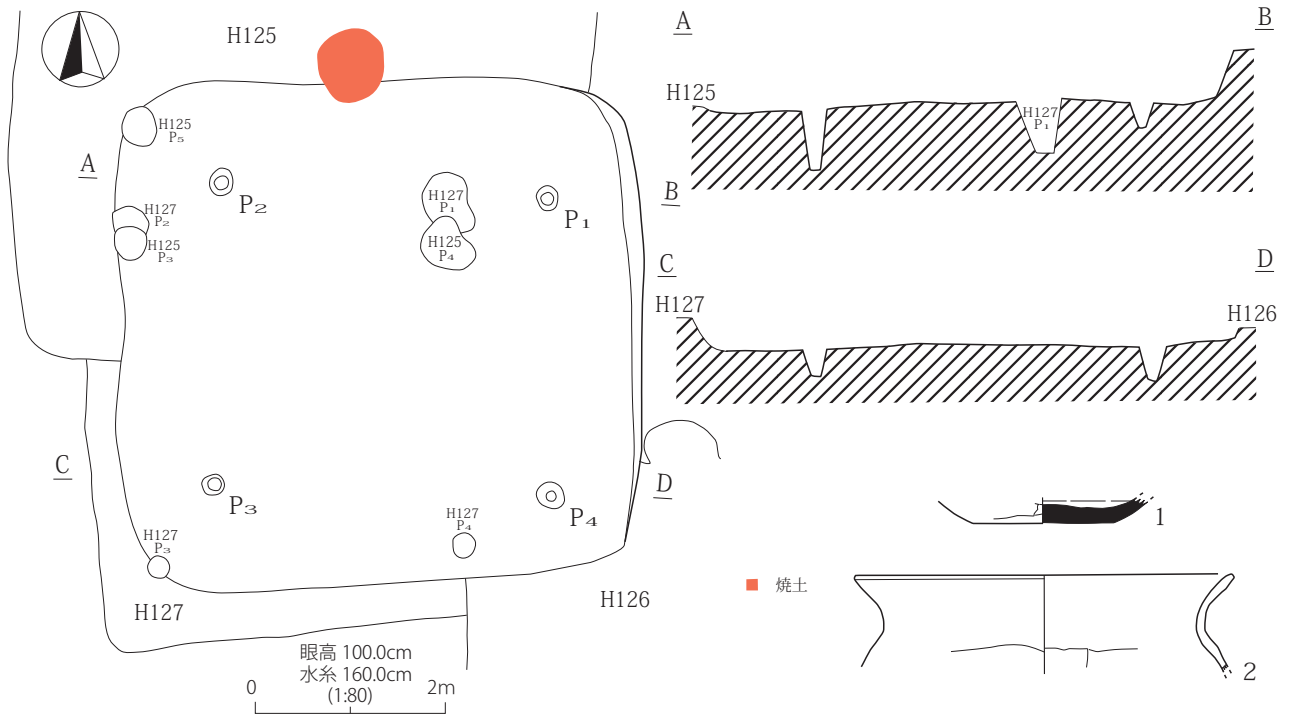
第 78 図 H54 号竪穴建物 (1)



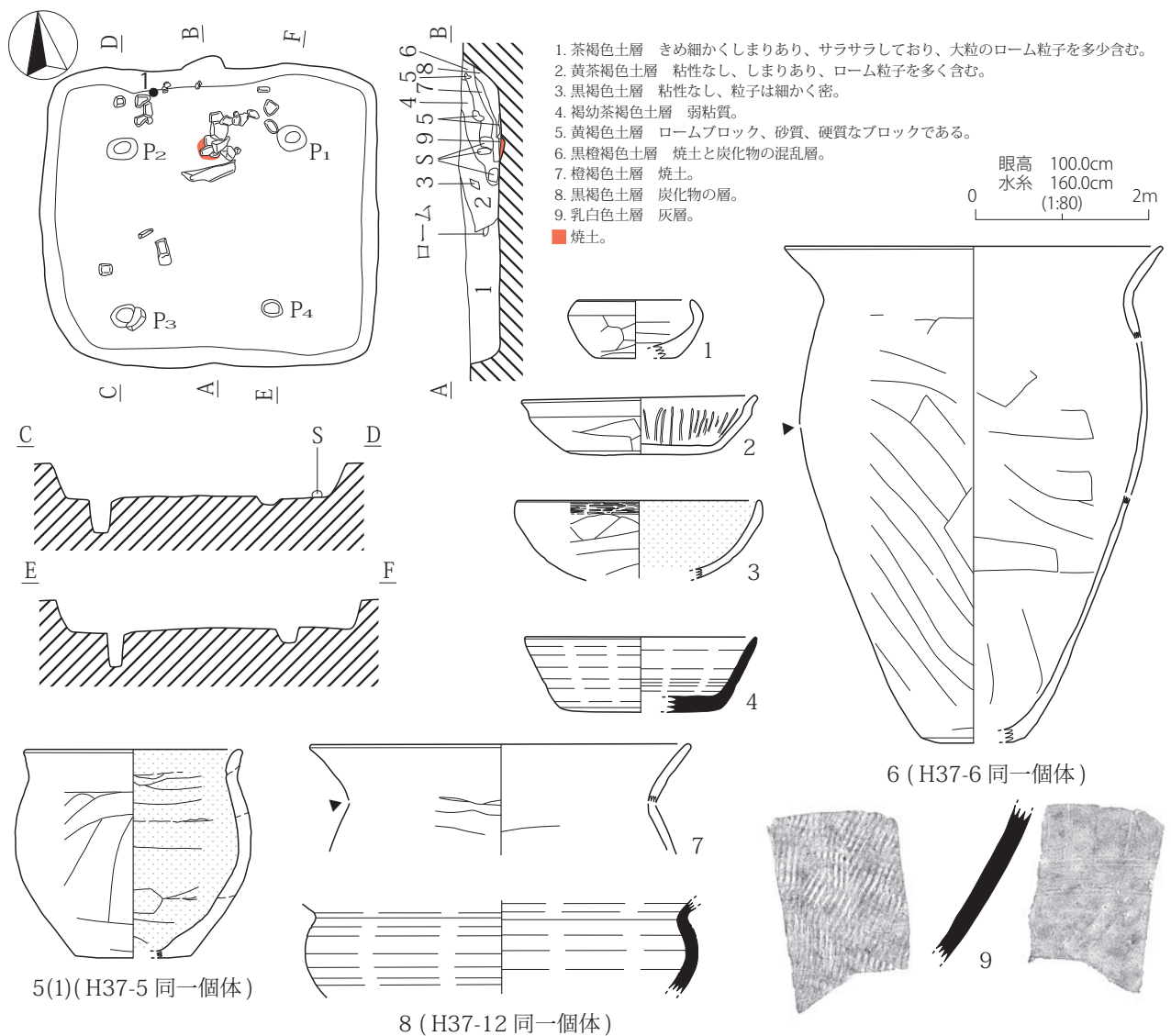
第79图 H54号竖穴建物(2)



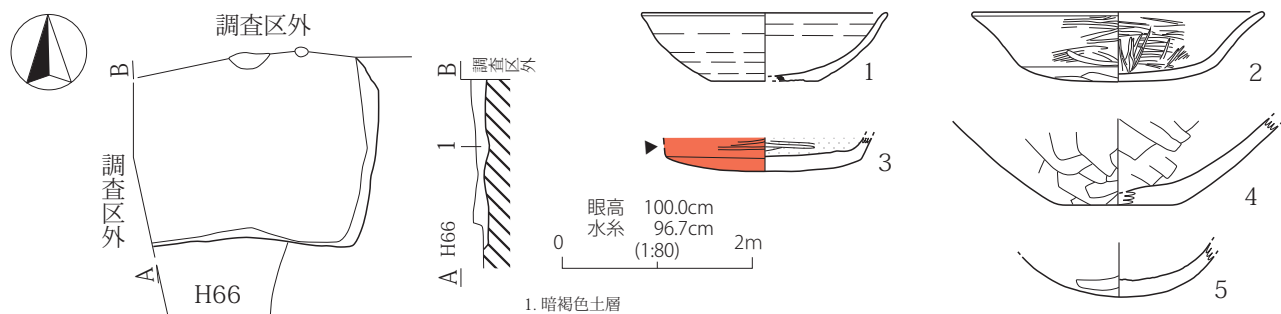
第 80 図 H55 号竪穴建物



第 81 図 H56 号竪穴建物



第 82 図 H57 号竪穴建物



第 83 図 H58 号竪穴建物

鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

H 86 号竪穴建物 (第 116 図)

J 2 グリットで検出された。N-12°-W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.04 m、短軸長 3.76 m、壁残高 0.32 m、面積 14.51㎡の規模である。H22、23、45 を切り、H87 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 5 基検出されており、P3、P4 の 2 基のピットは支柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、鉢、甕、壺、砥石、石核が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 II 四半期の所産と思われる。

H 87 号竪穴建物 (第 117・118 図)

J 3 グリットで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.92 m、短軸長 3.80 m、壁残高 0.40 m、面積 13.63㎡の規模である。H45、46、86 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 4 基検出されたが支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、紡錘車、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 88 号竪穴建物 (第 119・120 図)

J-1 グリットで検出された。N-9°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.88 m、短軸長 3.36 m、壁残高 0.36 m、面積 12.20㎡の規模である。H47 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 5 基検出されており、均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、鉢、甕、壺、鉄鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

H 89 号竪穴建物 (第 121 図)

L 4 グリットで検出された。N-10°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.68 m、短軸長 3.44 m、壁残高 0.24 m、面積 10.71㎡の規模である。H44 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは有さないが、出入口施設と思われる礎石が 2 基配置される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 III 四半期の所産と思われる。

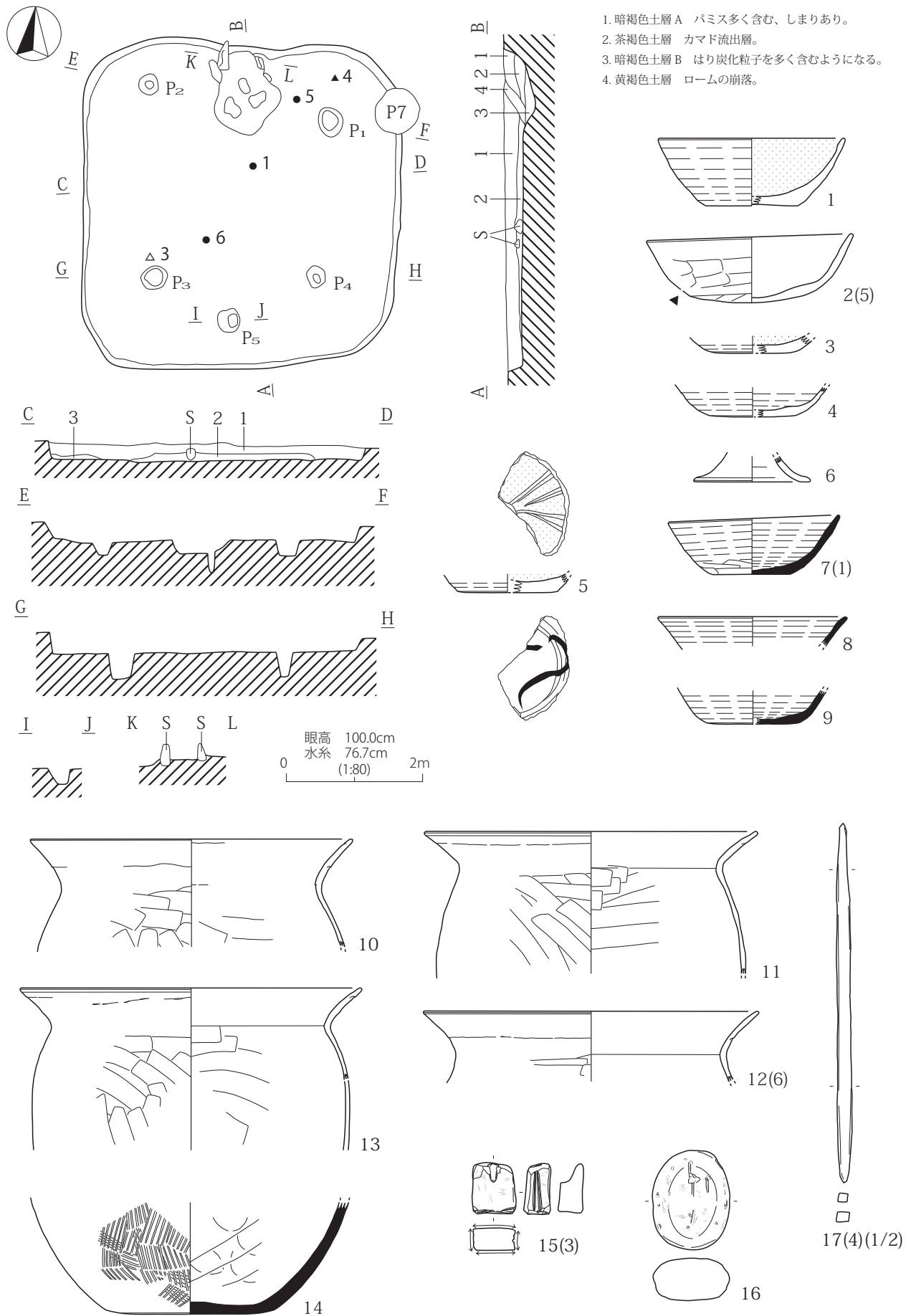
H 90 号竪穴建物 (第 122 図)

N 1 グリットで検出された。N-28°-W に主軸方位をとる。調査区外に延びるため全様は不明である。壁残高 0.12 m の規模である。H91 を切る。中央部分に焼土が存在する。ピットは 4 基検出されたが、支柱穴は判然としない。

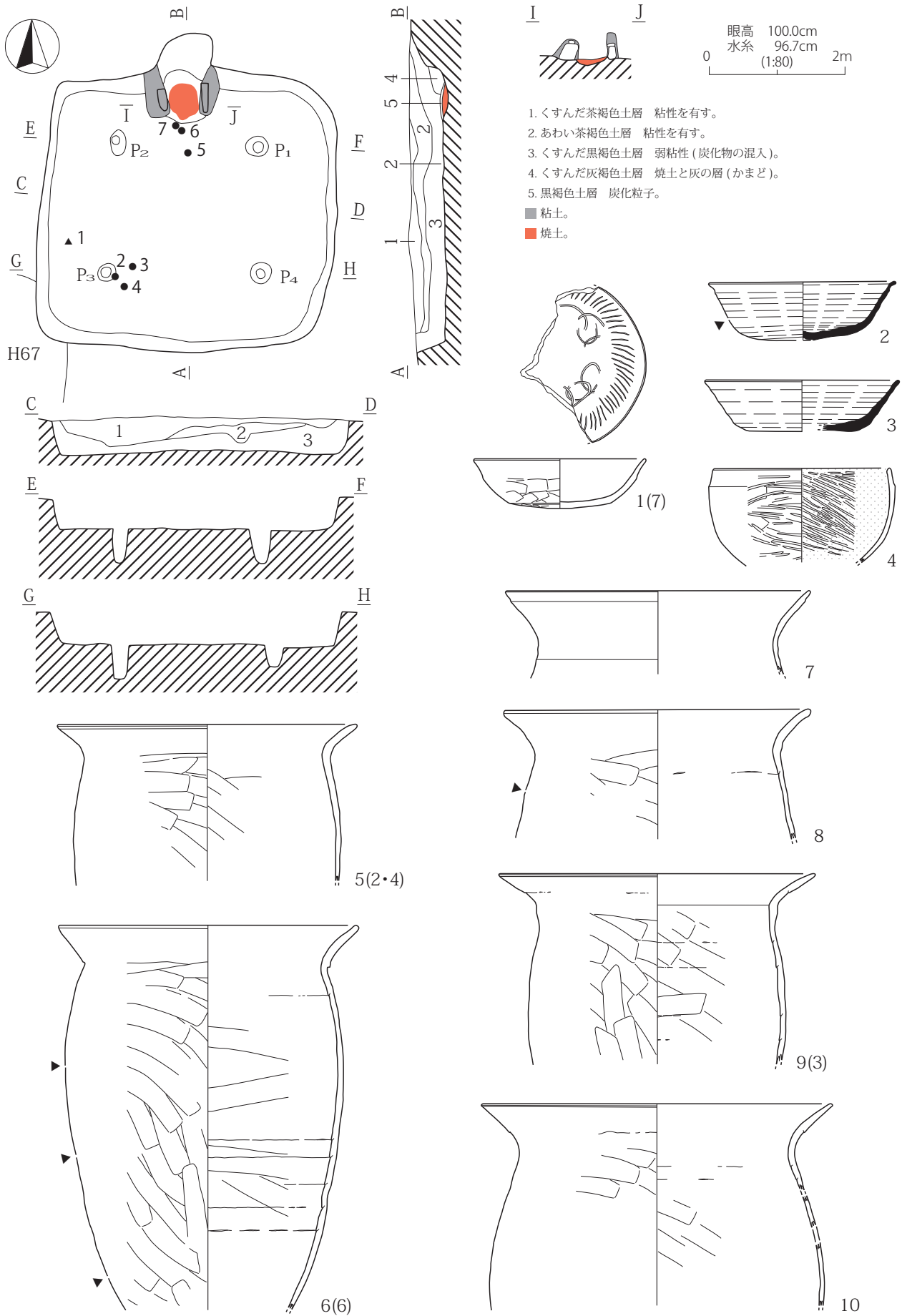
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、土製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 91 号竪穴建物 (第 123 図)

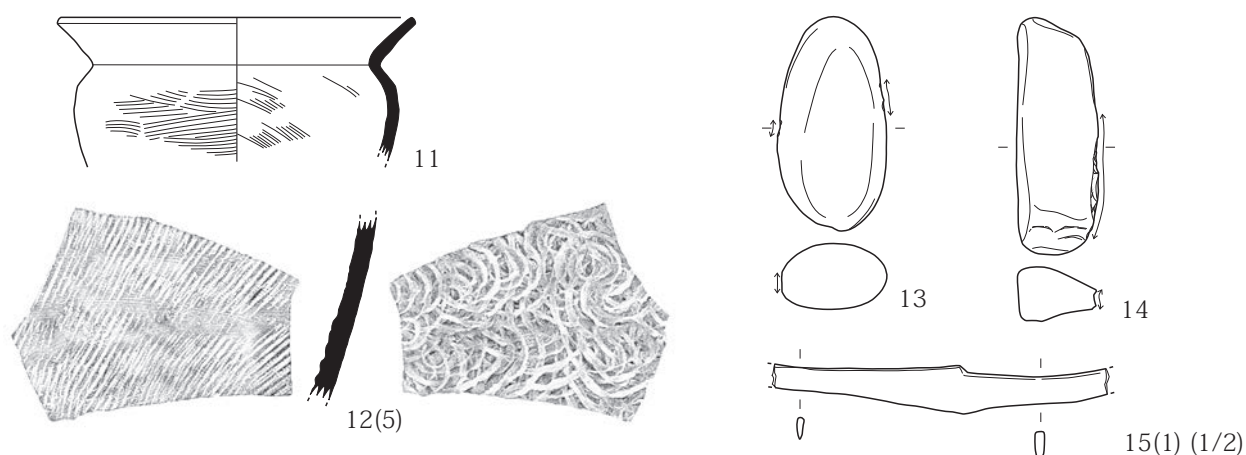
N 2 グリットで検出された。N-25°-E に主軸方位をとる。調査区外に延びるため全様は不明である。壁残高 0.16 m の規模である。H90 に切られる。北壁中央と思われる部分にカマドが構築される。ピットは



第 84 図 H59 号竪穴建物



第 85 図 H60 号竪穴建物 (1)



第86図 H60号竪穴建物(2)

1基検出された。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 92号竪穴建物(第124・125図)

D 10グリットで検出された。N-10°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.68m、短軸長4.96m、壁残高0.32m、面積24.88㎡の規模である。H50を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは有さない。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。床面上には多量の炭化材が散乱しており、本址は焼失遺構と考えられる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、石器、石製品、鉄器、鉄製品、銅製品が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、皿、甕、砥石、石製模造品、磨石、敲石、石錐、刀子、鉄鏝、銅碗が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 93号竪穴建物(第126図)

F 11グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長約4.96m、短軸長約4.68m、壁残高0.24mの規模である。H92、94に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。3基検出されたピットは主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、横瓶、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 94号竪穴建物(第127・128図)

D 11グリットで検出された。N-6°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.48m、短軸長4.96m、壁残高0.44m、面積22.99㎡の規模である。H93、97、99を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。3基検出されたピットは主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、編物石、刀子、角釘が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

H 95号竪穴建物(第129図)

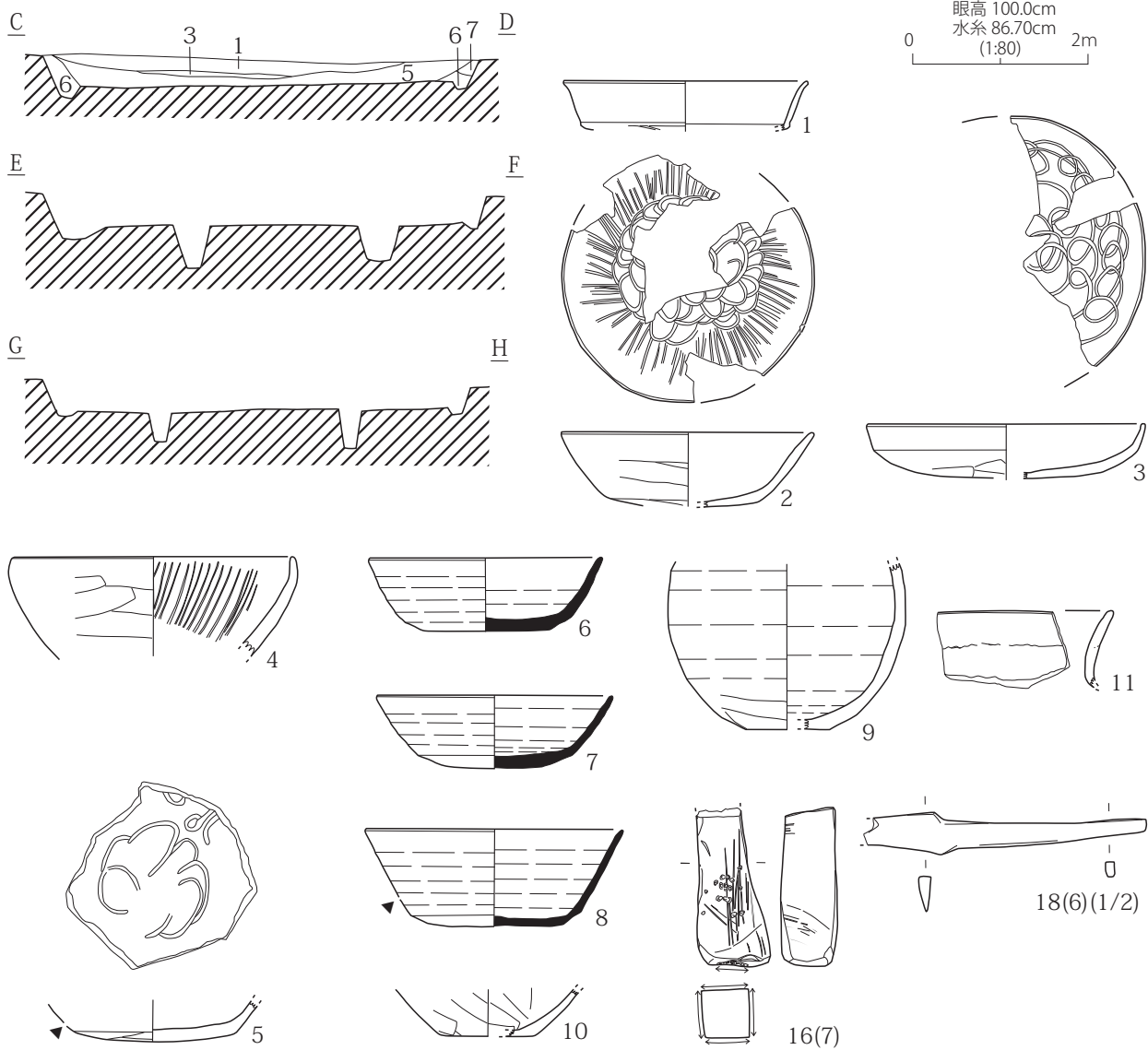
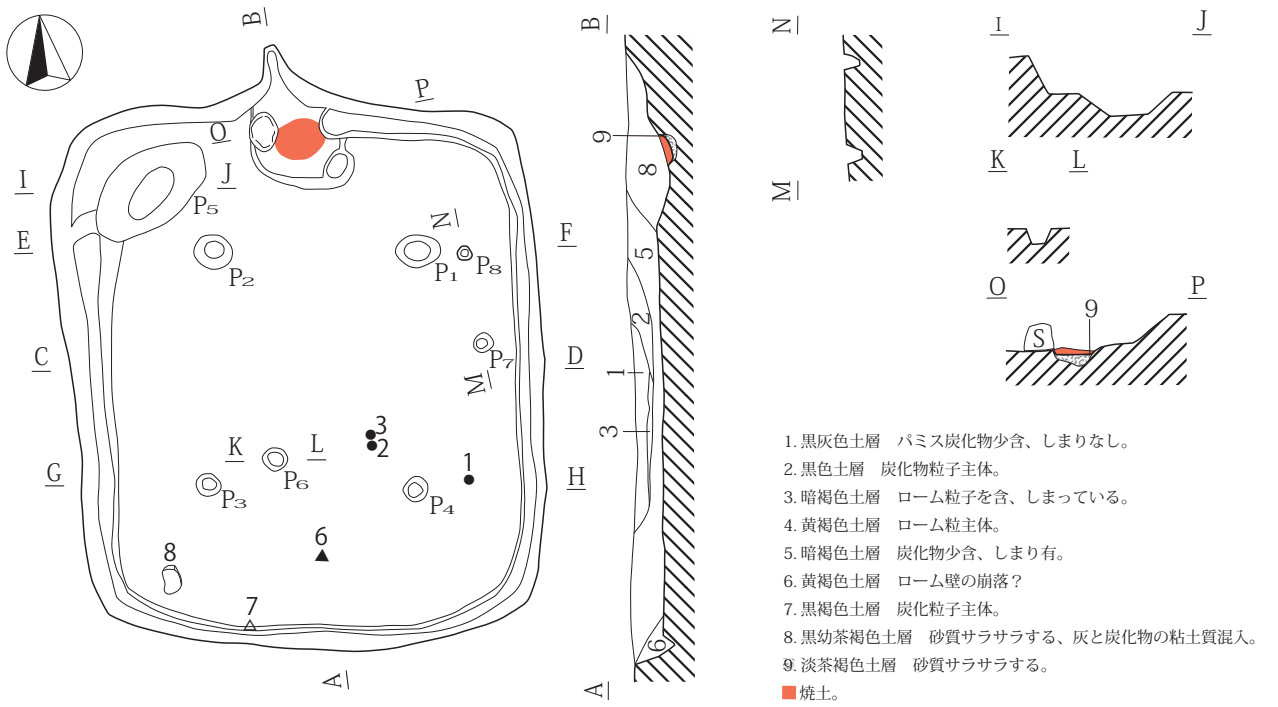
F 9グリットで検出された。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。壁残高0.40mの規模である。H93、94、99に切られる。ピットは3基検出されているが主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、壺、白玉、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と思われる。

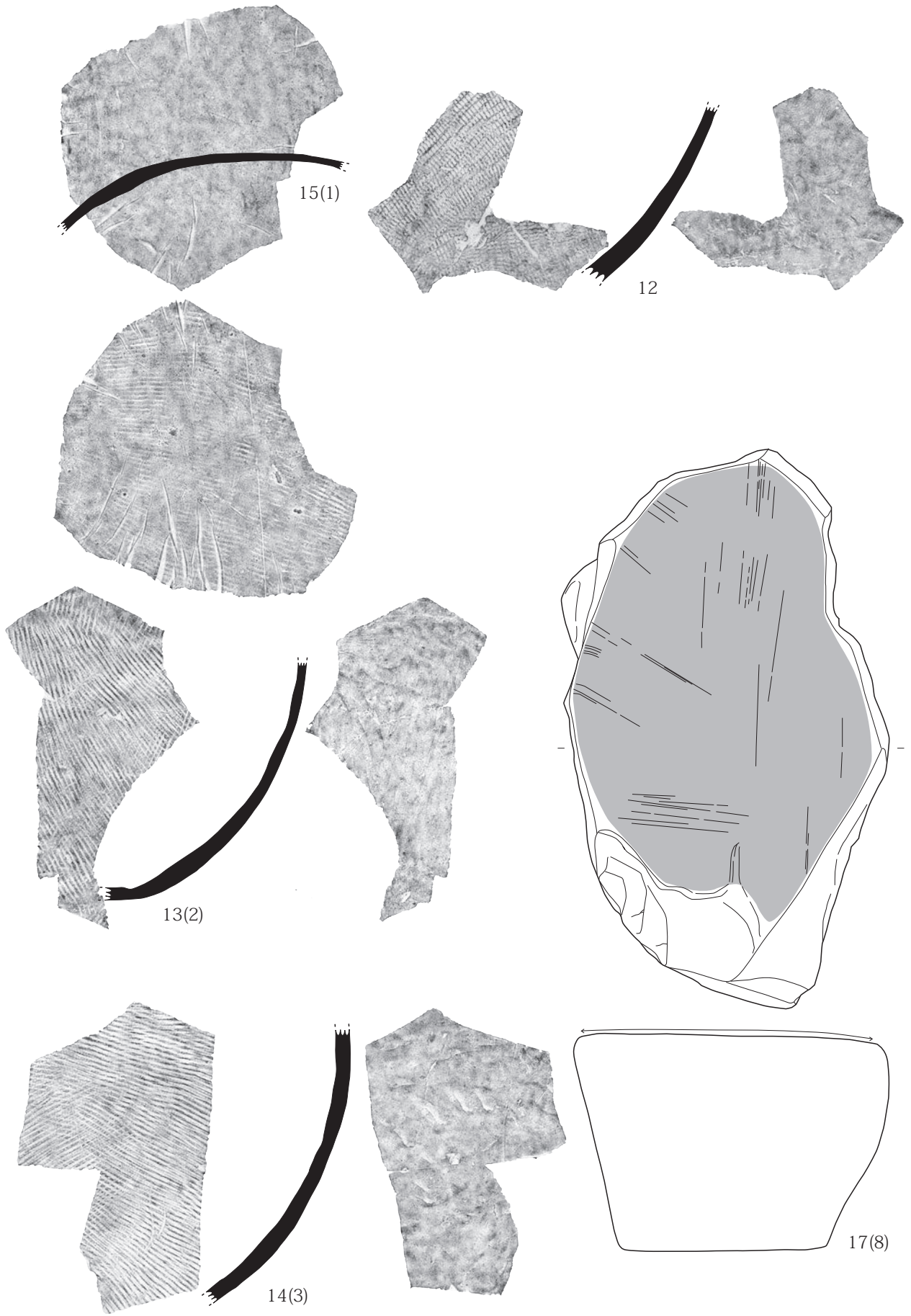
H 96号竪穴建物(第130図)

G 13グリットで検出された。調査区外に延びるため全容、規模等は不明である。H97を切る。ピット等の付属施設は判然としない。

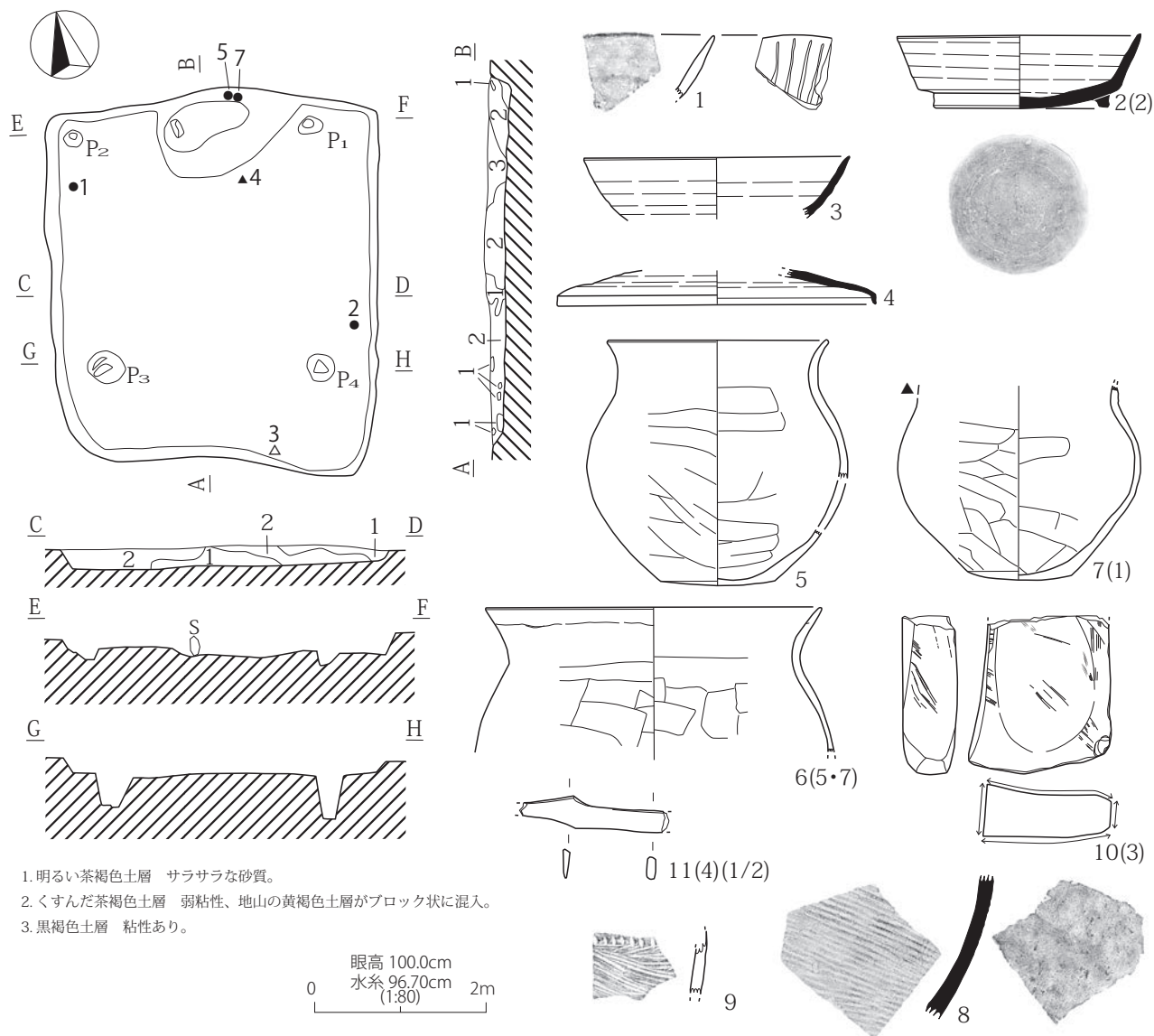
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には碗、有台坏、甕、壺が認められる。出土遺



第 87 図 H61 号竪穴建物 (1)



第 88 图 H61 号竖穴建物 (2)



第 89 図 H62 号竪穴建物

物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

H 97 号竪穴建物 (第 131 図)

G 12 グリットで検出された。壁残高 0.16 m の規模である。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。H94、96、98 に切られる。3 基検出されたピットのうち P1、P2 の 2 基は支柱穴である。カマドは東壁の中央南寄りに構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、高坏、甕、甑が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

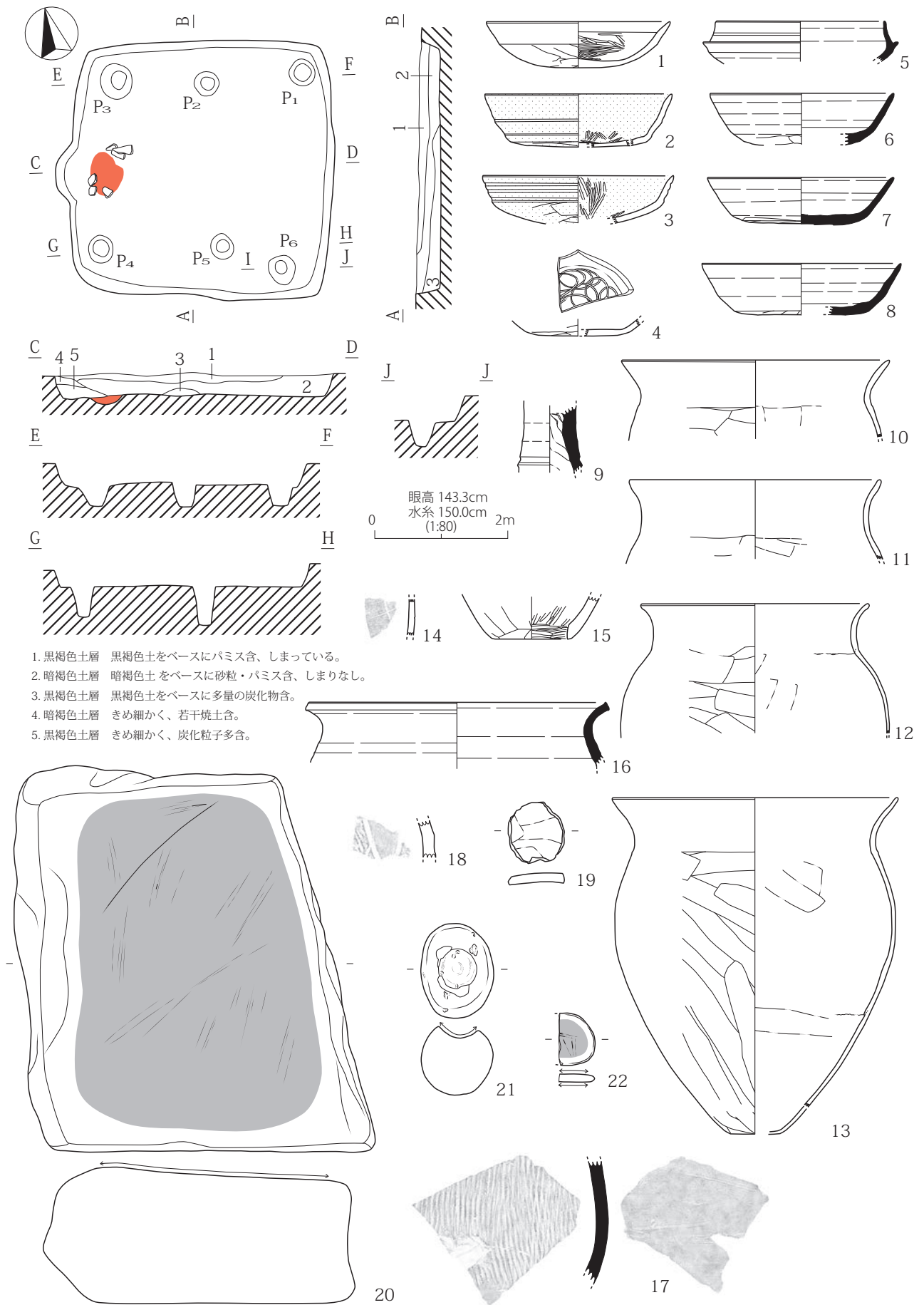
H 98 号竪穴建物 (第 132 図)

H 12 グリットで検出された。壁残高 0.40 m の規模である。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。H97 を切り、H101 に切られる。3 基検出されたピットは支柱穴と思われる。北壁中央部分がカマドと思われるが判然としない。

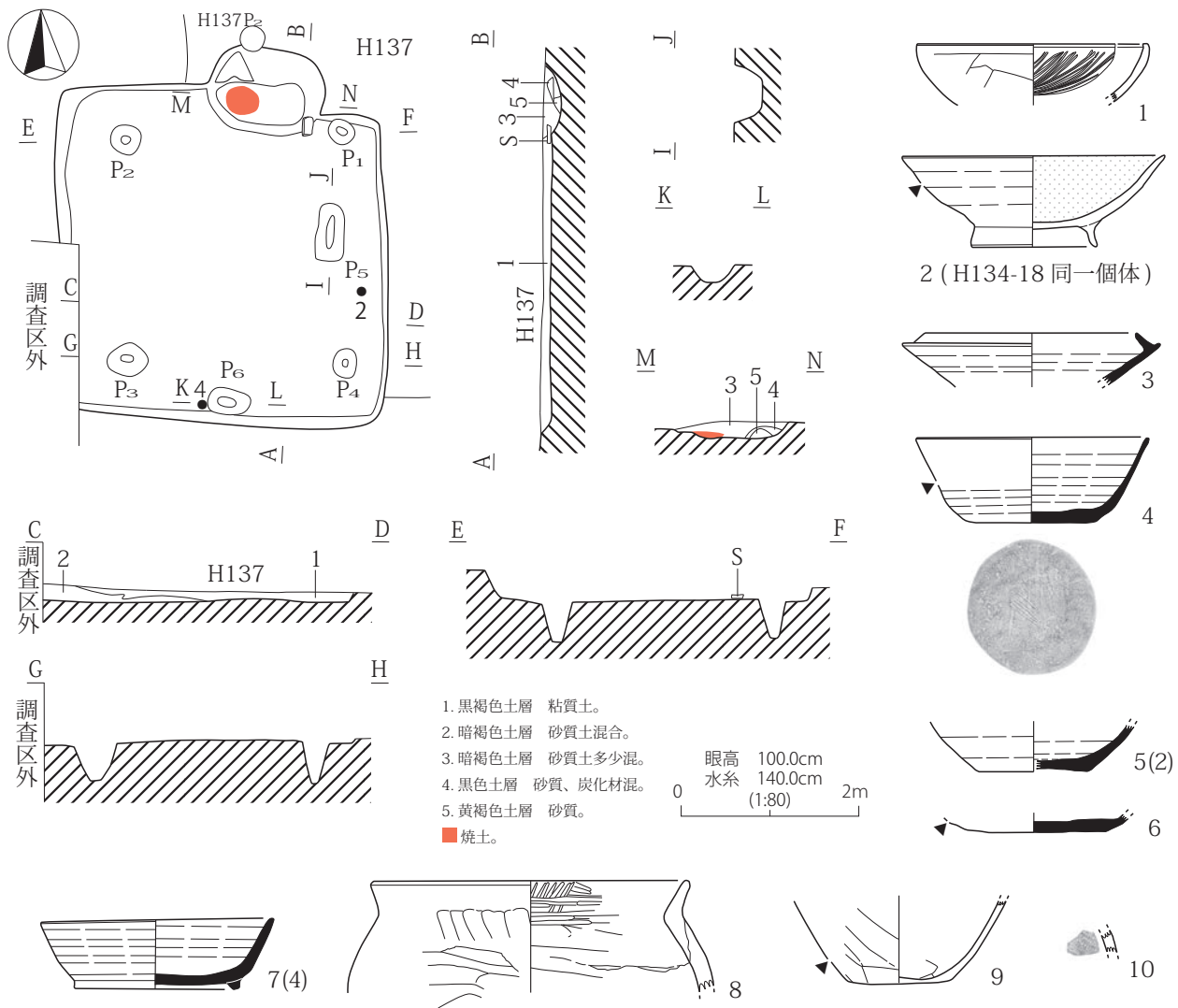
遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

H 99 号竪穴建物 (第 133 図)

H 10 グリットで検出された。長軸長約 4.96 m、短軸長約 4.72 m、壁残高 0.40 m の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H93、95 を切り、H94、100、101 に切られる。ピットは 10 基検出されているが支柱穴は判然としない。調査範囲内にはカマドは存在しない。



第90図 H63号竪穴建物



第 91 図 H64 号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、緑釉陶器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。本址の所産期は不明である。

H 100 号竪穴建物 (第 134 図)

H 9 グリットで検出された。N-53°-W に主軸方位をとる。長軸長約 3.40 m、短軸長約 2.48 m、壁残高 0.24 m の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H99、101 を切る。ピットは有さない。カマドは東壁中央南寄りに構築される。

遺物は土師器、灰釉陶器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、皿、高坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

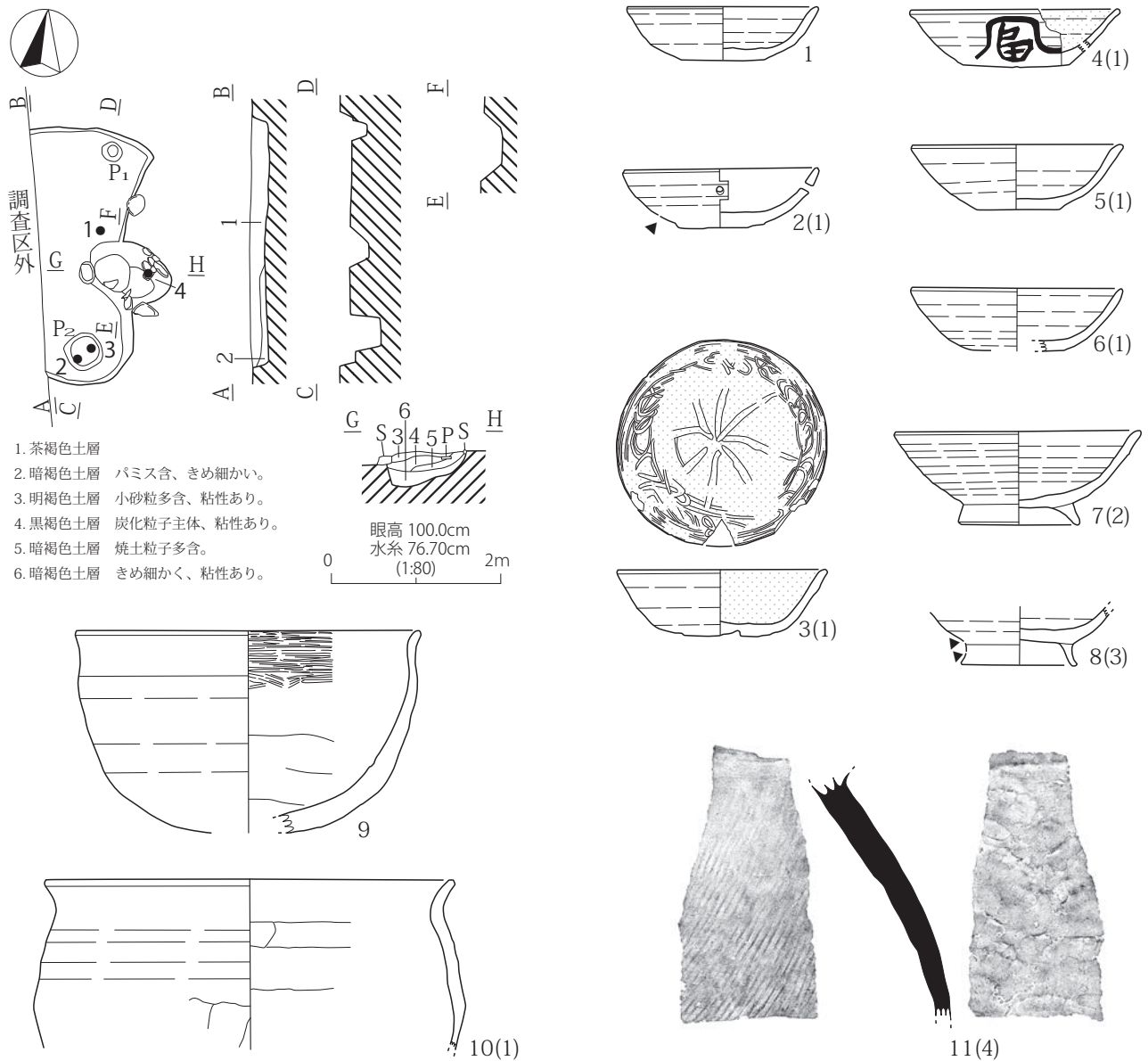
H 101 号竪穴建物 (第 135 図)

I 11 グリットで検出された。N-4°-E に長軸方位をとる。長軸長 5.16 m、短軸長 5.00 m、壁残高 0.50 m、面積約 25.14m² の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H99 を切り、H98、100 に切られる。6 基検出されたピットのうち、均等に配置される P1~P4 の 4 基が支柱穴である。カマドは残存していなかった。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、砥石、石製模造品、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

H 102 号竪穴建物 (第 136 図)

I 14 グリットで検出された。N-40°-W に長軸方位をとる。長軸長 4.84 m、短軸長 3.84 m、壁残高 0.30 m、面積約 16.74m² の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H103 を切る。ピットは 3 基検出された



第 92 図 H66 号竪穴建物

が、支柱穴は判然としない。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、甕、砥石、長頸鍬、絞具が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀後半の所産と思われる。

H 103 号竪穴建物 (第 137・138 図)

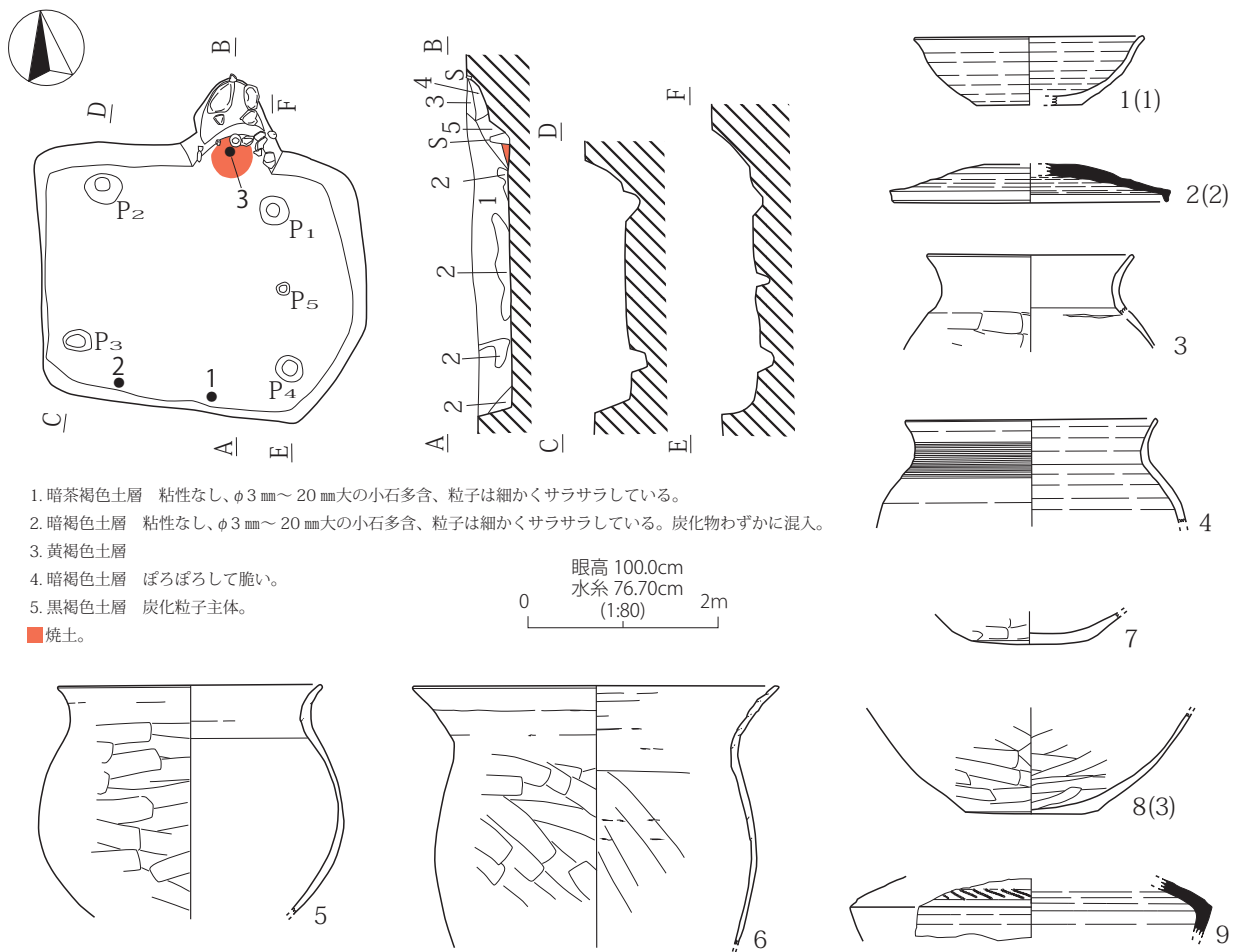
I 14 グリットで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。長軸長 7.88 m、短軸長 7.76 m、壁残高 0.60 m の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H102 に切られる。ピットは 9 基検出されたが、均等に配置される P1 ~ P4 が支柱穴である。カマドは北壁中央部分に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、弥生土器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、碗、甕、鉢、壺、打製石斧、編物石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 104 号竪穴建物 (第 139 図)

J 22 グリットで検出された。N-82°-W に主軸方位をとる。長軸長 3.80 m、短軸長 3.20 m、壁残高 0.32 m、面積約 12.16㎡ の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H25、105 を切る。ピットは 5 基検出されたが支柱穴は判然としない。カマドは東南隅に構築される。

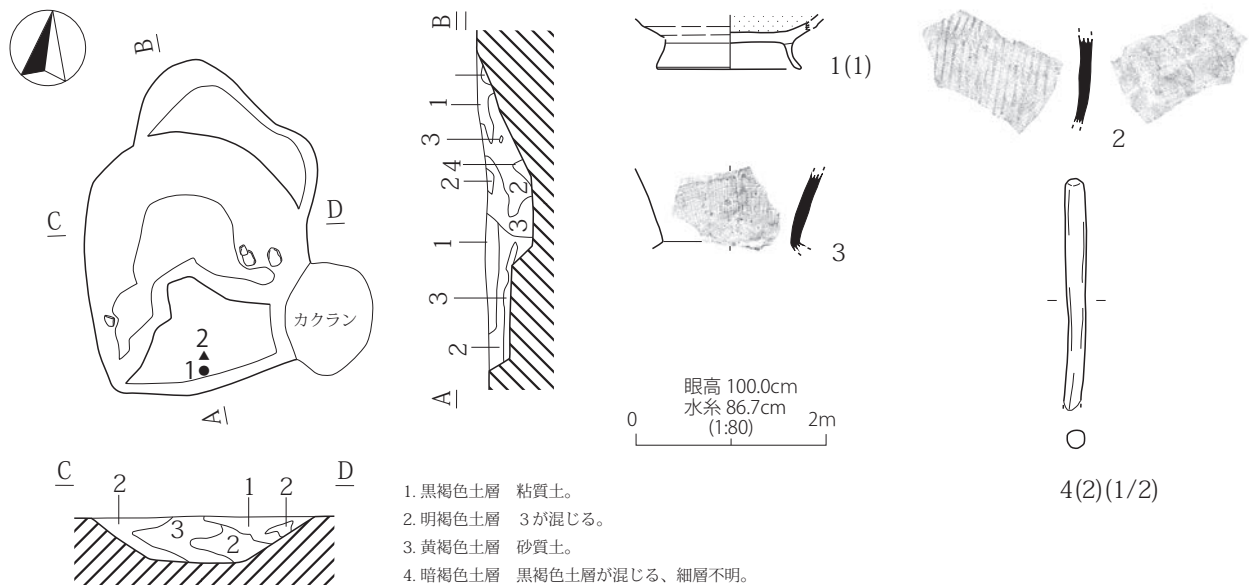
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、甕、壺が認められる。出



1. 暗茶褐色土層 粘性なし、φ3mm～20mm大の小石多含、粒子は細かくサラサラしている。
 2. 暗褐色土層 粘性なし、φ3mm～20mm大の小石多含、粒子は細かくサラサラしている。炭化物わずかに混入。
 3. 黄褐色土層
 4. 暗褐色土層 ぼろぼろして脆い。
 5. 黒褐色土層 炭化粒子主体。
- 焼土。

眼高 100.0cm
水糸 76.70cm
(1:80) 2m

第 93 図 H67 号竪穴建物



1. 黒褐色土層 粘質土。
2. 明褐色土層 3が混じる。
3. 黄褐色土層 砂質土。
4. 暗褐色土層 黒褐色土層が混じる、細層不明。

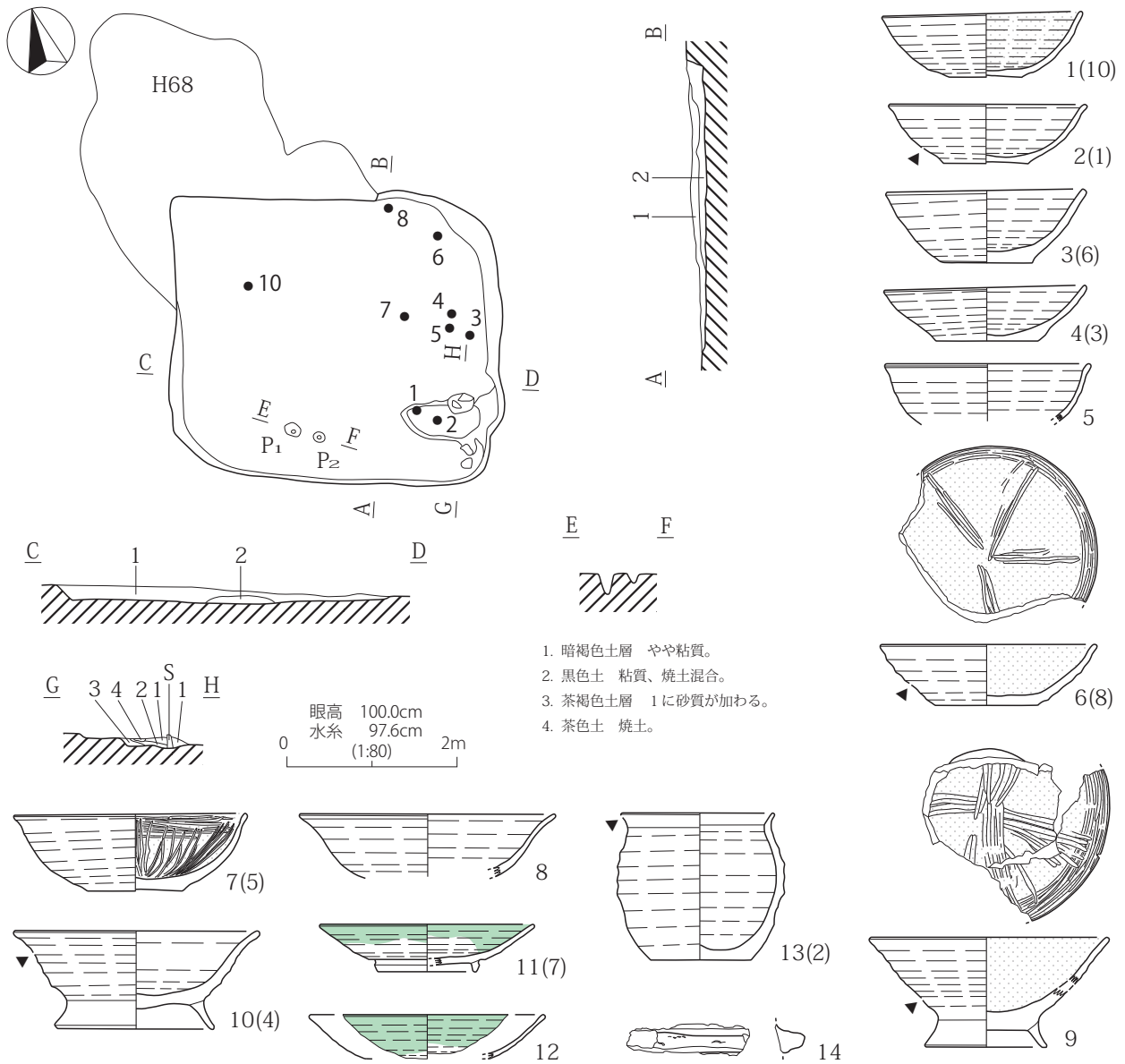
眼高 100.0cm
水糸 86.7cm
(1:80) 2m

第 94 図 H68 号竪穴建物

土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 105 号竪穴建物 (第 140・141 図)

K 22 グリットで検出された。壁残高 0.24 m の規模である。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。H25、26 を切り、H 104 に切られる。ピットは 8 基検出されたが主柱穴は判然としない。調



第95図 H69号竪穴建物

査範囲にはカマド存在しなかった。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、磨・敲石、石核が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 106号竪穴建物(第142図)

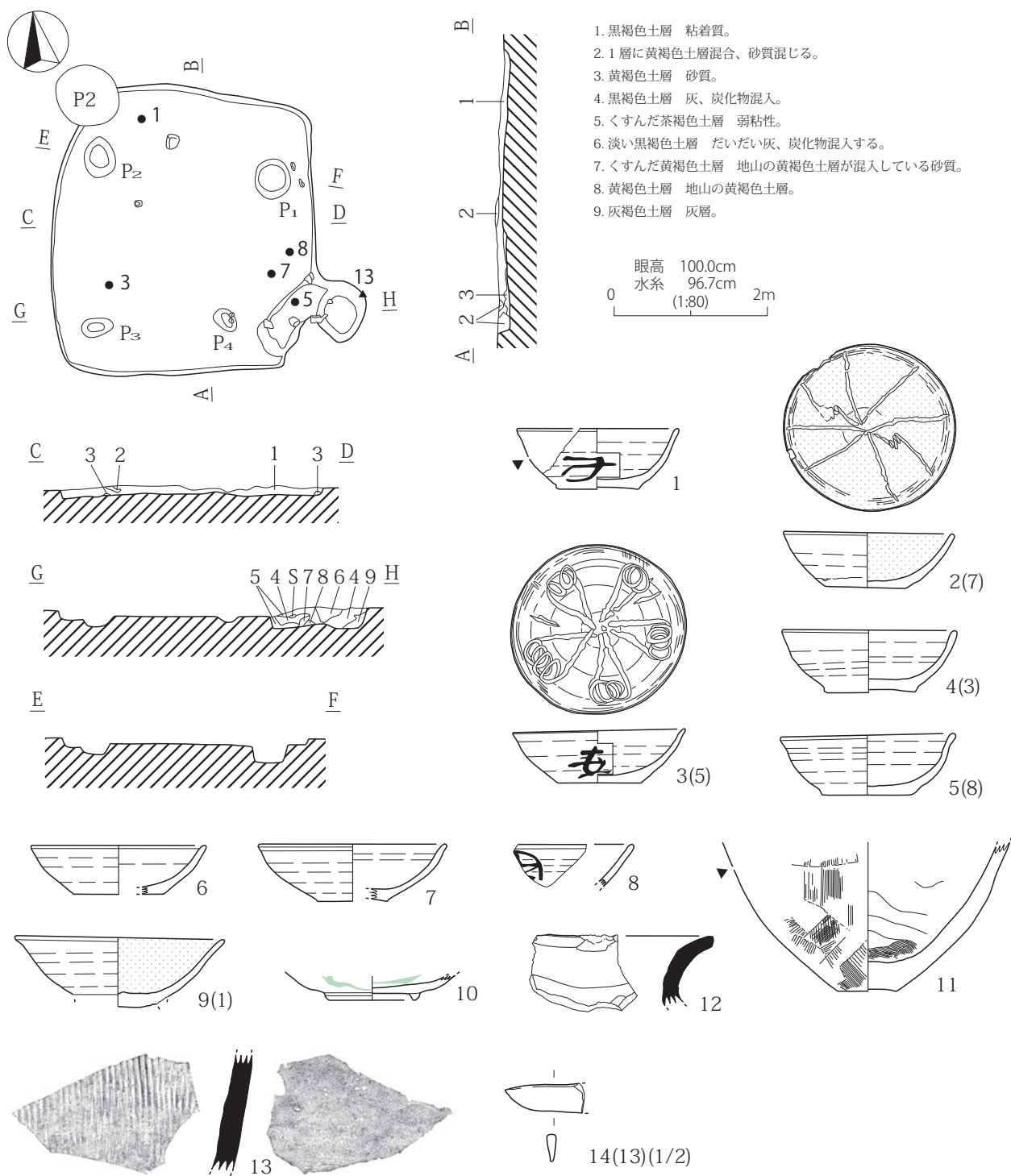
J 18グリットで検出された。N-9°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.84m、短軸長3.36m、壁残高0.60m、面積13.06㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、Y3を切り、H57に切られる。4基検出されたピットは支柱穴である。カマドは北壁中央部分に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、甕、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第II四半期の所産と思われる。本址はH57の旧住居の可能性を有する。

H 107号竪穴建物(第143図)

K 12グリットで検出された。N-34°-Wに長軸方位をとる。長軸長3.40m、短軸長2.56m、壁残高0.20m、面積7.61㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈する。他遺構との重複関係は有さない。ピットは5基検出されたが支柱穴は判然としない。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。



第96図 H70号竪穴建物

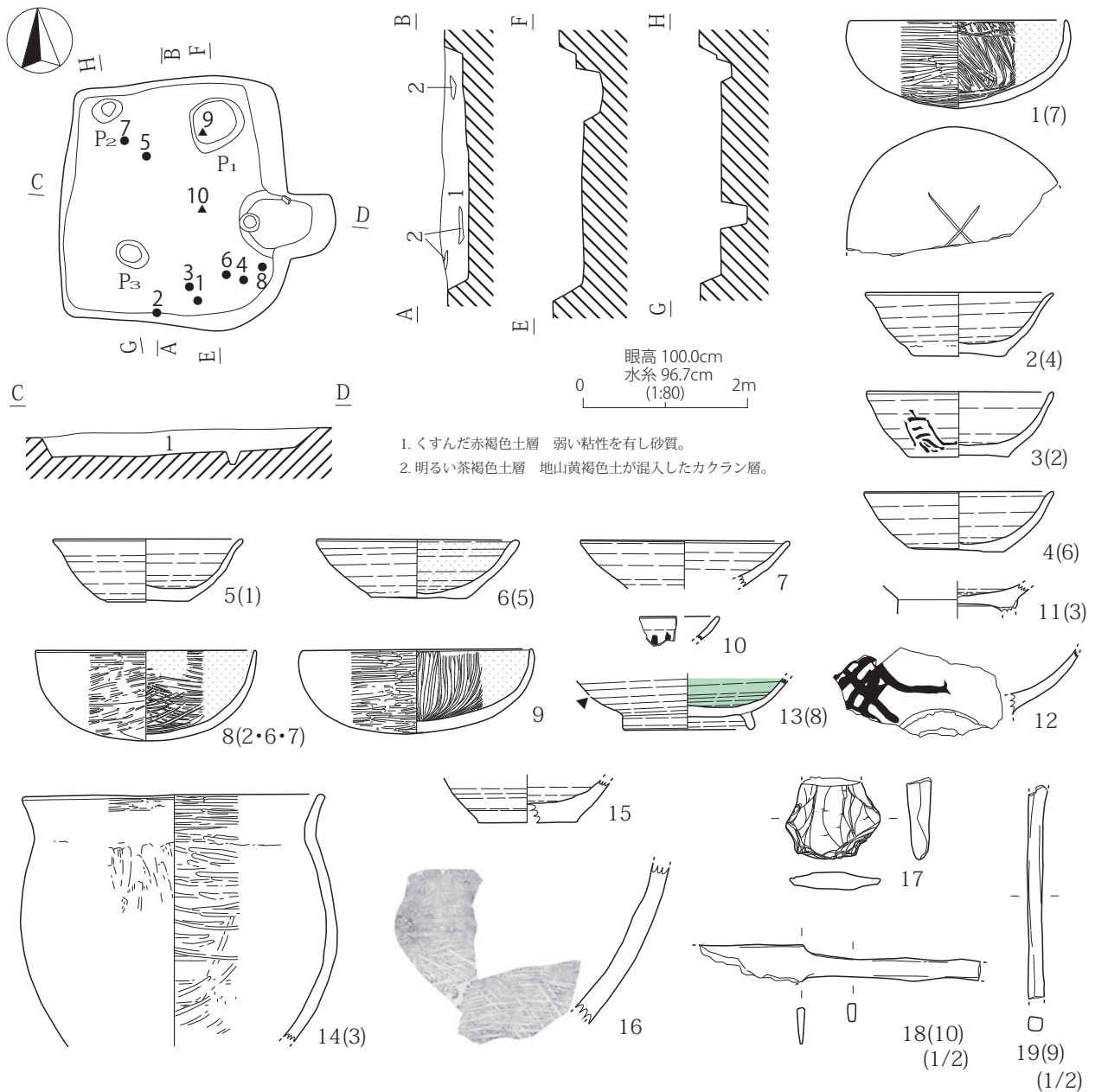
H 108号竪穴建物 (第144・145図)

M 16グリットで検出された。N-79°-Wに主軸方位をとる。長軸長3.64m、短軸長3.52m、壁残高0.32m、面積12.14㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H28を切る。4基検出されたピットは支柱穴である。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、石製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 109号竪穴建物 (第146図)

O 18グリットで検出された。N-43°-Wに主軸方位をとる。長軸長6.52m、短軸長6.04m、壁残高0.32m、面積37.34㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H28、54、110、111を切る。5基検出されたピット



第 97 図 H71 号竪穴建物

トのうち、均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、弥生土器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、甕、壺、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

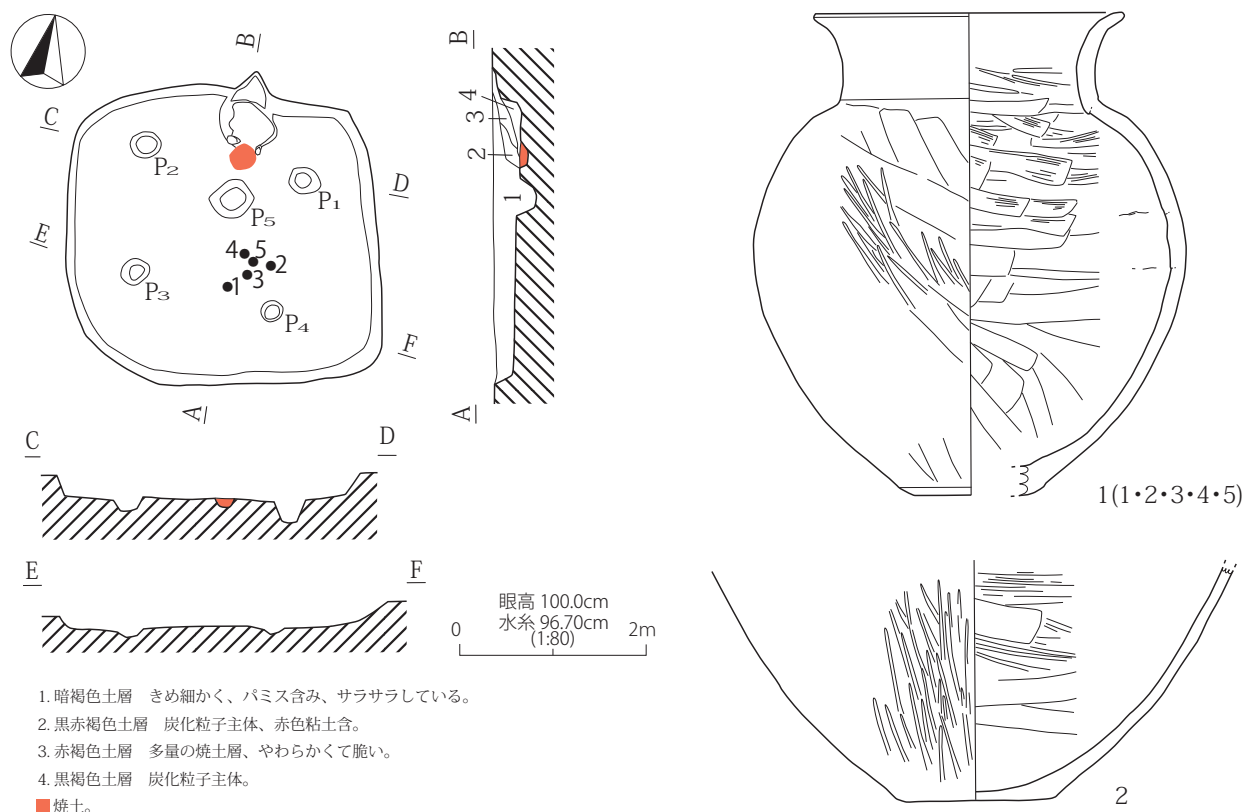
H 110 号竪穴建物 (第 147 図)

M19 グリットで検出された。N - 10° - E に主軸方位をとる。長軸長 4.24 m、短軸長 3.36 m、壁残高 0.36 m、面積約 13.21㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H111 を切り Ta2、H109 に切られる。4 基検出されたピットは支柱穴である。カマドは北壁中央やや東寄りに構築される。西半の壁下には周溝が巡る。

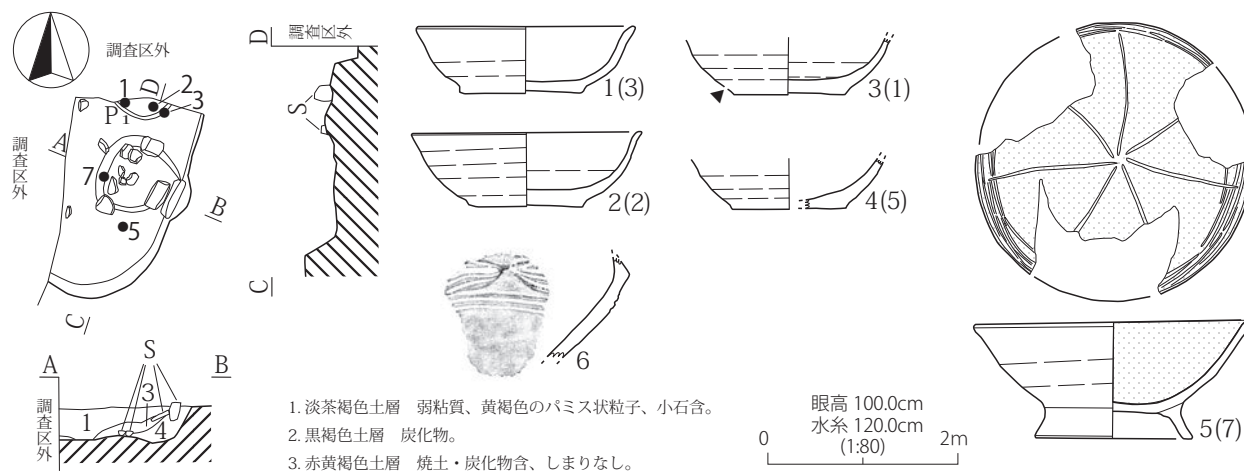
遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 111 号竪穴建物 (第 148・149 図)

O 19 グリットで検出された。N - 84° - W に長軸方位をとる。長軸長 5.88 m、短軸長 5.60 m、壁残高 0.34 m の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H54 を切り Ta2、H109、110 に切られる。6 基検出されたピットのうち、均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。カマドは存在しない。



第 98 図 H72 号竪穴建物



第 99 図 H73 号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、甑、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

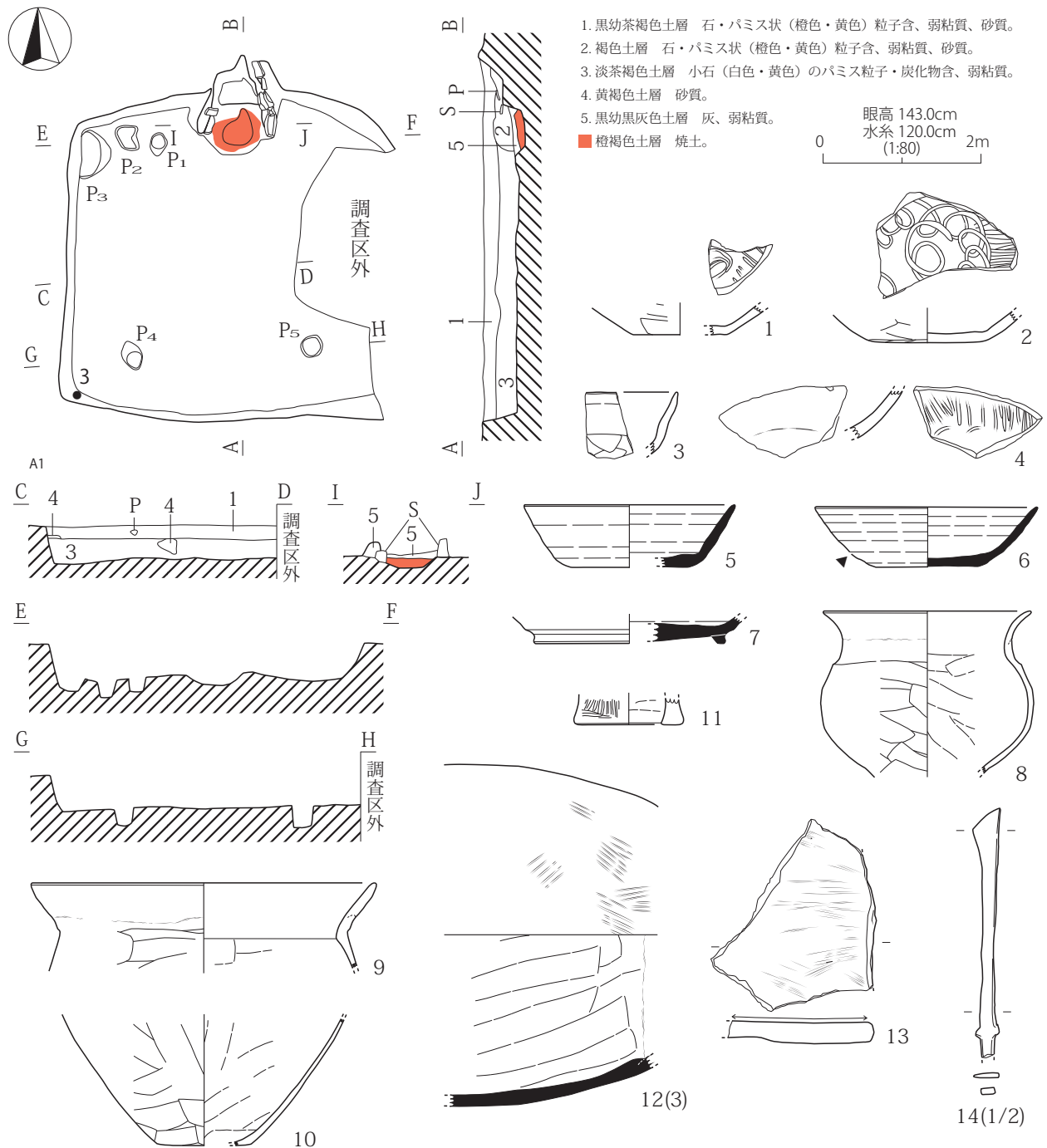
H 112 号竪穴建物 (第 150 図)

P 16 グリットで検出された。N - 45° - E に長軸方位をとる。壁残高 0.36 m の規模である。H54 を切る。ピットは 3 基検出されたが、支柱穴は判然としない。カマドは北壁の北東隅寄りに構築されている。北壁下の一部に周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

H 113 号竪穴建物 (第 151 図)

O 21 グリットで検出された。N - 74° - W に主軸方位をとる。長軸長 4.96 m、短軸長 4.96 m、壁残高 0.30 m の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H32、Ta2、P11 に切られ、H114 を切る。ピットは有さない。カマド東南隅に構築される。



第 100 図 H74 号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、石製品、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、鉢、鍋、羽釜、甕、壺、砥石、打製石斧、石錐、角釘が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

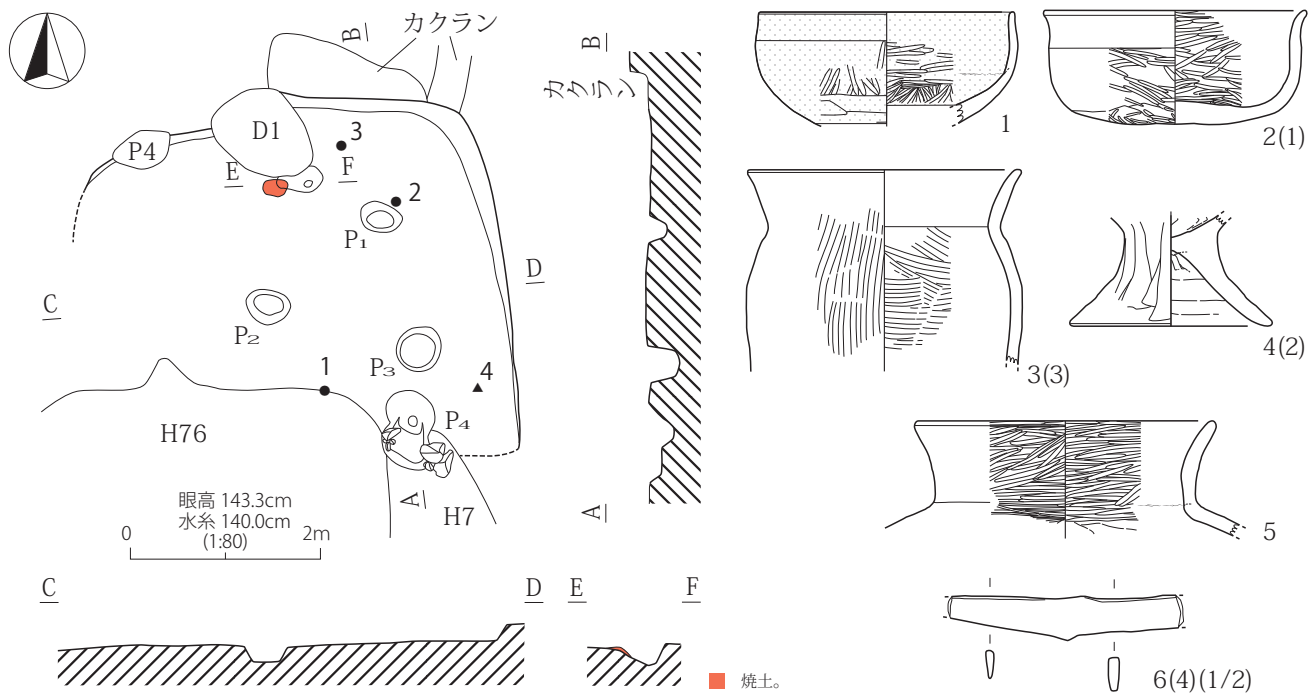
H 114 号竪穴建物 (第 152 図)

P 21 グリットで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.72 m、短軸長 4.52 m、壁残高 0.36 m の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H31、113、Ta2 に切られ、H115 を切る。6 基検出されたピットのうち、P1、P3、P4 の 3 基は主柱穴と思われる。カマド北壁中央部分に構築される。

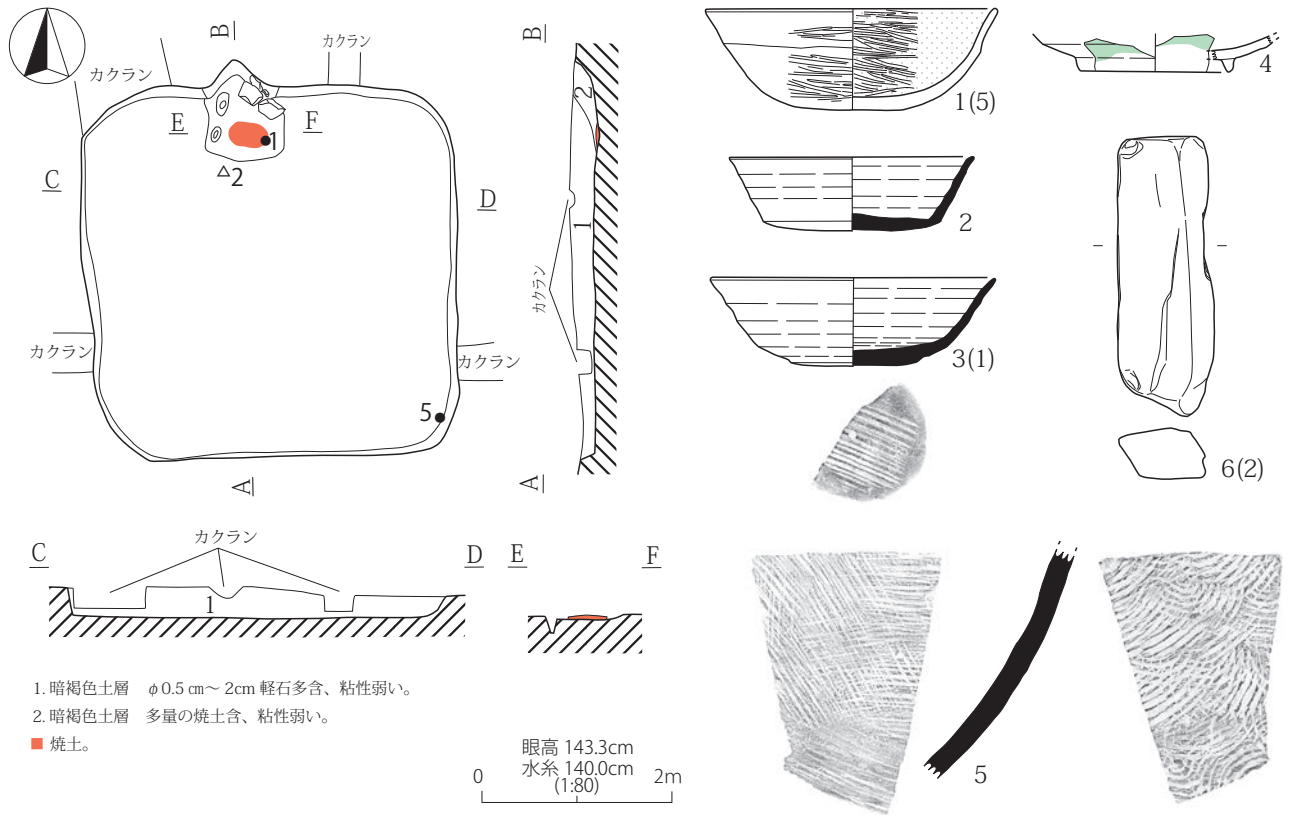
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、鉢、甕、刀子、角釘、角軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

H 115 号竪穴建物 (第 153・154 図)

P 22 グリットで検出された。長軸長約 5.12 m、短軸長 5.00 m、壁残高 0.36 m の規模である。隅丸方



第101図 H75号竪穴建物



- 1. 暗褐色土層 φ0.5cm～2cm 軽石多含、粘性弱い。
- 2. 暗褐色土層 多量の焼土含、粘性弱い。
- 焼土。

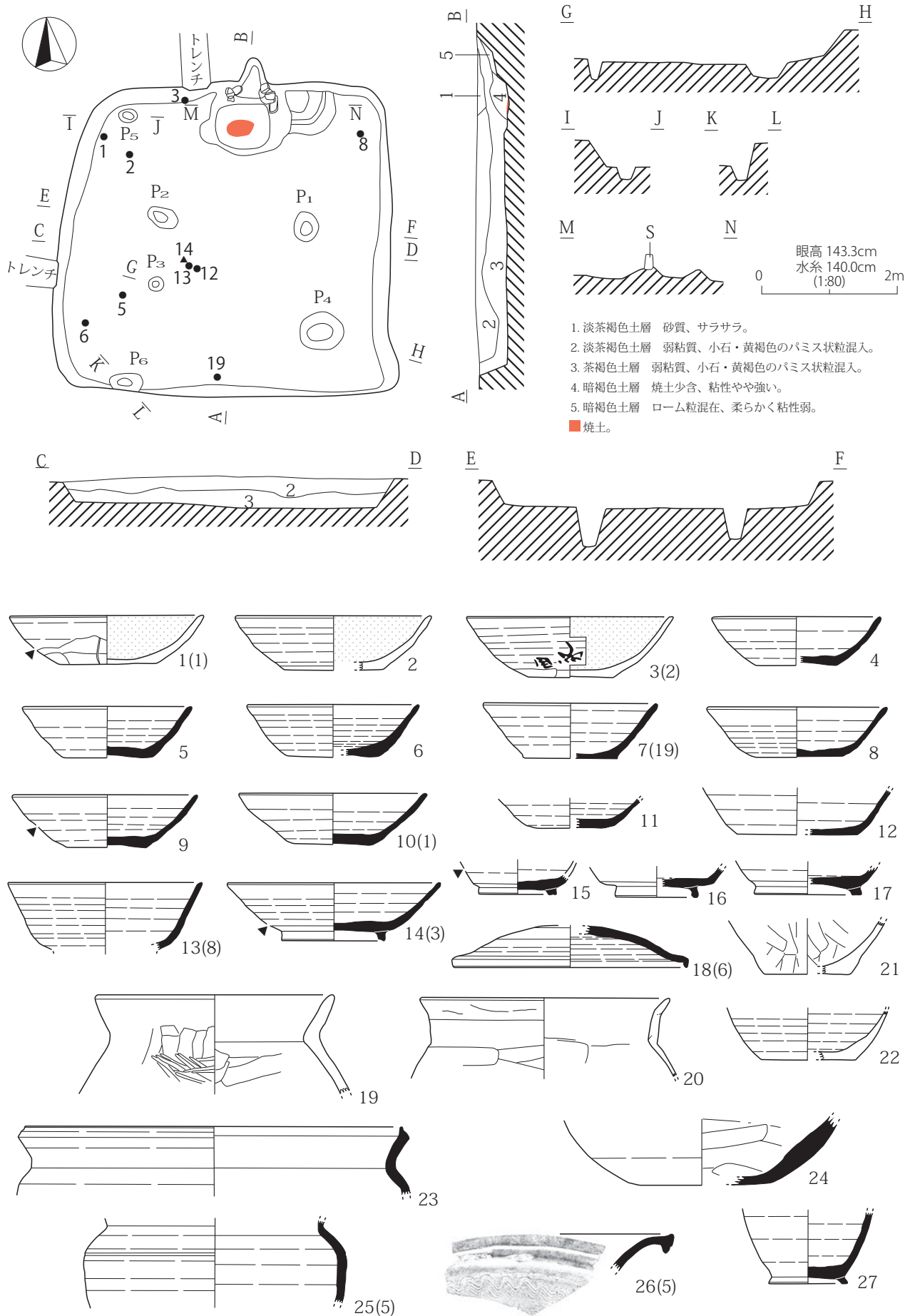
第102図 H76号竪穴建物

形の平面形状を呈し、H31、37、113、114、116、117、118に切られる。9基検出されたピットのうち、均等に配置されるP1～P4の4基が支柱穴と思われる。カマドは存在しない。

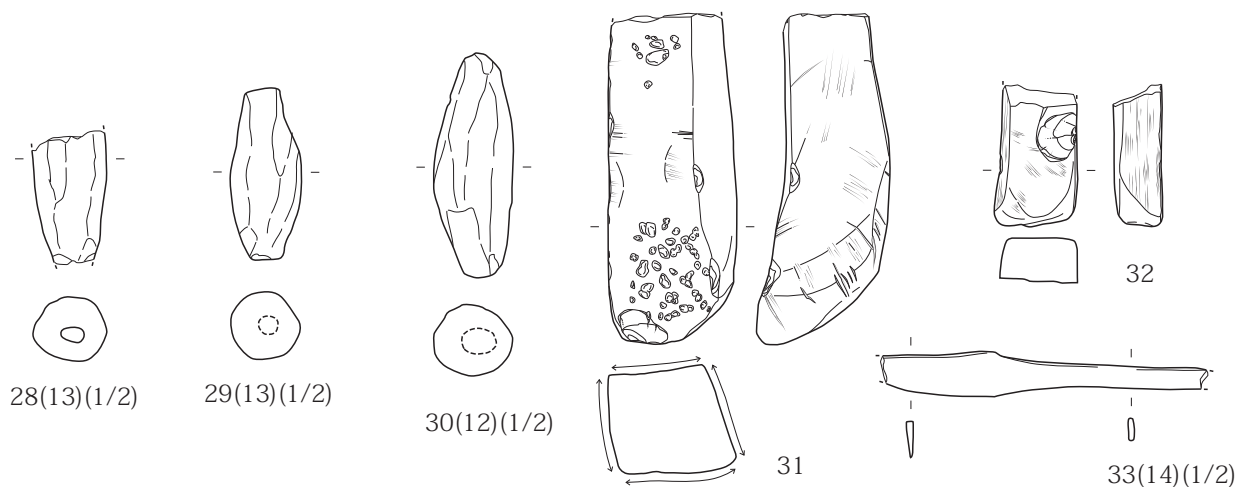
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、坏蓋、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 116号竪穴建物(第155図)

O 23グリットで検出された。辛うじてプランが残存している状態であり規模は不明である。H30、31、37、113、115を切り、H117に切られる。ピットは不明である。カマドは北壁中央部分に構築される。



第103図 H77号竪穴建物(1)



第104図 H77号竪穴建物(2)

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、把手が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 117号竪穴建物(第156・157図)

Q 24 グリットで検出された。N-7.5°-Eに主軸方位をとる。短軸長 3.48 m、壁残高 0.32 mの規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H37、115、116、Y6を切る。2基検出されたピットは支柱穴と思われる。カマドは北壁中央と思われる位置に構築されていた。カマド及びカマドに相対する南壁下部分を除き壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、絞具、芋引金具、鋸が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

H 118号竪穴建物(第158図)

Q 22 グリットで検出された。N-78°-Wに主軸方位をとる。長軸長 2.96 m、短軸長 2.68 m、壁残高 0.36 m、面積 8.27㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H37、39、55、115を切る。ピットは4基検出されたが支柱穴は判然としない。カマドは東壁中央に構築されていた。

遺物は土師器、須恵器、青磁、弥生土器が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、甕、土器片円盤が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第IV四半期の所産と思われる。

H 119号竪穴建物(第159図)

M13 グリットで検出された。N-17°-Eに長軸方位をとる。長軸長 2.80 m、短軸長 2.42 m、壁残高 0.32 m、面積 6.70㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、Ta1を切り、小竪穴1に切られる。ピットは1基検出されたが支柱穴は判然としない。カマドは有さない。北西隅～南西隅の壁下に周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、盤が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 120号竪穴建物(第160図)

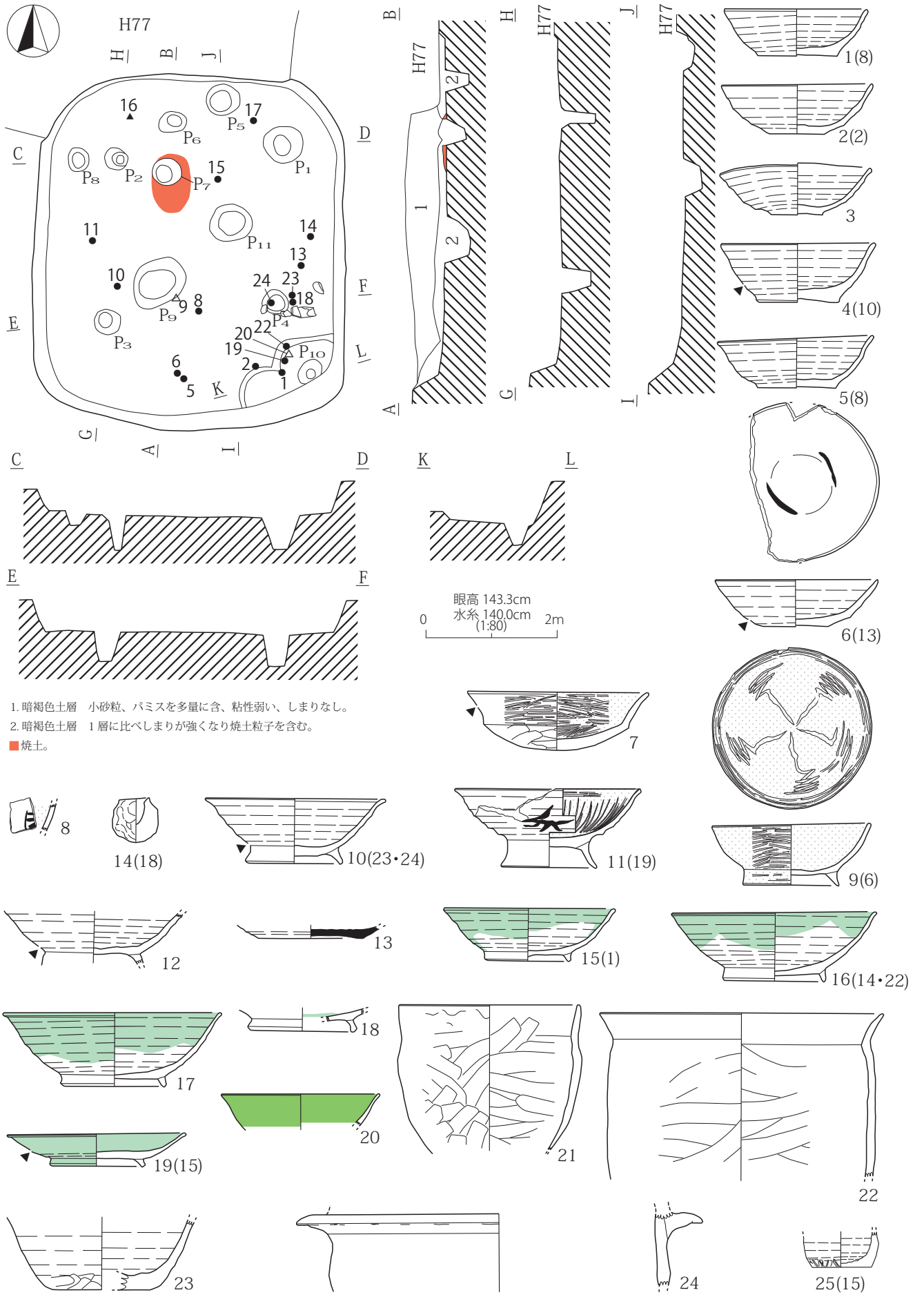
N12 グリットで検出された。N-2°-Eに主軸方位をとる。壁残高 0.36 mの規模である。H32を切る。3基検出されたピットは支柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築されていた。カマド分部を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 121号竪穴建物(第161図)

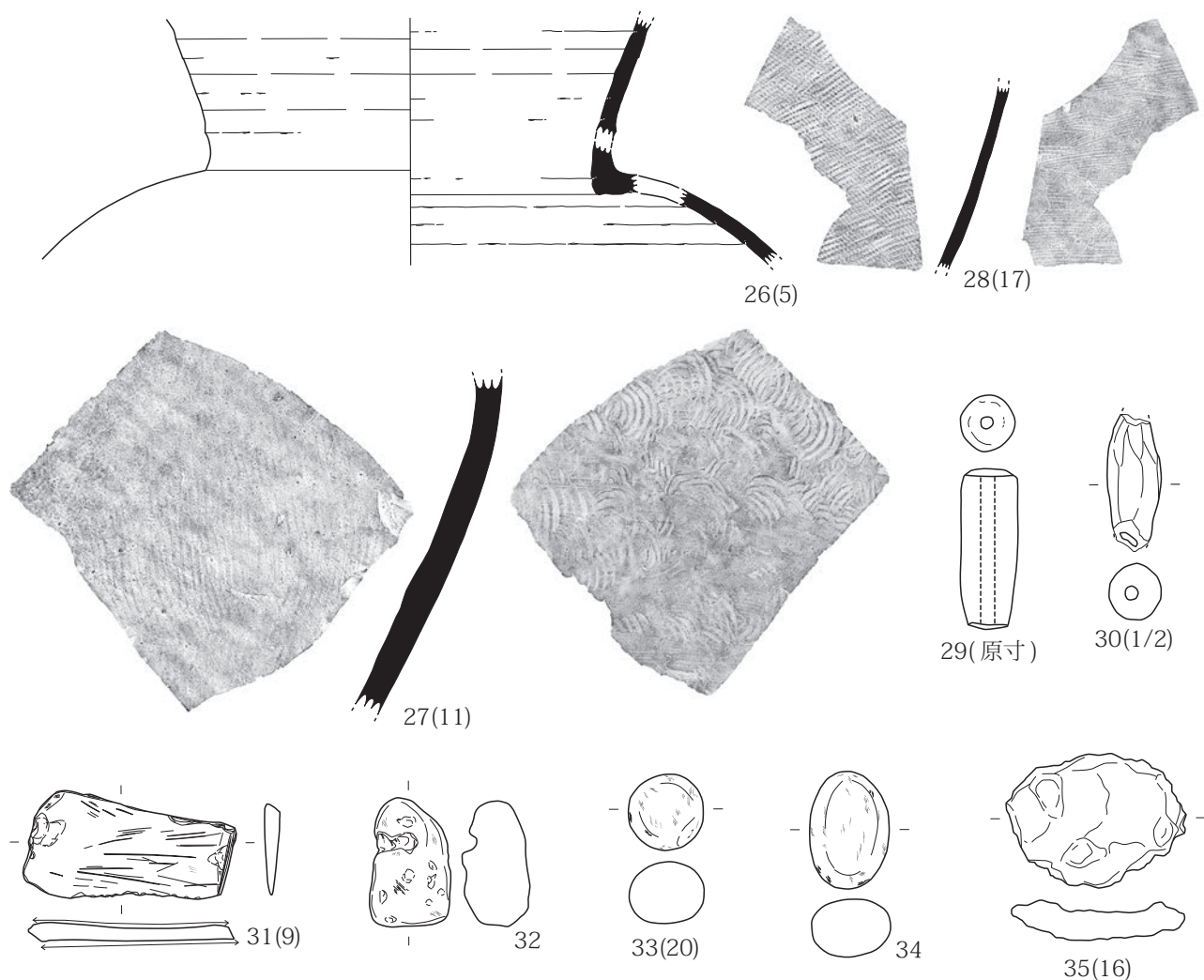
P14 グリットで検出された。N-35°-Wに主軸方位をとる。長軸長 5.60 m、短軸長 5.16 m、壁残高 0.20 m、面積 27.59㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、Y4を切る。6基検出されたピットのうち、P1～P3の3基は支柱穴である。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、白磁、石器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、皿、甕、羽



- 1. 暗褐色土層 小砂粒、パミスを多量に含、粘性弱い、しまりなし。
- 2. 暗褐色土層 1層に比べしまりが強くなり焼土粒子を含む。
- 焼土。

第105図 H78号竪穴建物(1)



第 106 図 H78 号竪穴建物 (2)

釜、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 122 号竪穴建物 (第 162・163 図)

Q 9 グリットで検出された。N-0°-W に主軸方位をとる。長軸長 5.28 m、短軸長 5.18 m、壁残高 0.60 m、面積 27.69㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H34 を切る。6 基検出されたピットのうち、均等に配置される P1～P4 の 4 基は支柱穴である。P6 は出入口施設と思われる。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄器が出土している。器種的には高坏、坏蓋、高盤、甕、壺、甑、横刃型石器、長頸鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 I 四半期の所産と思われる。

H 123 号竪穴建物 (第 164 図)

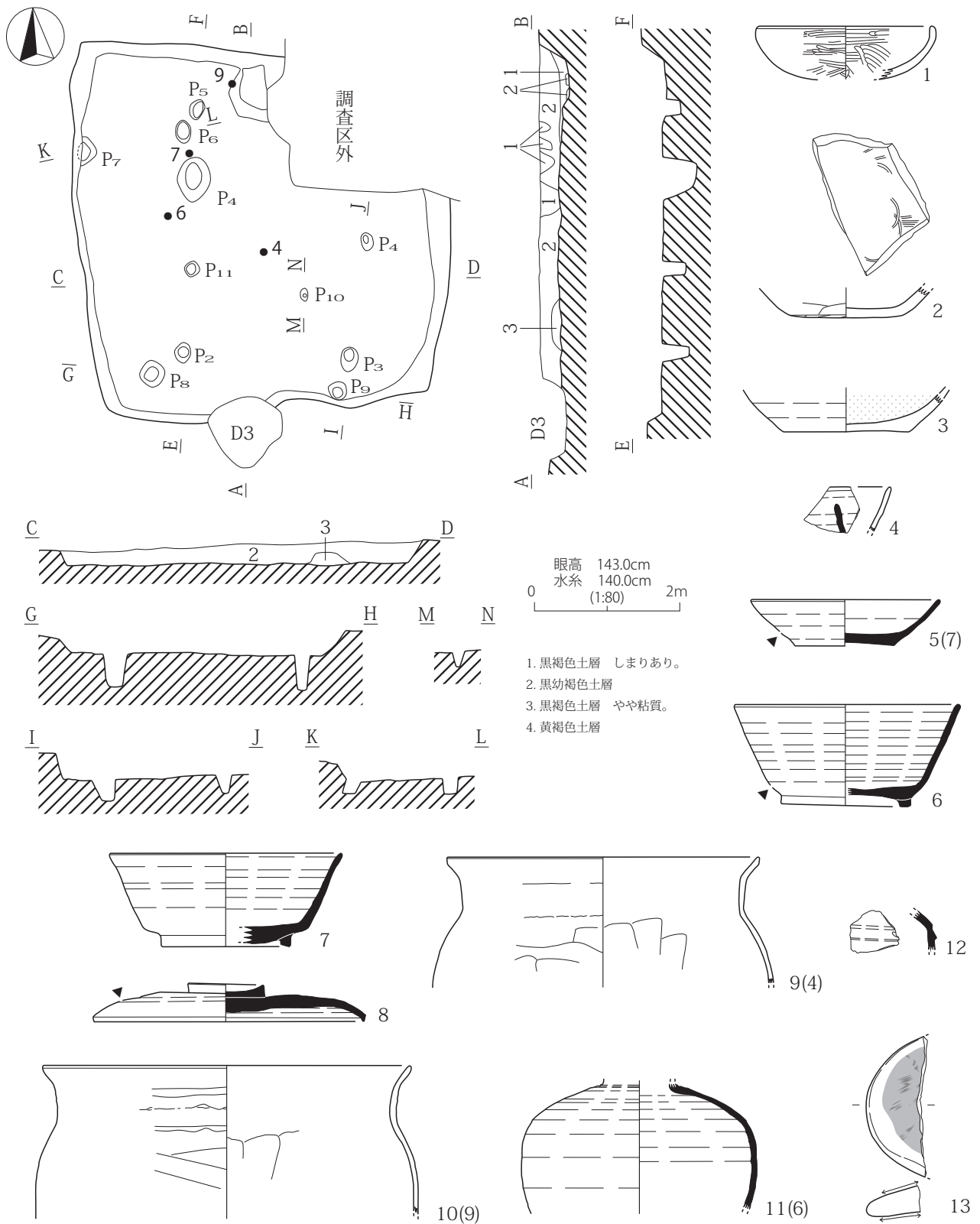
O 8 グリットで検出された。壁残高 0.10 m の規模である。H35 を切る。ピットは 1 基検出されたが性格は不明である。調査範囲にはカマドは存在しない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には甕、壺、磨石、加工痕のある剥片が認められる。本址の所産期は不明である。

H 124 号竪穴建物 (第 165 図)

S 22 グリットで検出された。N-10°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.52 m、短軸長 3.72 m、壁残高 0.20 m、面積 16.69㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H38、39 を切る。4 基検出されたピットは支柱穴である。カマドは北壁中央に構築されるが、造り替えが行われている。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

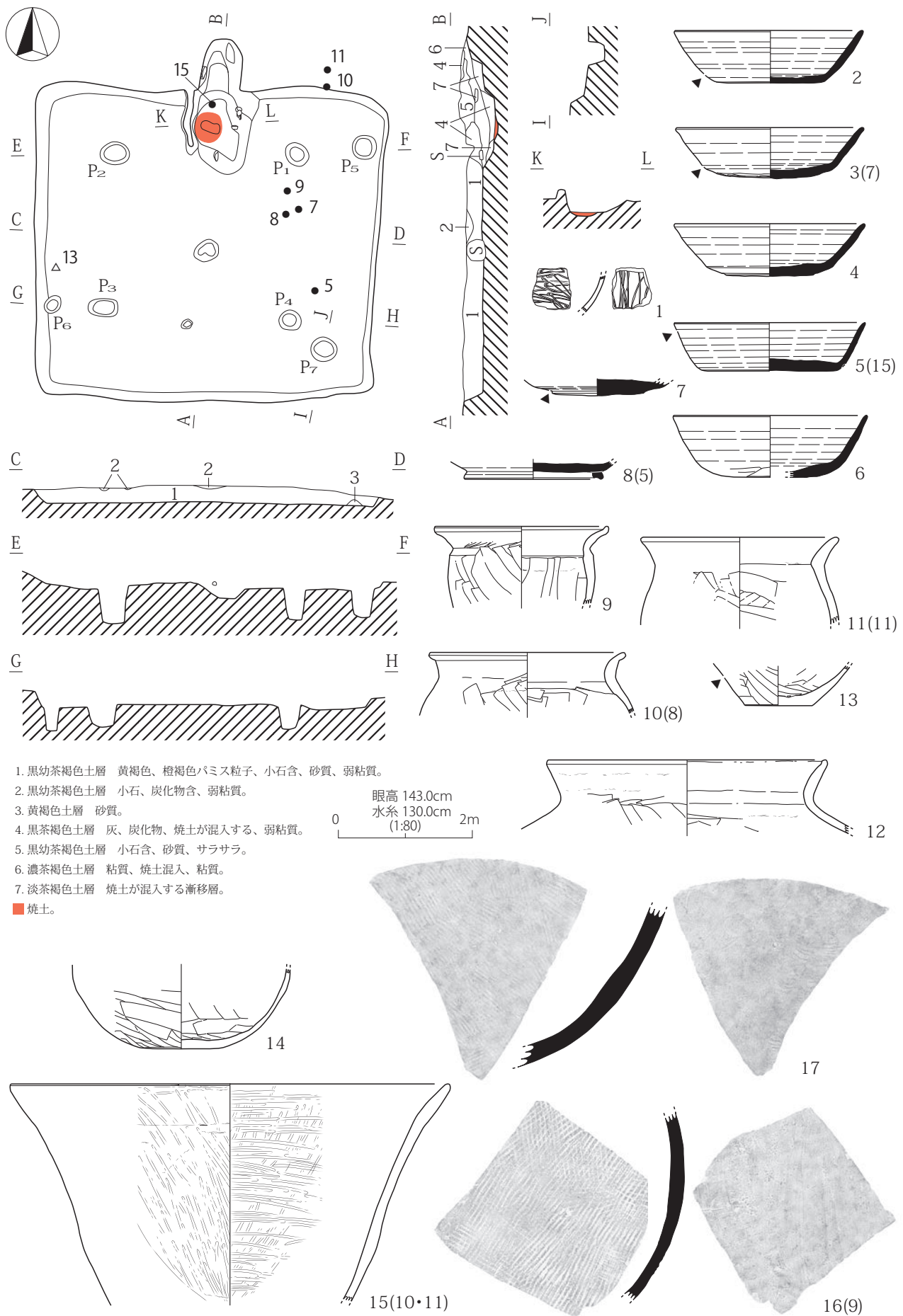


第 107 図 H79 号竪穴建物

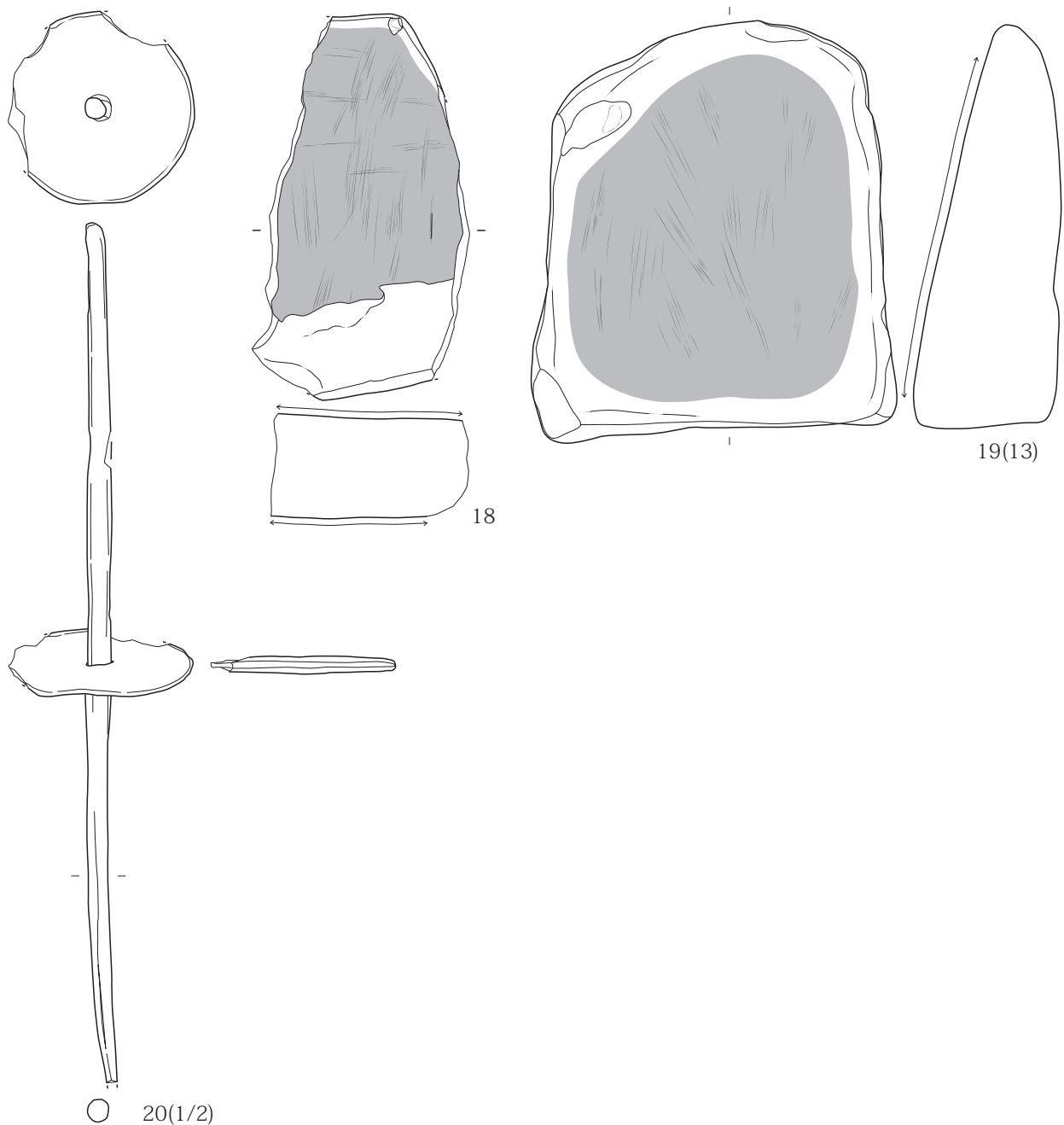
H 125 号竪穴建物 (第 166・167・168 図)

R 18 グリットで検出された。N-60°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.00 m、短軸長 5.78 m、壁残高 0.52 m、面積 31.58㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H56、127 を切る。6 基検出されたピットのうち、均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基は支柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。北壁の西半の壁下には周溝が認められる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、蓋、碗、甕、



第 108 図 H80 号竪穴建物 (1)



第109図 H80号竪穴建物(2)

壺、甑、台石、磨石、敲石、加工痕のある剥片、刀子、紡錘車、鉄鏝、角釘が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

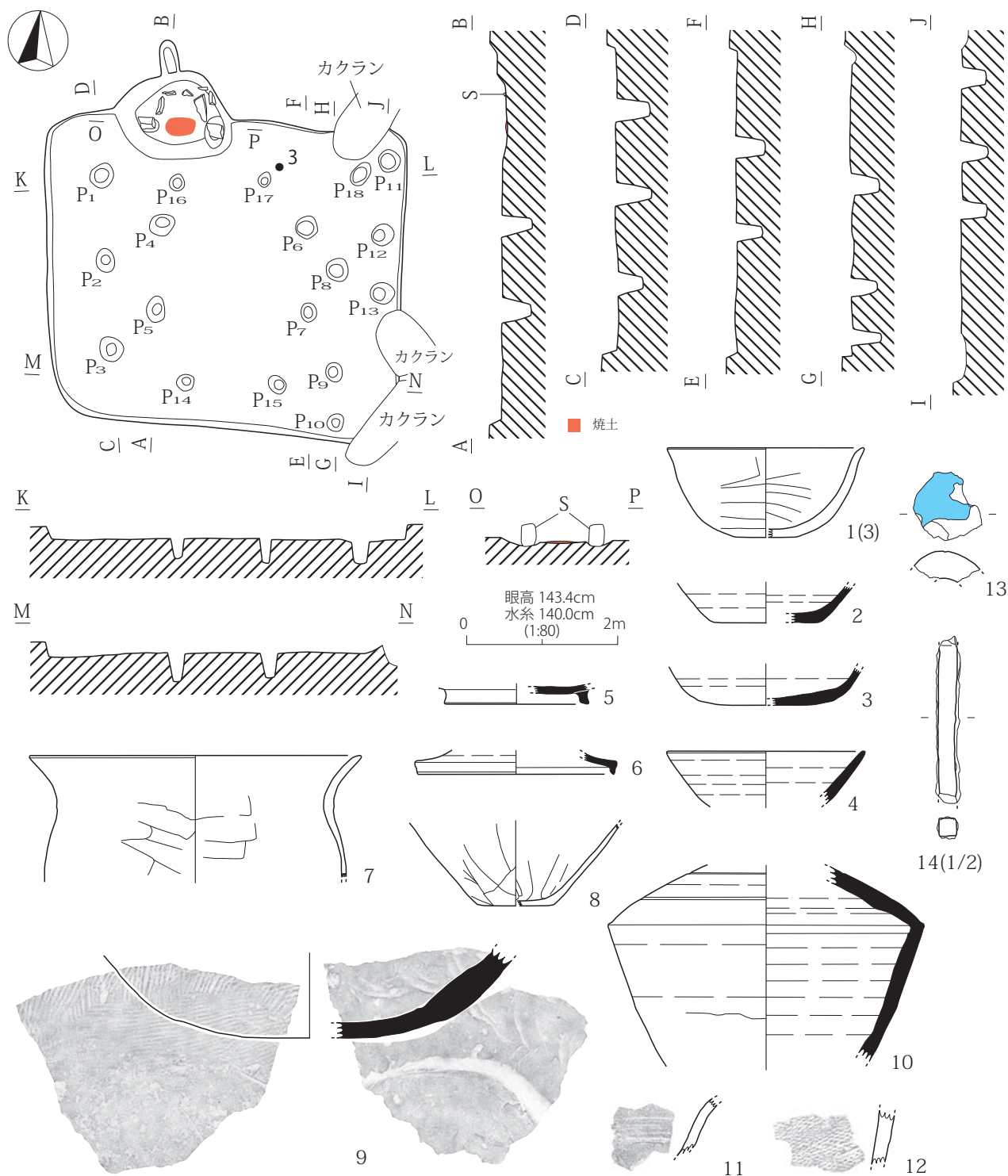
H 126号竪穴建物(第169図)

U16グリットで検出された。N-0°-Wに主軸方位をとる。長軸長3.92m、短軸長3.44m、壁残高0.40m、面積12.73㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H41、56、127を切る。4基検出されたピットのうち、P1～P3の3基は支柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 127号竪穴建物(第170図)

S 18グリットで検出された。N-35°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.76m、短軸長4.36m、壁残高0.52m、面積20.21㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H41、56を切り、H 125、126に切られる。4基検出されたピットは支柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築される。



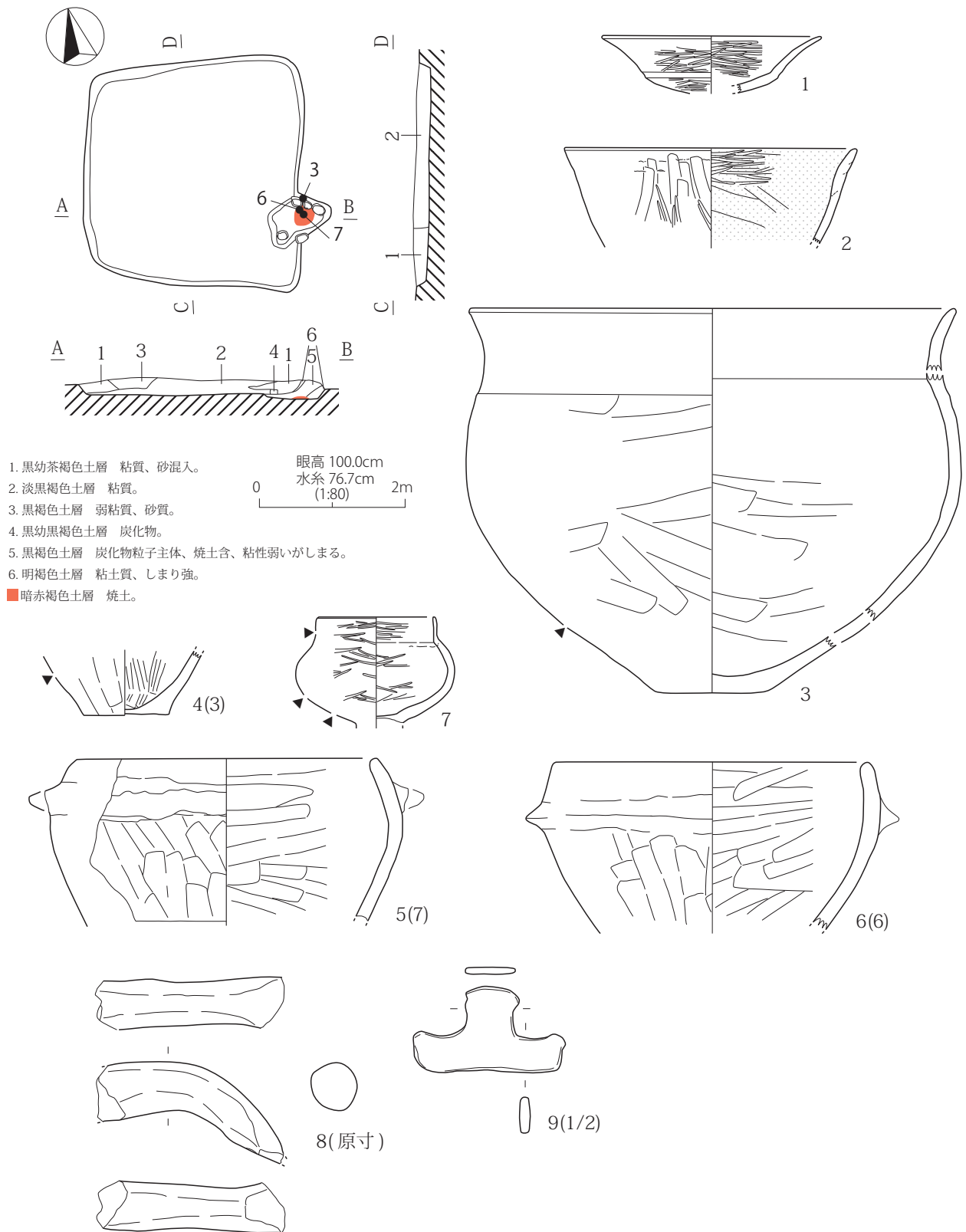
第110図 H81号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 128号竪穴建物 (第171・172図)

U 19グリッドで検出された。N-0°-Wに主軸方位をとる。長軸長4.40m、短軸長4.32m、壁残高0.16m、面積17.97㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H41、129を切る。6基検出されたピットのうち、均等に配置されるP1～P4の4基が支柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、紡錘車が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

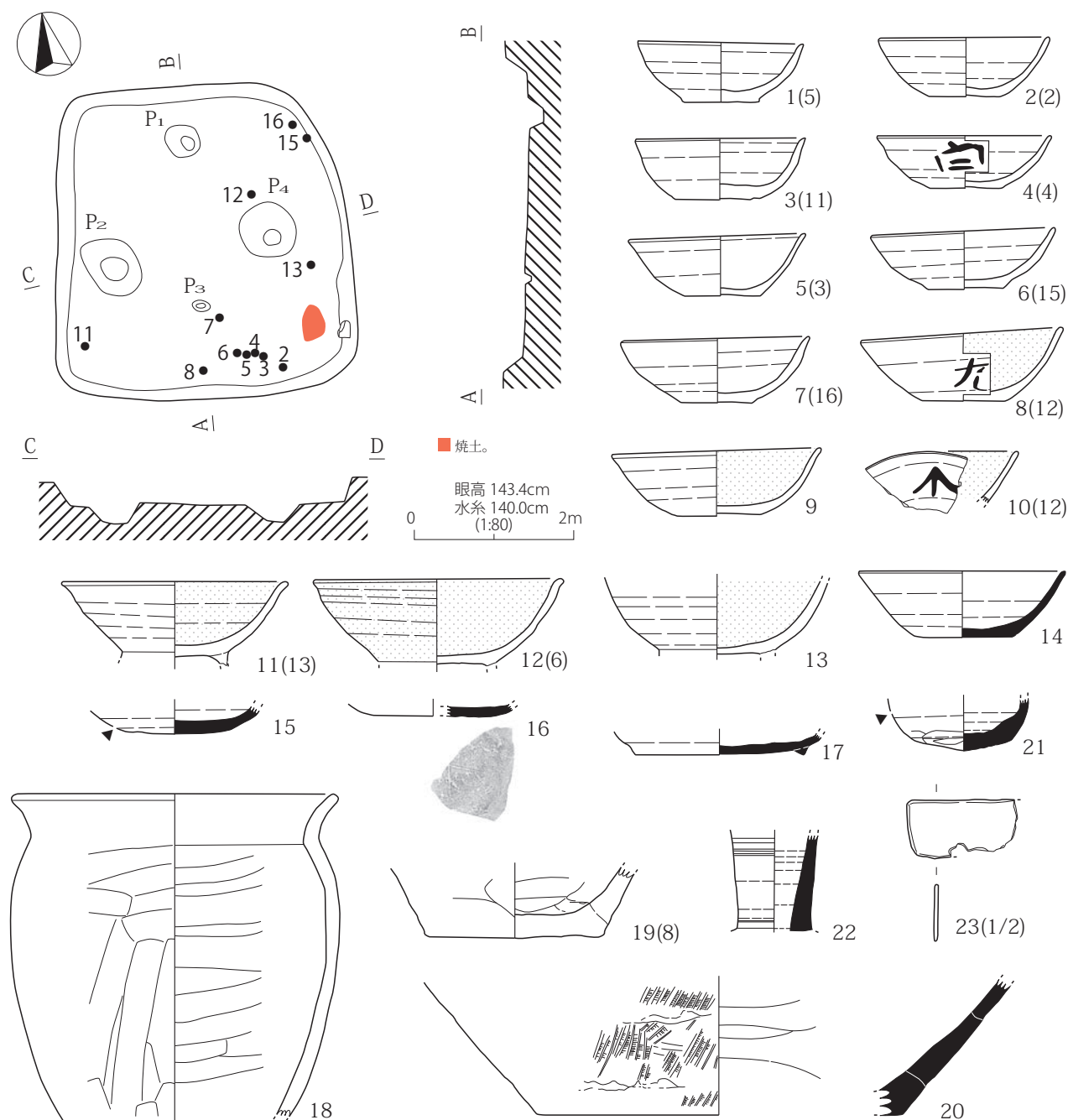


第 111 図 H82 号竪穴建物

H 129 号竪穴建物 (第 173 図)

U 21 グリットで検出された。壁残高 0.00 m の規模である。H40 を切り、H128 に切られる。調査範囲内にはピットは存在しない。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 IV 四半期の所産と思われる。



第112図 H83号竪穴建物

H 130 号竪穴建物 (第 174・175 図)

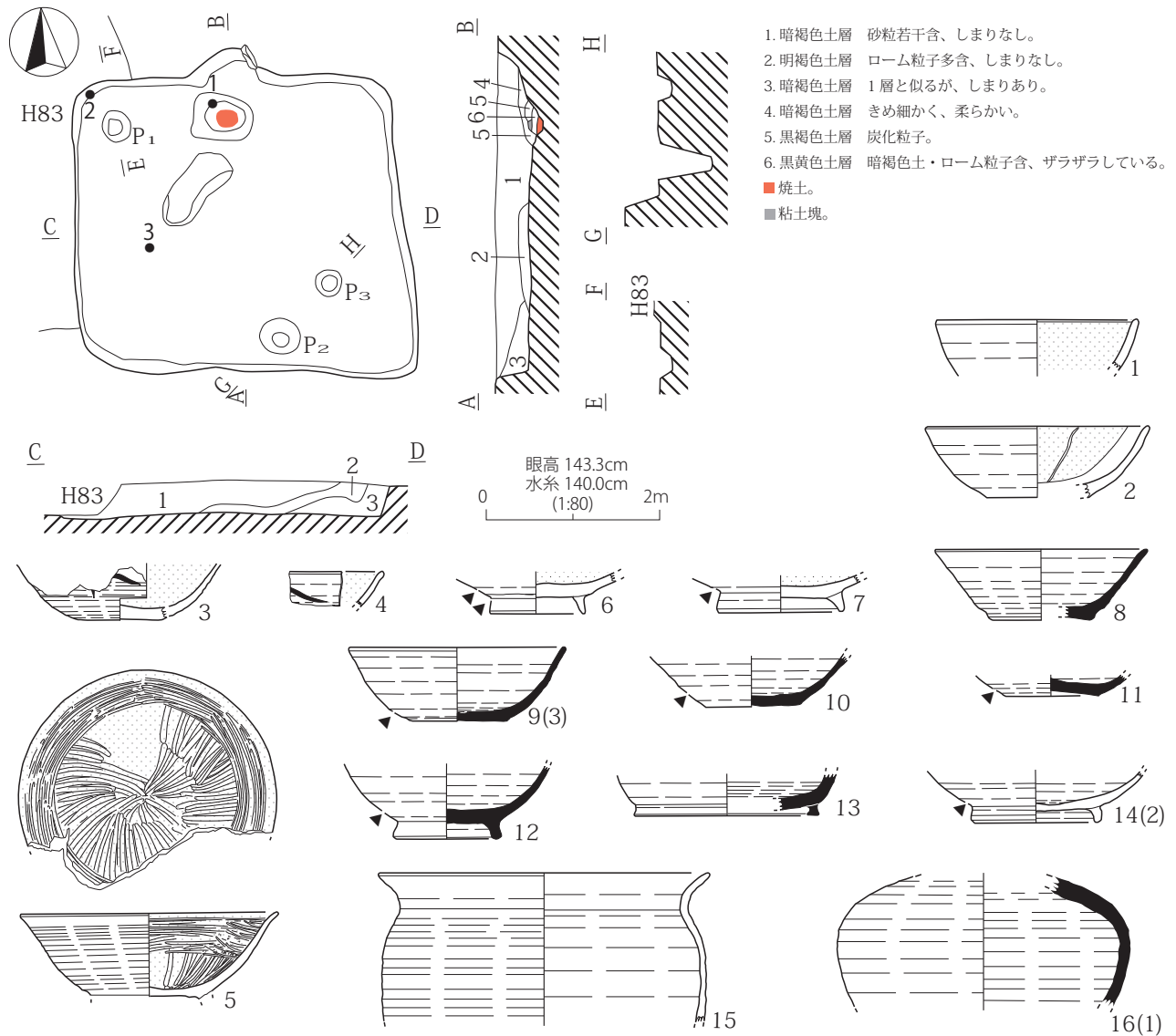
R 14 グリットで検出された。N-83°-E に主軸方位をとる。長軸長 3.80 m、短軸長 3.72 m、壁残高 0.24 m、面積 10.92㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H42、43 を切る。ピットは 7 基検出されたが支柱穴は判然としない。カマドは東南隅に構築される。カマド分部を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺、土製勾玉、鉄斧、鉄鋏が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 131 号竪穴建物 (第 176 図)

R 12 グリットで検出された。N-87°-W に主軸方位をとる。長軸長 3.18 m、短軸長 3.12 m、壁残高 0.20 m、面積 10.36㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H43 を切り、H130 に切られる。ピットは有さない。カマドは東壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、鉄鋏、鉄塊が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第IV四半期の所産と思われる。



第 113 図 H84 号竪穴建物

H 132 号竪穴建物 (第 177・178 図)

R 12 グリットで検出された。N-2°-E に主軸方位をとる。長軸長 5.12 m、短軸長 5.08 m、壁残高 0.56 m、面積 23.61㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H133 を切る。4 基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、壺、台石、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と思われる。

H 133 号竪穴建物 (第 179 図)

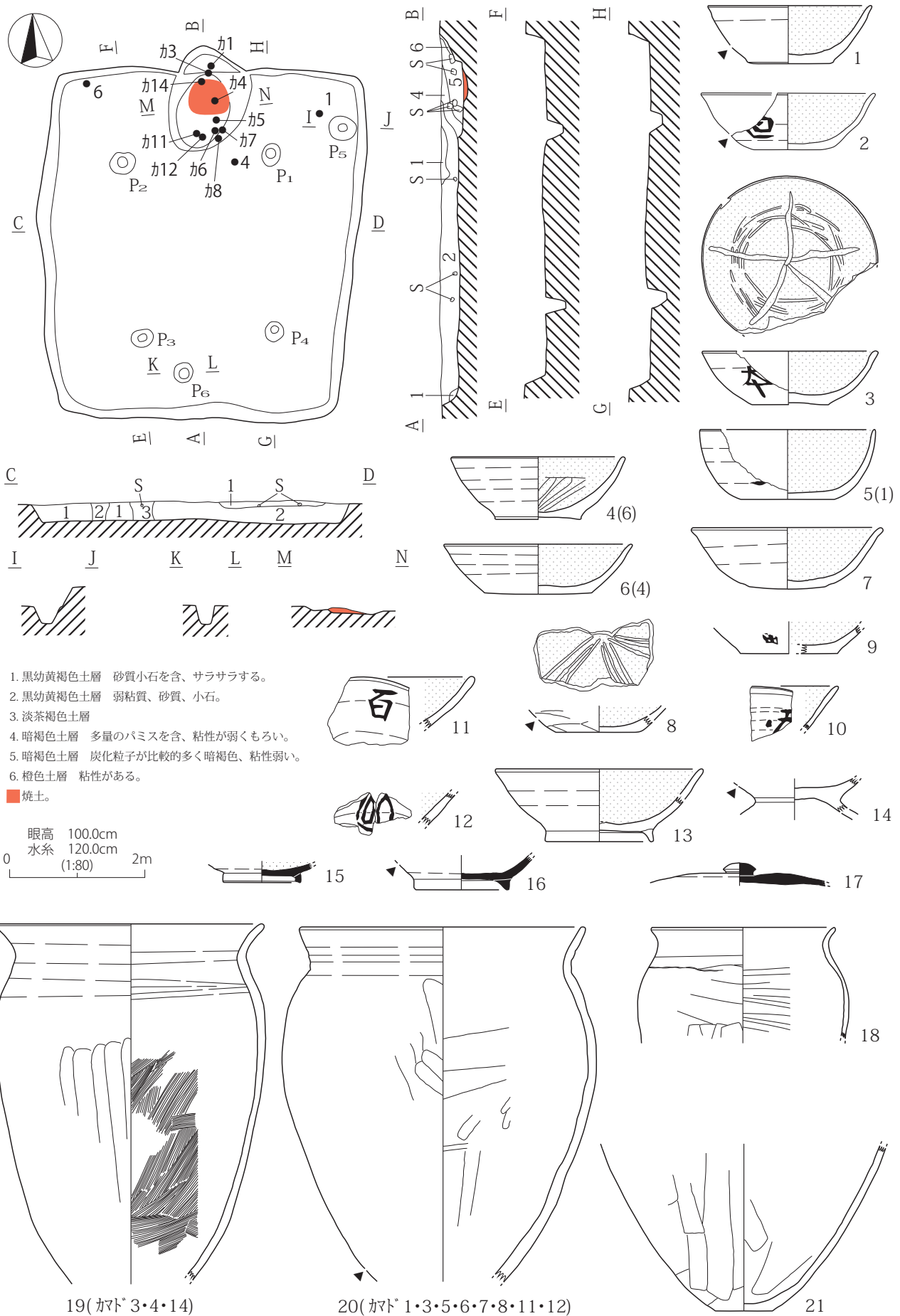
S 11 グリットで検出された。N-86°-E に主軸方位をとる。長軸長 3.86 m、短軸長 3.76 m、壁残高 0.22 m の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H132 に切られる。ピットは 3 基検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは東壁の北端部分に構築される。間仕切り溝が認められる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物は多時期のものが混在しており、本址の所産期は不明である。

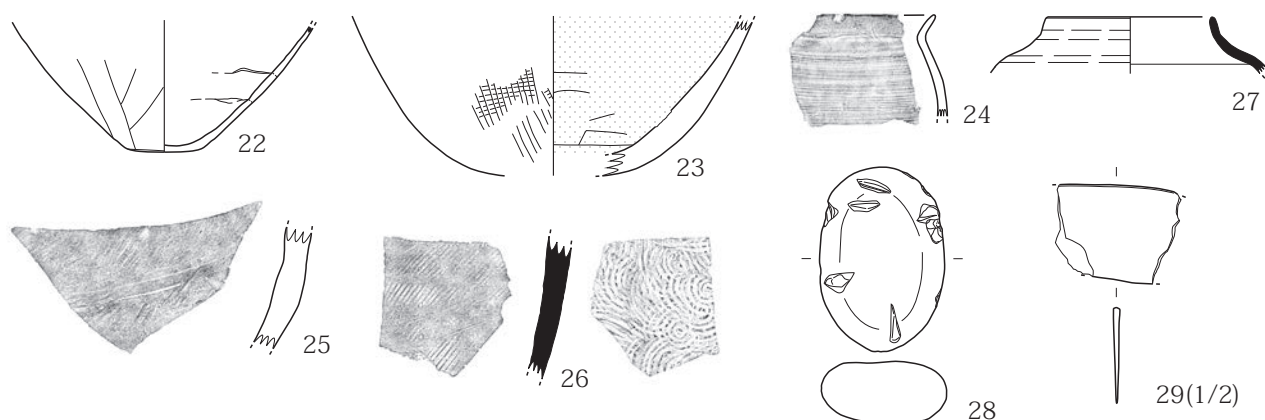
H 134 号竪穴建物 (第 180・181 図)

T 9 グリットで検出された。N-86°-E に長軸方位をとる。壁残高 0.24 m の規模である。H135、136 を切る。2 基検出されたピットは主柱穴である。調査範囲にはカマドは存在しない。本址は焼失遺構である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、碗、皿、高坏、甕、磨・敲石が



第114図 H85号竪穴建物(1)



第115図 H85号竪穴建物(2)

認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 135号竪穴建物(第182図)

U 9グリットで検出された。N-7°-Wに主軸方位をとる。壁残高0.32 mの規模である。H134に切られる。ピットは4基検出された。P1～P3の3基は支柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。壁下には周溝が巡る。

出土遺物は皆無であり、本址の所産期は不明である。

H 136号竪穴建物(第183図)

T 9グリットで検出された。N-7.5°-Wに主軸方位をとる。壁残高0.10 mの規模である。H134、135に切られる。調査範囲にはピットは存在しない。カマドは北壁中央に構築される。

土師器ロクロ甕が1点出土しているが、本址の所産期を決定出来るものではない。

H 137号竪穴建物(第184図)

V 11グリットで検出された。N-5°-Eに主軸方位をとる。長軸長5.04 m、短軸長4.84 m、壁残高0.24 mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H64、138を切る。3基検出されたピットは支柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、皿、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 138号竪穴建物(第185図)

V 12グリットで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.52 mの規模である。他遺構との重複や調査区域外に延びるため全容は不明である。H64、137に切られる。2基検出されたピットは支柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

Y 1号竪穴建物(第186図)

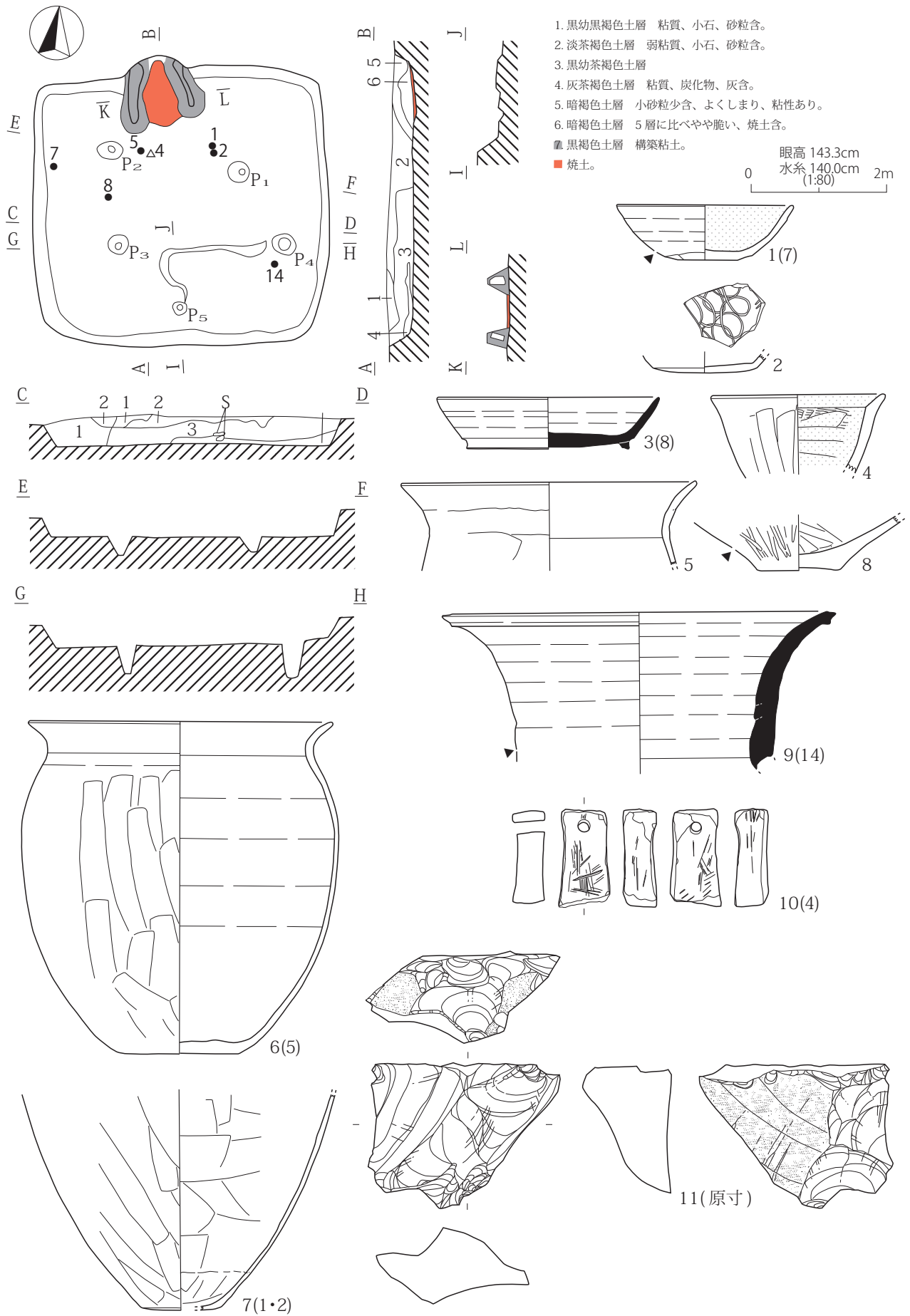
G 20グリットで検出された。壁残高0.22 mの規模である。調査区域外に延びるため全容は不明である。H24に切られる。2基検出されたピットの内、P1は支柱穴である。調査範囲に炉は存在しなかった。

遺物は弥生土器が出土している。器種的には甕、台付甕、壺が認められる。1～5が本址に伴う遺物である。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。

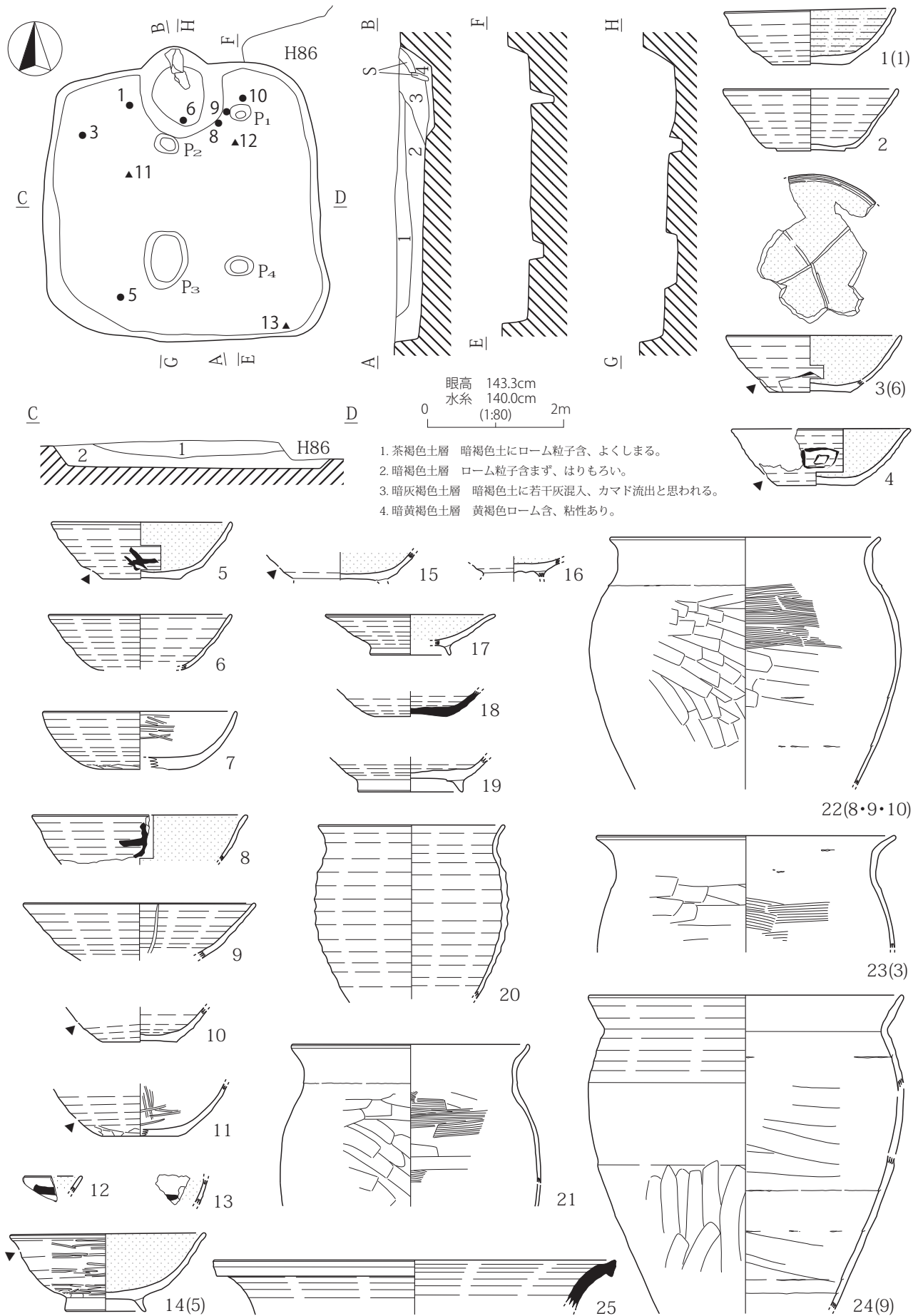
Y 2号竪穴建物(第187図)

G 17グリットで検出された。壁残高0.40 mの規模である。調査区域外に延びるため全容は不明である。D6に切られる。ピットは2基検出されたが性格は不明である。調査範囲に炉は存在しなかった。

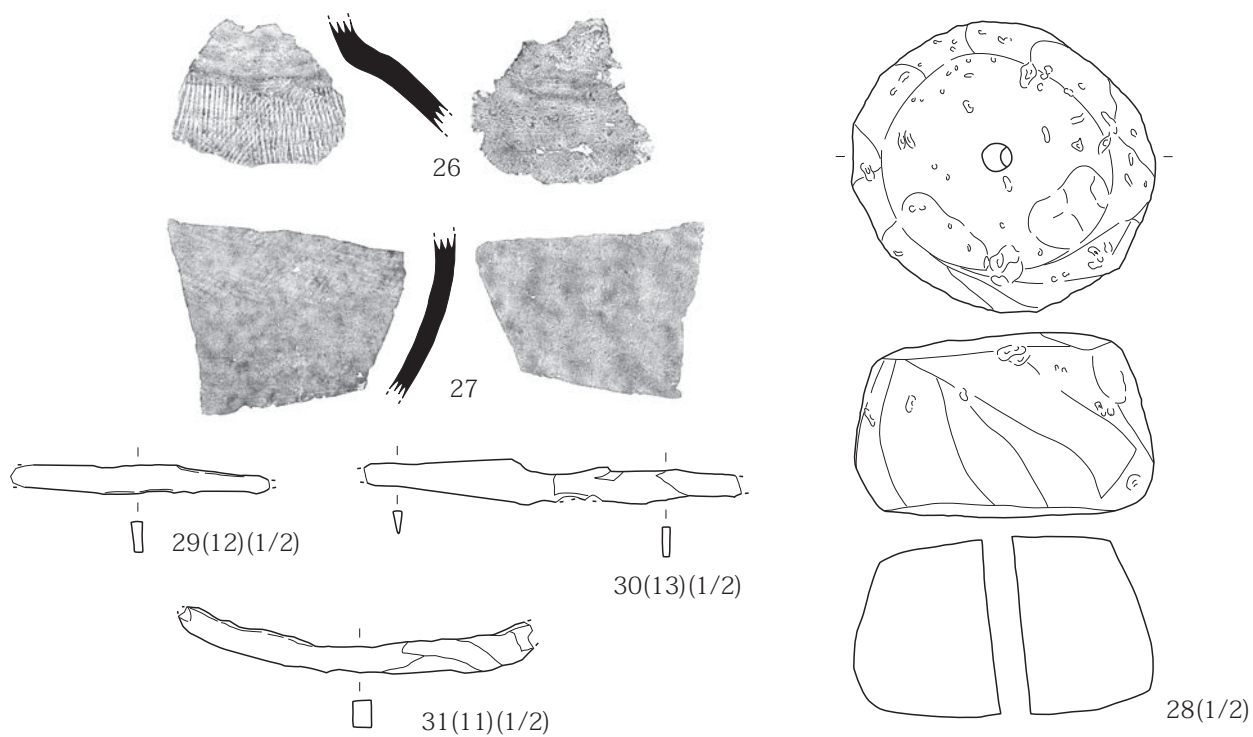
遺物は弥生土器、須恵器が出土している。器種的には甕が認められる。1、2、4が本址に伴う遺物である。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。



第 116 図 H86 号竪穴建物



第117図 H87号竪穴建物(1)



第 118 図 H87 号竪穴建物 (2)

Y 3 号竪穴建物 (第 188 ~ 191 図)

K 19 グリットで検出された。N-8°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.80 m、短軸長 5.29 m、壁残高 0.20 m の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H28、106 に切られる。ピットは 25 基検出された。均等に配置される P1 ~ P4 が支柱穴である。P7、8 の 2 基は出入口施設と思われる。炉は地焼炉で、遺構の中央部分に構築されている。本址は焼失遺構であり、床面上には炭化材が散乱していた。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、鉢、高坏、甕、台付甕、壺、ミニチュア土器、環状石斧、編物石、磨・敲石、石核、石錐が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。

Y 4 号竪穴建物 (第 192 図)

O 15 グリットで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。短軸長 5.28 m、壁残高 0.20 m の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H29、121、D10、11 に切られる。ピットは 20 基検出された。均等に配置される P1 ~ P4 が支柱穴である。P18、19 の 2 基は出入口施設と思われる。炉は地焼炉で、遺構の中央部分に構築されている。

遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、ミニチュア土器が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。

Y 5 号竪穴建物 (第 193 図)

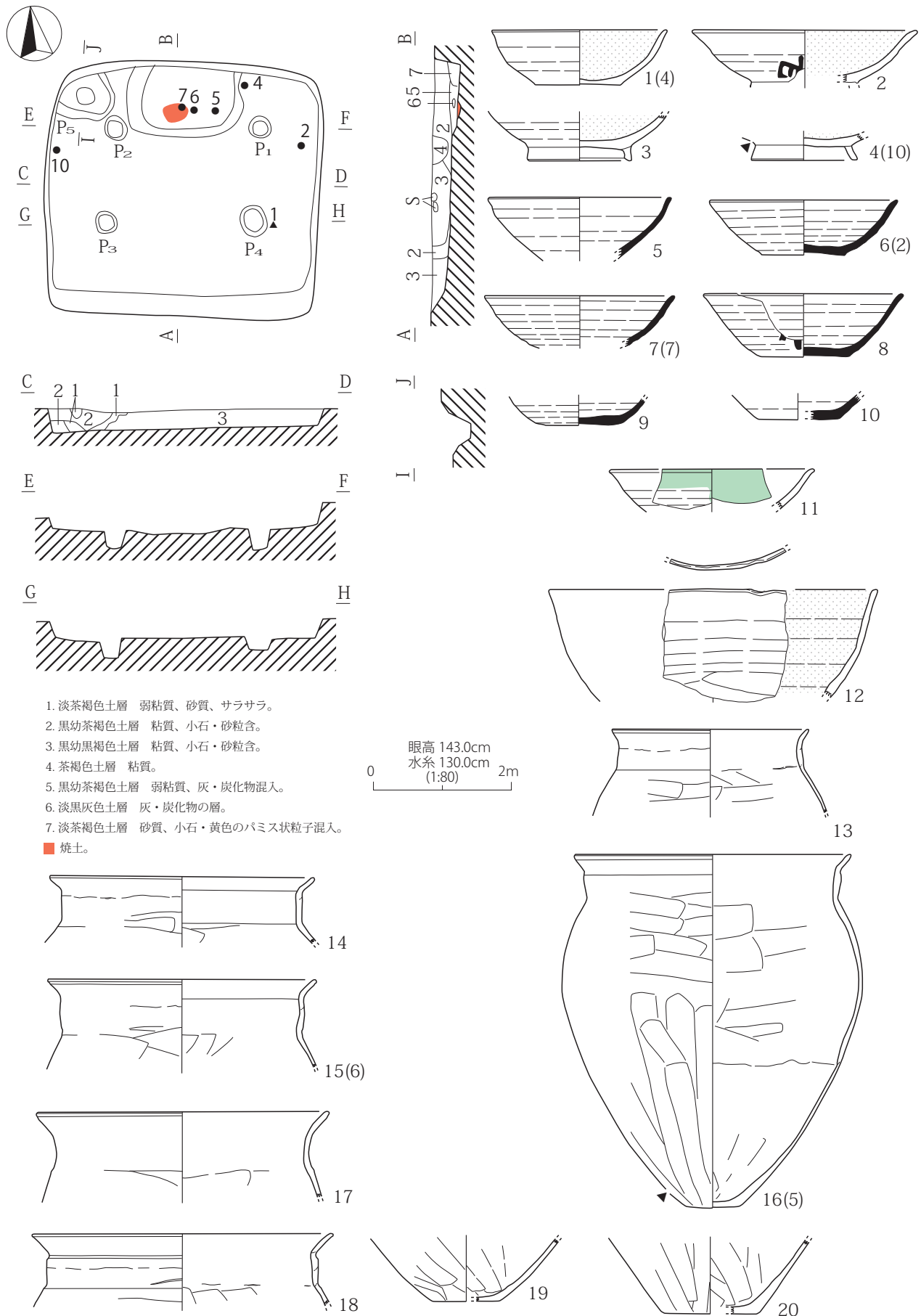
R 23 グリットで検出された。壁残高 0.28 m の規模である。H37、38 に切られる。ピットは 1 基検出されたが性格は不明である。調査範囲内にはカマドや炉は存在しない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、甗が認められるが、本址の所産期を比定出来るものではなく、本址の所産期は不明である。

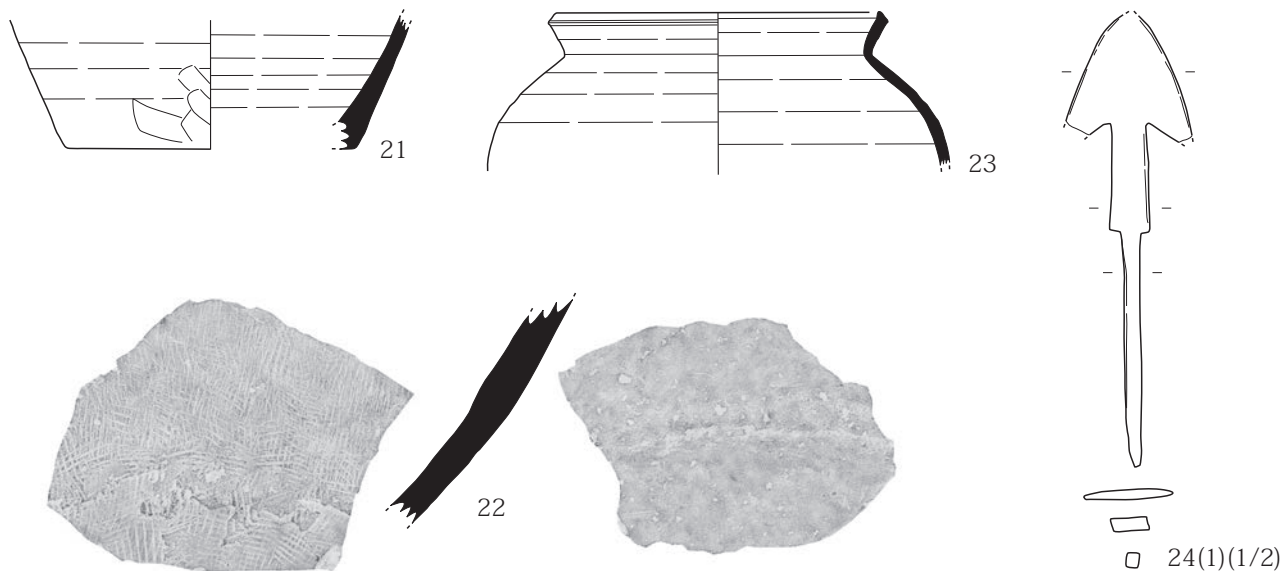
Y 6 号竪穴建物 (第 194 図)

T 19 グリットで検出された。壁残高 0.32 m の規模である。H40、125、127 に切られる。他遺構との重複により遺構の全容は不明である。ピットは 1 基検出されたが性格は不明である。調査範囲内に炉は存在しない。

遺物は弥生土器が出土している。器種的には甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。



第119図 H88号竪穴建物(1)



第120図 H88号竪穴建物(2)

Y 7号竪穴建物(第195図)

B 13グリットで検出された。N-97°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.64 m、短軸長2.68 m、壁残高0.52 m、面積9.28㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H50に切られる。ピットは6基検出されたが支柱穴は判然としない。東壁下に構築された2基のピットは本址に伴うものではなく、本址に先行するものである。遺構中央東寄りの位置に土器敷炉が構築されていた。炉体で使用されたのは9の壺底部である。

遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には甕、鉢、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と思われる。

Ta1号竪穴建物(第196図)

M13グリットで検出された。N-9°-Eに長軸方位をとる。長軸長4.36 m、短軸長1.76 m、壁残高0.52 m、面積7.33㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H119に切られる。ピット等の付属施設は皆無である。

遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、片口鉢、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

Ta2号竪穴建物(第197・198図)

N 21グリットで検出された。N-97°-Eに長軸方位をとる。長軸長4.88 m、短軸長3.48 m、壁残高0.52 m、面積16.04㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H26、31、110、111、114を切る。ピット等の付属施設は皆無である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、土製品が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、横瓶、羽口が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀後半の所産と思われる。

Ta3号竪穴建物(第199図)

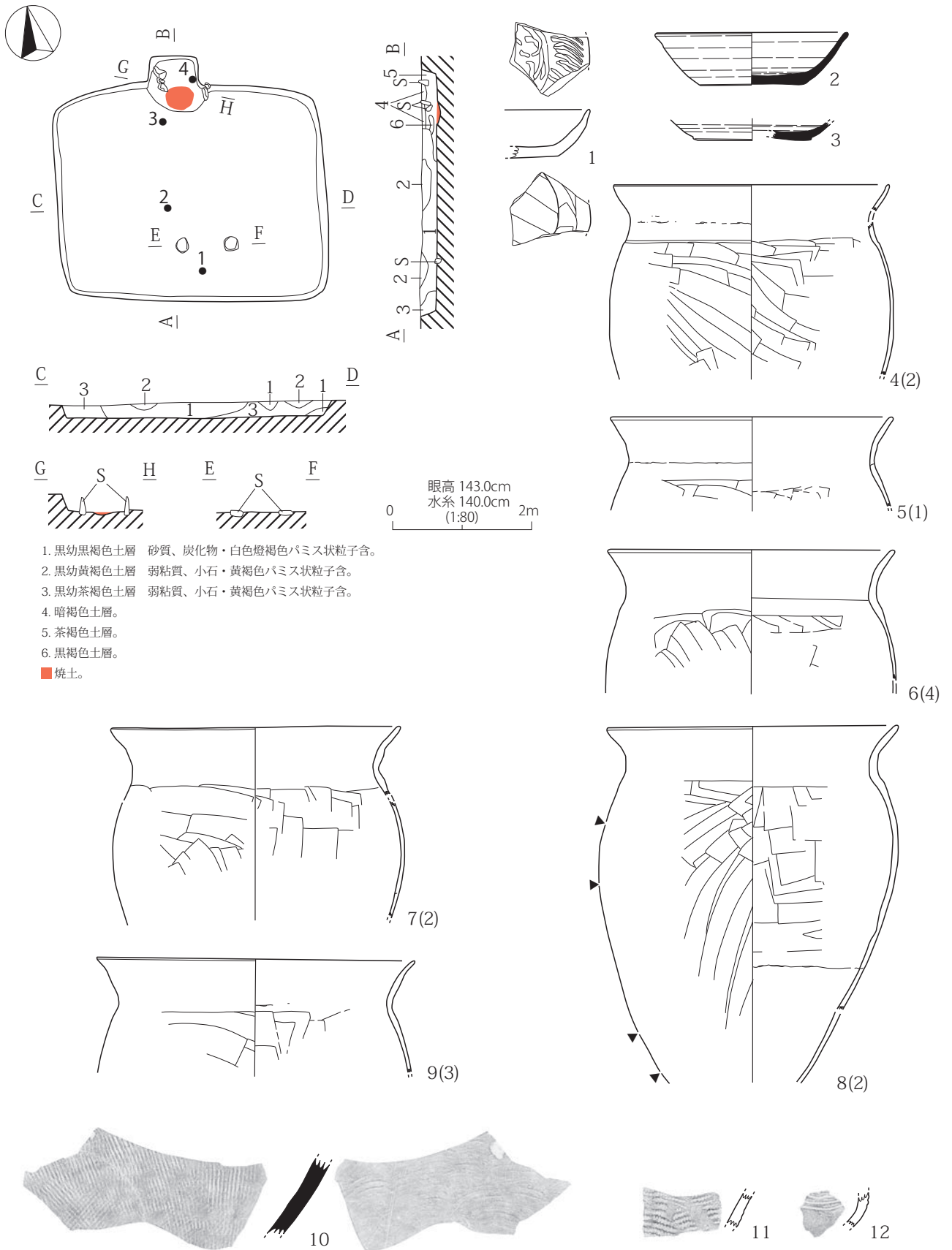
P 17グリットで検出された。N-12°-Eに長軸方位をとる。長軸長5.88 m、短軸長3.12 m、壁残高0.60 mの規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H54、109、112に切られる。ピット等の付属施設は皆無である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。遺構の重複関係から本址は8世紀第I四半期以前の所産と思われる。

Ta4号竪穴建物(第200図)

N 14グリットで検出された。N-13°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.16 m、短軸長1.72 m、壁残高0.24 m、面積3.37㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H27、119を切る。ピットが1基検出されているが性格は不明である。

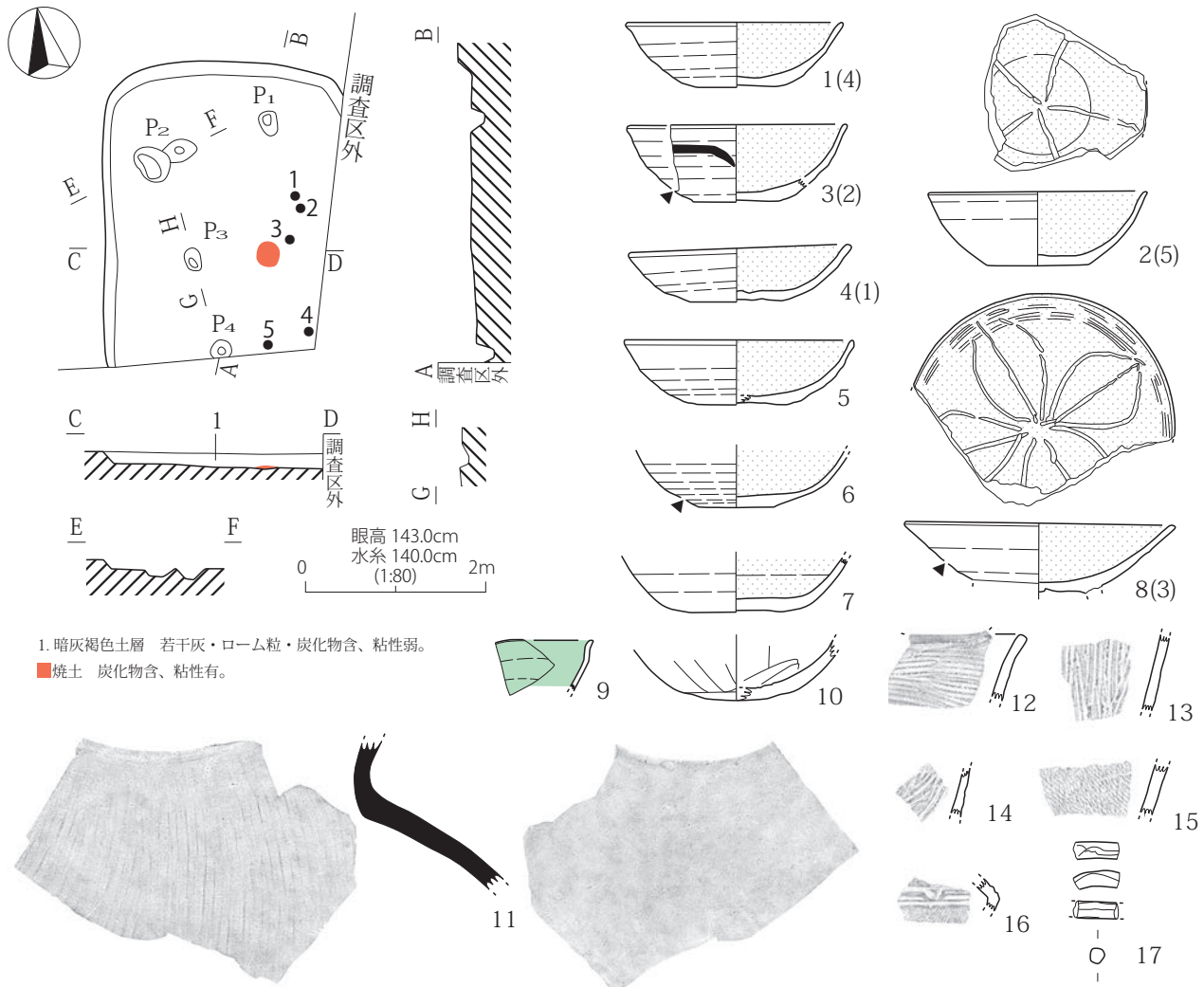
遺物は土師器坏が1点出土しているが、本址の所産期を比定しうるものではない。遺構の重複関係から本址は10世紀前半以降の所産と思われる。



第 121 図 H89 号竪穴建物

Ta5 号竪穴建物 (第 201 図)

K 13 グリットで検出された。壁残高 0.32 m の規模である。不整形の平面形状を呈し、H27、107 に切られる。ピットが 1 基検出されているが性格は不明である。



第 122 図 H90 号竪穴建物

遺物は土師器坏が 1 点出土しているが、本址と重複する H107 に帰属するものと思われる。遺構の重複関係から本址は 6 世紀後半以降の所産と思われる。

第 2 節 掘立柱建物

F 1 号掘立柱建物 (第 202 図)

A 12 グリットで検出された。N-75°-W に長軸方位をとる。桁行長 8.60 m、梁間長 5.30 m、面積 45.58㎡、桁行柱間寸法 4.20 ~ 4.40 m の規模である。2 間×1 間の側柱形態で、H5 を切る。

出土遺物は皆無である。遺構の重複関係から本址は 6 世紀前半以降の所産と思われる。

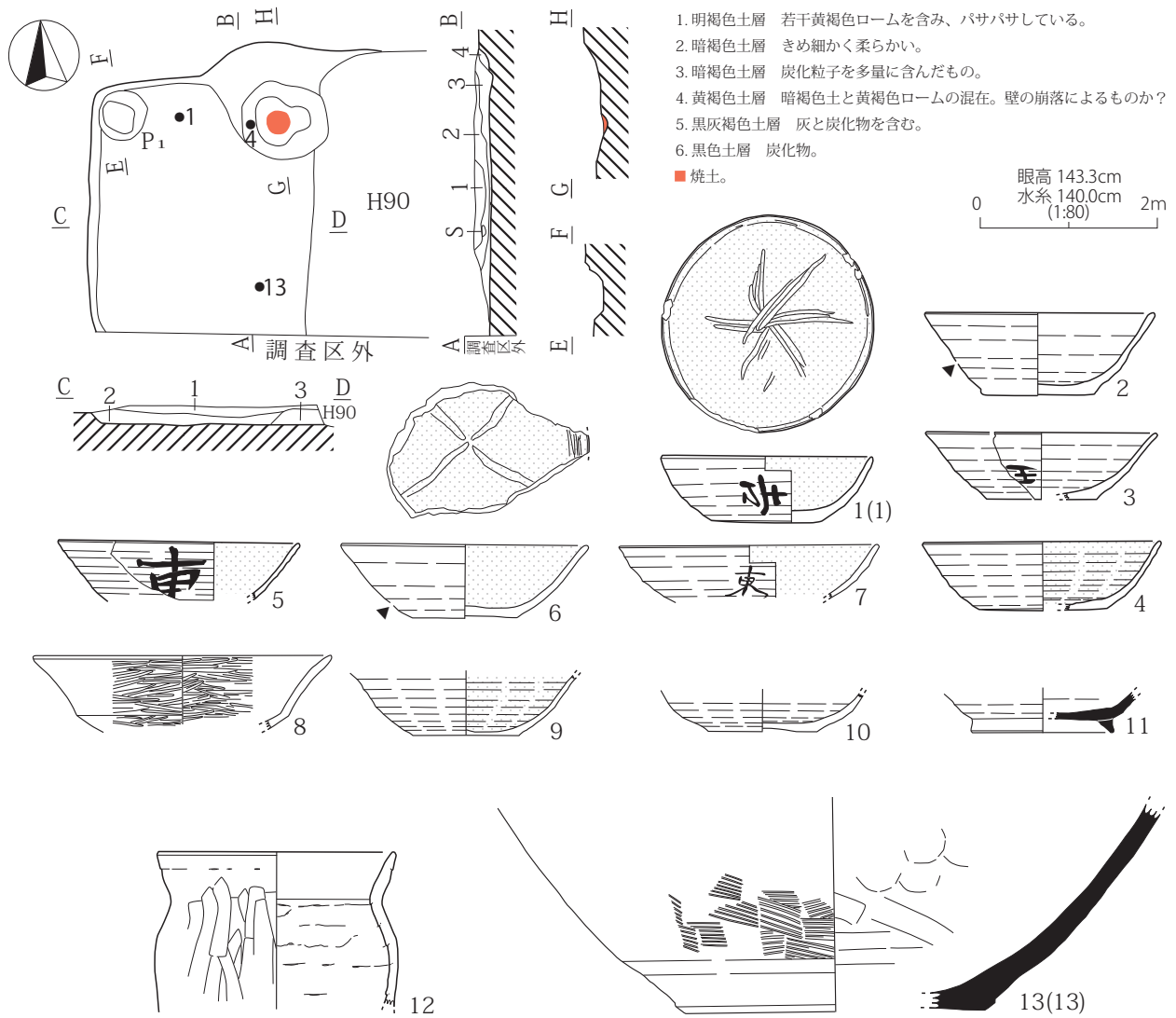
F 2 号掘立柱建物 (第 203 図)

O 11 グリットで検出された。N-25°-W に長軸方位をとる。桁行長 3.40 m、梁間長 3.10 m、桁行柱間寸法 1.70 m、梁間柱間寸法 1.50 ~ 1.70 m の規模である。2 間×2 間の側柱形態で、H32、33、34 を切り、H122 に切られる。

出土遺物は皆無である。遺構の重複関係から本址は 6 世紀前半以降、8 世紀第 I 四半期以前の所産と思われる。

第 3 節 土坑

D 1 号土坑~D 11 号土坑 (第 204 ~ 214 図)



第123図 H91号竪穴建物

詳細については計測表を参照願いたい。出土遺物は皆無であり、所産時期、性格は不明である。M14 グリット付近に集中する傾向が認められる。

第4節 ピット

P 1～P 16 (第215～216図)

詳細については計測表を参照願いたい。出土遺物は皆無であり、所産時期、性格は不明である。

第5節 溝址

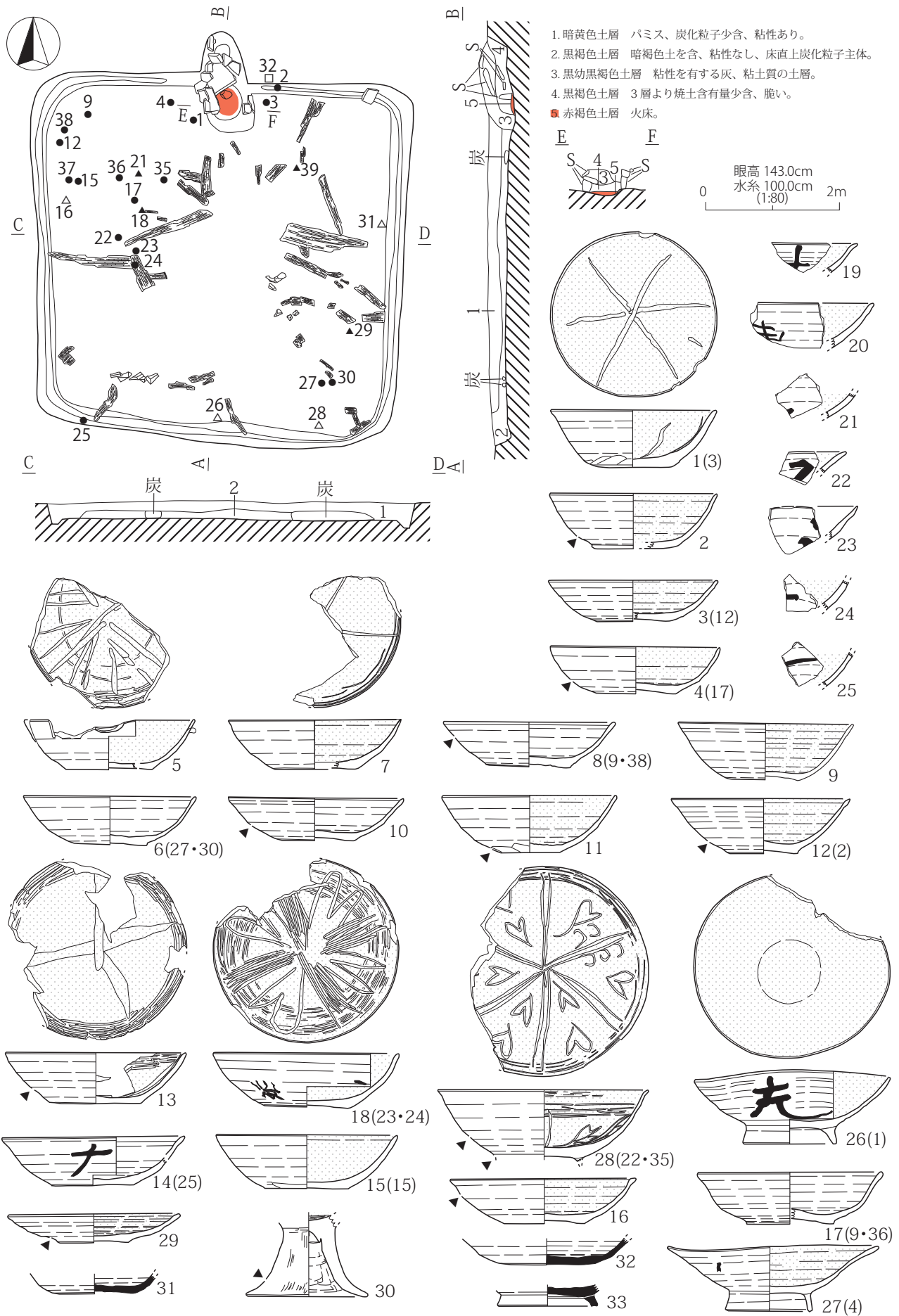
M 7～M 9 (第217～219図)

I11 グリット付近にM7が展開している。遺構図面は存在しないが出土遺物が存在するため、溝址出土遺物として掲載する。重複する遺構に帰属するものも少なからず存在するであろう。

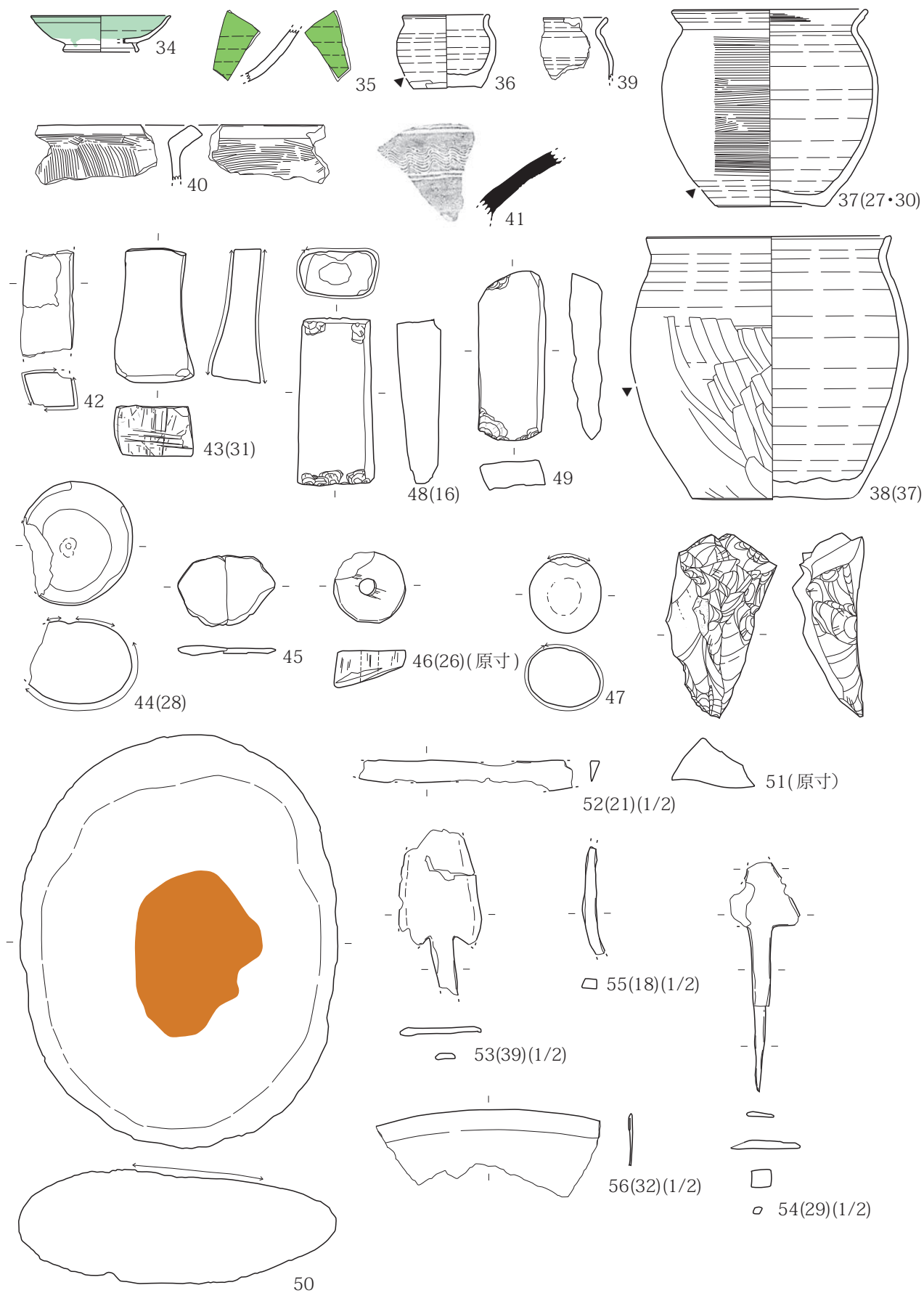
第6節 遺構外出土遺物

縄文土器 (第220図)

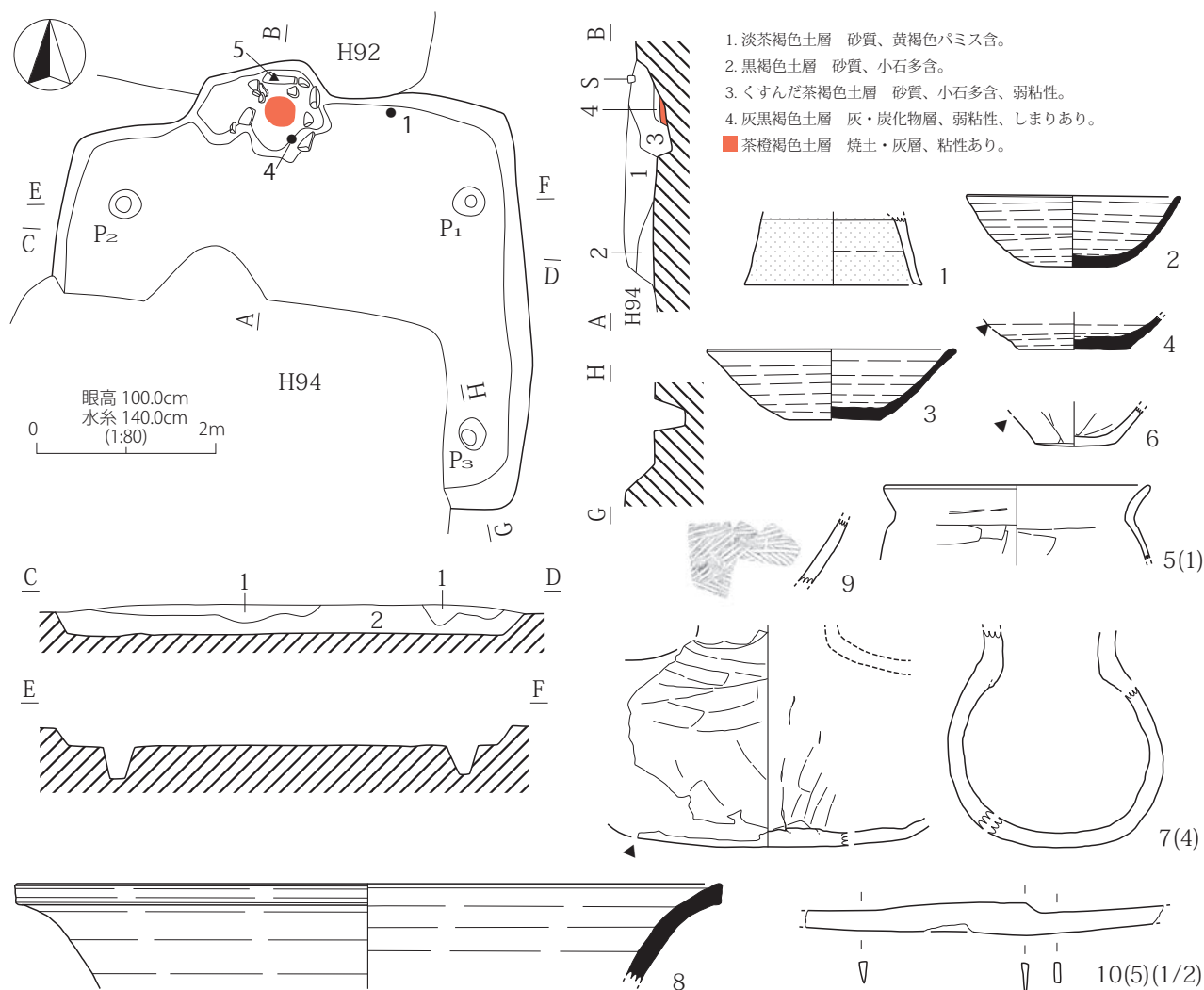
早期楕円押型文土器片が1点出土している。



第 124 図 H92 号竪穴建物 (1)



第125图 H92号竖穴建物(2)



第 126 図 H93 号竪穴建物

弥生土器 (第 220 図)

前期の土器片が比較的まとまって出土している。条痕文が施されるものが大半を占めている。細密なものが占める割合が多いように思われる。その他の文様が施される土器は、口縁部に沈線文が施されるものや、口唇部への加飾が施されるもの、単軸絡条体の撚糸文が施されるものなどが認められる。器種的には甕と壺が存在する。中期後半栗林式の土器片も 21 や 73、76 などのような壺片が認められる。

土師器 (第 220 ~ 222 図)

5 世紀末から 10 世紀にかけてのものが出土している。器種的には坏、椀、皿、耳皿、高坏、甕、壺、甑、羽釜などが認められる。墨書が認められるものや (17、40、44、45)、他地域から搬入されたもの (65) なども存在する。基本的には遺構内出土遺物の内容を反映した土器群である。

須恵器 (第 222 ~ 223 図)

土師器同様に 5 世紀末から 10 世紀にかけてのものが出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、高坏、甕、壺が認められる。

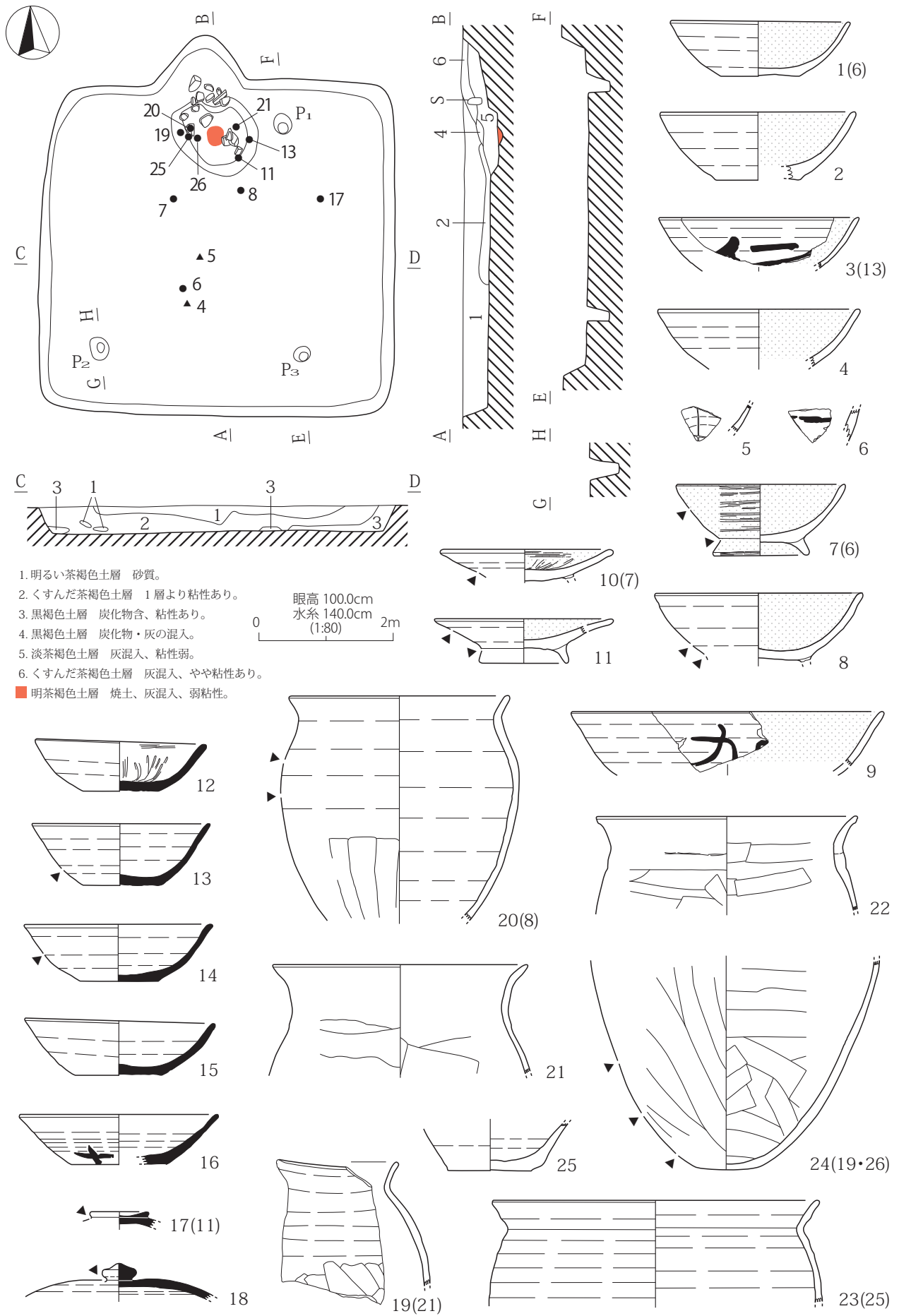
灰釉陶器、緑釉陶器、青磁 (第 223 図)

年代的には 10、11 世紀の灰釉陶器、緑釉陶器と、15 世紀の青磁である。注目すべきものとして、11 の灰釉陶器平瓶片がある。沈線により斜位の格子が描かれており、諏訪市金鑄場遺跡出土品の様な鳥を意匠としたものかもしれない。

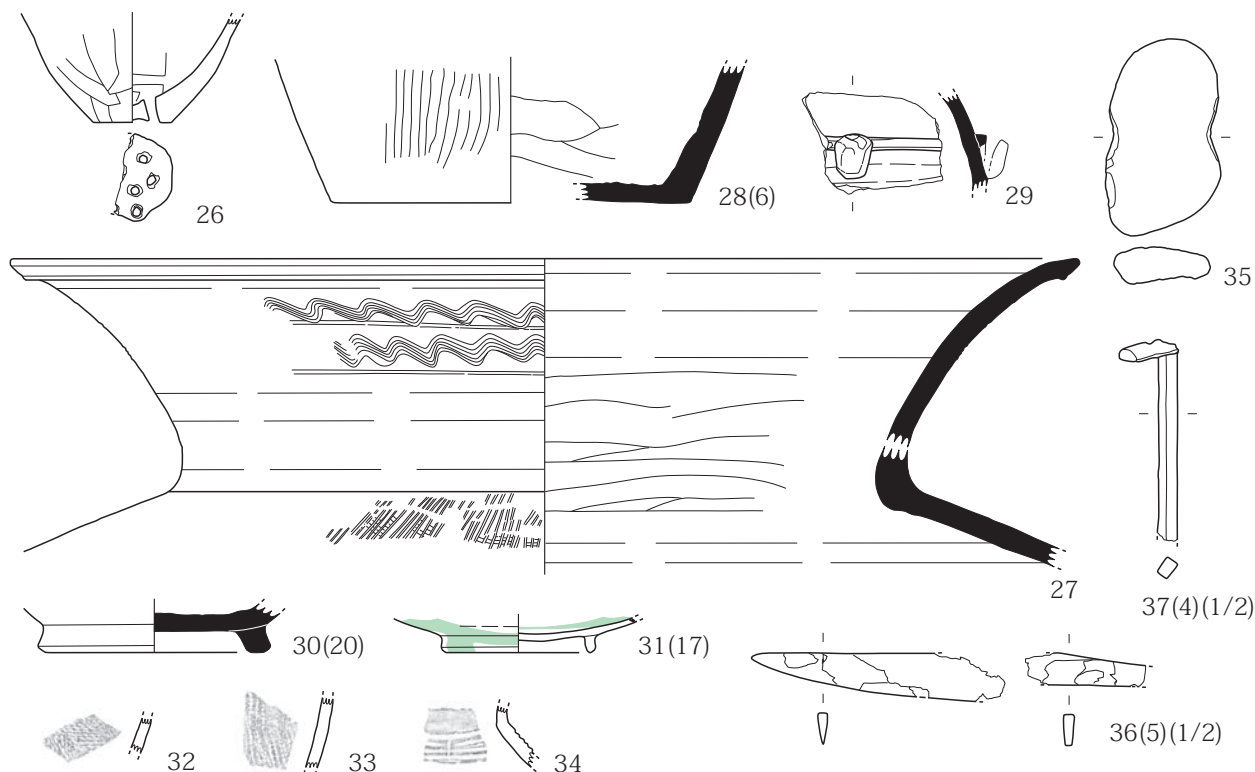
土製品 (第 223 図)

土器片円盤が 2 点出土している。

石器、石製品 (第 223 ~ 224 図)



第127図 H94号竪穴建物(1)



第128図 H94号竪穴建物(2)

打製石斧・打製石鏃・石錐・石匙・二次加工のある剥片などのような打製の石器、白玉・管玉などの玉類、凹石・磨石・敲石・編物石などのような礫を用いた石器、石製模造品の原材、硯などが出土している。

金属器・金属製品 (第224図)

鉄製の刀子、鏃、角釘、銅銭が出土している。

第V章 まとめ

西八日町の調査が行われたのは昭和58年であり、今から38年以上前になる。当時これほど大規模な古代集落の調査が県内で実施された例は稀有であったろう。出土品は貴重なものも多く含まれており、報告書が刊行出来なかったことが悔やまれる。以下各時代毎に若干の総括を記述していく。

縄文時代の遺物は楕円押型文が施される深鉢片が1点認められるだけなので節は設けない。

第1節 弥生時代

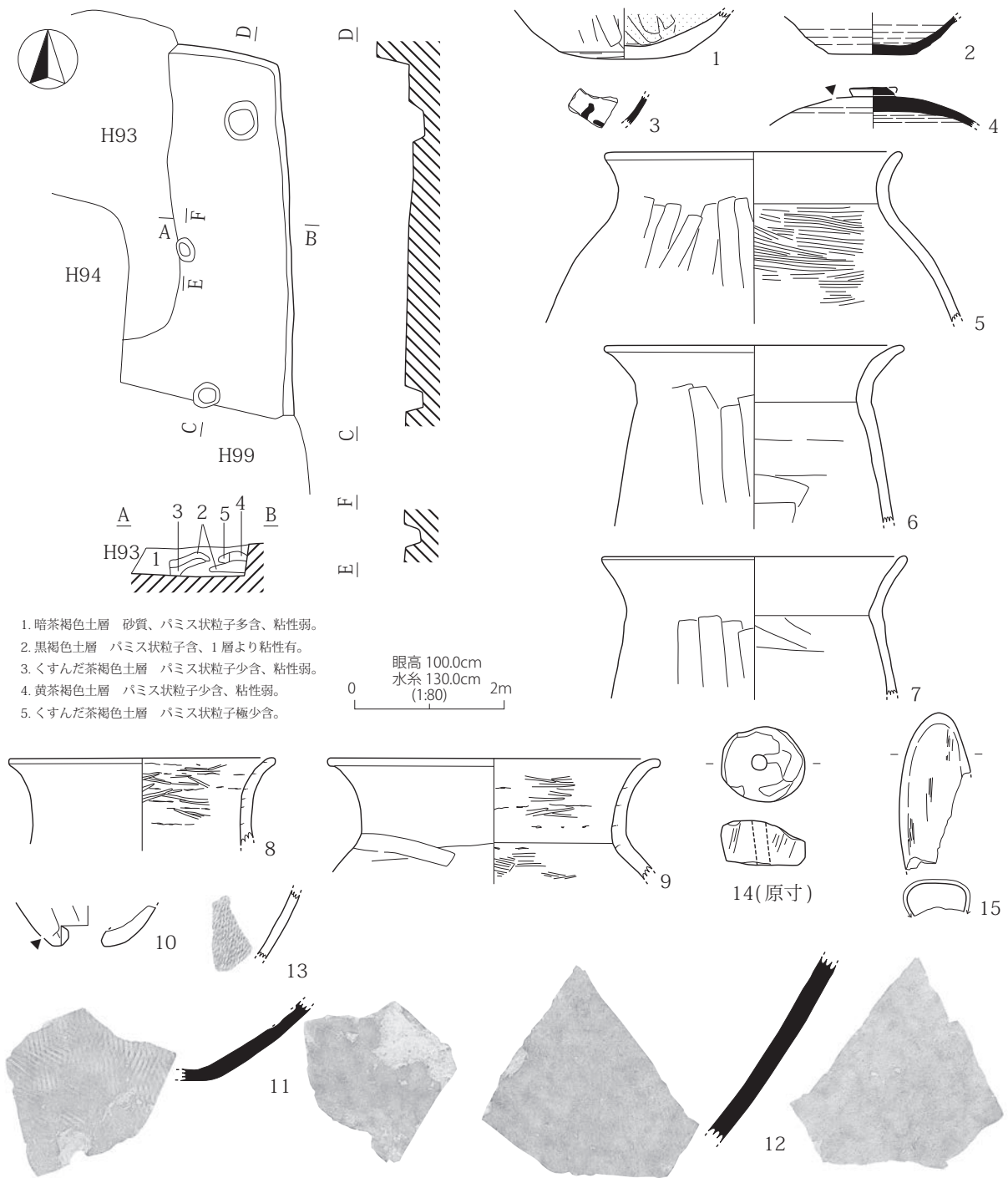
前期

伴うべき遺構は、後世の遺構により破壊され存在しなかったが、弥生時代前期の土器片が、古墳時代以降の竪穴建物の覆土や遺構外から出土している。条痕文が施されるものが大半であるが、その全てを図化したわけではない。第225、226図に主だったものを集成し大別した。(図に遺構名がないものはグリット出土遺物である)

I群は鉢を一括した。赤字のものは浮線文である。H103-32、35は内面に赤彩が認められる。

II群は壺を一括した。H90-16が浮線文の他は沈線文や、撚糸の単軸絡条体などが施される。赤彩が認められるものも少なくない。

III群は口縁部に数条の沈線が巡る甕である。内面にも沈線が巡るものは少数である。沈線は棒ないし竹管の



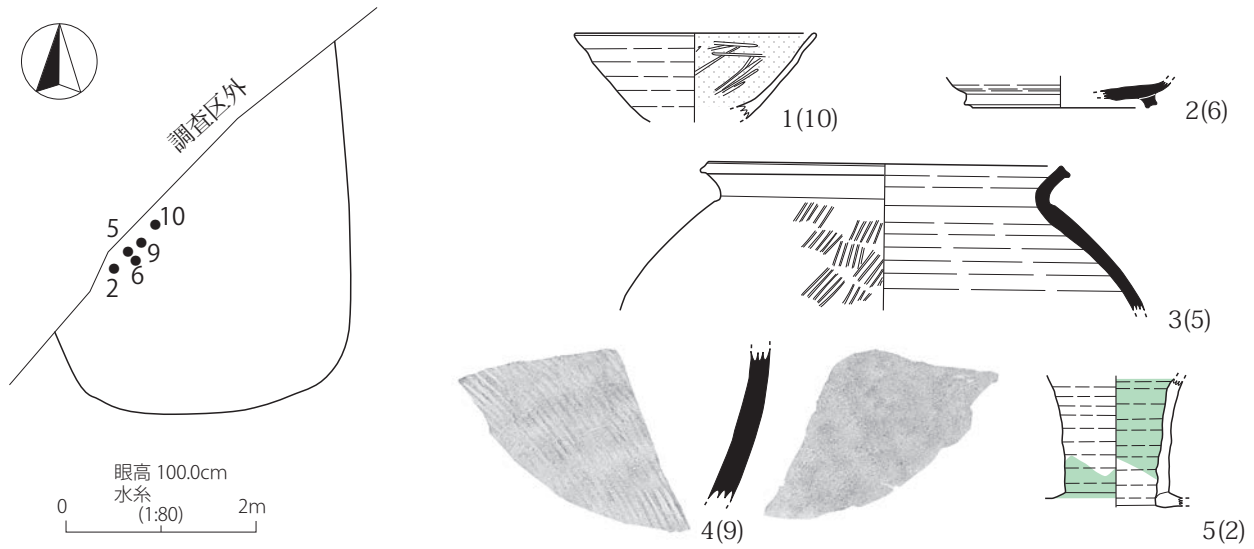
第129図 H95号竪穴建物

背のようなもので描かれるものが大半である。平縁の他に波状のものも認められる。

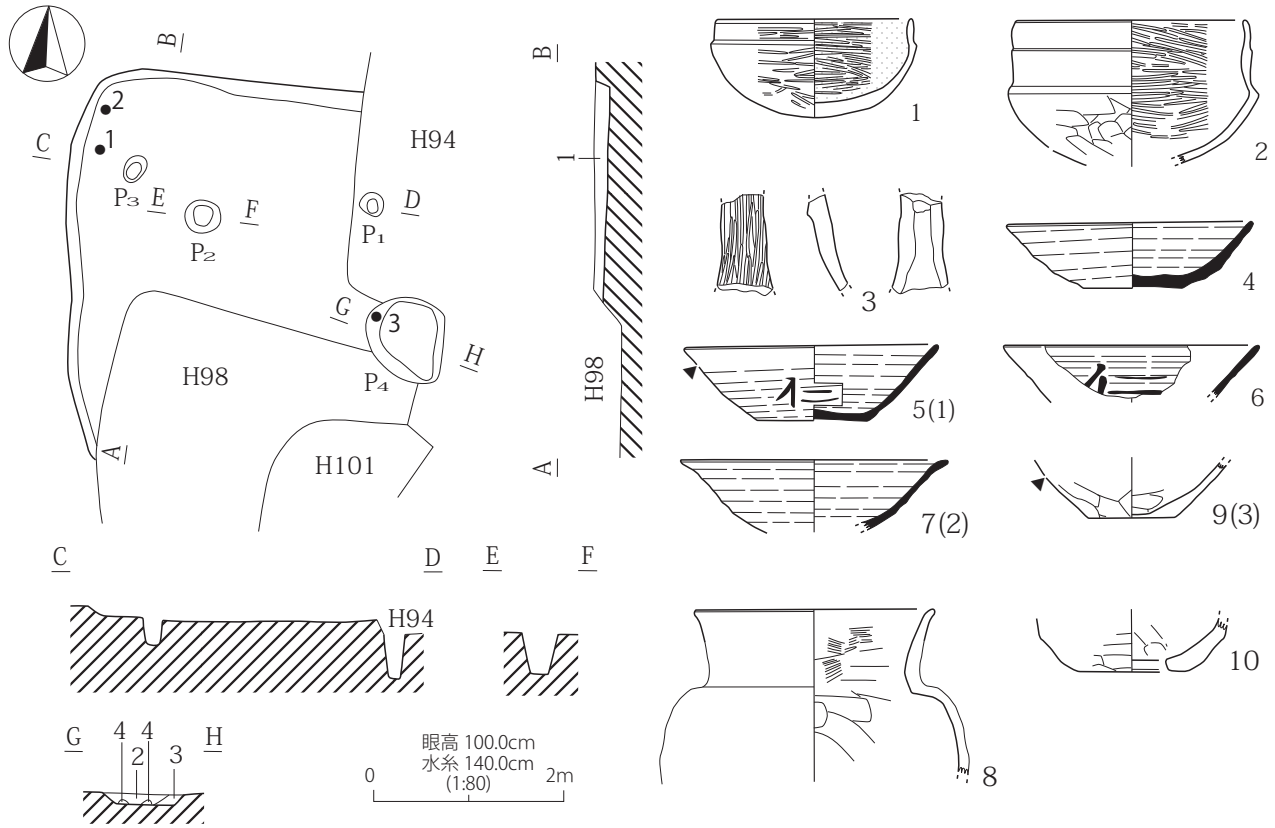
IV群は口外帯をもつものや、口唇部に刻みが施されるもの、口唇部に押捺や刻目が巡るものである。口縁部は平縁と波状のものがあり、条痕が施されるものも多い。無文のものも頸部下には条痕を有するものと思われる。

V群は条痕文が施されるものである。IV群の頸部下のものも含まれている。口縁部が存在するものは、残存部には加飾は認められないが、刻み等が施されている可能性がある。グリット出土資料に1点のみ内外面に条痕が認められるものがある。

VI群は撚糸ないし縄文が施されるものである。撚糸は単軸絡条体である。県内の同時期の遺跡に比べ多めの出土量のように思われる。



第 130 図 H96 号竪穴建物



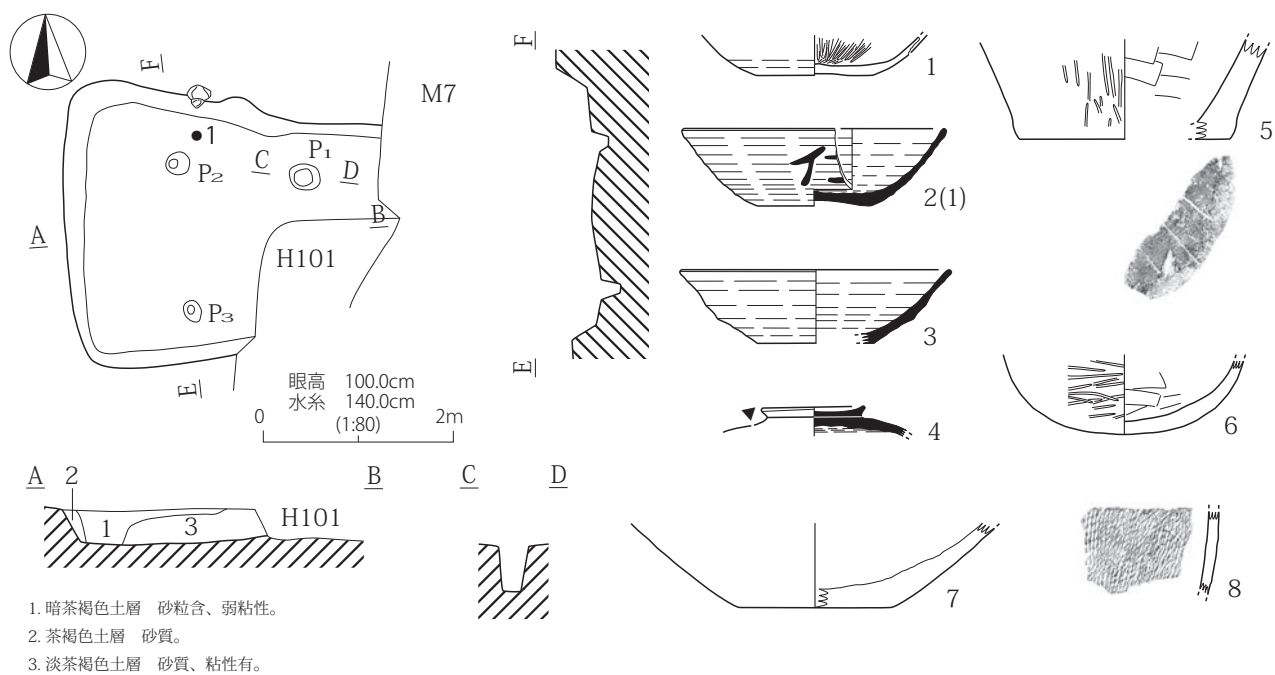
1. 灰茶褐色土層 パミス多含、粘性なし、しまり有。
2. 灰茶褐色土層 灰粒子と焼土多含、炭化物多少含、粘性なし、しまりなし。
3. 茶褐色土層 粒子細かく焼土粒子やや含、粘性やや有、しまり有。
4. 暗茶褐色土層 粒子は3層よりやや荒目で焼土粒子と灰粒子わずかに含、粘性なし、しまりなし。

第 131 図 H97 号竪穴建物

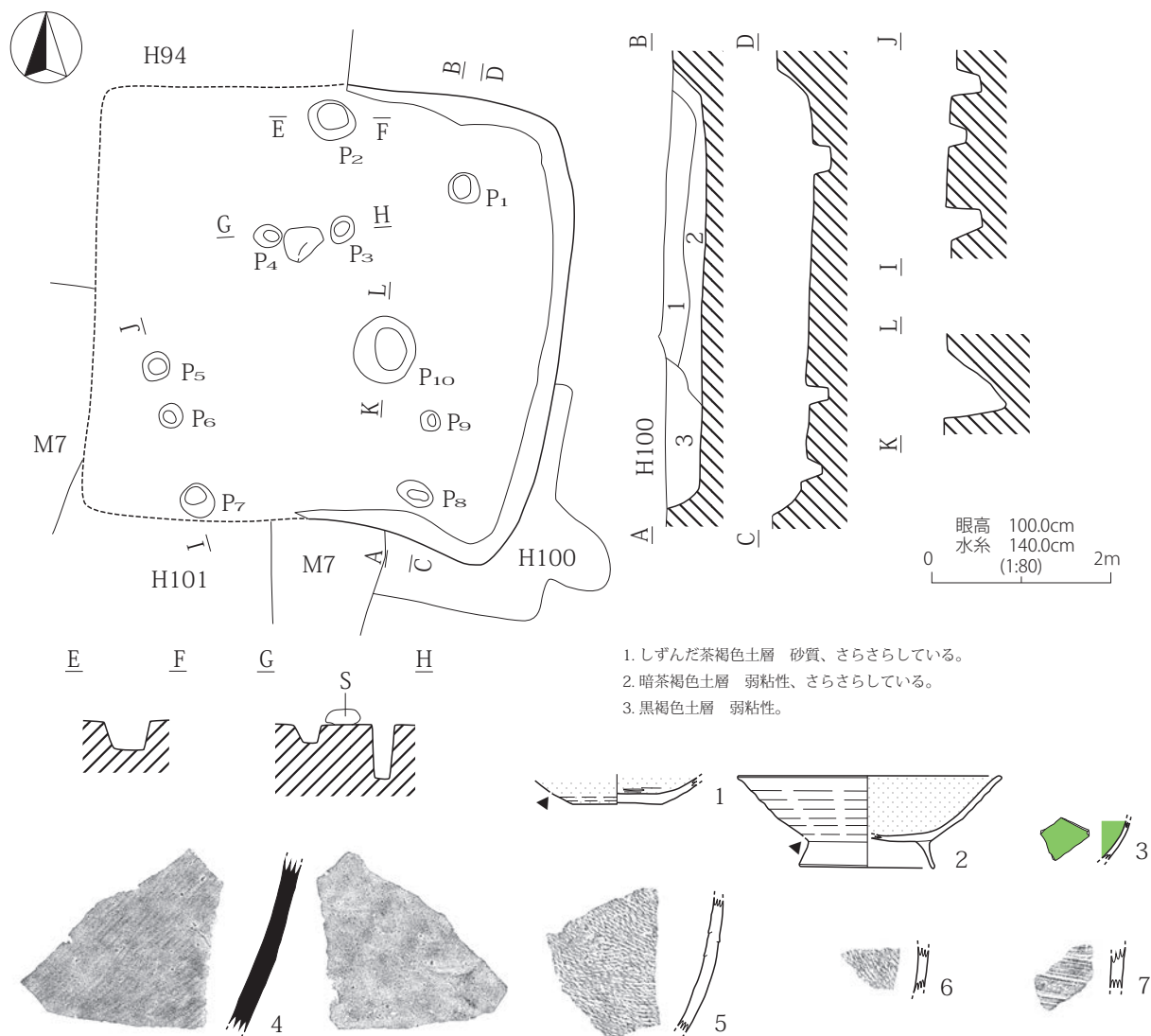
以上の土器群は中沢道彦の氷Ⅱ式に該当するものと思われる。当遺跡は湯川の河岸段丘上に立地しており、やや上流には下信濃石遺跡が存在する。長年の調査から、佐久市内では湯川流域と片貝川流域に弥生時代中期前半以前の遺跡が集中することが明らかになって来ている。

中期前半

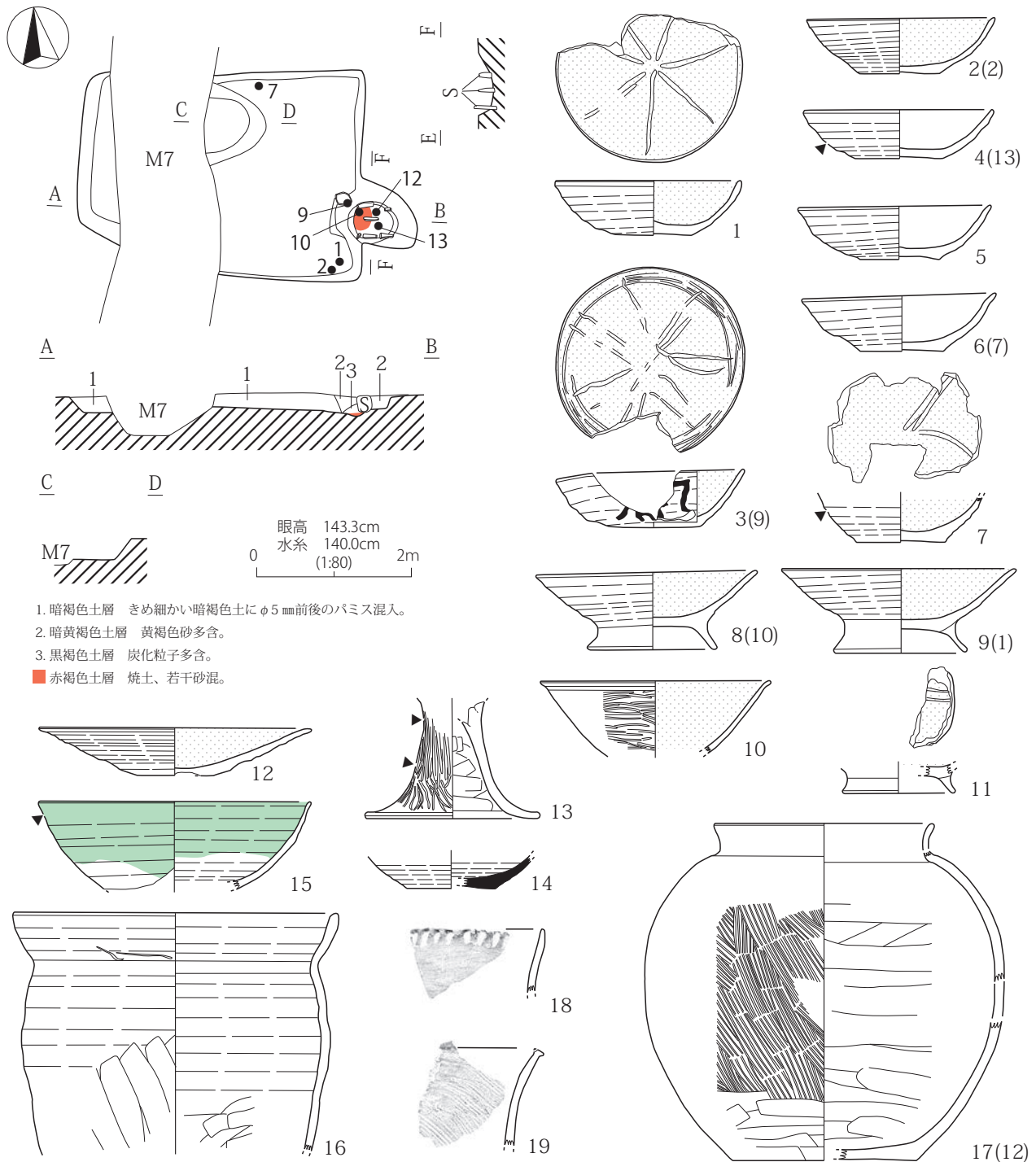
Ⅶ群とした土器は中期前半の資料と思われる。量的には少ないが、前期以降の人々の生活の痕跡が確認された。



第 132 图 H98 号竖穴建物



第 133 图 H99 号竖穴建物



- 1. 暗褐色土層 きめ細かい暗褐色土にφ5mm前後のパミス混入。
- 2. 暗黄褐色土層 黄褐色砂多含。
- 3. 黒褐色土層 炭化粒子多含。
- 赤褐色土層 焼土、若干砂混。

第 134 図 H100 号竪穴建物

中期後半

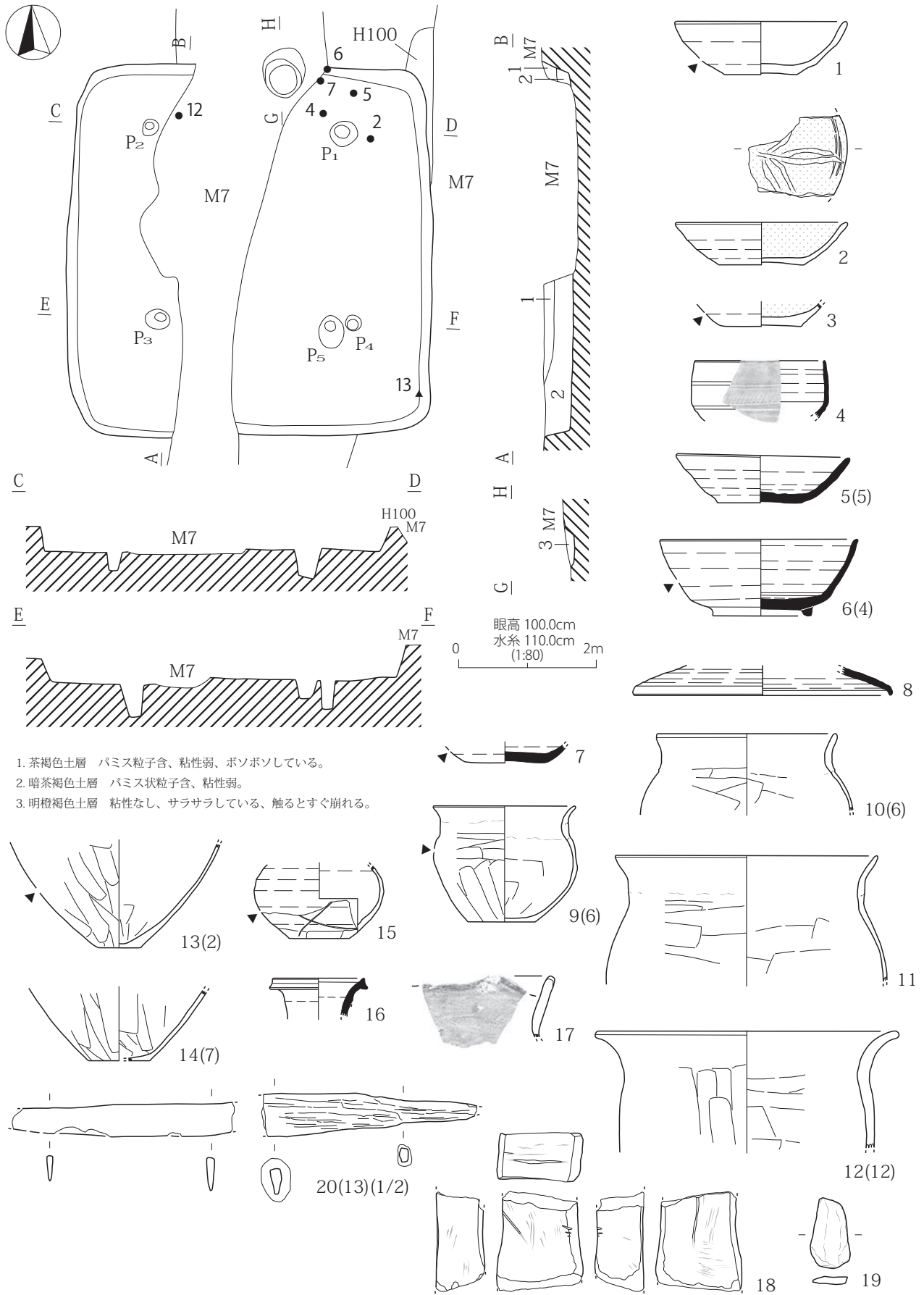
中期後半栗林以降については遺構も検出されており、西八日町遺跡では集落が成立していたことが明らかである。Y1・3・4号竪穴建物などが該当し、小山岳夫の中期後半Ⅱ期(1999、長野県考古学会)の所産と思われる。

後期

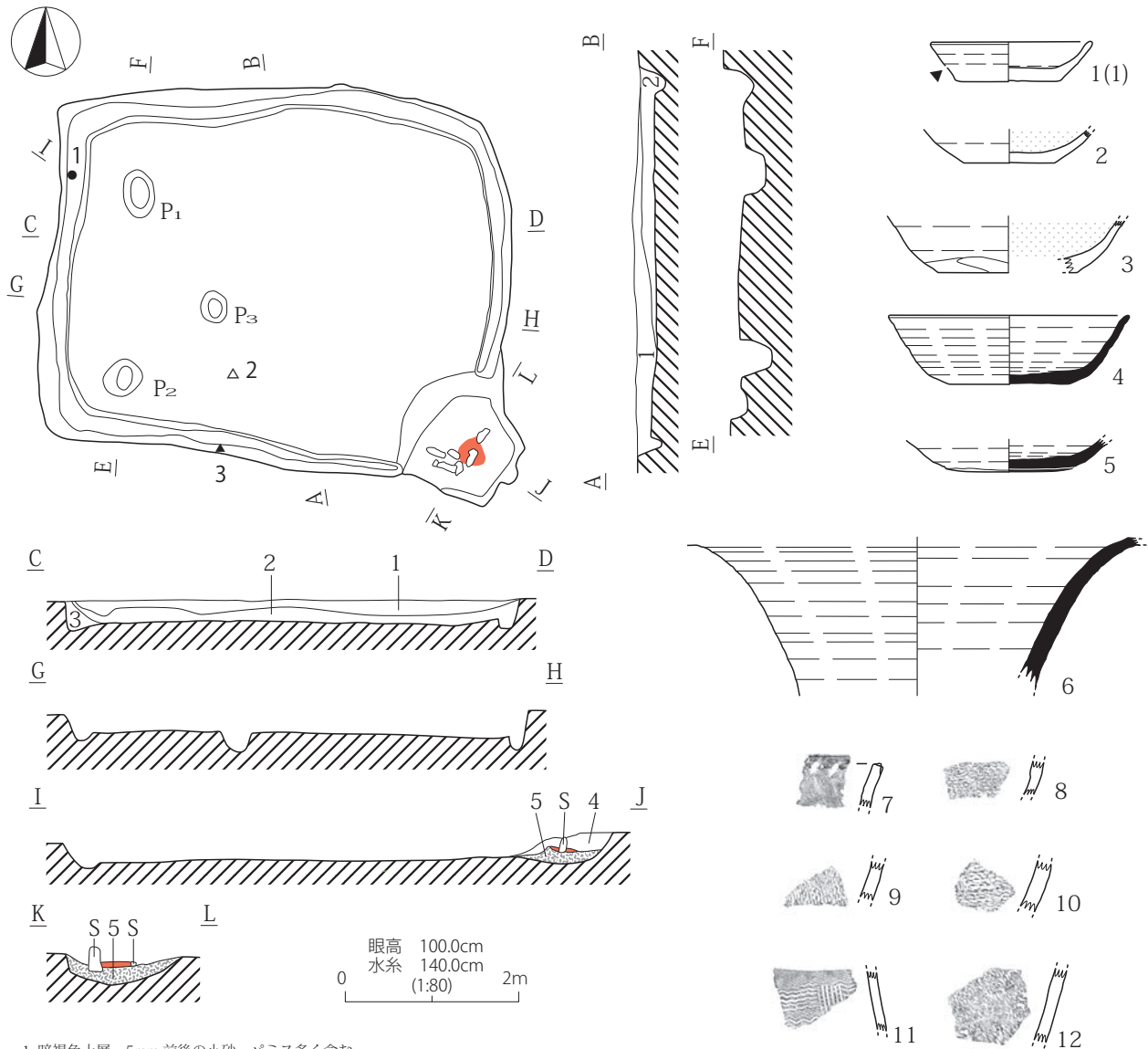
Y7号竪穴建物が該当する。時期的には小山岳夫の後期Ⅲ期(1999、長野県考古学会)の所産と思われる。

西八日町遺跡のⅦ次にあたる調査において、弥生時代の遺構は、本事例以外には第Ⅶ次調査で確認されているだけである。西八日町遺跡の弥生時代集落址は第Ⅰ・Ⅶ次調査範囲の西側に展開しているものと思われる。

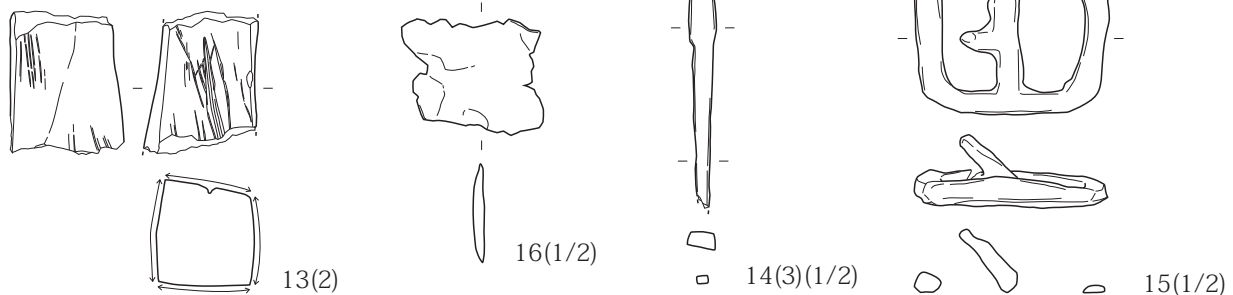
尚、Y3号竪穴建物から環状石斧片が出土している。佐久市では3例目の出土である。



第 135 図 H101 号竪穴建物



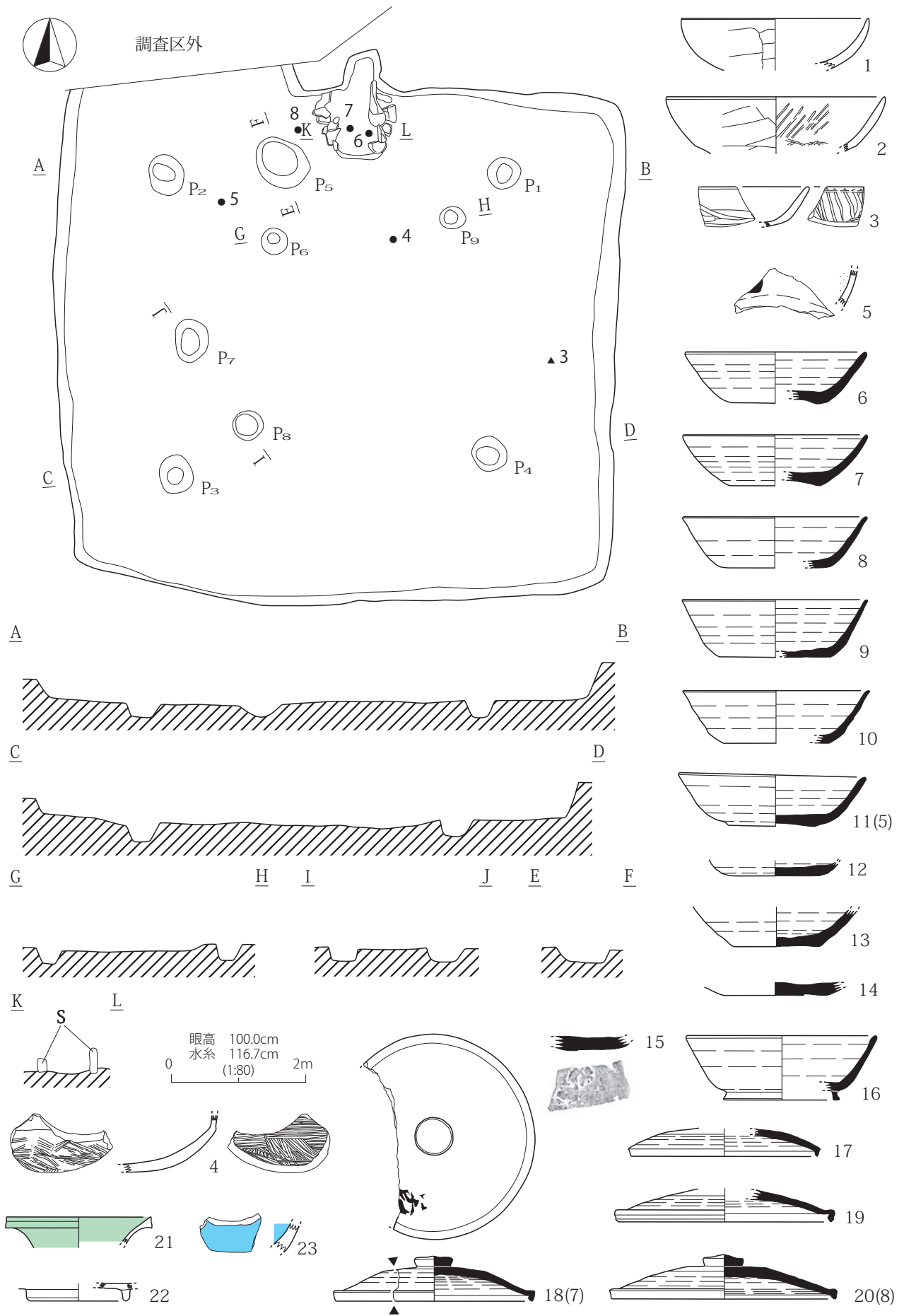
- 1. 暗褐色土層 5mm 前後の小砂、パミス多く含む。
- 2. 黒褐色土層 炭化粒子多量に含む、粘性あり。
- 3. 明褐色土層 ローム粒子若干含む。
- 4. 暗褐色土層 若干焼土粒子含む暗褐色土、きめ細かく粘性弱い。
- 5. 黒暗褐色土層 きめ細かくもろい、当カマドは火床が床面にくらべ 10cm 程高い。
- 焼土。



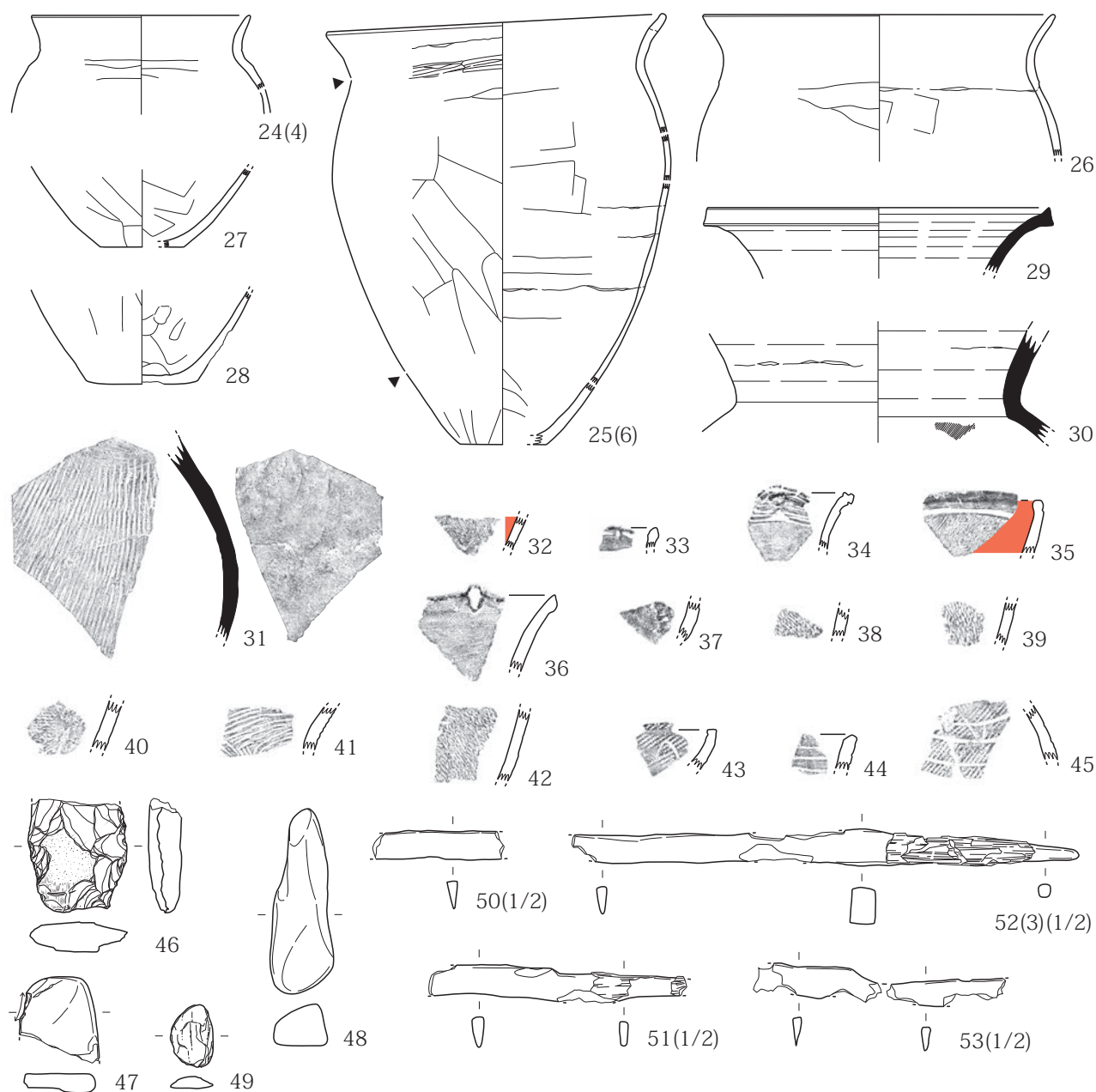
第 136 図 H102 号竪穴建物

第 2 節 古代

4 世紀や 5 世紀前半の遺構・遺物は確認されていない。集落が形成されるのは 5 世紀後半からである。これ以降は古墳時代を通じ集落は連綿と継続する。集落が終焉するのは 10 世紀後半である。鉄器・鉄製品は 5 世紀後半から認められる。器種的には古墳時代には刀子と鍬以外は認められない。奈良時代になると紡錘



第 137 图 H103 号竖穴建物 (1)



第 138 図 H103 号竪穴建物 (2)

車や釘が新たに加わり、量的にも増加する。平安時代に入ると、鎌や鋤先などの農具や斧、鋸、絞具、火打金具などが認められるようになり、量的にも更に増加する。銅製品は古銭も含め、10世紀前半に再利用のため板状に延ばされた銅碗片が1例認められるだけである。文字資料は基本的に古墳、奈良時代には認められない。古墳時代に刻書や朱書きの「×」が認められるだけである。平安時代に入ると朱墨が付着した土器や土器片が出土する。字は9世紀代には「仁」、「西永」、「本」、「百」、「用」、「加」、「生万」、「左」、10世紀前半には「安」、「千」、「回」、「吉」、「東」、「令」などが認められるが、判読できないものもある。

字ではないが、9世紀前半のH137からは馬と思われる絵が刻書された土師器皿が出土している。

土器の種類からは、緑釉陶器や白磁などの高級な焼き物が10世紀代には認められるようになる。

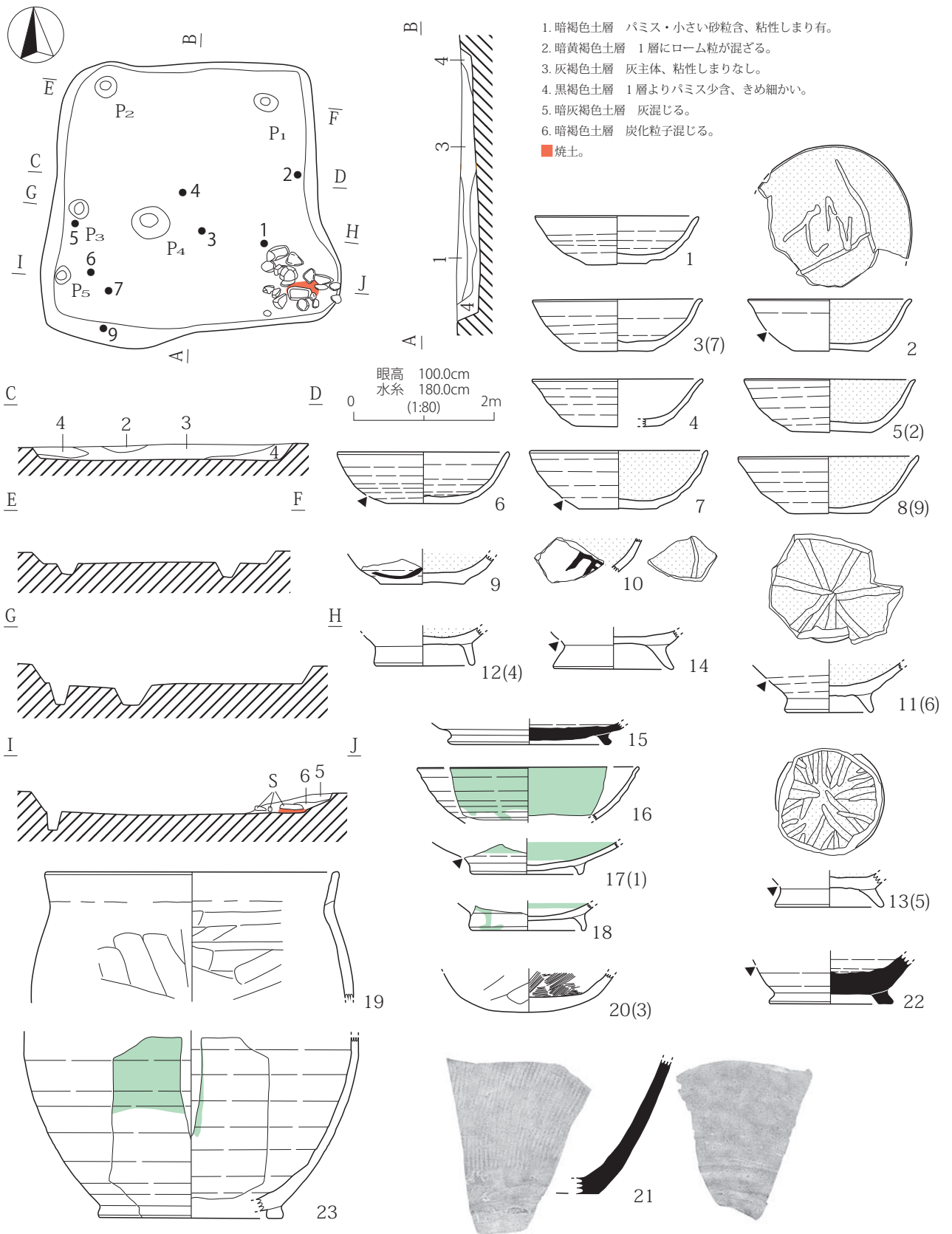
その他に、炭化した横櫛が7世紀代の竪穴建物址から出土している。状態が悪く図化不可能な状態であるが、貴重な出土例である。

竪穴建物の時期別軒数の推移は以下の通りである。

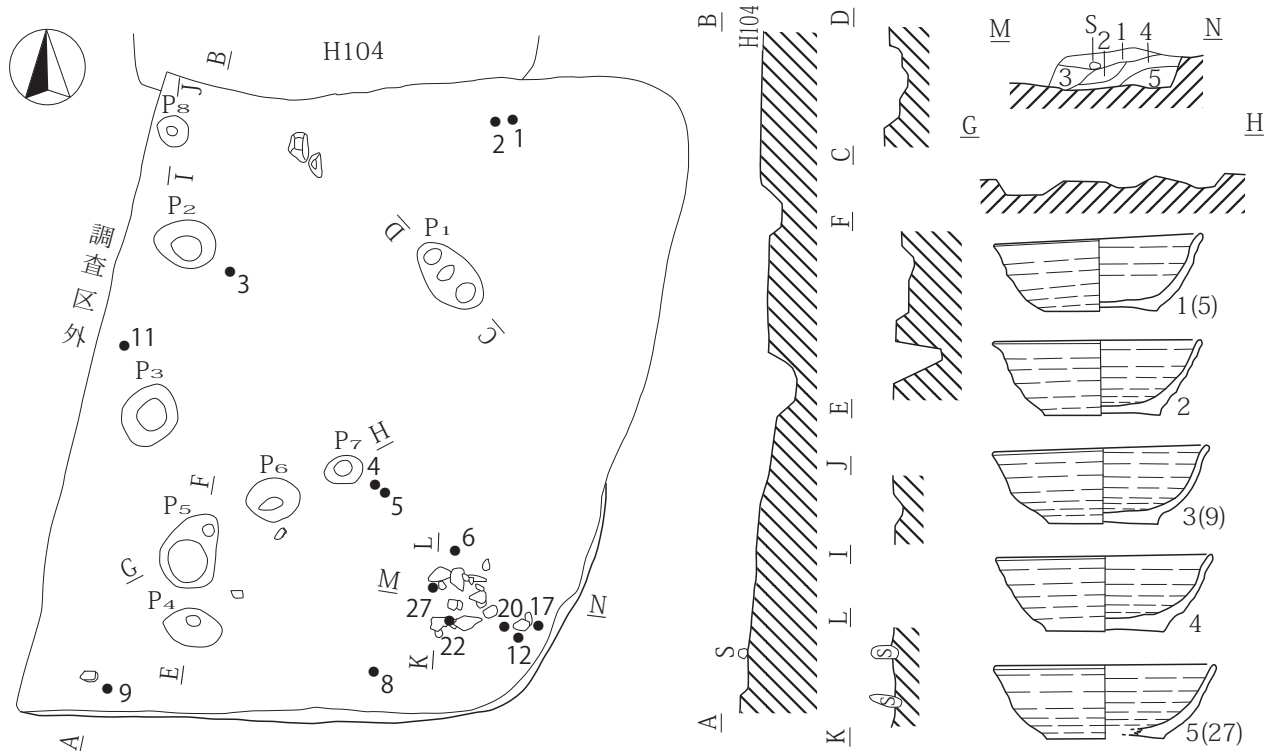
弥生時代中期後半 Y 1・2・3・4・6

弥生時代後期 Y 7

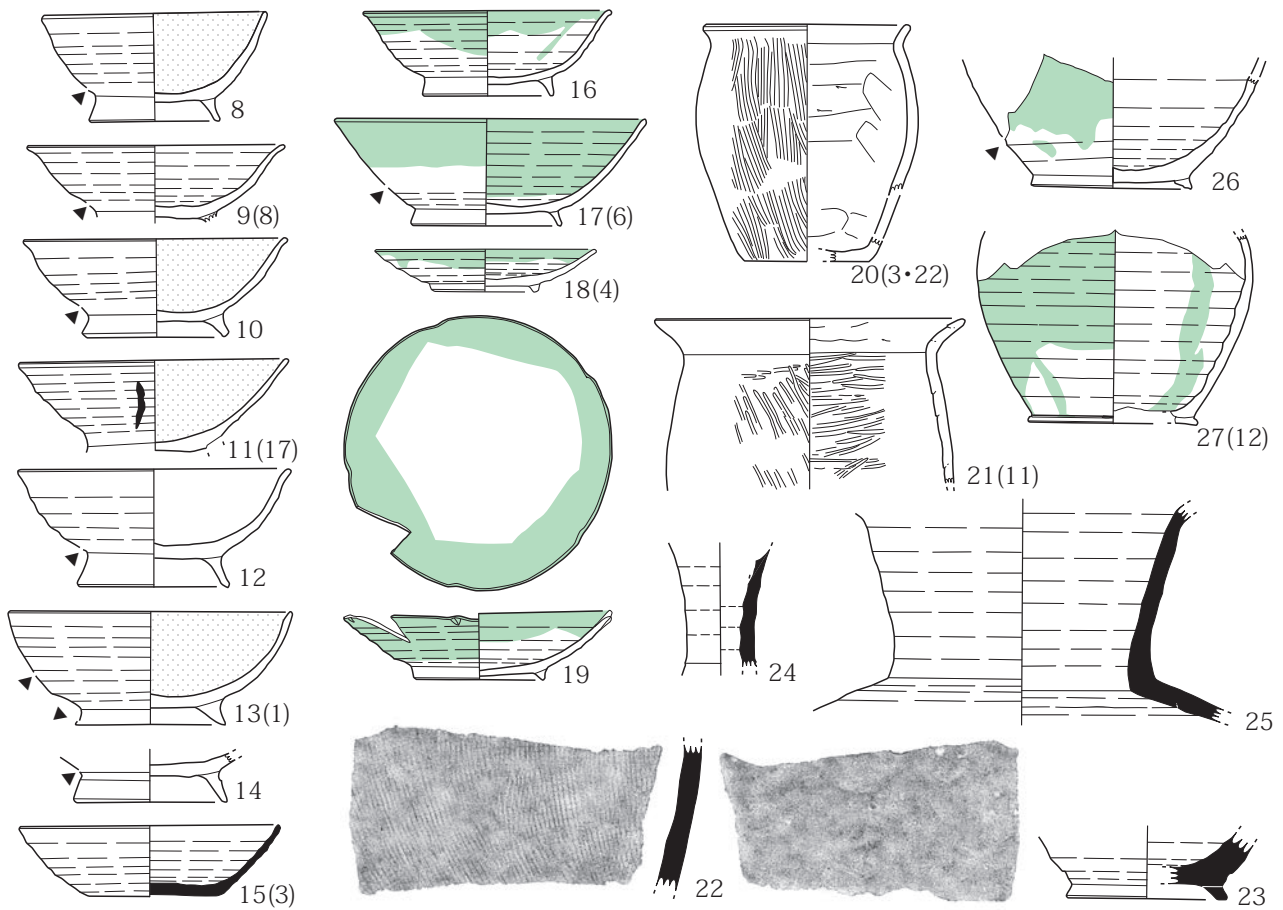
古墳時代5世紀後半 H 20・38・75



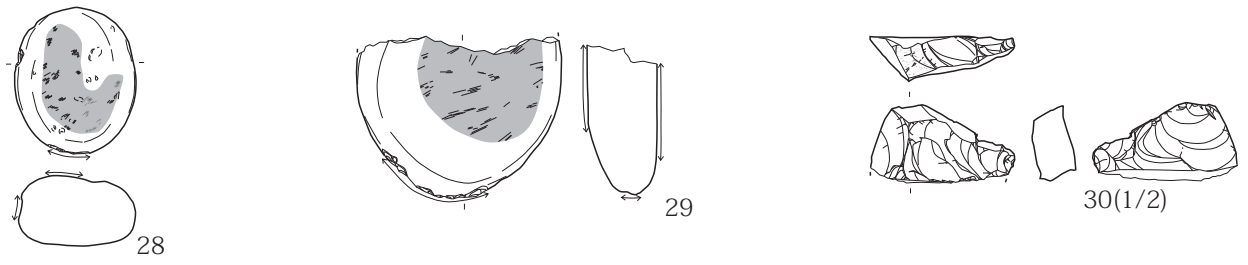
第 139 図 H104 号竪穴建物



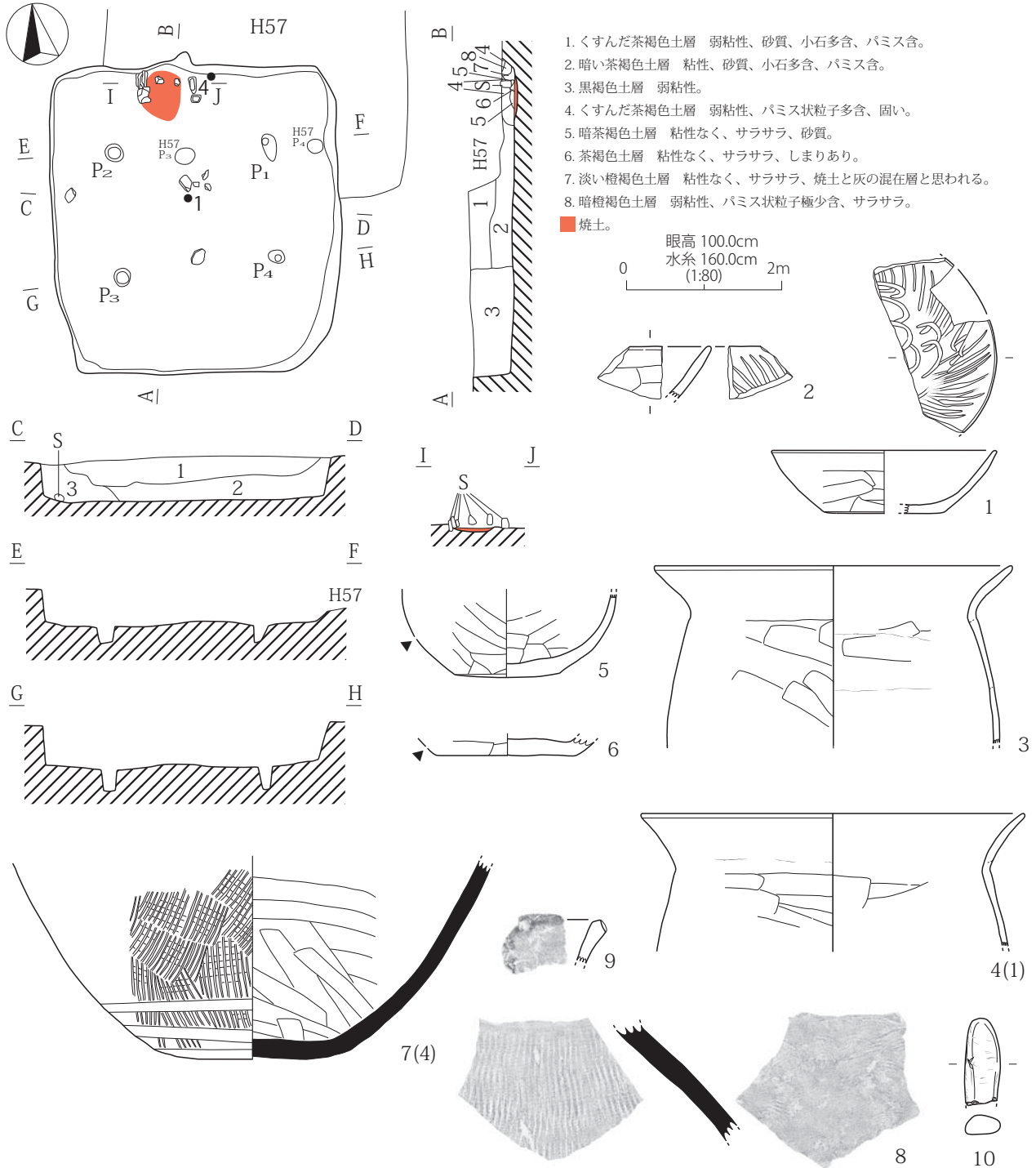
1. 茶褐色土層 細かいローム砂粒含、粘性弱し。
2. 暗赤褐色土層 焼土を多量に含む暗褐色土、粘性はあるがしまりなし。
3. 黒褐色土層 焼炭化粒子を多量に含む、暗褐色土で脆い。
4. 暗褐色土層 3層より少量の炭化粒子を含む。
5. 暗褐色土層 ローム砂を多含、1層と似る。



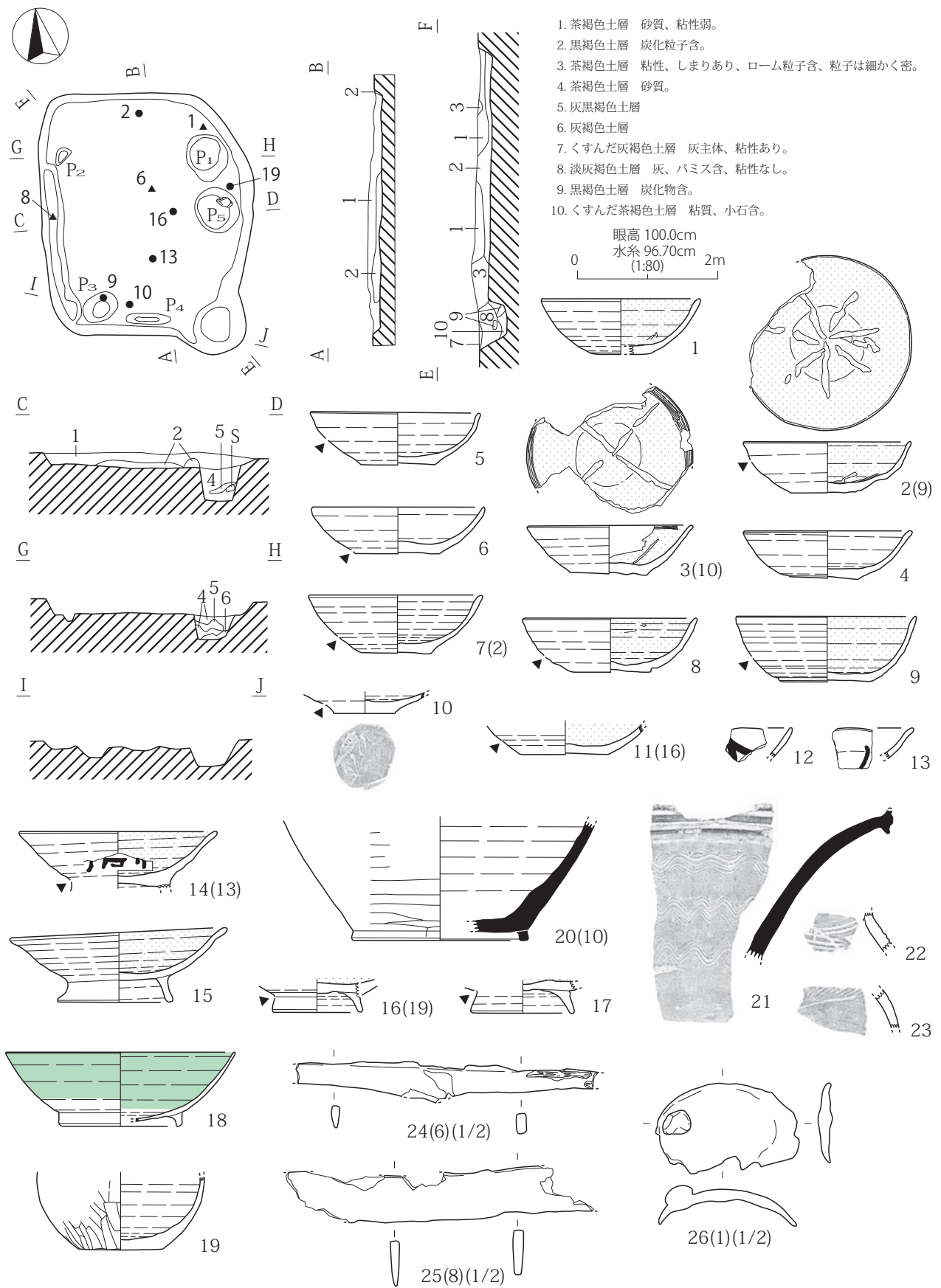
第140図 H105号竪穴建物(1)

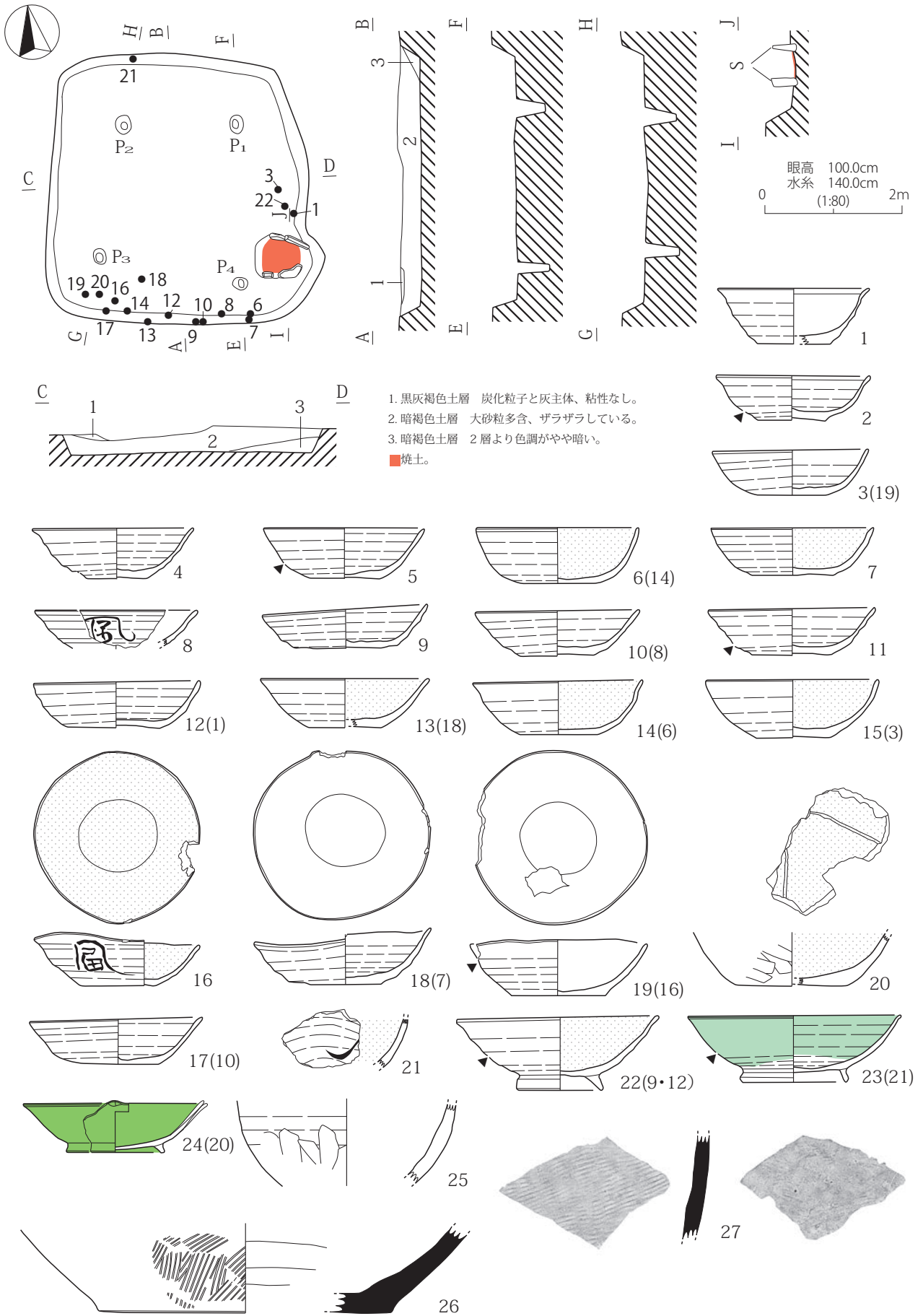


第 141 図 H105 号竪穴建物 (2)

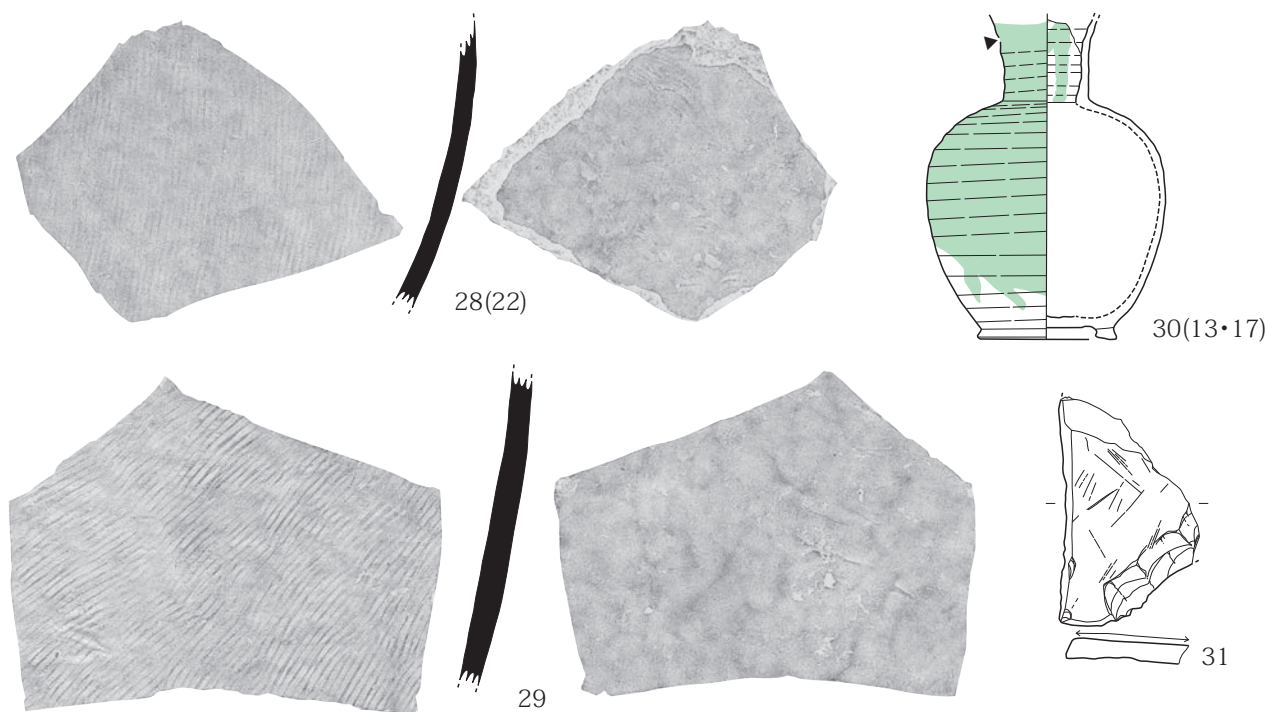


第 142 図 H106 号竪穴建物





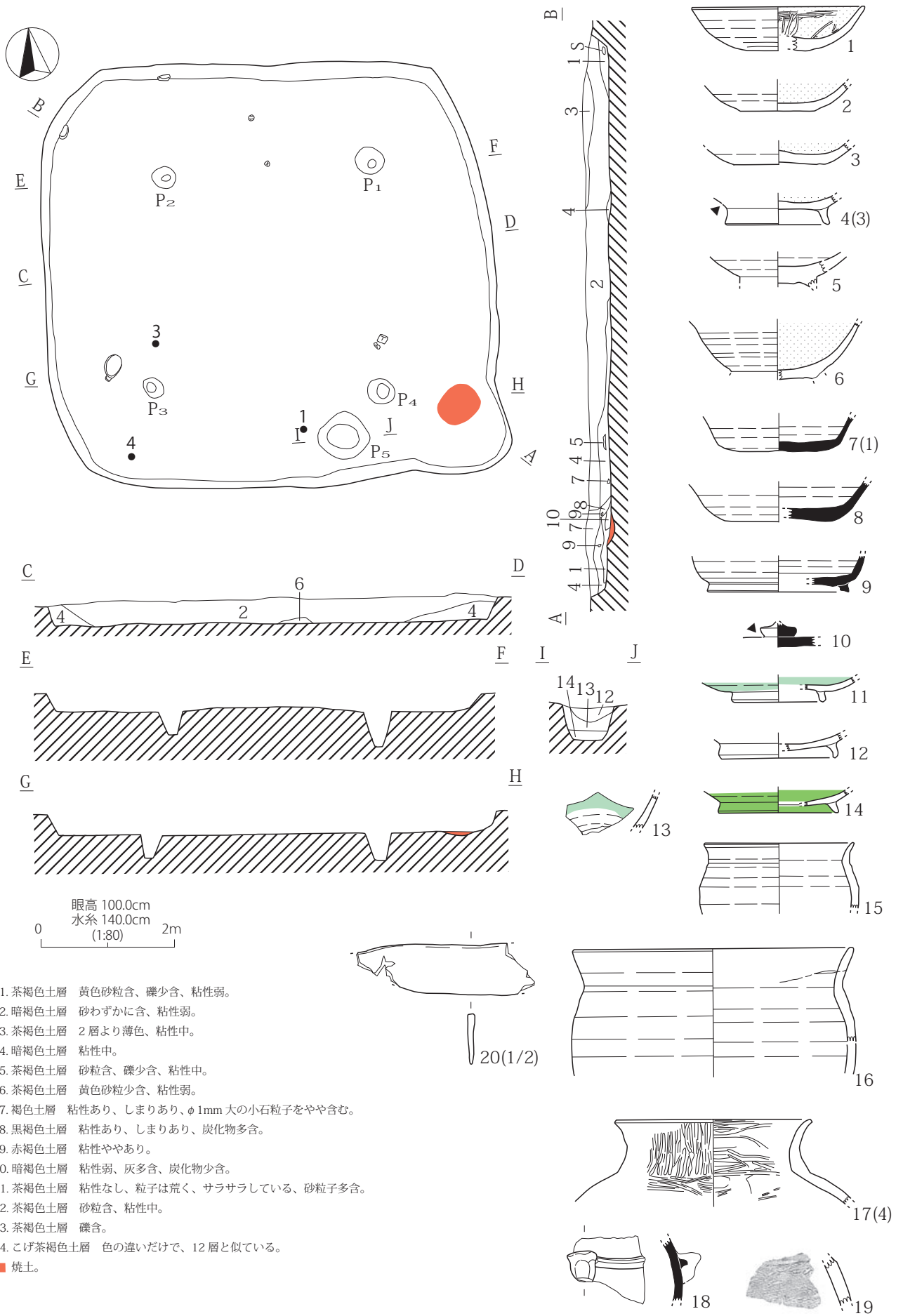
第 144 図 H108 号竪穴建物 (1)



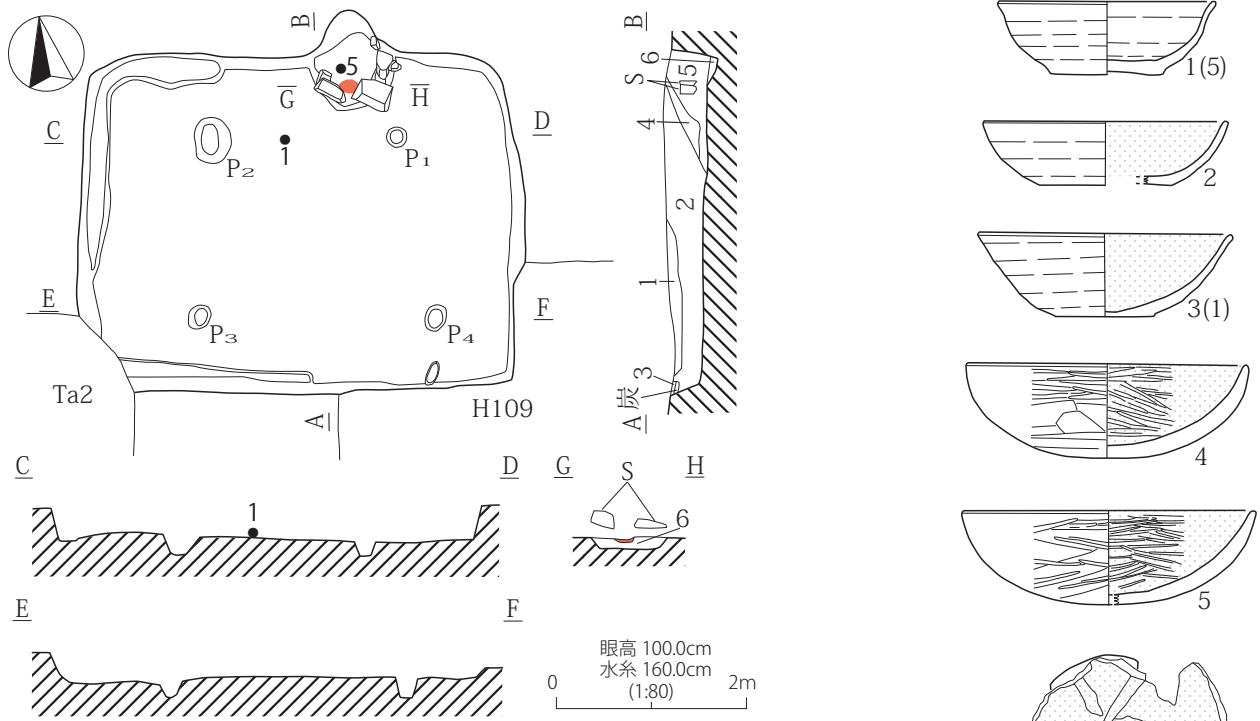
第 145 図 H108 号竪穴建物 (2)

古墳時代 6 世紀前半	H 1・3・4・5・6・8・9・10・11・13・21・29・30・32・33・36 40・41・42・48・58・138
古墳時代 6 世紀後半	H 2・7・15・19・22・24・27・28・31・37・43・95・132
古墳時代 7 世紀前半	H 16・23・25・26・35・44
古墳時代 7 世紀中葉	H 12・17
古墳時代 7 世紀後半	H 18・39・45・47・72
奈良時代 8 世紀第 I 四半期	H 51・54・57・61・76・122
奈良時代 8 世紀第 II 四半期	H 46・49・50・60・80・86・106・126・127
奈良時代 8 世紀第 III 四半期	H 52・53・55・59・62・64・74・81・89・103・125
奈良時代 8 世紀第 IV 四半期	H 63・67・118・129・131
平安時代 9 世紀前半	H 77・79・88・93・97・101・112・115・120・128・137
平安時代 9 世紀後半	H 85・94・96・98・111・114・116・117・124
平安時代 10 世紀前半	H 66・69・70・71・73・78・83・84・87・90・91・92・100・104 105・107・108・109・110・113・119・121・130・134
平安時代 10 世紀後半	H 82・102

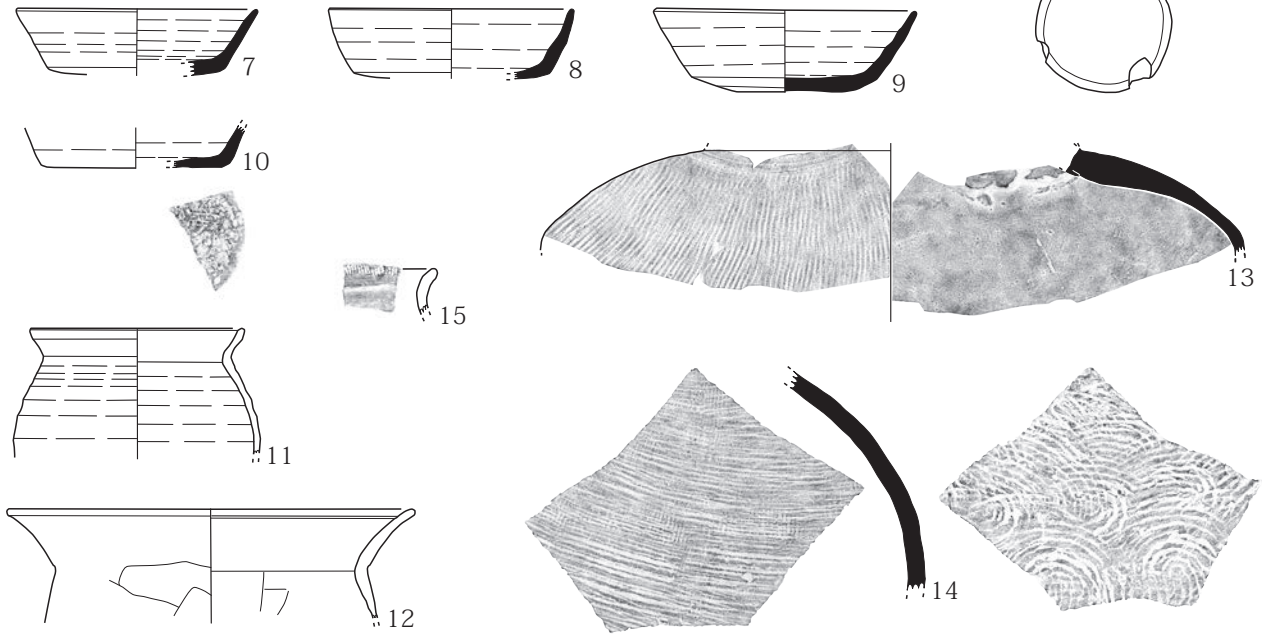
以上のように、古墳時代では 6 世紀代に、奈良時代では 8 世紀第 II・III 四半期に、平安時代では 9～10 世紀前半にピークが認められる。平安時代のピークについては金属器や文字資料の変化とも連動しており、この時期の西八日町遺跡の隆盛が垣間見れる。古墳時代 6 世紀代のピークは西八日町遺跡に限ったことではなく、隣接する一本柳遺跡群でも同様である。古墳時代前期から 5 世紀にかけ衰退あるいは消滅した集落が爆発的に増加している。奈良時代の増加は所謂計画集落と捉えることも可能かもしれない。そして、平安時代 9～10 世紀前半の集落規模の拡大、特に 10 世紀前半のそれが何に起因するのかは定かではないが、出土遺物からは公的な集落の匂いはあまり感じられない。しかし、朱墨の存在などからは文書の作成、訂正が行われていたようである。荘園だったのであろうか。いづれにせよ広大な西八日町遺跡の全容はまだ明らかとはなっていない。ここでの記述は推測でしかないが、傾向は提示出来たものと思う。



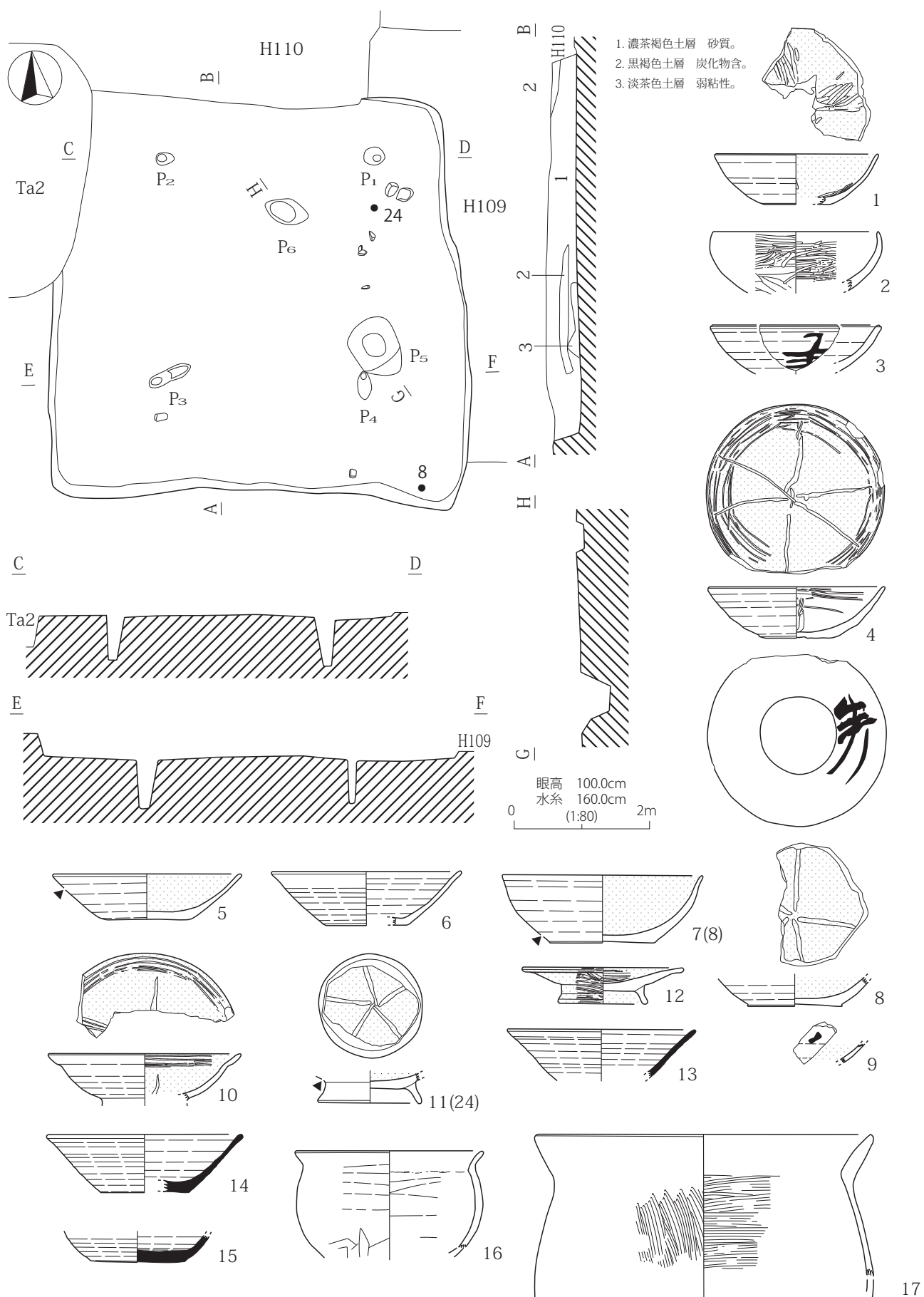
第 146 図 H109 号竖穴建物

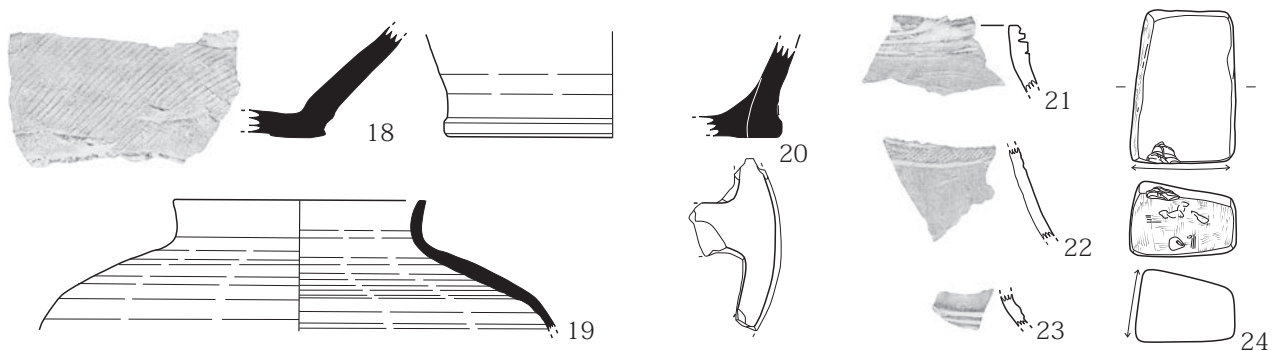


1. 暗褐色土層 粘性あり、しまりあり、酸化物多含、粒子細かく密。
 2. 茶褐色土層 炭化物をやや含み、ローム粒子をやや含む、 ϕ 2~3mm 大の小石粒子、しまりはある。
 3. 暗褐色土層 1層を主体とし、炭化物の塊を含。
 4. 茶褐色土層 パミスと小さい砂含、非常にもろい。
 5. 暗褐色土層 パミスと小さい砂含、4層よりさらにもろい。
 6. 灰褐色土層 灰と褐色土含。
- 焼土。

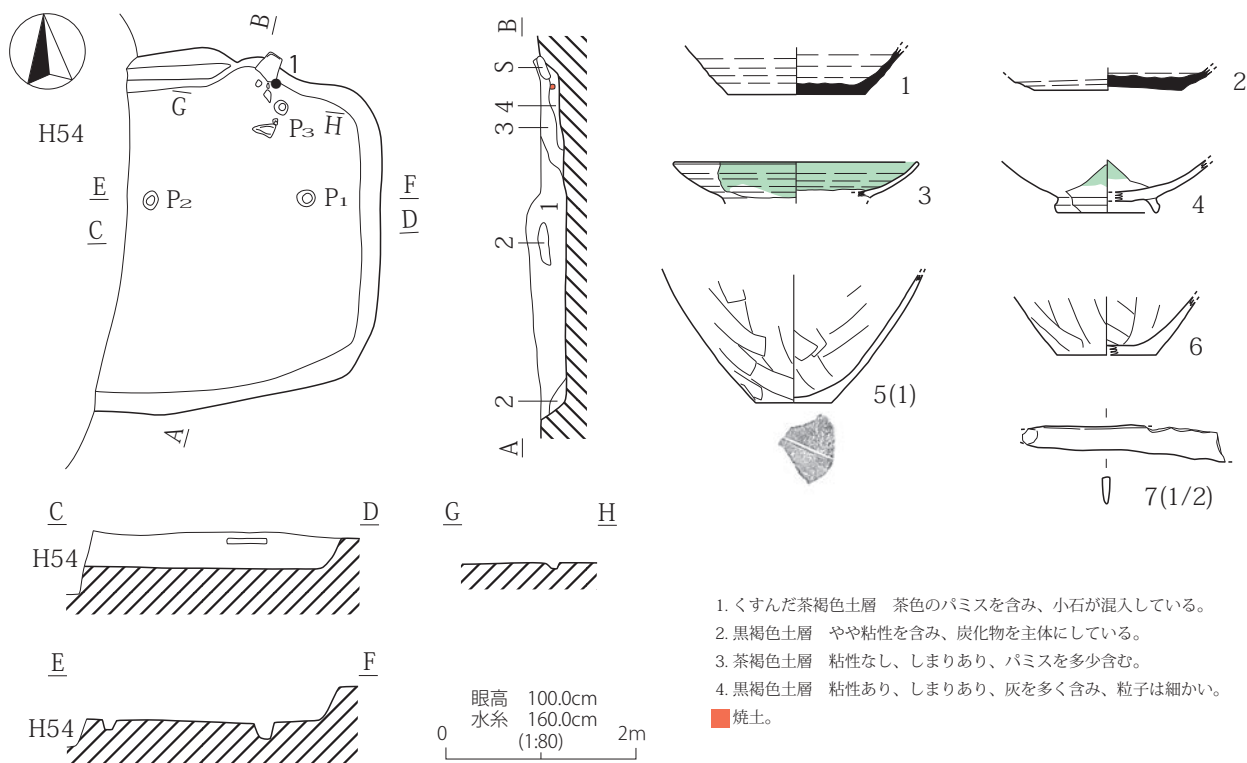


第 147 図 H110 号竪穴建物





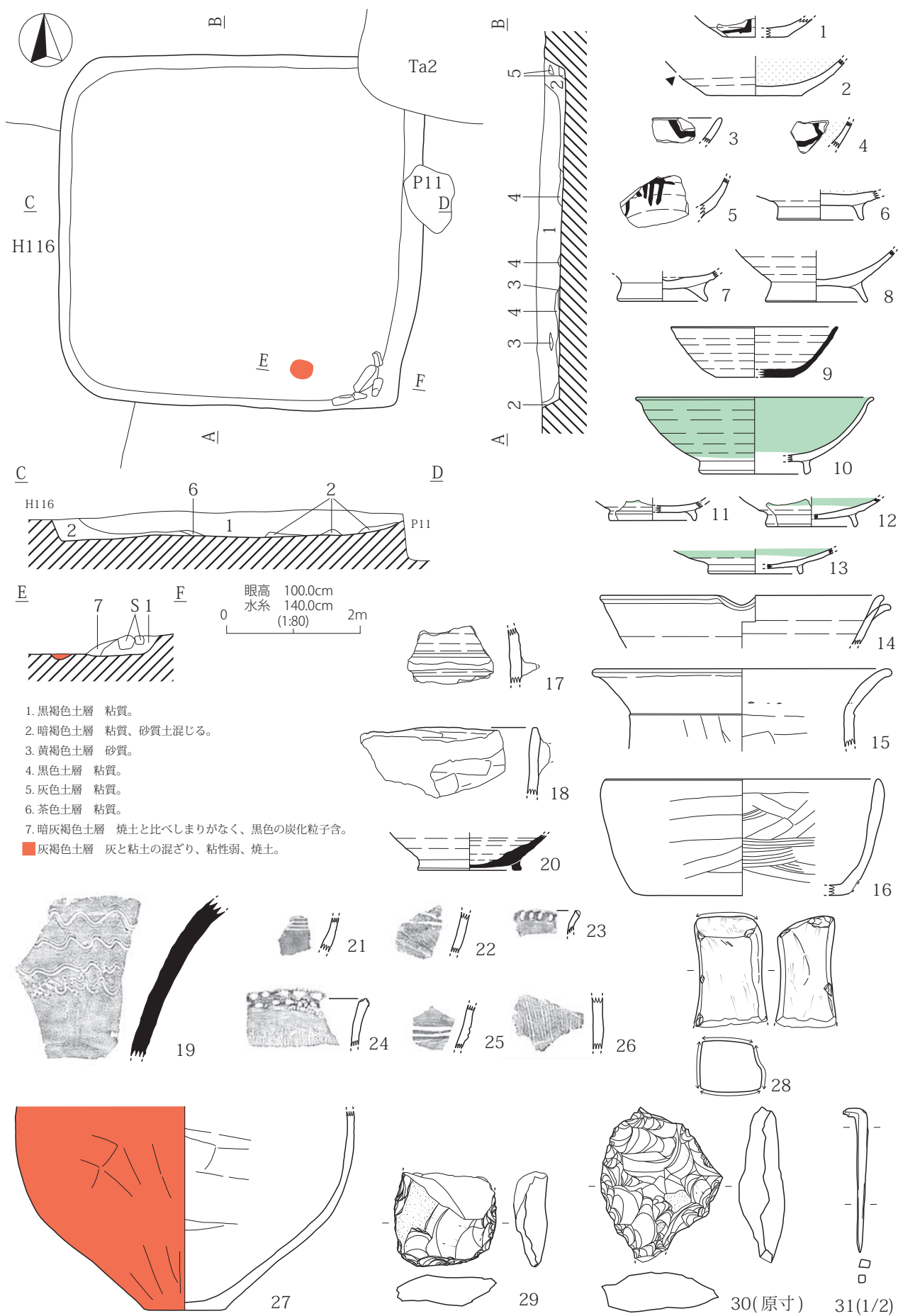
第 149 図 H111 号竪穴建物 (2)



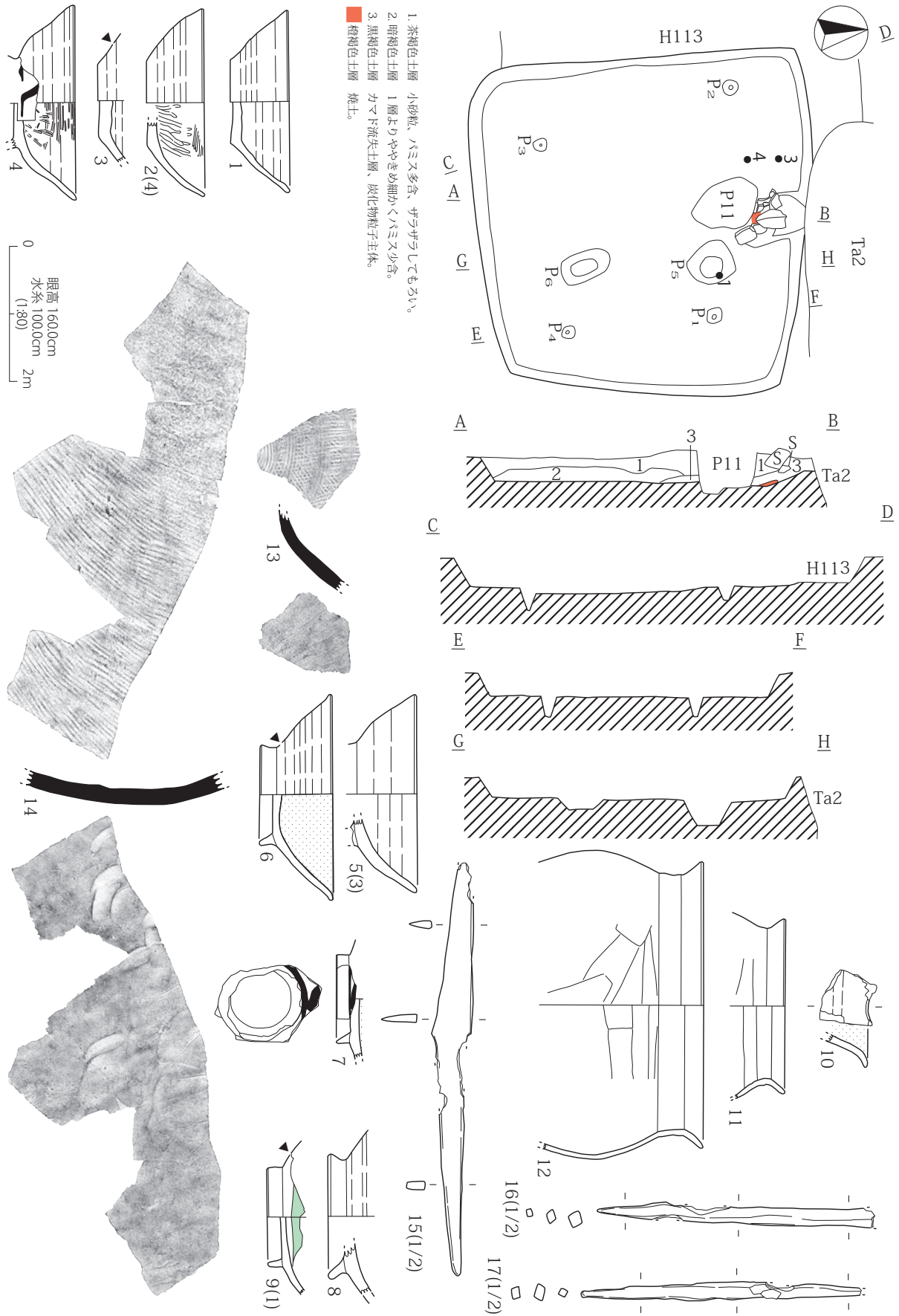
第 150 図 H112 号竪穴建物

引用・参考文献

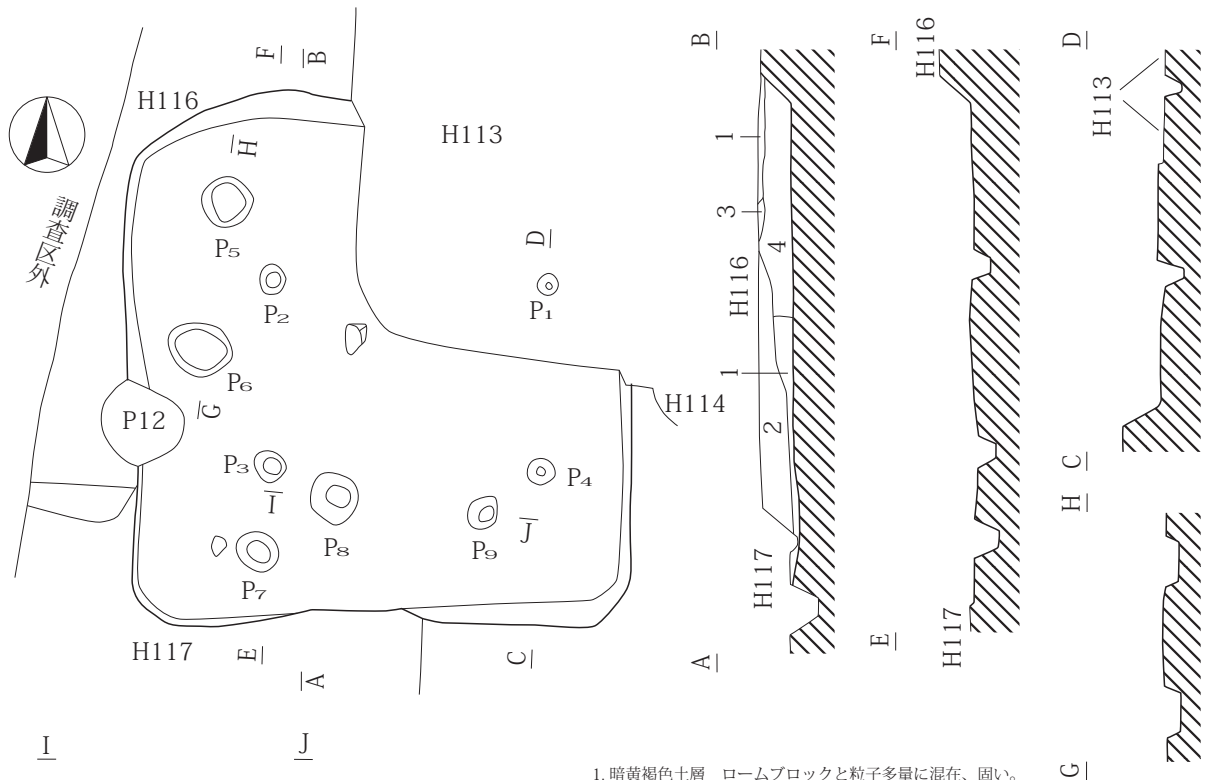
1987 年	松本市赤木山遺跡Ⅱ	松本市教育委員会
1991 年	東日本における稲作の受容	東日本埋蔵文化財研究会
1999 年	長野県の弥生土器	長野県考古学会
2000 年	墨書土器の研究	平川 南
2003 年	考古学資料大観Ⅰ	小学館
2004 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 117 集 東五里田遺跡	佐久市教育委員会
2005 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 126 集 聖原遺跡 - 第 5 分冊 -	佐久市教育委員会
2006 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 134 集 下信濃石遺跡	佐久市教育委員会
2010 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 172 集 西八日町遺跡Ⅳ	佐久市教育委員会
2010 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 173 集 西八日町遺跡Ⅴ・Ⅵ	佐久市教育委員会
2010 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 175 集 東大門先遺跡Ⅱ	佐久市教育委員会
	西八日町遺跡Ⅲ・Ⅶ	佐久市教育委員会
2013 年	シナノにおける古墳時代社会の発展から律令器への展望	西山克己



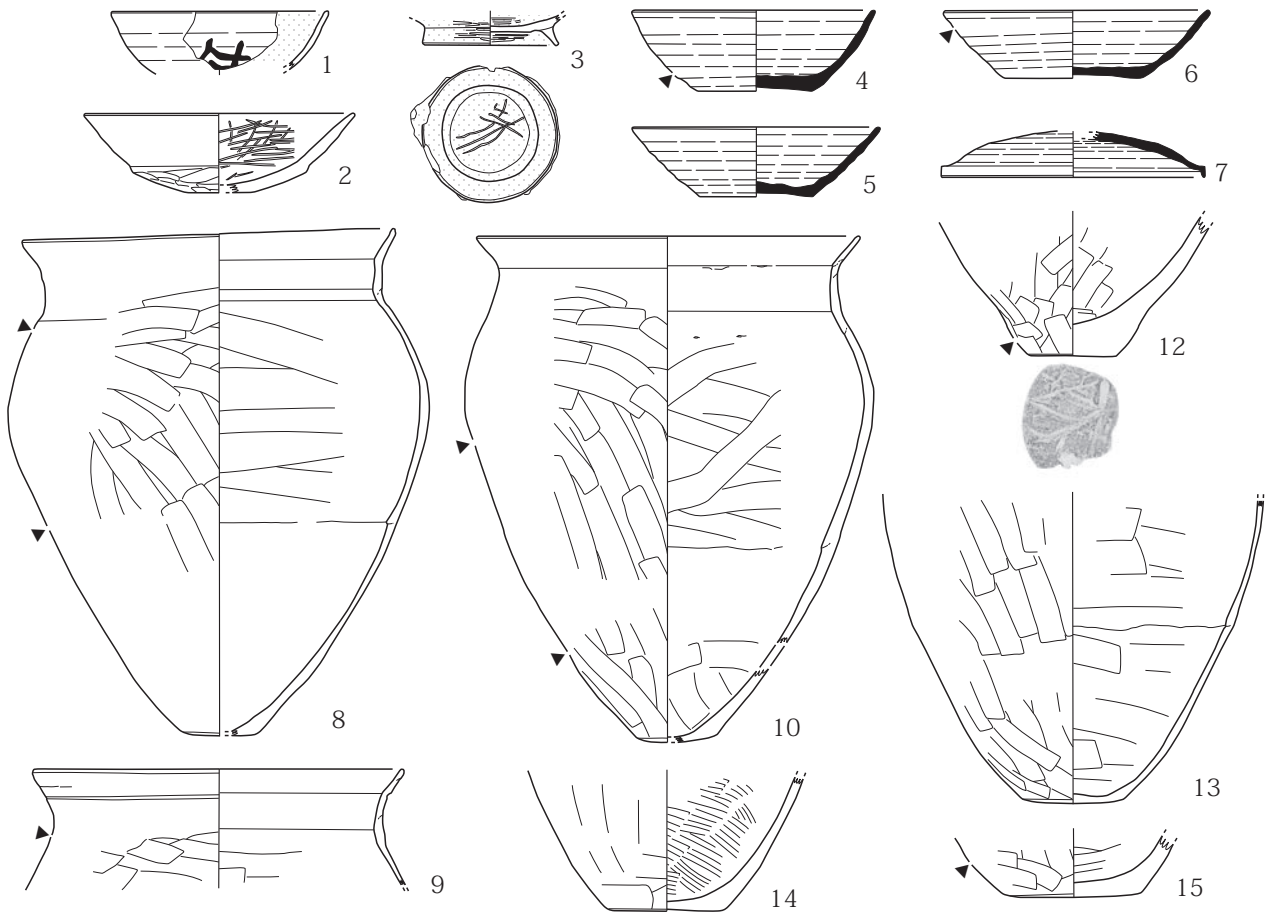
第 151 図 H113 号竖穴建物



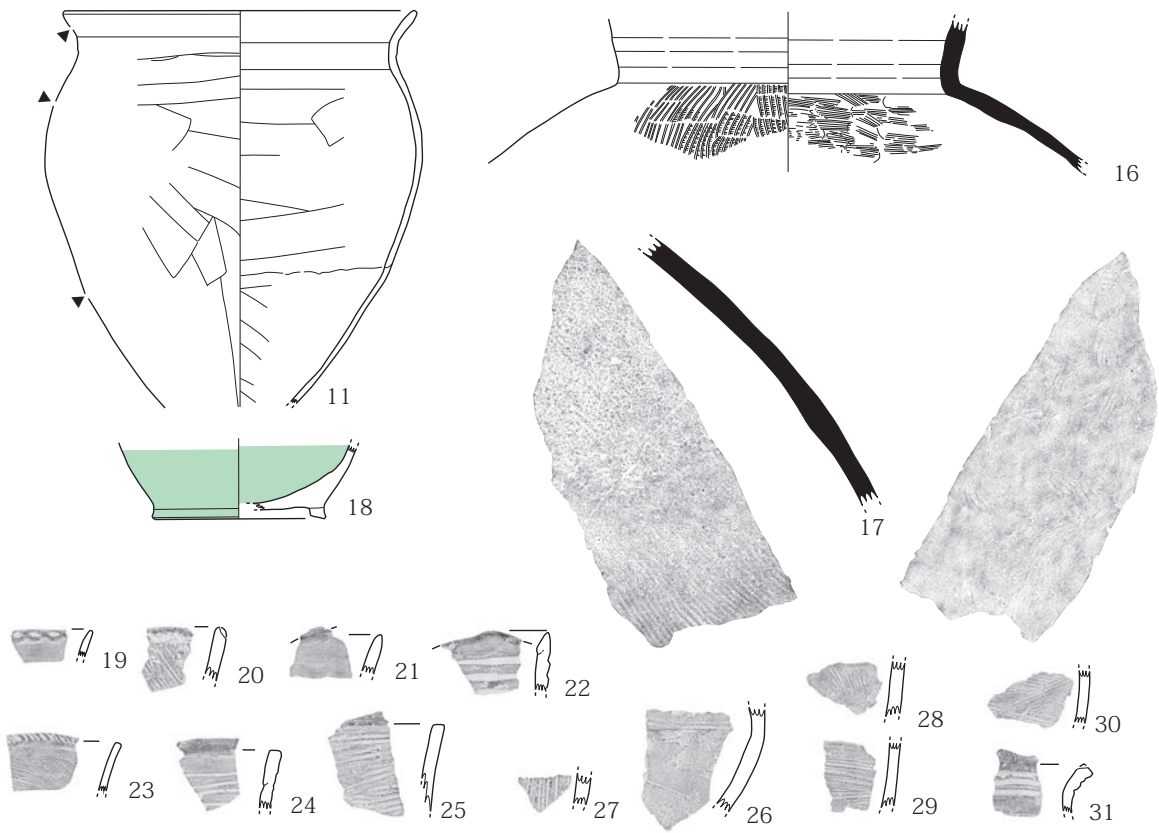
第 152 図 H114号竖穴建物



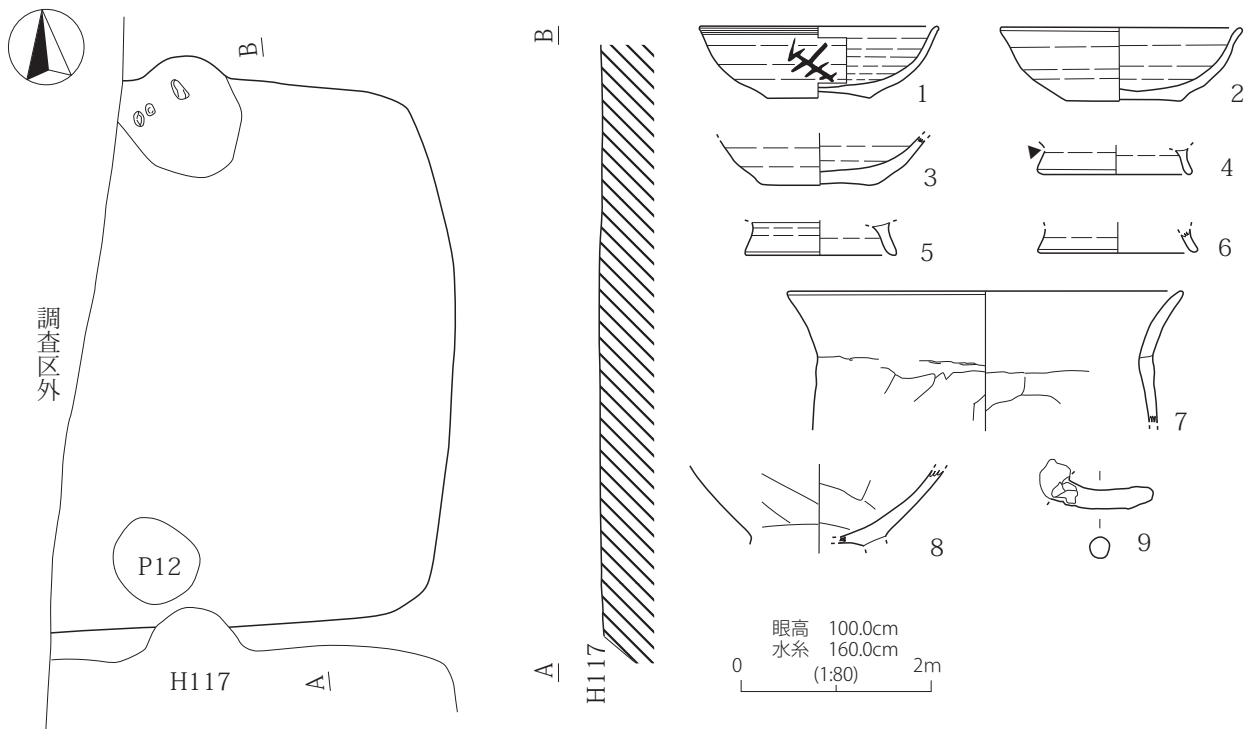
- 1. 暗黄褐色土層 ロームブロックと粒子多量に混在、固い。
- 2. 茶褐色土層 パミスと小砂粒含、もろい。
- 3. 茶褐色土層 2層よりやや黄色が暗くなる。
- 4. 暗褐色土層 2層よりパミス減る。



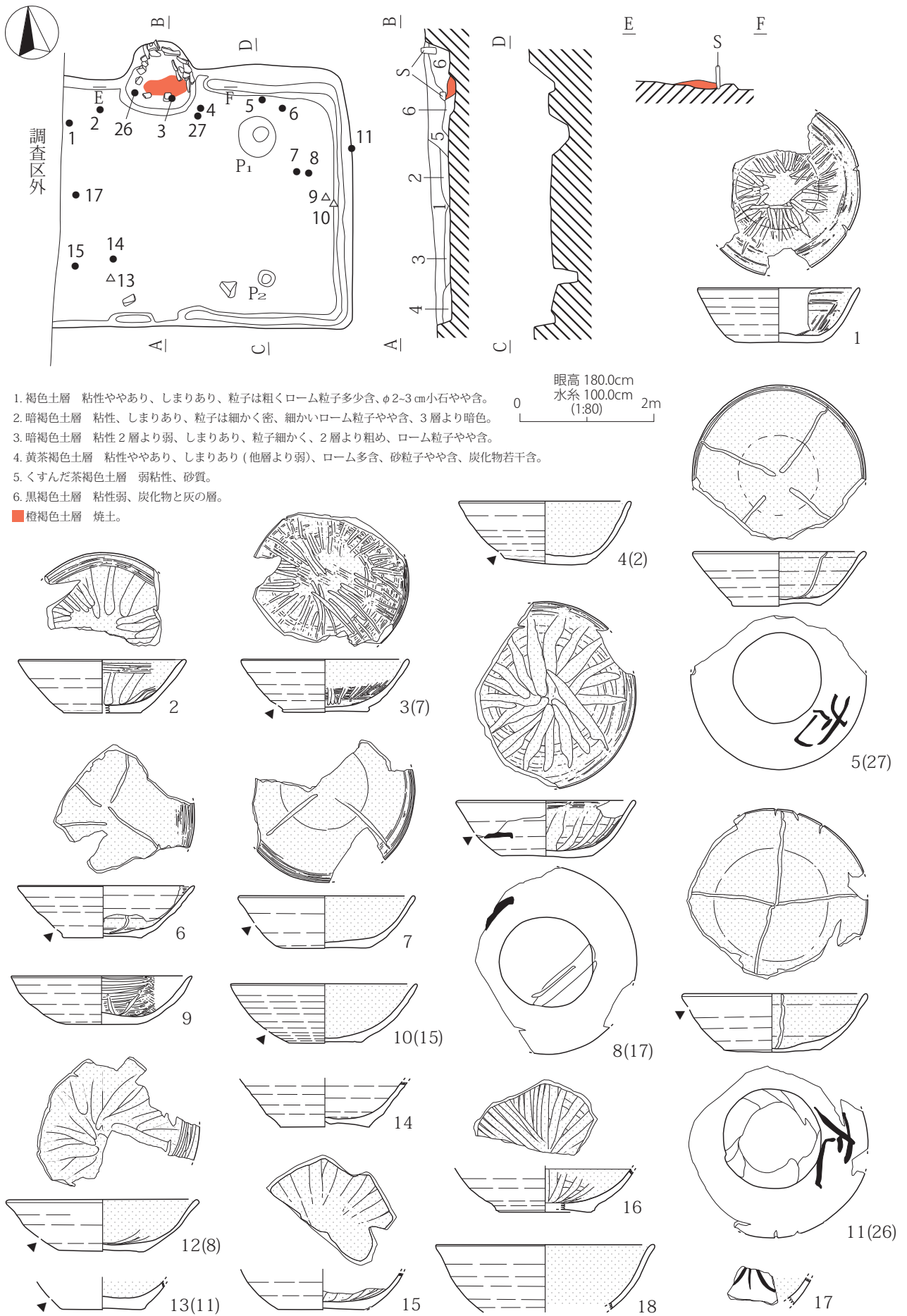
第 153 図 H115 号竪穴建物 (1)



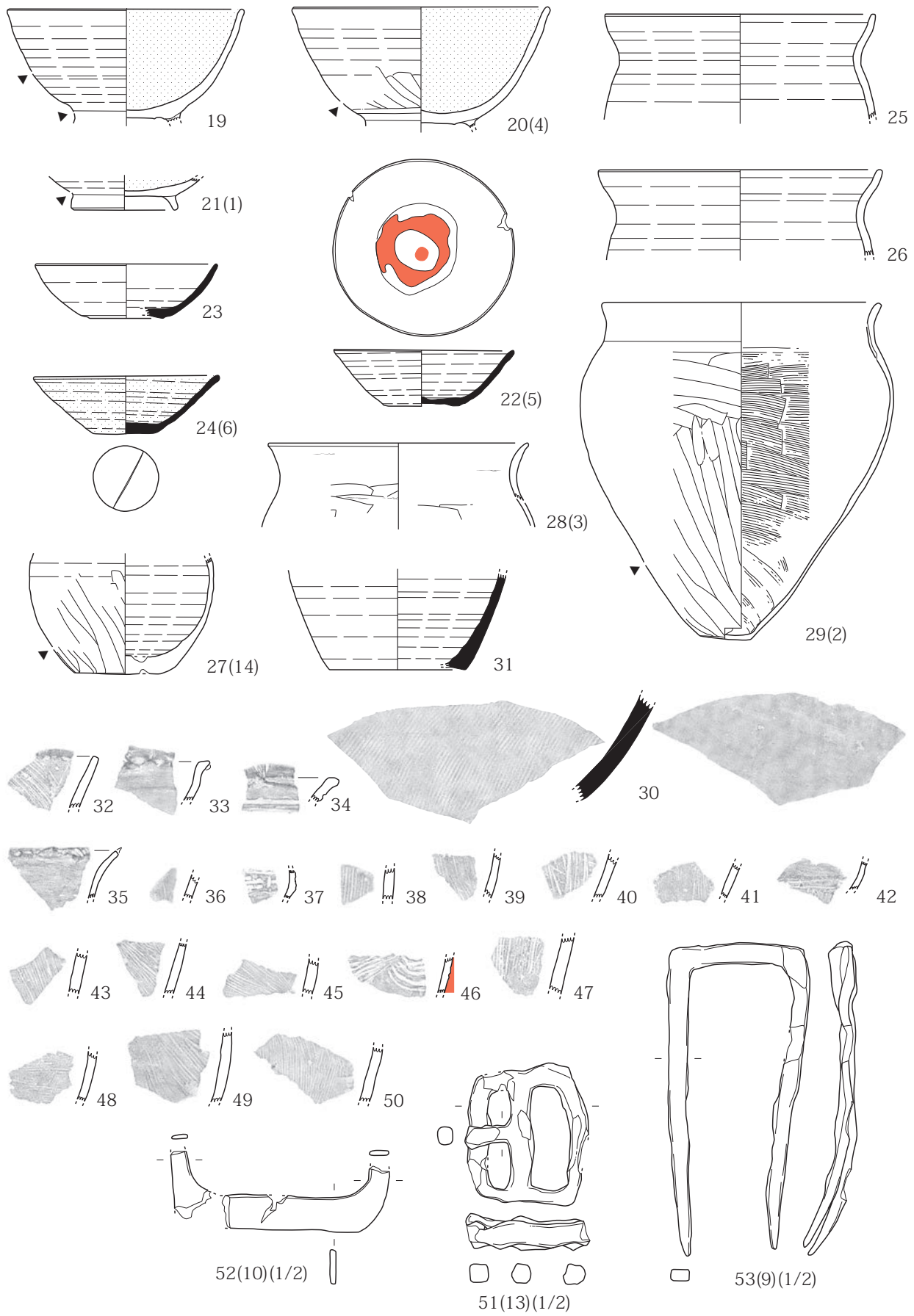
第 154 図 H115 号竖穴建物 (2)



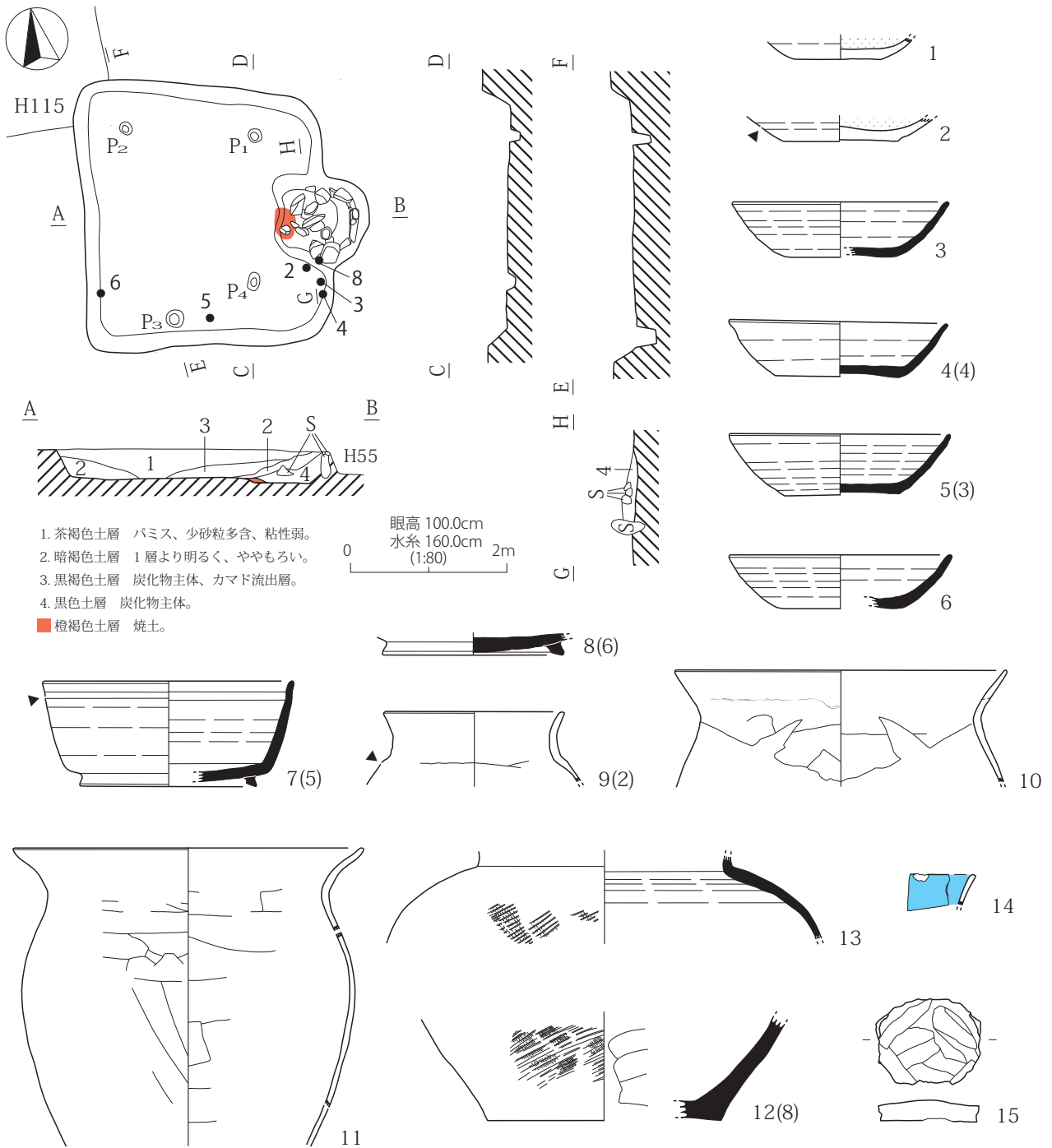
第 155 図 H116 号竖穴建物



第 156 図 H117 号竪穴建物 (1)

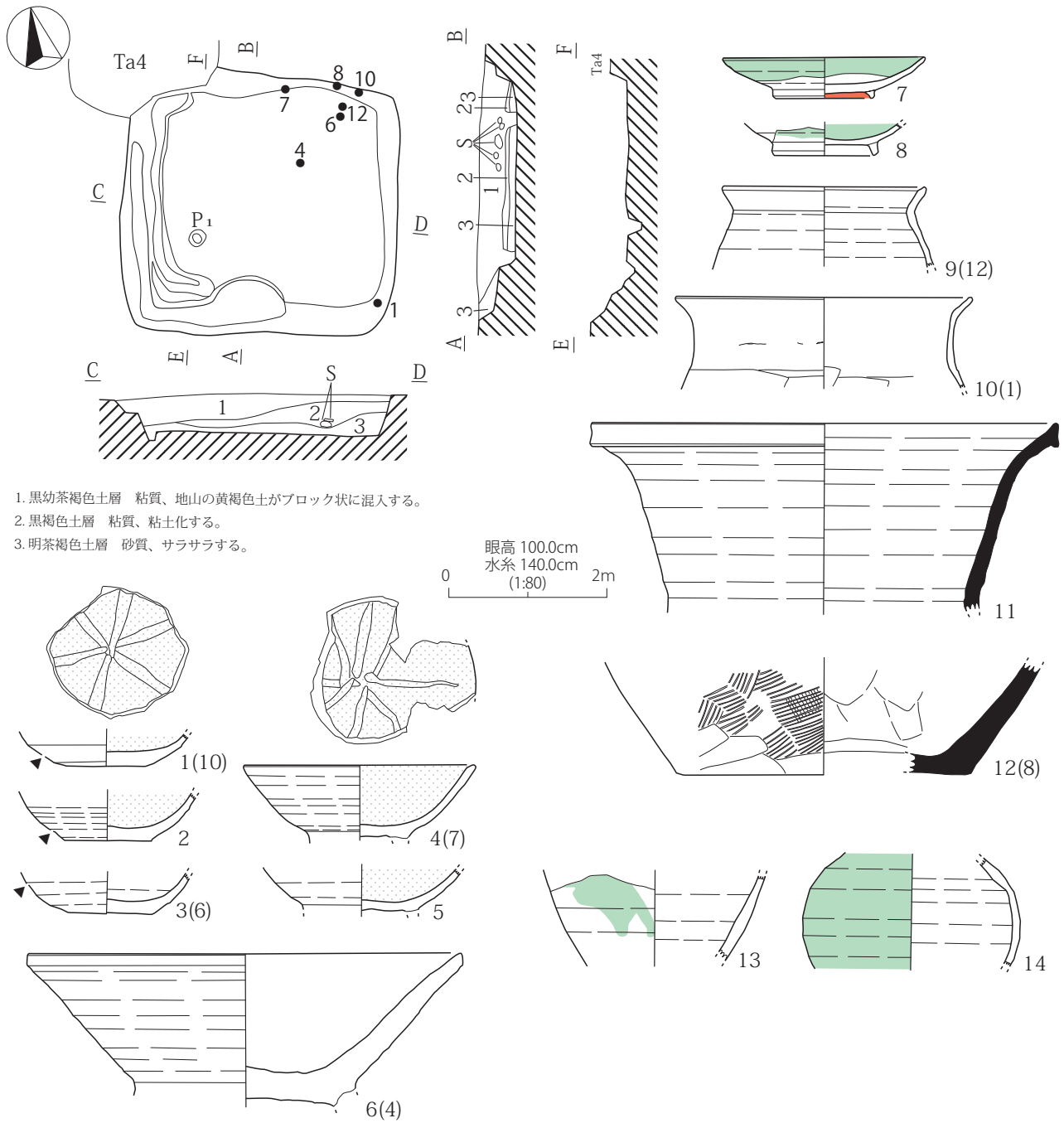


第 157 图 H117(2) 号竖穴建物

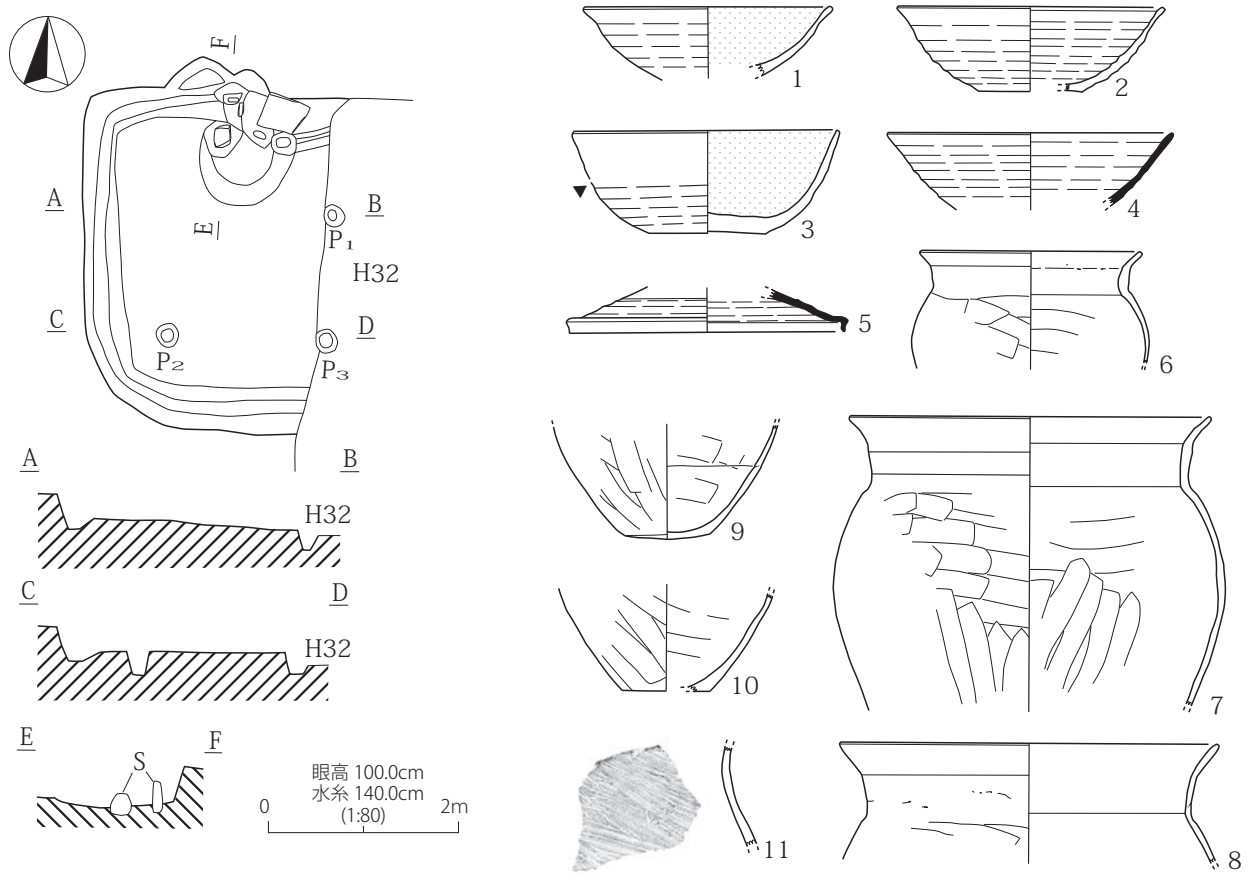


第 158 図 H118 号竪穴建物

2014 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 219 集	市道遺跡V 平馬塚遺跡II 北裏遺跡II 宮浦遺跡I 北島遺跡III	佐久市教育委員会
2014 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 227 集	西八日町遺跡VII	佐久市教育委員会
2016 年	前方後円墳築造地域における弥生から古墳時代前期の集落		小山岳夫
2017 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 251 集	西八日町遺跡VIII	佐久市教育委員会
2019 年	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 260 集	西一本柳遺跡XXII	佐久市教育委員会



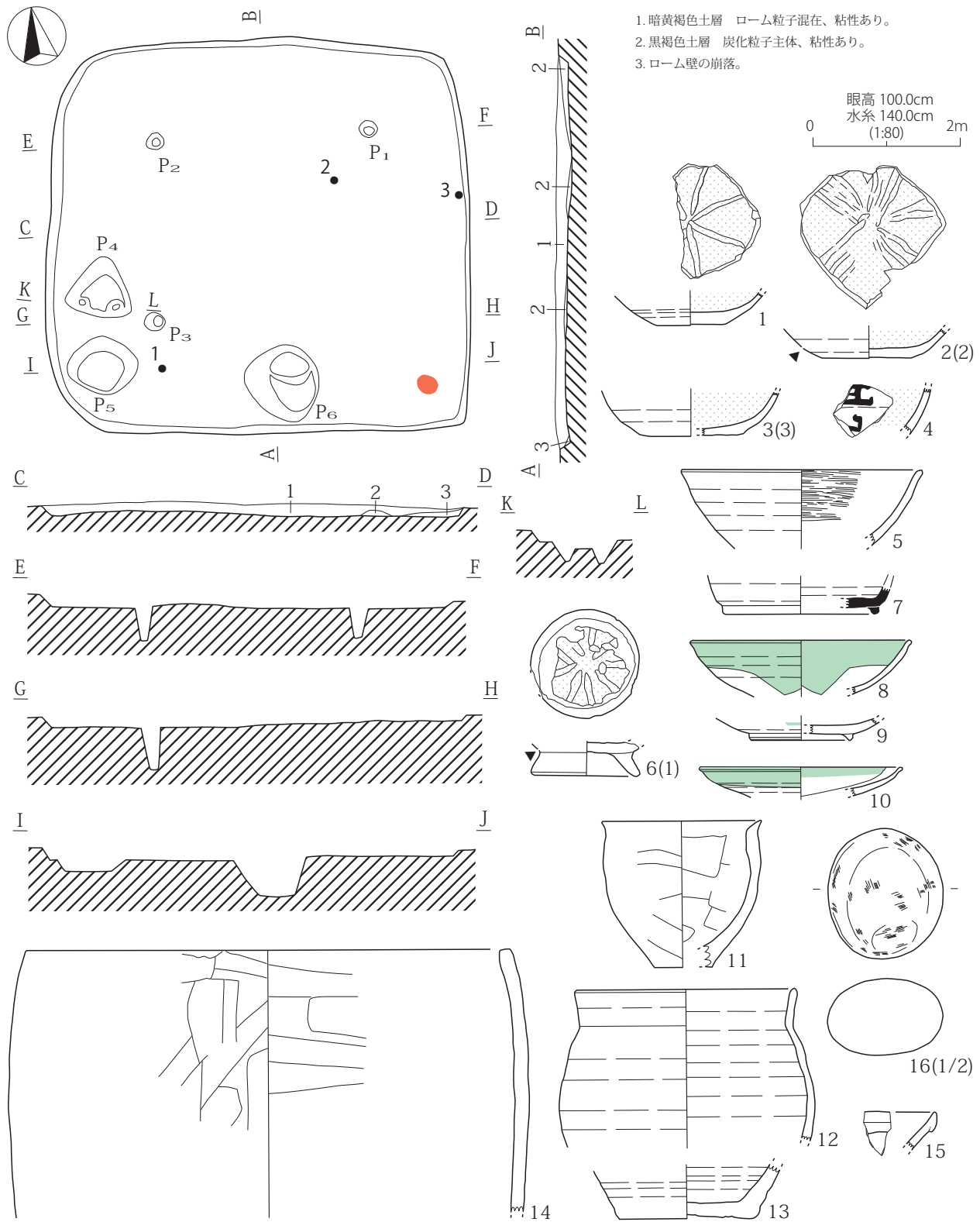
第 159 図 H119 号竪穴建物



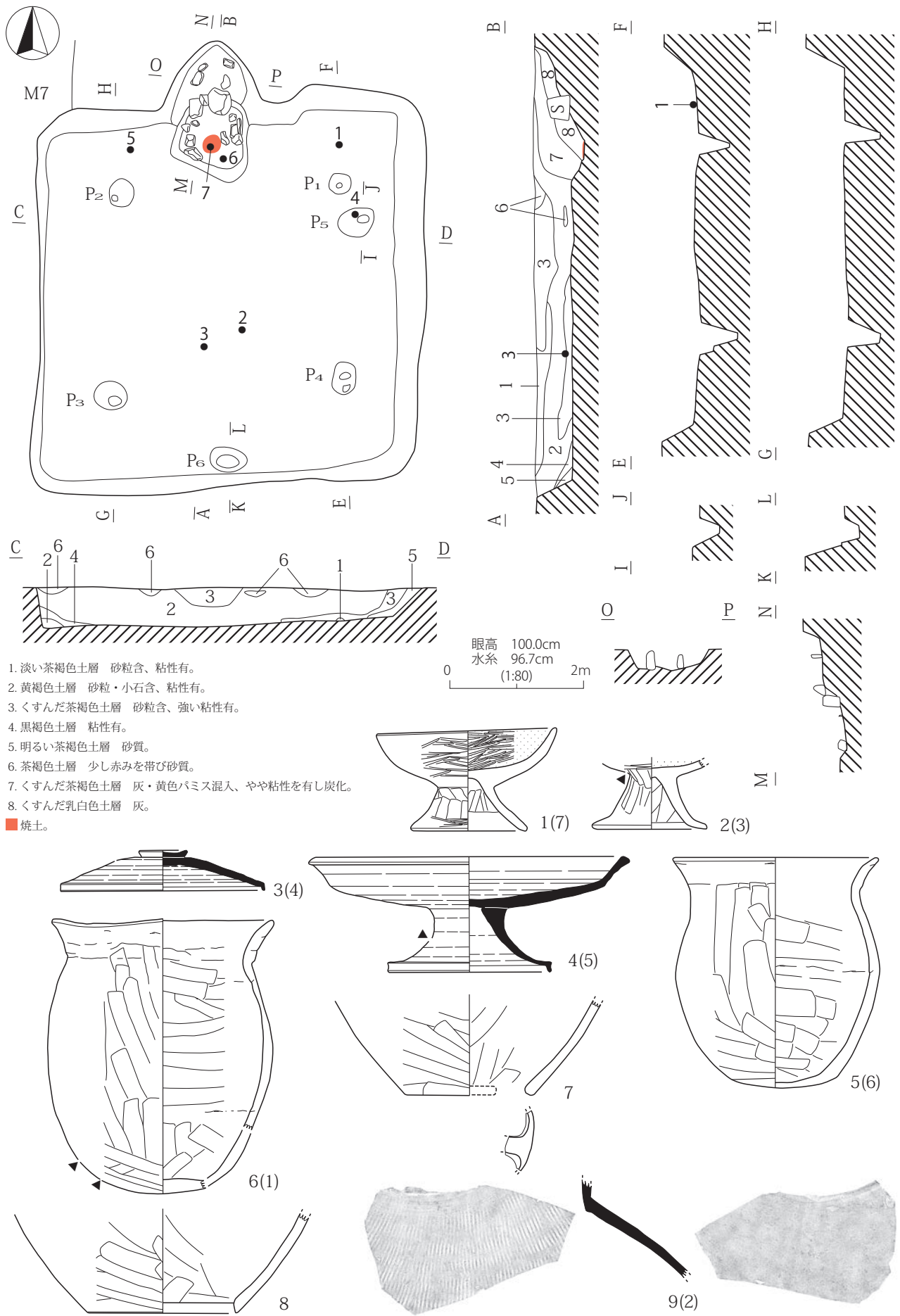
第 160 図 H120 号竪穴建物



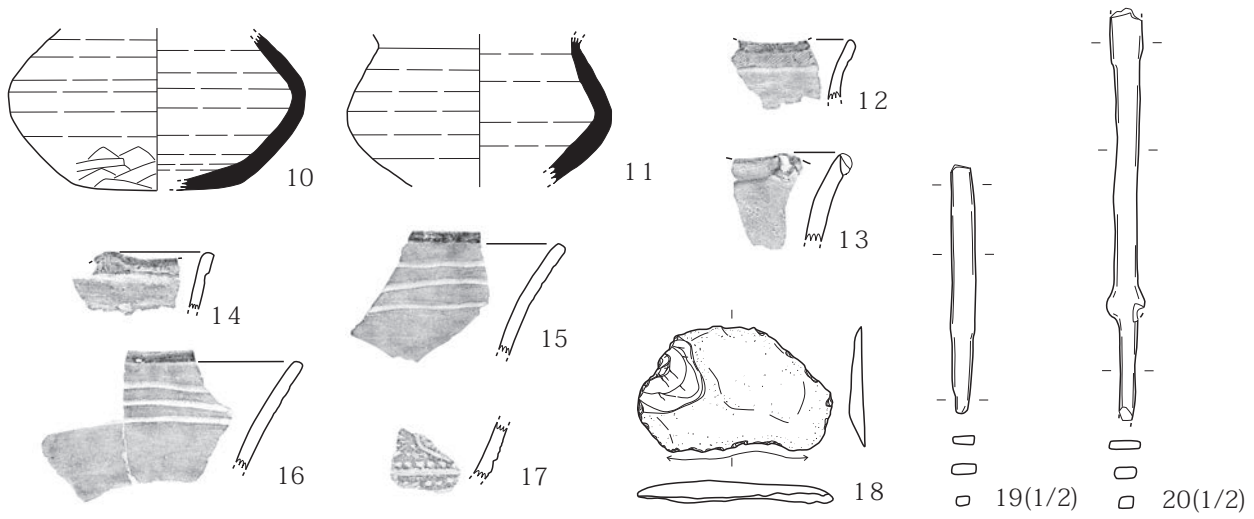
遺構の重複状態 (調査区南端)



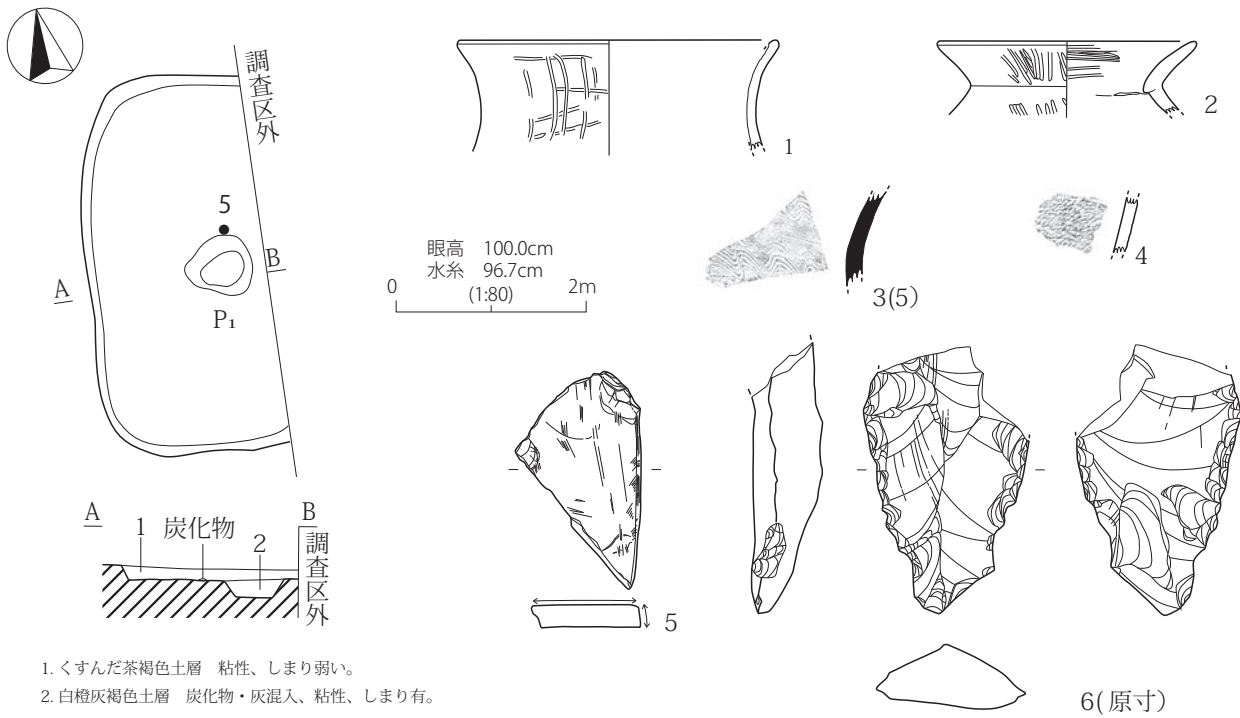
第 161 図 H121 号竪穴建物



第 162 図 H122 号竖穴建物 (1)

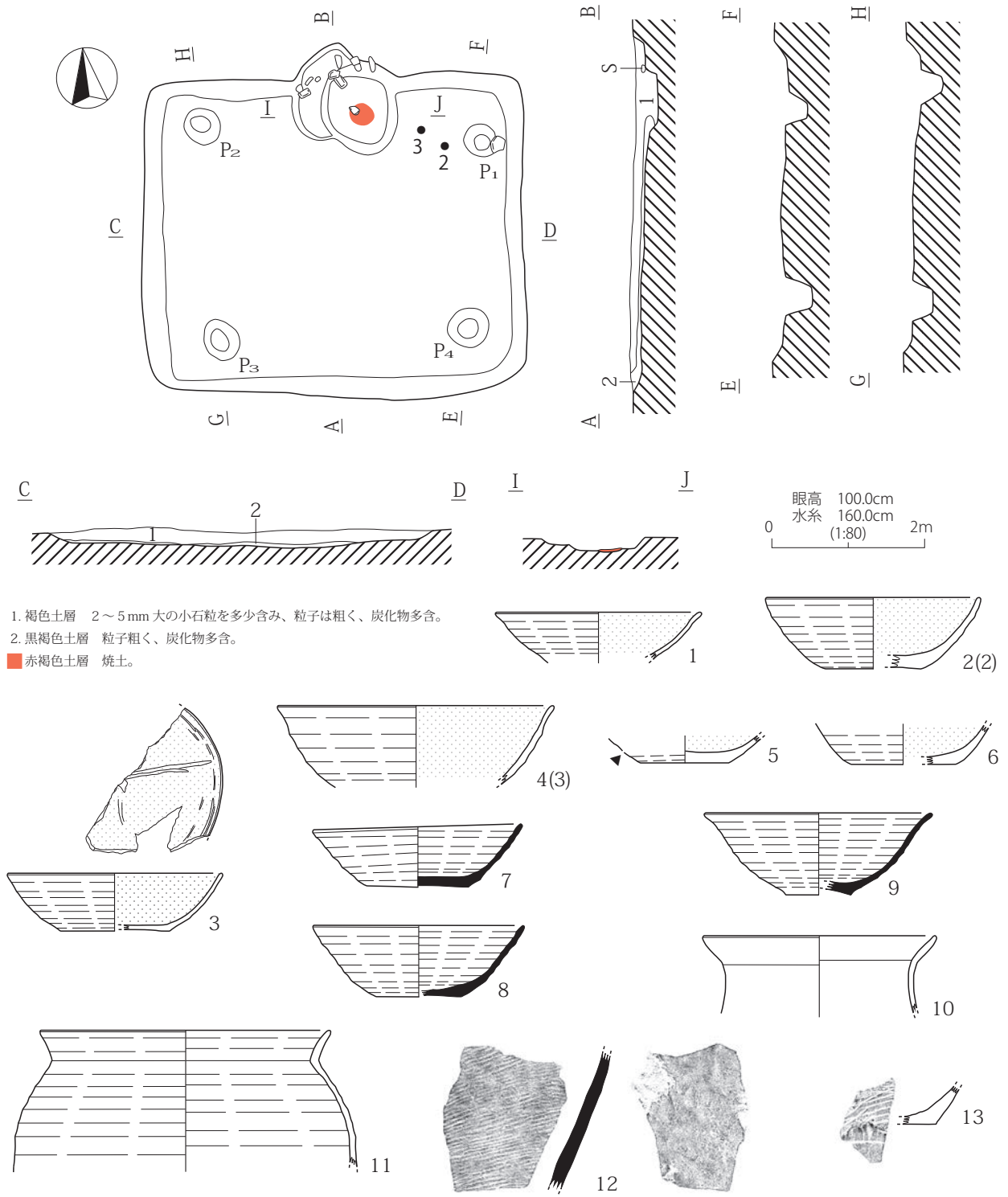


第 163 図 H122 号竖穴建物 (2)

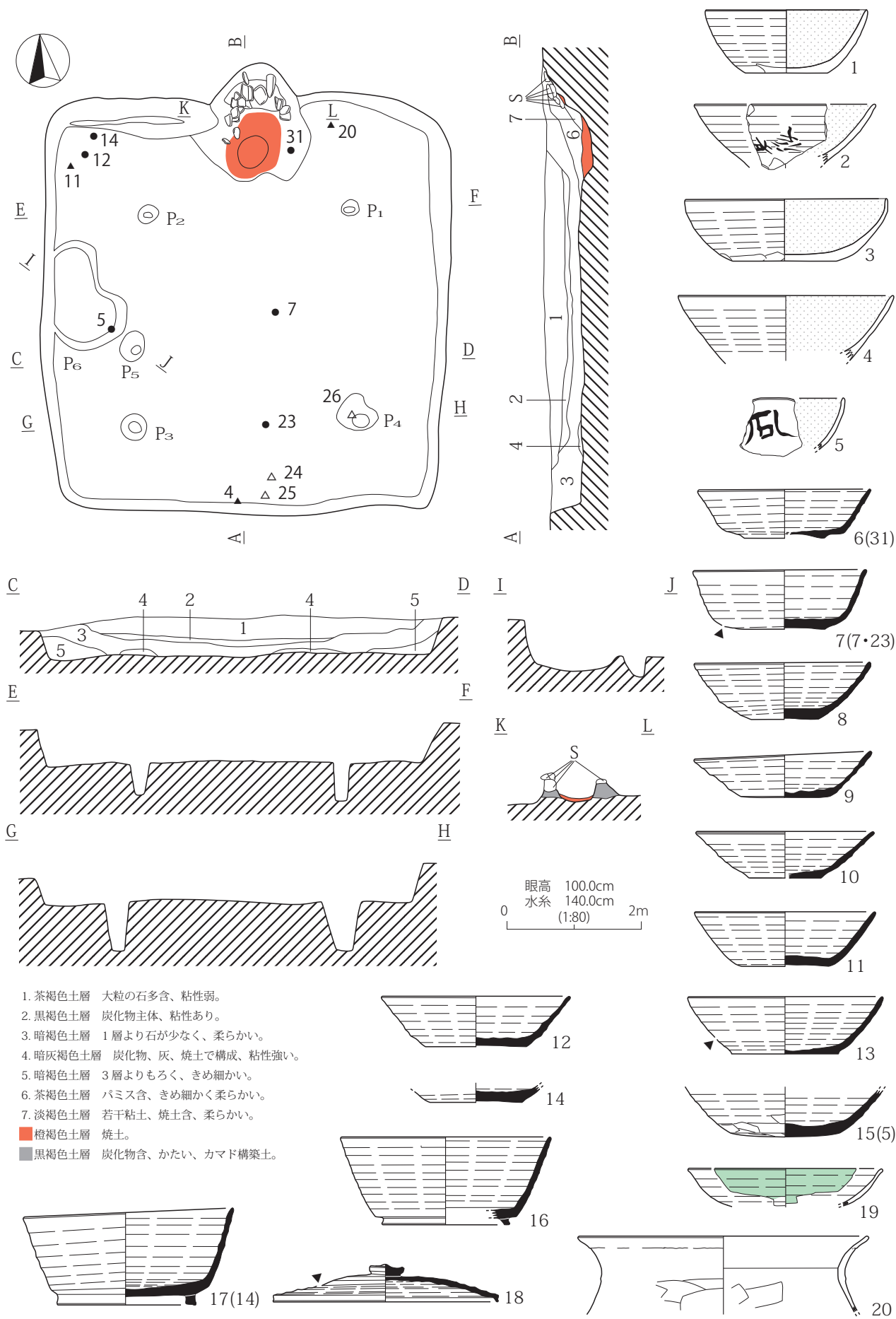


1. くすんだ茶褐色土層 粘性、しまり弱い。
 2. 白橙灰褐色土層 炭化物・灰混入、粘性、しまり有。

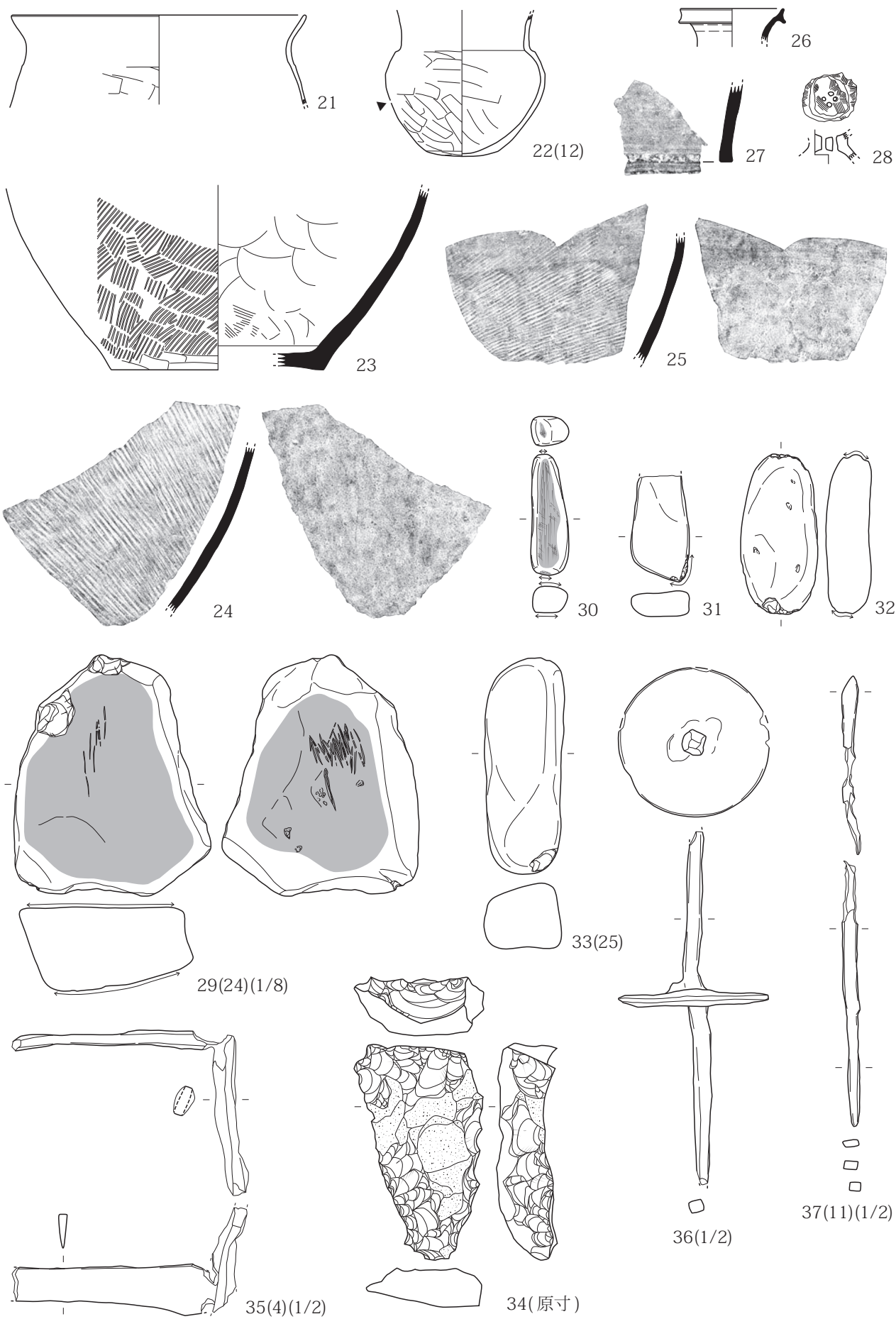
第 164 図 H123 号竖穴建物



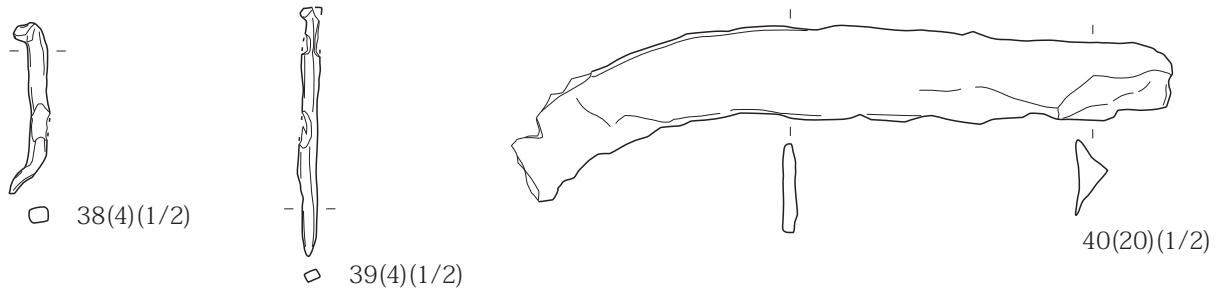
第 165 図 H124 号竪穴建物



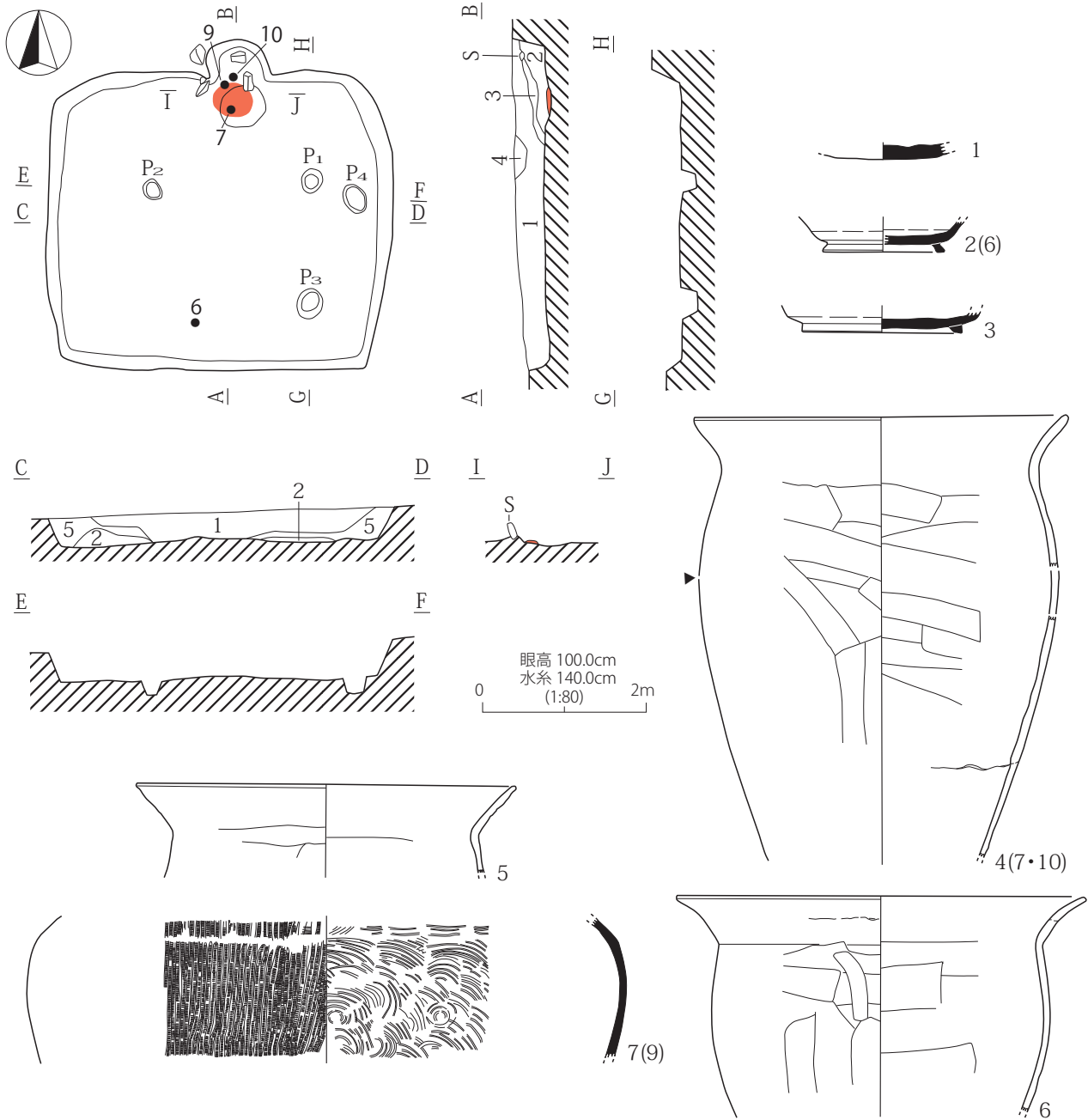
第166図 H125号竪穴建物(1)



第 167 图 H125 号竖穴建物 (2)

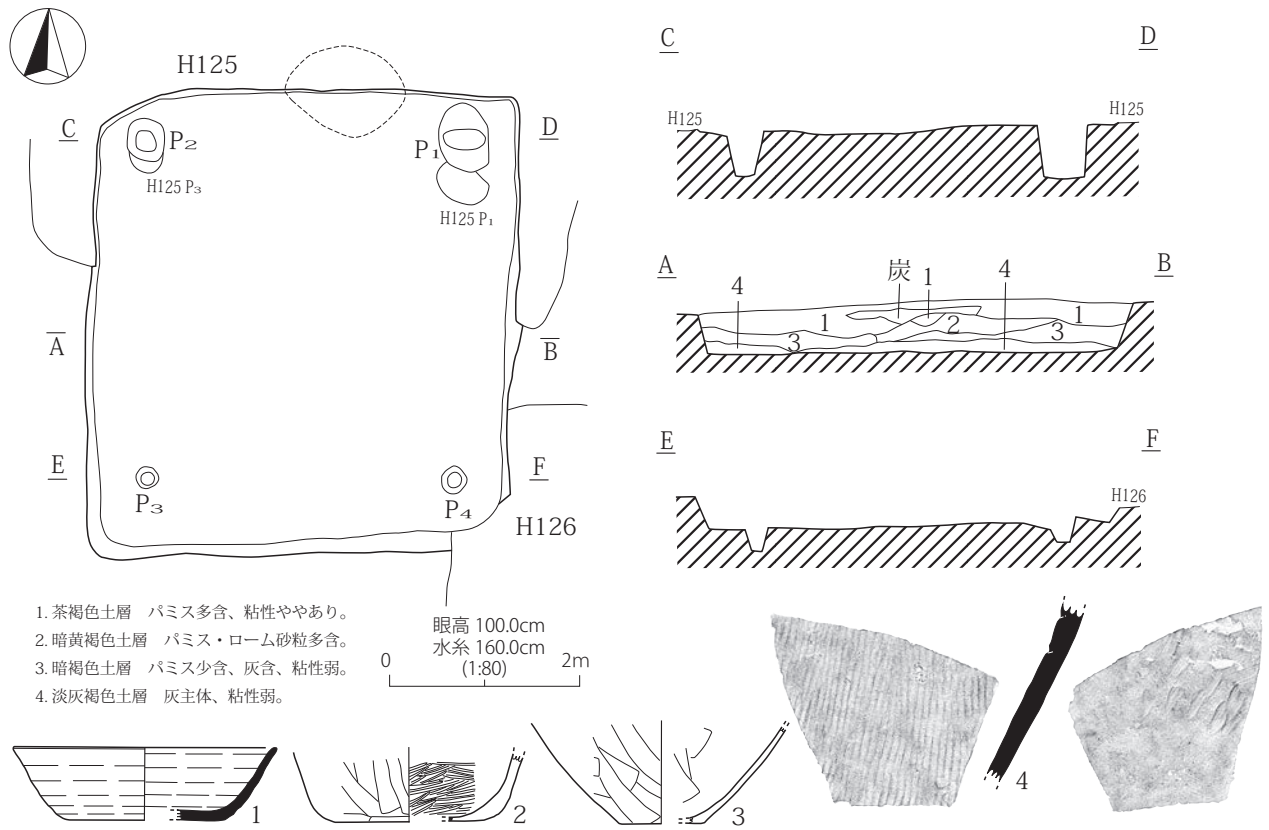


第 168 図 H125 号竪穴建物 (3)



1. 暗褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物多少含、粒子細かい。
 2. 茶褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒子多含、炭化物やや含、粒子荒い。
 3. 黒褐色土層 粘性あり、しまりあり、焼土少含、粒子細かい。
 4. 暗褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物多含、 $\phi 1\text{mm}$ 大の小石粒を若干含。
 5. 黄茶褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物多少含、ローム粒子やや含。
- 焼土。

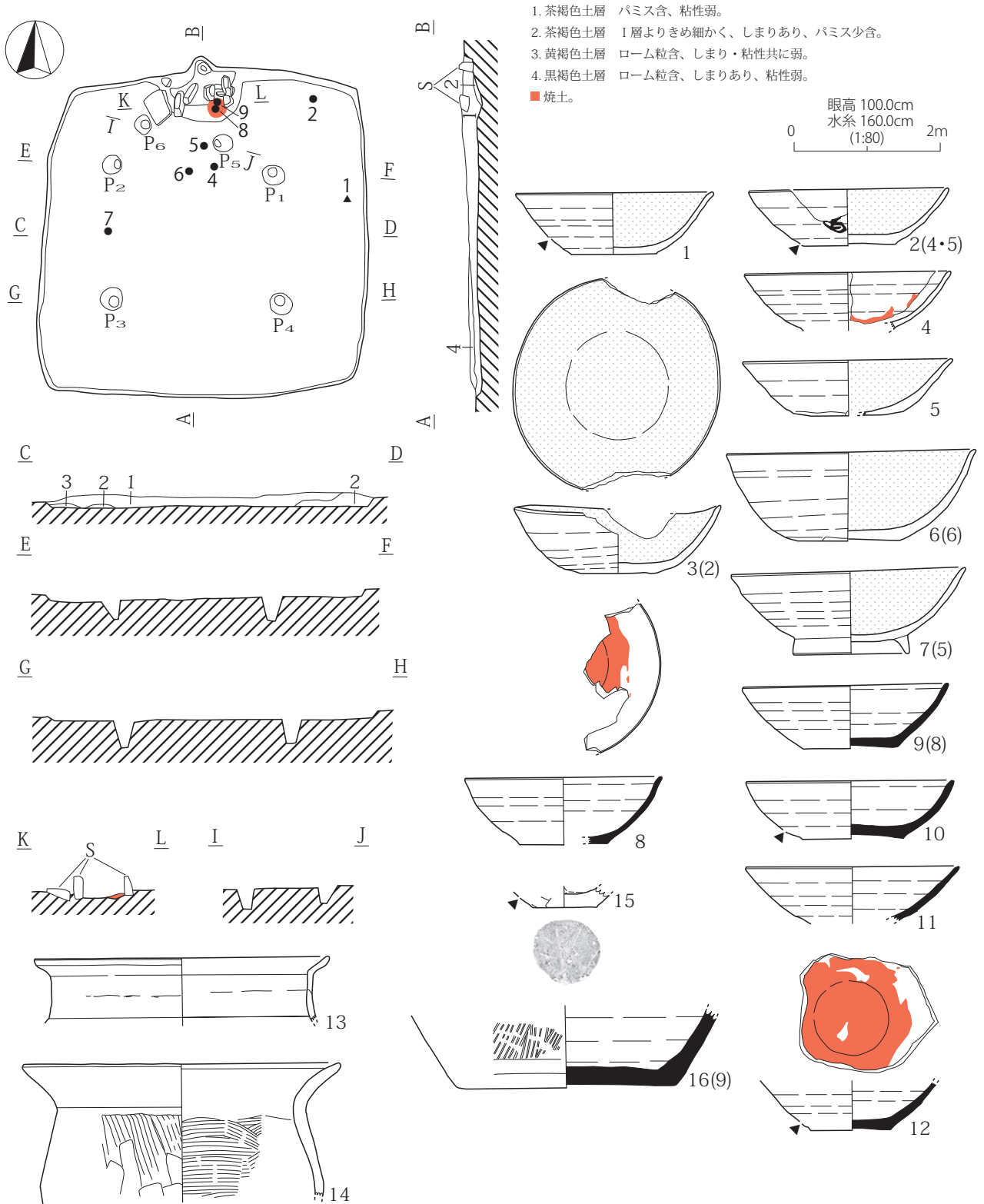
第 169 図 H126 号竪穴建物



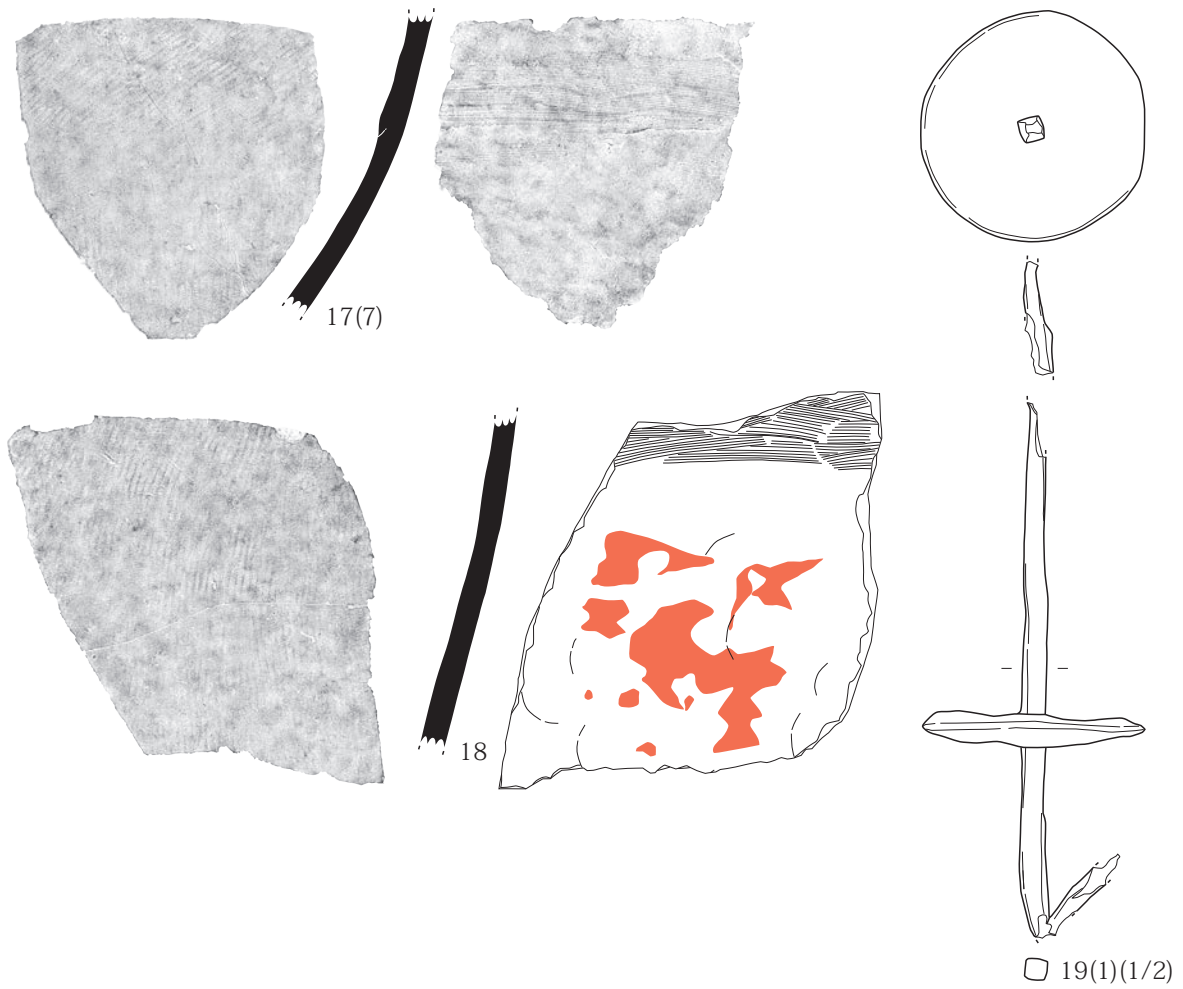
第 170 図 H127 号竪穴建物



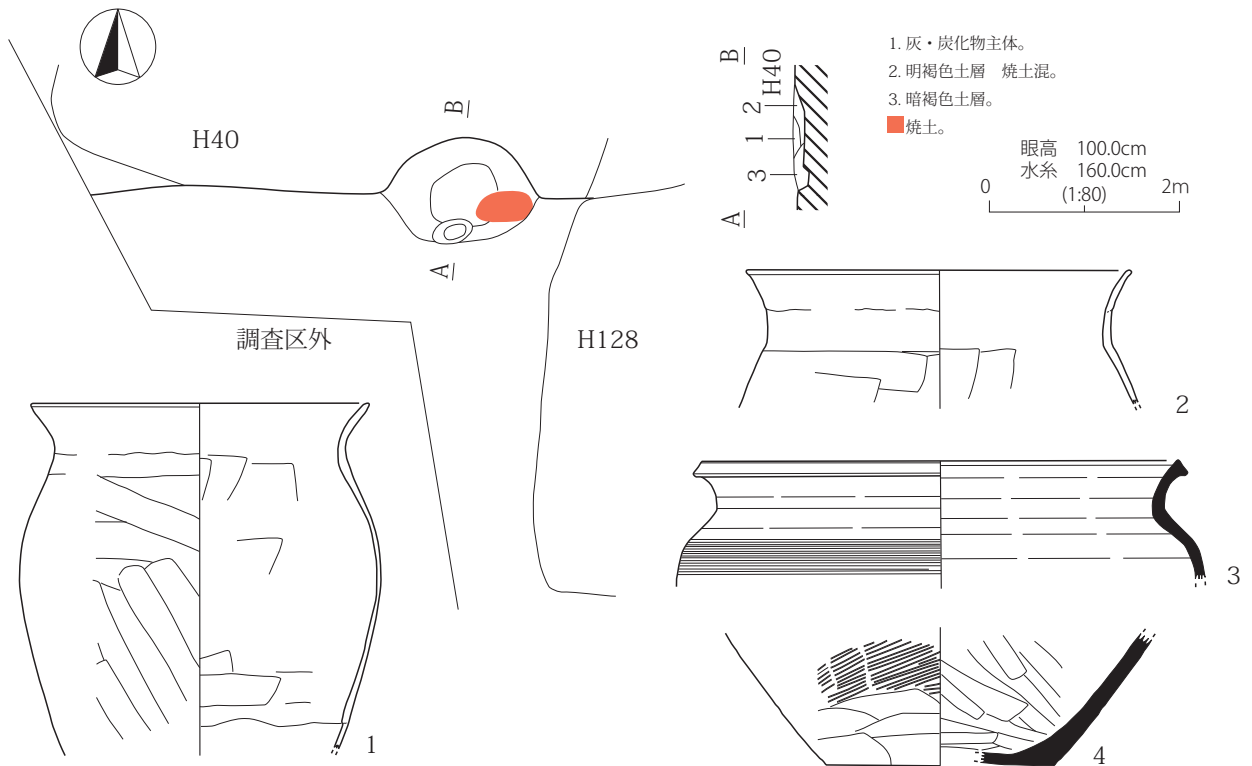
湯川河岸段丘端部の土層堆積状態



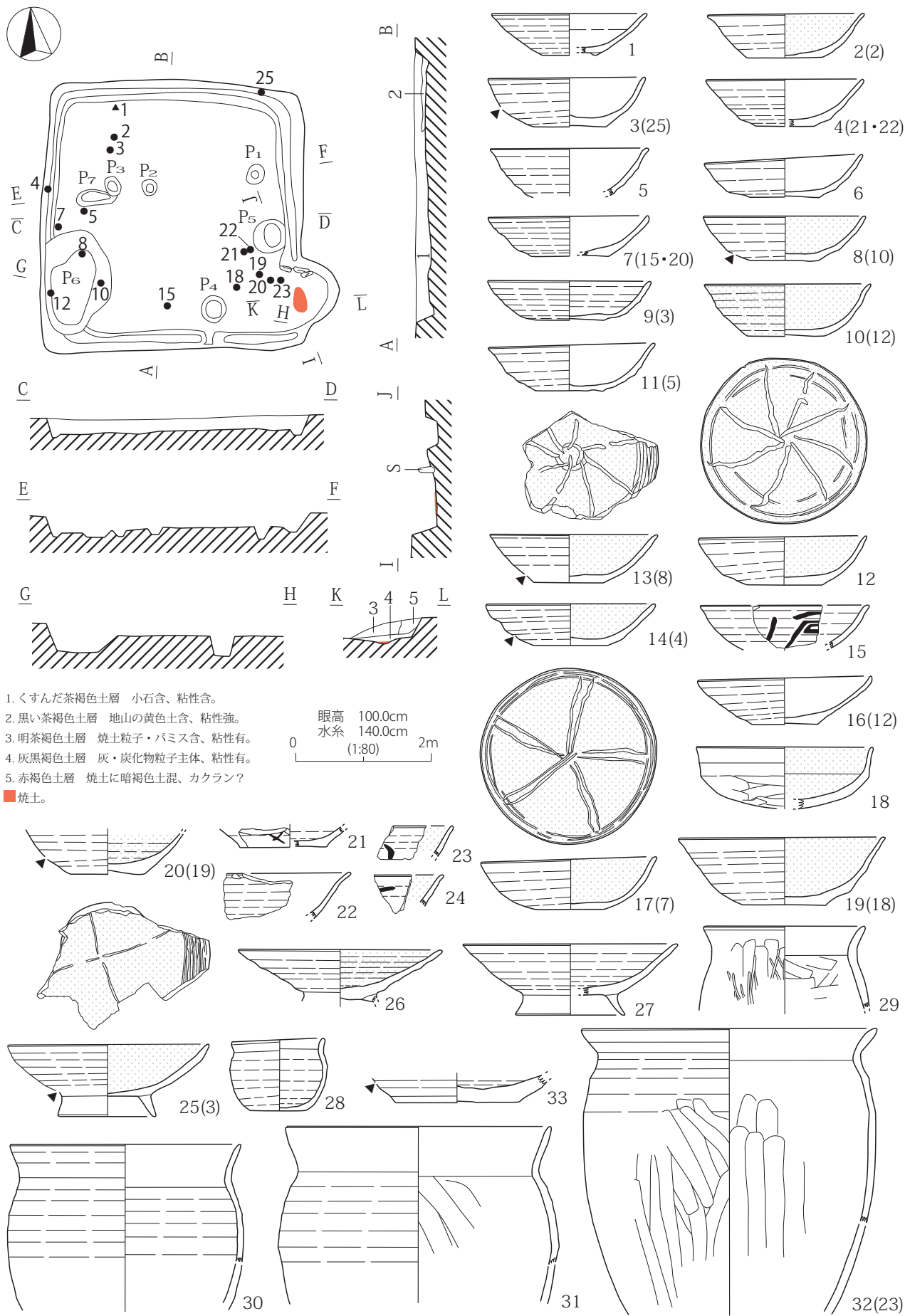
第 171 図 H128 号竪穴建物 (1)



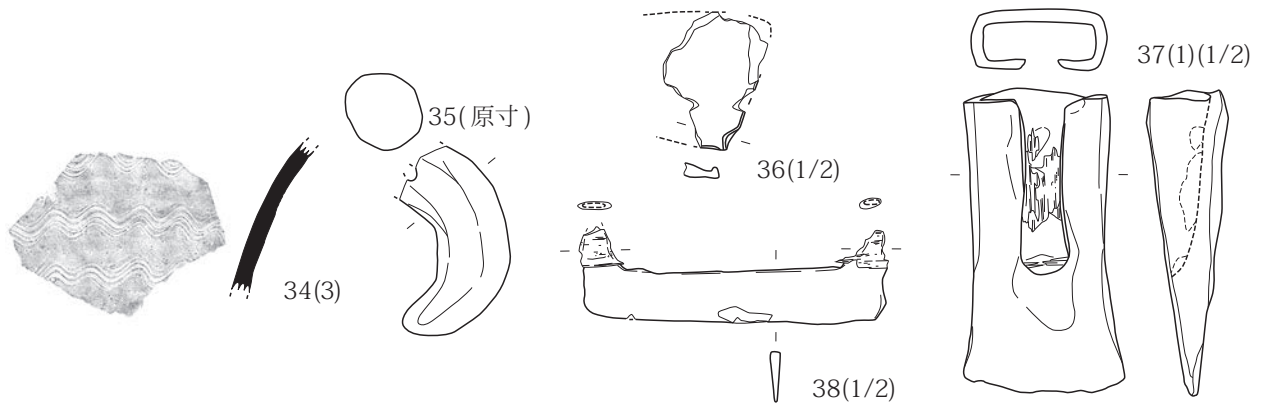
第 172 图 H128 号竖穴建物 (2)



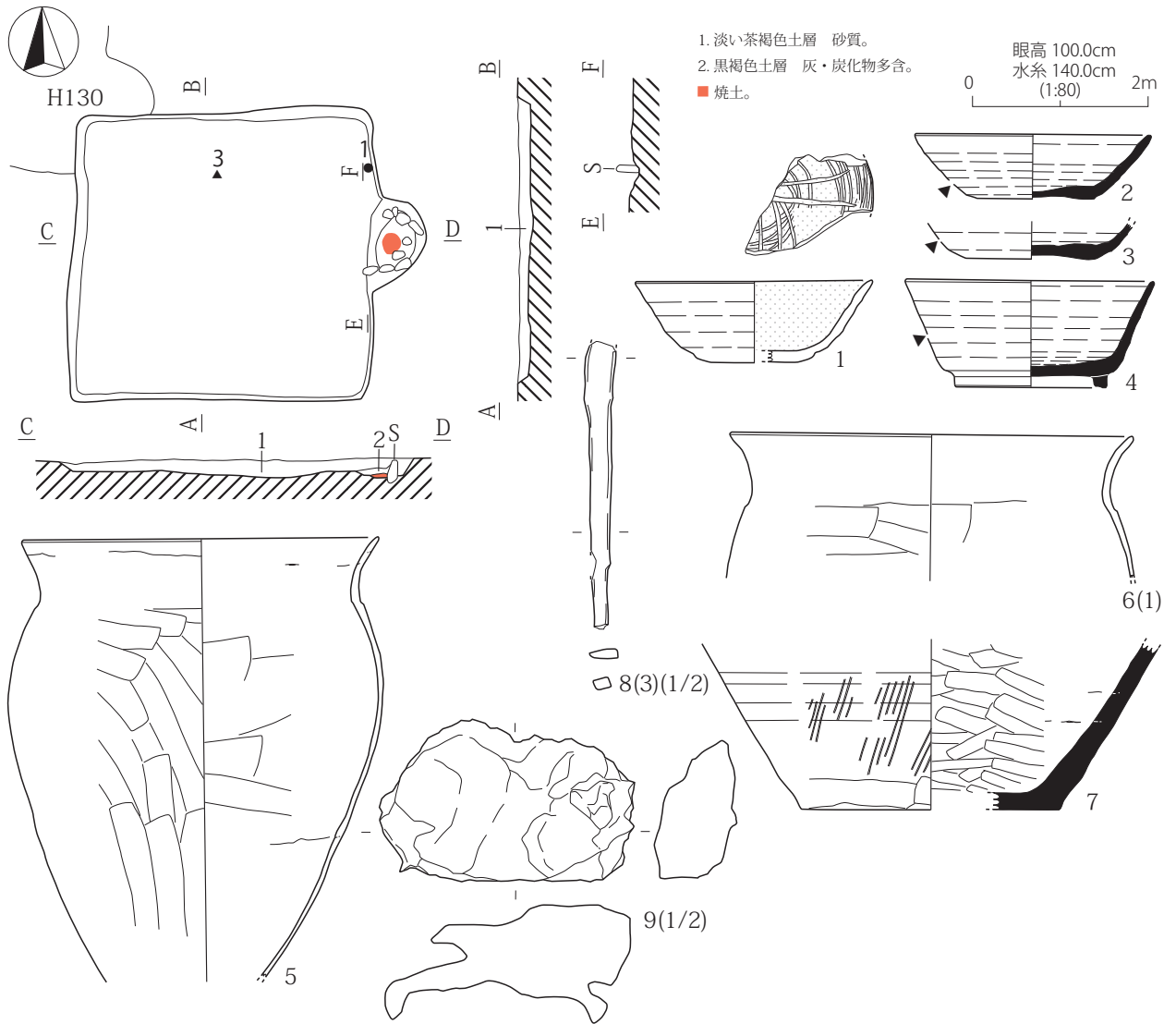
第 173 图 H129 号竖穴建物



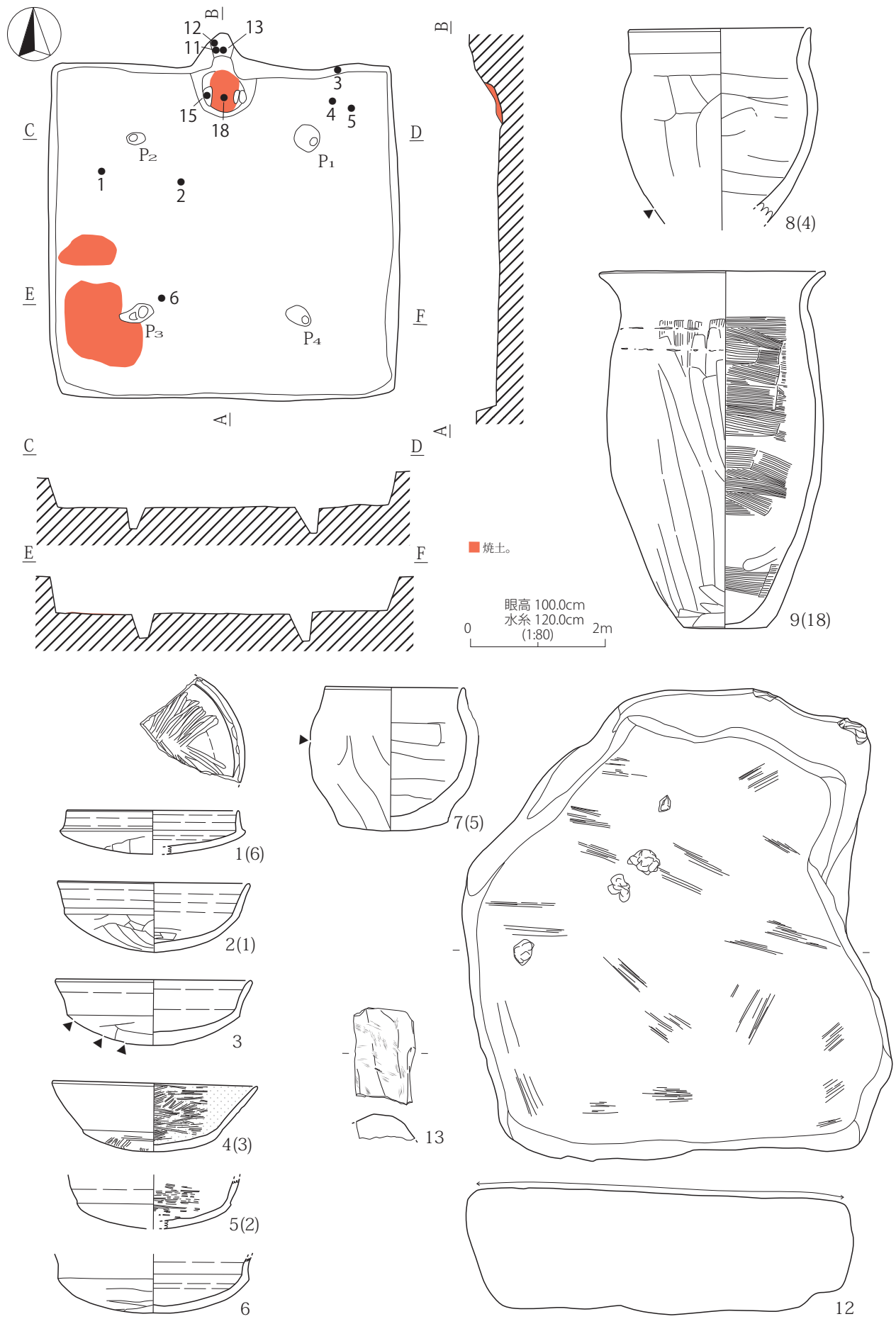
第174図 H130号竖穴建物(1)



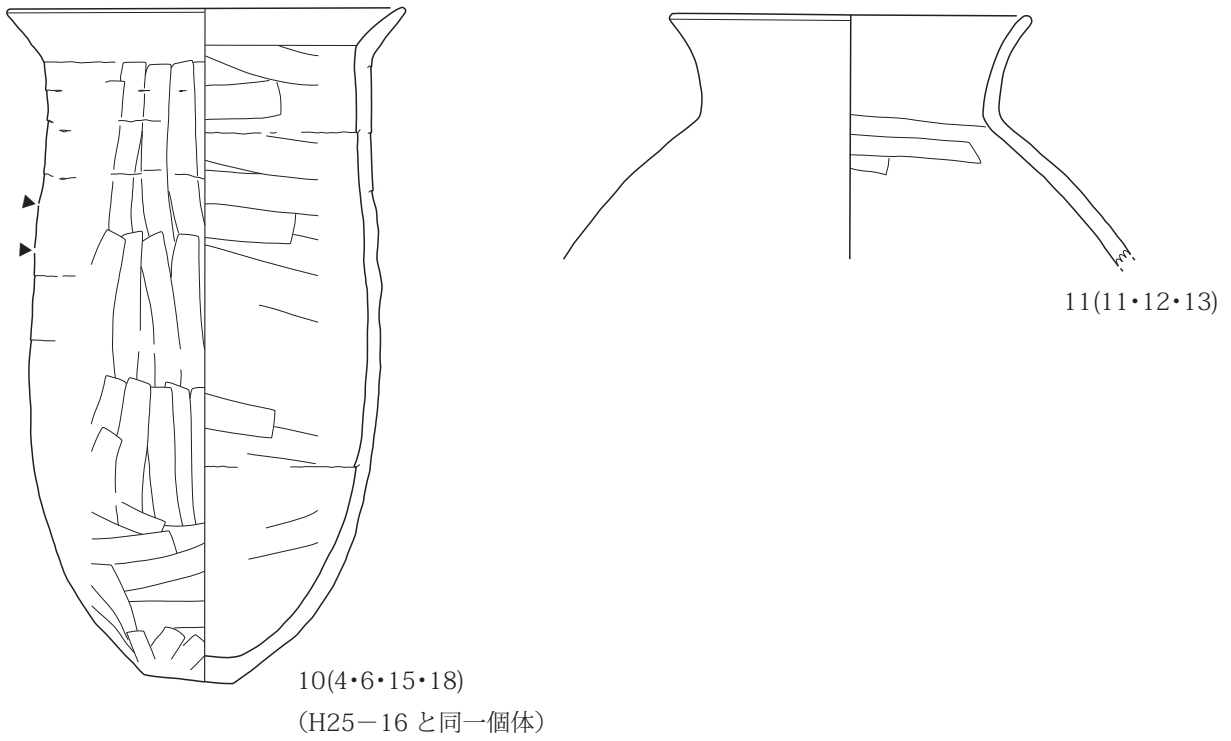
第 175 图 H130 号竖穴建物 (2)



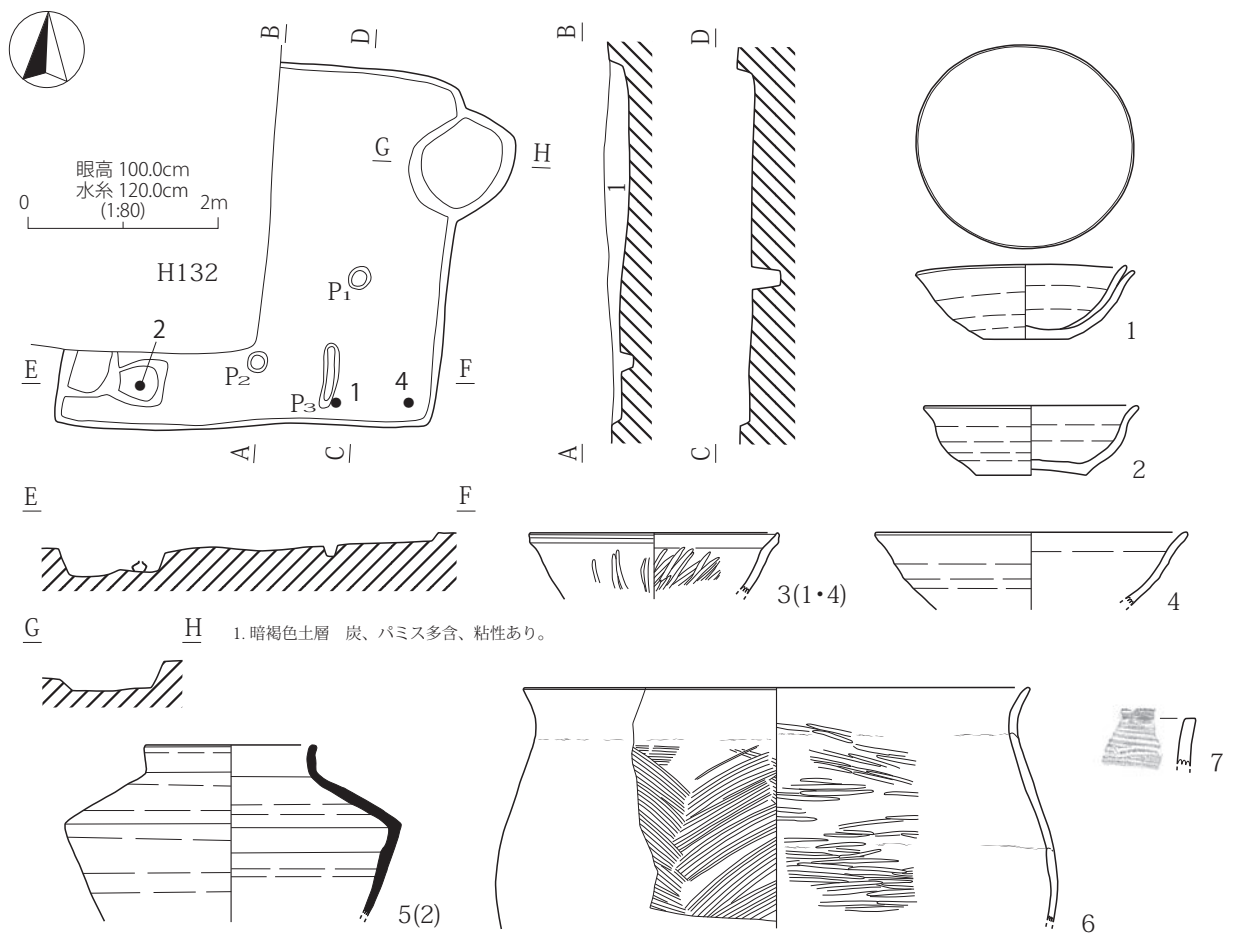
第 176 图 H131 号竖穴建物



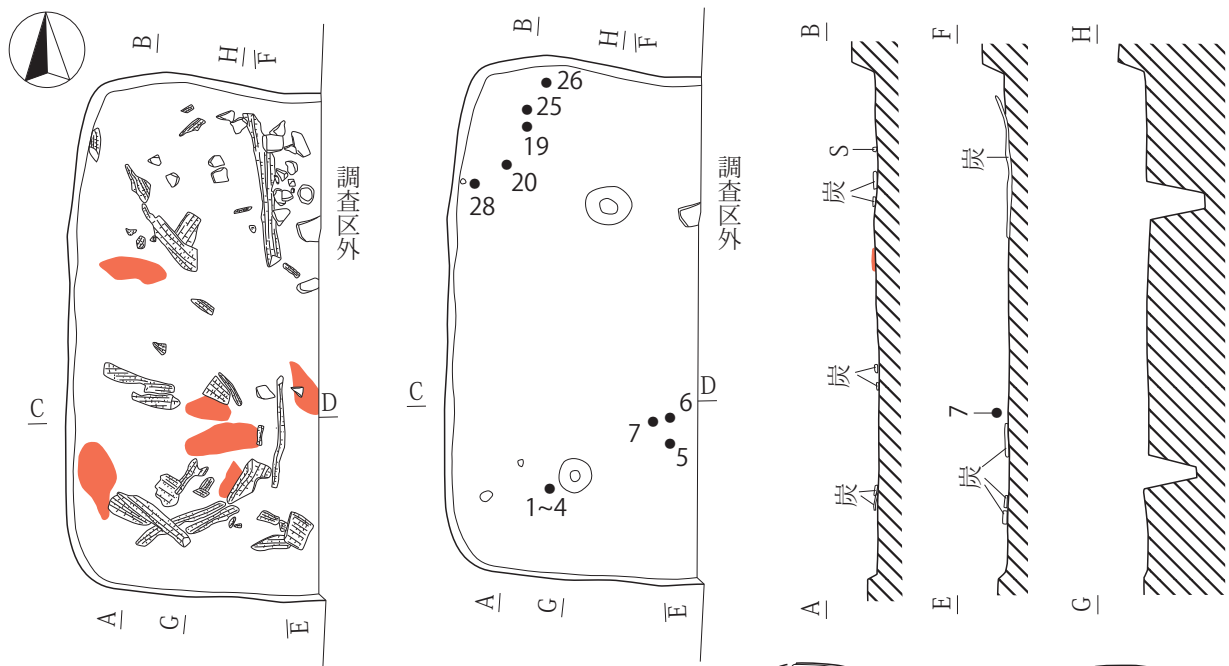
第 177 図 H132 号竖穴建物 (1)



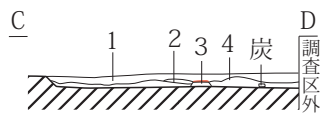
第 178 図 H132 号竖穴建物 (2)



第 179 図 H133 号竖穴建物

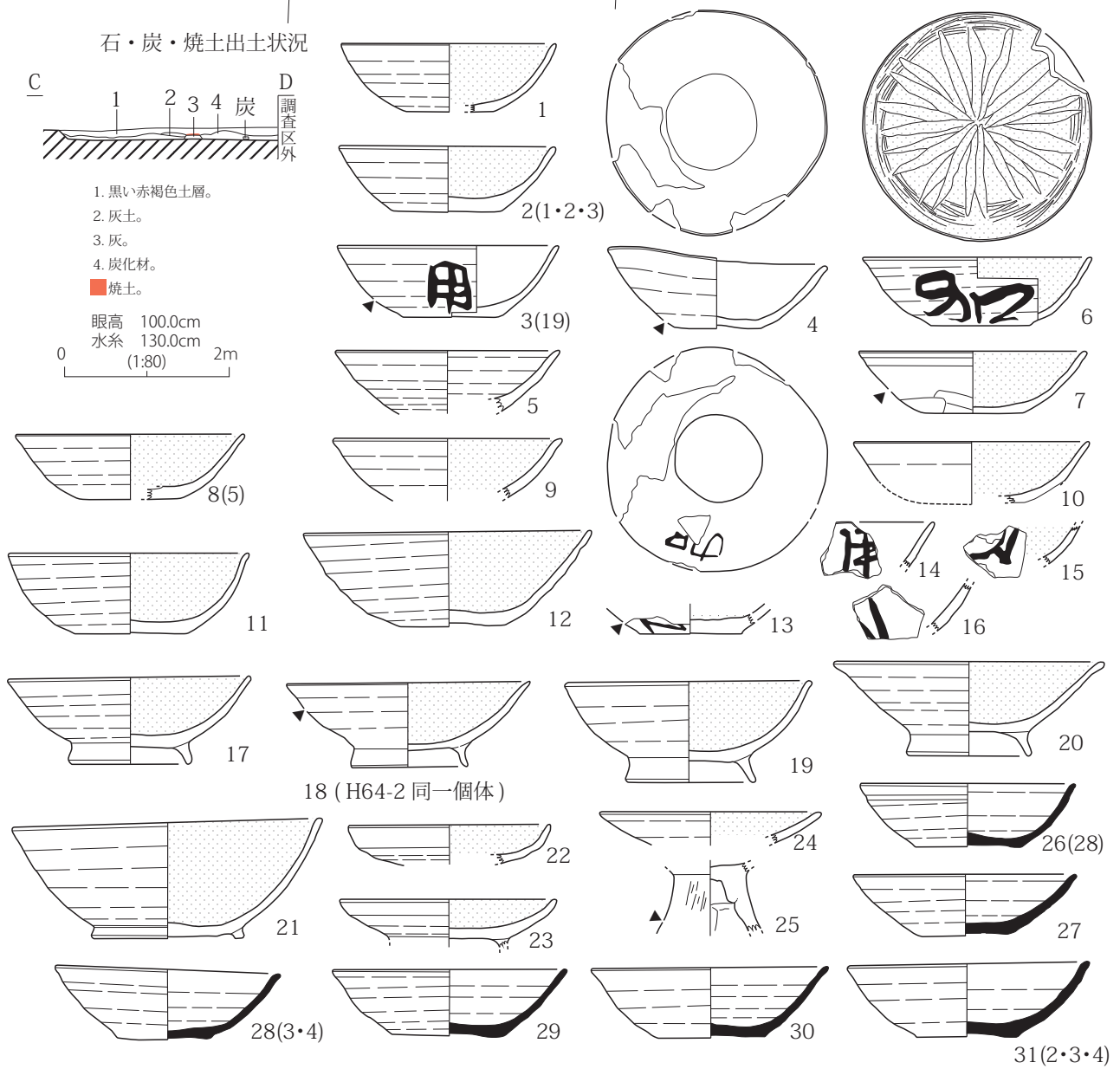


石・炭・焼土出土状況

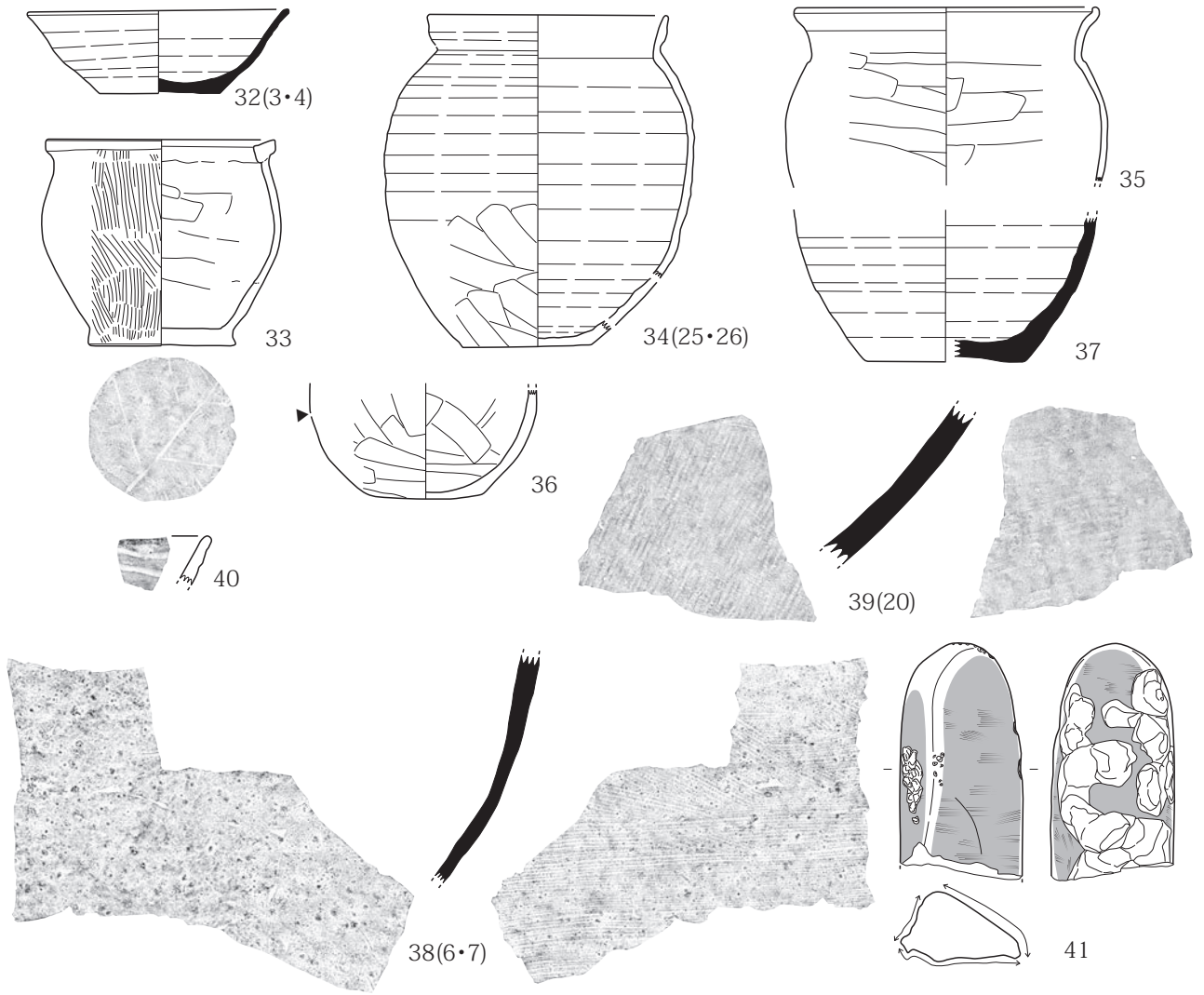


- 1. 黒い赤褐色土層。
- 2. 灰土。
- 3. 灰。
- 4. 炭化材。
- 焼土。

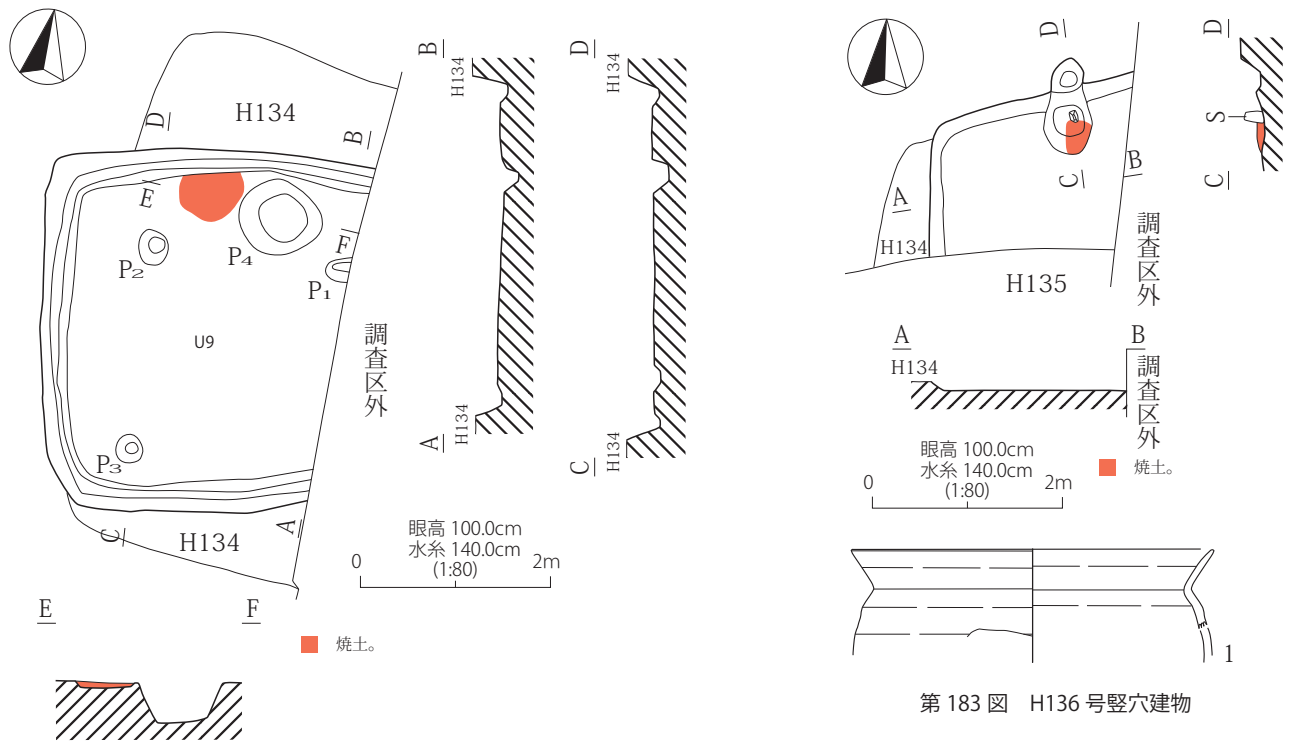
眼高 100.0cm
水系 130.0cm
(1:80)



第 180 図 H134 号竖穴建物 (1)

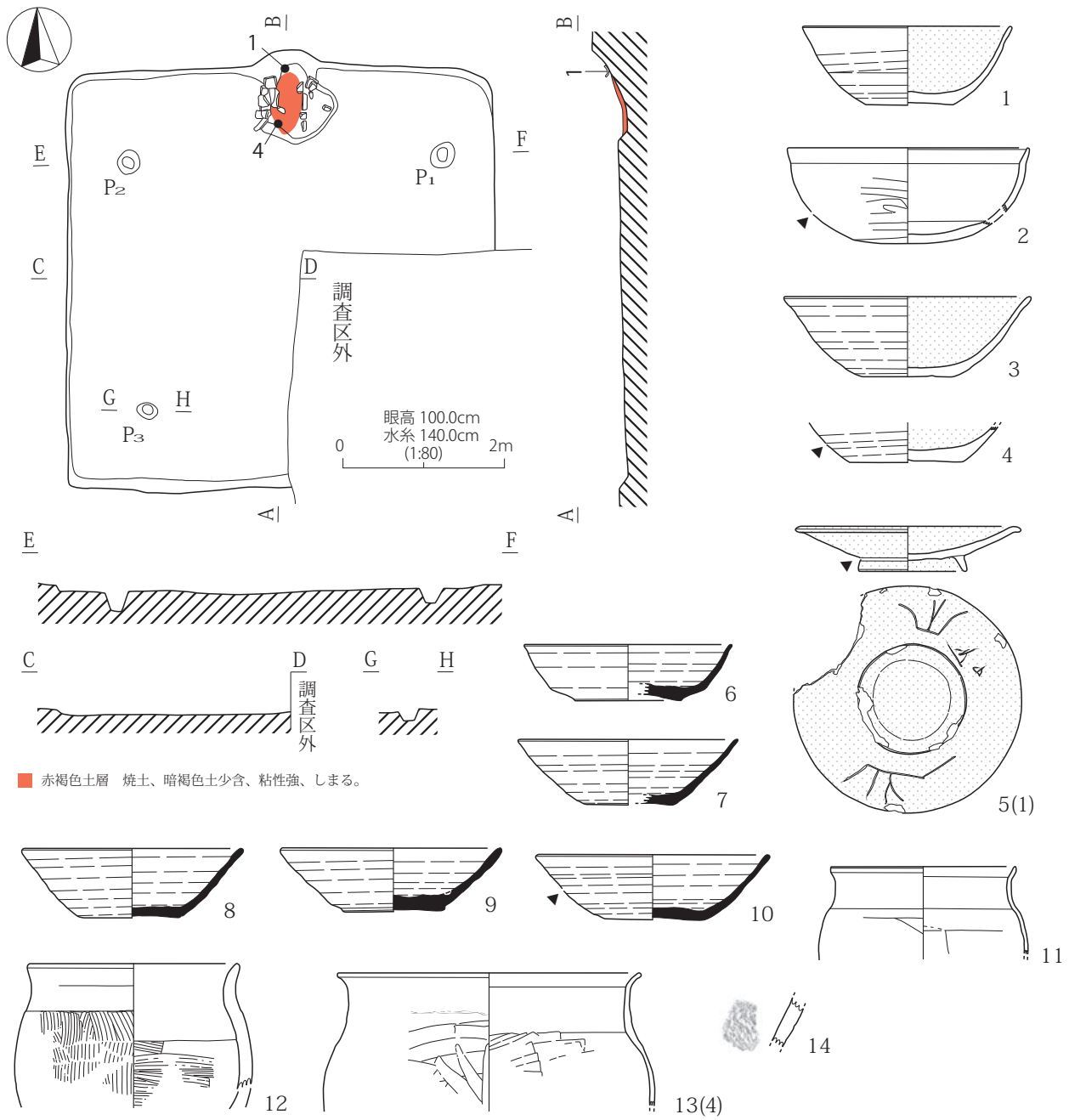


第 181 图 H134 号竖穴建物 (2)

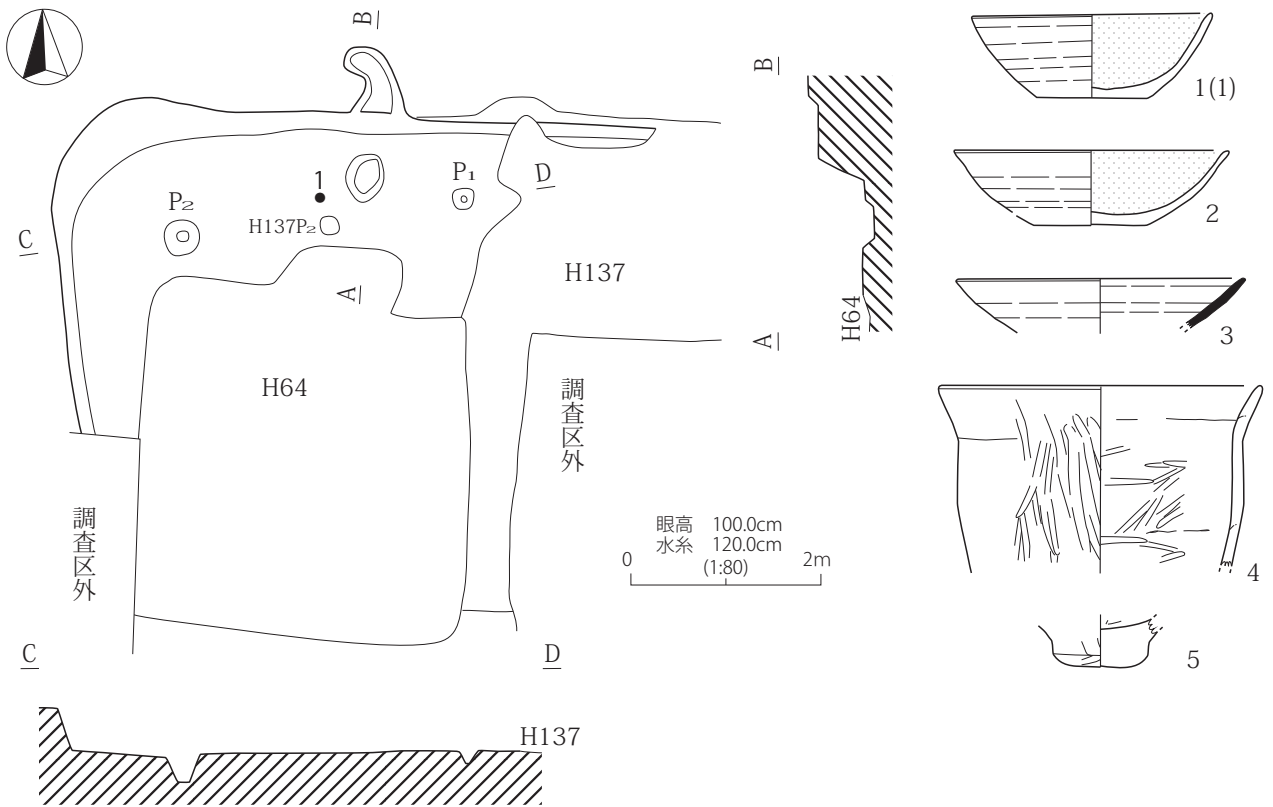


第 183 图 H136 号竖穴建物

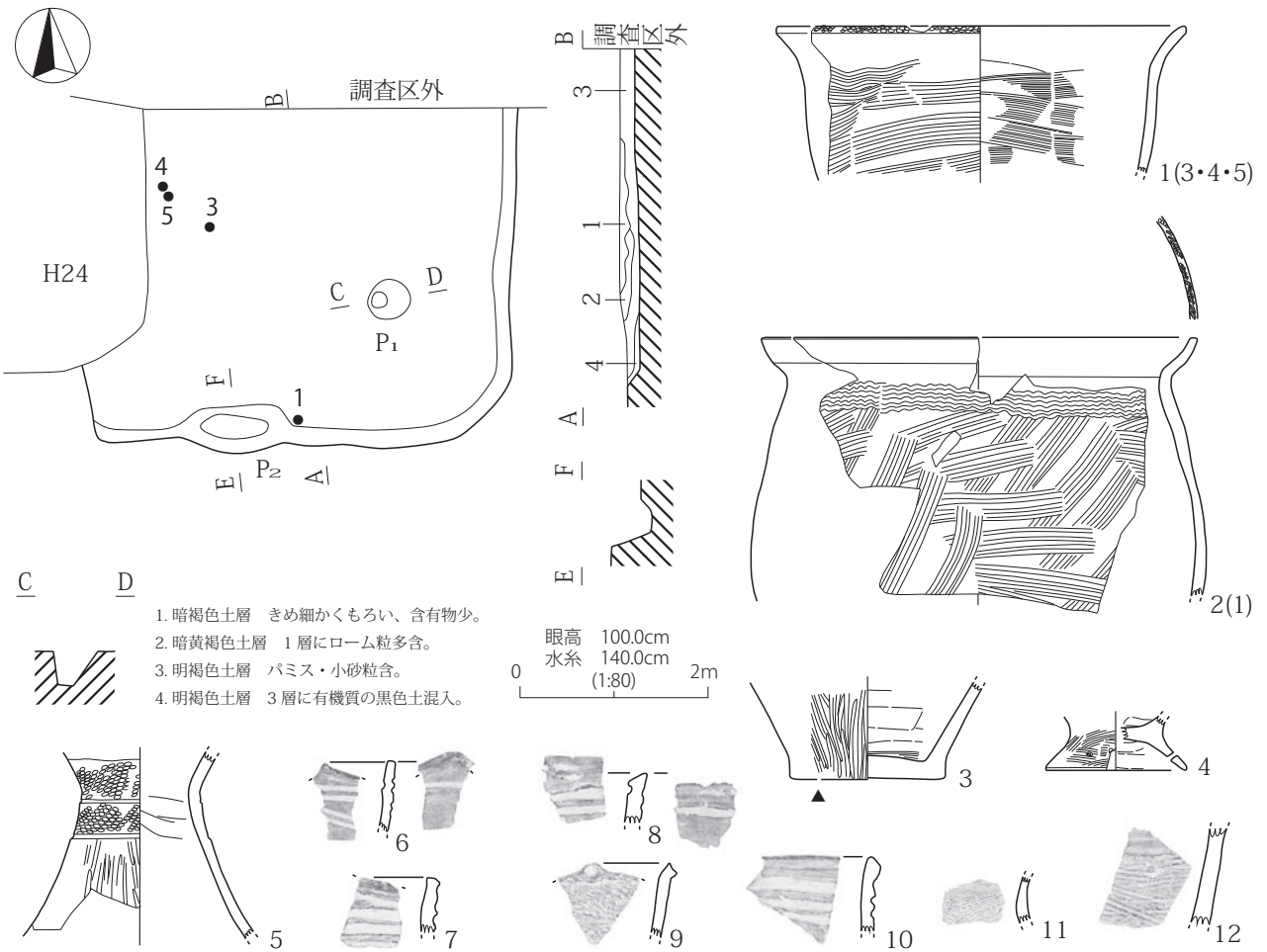
第 182 图 H135 号竖穴建物



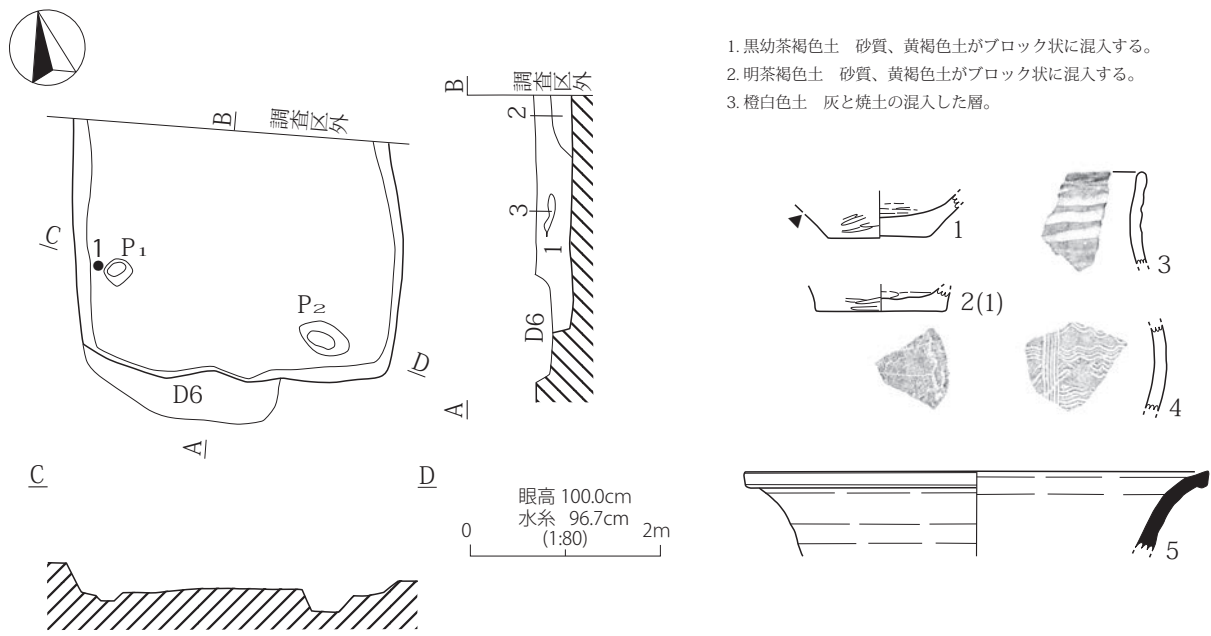
第 184 図 H137 号竪穴建物



第 185 図 H138 号竪穴建物



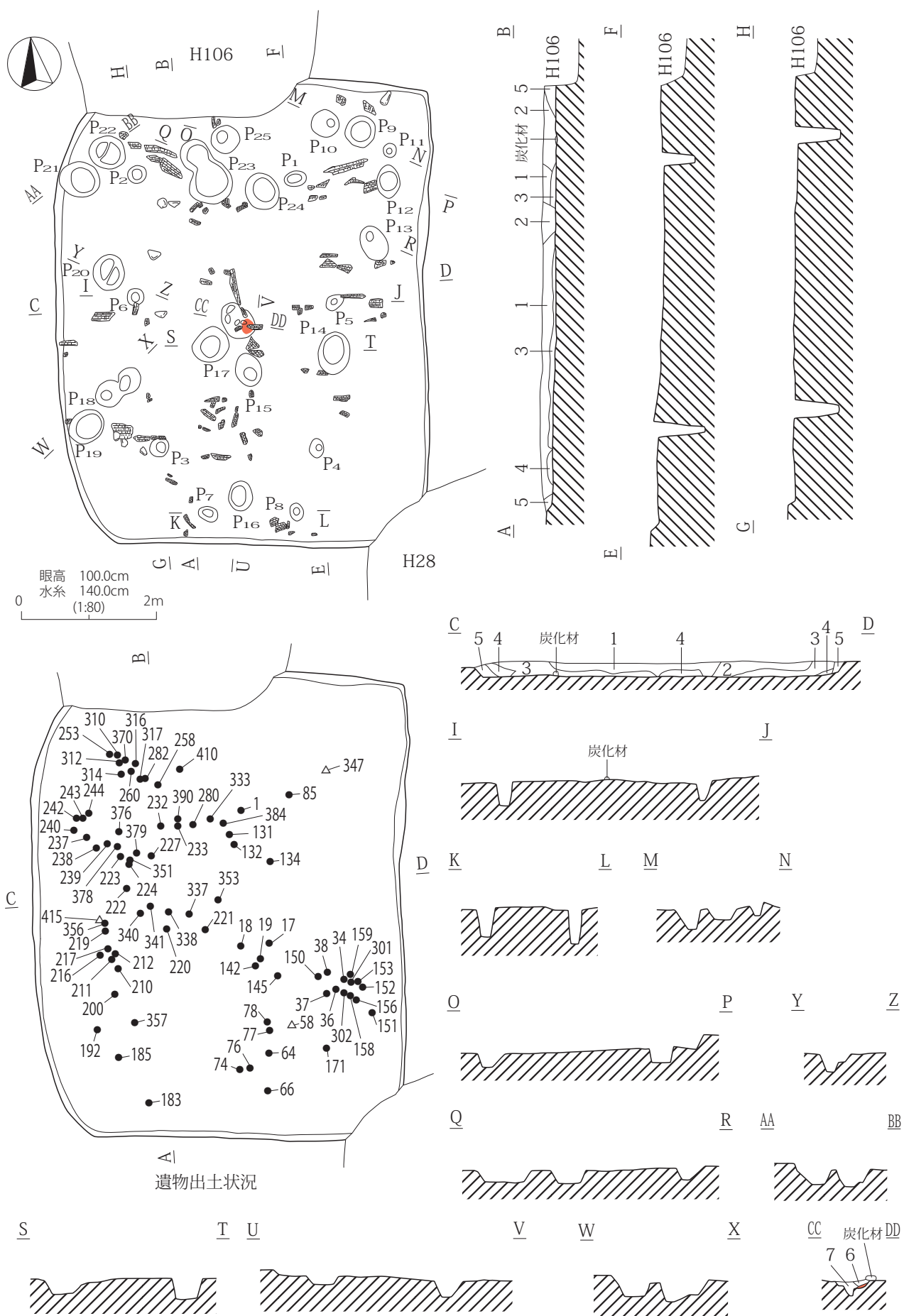
第 186 図 Y1 号竪穴建物



第 187 図 Y2 号竪穴建物

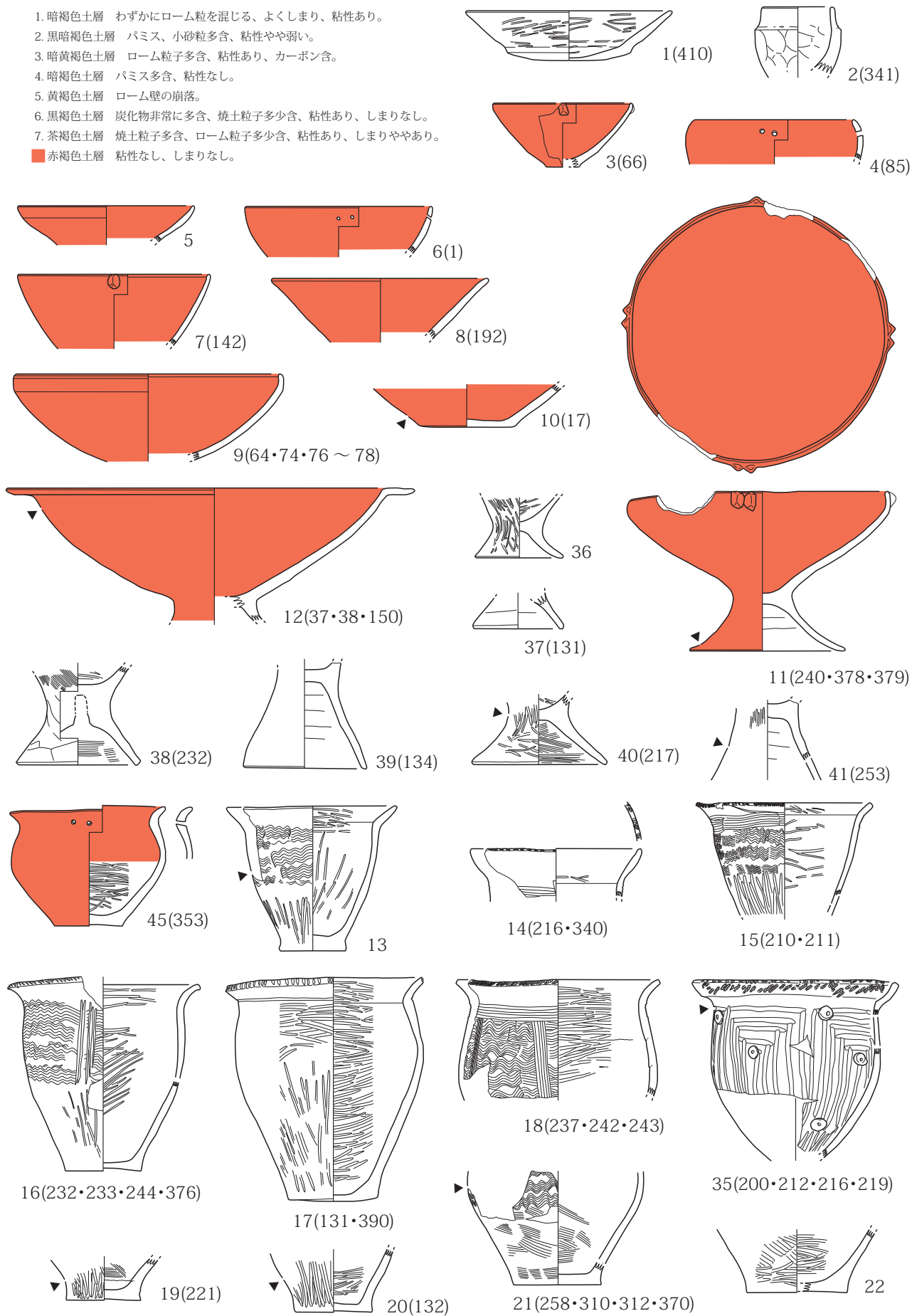


調査風景

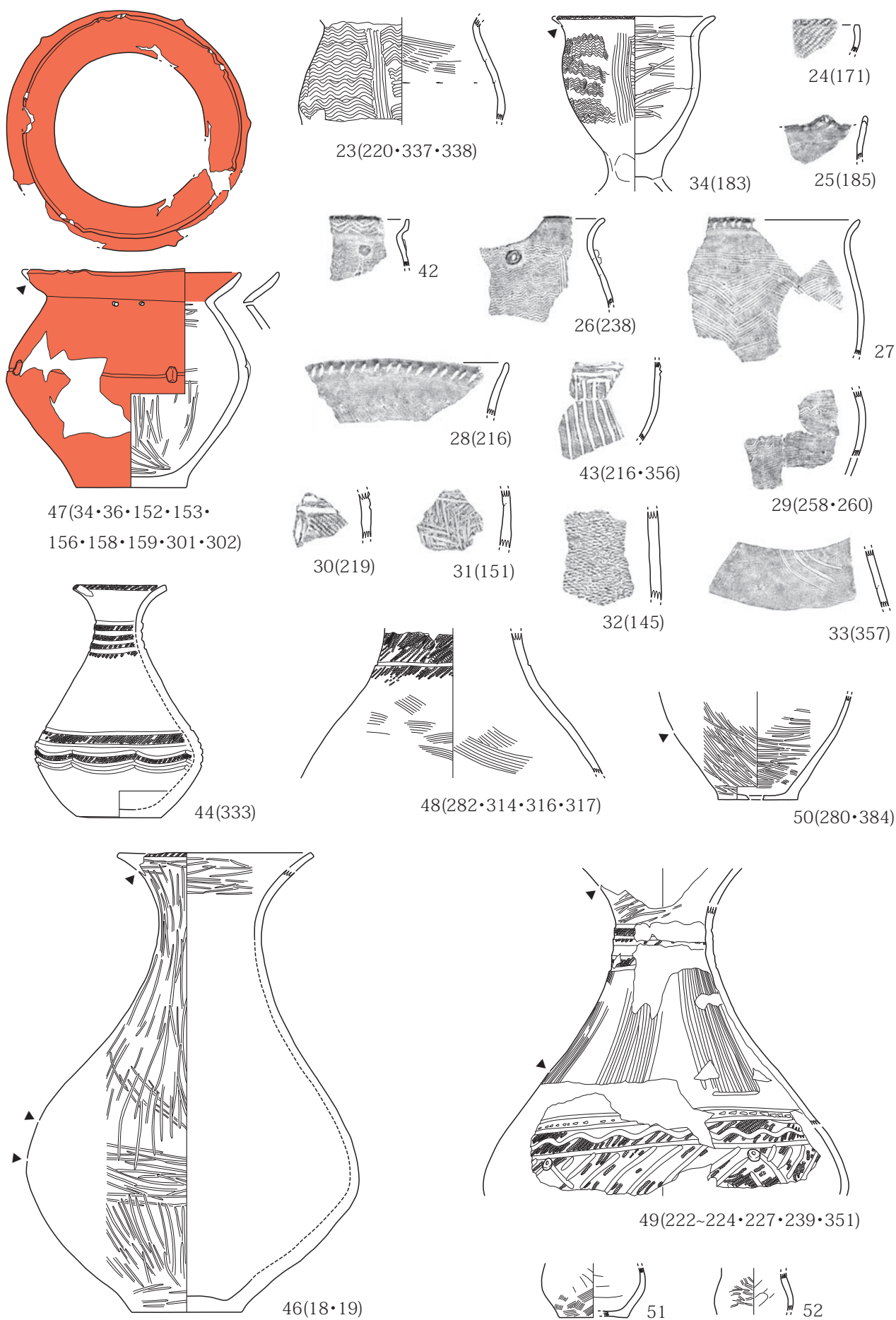


第 188 图 Y3 号竖穴建物 (1)

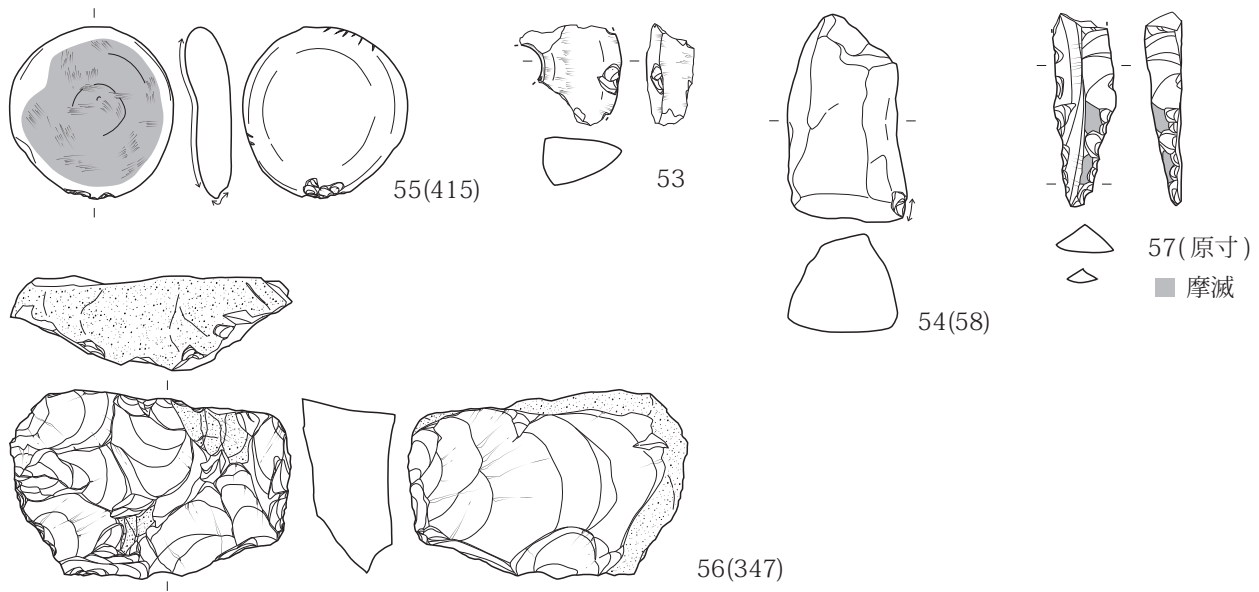
1. 暗褐色土層 わずかにローム粒を混じる、よくしまり、粘性あり。
2. 黒暗褐色土層 パミス、小砂粒多含、粘性やや弱い。
3. 暗黄褐色土層 ローム粒子多含、粘性あり、カーボン含。
4. 暗褐色土層 パミス多含、粘性なし。
5. 黄褐色土層 ローム壁の崩落。
6. 黒褐色土層 炭化物非常に多含、焼土粒子多少含、粘性あり、しまりなし。
7. 茶褐色土層 焼土粒子多含、ローム粒子多少含、粘性あり、しまりややあり。
- 赤褐色土層 粘性なし、しまりなし。



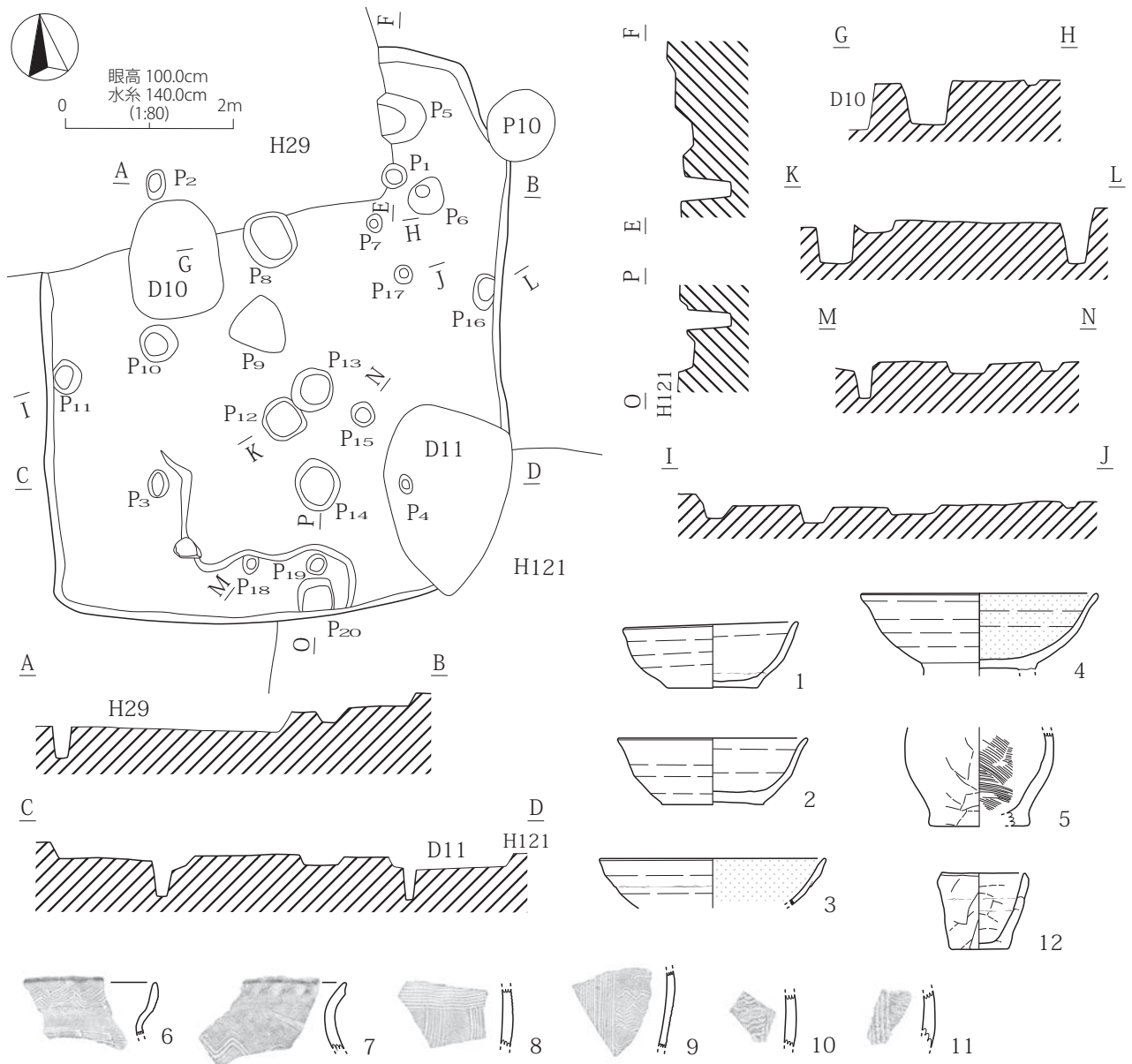
第 189 図 Y3 号竪穴建物 (2)



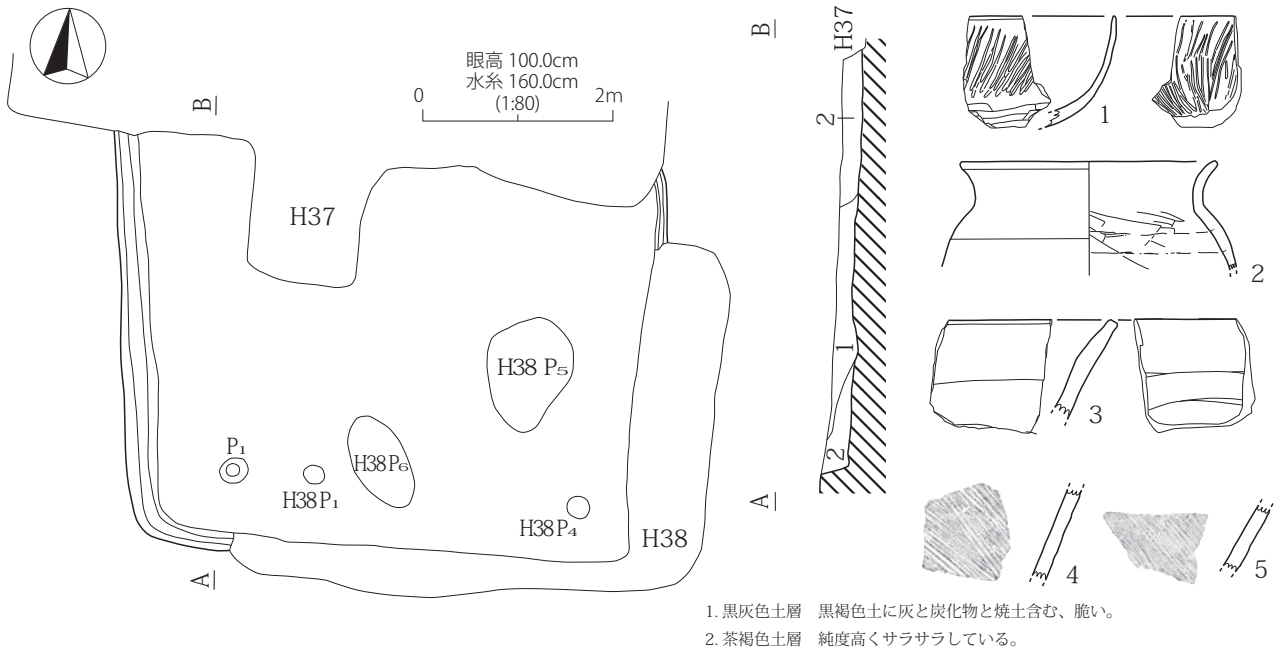
第190图 Y3号竖穴建物(3)



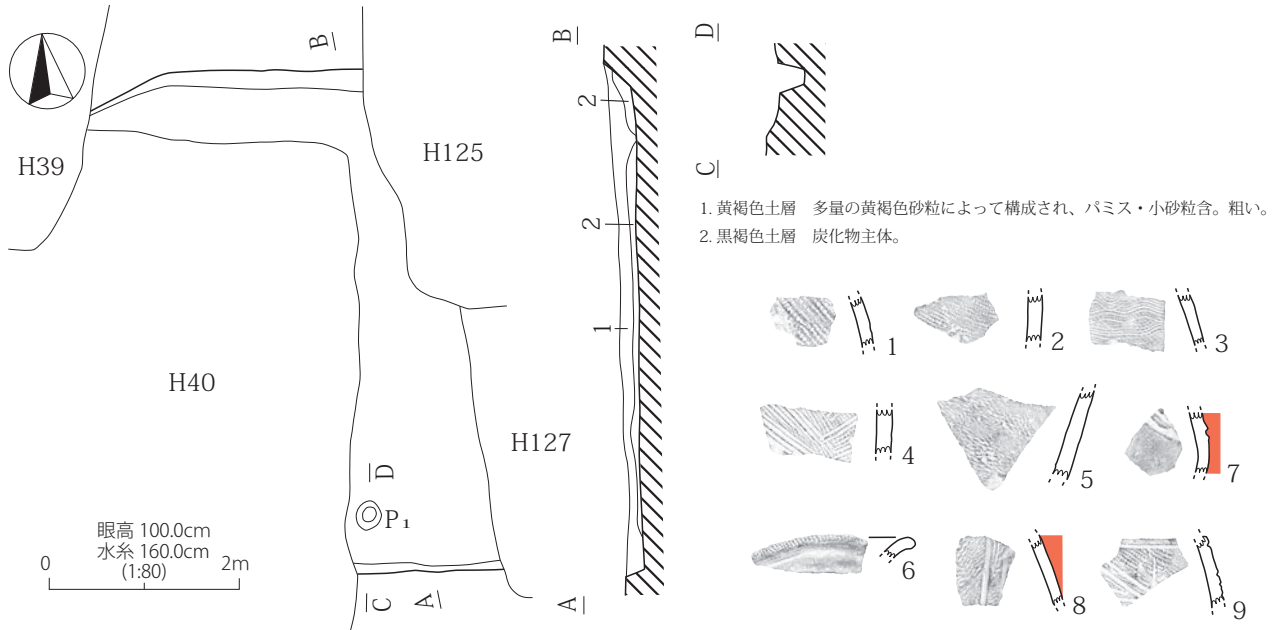
第 191 图 Y3 号竖穴建物 (4)



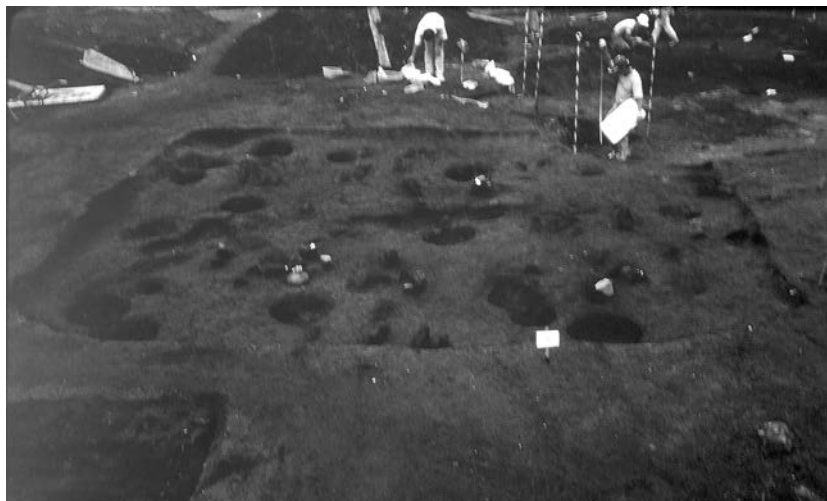
第 192 图 Y4 号竖穴建物



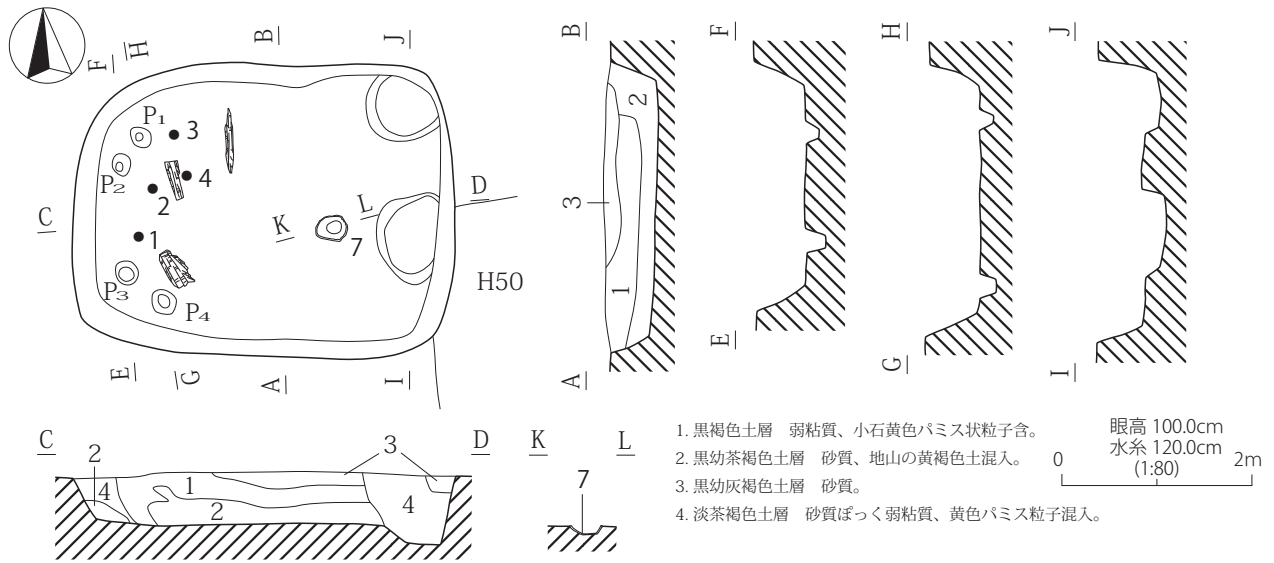
第 193 図 Y5 号竪穴建物



第 194 図 Y6 号竪穴建物

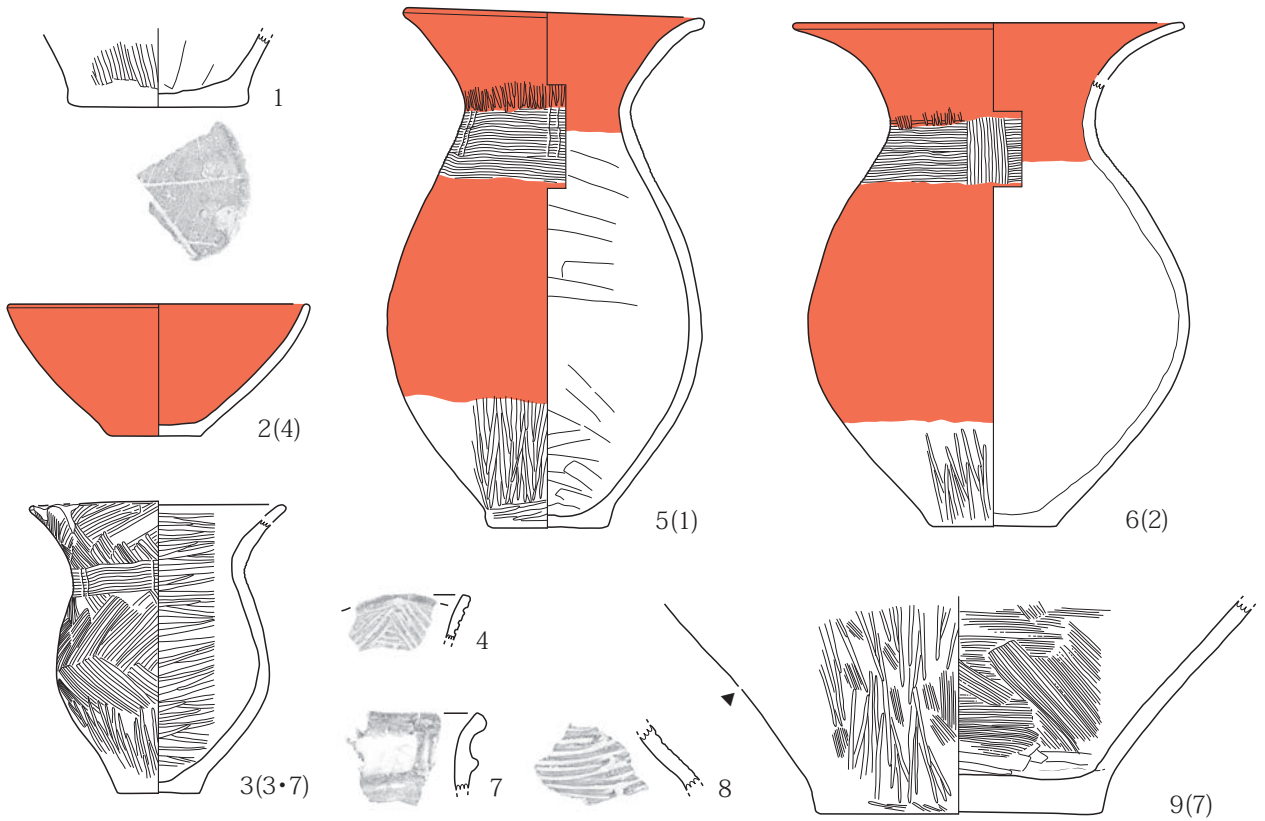


Y3 号竪穴建物調査風景

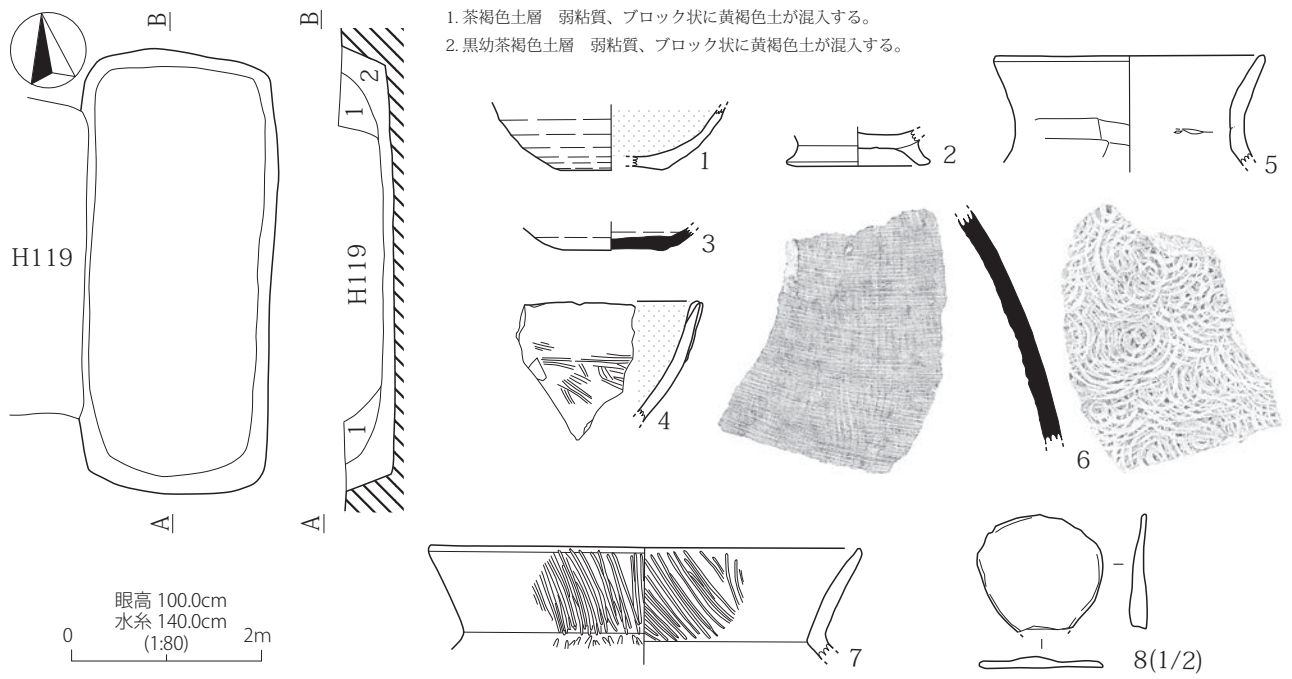


1. 黒褐色土層 弱粘質、小石黄色パミス状粒子含。
2. 黒幼茶褐色土層 砂質、地山の黄褐色土混入。
3. 黒幼灰褐色土層 砂質。
4. 淡茶褐色土層 砂質ばっく弱粘質、黄色パミス粒子混入。

眼高 100.0cm
 水深 120.0cm
 (1:80)



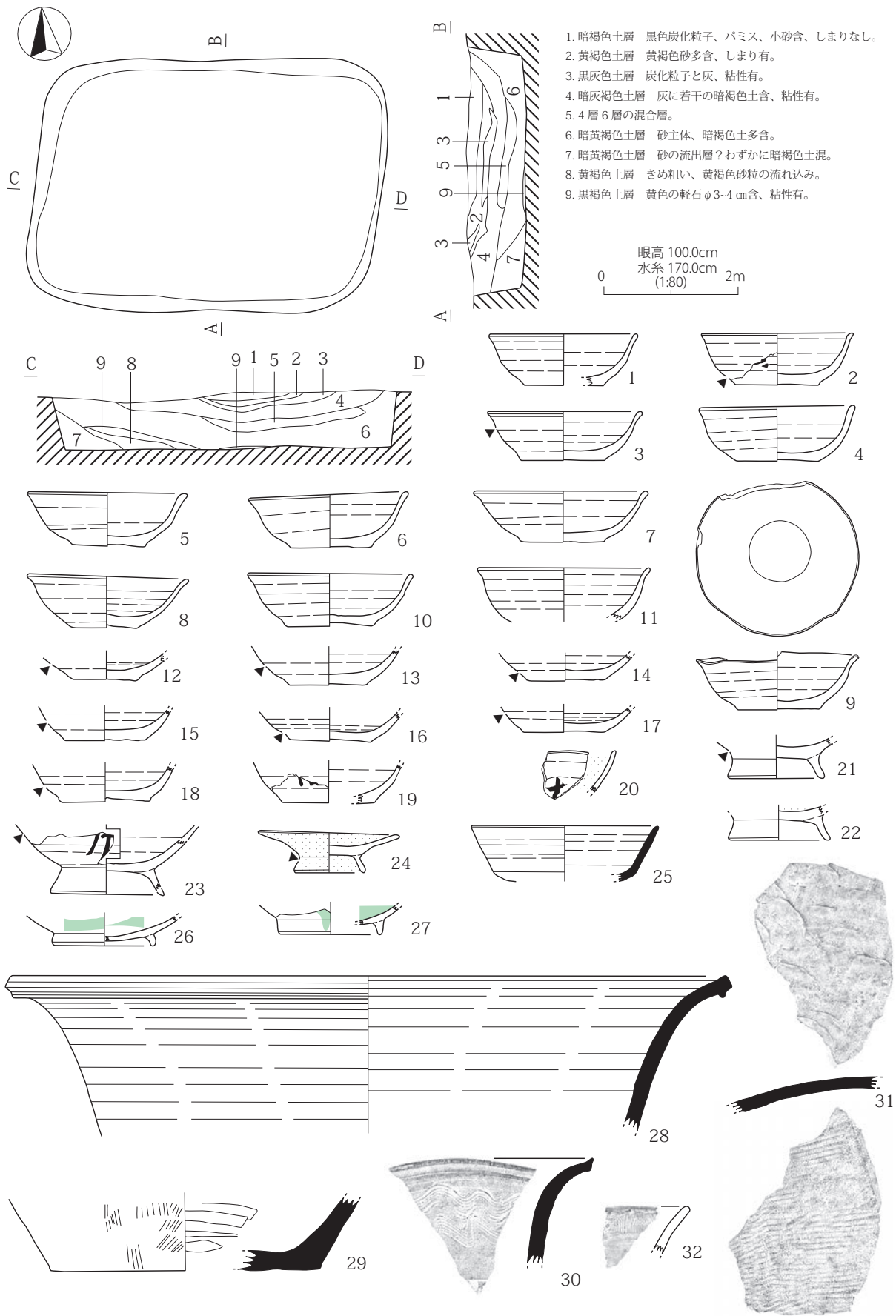
第 195 図 Y7 号竪穴建物



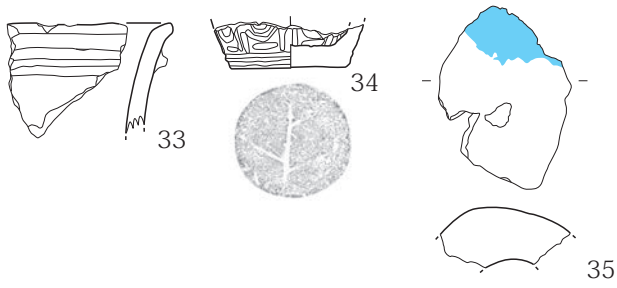
第 196 図 Ta1 号竪穴建物



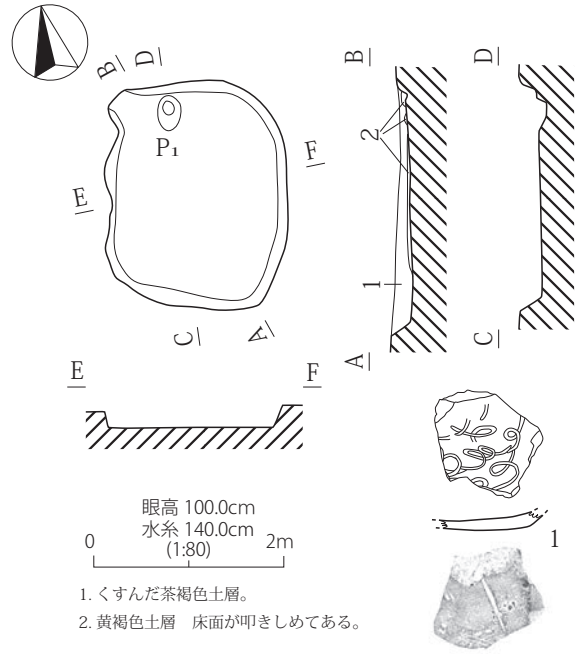
Y7 号竪穴建物遺物出土状況



第 197 図 Ta2 号竪穴建物 (1)

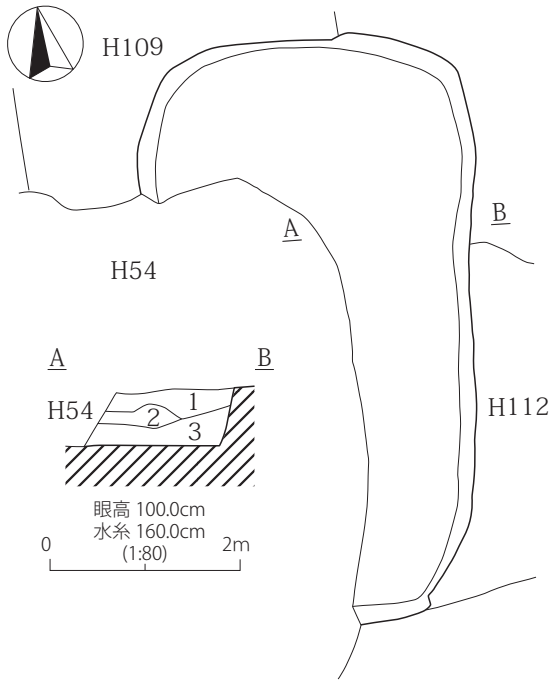


第198図 Ta2号竪穴建物(2)

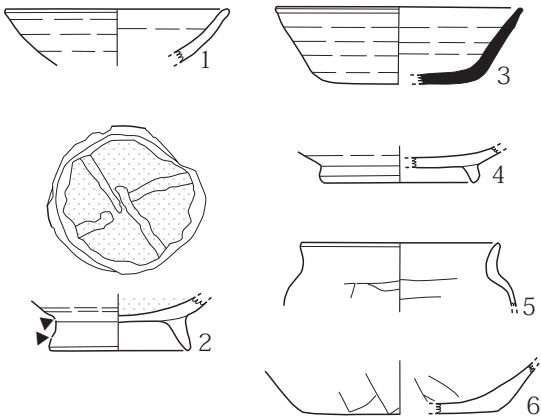


1. くすんだ茶褐色土層。
2. 黄褐色土層 床面が叩きしめてある。

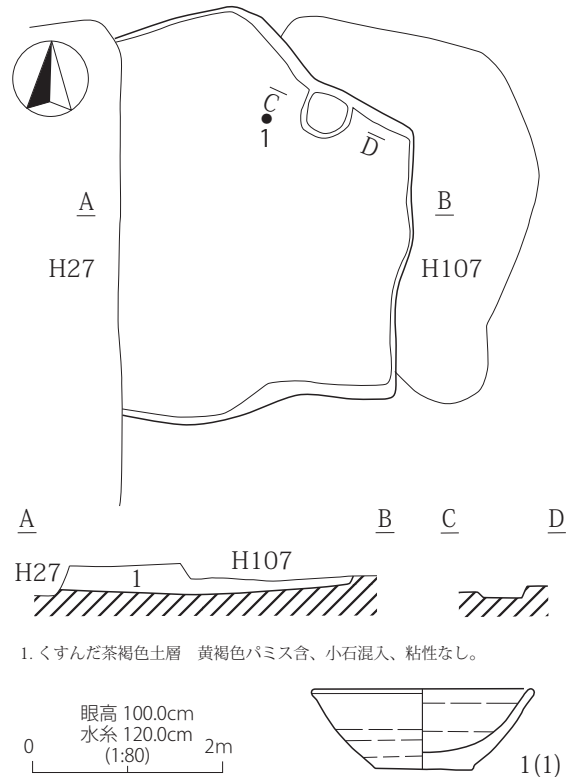
第200図 Ta4号竪穴建物



1. くすんだ茶褐色土層 弱粘性、黄褐色土がブロック状に含。
2. 茶褐色土層 砂質、弱粘性、黄褐色土がブロック状に含。
3. 暗黒褐色土層 粘性が強く、黄褐色土がブロック状に含。

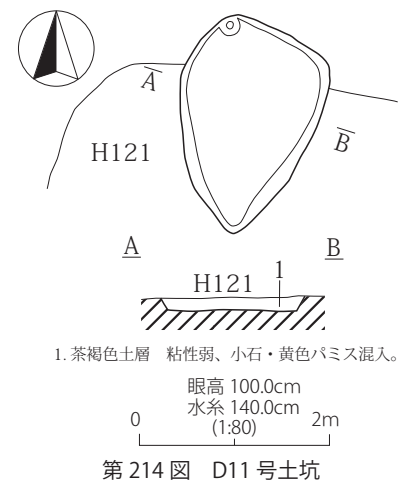
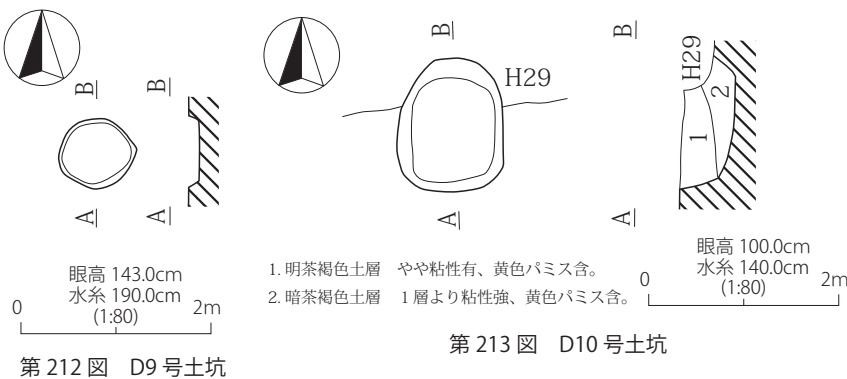
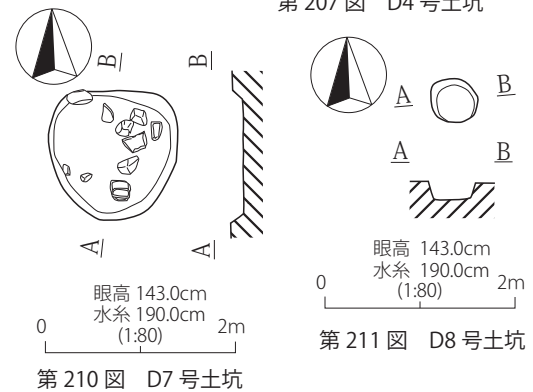
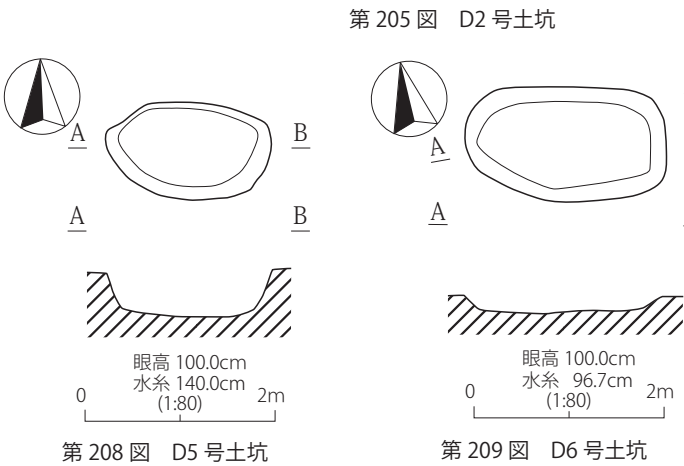
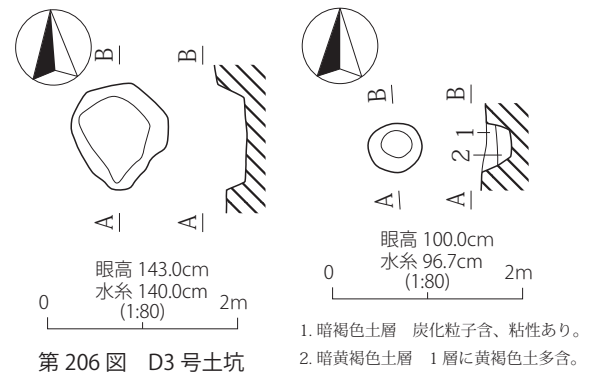
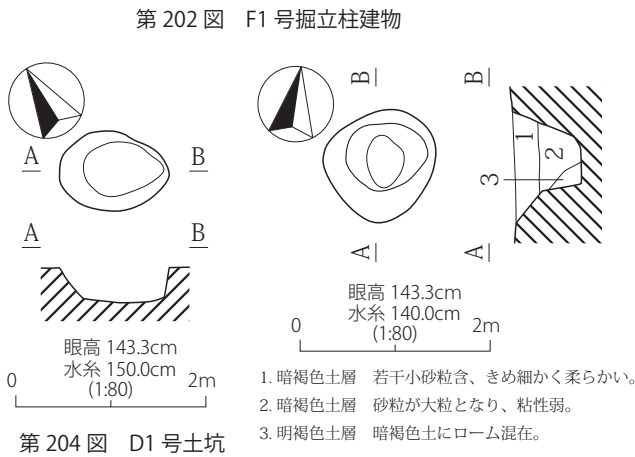
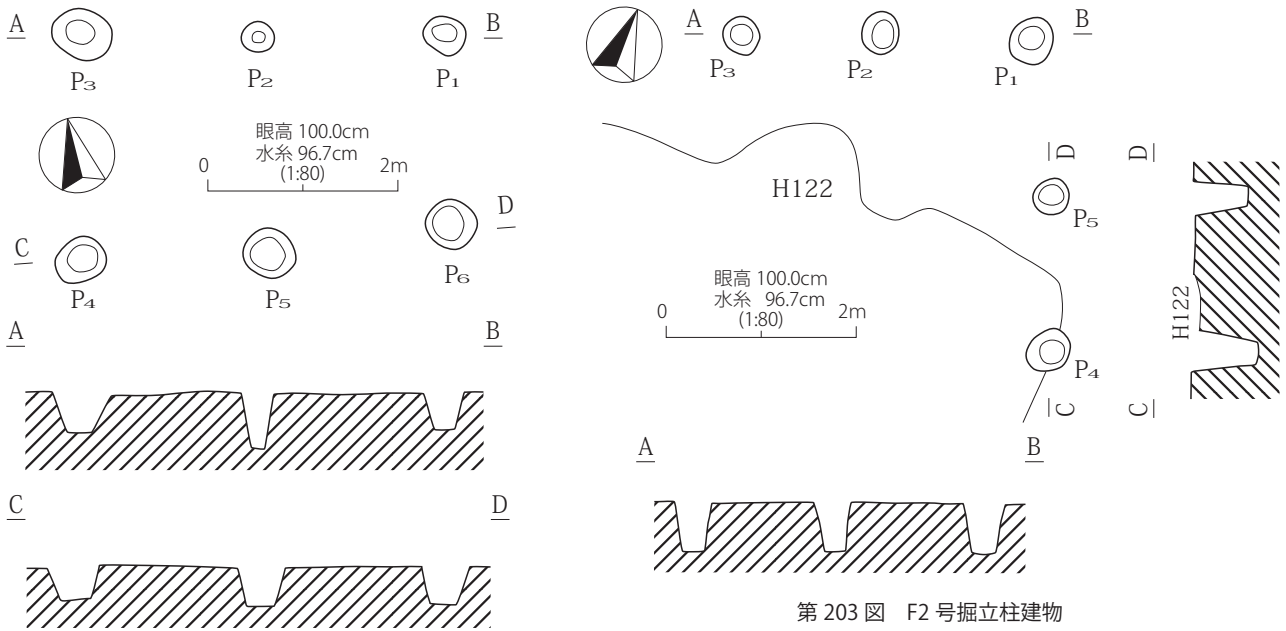


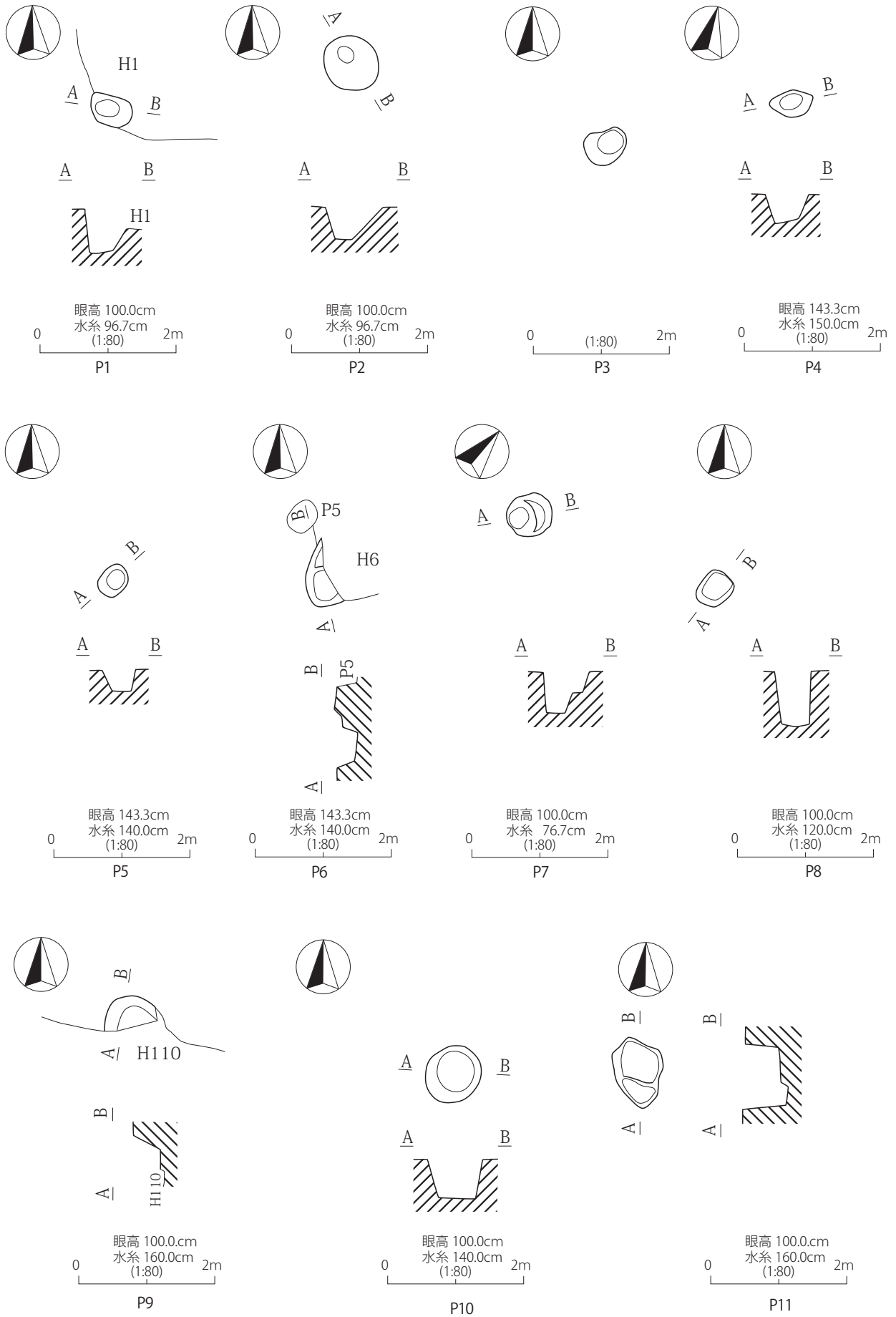
第199図 Ta3号竪穴建物



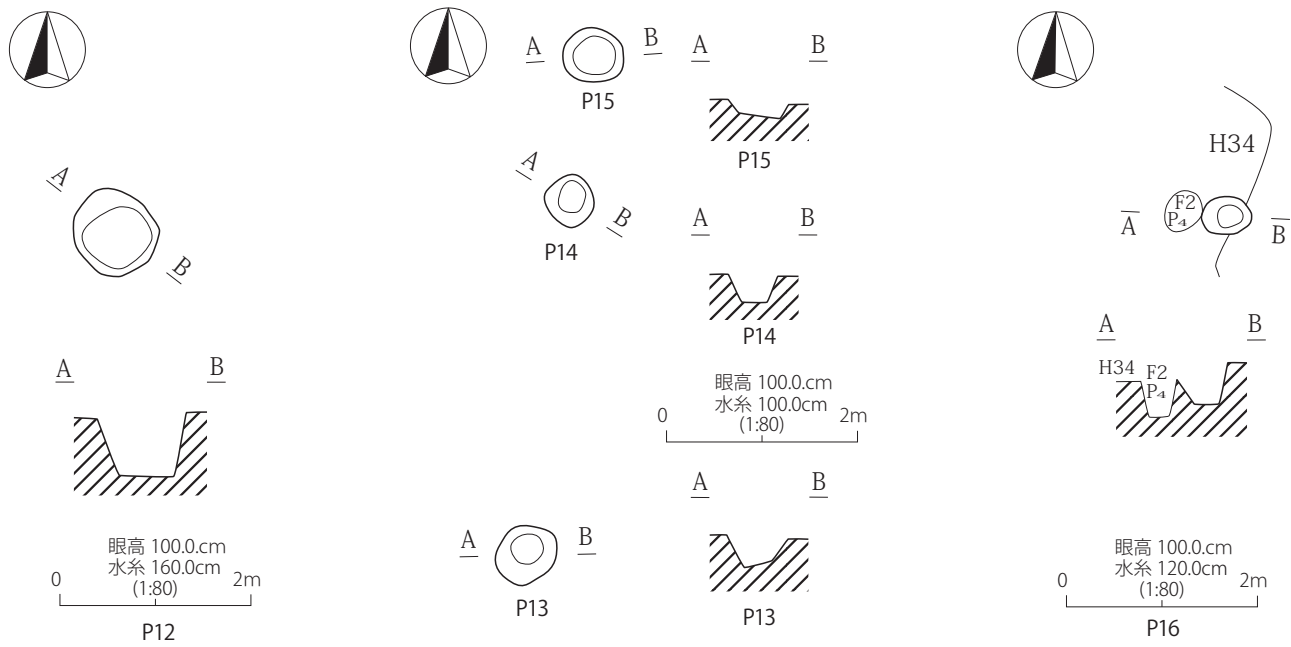
1. くすんだ茶褐色土層 黄褐色パミス含、小石混入、粘性なし。

第201図 Ta5号竪穴建物

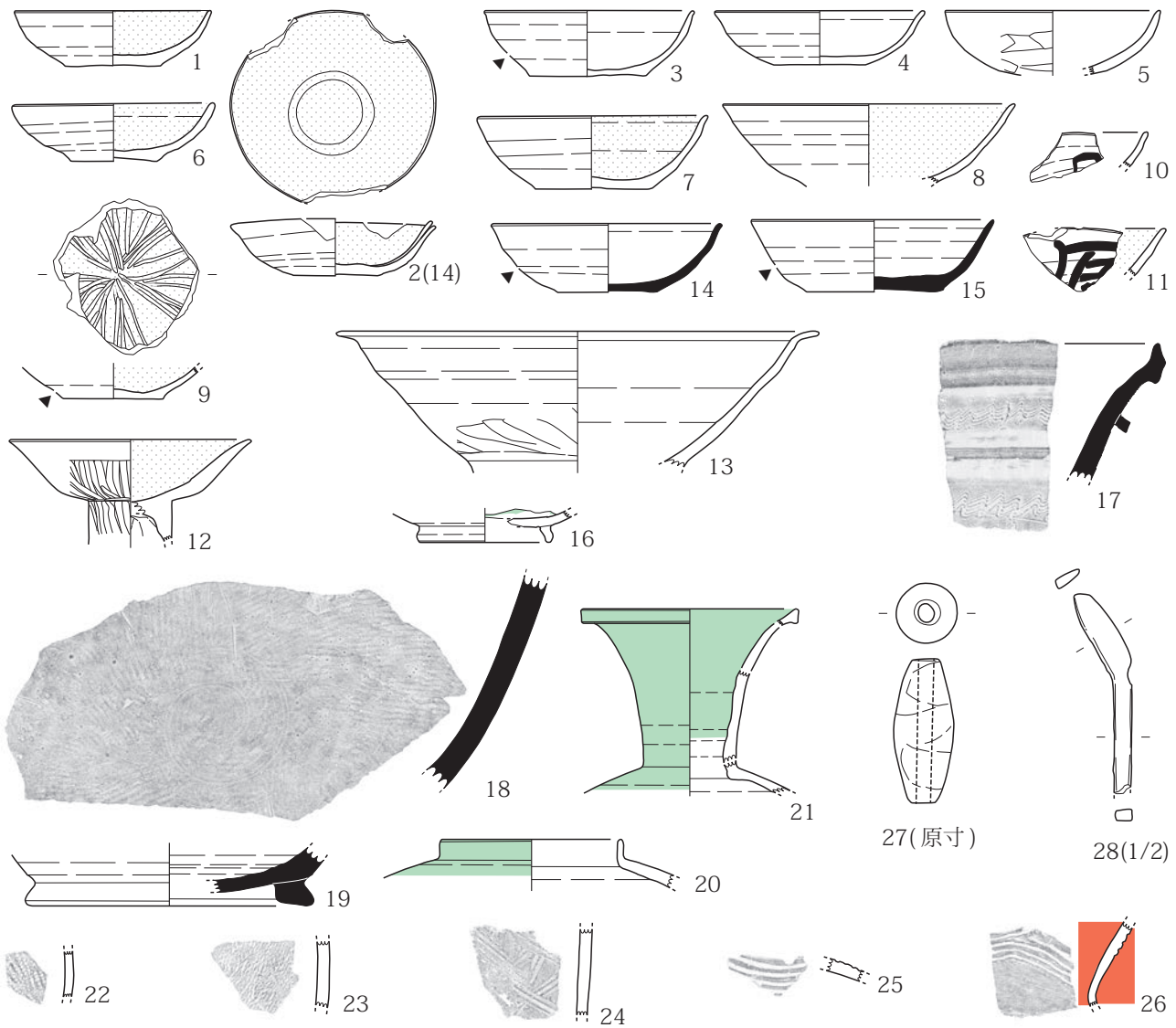




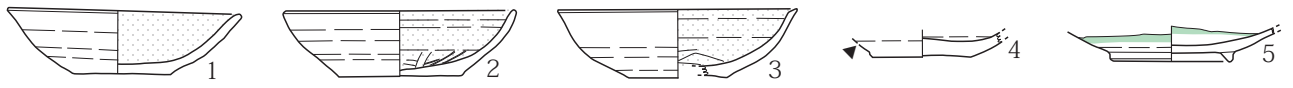
第 215 図 ピット (1)



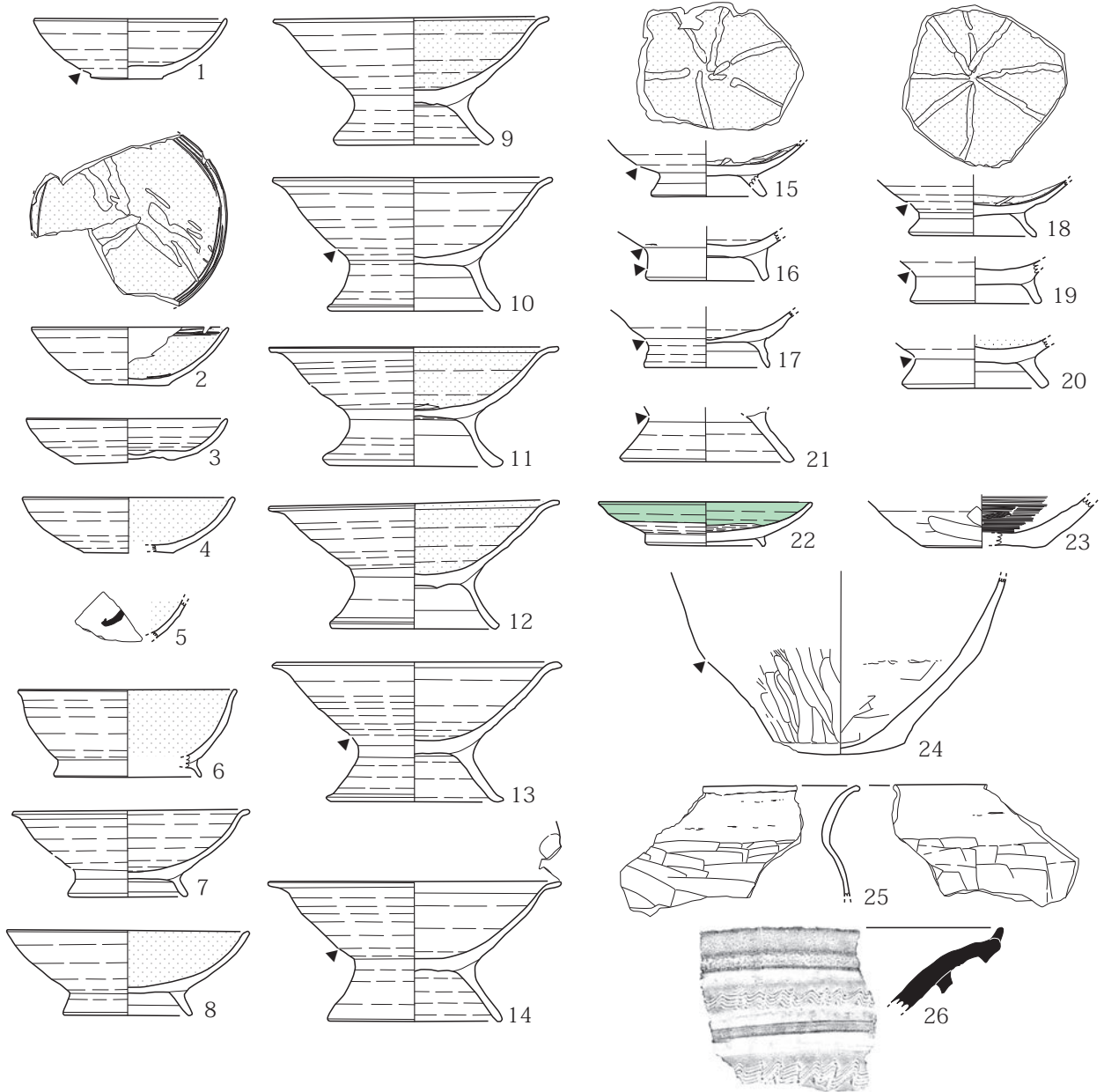
第 216 図 ピット (2)



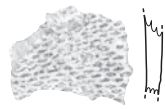
第 217 図 M7 号溝址



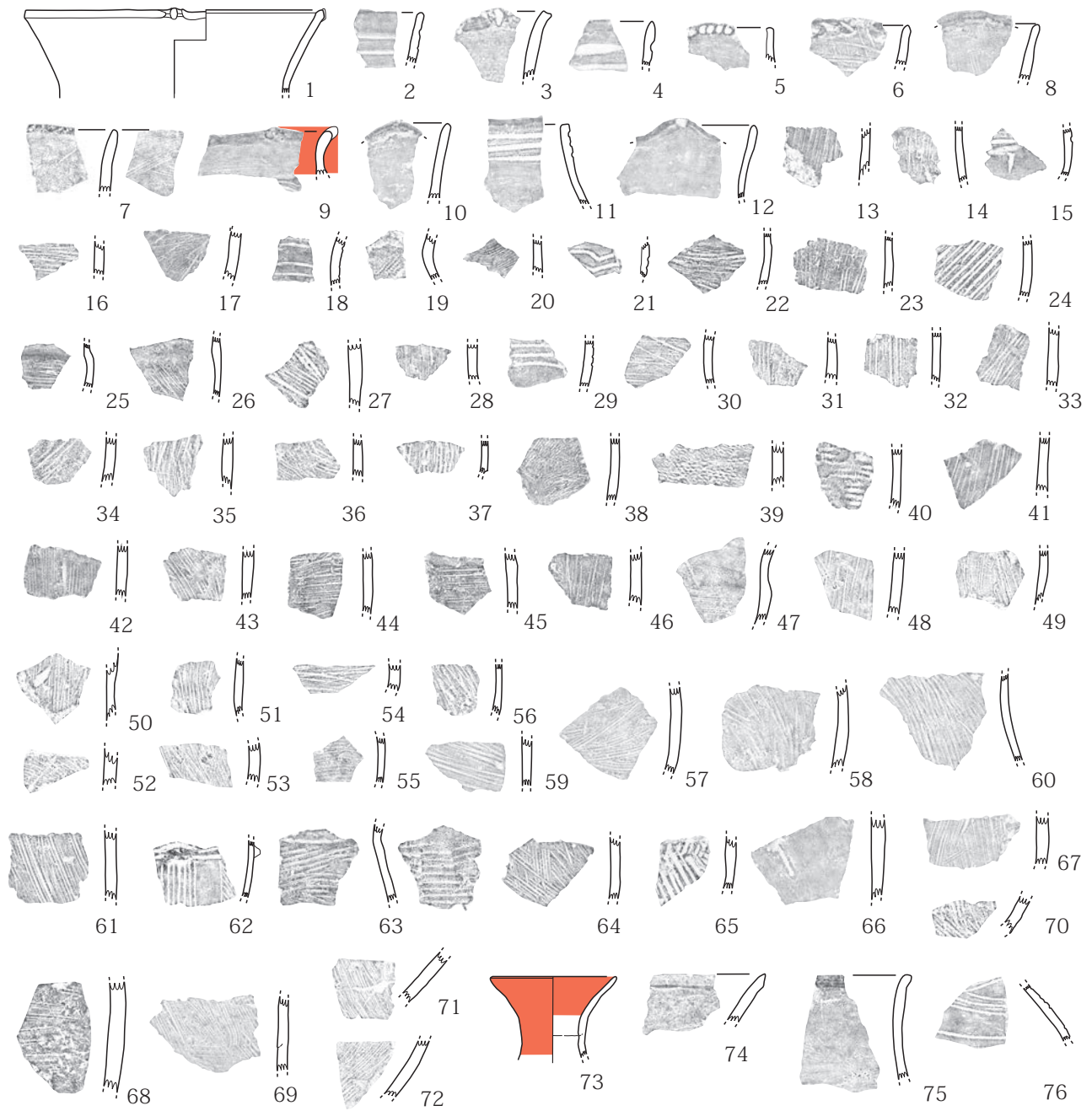
第 218 图 M8 号沟址



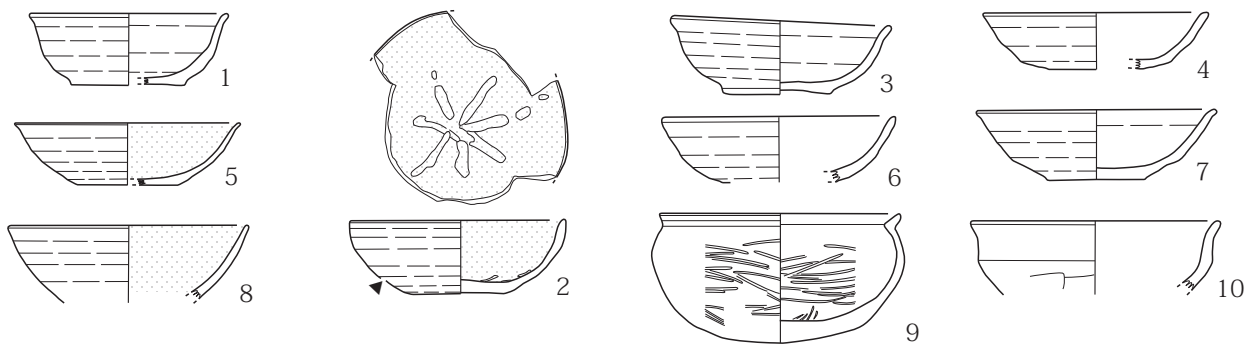
第 219 图 M9 号沟址



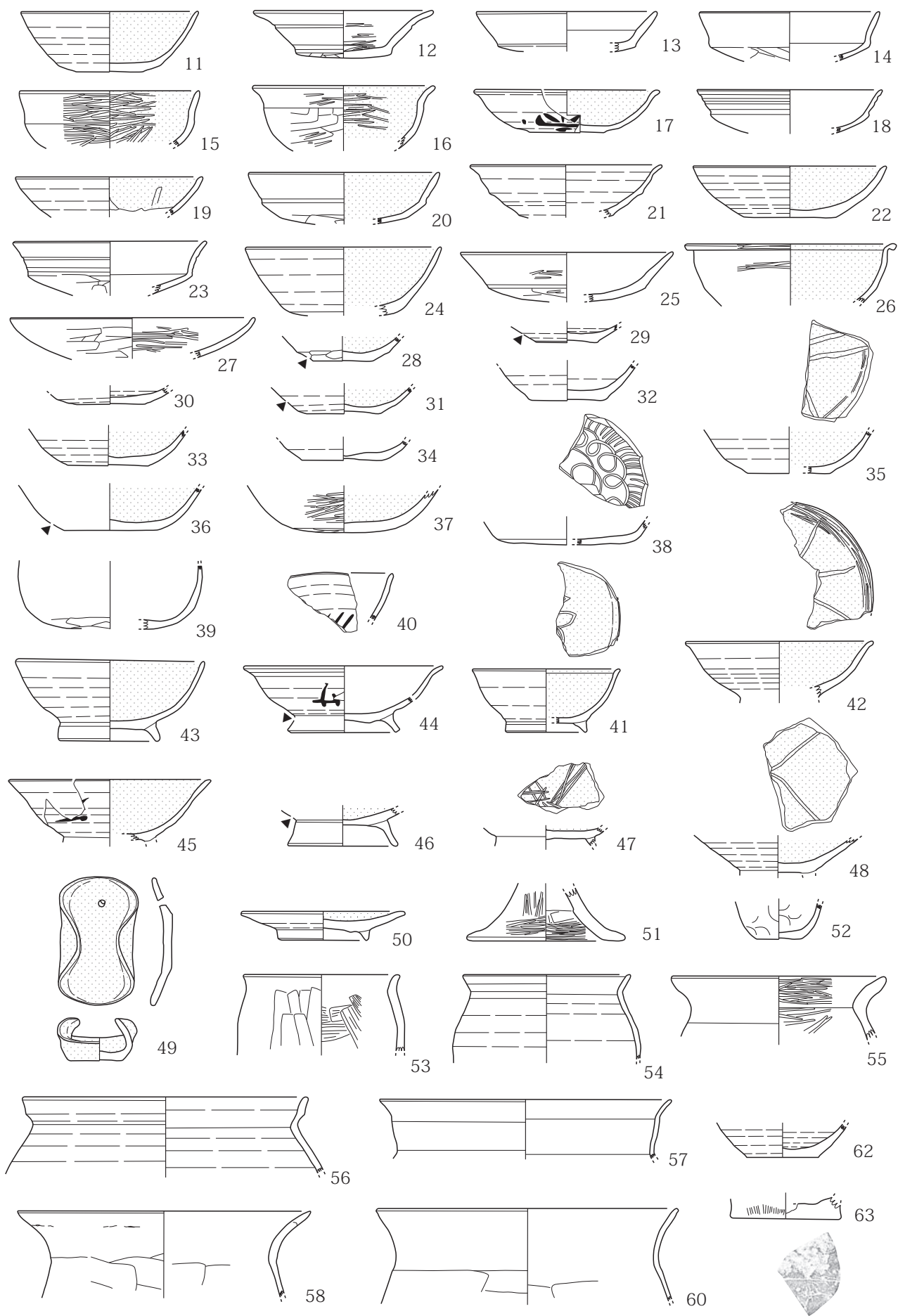
縄文土器



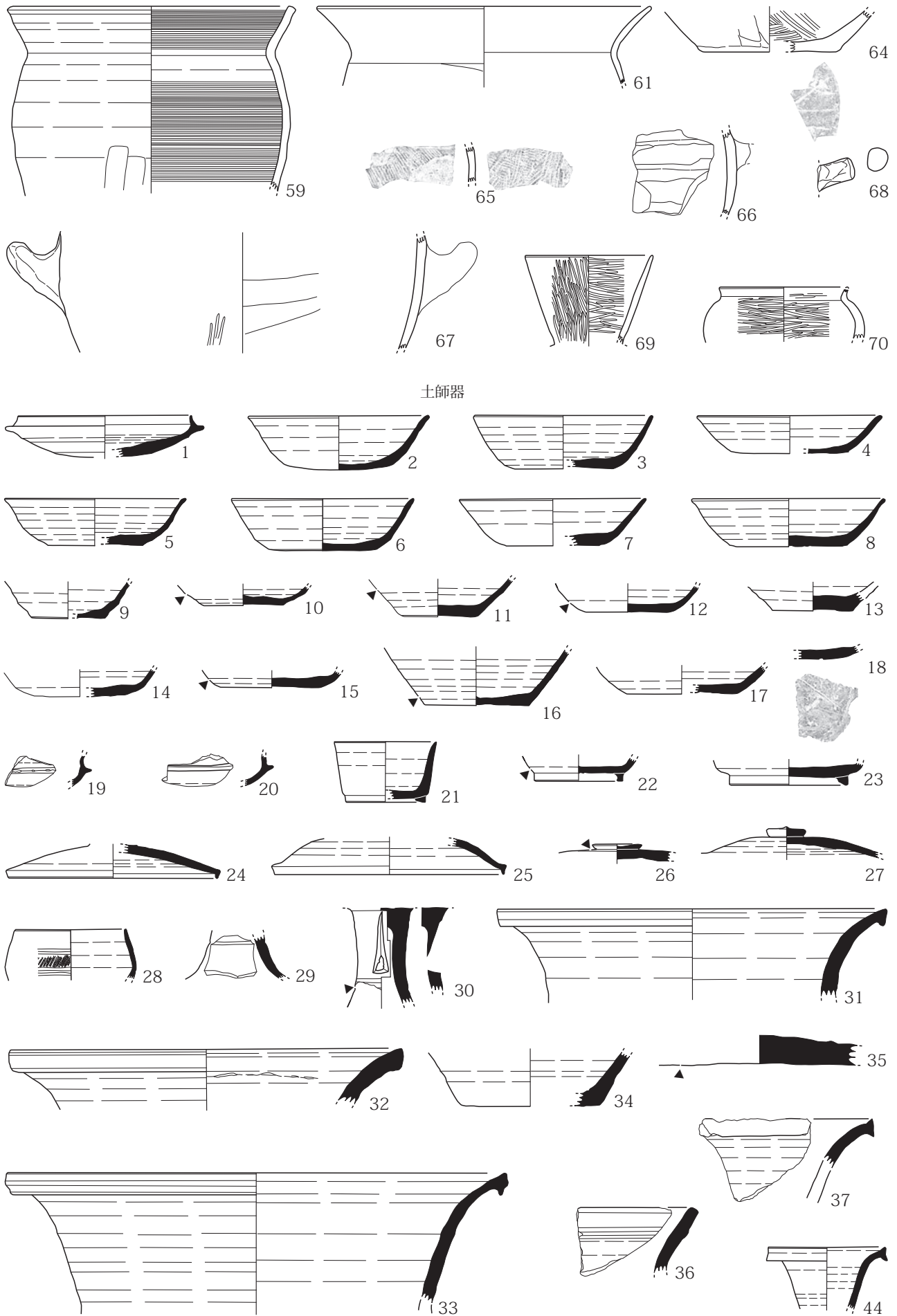
弥生土器



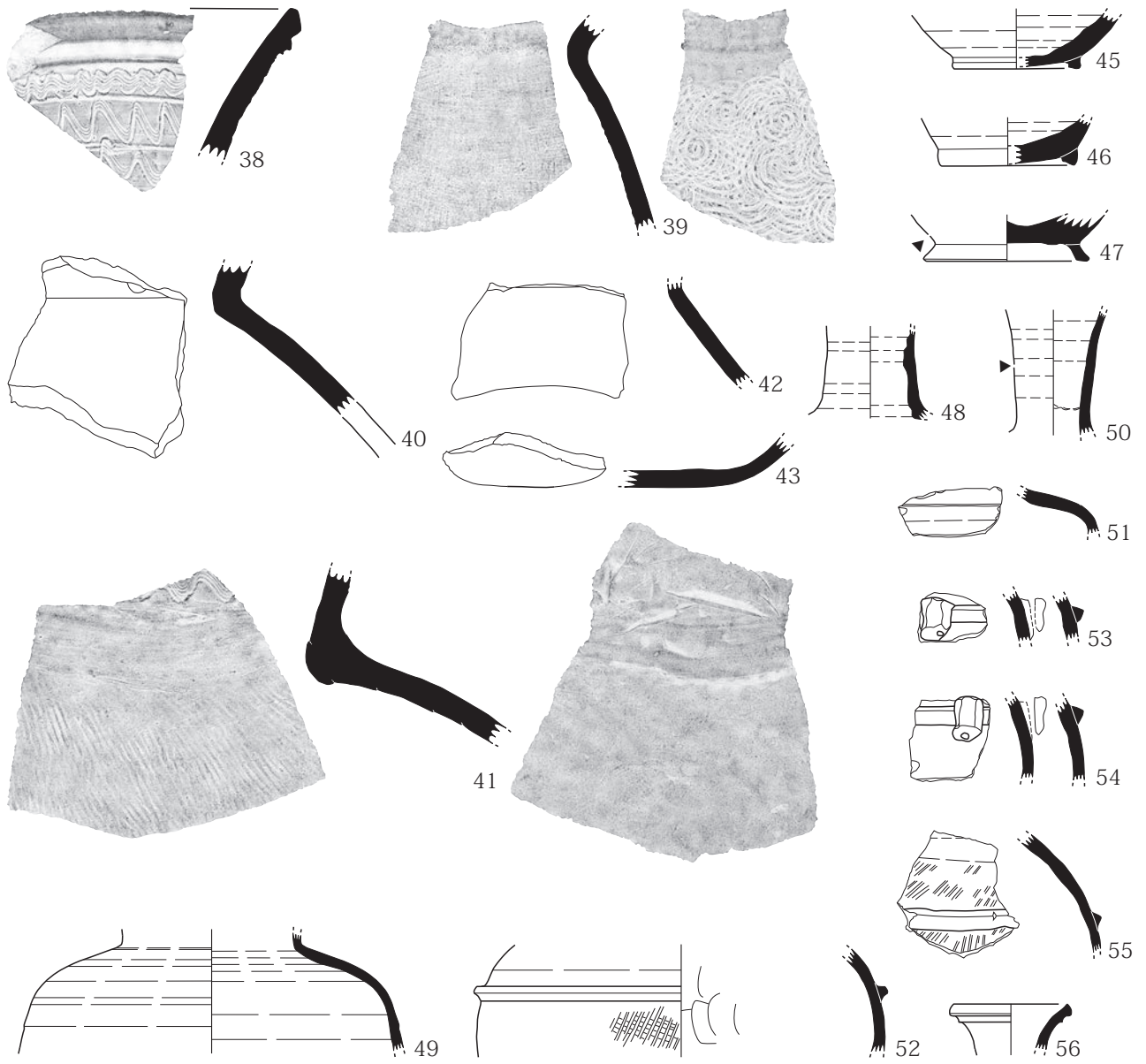
第 220 図 遺構外出土遺物 (1)



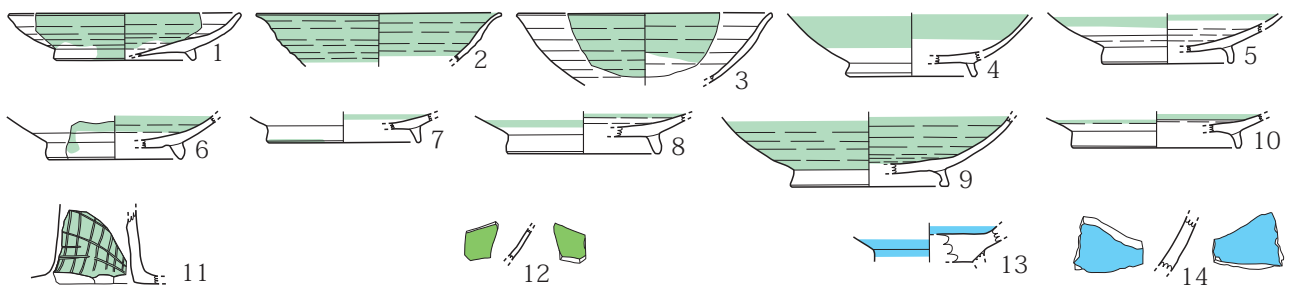
第 221 图 遺構外出土遺物 (2)



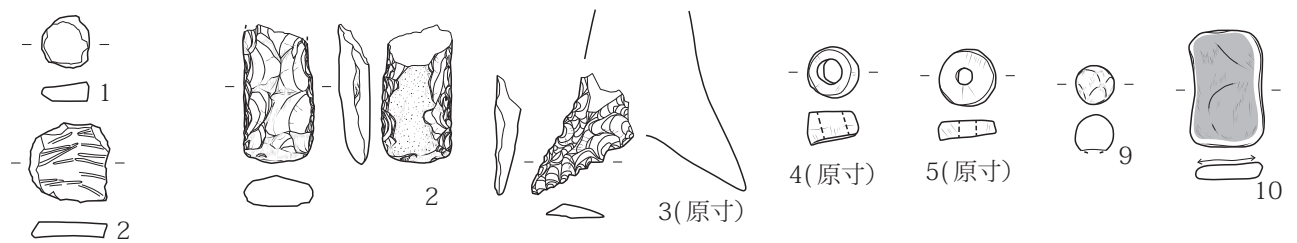
第 222 図 遺構外出土遺物 (3)



須恵器

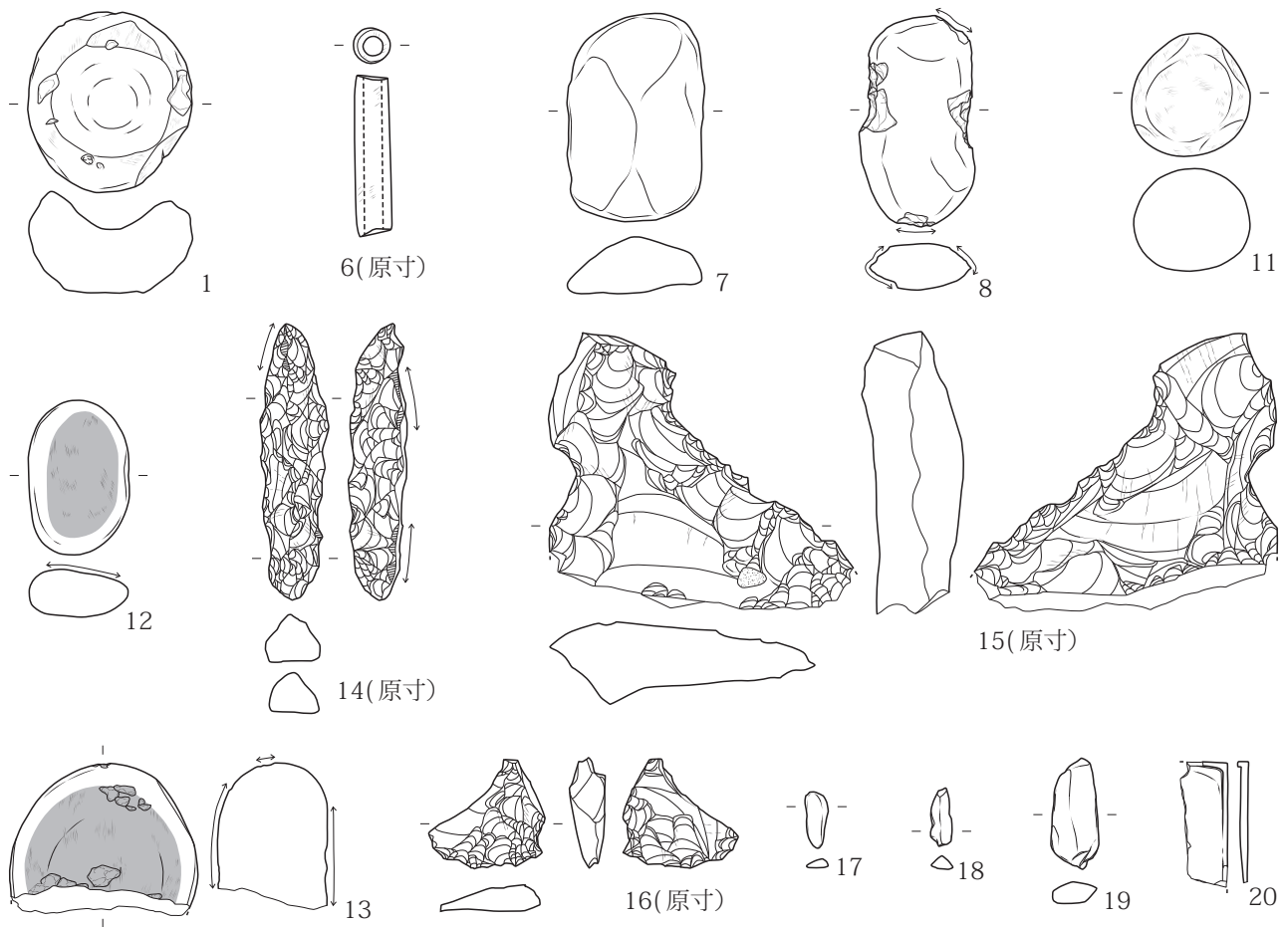


灰釉陶器、緑釉陶器、青磁

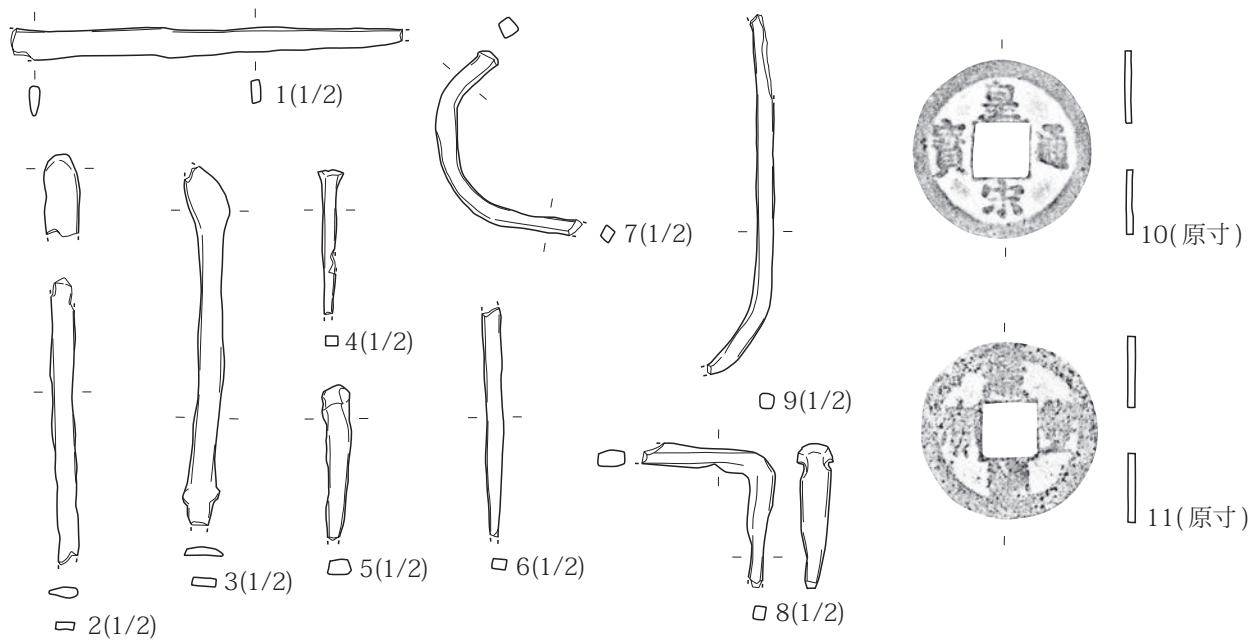


土製品

第 223 図 遺構外出土遺物 (4)



石器・石製品

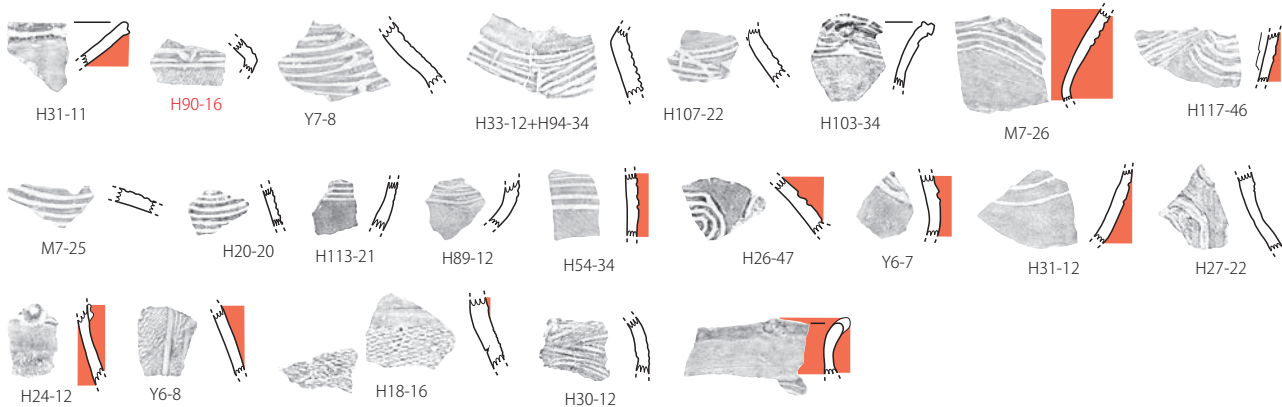


金属器・金属製品

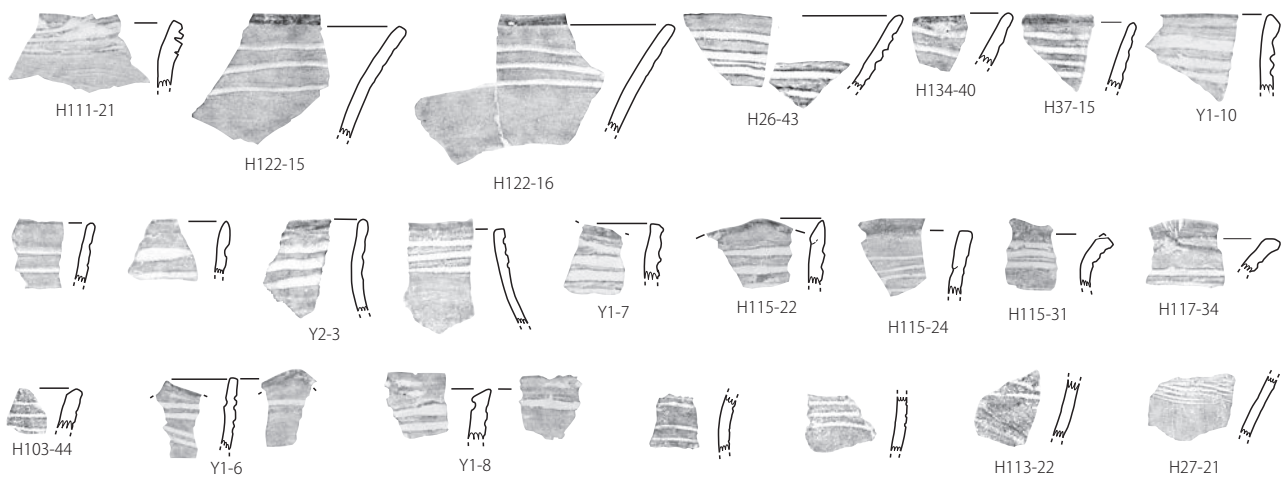
第224図 遺構外出土遺物(5)



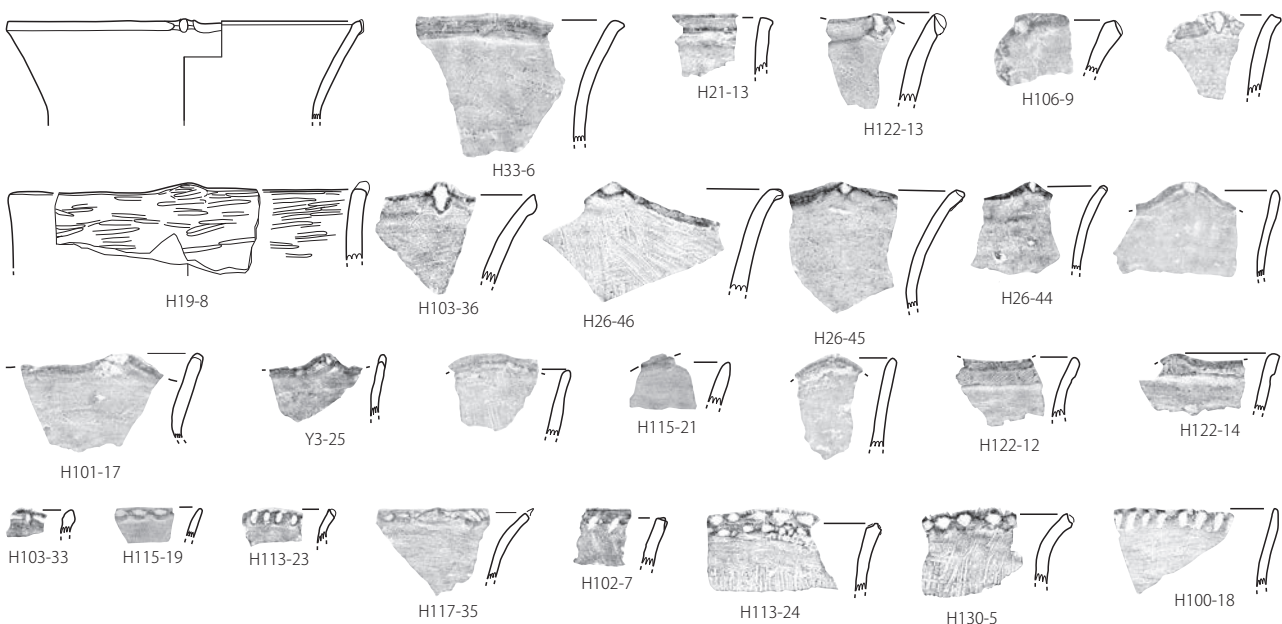
I 群



II 群

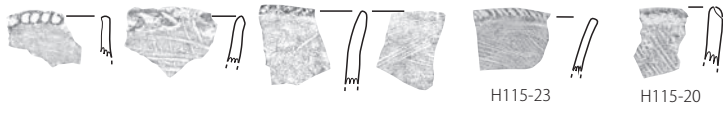


III 群

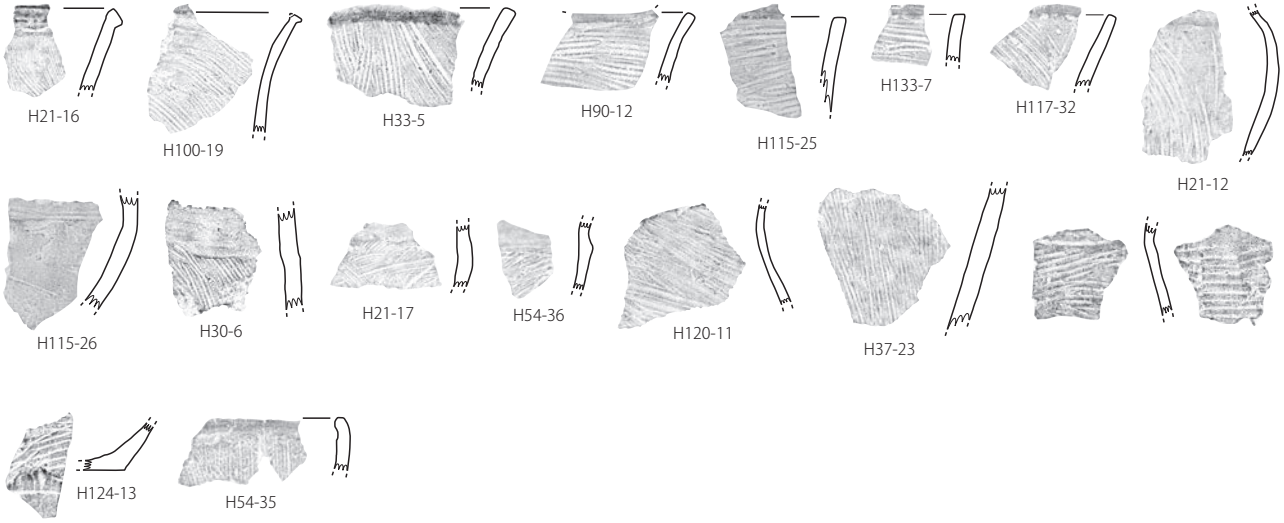


IV 群

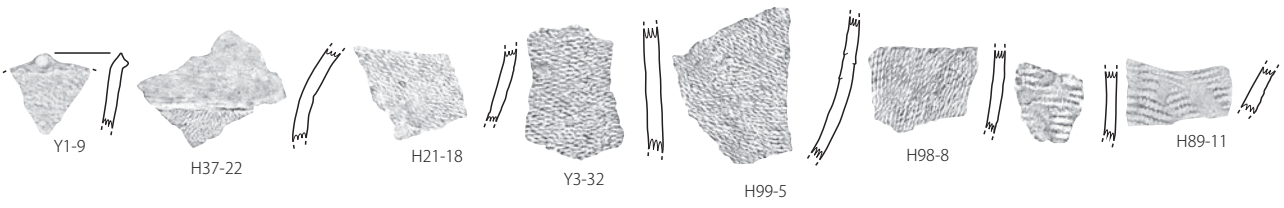
第 225 图 弥生時代前期土器分類图 (1)



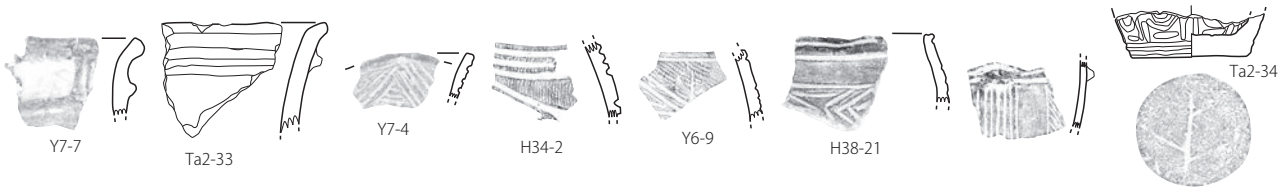
IV群



V群

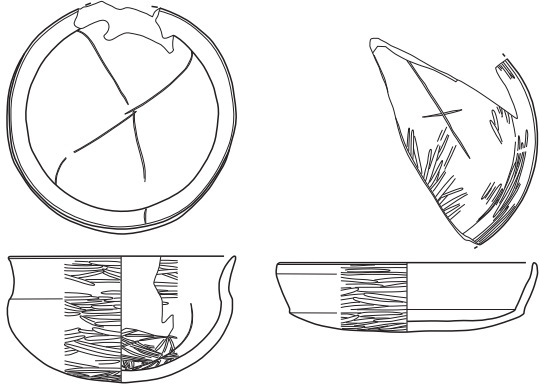
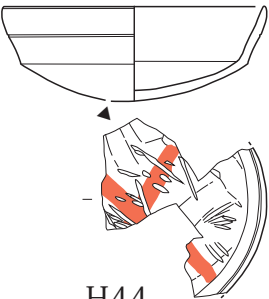
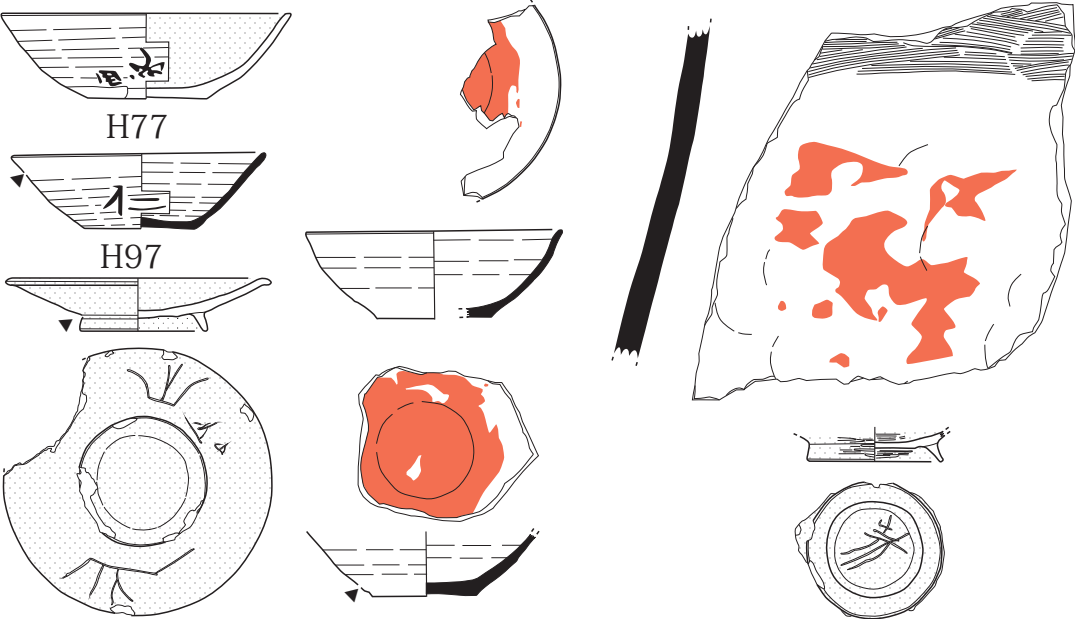


VI群



VII群



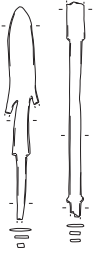

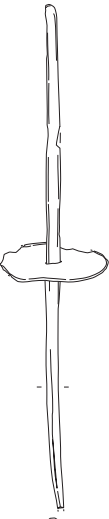
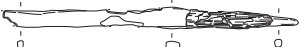



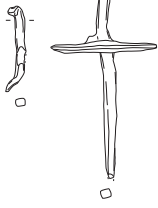






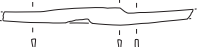
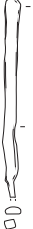
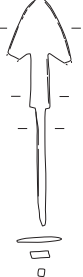

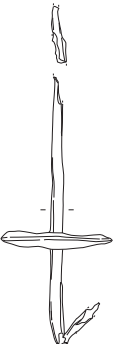
第225図 弥生時代前期土器分類図(2)

時代	内容
5 世紀後半	
6 世紀前半	 <p data-bbox="506 716 553 753">H6</p> <p data-bbox="773 700 820 737">H8</p>
6 世紀後半	
7 世紀前半	 <p data-bbox="488 1150 553 1187">H44</p>
7 世紀後半 S 8 世紀第IV	
9 世紀前半	 <p data-bbox="495 1476 542 1513">H77</p> <p data-bbox="488 1604 542 1641">H97</p> <p data-bbox="464 1988 542 2025">H137</p> <p data-bbox="773 1981 850 2018">H128</p> <p data-bbox="1208 1988 1286 2025">H115</p>

第 226 図 出土文字資料集成図 (1)

時代	内容			
9 世紀後半				
	 H85	 H111	 H117	
		 H98		

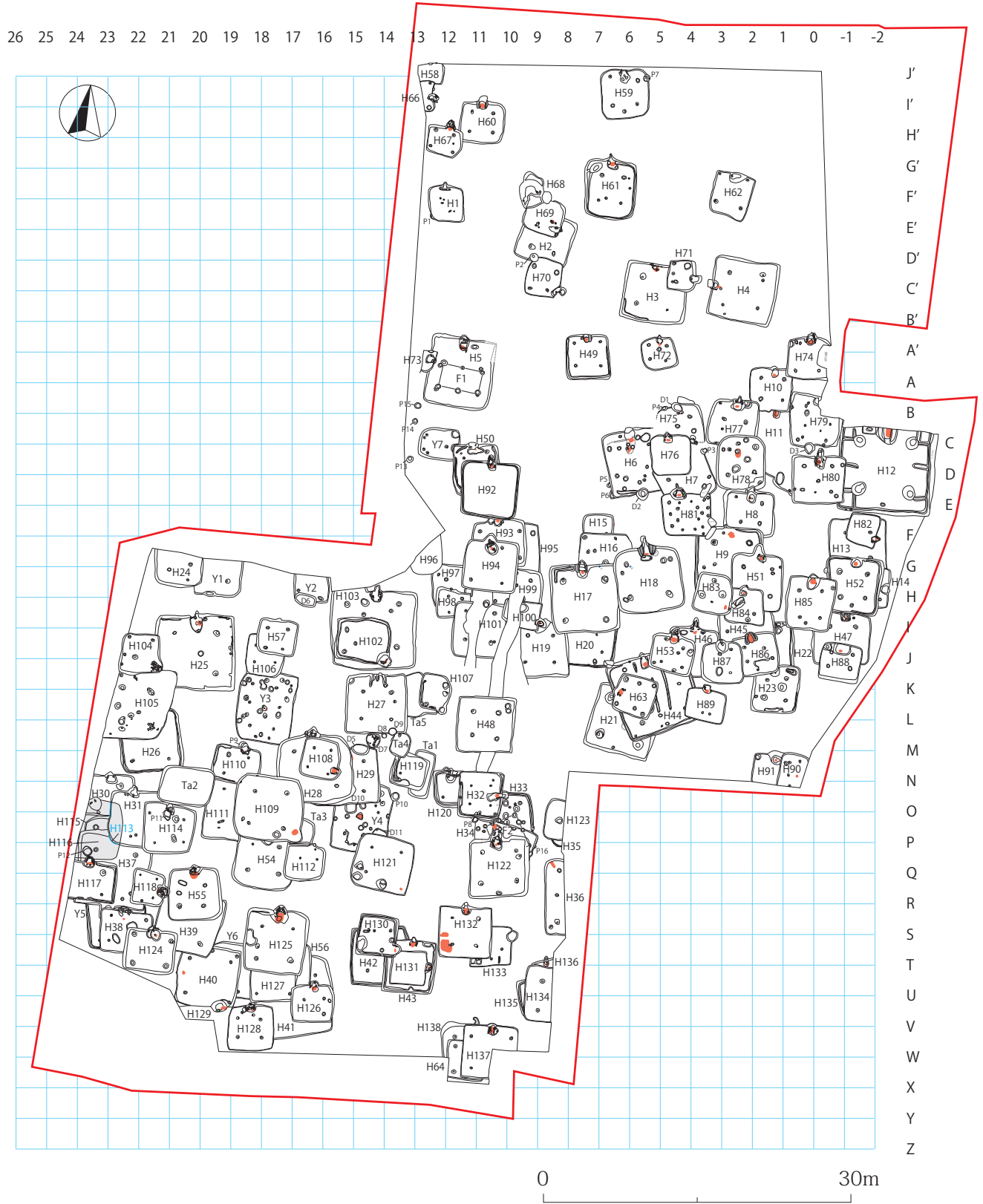
第 227 図 出土文字資料集成図 (2)

時代	内容	時代	内容	
5 世紀後半	 H75	8 世紀第 II	 H49	
6 世紀前半	 H5			 H60
6 世紀後半				 H80
7 世紀前半		8 世紀第 III	 H103	
7 世紀半葉	 H12		 H74	
7 世紀後半	 H18	8 世紀第 IV	 H125	
			 H59	
	 H45		 H131	
8 世紀第 I	 H51	9 世紀前半	 H77	
	 H54		 H93	
	 H122		 H88	
			 H101	
			 H128	

第 228 図 出土金属器変遷図 (1)

時代	内容
9 世紀後半	<p>H94 H114 H85 H117</p>
10 世紀前半	<p>H70 H71 H87 H107 H92 H130 H113 H92</p>
10 世紀後半	<p>H82 H102</p>

第 229 図 出土金属器変遷図 (2)



第 230 图 全体图



第 231 図 西八日町遺跡調査履歴

第1表 竪穴建物計測表(1)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 1	—	N-3°-E	3.76	3.00	0.40	10.25	2	カマド	—	6世紀前半
H 2	—	N-18°-E	4.80	4.32	0.48	21.59	4	カマド	—	6世紀後半
H 3	H71に切られる	N-15°-E	5.80	5.36	0.56	(30.79)	5	カマド	—	6世紀前半
H 4	—	N-71°-E	6.00	5.72	0.56	34.18	5	カマド	西カマド	6世紀前半
H 5	H73、F1に切られる	N-9°-E	6.92	6.00	0.60	38.30	5	カマド	—	6世紀前半
H 6	H7、75、76、D2、P5に切られる	N-9°-W	6.00	4.84	0.44	—	14	カマド	—	6世紀前半
H 7	H76、81に切られる	—	—	—	0.20	—	3	—	—	6世紀後半
H 8	H9、78に切られる	N-2°-E	4.56	4.52	0.50	17.81	4	カマド	—	6世紀前半
H 9	H51、81、83、84に切られる	N-0°-E	6.72	6.08	0.56	36.58	9	カマド	—	6世紀前半
H 10	H74、77、79に切られる	N-7°-E	4.08	4.00	0.52	(14.96)	4	カマド、焼土	—	6世紀前半
H 11	H10、77～80に切られる	—	—	—	0.20	—	11	カマド、土坑	—	6世紀前半
H 12	H80に切られる	N-4°-E	—	—	0.52	—	5	カマド、周溝、間仕切り、貯蔵穴	—	7世紀中葉
H 13	H82、85に切られる	N-3°-W	(5.44)	(5.12)	0.24	—	4	カマド	カマド火床のみ残存	6世紀前半
H 14	H13、52に切られる	—	—	—	0.24	—	2	—	2層は本址を切る土坑	不明
H 15	H16に切られる	—	—	—	0.16	—	1	—	—	6世紀後半
H 16	H17、18に切られる	—	—	—	0.16	—	5	—	—	7世紀前半
H 17	H18に切られる	N-6°-W	6.72	6.48	0.40	39.53	4	カマド、周溝	—	7世紀中葉
H 18	—	N-10°-W	7.28	6.26	0.80	35.63	8	カマド	—	7世紀後半
H 19	H17、100、M7に切られる	—	—	—	0.52	—	4	カマド?	—	6世紀後半
H 20	H17、19に切られる	—	—	—	0.32	—	3	周溝	焼失住居	5世紀後葉～6世紀前葉
H 21	H44に切られる	—	(6.12)	(5.84)	0.60	—	4	—	—	6世紀前半
H 22	H23、45、85、86に切られる	—	—	—	0.35	—	0	周溝	—	6世紀後半
H 23	H86に切られ、H22を切る	N-3°-E	4.40	4.16	0.40	—	7	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 24	—	—	—	—	0.60	—	3	—	—	6世紀後半
H 25	H104、105に切られる	N-30°-E	7.32	7.32	0.68	47.40	5	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 26	H105、Ta2に切られる	N-0°-E	6.12	5.60	0.40	(30.0)	5	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 27	Ta4、D8、9に切られ、Ta5を切る	N-0°-E	5.60	5.60	0.40	30.40	5	カマド	—	6世紀後半
H 28	H109に切られる	N-5°-W	7.08	7.00	0.80	41.10	4	カマド	—	6世紀後半
H 29	H28、D5に切られる	N-0°-E	—	—	0.52	—	2	カマド	カマド火床のみ残存	6世紀前半
H 30	H31、115、116に切られる	N-3°-E	—	—	0.24	—	2	カマド	—	6世紀前半
H 31	H113、114、116、Ta2に切られる	N-4°-E	—	—	0.40	—	1	カマド	—	6世紀後半
H 32	M7に切られる	N-81°-E	4.24	3.88	0.68	15.12	8	カマド、周溝	東カマド	6世紀前半
H 33	H32、34、122、F2に切られる	—	—	—	0.18	—	11	周溝	—	6世紀前半
H 34	H122、F2、P8、M7に切られる	—	—	—	0.28	—	5	カマド	—	不明
H 35	H123に切られる	—	—	—	0.60	—	4	周溝	—	7世紀前半

第2表 竪穴建物計測表(2)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 36	—	N-32°-W	—	—	0.40	—	4	焼土	—	6世紀前半
H 37	H38を切り、H31、114～118に切られる	N-80°-W	8.00	6.56	0.60	45.30	10	張出部に貯蔵穴	—	6世紀後半
H 38	H37、124に切られる	N-0°-E	4.92	4.20	0.28	18.39	6	カマド	—	5世紀後葉～6世紀前葉
H 39	H40を切り、H55、118、124に切られる	N-11°-E	6.08	5.60	0.36	—	4	カマド	—	7世紀後半
H 40	Y6を切り、H39、129に切られる	N-80°-W	5.76	5.60	0.24	—	6	カマド	西カマド	6世紀前半
H 41	H56、125～128に切られる	N-0°-E	8.00	7.52	0.32	—	4	カマド	—	6世紀前半
H 42	H129、130に切られる	—	5.36	5.09	0.24	—	2	周溝	—	6世紀前半
H 43	H42を切り、H130、131に切られる	N-10°-E	5.04	4.80	0.40	20.03	5	カマド、周溝	—	6世紀後半
H 44	H21を切り、H53、63、89に切られる	N-20°-W	7.76	7.76	0.56	50.19	10	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 45	H22を切り、H83～87に切られる	N-11°-W	5.20	4.72	0.52	—	7	カマド	—	7世紀後半
H 46	H53、87に切られる	N-6°-E	—	—	0.40	—	2	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 47	H52を切り、H47、85、88に切られる	N-7°-W	5.36	4.60	0.48	24.27	5	カマド	—	7世紀後半
H 48	—	N-87°-W	5.28	5.20	0.52	27.09	4	カマド	—	6世紀前半
H 49	—	N-0°-E	4.08	4.08	0.52	13.97	4	カマド、周溝	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 50	Y7を切り、H92に切られる	N-17°-W	4.64	4.52	0.36	—	7	カマド、周溝	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 51	H9、45を切り、H83、84に切られる	N-5°-E	6.32	4.76	0.36	—	5	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 52	H13、14、47を切り、H85、D4に切られる	N-15°-E	5.16	4.40	0.36	22.63	6	カマド、周溝	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 53	H44、46を切る	N-12.5°-E	4.20	3.92	0.44	12.51	8	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 54	H109、111、112に切られ、Ta3を切る	N-110°-E	5.84	5.44	0.12	30.68	4	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 55	H39を切り、H118に切られる	N-1.5°-W	4.92	4.84	0.32	22.51	5	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 56	H41を切り、H125、126、127に切られる	N-2°-W	—	—	0.52	—	4	カマド	—	不明
H 57	H106を切る	N-12°-E	3.56	3.04	0.36	10.70	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 58	H66に切られる	—	—	—	0.16	—	0	—	—	6世紀前半
H 59	P7に切られる	N-9°-W	4.60	4.48	0.28	19.86	5	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 60	H67に切られる	N-2.5°-E	4.16	4.00	0.52	14.30	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 61	—	N-13°-E	5.48	4.28	0.36	21.68	8	カマド、周溝	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 62	—	N-13°-E	4.00	3.60	0.24	14.29	4	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 63	H21、44を切る	N-77°-W	3.88	3.64	0.36	13.08	6	カマド	西カマド	8世紀第Ⅳ四半期
H 64	H138を切り、H137に切られる	N-3°-E	4.12	3.40	0.20	—	6	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 65	欠番									
H 66	H58を切る	N-89°-W	—	—	0.20	—	2	カマド	東カマド	10世紀前半
H 67	H60を切る	N-8°-E	3.24	2.48	0.40	7.43	5	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 68	H69を切る	N-5°-W	3.00	1.60	0.48	—	—	—	倒木痕と思われる	不明
H 69	H2を切り、H68に切られる	N-82°-E	3.52	3.16	0.16	12.53	2	カマド	東カマド	10世紀前半
H 70	H2を切る	N-40°-W	3.64	3.36	0.14	11.15	4	カマド	東カマド	10世紀前半

第3表 竪穴建物計測表(3)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 71	H3 を切る	N-88°-W	2.76	2.28	0.28	6.33	3	カマド	東カマド	10世紀前半
H 72	-	N-3°-W	3.24	3.16	0.24	8.48	5	カマド	-	7世紀後半
H 73	H5 を切る	N-64°-W	-	-	0.36	-	-	カマド	東カマド	10世紀前半
H 74	H10 を切る	N-5°-E	4.12	4.04	0.44	-	5	カマド	-	8世紀第Ⅲ四半期
H 75	H6、7、96 に切られる	N-2°-E	-	-	0.16	-	4	カマド	-	5世紀後半
H 76	H6、7、75 を切る	N-8°-W	3.76	3.48	0.20	13.78	-	カマド	-	8世紀第Ⅰ四半期
H 77	H10、11 を切り、H78 に切られる	N-14°-E	4.52	4.16	0.40	19.08	6	カマド	H78 との重複関係が調査時とは逆転したか、遺構図は修正していない	9世紀前半
H 78	H8、77 を切る	N-0°-E	5.12	4.40	0.48	20.79	11	焼土	H77 との重複関係が調査時とは逆転したか、遺構図は修正していない	10世紀前半
H 79	H10、11 を切る	N-6°-E	4.80	4.76	0.28	-	9	-	-	9世紀前半
H 80	H11、12 を切る	N-0°-E	4.88	4.32	0.32	21.17	7	カマド	-	8世紀第Ⅱ四半期
H 81	H7、9 を切る	N-16°-W	4.60	4.00	0.20	-	18	カマド	-	8世紀第Ⅲ四半期
H 82	H12 を切る	N-84°-W	2.96	2.64	0.16	8.08	-	カマド	東カマド	10世紀後半
H 83	H9、45、51、84 を切る	N-33°-W	3.64	3.36	0.32	11.50	3	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 84	H45、51 を切り、H83 に切られる	N-12°-E	3.68	3.48	0.40	11.93	3	カマド	-	10世紀前半
H 85	H22、47、52 を切る	N-6°-E	5.20	4.32	0.30	21.12	6	カマド	-	9世紀後半
H 86	H22、23、45 を切り、H87 に切られる	N-12°-W	4.04	3.76	0.32	14.51	5	カマド	-	8世紀第Ⅱ四半期
H 87	H45、46、86 を切る	N-5°-E	3.92	3.80	0.40	13.63	4	カマド	-	10世紀前半
H 88	H47 を切る	N-9°-E	3.88	3.36	0.36	12.20	5	カマド	-	9世紀前半
H 89	H44 を切る	N-10°-E	3.68	3.44	0.24	10.71	-	礎石2	-	8世紀第Ⅲ四半期
H 90	H91 を切る	N-28°-W	-	-	0.12	-	4	焼土	-	10世紀前半
H 91	H90 に切られる	N-25°-E	-	-	0.16	-	1	カマド	-	10世紀前半
H 92	H50 を切る	N-10°-W	5.68	4.96	0.32	24.88	-	カマド	焼失住居	10世紀前半
H 93	H92、94 に切られる	N-0°-E	(4.96)	(4.68)	0.24	-	3	カマド	-	9世紀前半
H 94	H93、97、99 を切る	N-6°-E	5.48	4.96	0.44	22.99	3	カマド	-	9世紀後半
H 95	H93、94、99 に切られる	-	-	-	0.40	-	3	-	-	6世紀後半
H 96	H97 を切る	-	-	-	-	-	-	-	-	9世紀後半
H 97	H94、96、98 に切られる	-	-	-	0.16	-	3	カマド	東カマド	9世紀前半
H 98	H97 を切り、H101 に切られる	-	-	-	0.40	-	3	-	H101 との重複関係が調査時とは逆転したか、遺構図は修正していない	9世紀後半
H 99	H93、95 を切り、H94、100、101 に切られる	-	(4.96)	(4.72)	0.40	-	10	-	-	不明
H 100	H99、101 を切る	N-53°-W	3.40	2.48	0.24	-	-	カマド	東カマド	10世紀前半
H 101	H99 を切り、H98、100 に切られる	N-4°-E	5.16	5.00	0.50	(25.14)	6	-	H98 との重複関係が調査時とは逆転したか、遺構図は修正していない	9世紀前半
H 102	H103 を切る	N-40°-W	4.84	3.84	0.30	16.74	3	カマド	東南隅カマド	10世紀後半
H 103	H102 に切られる	N-5°-E	7.88	7.76	0.60	-	9	カマド	-	8世紀第Ⅲ四半期
H 104	H25、105 を切る	N-82°-W	3.80	3.20	0.32	12.16	5	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 105	H25、26 を切り、H104 に切られる	-	-	-	0.24	-	8	-	-	10世紀前半

第4表 竪穴建物計測表(4)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 106	Y3 を切り、H57 に切られる	N-9°-E	3.84	3.36	0.60	13.06	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 107	Ta5 を切る	N-34°-W	3.40	2.56	0.20	7.61	5	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 108	H28 を切る	N-79°-W	3.64	3.52	0.32	12.14	4	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 109	H28、54、110、111 を切る	N-43°-W	6.52	6.04	0.32	37.34	5	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 110	Ta2、H109 に切られ、H111 を切る	N-10°-E	4.24	3.36	0.36	(13.21)	4	カマド、周溝	—	10世紀前半
H 111	Ta2、H109、110 に切られ、H54 を切る	N-84°-W	5.88	5.60	0.34	—	6	—	—	9世紀後半
H 112	H54 を切る	N-45°-E	—	—	0.36	—	3	カマド	H54 との重複関係は調査時と逆転しているが、図面は修正していない。	9世紀前半
H 113	H31、Ta2、P11 に切られ、H114 を切る	N-74°-W	4.96	4.96	0.30	—	—	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 114	H31、113、Ta2 に切られ、H115 を切る	N-5°-E	4.72	4.52	0.36	20.55	6	カマド	—	9世紀後半
H 115	H31、37、113、114、116、117、118 に切られる	—	(5.12)	5.00	0.36	—	9	—	—	9世紀前半
H 116	H30、31、113、115 を切り、H117 に切られる	—	—	—	0	—	—	カマド	—	9世紀後半?
H 117	H37、115、116、Y5 を切る	N-7.5°-E	—	3.48	0.32	—	2	カマド、周溝	—	9世紀後半
H 118	H37、39、55、115 を切る	N-78°-W	2.96	2.68	0.36	8.27	4	カマド	東カマド	8世紀第Ⅳ四半期
H 119	Ta1 を切り、Ta4 に切られる	N-17°-E	2.80	2.42	0.32	6.70	1	周溝	—	10世紀前半
H 120	H32 に切られる	N-2°-E	—	—	0.36	—	3	カマド、周溝	H32 との重複関係は調査時と逆転しているが、図面は修正していない。	9世紀前半
H 121	Y4 を切る	N-35°-W	5.60	5.16	0.20	27.59	6	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 122	H34 を切る	N-0°-W	5.28	5.18	0.60	27.69	6	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 123	H35 を切る	—	—	—	0.10	—	1	—	—	不明
H 124	H38、39 を切る	N-10°-E	4.52	3.72	0.20	16.69	4	カマド	カマド造り替え	9世紀後半
H 125	H56、127 を切る	N-60°-E	6.00	5.78	0.52	31.58	6	カマド、周溝	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 126	H41、56、127 を切る	N-0°-W	3.92	3.44	0.40	12.73	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 127	H41、56 を切り、H125、126 に切られる	N-35°-W	4.76	4.36	0.52	20.21	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 128	H41、129 を切る	N-0°-W	4.40	4.32	0.16	17.97	6	カマド	—	9世紀前半
H 129	H40 を切り、H128 に切られる	—	—	—	0.00	—	—	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 130	H42、43 を切る	N-83°-E	3.80	3.72	0.24	10.92	7	カマド、周溝	東南隅カマド	10世紀前半
H 131	H43 を切り、H130 に切られる	N-87°-W	3.18	3.12	0.20	10.36	—	カマド	東カマド	8世紀第Ⅳ四半期
H 132	H133 を切る	N-2°-E	5.12	5.08	0.56	23.61	4	カマド	—	6世紀後半
H 133	H132 に切られる	N-86°-E	3.86	3.76	0.22	—	3	カマド、周溝	—	不明
H 134	H135、136 を切る	—	—	—	0.24	—	2	—	焼失遺構	10世紀前半
H 135	H134 に切られる	N-7°-W	—	—	0.32	—	4	カマド、周溝	—	不明
H 136	H134、135 に切られる	N-7.5°-W	—	—	0.10	—	—	カマド	—	不明
H 137	H64、138 を切る	N-5°-E	5.04	4.84	0.24	—	3	カマド	—	9世紀前半
H 138	H64、137 に切られる	N-3°-E	—	—	0.52	—	2	カマド	—	6世紀前半
Y 1	H24 に切られる	—	—	—	0.22	—	2	—	—	弥生中期栗林
Y 2	D6 に切られる	—	—	—	0.40	—	2	—	—	弥生中期栗林

第5表 竪穴建物計測表(5)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
Y 3	H28、106に切られる	N-8°-E	6.80	5.29	0.20	-	25	炉	焼失遺構	弥生中期栗林
Y 4	H29、121、D10、11に切られる	N-5°-E	-	5.28	0.20	-	20	炉	-	弥生中期栗林
Y 5	H37、38に切られる	-	-	-	0.28	-	1	周溝	-	不明
Y 6	H40、125、127に切られる	-	-	-	0.32	-	1	-	-	弥生中期栗林
Y 7	H50に切られる	N-97°-E	3.64	2.68	0.52	9.28	6	炉	土器敷炉	弥生後期箱清水
Ta 1	H119に切られる	N-9°-E	4.36	1.76	0.52	7.33	-	-	-	9世紀後半
Ta 2	H26、31、110、111、114を切る	N-97°-E	4.88	3.48	0.52	16.04	-	-	-	10世紀後半
Ta 3	H54、109、112に切られる	N-97°-E	5.88	3.12	0.60	-	-	-	8世紀第I四半期以前の所産	不明
Ta 4	H27、119を切る	N-13°-E	2.16	1.72	0.24	3.37	1	-	10世紀前半以降の所産	不明
Ta 5	H27、107に切られる	-	-	-	-	-	1	-	6世紀後半以前の所産	不明

第6表 掘立柱建物計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備考	時期
F 1	H5を切る	N-75°-W	8.60	5.30	45.58	-	4.20~4.40	-	6世紀前半以降の所産	不明
F 2	H32、33、34を切り、H122に切られる	N-25°-W	3.40	3.10	-	-	1.70	1.50~1.70	6世紀前半以降、8世紀第I四半期以前の所産	不明

第7表 土坑計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考	時期
D 1	H75を切る	楕円形	N-56°-W	1.16	0.84	0.36	0.36	5世紀後半以降の所産	不明
D 2	H6を切る	円形	N-81°-E	1.18	1.16	0.70	0.16	6世紀後半以降の所産	不明
D 3	H79を切る	楕円形	N-6°-E	1.12	1.00	0.26	0.43	9世紀前半以降の所産	不明
D 4	H52を切る	楕円形	N-90°-E	0.56	0.50	0.28	0.07	8世紀第III四半期以降の所産	不明
D 5	H29を切る	楕円形	N-92°-E	1.72	1.04	0.48	0.95	6世紀前半以降の所産	不明
D 6	Y2を切る	楕円形	N-76°-W	2.12	1.24	0.18	1.37	弥生時代中期後半以降の所産	不明
D 7	-	円形	N-98°-E	1.36	1.32	0.12	1.18	-	不明
D 8	H27を切る	円形	N-0°-E	0.52	0.48	0.20	0.12	6世紀後半以降の所産	不明
D 9	H27、Ta4を切る	円形	N-90°-E	0.80	0.76	0.12	0.36	6世紀後半以降の所産	不明
D 10	Y4を切り、H29に切られる	長方形	N-3°-W	1.40	0.92	0.56	0.86	弥生時代中期後半以降、6世紀前半以前の所産	不明
D 11	Y4を切り、H121に切られる	楕円形	N-0°-E	2.32	1.44	0.16	2.03	弥生時代中期後半以降、10世紀前半以前の所産	不明

第8表 ピット計測表(1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高
P1	H1に切られる	楕円形	0.60	0.44	0.64	P4	H75を切る	楕円形	0.60	0.40	0.44
P2	H2、70を切る	円形	0.84	0.72	0.48	P5	H6に切られる	円形	0.48	0.44	0.32
P3	H7を切る	円形	0.68	0.44	-	P6	H6に切られる	楕円形	-	-	0.32

第9表 ピット計測表(2)

遺構名	重複関係	平面形態		長軸長	短軸長	壁残高
		口徑(長)	底徑(短)			
P7	H59を切る	円形	円形	0.68	0.52	0.60
P8	H32、34を切る	円形	円形	0.52	0.44	0.80
P9	H110に切られる	-	-	-	-	0.40
P10	Y4を切る	円形	円形	0.84	0.80	0.60
P11	H114を切る	楕円形	楕円形	0.96	0.56	0.68

第10表 H1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整	外面	備考	出土層位
			口徑(長)	底徑(短)	器高(厚)	重量等				
1	土師器	北武蔵型坏	12.0	11.1	5.1	-	ナデ	底部ケズリ	完全実測	No4、SNベルト
2	土師器	北武蔵型坏	(12.2)	(11.2)	<3.5>	-	ナデ	底部ケズリ	回転実測・拓本	I区
3	土師器	坏	12.9	12.2	5.4	-	ナデ	底部ケズリ	完全実測	No1、5
4	土師器	坏	12.9	-	5.5	-	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No2
5	土師器	坏	14.0	11.2	4.6	-	ミガキ	底部ミガキ	完全実測	SNベルト
6	土師器	鉢	(18.6)	-	<4.5>	-	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	I区
7	土師器	甕	10.6	4.8	7.4	-	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No1
8	土師器	甕	(12.1)	4.9	9.9	-	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No3、カマド
9	土師器	甕	-	5.5	<3.8>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	カマド
10	土師器	甕	17.3	-	<17.4>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No6
11	土師器	甕	(22.6)	-	<26.0>	-	ハケメ	ケズリ	完全実測	No1
12	土師器	壺	(16.4)	-	<8.7>	-	ナデ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	カマド

第11表 H2号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整	外面	備考	出土層位
			口徑(長)	底徑(短)	器高(厚)	重量等				
1	土師器	坏	(11.9)	(6.0)	<4.1>	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	覆土
2	土師器	坏	(15.0)	(9.8)	<3.5>	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	No1
3	土師器	坏	(16.1)	-	<3.2>	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	カマド
4	土師器	碗	-	8.1	<3.2>	-	ミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台	完全実測	覆土
5	須恵器	坏	14.2	7.5	3.9	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土
6	土師器	鉢	(11.8)	-	<8.7>	-	ハケメ	ハケメ→ケズリ	回転実測	覆土
7	土師器	鉢	(19.0)	-	<9.0>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	カマド
8	土師器	甕	(20.6)	-	<25.7>	-	ハケメ	ハケメ→ケズリ	回転実測	No2
			-	(4.6)	<16.6>	-	ハケメ、ナデ	ケズリ	回転実測	No3
9	土師器	甕	-	(5.4)	<4.2>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土

第12表 H3号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整	外面	備考	出土層位
			口徑(長)	底徑(短)	器高(厚)	重量等				
1	土師器	坏	15.9	13.5	7.1	-	ミガキ	ミガキ	完全実測	カマド、H71
2	土師器	坏	-	-	-	-	ミガキ	ミガキ	破片実測	カマド

第13表 H3号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
3	灰釉陶器	碗	(10.6)	—	<3.6>	—	施釉	施釉		回転実測	Ⅳ区	
4	土師器	甕	(11.7)	5.5	8.5	—	ナデ	ミガキ		完全実測	H71、H71 床上	
5	土師器	甕	(12.0)	—	<5.6>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	カマド	
6	土師器	甕	(13.0)	—	<6.4>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	H71	
7	土師器	甕	(14.7)	—	6.7	—	ナデ	ケズリ→ミガキ		完全実測	カマド	
8	土師器	甕	—	—	(6.8)	—	ナデ	ケズリ		回転実測	No1	
9	土師器	甕	—	—	—	—	ナデ	ケズリ		破片実測	床	
10	土師器	甕	—	—	—	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ、磨耗		完全実測	No1、床	
11	弥生土器	壺	10.5	—	<6.9>	—	ミガキ	ミガキ→赤彩		完全実測	覆土	

第14表 H4号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	环	(12.8)	—	5.1	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ		回転実測	I区、II区	
2	土師器	环	(13.8)	—	<4.9>	—	ミガキ	ミガキ		回転実測	覆土	
3	土師器	环	(14.6)	(15.0)	4.9	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ		回転実測	覆土	
4	土師器	环	—	(12.8)	<6.5>	—	ミガキ	ミガキ		回転実測	覆土	
5	土師器	环	—	(14.4)	<7.2>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ		回転実測	I区	
6	土師器	甕	(12.8)	—	<5.5>	—	ナデ	ナデ		回転実測	覆土	
7	土師器	甕	(14.6)	—	<5.5>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	Ⅲ区	
8	土師器	甕	(17.2)	—	<11.0>	—	ハケメ	ナデ→ミガキ		回転実測	Ⅱ区	
9	土師器	甕	(18.0)	—	<15.6>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	覆土	
10	土師器	甕	(18.4)	(6.0)	18.0	—	ナデ	ケズリ		回転実測	I区	
11	土師器	甕	(22.0)	—	<6.7>	—	ナデ	ナデ		回転実測	覆土	
12	土師器	甕	—	(6.0)	<6.0>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	覆土	
13	土師器	甕	—	(9.2)	<9.5>	—	ナデ	ミガキ		回転実測	I区	
14	土師器	甕	—	—	<11.3>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	I区	
15	土師器	壺	(22.8)	—	<10.1>	—	ナデ→ミガキ	ミガキ		回転実測	覆土	
16	土師器	壺	—	(6.4)	<17.8>	—	ミガキ	ミガキ		回転実測	Ⅲ区	
17	土師器	甕	(26.0)	8.8	(25.9)	—	ナデ	ケズリ		完全実測	覆土	
18	須恵器	甕	(20.0)	—	<11.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	覆土	
19	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	櫛描波状文		破片実測	Ⅱ区	
20	石器	磨石	<7.0>	<5.0>	<0.9>	<27.4>	裏面欠損、正面に擦痕あり	—		完全実測	Ⅱ区	
21	石器	磨石	<9.5>	<6.4>	<0.6>	<61.2>	裏面欠損、正面に擦痕あり	—		完全実測	覆土	

第15表 H5号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	环	(12.9)	(12.8)	3.6	—	ナデ	底部ケズリ		回転実測	Ⅲ区	
2	土師器	环	(13.4)	(8.8)	3.8	—	ミガキ→黒色処理	底部ケズリ		回転実測	カマド	
3	土師器	环	14.9	9.5	5.0	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ		完全実測	No13	
4	土師器	环	15.2	8.2	4.7	—	ミガキ→黒色処理	底部ケズリ→ミガキ		完全実測	No25	

第16表 H5号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	調整	備考	出土層位		
5	土師器	坏	(15.6)	(10.6)	<4.6>	-	ミガキ→黒色処理?	底部分ズリ→ミガキ	回転実測	No23			
6	土師器	坏	(15.6)	12.7	4.3	-	ミガキ	底部分ズリ	完全実測	I区			
7	土師器	坏	16.0	11.5	4.8	-	ミガキ→黒色処理	底部分ズリ→ミガキ	完全実測	No3			
8	土師器	坏	(18.2)	(12.0)	5.0	-	ミガキ→黒色処理	底部分ズリ→ミガキ	回転実測	No22			
9	土師器	高坏	(12.2)	-	6.1	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	覆土			
10	土師器	高坏	(16.1)	11.2	9.7	-	坏部ミガキ→黒色処理、体部ミガキ	ミガキ	完全実測	覆土			
11	土師器	高坏	17.7	-	<14.8>	-	ミガキ→黒色処理、脚部ナデ、細部ミガキ	ミガキ	完全実測	No16			
12	土師器	高坏	-	11.5	<14.3>	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	II区、III区			
13	土師器	手捏	(5.5)	4.0	4.3	-	ナデ	ナデ	完全実測	III区			
14	須恵器	坏	(13.5)	5.9	5.1	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	III区			
15	須恵器	坏	(15.0)	(11.0)	4.0	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り→底部分ズリ	回転実測	覆土			
16	須恵器	坏	-	(15.4)	<3.0>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	EW区ベルト			
17	須恵器	蓋	(11.2)	-	<1.4>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	II区			
18	須恵器	蓋	17.8	-	2.2	-	ロクロナデ	つまみ貼付	完全実測	No2			
19	土師器	甕	(11.4)	5.1	7.4	-	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No8			
20	土師器	甕	(14.6)	6.4	16.4	-	ナデ→ミガキ	ハケメ、ケズリ→ミガキ、摩擦、剥離	完全実測	No18、26			
21	土師器	甕	(16.5)	(5.7)	11.0	-	ナデ→ミガキ	ハケメ、ケズリ→ミガキ、摩擦	完全実測	No17、29、30			
22	土師器	甕	17.6	5.4	20.3	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No19			
23	土師器	甕	17.6	6.9	41.3	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No22、23、26、31、カマド			
24	土師器	甕	(18.0)	-	<9.7>	-	ナデ	ナデ	回転実測	No21			
25	土師器	甕	-	6.5	<5.9>	-	ナデ	ハケメ	完全実測	No4			
26	土師器	壺	8.8	5.8	9.3	-	ミガキ	ハケメ	完全実測	No20、カマド			
27	土師器	壺	(11.8)	-	<7.0>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土			
28	土師器	壺	-	-	<9.2>	-	黒色処理	ミガキ	完全実測	No14			
29	土師器	甗	16.0	3.3	12.4	-	ナデ	ハケメ	完全実測	No1			
30	土師器	甗	(22.1)	3.1	16.4	-	ハケメ	ハケメ、ケズリ	完全実測	No17、24			
31	土師器	?	-	-	-	-	ナデ	ナデ	破片実測・拓本	I区			
32	弥生土器	高坏	-	-	<4.8>	-	ハケメ	ミガキ、透かし有	回転実測	No18、26			
33	弥生土器	甕	-	-	-	-	擦糸文	破片実測・拓本	回転実測	EW区ベルト			
34	弥生土器	甕	-	-	-	-	縄文	破片実測・拓本	破片実測	SN区ベルト			
35	弥生土器	壺	-	-	-	-	ヘラ描沈線	破片実測・拓本	破片実測	III区			
36	弥生土器	壺	-	-	-	-	擦糸文	破片実測・拓本	破片実測	No3			
37	鉄器	短頸族	<10.2>	<2.0>	<0.35>	<11.97>	先端・茎部欠損(柳区・角関)	完全実測	完全実測	No10			
38	鉄器	短頸族	<11.2>	<1.8>	<0.3>	<10.79>	両脚端・茎部先端欠損(柳区・台形関)	完全実測	完全実測	No9			
39	鉄器	長頸族	<9.5>	<0.6>	<0.25>	<7.71>	頸部のみ残存?	完全実測	完全実測	No11			
40	鉄器	長頸族	<11.4>	<1.0>	<0.2>	<9.59>	先端・基部欠損、棘状関	完全実測	完全実測	No6			

第17表 H6号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	調整	備考	出土層位		
1	土師器	坏	(11.6)	(11.6)	4.6	-	ミガキ	ミガキ	完全実測	カマド			
2	土師器	坏	12.0	11.8	6.7	-	ミガキ	ミガキ、刻書	完全実測	No6、IV区			

第18表 H6号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
3	土師器	環	12.2	12.3	6.0	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	完全実測	No8、床	
4	土師器	環	(12.8)	(11.4)	<5.0>	—	ミガキ	ミガキ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No1	
5	土師器	環	(13.8)	丸底	<6.1>	—	暗文→ミガキ	暗文→ミガキ	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	完全実測	No5、IV区	
6	土師器	環	(14.0)	(12.6)	<5.0>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	I区、IV区、EWベルト	
7	土師器	環	(14.8)	丸底	<5.8>	—	ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ	回転実測	No9	
8	土師器	甕	(15.0)	—	<7.0>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	I区、EWベルト	
9	土師器	甕	—	(7.4)	<5.4>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	SNベルト	
10	土師器	壺	—	8.0	<5.4>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	カマド	
11	石器	打製石斧	<9.0>	<5.1>	<1.0>	<51.0>	基部欠損、刃部に摩滅	基部欠損、刃部に摩滅			完全実測	No4	
12	石器	敲石	16.1	7.6	7.0	1100.0	両端部に敲打痕、正面に擦痕	両端部に敲打痕、正面に擦痕			完全実測	I区、床直	

第19表 H7号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	環	(13.8)	(13.2)	<3.6>	—	暗文	暗文	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土	
2	土師器	有段口縁環	15.8	13.5	5.0	—	剥落	剥落	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No2	

第20表 H8号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	環	(11.0)	—	<2.2>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	Sベルト	
2	土師器	環	(12.8)	(10.4)	<4.4>	—	暗文→黒色処理	暗文→黒色処理	ケズリ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転実測	カマド	
3	土師器	環	(13.2)	(11.2)	<5.2>	—	暗文	暗文	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド	
4	土師器	環	(13.8)	(12.4)	<3.7>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	カマド、I区、EWベルト	
5	土師器	環	(14.0)	(11.2)	<4.1>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転実測	カマド、C3、D3	
6	土師器	甕	(12.0)	—	<2.6>	—	ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅲ区、EWベルト	
7	土師器	壺	—	(6.4)	<3.3>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド	
8	石製品	白玉	1.6	1.8	0.7	2.79	孔φ0.20、成形途中か	孔φ0.20、成形途中か			完全実測	No3	
9	石製品	白玉	1.7	1.75	0.6	2.67	孔φ0.25	孔φ0.25			完全実測	No2	
10	石製品	白玉	1.8	1.8	0.7	3.89	孔φ0.25、正面に条痕(整形痕か)	孔φ0.25、正面に条痕(整形痕か)			完全実測	No1	

第21表 H9号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	環	(14.0)	(14.4)	<4.4>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区	
2	土師器	環	(14.6)	(14.9)	<3.5>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	ケズリ	ケズリ	回転実測	覆土	
3	須恵器	環	(13.2)	—	<2.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	床	
4	須恵器	環蓋	—	—	<1.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ→つまみ貼付	ロクロナデ→つまみ貼付	完全実測	覆土	
5	土師器	甕	21.8	—	<18.8>	—	ハケス、ナデ	ハケス、ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No11	
6	土師器	甕	—	5.4	<7.2>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	SNベルト	
7	土師器	壺	—	8.5	<4.5>	—	ナデ	ナデ	ケズリ、ハケス	ケズリ、ハケス	完全実測	No2	

第22表 H9号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
8	須恵器	壺	—	(6.0)	—	<2.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	SN ベルト
9	土製品	土器片円盤	3.4	3.5	0.8	12.3	ミガキ	—	—	完全実測	覆土
10	石器	磨石	6.0	4.8	3.5	147.8	全体に磨り	—	器面の荒れにより不明	完全実測	EW ベルト
11	石器	敲石	9.4	6.9	3.7	302.4	縁辺に敲打痕	—	—	完全実測	EW ベルト
12	石器	敲石	11.4	6.6	4.2	354.4	正裏・端部に敲打痕と条痕あり	—	—	完全実測	覆土
13	石器	石錘	6.2	6.7	1.9	95.0	両側に挟り、縁辺に条痕、正面に摩擦あり	—	—	完全実測	床

第23表 H10号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.2)	—	—	<3.3>	—	ミガキ	—	回転実測	IV区、B-0G7?
2	土師器	坏	(14.8)	(9.2)	3.8	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	—	回転実測	IV区
3	土師器	甕	14.5	4.2	20.4	—	ナデ	ケズリ	—	完全実測	No6、7、12、I区、床、カマド
4	土師器	武蔵甕	(21.5)	—	<16.9>	—	ヨコナデ	ケズリ	—	回転実測	覆土
5	土師器	甕	(24.7)	(5.4)	(38.6)	—	ナデ	ケズリ	—	完全実測	No2、4、5、7、9、10、11、I区、床、ベルト
6	土師器	甕	—	4.8	<7.9>	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	No2、床、ベルト
7	土師器	甕	—	(6.0)	<5.3>	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	No1
8	石器	磨・敲石	11.3	4.5	3.6	258.5	端部に敲打痕、正裏に磨面	—	—	完全実測	II区

第24表 H11号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.0)	—	—	4.9	—	ミガキ	—	回転実測	I区ベルト
2	土師器	坏	13.0	—	—	6.0	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No14
3	土師器	坏	(13.6)	(13.2)	<6.1>	—	ナデ、ミガキ	ミガキ	—	回転実測	ベルト
4	土師器	坏	(14.8)	—	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	—	回転実測	II区
5	土師器	坏	15.1	11.2	4.9	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No37、39、44、45、48、50、53、73、76、79
6	土師器	坏	15.8	10.6	5.2	—	ケズリ→ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	II区
7	土師器	坏	16.4	11.6	4.8	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No15～17、22、23、27、40、46
8	土師器	坏	16.6	11.9	4.7	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	不明
9	土師器	坏	16.7	11.7	4.9	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No24、29、30、31、38、43
10	土師器	坏	16.7	13.1	5.6	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No5
11	土師器	甕	10.6	6.4	8.4	—	ナデ	ケズリ	—	完全実測	カマド前
12	土師器	甕	11.8	4.5	8.6	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No4
13	土師器	甕	(12.4)	—	<6.6>	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	ベルト
14	土師器	甕	(13.4)	—	<6.5>	—	ハケメ	ケズリ	—	回転実測	I区
15	土師器	甕	(14.0)	—	<8.6>	—	ナデ	ケズリ	—	回転実測	II区
16	土師器	甕	15.6	—	<8.6>	—	ナデ	ナデ	—	完全実測	No3
17	土師器	甕	15.8	—	<27.5>	—	ハケメ→ケズリ	ハケメ→ケズリ	—	完全実測	No2

第25表 H11号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
18	土師器	甗	17.2	6.4	—	17.1	—	ハケメ→ケズリ	ハケメ	完全実測	No1、58、74、90、床、ベルト		
19	土師器	甗	18.8	—	<34.3>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No12、カマド		
20	土師器	甗	20.1	6.2	—	22.4	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全実測	No59、60、65、67～69、77、84、90		
21	土師器	壺	11.2	—	—	9.7	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	南側土坑 No1		
22	土師器	甗	14.2	4.4	—	11.3	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No10		
23	土師器	甗	15.6	4.2	—	11.0	—	ハケメ	ハケメ	完全実測	No9		
24	土師器	甗	16.7	3.6	—	10.8	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全実測	No8		
25	土師器	甗	18.2	6.0	—	9.6	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No13		
26	土師器	甗	23.7	7.4	—	20.7	—	ハケメ→ミガキ	ハケメ	完全実測	No26、32～34、36、49、51、52、55、57、63、66、68、78、80、81、87		
27	須恵器	横瓶	—	—	<2.7>	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	I区		
28	土製品	土器片円盤	3.8	—	—	0.8	—	ミガキ	ケズリ	完全実測	II区		
29	土製品	土器片円盤	3.8	—	—	0.7	—	同心円当具痕	ハケメ・平行叩目	完全実測	III区		
30	石器	磨石	5.3	—	—	4.0	—	全体に磨り、正面に条痕	—	完全実測	No11		

第26表 H12号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
1	土師器	坏	(13.4)	(11.3)	—	<3.8>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	P2		
2	土師器	坏	(17.0)	(9.9)	—	<4.2>	—	ミガキ→黒色処理	底部ケズリ→ミガキ、摩耗	回転実測	II区		
3	土師器	坏	—	—	—	—	—	ナデ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	破片実測	II区		
4	土師器	高坏	14.5	8.8	—	11.8	—	ミガキ→黒色処理、脚部ケズリ→ナデ	ケズリ	完全実測	No2		
5	土師器	高坏	—	(9.8)	—	<3.2>	—	ケズリ	ミガキ	回転実測	III区		
6	土師器	高坏	—	—	—	<6.0>	—	ケズリ→ナデ	ミガキ→赤彩	完全実測	P1		
7	土師器	ミニチュア土器	(6.0)	(4.6)	—	3.2	—	ナデ	ナデ	回転実測	I区		
8	須恵器	坏蓋	8.0	2.1	—	2.3	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	No1		
9	土師器	鉢	(19.8)	(12.6)	—	8.4	—	ミガキ→黒色処理、摩耗	ケズリ、摩耗	回転実測	No15、カマド		
10	土師器	甗	(13.4)	—	—	(10.5)	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	II区、C1・2Gr		
11	土師器	小型甗	(13.5)	5.0	—	9.7	—	ナデ	ハケメ、ケズリ→ミガキ	完全実測	No8		
12	土師器	甗	(14.4)	—	—	<16.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No10、ベルト		
13	土師器	甗	—	(6.0)	—	<3.5>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	ベルト		
14	土師器	壺	—	—	—	<3.8>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	I区		
15	土師器	壺	—	—	—	<4.5>	—	ナデ	ミガキ	完全実測	No9		
16	土師器	壺	—	—	—	<19.1>	—	ナデ	ミガキ	回転実測	No9		
17	石器	砥石	<9.4>	<5.5>	<4.6>	<254.0>	—	上下欠損、砥面数4、正面・左側に条痕、裏面は欠損後も使用	—	完全実測	覆土		
18	石器	打製石斧	<7.0>	<5.6>	<1.35>	<74.7>	—	下部欠損、摩滅部分あり	—	完全実測	I区		
19	石製品	白玉	0.9	1.0	0.65	0.9	0.25	孔φ0.25	—	完全実測	No13		
20	石器	磨石	4.5	3.4	3.9	65.7	—	全体に磨り	—	完全実測	I区		
21	石器	磨石	<10.2>	<6.0>	<5.5>	<507.0>	—	被熱あり？一部黒化、上下欠損、正面に磨面、擦痕あり	—	完全実測	覆土		
22	鉄器	刀子	<7.2>	<0.8>	<0.25>	<5.9>	—	両端欠損	—	完全実測	No7		
23	鉄滓	—	—	—	—	33.0	—	—	—	未実測	No6		

第27表 H13号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	(15.3)	-	-	<4.8>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	I区
2	土師器	環	17.2	11.2	11.2	5.0	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全実測	No4、I区、H82 I区
3	土師器	環	(17.2)	(11.4)	(11.4)	<4.0>	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	No7、カマド、H82カマド
4	土師器	環	(17.3)	(14.7)	(14.7)	6.7	-	ミガキ→黒色処理、煤付着	ミガキ、煤付着	完全実測	No8
5	土師器	高環	(13.6)	-	-	<5.1>	-	ミガキ→黒色処理	ナデ→ミガキ	回転実測	I区
6	土師器	高環	-	(8.0)	(8.0)	<5.7>	-	ケズリ→一部ミガキ	ケズリ	回転実測	I区
7	土師器	小型甕	10.6	4.6	4.6	8.1	-	ナデ	ナデ	完全実測	No7
8	土師器	甕	(16.6)	-	-	<12.2>	-	ナデ	ミガキ	回転実測	I区
9	土師器	甕	(19.2)	-	-	<9.1>	-	胴部ナデ	胴部ミガキ	回転実測	I区、H82 IV区
10	土師器	甕	(22.4)	-	-	<8.9>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	No3
11	土師器	甕	(22.4)	-	-	<11.3>	-	一部ミガキ	ミガキ	回転実測	I区
12	土師器	小型甕	-	7.4	7.4	<8.7>	-	ナデ	ナデ	完全実測	No4、I区
13	土師器	壺	-	-	-	-	-	ミガキ	ハケメ	破片実測	I区
14	土師器	甕	11.6	2.3	2.3	12.0	-	ナデ	ナデ、焼成前穿孔	完全実測	No5
15	土師器	甕	(22.6)	-	-	<10.8>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土
16	土師器	甕	-	(9.5)	(9.5)	<4.4>	-	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
17	須恵器	甕	-	-	-	-	-	ナデ	叩目	破片実測・拓本	No2
18	土製品	土器片円盤	10.3	8.6	8.6	0.5	60.3	ミガキ→黒色処理	ミガキ	破片実測	I区
19	石製品	紡錘車	4.7	2.9	2.9	1.5	27.0	孔φ0.7		完全実測	No6
20	石器	磨石	11.6	9.5	9.5	3.3	465.0	正面に磨面		完全実測	I区

第28表 H14号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	-	(7.0)	(7.0)	<0.8>	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	覆土

第29表 H15号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型環	10.6	9.4	9.4	3.9	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No6
2	土師器	環	12.8	9.9	9.9	4.8	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No2
3	土師器	環	(14.0)	(12.0)	(12.0)	(5.6)	-	ミガキ	ケズリ	回転実測	No6
4	土師器	甕	-	6.5	6.5	<8.0>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No1

第30表 H16号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	13.5	11.1	11.1	4.4	-	放射状暗文	ケズリ	完全実測	No5
2	土師器	環	15.2	11.7	11.7	4.8	-	ミガキ	ケズリ	完全実測	No2
3	土師器	鉢	16.7	-	-	9.4	-	ナデ、一部ハケメ	ケズリ	完全実測	No1、4

第31表 H16号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
4	土師器	甕	(10.0)	(7.4)	<22.6>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No1	
5	土師器	甕	14.0	—	<12.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No6	
6	土師器	甕	(18.8)	—	<29.6>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
7	土師器	甕	(19.2)	—	<11.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅱ区、カマド	
8	土師器	甕	—	6.3	<17.2>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	カマド	
9	土師器	甕	(16.8)	6.9	20.0	—	ハケメ	ケズリ、ハケメ	完全実測	No4、5	
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	1.1(2)	燃糸単軸絡条体	破片実測・拓本	覆土	

第32表 H17号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(13.7)	11.9	4.3	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No5	
2	土師器	有段口縁坏	(13.9)	(11.8)	<4.9>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	完全実測	I区	
3	土師器	高坏	(15.0)	—	<5.3>	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	Ⅲ区	
4	土師器	高坏	(15.9)	—	<5.4>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	G7、G8、G17、G18	
5	土師器	高坏	(17.0)	—	<4.8>	—	不明	ケズリ	完全実測	Ⅳ区、G7、G8、G17、G18	
6	土師器	高坏	(19.2)	—	<5.4>	—	ナデ→ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全実測	No4、I区、カマド	
7	土師器	高坏	—	(9.6)	<3.7>	—	ケズリ	ケズリ	回転実測	Ⅱ-7	
8	土師器	高坏	—	(12.4)	<2.4>	—	ケズリ	ケズリ→ミガキ	完全実測	Ⅲ区	
9	土師器	高坏	—	—	<4.3>	—	ミガキ	ハケメ、放射状ミガキ	完全実測	Ⅲ区、G7、H7	
10	土師器	高坏	—	—	<5.5>	—	ケズリ	ミガキ→赤彩	完全実測	No9	
11	土師器	鉢	(12.8)	5.6	<8.0>	—	ハケメ	ケズリ、ハケメ	回転実測	I区	
12	土師器	鉢	(16.4)	—	<4.1>	—	放射状ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区、G4、G5	
13	土師器	甕	13.5	(8.1)	<24.3>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	Ⅱ区、H20 I区、Ⅱ区	
14	土師器	甕	(18.6)	—	<22.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No2、I区	
15	土師器	甕	(19.9)	—	<24.3>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No4、Ⅳ区、カマド	
16	土師器	甕	21.6	—	<26.2>	—	ハケメ	ケズリ	完全実測	I区、床、カマド、G7、G8、G17、G18	
17	土師器	甕	—	6.6	<9.3>	—	ケズリ、ハケメ、ミガキ	ケズリ	回転実測	Ⅳ区、カマド	
18	土師器	壺	(18.2)	—	<8.6>	—	ハケメ	ミガキ	回転実測	18、Ⅱ区、Ⅲ区、カマド	
19	土師器	壺	—	(10.2)	<4.9>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	G7、H7	
20	土師器	甕	—	(4.2)	<3.9>	—	ケズリ	ミガキ	完全実測	覆土	
21	須恵器	壺	—	(7.0)	<3.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	回転実測	覆土	
22	石製品	砥石	<9.0>	<6.6>	<4.2>	<363.83>	上部欠損、砥面数4、条痕有、正裏下部に削り状の使用痕		完全実測	No11	
23	石器	磨製石斧	<3.5>	1.4	<0.4>	<3.38>	一部欠損、擦痕有、裏面欠損後も使用か?		完全実測	上層	
24	石器	磨製石鏃	<2.5>	<2.1>	<0.2>	<1.65>	孔φ0.25、先端欠損、擦痕有		完全実測	No7	
25	石器	編物石	8.9	5.0	2.00	116.78	側面に挟り、端部に使用痕		完全実測	床直	
26	石器	磨石	4.8	3.4	2.80	38.00	全体に磨り		完全実測	Ⅳ区	

第 33 表 H18 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	北武蔵型環	(11.2)	(10.0)	—	<3.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区	
2	土師器	環	(14.2)	—	—	<6.0>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	II区、EW ベルト	
3	土師器	北武蔵型環	(15.0)	—	—	5.0	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、II区	
4	須恵器	環	(13.8)	(8.2)	—	3.8	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	III区、EW ベルト	
5	須恵器	環	—	(4.8)	—	<2.3>	—	ロクロナデ	回転糸切→回転ヘラケズリ、火燻痕	回転実測	II区	
6	土師器	鉢	(9.5)	5.3	—	8.0	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	カマド、I区	
7	土師器	鉢	—	—	—	<7.0>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	カマド、IV区	
8	土師器	甕	(21.0)	—	—	<27.6>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド、I区、II区、IV区、ベルト	
9	土師器	甕	—	(5.0)	—	<1.8>	—	ナデ	ケズリ、木葉痕	回転実測・拓本	SN ベルト	
10	土師器	甕	—	6.7	—	<2.4>	—	ナデ	ナデ	完全実測	EW ベルト	
11	土師器	甕	—	(7.4)	—	<4.9>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	床	
12	土師器	甕	—	8.0	—	<3.1>	—	ハケメ	ケズリ	完全実測	ベルト	
13	土師器	甕	—	—	—	<19.5>	—	ハケメ	ケズリ	完全実測	カマド、I区、II区	
14	土師器	甕	—	—	—	<20.5>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	カマド、I区、III区、SN ベルト	
15	弥生土器	鉢	—	—	—	—	—	浮線文、ヘラミガキ	—	破片実測・拓本	III区	
16	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	L(r) 燃糸単軸絡糸体、赤彩	—	破片実測・拓本	I区、IV区	
17	土製品	土器片円盤	3.8	4.1	—	0.7	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	破片実測	IV区	
18	土製品	土鉢	5.6	1.9	—	1.7	—	—	ナデ	完全実測	No1	
19	石器	編物石	10.0	6.3	2.4	280.0	—	—	—	完全実測	IV区	
20	石器	編物石	11.4	6.7	2.7	292.0	—	辺縁に使用痕	—	完全実測	E区	
21	鉄器	長頸鍬	<8.8>	<0.8>	<0.4>	<5.63>	—	鍬身部欠損、角閃	—	完全実測	覆土	
22	鉄器	長頸鍬	<10.2>	<0.7>	<0.45>	<6.24>	—	鍬身部欠損、角閃	—	完全実測	覆土	
23	鉄器	長頸鍬	<12.9>	<0.7>	<0.4>	<7.99>	—	鍬身部・茎部欠損、角閃	—	完全実測	No1	
24	木製品	横櫛	—	—	—	—	—	炭化	—	未図化	覆土	

第 34 表 H19 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	須恵器	環	(12.6)	(5.0)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	覆土	
2	須恵器	環	—	(6.0)	—	<1.8>	—	火燻	回転ヘラ切り→ケズリ	完全実測	No1	
3	土師器	鉢	(20.0)	(17.0)	—	<7.9>	—	ハケナデ、ミガキ→黒色処理	底部ケズリ、ミガキ	回転実測	覆土	
4	土師器	壺	(10.7)	6.6	—	<12.4>	—	ミガキ	ケズリ	完全実測	No3、II区、M7	
5	土師器	壺	(14.0)	—	—	<13.2>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No5、No7、No8、II区、H16 カマド	
6	土師器	壺	(13.7)	—	—	<8.5>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	No7	
7	土師器	壺	—	7.0	—	<3.2>	—	ナデ	ミガキ、底部ケズリ	完全実測	No2	
8	弥生土器	壺	(19.0)	—	—	<4.2>	—	ミガキ、口唇部に突起貼付	—	回転実測	No2	
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	II区	
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	II区	
11	石器	編物石	12.0	4.5	4.3	267.1	—	—	—	完全実測	IV区	
12	石器	磨石	8.0	6.5	2.3	137.9	—	正面に磨り面、擦痕あり	—	完全実測	IV区	

第35表 H20号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	11.6	—	—	4.2	—	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	No12、I区
2	土師器	坏	12.3	—	—	5.5	—	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	I区
3	土師器	坏	12.7	—	—	5.8	—	—	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	覆土
4	土師器	坏	12.8	—	—	4.7	—	—	ナデ	ナデ	完全実測	No18、I区、HI7上層
5	土師器	坏	13.1	—	—	6.2	—	—	ナデ	ナデ	完全実測	No8~10、I区
6	土師器	坏	13.3	—	—	6.2	—	—	ナデ	ナデ	完全実測	I区
7	土師器	坏	13.4	—	—	5.2	—	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	No2、I区
8	土師器	坏	13.7	—	—	7.2	—	—	ケズリ	ケズリ	完全実測	No14、I区
9	土師器	坏	(13.8)	—	—	4.6	—	—	ナデ	ナデ	回転実測	床
10	土師器	坏	14.2	9.7	—	5.0	—	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No4、No5、I区
11	土師器	坏	—	—	—	<6.8>	—	—	ナデ	ミガキ	完全実測	I区
12	土師器	坏	14.5	—	—	8.6	—	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	I区
13	土師器	甕	(14.2)	—	—	<7.4>	—	—	ナデ	磨耗	回転実測	II区
14	土師器	甕	(21.0)	5.7	—	19.2	—	—	ハケメ	ハケメ	完全実測	No18~20、II区、床
15	土師器	壺	9.2	—	—	<10.5>	—	—	口縁部ミガキ、体部ナデ	ミガキ	完全実測	I区、II区、IV区、床
16	土師器	壺	(9.3)	—	—	<10.6>	—	—	口縁部ミガキ、体部ナデ	ミガキ	完全実測	II区、床、M7
17	土師器	壺	28.3	6.8	—	28.3	—	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全実測	No17
18	須恵器	甕	—	—	—	<4.8>	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	No15
19	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	I区
20	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	—	半截竹管による沈線文	—	破片実測・拓本	II区
21	石器	二次加工のある剥片	3.9	2.8	—	1.0	8.1	—	上端部と右縁辺に剥離痕	—	完全実測	II区
22	石器	打製石斧	<5.5>	<4.7>	<4.7>	<1.3>	<41.3>	—	下部欠損、正裏は節理面か	—	完全実測	覆土
23		鉄滓	—	—	—	—	3.2	—	—	—	未図化	II区

第36表 H21号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(15.6)	—	—	<3.4>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	IV区
2	土師器	坏	(19.0)	(15.0)	—	<5.7>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
3	土師器	高坏	—	(11.8)	—	<3.5>	—	ケズリ	ミガキ	ミガキ	回転実測	IV区、H63
4	須恵器	坏蓋	(14.6)	—	—	5.2	—	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	No8、No9
5	土師器	甕	(15.8)	—	—	<4.7>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	III区
6	土師器	甕	(18.6)	—	—	<11.7>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	不明
7	土師器	甕	—	4.5	—	<4.4>	—	赤彩付着	ケズリ	ケズリ	完全実測	覆土
8	土師器	甕	—	(6.8)	—	<2.5>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	IV区
9	土師器	壺	(21.4)	—	—	<8.3>	—	ハケメ、ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No3~5、III区
10	土師器	甕	16.2	—	—	<10.2>	—	ナデ	ミガキ、赤彩	ミガキ	完全実測	No6、No7
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	櫛歯波状文	—	—	破片実測・拓本	IV区
12	弥生土器	鉢	—	—	—	—	—	条痕文	—	—	破片実測・拓本	IV区
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	無文	—	—	破片実測・拓本	III区
14	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	Lr2 燃糸単軸絡糸体	—	—	破片実測・拓本	III区

第37表 H21号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
15	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	L[r2] 燃糸単軸絡条体	破片実測・拓本	覆土	
16	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕	破片実測・拓本	IV区	
17	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕	破片実測・拓本	覆土	
18	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	L[r2] 燃糸単軸絡条体	破片実測・拓本	IV区	
19	石器	打製石斧	11.0	5.1	1.2	78.5		自然面残	完全実測	No2	

第38表 H22号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	甕	(15.4)	(7.6)	-	<14.5>	-	ハケメ	ハケメ→ケズリ	回転実測	H22
2	土師器	甕	(15.8)	-	-	<10.3>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No1
3	土師器	甕	-	(7.0)	-	<4.4>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No1
4	土師器	甕	13.5	2.9	-	11.3	-	ナデ	ハケメ→ケズリ→ミガキ	完全実測	No2
5	土師器	甕	-	(8.2)	-	<5.5>	-	ミガキ	ケズリ	回転実測	H22
6	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	カマド
7	須恵器	壺	(11.6)	-	-	<2.8>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド

第39表 H23号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(10.6)	-	-	4.5	-	ナデ	ナデ	回転実測	II区、IV区、EWベルト
2	土師器	坏	(12.2)	(9.8)	-	<4.1>	-	ミガキ	ケズリ	回転実測	IV区
3	土師器	有段口縁坏	(13.3)	11.1	-	4.7	-	ナデ	ケズリ	完全実測	No2
4	土師器	坏	15.1	11.7	-	4.6	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	P3
5	土師器	甕	(16.4)	-	-	<13.7>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、IV区、カマド
6	土師器	甕	(23.8)	-	-	<9.8>	-	ハケメ→ミガキ	ケズリ	回転実測	III区、IV区、NSベルト
7	土師器	甕	-	(7.2)	-	<11.7>	-	ナデ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No1
8	土師器	甕	-	-	-	<18.4>	-	ハケメ	ハケメ	回転実測	III区、ベルト
9	土師器	壺	(7.6)	(3.4)	-	8.4	-	ナデ	ナデ	回転実測	IV区
10	土師器	甕	(17.0)	(5.2)	-	<11.3>	-	ナデ	ケズリ	回転実測、多孔	No1、II区
11	土師器	甕	-	(7.2)	-	<8.6>	-	ハケメ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	I区
12	須恵器	甕	-	(9.2)	-	<5.3>	-	当具痕	平行叩目	回転実測	III区
13	石器	磨・敲石	9.5	4.8	3.5	176.4		正裏に磨面(擦痕あり)、両端部に敲打痕	完全実測	III区	

第40表 H24号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.0)	-	-	3.4	-	ナデ	ケズリ	回転実測	SNベルト
2	土師器	有段口縁坏	(14.0)	(11.7)	-	<4.2>	-	暗文	底部ケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	碗	-	7.7	-	<3.3>	-	暗文、黒色処理	付高台	完全実測	SNベルト

第41表 H24号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面			
4	須恵器	高坏	(15.6)	—	<8.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
5	須恵器	高盤	—	—	<5.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	完全実測	覆土	
6	土師器	甕	(15.0)	—	<11.0>	—	ハケメ→ミガキ	ケズリ	ケズリ	回転実測	SNベルト	SNベルト	
7	土師器	壺	(9.4)	—	6.6	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	完全実測	No1	
8	土師器	壺	—	9.2	<6.3>	—	ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	完全実測	No2、SNベルト	
9	土師器	甎	—	—	<8.5>	—	ナデ	ナデ	ナデ	破片実測	破片実測	SNベルト	
10	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	波状文	破片実測・拓本	破片実測	覆土	
11	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	平行叩目	破片実測・拓本	破片実測	覆土	
12	弥生土器	壺	—	—	—	—	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、円形浮文貼付、L[r2] 燃糸	破片実測・拓本	破片実測	覆土	
13	弥生土器	壺	—	—	—	—	条痕文	条痕文	条痕文	破片実測・拓本	破片実測	覆土	

第42表 H25号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面			
1	土師器	北式蔵型坏	(10.4)	(10.2)	<2.7>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	III区	III区	
2	土師器	有段口縁坏	(13.0)	(10.4)	<3.1>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	回転実測	P4内	P4内	
3	土師器	坏	(13.8)	—	3.9	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	回転実測	III区	III区	
4	土師器	坏	(14.6)	—	<3.4>	—	ミガキ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No17、III区	III区	
5	土師器	坏	(15.0)	—	3.9	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	III区	III区	
6	土師器	坏	(15.8)	(10.2)	<4.2>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	No8	No8	
7	土師器	耳皿	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	破片実測	II区	II区	
8	須恵器	坏	—	(6.6)	<1.7>	—	ロクロナデ	底部～周縁ケズリ	底部～周縁ケズリ	回転実測	覆土	覆土	
9	土師器	鉢	(15.8)	—	4.4	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	床	床	
10	土師器	甕	(18.1)	—	<33.9>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No20、No27、No30、I区、II区、カマド、NSベルト	No20、No27、No30、I区、II区、カマド、NSベルト	
11	土師器	甕	(18.2)	—	<10.1>	—	ハケメ	ハケメ	ハケメ	回転実測	No15、I区、カマド	No15、I区、カマド	
12	土師器	甕	(18.4)	—	<30.2>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No5、No22、No30、I区、II区、カマド、NSベルト	No5、No22、No30、I区、II区、カマド、NSベルト	
13	土師器	甕	(18.6)	—	<7.7>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No31、33	No31、33	
14	土師器	甕	(19.0)	—	<10.2>	—	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	No26	No26	
15	土師器	甕	19.3	6.4	34.0	—	ナデ	ナデ、底部木葉痕	ナデ	完全実測・拓本	No29、II区、カマド	No29、II区、カマド	
16	土師器	甕	21.1	4.8	35.6	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No7、H132-10と同一個体	No7、H132-10と同一個体	
17	土師器	甕	—	6.2	<19.2>	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	ハケメ→ケズリ	完全実測	No31～33、Y3、N59	No31～33、Y3、N59	
18	土師器	壺	(17.8)	7.7	(32.8)	—	口縁部ミガキ、体部ナデ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No1～3	No1～3	
19	土師器	壺	—	(9.4)	<8.2>	—	器面剥落	ミガキ	ミガキ	回転実測	I、III区	I、III区	
20	土師器	甎	(20.4)	—	<7.1>	—	ケズリ→ミガキ	ナデ	ナデ	回転実測	III区、床	III区、床	
21	土師器	甎	(31.4)	—	<15.8>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	NSベルト	NSベルト	
22	弥生土器	壺	—	—	—	—	縄文	縄文	破片実測・拓本	P4内	P4内		
23	弥生土器	壺	—	—	—	—	縄文	縄文	破片実測・拓本	III区	III区		
24	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文	縄文	破片実測・拓本	I区	I区		
25	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文	縄文	破片実測・拓本	II区	II区		
26	弥生土器	壺	(14.4)	—	<6.4>	—	沈線文	沈線文	回転実測・拓本	II区	II区		
27	弥生土器	壺	—	—	—	—	波状口縁	波状口縁	破片実測・拓本	IV区	IV区		

第43表 H25号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面		
28	弥生土器	壺	—	—	—	—	口唇部押捺	皿区、床	
29	土製品	土器片円盤	3.1	3.3	0.6	6.7	弥生土器片を加工	EWベルト	
30	土製品	土器片円盤	3.5	3.7	0.7	12.2	弥生土器片を加工	NSベルト	

第44表 H26号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(10.7)	5.5	3.9	—	ロクロナデ	回転糸切、墨書	完全実測	カマド	
2	土師器	坏	11.2	5.6	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	ケン	
3	土師器	坏	(11.2)	(5.6)	3.7	—	黒色処理	回転糸切	回転実測	ケン	
4	土師器	北武蔵型坏	(11.4)	(10.2)	<3.6>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No5	
5	土師器	坏	(11.4)	(10.2)	4.2	—	黒色処理	ケズリ	回転実測	Ⅱ区	
6	土師器	坏	(11.8)	(12.0)	3.0	—	黒色処理	ケズリ	回転実測	Ⅲ区	
7	土師器	坏	(12.0)	—	<4.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	一括	
8	土師器	坏	12.3	5.7	3.5	—	ロクロナデ	回転糸切、墨書	完全実測	ケン	
9	土師器	坏	(12.4)	5.2	3.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全実測	ケン	
10	土師器	坏	13.1	5.9	3.9	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土、H105	
11	土師器	坏	(13.2)	(4.8)	4.7	—	ミガキ→黒色処理	底部周縁ケズリ	回転実測	ケン	
12	土師器	北武蔵型坏	(13.8)	(12.8)	(5.7)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区	
13	土師器	坏	(14.4)	7.4	4.9	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全実測	ケン	
14	土師器	坏	(14.4)	—	<4.0>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区	
15	土師器	坏	(14.8)	(14.6)	(3.6)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅲ区	
16	土師器	坏	(16.6)	(8.8)	(3.5)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	一括	
17	土師器	坏	—	4.5	<2.2>	—	黒色処理	回転糸切	完全実測	一括	
18	土師器	坏	—	(6.4)	<3.0>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	カマド	
19	土師器	碗	14.5	—	<5.3>	—	ミガキ→黒色処理	高台欠損	完全実測	ケン	
20	土師器	碗	(14.6)	—	<4.5>	—	ロクロナデ	回転糸切、高台欠損	完全実測	覆土、H105No2	
21	土師器	高坏	—	(12.0)	<6.9>	—	坏部ミガキ→黒色処理、脚部ケズリ	ケズリ→ミガキ	完全実測	Ⅲ区	
22	土師器	高坏	—	(13.4)	<12.2>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	カマド	
23	須恵器	坏	(14.4)	(7.2)	(4.3)	—	火漉	火漉、回転糸切	回転実測	ケン	
24	須恵器	有台坏	—	6.4	<1.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅳ区	
25	須恵器	坏蓋	(12.8)	—	<3.8>	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	No2	
26	須恵器	坏蓋	(14.8)	—	<4.3>	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区	
27	須恵器	坏蓋	(15.6)	—	<1.5>	—	火漉	火漉	回転実測	ケン	
28	須恵器	坏蓋	(17.0)	—	<3.2>	—	火漉	火漉	回転実測	ケン	
29	灰釉陶器	碗	(15.0)	(7.6)	4.6	—	施釉(つけ掛け)	施釉(つけ掛け)	回転実測	H26	
30	土師器	鉢	13.9	9.0	11.4	—	ナデ	ケズリ	完全実測	一括	
31	土師器	甕	(12.2)	—	<14.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅱ区	
32	土師器	甕	(18.8)	—	<34.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土、H105	
33	土師器	甕	(20.4)	—	<20.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
34	土師器	甕	—	5.9	<3.9>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	Ⅳ区	

第45表 H26号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
35	土師器	甕	—	6.1	<5.6>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No1	
36	土師器	甕	—	(8.0)	<22.0>	—	ハケメ	ハケメ	ハケメ	回転実測	II区	
37	土師器	壺	(22.0)	—	<11.6>	—	ハケメ	ハケメ	ハケメ	回転実測	覆土、H105	
38	土師器	甌	(26.0)	—	<12.6>	—	ハケメ	ハケメ	ハケメ	回転実測	H105No1、No23	
39	須恵器	壺	—	—	<7.1>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	ケン		
40	須恵器	甌	—	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	ケン		
41	須恵器	横瓶	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	平行叩目	回転実測	一括	
42	弥生土器	甕	—	—	—	—	RI(2)縄文、櫛描籐状文、櫛描横線文	—	—	破片実測	ケン	
43	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文	—	—	破片実測	ケン	
44	弥生土器	甕	—	—	—	—	波状口縁、波頂に刻目	—	—	破片実測	一括	
45	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	—	—	破片実測	IV区	
46	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕、波頂に刻目	—	—	破片実測	皿区	
47	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線による渦巻文?、赤彩	—	—	破片実測	ケン	
48	弥生土器	ミニチュア土器	4.2	1.8	3.3	—	赤彩	ケズリ	ケズリ	完全実測	No7	
49	石器	凹石	19.0	10.9	7.6	1740.0	—	—	—	完全実測	覆土	
50	石製品	白	<30.4>	<15.6>	<16.6>	10100.0	—	—	—	完全実測	H26	
51	石器	編物石	<7.1>	<6.2>	<2.0>	140.0	下部欠損	—	—	完全実測	覆土	
52	石器	編物石	<8.5>	<3.8>	<2.1>	125.0	—	—	—	完全実測	覆土	

第46表 H27号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	環	—	(10.2)	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	I区	
2	土師器	環	—	4.4	<6.5>	—	ミガキ	粗いミガキ	粗いミガキ	回転実測	I区	
3	土師器	環	(13.0)	(11.2)	<5.0>	—	ミガキ→黒色処理	底部ケズリ→ミガキ→黒色処理	底部ケズリ→ミガキ→黒色処理	回転実測	覆土	
4	土師器	環	(13.9)	(9.6)	4.5	—	見込部ナデ	底部ナデ、口縁に一条のヘラ描沈線	底部ナデ、口縁に一条のヘラ描沈線	回転実測	No5	
5	土師器	環	14.0	12.4	4.5	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド	
6	土師器	環	(14.4)	(11.8)	3.8	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	ケズリ	回転実測	No13、No21、No22、カマド	
7	土師器	環	(15.0)	—	<3.7>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	No15	
8	土師器	環	(15.4)	(8.6)	<4.5>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	No16	
9	土師器	環	(16.2)	(13.8)	4.6	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	No6	
10	土師器	環	(17.4)	(10.8)	4.5	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	カマド	
11	土師器	有段口縁環	—	—	—	—	黒色処理	ケズリ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	破片実測	IV区	
12	土師器	ミニチュア高環	—	—	<4.5>	—	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	I区	
13	土師器	鉢	(23.0)	—	<11.9>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	回転実測	No7	
14	土師器	甕	—	(7.2)	<3.0>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	回転実測	覆土	
15	土師器	甕	(17.4)	—	<12.5>	—	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	No10、No12、カマド	
16	土師器	壺	—	(7.0)	<4.3>	—	黒色処理	ケズリ	ケズリ	回転実測	No1	
17	土師器	壺	(5.6)	—	<7.3>	—	ナデ	ミガキ	ミガキ	回転実測	I、皿区、ベルト	
18	土師器	甌	—	—	—	—	ナデ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	破片実測	No9、カマド	
			—	—	—	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	破片実測	IV区	

第47表 H27号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
19	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	覆土
20	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	覆土
21	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	IV区
22	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	SN ベルト
23	石器	打製石斧	<16.0>	<6.1>	<2.3>	<172.0>	刃部欠損	—	完全実測	覆土
24	石器	砥石	<8.6>	<4.3>	<4.2>	<197.0>	上部欠損、砥面数4、両側に条痕有	—	完全実測	No19

第48表 H28号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	有段口縁坏	13.4	10.8	4.8	—	暗文→黒色処理	ケズリ	完全実測	No3
2	土師器	有段口縁坏	13.5	11.1	4.9	—	暗文→黒色処理	ケズリ	完全実測	No7
3	土師器	碗	13.8	—	<4.4>	—	ナデ→黒色処理	回転糸切→付高台、墨書	完全実測	No10
4	土師器	高坏	—	(13.2)	<4.3>	—	ナデ	ミガキ、透かし	回転実測	I区
5	土師器	鉢	(21.8)	6.8	11.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全実測	IV区
6	土師器	甕	(12.8)	(8.8)	13.7	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No8
7	土師器	甕	(17.6)	—	<12.9>	—	ハケメ→ナデ	ハケメ→ケズリ	回転実測	No19
8	土師器	甕	(20.0)	—	<11.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、IV区
9	土師器	甕	20.8	4.3	39.0	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No15
10	土師器	甕	21.6	—	<28.1>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No1、2、4~6、II区
11	土師器	甕	22.0	4.1	34.8	—	ナデ	ケズリ、木葉痕	完全実測・拓本	No19
12	土師器	甕	22.8	4.9	39.2	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No18
13	土師器	甕	(22.8)	5.2	36.1	—	ハケメの残るナデ	ケズリ→ナデ	完全実測	No17、カマド
14	土師器	甕	—	5.9	<5.4>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	III区、IV区
15	土師器	壺	(15.9)	5.9	<15.6>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	II区
16	弥生土器	高坏	—	—	<5.7>	—	坏部ミガキ→赤彩、脚部ナデ	ミガキ→赤彩	完全実測	No9
17	弥生土器	甕	—	—	—	—	波状口縁、押捺隆帯	—	破片実測・拓本	II区
18	石製品	軽石製品	4.9	5.3	2.0	16.9	—	—	完全実測	No7
19	石器	磨・敲石	9.5	4.6	2.3	148.0	—	—	完全実測	No4

第49表 H29号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.3)	5.5	3.4	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8
2	土師器	坏	(12.4)	—	<3.3>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
3	土師器	坏	(14.2)	(10.8)	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	覆土
4	土師器	坏	(14.8)	—	<5.0>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土
5	土師器	坏	—	7.3	<1.8>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全実測	No16
6	土師器	坏	—	(14.9)	<4.7>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	No1
7	土師器	手捏土器	7.6	5.6	7.0	—	ナデ(ベンガラ残存)	ケズリ	完全実測	No6
8	灰釉陶器	碗	—	(7.2)	<1.9>	—	施釉	回転ヘラケズリ	回転実測	覆土

第50表 H29号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
9	土師器	鉢	20.1	18.9	6.1	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No4			
10	土師器	甕	(12.4)	—	<7.5>	—	ナデ	ハケメ→ケズリ	回転実測	覆土			
11	土師器	甕	13.2	5.0	10.7	—	ナデ→黒色処理	ケズリ	完全実測	No11			
12	土師器	甕	14.1	5.6	11.3	—	ナデ	ケズリ→焼成後穿孔	完全実測	No18			
13	土師器	甕	(20.4)	—	<9.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No5			
14	土師器	甕	20.5	6.6	38.0	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No13, No14, No15			
15	土師器	甕	—	(4.8)	<2.3>	—	ナデ	ナデ	回転実測・拓本	覆土			
16	土師器	甕	—	6.3	<6.1>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土			
17	土師器	甕	—	(7.0)	<5.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土			
18	土師器	壺	10.9	—	8.4	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No7			
19	土師器	甕	18.4	7.0	21.1	—	ケズリ→ミガキ	ケズリ	完全実測	No2			
20	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(R2) 縄文	—	破片実測・拓本	覆土			
21	縄文土器	甕	—	—	—	—	R(12) 燃糸、沈線文	—	破片実測・拓本	覆土			
22	土製品	紡錘車	<6.7>	<3.7>	<0.7>	—	ミガキ(一部赤彩)	ミガキ(一部赤彩)	完全実測	No11			
23	鉄製品	不明	<3.3>	<0.6>	<0.45>	<2.83>	—	—	完全実測	覆土			

第51表 H30号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	甕(東海系)	(14.9)	7.0	17.5	—	ナデ	ハケメ	完全実測	No2			
2	土師器	甕	(17.7)	—	<22.9>	—	ミガキ	ミガキ、ケズリ	完全実測	No6, No7			
3	土師器	甕	—	(8.2)	<11.5>	—	ナデ	ナデ	回転実測	No1			
4	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	叩目	破片実測・拓本	No3			
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部押捺、条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
14	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
15	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
16	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
17	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
18	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
19	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
20	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
21	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
22	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(R2) 縄文	—	破片実測・拓本	覆土			
23	弥生土器	甕(後期)	—	—	—	—	櫛描波状文	—	破片実測・拓本	覆土			
24	弥生土器	壺(中期)	—	—	—	—	刺突文、櫛描波状文	—	破片実測・拓本	No4			

第52表 H31号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.6	11.0	—	4.1	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No2	
2	土師器	坏	—	(5.4)	(3.1)	—	—	ロクロナデ	糸切	回転実測	カマド	
3	須恵器	坏	13.0	7.6	—	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切、重焼痕、自然釉付着	完全実測	覆土、H115カマド	
4	須恵器	坏	13.4	5.5	—	3.8	—	火漣	右回転糸切	回転実測	覆土	
5	土師器	甕	(24.0)	—	—	<12.6>	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	回転実測	カマド	
6	土師器	甕	—	9.6	<4.0>	—	—	ミガキ	ケズリ	完全実測	No1	
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	器面剥落	条痕文	破片実測・拓本	床	
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	床	
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	床	
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	床	
11	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、口唇部に沈線	破片実測・拓本	カマド	
12	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	ミガキ→赤彩、ハラ描沈線文	—	破片実測・拓本	覆土	
13	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	沈線文	—	破片実測・拓本	覆土	

第53表 H32号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	12.4	12.9	—	3.7	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No1、9	
2	土師器	坏	(12.6)	(13.6)	—	4.4	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No6	
3	土師器	坏	12.9	13.5	—	4.5	—	黒色処理	ケズリ	完全実測	カマド	
4	土師器	有段口縁坏	15.0	11.8	—	4.9	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No2、4	
5	土師器	坏	(15.6)	—	—	<3.6>	—	ミガキ→黒色処理	墨書「東」	回転実測	覆土	
6	土師器	碗	—	—	—	<2.2>	—	ロクロナデ	墨書「東」	回転実測	覆土	
7	土師器	碗	—	7.1	—	<2.2>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全実測	覆土	
8	土師器	高坏	—	—	—	<4.1>	—	ナデ	ハケメ、ケズリ	完全実測	覆土	
9	須恵器	坏	(13.0)	6.3	—	3.9	—	ロクロナデ	墨書「完」	完全実測	No8	
10	須恵器	坏蓋	10.8	—	—	3.9	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	完全実測	No3	
11	土師器	鉢	(13.0)	6.4	—	7.2	—	摩耗	—	完全実測	覆土	
12	土師器	鉢	—	<4.4>	<7.5>	—	—	ミガキ	ミガキ→ケズリ	回転実測	皿区	
13	土師器	甕	(14.2)	7.6	—	14.4	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No10	
14	土師器	甕	(17.9)	—	—	<33.3>	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全実測	No7	
15	土師器	甕	21.6	—	—	<18.4>	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全実測	No5、IV区、カマド	
16	土師器	甕	—	6.7	—	5.2	—	ナデ	ケズリ	完全実測	カマド	
17	土師器	甕	—	(7.0)	<9.0>	—	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No6	
18	土師器	壺	—	8.0	<3.0>	—	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No11	
19	土師器	甕	(12.9)	—	—	<8.5>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	完全実測	No12	
20	須恵器	甕	(22.2)	—	—	<7.0>	—	ケズリ→ミガキ	ナデ	完全実測	皿区、床	
21	須恵器	甕	56.6	—	—	<16.5>	—	ケズリ	平行叩目	回転実測、H94-27と同一個体	覆土	
22	須恵器	甕	—	(13.0)	<5.3>	—	—	ロクロナデ	平行叩目	回転実測	覆土	
23	須恵器	甕	—	—	—	<7.4>	—	ロクロナデ	平行叩目	回転実測	覆土	
24	須恵器	甕	—	—	—	<10.4>	—	ロクロナデ	平行叩目、波状文	回転実測	覆土	

第54表 H32号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
25	石器	凹石	14.0	10.5	6.4	695.0	凹径φ 2.5、凹深0.8		完全実測		II区
26	石器	磨石	7.2	6.9	3.8	220.0	正面、裏面に磨面		完全実測		II区
27	石器	磨石	9.5	6.9	6.8	320.0	正面、裏面に磨面		完全実測		南床
28	石器	磨・敲石	18.8	7.0	5.3	980.0	下部に敲打痕、全体滑らか		完全実測		南床

第55表 H33号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	12.8	—	5.3	—	暗文	ケズリ	完全実測		カマド
2	土師器	壺	(8.0)	—	<4.3>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測		覆土
3	土師器	壺	(18.2)	—	<6.9>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測		覆土
4	土師器	甗	(23.3)	—	<9.0>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測		覆土
5	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本		覆土
6	弥生土器	甗	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本		覆土
7	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本		覆土
8	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本		覆土
9	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本		覆土
10	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本		覆土
11	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本		覆土
12	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線文、H94-34と接合、H107-22も同一個体	—	破片実測・拓本		覆土
13	石器	PSSQ	2.1	1.8	0.5	2.1	黒曜石	—	完全実測		覆土
14	石器	編物石	14.2	7.1	4.0	560.0	—	—	完全実測		覆土

第56表 H34号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	ロクロナデ	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本		覆土
2	弥生土器	壺	—	—	—	—	ナデ	R(L2) 縄文、沈線文	破片実測		覆土

第57表 H35号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	—	(12.1)	<5.2>	—	暗文	ミガキ	回転実測		S区
2	土師器	甗	(20.4)	—	<12.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		S区
3	土師器	甗	—	(10.8)	<2.0>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測		覆土
4	土製品	紡錘車	5.0	2.3	2.8	57.0	ミガキ→黒色処理、孔φ 0.6	—	完全実測		No1

第 58 表 H36 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.2)	(7.5)	—	<4.0>	—	ミガキ、ケズリ	回転実測	No1	床
2	土師器	坏	(16.6)	(12.2)	—	<4.7>	—	ミガキ	回転実測	覆土	覆土
3	須恵器	坏蓋	(14.4)	—	—	<1.6>	—	ロクロナデ	回転実測	覆土	IV区
4	土師器	甗	(12.6)	(10.6)	—	<10.9>	—	ミガキ→黒色処理	回転実測	覆土	ペルト
5	土師器	甗	(24.0)	—	—	<7.7>	—	ケズリ	回転実測	覆土	覆土
6	土師器	甗	—	—	(6.0)	<34.2>	—	ハケメ	回転実測	覆土	No1、No2、IV区
7	土師器	壺	—	—	—	<8.4>	—	ナデ、ミガキ	回転実測	完全実測	ペルト
8	石器	磨・敲石	21.9	6.8	5.8	1460.0	—	両端部に敲打痕・磨面3(擦痕有り)	完全実測	完全実測	覆土

第 59 表 H37 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.3)	—	—	<4.8>	—	ミガキ	完全実測	No1	
2	土師器	坏	(14.0)	—	—	<4.9>	—	ケズリ	回転実測	覆土	
3	須恵器	坏	(12.0)	(13.9)	—	<4.4>	—	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、刻書	回転実測	覆土	
4	土師器	甗	—	—	—	<23.2>	—	ケズリ	回転実測	覆土、H115カマド、H117	
5	土師器	甗	(12.8)	(6.8)	—	<12.5>	—	ケズリ	回転実測	覆土、H115カマド	
6	土師器	武蔵甗	22.0	(6.0)	—	(28.8)	—	黒色処理	回転実測	カマド、H57-5、H106カマド	
7	土師器	甗	—	—	(6.7)	<5.8>	—	ナデ	回転実測	カマド、H57-6と同一個体	
8	土師器	甗	—	—	(7.3)	<5.6>	—	ナデ→ハケメ	回転実測	覆土	
9	土師器	甗	—	—	—	<11.0>	—	ナデ	回転実測	覆土	
10	土師器	壺	(16.1)	—	—	<3.2>	—	ナデ→ミガキ	回転実測	覆土	
11	土師器	壺	—	—	(7.4)	<5.1>	—	ハケメ	回転実測	No2	
12	須恵器	甗	—	—	—	<5.4>	—	ナデ	回転実測	カマド、H57-8	
13	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
14	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
15	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	覆土	
16	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
17	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
18	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
19	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
20	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
21	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
22	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
23	弥生土器	甗	—	—	—	—	—	Lr2) 鬚系単軸絡条体、横位沈線	破片実測・拓本	覆土	
24	石製品	白玉	1.0	1.15	0.5	0.78	—	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
25	石器	磨・敲石	9.6	8.9	6.3	800.0	—	全面に磨り	完全実測	覆土	

第60表 H38号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	(13.1)	—	<5.0>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	No6	
2	土師器	環	(14.8)	—	<4.3>	—	ミガキ→赤彩	ケズリ、外面剥離	回転実測	覆土	
3	土師器	環	(15.3)	—	<5.9>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	覆土	
4	土師器	環	—	—	<3.2>	—	黒色処理	墨書	破片実測	覆土	
5	土師器	高環(脚)	(20.8)	—	<5.7>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土	
6	土師器	高環(脚)	—	(14.0)	<7.1>	—	ケズリ	ミガキ	完全実測	No4	
7	須恵器	環	13.7	6.1	4.0	—	火襖	火襖、回転糸切	完全実測	No1、H124 II区	
8	土師器	鉢	(13.5)	—	<14.5>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	No7	
9	土師器	甕	(13.0)	—	<8.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
10	土師器	甕	(13.0)	—	<13.1>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No25、No27、No29、カマド	
11	土師器	甕	(14.3)	(7.3)	<11.8>	—	ナデ	ハケメ	完全実測	No10	
12	土師器	甕	(14.4)	(4.7)	(13.7)	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No8、No9	
13	土師器	壺	(6.9)	—	<14.0>	—	ケズリ、ミガキ	ミガキ	回転実測	No13	
14	土師器	壺	(15.7)	—	<11.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No5	
15	土師器	壺	(20.0)	—	<5.6>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
16	土師器	壺	—	(9.3)	<14.8>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No11	
17	土師器	甗	(30.2)	(8.5)	(27.7)	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	Y5床	
18	須恵器	甕	—	(7.2)	<6.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No12	
19	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	破片実測・拓本	床	
20	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	破片実測・拓本	覆土	
21	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	破片実測・拓本	覆土	
22	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	破片実測・拓本	床	
23	土製品	土偶	—	—	—	—	—	—	完全実測	覆土	
24	石器	編物石	17.9	6.1	3.7	680.0	—	—	完全実測	No17	
25	石器	磨・敲石	13.1	10.6	5.6	1063.0	—	—	完全実測	No16	

第61表 H39号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	高環	—	—	<7.4>	—	ケズリ	ミガキ	完全実測	S区	
2	土師器	甕	(21.8)	—	<14.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No2、H55床上	
3	土師器	甕	—	(6.2)	<8.8>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No1	
4	土師器	壺	(9.0)	—	<3.6>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	S区	

第62表 H40号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	13.1	13.0	4.2	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→赤彩	完全実測	No1	
2	土師器	環	(14.6)	—	<3.6>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土	
3	土師器	鉢	(16.2)	—	<7.1>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土	
4	土師器	甕	18.2	5.8	<32.4>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	覆土	

第 63 表 H40 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
5	土師器	壺	(21.2)	—	—	<26.0>	—	—	ハケメ→ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	ハケメ→ミガキ→赤彩	回転実測	No3
6	土師器	壺	—	—	5.5	<2.1>	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	完全実測	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	早期楕円押型文	—	—	破片実測・拓本	No2
8	石器	使用痕のある剥片	7.9	4.9	1.4	48.0	—	—	—	—	—	破片実測	覆土

第 64 表 H41 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	(10.4)	(7.2)	—	<2.5>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	回転実測	覆土
2	土師器	坏	(12.8)	—	—	<3.6>	—	ミガキ、ヘラ切り痕?	ケズリ、ミガキ	ケズリ	ケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	坏	(13.3)	(11.0)	—	<3.5>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	回転実測	覆土
4	土師器	壺	(22.7)	—	—	<8.5>	—	ハケメ	ハケメ、ミガキ	ハケメ、ミガキ	ハケメ、ミガキ	回転実測	覆土

第 65 表 H42 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	(8.9)	4.3	—	3.5	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	—	—	完全実測	I 区
2	土師器	杓状坏	12.3	5.1	—	3.2	—	ロクロナデ	回転糸切	—	—	完全実測	No1
3	土師器	坏	(12.7)	6.9	—	3.3	—	ロクロナデ	墨書、回転糸切	—	—	完全実測	覆土
4	土師器	甕	(18.9)	—	—	<10.9>	—	ナデ	ナデ	—	—	回転実測	II 区
5	土師器	甕	—	6.7	—	3.5	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全実測	II 区
6	土師器	甗	—	—	—	<2.2>	—	ハケメ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	破片実測	I 区
7	石器	台石	37.4	22.4	8.6	10000.0	—	砥面数 1	—	—	—	完全実測	覆土

第 66 表 H43 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	須恵器	有台坏	—	(10.0)	—	<1.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	II 区
2	土師器	甕	19.2	10.4	—	27.1	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No5
3	土師器	甕	(21.0)	4.8	—	35.9	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No4
4	土師器	甕	—	4.1	—	<6.5>	—	ナデ	ケズリ、木葉痕	ケズリ	ケズリ	完全実測・拓本	No5、I 区
5	土師器	甕	—	—	—	<14.8>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全実測	I 区、カマド
6	土師器	壺	(12.4)	—	—	<12.7>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No3
7	石器	打製石斧	12.8	7.4	2.7	335.0	—	—	—	—	—	完全実測	カマド
8	石製品	白玉	1.0	1.0	0.75	1.11	—	孔φ 0.3	—	—	—	完全実測	No1
9	石製品	白玉	1.0	1.15	0.8	1.08	—	孔φ 0.35	—	—	—	完全実測	No2

第67表 H44号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	有段口縁環	(12.0)	(9.8)	<4.9>	—	器面の荒れにより不明	ケズリ	回転実測	I区、H21W区	
2	土師器	環	(13.4)	(12.2)	<3.9>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	II区	
3	土師器	環	(13.6)	(12.0)	<3.0>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	I区	
4	土師器	有段口縁環	(14.0)	(11.4)	<4.6>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区	
5	土師器	有段口縁環	(14.0)	(12.0)	<5.1>	—	ナデ?	ミガキ→赤彩の文様	完全実測	I区、T34	
6	土師器	環	(14.0)	(12.8)	<4.1>	—	ミガキ	ケズリ	完全実測	III区	
7	土師器	有段口縁環	(14.6)	(11.8)	<3.9>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	I区、IV区、SNベルト	
8	土師器	有段口縁環	(14.7)	(12.2)	<3.5>	—	器面の荒れにより不明	ケズリ	回転実測	No2、II区	
9	土師器	環	(15.0)	(14.2)	<4.7>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ、ミガキ→黒色処理	回転実測	床	
10	土師器	環	(15.2)	(14.4)	<4.4>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	II区、I5	
11	土師器	環	(15.3)	(13.3)	<3.3>	—	ミガキ	ケズリ、ミガキ	回転実測	III区	
12	土師器	環	(15.4)	(15.4)	<4.4>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	SNベルト	
13	土師器	環	(16.8)	(9.0)	<3.8>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全実測	III区	
14	土師器	環	(17.9)	(14.8)	<6.7>	—	ミガキ→放射状暗文	ミガキ	完全実測	床、H21No5	
15	土師器	環	(19.0)	(14.2)	<4.1>	—	ミガキ	ケズリ	完全実測	No21	
16	土師器	環	—	(6.0)	<2.5>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	床	
17	土師器	環	—	—	—	—	ナデ	ケズリ	破片実測	III区	
18	土師器	碗	—	(8.0)	<3.7>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	床	
19	土師器	高環	—	14.4	<16.9>	—	坏部ミガキ→黒色処理、脚部ケズリ、ナデ	ミガキ	完全実測	No23～25、床、焼土	
20	土師器	高環	—	—	<5.0>	—	ナデ	ミガキ	回転実測	IV区、H63 I区	
21	土師器	高環	—	—	<8.8>	—	坏部ミガキ→黒色処理、脚部ナデ	ミガキ	完全実測	No3	
22	須恵器	環	(15.0)	(9.6)	<4.1>	—	坏部ミガキ→黒色処理、脚部ナデ	ミガキ	回転実測	I区	
23	土師器	甕	(7.2)	(8.0)	<4.9>	—	ロクロナデ、火燻	切り離し→ケズリ、火燻	回転実測	I区	
24	土師器	甕	(23.0)	—	<5.4>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	III区	
25	土師器	甕	—	(8.4)	<3.3>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	III区	
26	土師器	甕	—	(8.6)	<5.4>	—	ナデ	ケズリ、ミガキ	完全実測	No12、H63床	
27	土師器	壺	(15.6)	—	<5.2>	—	ナデ	ケズリ、ミガキ	回転実測	II区、SNベルト	
28	土師器	甕	—	(7.0)	<2.3>	—	ナデ	ナデ	回転実測	SNベルト	
29	土師器	甕	(17.8)	—	<13.1>	—	ナデ	ケズリ、ナデ	完全実測	No6	
30	須恵器	甕	9.8	—	<9.8>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ、孔φ2.8	完全実測	No7、No9、II区	
31	須恵器	甕	—	—	<6.0>	—	ナデ	ヘラ描沈線、下半部回転ヘラケズリ	完全実測	IV区、H63 I区	
32	土製品	土器片円盤	3.8	3.9	0.7	11.0	ミガキ	頸部ヘラ描沈線	回転実測	IV区	
33	土製品	土器片円盤	4.1	4.0	1.3	18.0	ナデ	ナデ	完全実測	I区	
34	土製品	土器片円盤	4.3	4.2	1.0	23.0	ハケメ	ナデ	完全実測	覆土	
35	土製品	土器片円盤	6.6	6.8	0.8	35.0	黒色処理	ハケメ	完全実測	No11	
36	土製品	丸玉	1.8	1.9	1.9	5.34	孔φ0.3～0.5、黒色処理	ケズリ、外面と側面に磨滅痕	完全実測	I区	
37	石器	台石	17.0	13.2	5.3	1072.0	正面が使用面、擦痕あり	ナデ	完全実測	覆土	
38	石製品	白玉	<0.7>	0.8	<0.55>	<0.47>	孔φ0.3、一部欠損	ナデ	完全実測	No14	
39	石製品	白玉	<0.8>	0.8	<0.5>	<0.55>	孔φ0.3、一部欠損	ナデ	完全実測	カマド	
40	石器	編物石	14.3	6.6	3.9	420.0	端部に使用痕	ケズリ、外面と側面に磨滅痕	完全実測	カマド	
41	石器	磨・敲石	5.0	3.9	2.6	64.3	正裏に擦面、端部に敲打痕	ケズリ、外面と側面に磨滅痕	完全実測	I区	

第 68 表 H44 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
42	石器	磨石	<9.3>	<5.5>	<2.3>	<125.3>	裏面欠損、正面に磨面			完全実測	IV区	
43	石器	磨石	9.9	9.3	4.9	680.0	全体に磨り			完全実測	No15	
44	石製品	石材	7.0	4.9	1.1	66.0				完全実測	II区	

第 69 表 H45 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	12.4	6.6	4.6	—	ミガキ→暗文→黒色処理	ケズリ	完全実測	No9		
2	土師器	坏	12.9	6.1	3.9	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No12		
3	土師器	坏	(13.2)	—	<3.8>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ、墨書	回転実測	床		
4	土師器	坏	14.4	6.9	5.3	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No5		
5	土師器	坏	—	(5.4)	<2.0>	—	暗文→黒色処理	底部～周縁ケズリ、墨書	回転実測	床		
6	土師器	坏	—	—	<4.1>	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	床		
7	須恵器	坏	(12.0)	—	<4.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	床		
8	土師器	碗	—	(7.0)	<4.3>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	回転実測	床		
9	土師器	碗	—	(7.2)	<4.3>	—	ミガキ→黒色処理	付高台→黒色処理	回転実測	No16、床		
10	土師器	碗	—	7.6	<1.7>	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台	完全実測	No10		
11	土師器	甗	21.0	—	<10.5>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No3、No4、II区、カマド		
12	土師器	甗	21.9	—	<20.9>	—	ナデ	ケズリ、付着物有	完全実測	No15、床		
13	土師器	甗	(22.6)	—	<28.5>	—	ナデ	ケズリ、付着物有	完全実測	No8		
14	土師器	甗	26.1	—	32.9	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No14、No16、No17、床、H86		
15	土師器	甗	—	—	<20.3>	—	ナデ	ケズリ、付着物有	回転実測	No1、No2、カマド、H83 I区		
16	須恵器	甗	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	No10		
17	土製品	勾玉	2.7	1.0	1.0	4.1	孔φ0.25		完全実測	No11		
18	石器	凹石	12.0	7.0	4.5	300.0	凹φ2.5～3.9、正裏に凹		完全実測	床		
19	石器	編物石	12.6	5.8	2.7	22.5	両側に使用痕		完全実測	床		
20	鉄器	長頸鎌	<7.1>	<0.9>	<0.4>	<5.4>	鎌身部欠損、棘状関		完全実測	覆土		

第 70 表 H46 号竪穴建物出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	須恵器	坏	(14.0)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測		カマド	
2	須恵器	坏	8.4	<1.8>	—	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り、底部に刻書	完全実測・拓本	No2		
3	須恵器	坏	(14.4)	—	<3.5>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測		覆土	
4	須恵器	坏	(14.6)	(7.4)	5.2	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測		No6、カマド	
5	土師器	甗	(14.4)	—	<8.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		覆土	
6	土師器	武蔵甗	(21.4)	(6.6)	<31.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		P1	
7	土師器	武蔵甗	(22.0)	—	<12.4>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		No3	
8	土師器	武蔵甗	(22.6)	—	<4.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		カマド	
9	土師器	武蔵甗	(24.0)	—	<5.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		覆土	
10	土師器	武蔵甗	—	5.6	<8.2>	—	ナデ	ケズリ	完全実測		覆土	

第71表 H46号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
11	須恵器	甃	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目		破片実測	覆土
12	石製品	搦臼	18.0	18.9	<8.8>	2.95	孔φ 12.1、二次加工、裏面凹×3				完全実測	No1

第72表 H47号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	14.3	—	5.5	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ		完全実測	No15	
2	土師器	坏	—	(7.0)	<1.0>	—	ナデ	ケズリ、刻書		回転実測	覆土	
3	土師器	高坏	(12.6)	—	<4.4>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ		完全実測	No16、カマド、SNベルト	
4	須恵器	坏	10.1	6.0	3.6	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り→底部周縁ケズリ		完全実測	No12	
5	土師器	鉢	—	—	<3.6>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ		完全実測	No11、No14	
6	土師器	甃	(20.5)	—	<27.8>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ		回転実測	No4、No14、No19、II区、カマド、SNベルト	
7	土師器	甃	(21.2)	—	<13.0>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	I区、II区、SNベルト	
8	土師器	甃	22.1	—	<20.7>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	No25、カマド	
9	土師器	甃	(22.4)	—	<15.0>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	II区、III区、カマド、EWベルト	
10	土師器	甃	23.5	—	<33.6>	—	ナデ	ケズリ		完全実測	No6、I区、床	
11	土師器	甃	—	(5.4)	<29.6>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	No7、II区、カマド	
12	土師器	甃	—	—	<12.1>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	カマド	
13	土師器	甃	—	—	<19.0>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	I区、SN、EWベルト	
14	土師器	壺	(18.0)	—	<17.5>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ		回転実測	No2、III区、SNベルト	
15	土師器	甃	(22.2)	—	<7.4>	—	ミガキ、ナデ	ミガキ		回転実測	No10	
16	土師器	甃	—	(11.8)	<19.5>	—	ハケメ→ミガキ	ハケメ		回転実測	カマド、SNベルト	
17	須恵器	甃	—	—	<12.0>	—	ナデ	平行叩目		回転実測	No9	
18	石器	磨石	<8.8>	<4.0>	<1.1>	<59.0>	裏面欠損、正面に磨面			完全実測	II区	

第73表 H48号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.2)	(12.4)	<4.0>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	IV区、床	
2	土師器	坏	(14.2)	(12.8)	4.8	—	ナデ	ケズリ		回転実測	No5	
3	土師器	坏	(14.8)	(10.0)	4.0	—	ミガキ	ミガキ、ケズリ		回転実測	III区	
4	土師器	坏	(15.0)	(12.6)	4.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ、ミガキ		回転実測	I区、IV区、V区、床	
5	土師器	坏	(15.0)	(12.6)	4.3	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ、ケズリ		回転実測	トレンチWE、III区	
6	土師器	坏	(15.6)	(8.8)	<3.2>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ、ケズリ		回転実測	トレンチWE、IV区	
7	土師器	坏	16.0	9.4	4.4	—	ミガキ	ミガキ		完全実測	No8、No9、III区、床	
8	土師器	坏	(16.8)	(10.8)	3.8	—	磨耗	ミガキ、ケズリ		回転実測	III区	
9	土師器	ミニチュア土器	2.5	4.0	2.4	—	ナデ	ナデ		完全実測	No11	
10	土師器	鉢	17.3	13.9	9.1	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ、ミガキ		完全実測	No3、No4、床	

第74表 H48号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
11	土師器	鉢	(19.8)	(17.2)	(9.8)	<6.2>	-	ケズリ、ミガキ	回転実測	トレンチWE、Ⅲ区	
12	土師器	甃	(14.0)	-	-	<6.5>	-	ケズリ	回転実測	Ⅳ区	
13	土師器	甃	(14.0)	5.3	-	10.7	-	ケズリ	完全実測	No6、No7	
14	土師器	甃	(17.4)	-	-	<12.0>	-	ケズリ	回転実測	I区、II区、床、トレンチNS、SNベルト	
15	土師器	壺	-	(5.0)	(13.6)	<12.6>	-	ケズリ	回転実測	I区、Ⅳ区	
16	土師器	甌	-	(13.6)	-	<26.4>	-	ケズリ、把手貼付	回転実測	Ⅲ、Ⅳ区、床、トレンチWE	
17	縄文土器	把手	-	-	-	-	-	沈線、縄文、後期	破片実測	覆土	

第75表 H49号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	(14.8)	(9.8)	-	<3.8>	-	ケズリ	回転実測	No12	
2	須恵器	環	(13.0)	7.0	-	<4.1>	-	静止糸切	回転実測	Ⅲ区	
3	須恵器	環	13.4	-	-	<2.5>	-	ケズリ	回転実測	カマド	
4	須恵器	環	(14.4)	6.9	4.1	-	-	回転ヘラ切り、刻書	完全実測・拓本	No7	
5	須恵器	環	14.5	7.5	4.1	-	-	回転糸切	完全実測	No3	
6	須恵器	環	-	(6.0)	-	<2.8>	-	回転ヘラ切り	回転実測	Ⅲ区、EWベルト	
7	須恵器	環	(12.0)	-	-	<4.2>	-	ロクロナデ	回転実測	床	
8	須恵器	有台環	-	8.8	-	<5.2>	-	墨書	回転実測	No3	
9	土師器	武蔵甃	(21.4)	-	-	<21.3>	-	ケズリ	回転実測	No5、Ⅱ区	
10	土師器	甃	8.8	-	-	<3.5>	-	ミガキ	完全実測	覆土	
11	須恵器	甃	(21.4)	-	-	<6.3>	-	ロクロナデ	回転実測	No6	
12	須恵器	甃	-	-	-	<20.7>	-	叩目	完全実測	No1、Ⅲ区、Ⅱ区、カマド	
13	須恵器	甃	-	-	-	-	-	櫛描波状文	破片実測・拓本	Ⅲ区	
14	須恵器	甃	-	-	-	-	-	叩目	破片実測・拓本	Ⅳ区	
15	須恵器	甃	-	-	-	-	-	叩目	破片実測・拓本	Ⅰ区	
16	土製品	土器片円盤	3.7	3.1	0.4	5.3	-	ケズリ	完全実測	Ⅱ区	
17	鉄器	刀子	<5.1>	<0.8>	<0.3>	<3.56>	両端欠損		完全実測	Ⅳ区	
18	鉄器	刀子	<3.2>	<1.1>	<0.4>	<3.80>	両端欠損		完全実測	Ⅰ区	
19	鉄器	長頸鏃	<3.7>	<0.7>	<0.25>	<1.89>	鏃身部のみ残存(他に同一個体3点あり)		完全実測	No2	

第76表 H50号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	(15.6)	(10.0)	4.6	-	暗文(放射+螺旋)	ケズリ	回転実測	床、カマド、Y7サブトレ	
2	土師器	環	15.6	7.1	5.4	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ、ケズリ	完全実測	覆土	
3	土師器	環	(17.0)	-	<2.8>	-	放射暗文	ケズリ	回転実測	床	
4	須恵器	環	(14.4)	(8.6)	4.0	-	ナデ	回転ヘラ切り	回転実測	床、カマド	
5	須恵器	有台環	-	(12.2)	<3.2>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	覆土	
6	須恵器	坏蓋	(14.4)	-	1.7	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→つまみ貼付	回転実測	覆土	
7	土師器	小型甃	(9.4)	-	<3.8>	-	ナデ	体部ケズリ	回転実測	カマド	

第77表 H50号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
8	土師器	小型甕	(9.6)	—	<4.7>	—	ナデ	ナデ	回転実測	カマド	
9	土師器	ロクロ甕	(17.4)	—	<6.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
10	土師器	武蔵甕	(22.6)	—	<16.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
								(4.5)	完全実測	覆土	
11	土師器	甕	(32.0)	—	<7.0>	—	ナデ	ミガキ	回転実測	覆土	
12	土師器	壺	(24.5)	—	<13.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
13	須恵器	甕	—	—	—	—	—	叩目	破片実測・拓本	覆土	
14	石器	砥石	9.6	5.0	3.5	257.5	砥面数6、正面、右側、裏面に条痕	—	完全実測	覆土	
15	石器	敲石	19.5	9.3	6.0	1691.0	端部に敲打痕、全体に滑らか(磨りか不明)	—	完全実測	覆土	
16	石器	剥片	3.6	2.0	0.9	4.7	加工痕、使用痕なし	—	完全実測	覆土	

第78表 H51号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	畿内系暗文坏	(15.0)	(13.6)	<4.8>	—	放射+螺旋暗文	ケズリ	回転実測	No2	
2	土師器	畿内系暗文坏	(16.0)	(10.0)	<4.7>	—	放射+螺旋暗文	ケズリ	回転実測	No4、I区床	
3	土師器	坏	(18.0)	(5.6)	<5.4>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	No5、カマド、EWベルト	
4	須恵器	坏	12.9	7.8	3.0	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全実測	No10	
5	須恵器	坏	(14.0)	7.7	<5.0>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ケズリ	完全実測	SNベルト、H8 III区	
6	土師器	武蔵甕	(15.4)	—	<8.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区床、カマド	
7	土師器	武蔵甕	(24.4)	—	<10.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No1、I区、カマド	
8	土師器	壺	—	(7.8)	<11.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No3、No12、II区、カマド	
9	須恵器	甕	—	(12.6)	<5.0>	—	ナデ	叩目	回転実測	No8	
10	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	襷描破状文	破片実測・拓本	カマド	
11	須恵器	壺	—	—	<4.0>	—	ナデ	頸部ヘラ描直線文	回転実測	SNベルト	
12	鉄器	刀子	(4.5)	(1.0)	<0.4>	<5.13>	両端欠損	—	完全実測	I区	

第79表 H52号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(13.6)	(5.4)	(4.6)	—	ロクロナデ	回転糸切り	回転実測	No1	
2	土師器	坏蓋	(7.0)	—	<2.3>	—	ナデ	ナデ	回転実測	I区	
3	須恵器	坏	(13.4)	(8.0)	5.0	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	I区、II区	
4	須恵器	坏	13.6	9.2	3.6	—	火礫	ヘラケズリ、火礫	完全実測	No5	
5	須恵器	坏	14.2	7.4	3.7	—	火礫	底部～周縁ヘラケズリ、火礫	完全実測	No9	
6	須恵器	坏	(14.4)	(8.0)	4.4	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	No3	
7	須恵器	有台坏	13.8	9.3	4.5	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	No4	
8	土師器	甕	(18.2)	—	<4.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	床	
9	土師器	甕	(20.4)	—	<7.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区、床	
10	土師器	甕	(22.0)	—	<8.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No2、III区、IV区、床	
11	土師器	甕	(22.0)	—	<10.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	床、カマド	

第80表 H52号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
12	土師器	甕	(23.0)	-	<7.1>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	IV区			
13	土師器	甕	-	(4.0)	<4.8>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	IV区			
14	土師器	甕	-	4.9	<2.6>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	床			
15	須恵器	甕	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	カマド			
16	土製品	土器片円盤	3.6	3.9	1.0	16.0	ナデ	ヘラミガキ?	完全実測	カマド			
17	土製品	丸玉	0.9	0.8	0.8	<0.53>	孔φ 0.1、一部欠損、ナデ		完全実測	No13			
18	土製品	丸玉	0.9	0.85	<0.7>	<0.59>	孔φ 0.1、一部欠損、ナデ		完全実測	No11			
19	石製品	砥石	<4.3>	<2.0>	<1.7>	<18.29>	上部欠損、砥面5、上部に一周する条痕(切断のため?)、正面に円形の使用痕		完全実測	ベルト			

第81表 H53号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	(12.2)	-	(3.0)	-	放射状暗文	回転糸切	回転実測	Ⅲ区			
2	土師器	有段口縁坏	(14.2)	(11.2)	<4.6>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土			
3	須恵器	坏	(13.2)	(7.8)	3.5	-	火礫	火礫、ヘラ切り	回転実測	No2			
4	須恵器	坏	(13.4)	5.2	3.6	-	ロクロナデ	回転糸切、底部~周縁ヘラケズリ	完全実測	No4			
5	須恵器	有台坏	(13.6)	(9.2)	3.9	-	ロクロナデ	ヘラケズリ→付高台	回転実測	No5			
6	土師器	武蔵甕	(14.6)	-	<6.1>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド			
7	土師器	武蔵甕	(26.4)	-	<18.9>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅱ区、Ⅳ区			
8	土師器	武蔵甕	-	(5.2)	<4.2>	-	ナデ	ナデ	回転実測	カマド			
9	須恵器	甕	(24.0)	-	<6.5>	-	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅳ区			
10	須恵器	甕	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	No3			
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	沈線、縄文		破片実測・拓本	Ⅲ区			
12	鉄器	刀子	<6.5>	<1.1>	<0.3>	<4.99>	両端欠損		完全実測	Ⅰ区			

第82表 H54号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	(10.8)	(7.6)	3.1	-	暗文(放射+螺旋)	ケズリ	回転実測	Ⅱ区			
2	土師器	坏	(14.6)	(10.2)	4.1	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土			
3	土師器	坏	(14.6)	-	<4.4>	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	N区、床			
4	土師器	坏	-	-	-	-	ロクロナデ	墨書	破片実測	床			
5	須恵器	坏	(12.8)	(8.6)	4.7	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	N区			
6	須恵器	坏	(13.0)	(6.8)	4.4	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ヘラケズリ	回転実測	床			
7	須恵器	坏	(13.0)	(8.0)	<3.7>	-	火礫	回転ヘラ切り、火礫	回転実測	カマド			
8	須恵器	坏	(13.6)	7.5	4.3	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ケズリ	完全実測	S区			
9	須恵器	坏	(14.4)	(8.4)	3.9	-	火礫	ヘラケズリ、火礫	回転実測	Ⅱ区			
10	須恵器	坏	(15.0)	(6.6)	3.9	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	床			
11	須恵器	坏	-	(6.8)	<4.2>	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	床			
12	須恵器	坏	-	(8.0)	<2.4>	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り→付高台	回転実測	N区、S区			
13	須恵器	有台坏	(9.6)	(6.0)	3.4	-	ロクロナデ	付高台	回転実測	床			

第83表 H54号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
14	須恵器	有台环	(10.2)	(7.0)	5.1	-	ロクロナデ	付高台、自然釉	回転実測	床		
15	須恵器	有台环	(14.6)	(10.0)	3.9	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り→付高台	回転実測	S区		
16	須恵器	环蓋	(12.0)	(6.0)	2.8	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→つまみ貼付	回転実測	II区		
17	須恵器	环蓋	(14.6)	-	<2.5>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	床		
18	須恵器	环蓋	(15.4)	-	<3.1>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	床、S区、床		
19	土師器	甕	(13.2)	-	<5.6>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	床		
20	土師器	甕	(13.8)	-	<4.1>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	N区		
21	土師器	武蔵甕	(15.0)	-	<4.7>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	N区、床		
22	土師器	ロクロ甕	(17.8)	-	<8.8>	-	ロクロナデ	底部〜周縁ヘラケズリ	回転実測	床		
23	土師器	甕	(18.0)	-	<9.7>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド		
24	土師器	甕	(21.0)	-	<11.3>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No3、II区、床		
25	土師器	甕	(21.2)	-	<16.7>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No3、床		
26	土師器	甕	(23.1)	-	<30.3>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	N区、S区、H109		
27	土師器	甕	(24.0)	-	<8.5>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No15、カマド		
28	須恵器	甕	(25.4)	-	<12.1>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No2、No4、No10		
29	須恵器	甕	(25.6)	-	<6.2>	-	当具痕→ナデ	平行叩目	回転実測	No7、II区、床		
30	須恵器	甕	(27.0)	-	<6.6>	-	ロクロナデ	ハケメ	回転実測	No2		
31	須恵器	甕	(27.6)	-	<11.7>	-	同心円文当具痕	平行叩目	回転実測	No2、S区、床		
32	須恵器	甕	-	(10.0)	<6.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	S区		
33	須恵器	甕	(26.6)	-	<6.8>	-	ナデ	ナデ	回転実測	N区		
34	弥生土器	壺	-	-	-	-	沈緑文、条痕文、赤彩	破片実測・拓本	破片実測	N区		
35	弥生土器	甕	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	破片実測	II区		
36	弥生土器	甕	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	破片実測	床		
37	石製品	砥石	<7.8>	<5.3>	<4.5>	<235.5>	上部欠損、砥面数5、正面に種状の使用痕、右側に条痕顯著	完全実測	完全実測	覆土		
38	石器	PSSQ	3.3	2.7	1.6	7.1	両端からの剥離痕	完全実測	完全実測	II区		
39	石器	二次加工のある剥片	<2.4>	<1.9>	<0.5>	<2.1>	両端からの剥離痕	完全実測	完全実測	S区		
40	鉄器	刀子	<4.4>	<1.3>	<0.4>	<6.8>	刃部のみ残存	完全実測	完全実測	N区		
41	鉄器	刀子	<6.2>	<1.1>	<0.4>	<5.6>	両端欠損	完全実測	完全実測	床		
42	鉄器	長頸鎌	<10.5>	<0.8>	<0.5>	<11.3>	基部欠損	完全実測	完全実測	床		
43	鉄製品	不明	<9.0>	<0.8>	<0.5>	<12.6>	両端欠損、折れ曲がる	完全実測	完全実測	N区		

第84表 H55号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	环	(11.8)	6.2	3.6	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	I区		
2	土師器	环	(11.8)	(6.5)	4.9	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I区		
3	土師器	环	(12.0)	-	<3.2>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区		
4	土師器	环	(12.4)	6.4	3.8	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	I区		
5	土師器	环	-	5.9	<2.2>	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	I区		
6	土師器	环	-	6.2	<3.2>	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	I区		
7	須恵器	环	(14.5)	(8.6)	<4.5>	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	III区		
8	須恵器	环	(14.6)	(8.4)	<4.0>	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	No3		

第85表 H 55号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
9	須恵器	坏	—	(6.0)	—	<2.2>	—	黒色処理	回転ヘラ切り、刻書	回転実測	II区		
10	須恵器	坏	—	(7.6)	—	<1.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り、刻書	完全実測	No4		
11	須恵器	坏	—	7.7	—	<1.3>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	完全実測	II区		
12	須恵器	坏	—	8.0	—	<2.0>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	完全実測	II区、H39S側		
13	須恵器	坏	—	9.2	—	<1.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	完全実測	I区		
14	須恵器	有台坏	(16.9)	(10.6)	—	6.4	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	No1		
15	須恵器	坏蓋	—	—	—	<3.2>	—	転用碗?	天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	カマド		
16	土師器	武蔵甕	(10.7)	—	—	<4.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No2		
17	土師器	武蔵甕	(13.0)	—	—	<4.9>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	I区		
18	土師器	武蔵甕	(25.0)	—	—	<7.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、床、カマド		
19	土師器	甕	(35.4)	—	—	<12.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	IV区		
20	須恵器	甕	(36.4)	—	—	<7.1>	—	ロクロナデ	平行叩目	回転実測	IV区		
21	右製品	砥石	<13.3>	<6.1>	—	3.1	<461.0>	砥面2、正面には線上の擦痕。		完全実測	覆土		

第86表 H56号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
1	須恵器	坏	—	(7.4)	—	<1.4>	—	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	覆土		
2	土師器	武蔵甕	(20.0)	—	—	<5.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土		

第87表 H57号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
1	土師器	坏	(7.0)	(4.8)	—	<3.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土		
2	土師器	畿内系暗文坏	13.7	9.1	—	3.4	—	放射暗文	ケズリ	回転実測	II区		
3	土師器	坏	(14.2)	—	—	<4.5>	—	黒色処理	ミガキ、ケズリ	回転実測	覆土		
4	須恵器	坏	(13.4)	9.4	—	(4.4)	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土		
5	土師器	甕	(12.8)	(6.8)	—	(12.1)	—	黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	No1、カマド、H106カマド、H37-5同一個体、カマド一括		
6	土師器	武蔵甕	22.0	(6.0)	—	(28.8)	—	ナデ	ケズリ	回転実測	床、H37-6同一個体、カマド一括		
7	土師器	武蔵甕	22.0	—	—	<6.4>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	床、H106カマド		
8	須恵器	甕	—	—	—	<5.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド一括、H37-12同一個体		
9	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	II区		

第88表 H58号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
1	土師器	坏	(13.0)	(5.6)	—	3.6	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	床		
2	土師器	坏	(15.4)	(10.2)	—	<3.7>	—	ミガキ	ケズリ、ミガキ	回転実測	床、H54床		
3	土師器	坏	—	(10.3)	—	<1.8>	—	黒色処理	ミガキ、赤彩?	回転実測	床		
4	須恵器	甕	—	(5.8)	—	<4.6>	—	ナデ	ナデ	回転実測	床		
5	土師器	壺	—	—	—	<2.4>	—	ナデ	ケズリ→ナデ	回転実測	床		

第89表 H59号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	環	(13.8)	(6.8)	5.0	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド一括		
2	土師器	環	(15.3)	9.3	4.9	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No5		
3	土師器	環	—	(6.2)	<1.3>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転実測	カマド一括		
4	土師器	環	—	(6.4)	<2.2>	—	ナデ	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	II区		
5	土師器	環	—	(7.4)	<1.4>	—	暗文→黒色処理	回転糸切、墨書	回転実測	II区		
6	土師器	高環	—	(8.4)	<1.9>	—	ナデ	ナデ	回転実測	III区		
7	須恵器	環	12.7	5.7	4.2	—	火瘻	底部～周縁ヘラケズリ、火瘻	完全実測	No1		
8	須恵器	環	(14.0)	—	<2.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	II、III区		
9	須恵器	環	—	(6.8)	<2.5>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	III区		
10	土師器	武蔵甕	(23.8)	—	<8.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I、II区		
11	土師器	武蔵甕	(24.6)	—	<10.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、II区、カマド一括		
12	土師器	武蔵甕	(24.8)	—	<5.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No6、III区		
13	土師器	武蔵甕	(25.2)	—	<12.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区		
14	須恵器	甕	—	(10.8)	<8.3>	—	当具痕→ナデ	平行叩目	回転実測	III区		
15	石製品	砥石	3.8	3.2	1.8	34.7	砥面数4、両側に条痕、上端部から正面に穿孔(一部欠損)、下端部に折り取り状の条痕		完全実測	No3		
16	石製品	軽石製品	7.3	5.7	3.1	81.4	全体に磨り、正面に条痕		完全実測	覆土		
17	鉄製品	角軸?	13.2	0.5	0.5	12.1	欠損状況不明		完全実測	No4		

第90表 H60号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	畿内系暗文環	(12.8)	(7.6)	3.7	—	暗文(放射+螺旋)	ケズリ	回転実測	No7		
2	須恵器	環	(13.9)	6.5	4.4	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	完全実測	II区		
3	須恵器	環	(14.4)	(8.0)	3.8	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	III区		
4	土師器	鉢	(13.2)	—	<7.0>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	II区		
5	土師器	武蔵甕	(22.2)	—	<11.6>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No2、No4、IV区		
6	土師器	武蔵甕	22.3	—	<28.5>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No6、I区、2区		
7	土師器	武蔵甕	(22.6)	—	<6.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、床上、NSベルト、EWベルト		
8	土師器	武蔵甕	22.7	—	<9.7>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	I区、III区、IV区、NSベルト		
9	土師器	武蔵甕	(23.4)	—	<14.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No3、IV区		
10	土師器	武蔵甕	(26.0)	—	<15.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、III区、床上、ベルト		
11	須恵器	甕	(18.6)	—	7.7	—	ハケメ	ハケメ	回転実測	I区、EWベルト		
12	須恵器	甕	—	—	—	—	同心円当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	No5		
13	石器	編物石	11.4	5.8	3.8	313.0	両側に折り状の使用痕		完全実測	床		
14	石器	編物石	12.6	4.4	3.1	244.0	片側に折り		完全実測	床		
15	鉄器	刀子	<8.9>	1.2	<0.25>	<8.76>	両端欠損		完全実測	No1		

第91表 H61号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	北武蔵型環	(14.0)	(13.0)	<3.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測		IV区	
2	土師器	畿内系暗文環	14.5	8.5	4.3	—	暗文(放射+螺旋)	ケズリ	完全実測		I区	

第92表 H61号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
3	土師器	畿内系暗文坏	(16.0)	(15.2)	(15.2)	(3.1)	-	螺旋暗文	ケズリ	ケズリ	回転実測	II区、IV区	
4	土師器	畿内系暗文坏	(16.0)	-	-	<5.7>	-	ミガキ	ナデ	ナデ	回転実測	II区	
5	土師器	畿内系暗文坏	-	9.3	9.3	<2.4>	-	螺旋暗文	ケズリ	ケズリ	完全実測	II区	
6	須恵器	坏	(13.4)	(7.4)	(7.4)	4.2	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転ヘラ切り	回転実測	III区	
7	須恵器	坏	(13.6)	(8.8)	(8.8)	4.2	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転ヘラ切り	回転実測	III区	
8	須恵器	坏	(14.8)	7.9	7.9	5.6	-	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転ヘラ切り	完全実測	IV区	
9	土師器	ロクロ口甕	-	(4.8)	(4.8)	<9.5>	-	ナデ	底部~周縁ケズリ	底部~周縁ケズリ	回転実測	I区、III区	
10	土師器	武蔵甕	-	(5.6)	(5.6)	<2.7>	-	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	IV区	
11	土師器	武蔵甕	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	破片実測	覆土	
12	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	平行叩目	破片実測・拓本	I区	
13	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	平行叩目	破片実測・拓本	No2	
14	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	平行叩目	破片実測・拓本	No3	
15	須恵器	横瓶	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	平行叩目	回転実測・拓本	No1	
16	石器	砥石	<9.1>	<4.2>	<4.2>	<3.1>	<178.0>	上部欠損、砥面4、正面に条痕、正裏と下側面に敲打			完全実測	No7	
17	石器	台石	41.4	23.9	23.9	17.3	22600.0	正面が使用面、擦痕あり			完全実測	No8	
18	鉄器	刀子	<8.1>	1.2	1.2	0.4	<5.61>	刃部欠損			完全実測	No6	

第93表 H62号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	-	-	-	-	-	放射暗文	ケズリ	ケズリ	破片実測・拓本	I区	
2	土師器	坏	14.3	10.2	10.2	4.3	-	ナデ	回転ヘラケズリ、刻書「×」	回転ヘラケズリ、刻書「×」	完全実測・拓本	No2、II区	
3	須恵器	坏	(15.6)	-	-	<3.6>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	III区	
4	須恵器	坏蓋	(18.6)	-	-	<3.6>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	III区	
5	土師器	武蔵甕	(12.8)	6.8	6.8	<14.4>	-	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	I区、カマド	
6	土師器	武蔵甕	(19.6)	-	-	<8.5>	-	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No5、No7、カマド	
7	土師器	武蔵甕	-	6.1	6.1	<11.4>	-	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	No1	
8	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	平行叩目	破片実測・拓本	I区	
9	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕文、刻目			破片実測・拓本	EWヘルト	
10	石器	砥石	<9.3>	<8.4>	<8.4>	<3.1>	<331.0>	上部欠損、砥面4、左側に条痕			完全実測	No3	
11	鉄器	刀子	<4.4>	<0.95>	<0.95>	<0.3>	<2.4>	両端欠損			完全実測	No4	

第94表 H63号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.8)	(12.0)	(12.0)	<3.5>	-	ミガキ	ケズリ	ケズリ	回転実測	SNヘルト	
2	土師器	有段口縁坏	(14.2)	(11.2)	(11.2)	<4.0>	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転実測	I区、H44 IV区	
3	土師器	有段口縁坏	(14.4)	(13.0)	(13.0)	<3.6>	-	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転実測	覆土、H44 III区	
4	土師器	畿内系暗文坏	-	(7.9)	(7.9)	<1.3>	-	螺旋状暗文	底部~周縁ヘラケズリ	底部~周縁ヘラケズリ	回転実測	I区	
5	須恵器	坏	(12.8)	(14.8)	(14.8)	<3.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
6	須恵器	坏	(14.0)	-	-	<3.9>	-	火礫	底部~周縁ヘラケズリ、火礫	底部~周縁ヘラケズリ、火礫	回転実測	I区	
7	須恵器	坏	14.1	8.8	8.8	3.6	-	火礫	回転ヘラ切り、火礫	回転ヘラ切り、火礫	完全実測	覆土、H44 I区	

第95表 H63号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法				量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面			
8	須恵器	環	(15.0)	(10.2)	—	<3.9>	—	火襷	回転ヘラ切り、火襷	回転実測	I区	
9	須恵器	高環	—	—	—	<5.1>	—	絞り	ヘラ描沈線、脚部スリット有	回転実測	II区	
10	土師器	武蔵甕	(20.4)	—	—	<5.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
11	土師器	武蔵甕	(19.0)	—	—	<6.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、III区、IV区、カマド	
12	土師器	武蔵甕	(17.4)	—	—	<9.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、III区、カマド	
13	土師器	武蔵甕	(21.6)	(3.4)	—	<25.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区、カマド、SNベルト	
14	土師器	甕	—	—	—	—	—	ナデ	ケズリ、刻書	破片実測・拓本	IV区	
15	土師器	甕	—	(6.0)	—	<3.2>	—	ミガキ	ケズリ、孔φ(5.4)	回転実測	覆土	
16	土師器	甕	(22.6)	—	—	<5.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	III区	
17	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	ナデ	縄文→ヘラ描沈線	破片実測・拓本	IV区	
19	土製品	土器片円盤	4.7	4.2	0.7	17.2	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	覆土	
20	石器	台石	29.3	27.4	10.3	1530.0	使用面1、捺痕残る	—	—	完全実測	覆土	
21	石器	凹石	7.2	5.5	5.2	102.6	凹φ2.9、凹深0.7、正面一部欠損	—	—	完全実測	覆土	
22	石器	磨石	<4.0>	<2.8>	<0.6>	<11.0>	片側欠損、正裏に擦り面	—	—	完全実測	I区	

第96表 H64号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法				量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	(13.0)	—	—	<3.3>	—	放射状暗文	ケズリ	回転実測	覆土	
2	土師器	碗	(14.9)	7.0	5.2	—	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→付高台	完全実測	覆土、H134-18 同一個体	
3	須恵器	環	(12.0)	—	—	<2.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
4	須恵器	環	(13.1)	7.4	4.9	—	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り→刻書	完全実測・拓本	覆土	
5	須恵器	環	—	6.0	<2.6>	—	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No2	
6	須恵器	環	—	8.0	<1.0>	—	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ケズリ	完全実測	カマド	
7	須恵器	有台環	13.2	9.4	3.9	—	—	ロクロナデ	ヘラ切り→ケズリ→付高台	完全実測	No4	
8	土師器	甕	(17.7)	—	<7.2>	—	—	ミガキ、ナデ	ナデ	回転実測	覆土	
9	土師器	武蔵甕	—	5.8	<4.7>	—	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区	
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	縄文	破片実測・拓本	回転実測	覆土	

第97表 H66号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法				量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	(11.4)	(4.9)	3.2	—	ナデ	ナデ	回転糸切	回転実測	覆土	
2	土師器	環	(11.7)	5.1	3.5	—	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	No1	
3	土師器	環	12.5	4.9	3.9	—	—	暗文→黒色処理	ロクロナデ	完全実測	No1	
4	土師器	環	(12.5)	6.6	<3.4>	—	—	黒色処理	回転糸切、墨書	完全実測	No1、カマド	
5	土師器	環	12.6	5.0	3.9	—	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	No1	
6	土師器	環	(12.6)	(5.5)	<3.7>	—	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No1	
7	土師器	碗	14.7	7.2	5.5	—	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全実測	No2	
8	土師器	碗	—	(6.9)	<3.5>	—	ナデ	ナデ	回転糸切→付高台	完全実測	No3	

第 98 表 H66 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
9	土師器	鉢	(20.5)	—	—	<12.0>	—	ナデ、ミガキ	ロクロナデ、ケズリ	回転実測	覆土	
10	土師器	ロクロ甕	(24.2)	—	—	<10.1>	—	ナデ	ロクロナデ、ケズリ	回転実測	No1、カマド	
11	須恵器	甕	—	—	—	—	—	転用甕?、当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	No4	

第 99 表 H67 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.2)	(5.6)	—	3.6	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No1	
2	須恵器	坏蓋	(13.8)	—	—	<2.0>	—	火礫	回転ヘラケズリ、火礫	回転実測	No2	
3	土師器	武蔵甕	(11.0)	—	—	<4.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
4	土師器	ロクロ甕	(13.4)	—	—	<5.5>	—	ロクロナデ	頸部为キメ	回転実測	カマド	
5	土師器	武蔵甕	(14.0)	—	—	<12.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	床、カマド	
6	土師器	武蔵甕	(19.4)	—	—	<13.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	床直、カマド	
7	土師器	武蔵甕	—	—	6.2	<1.7>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	床直、カマド	
8	土師器	武蔵甕	—	—	(7.0)	<5.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No3、床直	
9	須恵器	壺	—	—	—	<3.1>	—	ロクロナデ	櫛歯状工具による刺突列	回転実測	床直	

第 100 表 H68 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	碗	—	—	7.5	<2.9>	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台	完全実測	No1	
2	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	
3	須恵器	甕	—	—	—	<4.1>	—	ロクロナデ	櫛歯波状文	回転実測・拓本	覆土	
4	鉄製品	軸	<6.2>	<0.6>	<0.6>	<0.6>	<4.92>	下部欠損、紡錘車の軸?	—	完全実測	No2	

第 101 表 H69 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	11.9	4.3	—	3.8	—	ロクロナデ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No10	
2	土師器	坏	(11.9)	5.0	—	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No1、I区、カマド	
3	土師器	坏	11.9	5.5	—	4.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No6	
4	土師器	坏	12.0	6.0	—	3.2	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No3	
5	土師器	坏	(12.2)	—	—	<3.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV区	
6	土師器	坏	(12.8)	6.1	—	3.6	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No8	
7	土師器	坏	13.8	5.6	—	4.6	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No5、II区	
8	土師器	坏	(15.2)	—	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV区	
9	土師器	碗	(14.3)	7.1	—	6.5	—	暗文→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	I区、H2 覆土	
10	土師器	碗	(26.0)	—	—	<15.0>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全実測	No4、II区	
11	灰釉陶器	碗	(12.8)	(5.8)	—	<2.8>	—	施釉	回転糸切→付高台、施釉	回転実測	No7	
12	灰釉陶器	碗	(14.0)	—	—	<2.6>	—	施釉	施釉	回転実測	II区	
13	土師器	ロクロ甕	(9.1)	5.9	—	8.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No2、II区、カマド内	

第102表 H70号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	(10.5)	5.4	4.0	—	ロクロナデ	墨書、回転糸切	完全実測	覆土	
2	土師器	環	11.0	5.4	3.6	—	ミガキ→暗文→黒色処理	ハラケズリ	完全実測	No7	
3	土師器	環	11.4	5.4	3.4	—	ミガキ→暗文→黒色処理	ハラケズリ、墨書	完全実測	No5	
4	土師器	環	11.4	6.0	4.2	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No3	
5	土師器	環	11.4	6.1	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8、II区	
6	土師器	環	(11.5)	(5.8)	3.2	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	III区	
7	土師器	環	(12.3)	(4.4)	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	II区	
8	土師器	環	—	—	<2.8>	—	ミガキ	墨書	破片実測	I区	
9	土師器	碗	13.7	—	4.5	—	黒色処理	右回転糸切→付高台	完全実測	No1、III区	
10	灰釉陶器	碗	—	(5.6)	<1.6>	—	施釉	右回転糸切、施釉	回転実測	覆土	
11	土師器	ロクロ甕	—	3.8	<9.8>	—	ハケメ	ハケメ	回転実測	覆土	
12	須恵器	甕	—	—	<4.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	I区	
13	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	IV区	
14	鉄器	刀子	<2.6>	<1.0>	<0.4>	<2.3>	刃部のみ残存		完全実測	No13	

第103表 H71号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	(11.2)	—	5.4	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ、刻書「×」	回転実測	No7	
2	土師器	環	11.5	5.9	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No4	
3	土師器	環	(11.5)	6.2	4.1	—	ロクロナデ	右回転糸切、墨書	完全実測	No2	
4	土師器	環	11.6	5.8	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No6	
5	土師器	環	(11.7)	5.6	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No1	
6	土師器	環	12.5	5.8	3.6	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No5	
7	土師器	環	(12.8)	—	<2.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	P1、床土、NSベルト	
8	土師器	環	13.4	—	5.6	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	No2、No6、No7	
9	土師器	環	14.0	—	5.2	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	カマド	
10	土師器	環	—	—	—	—	ナデ	墨書	破片実測	EWベルト	
11	土師器	碗	—	—	<1.7>	—	ロクロナデ	回転ハラケズリ→付高台	回転実測	No3	
12	土師器	碗	—	—	—	—	ロクロナデ	付高台、墨書	破片実測	EWベルト、H3 IV区	
13	灰釉陶器	碗	—	8.1	<3.2>	—	施釉	回転ハラケズリ→付高台→施釉	完全実測	No8	
14	土師器	甕	18.6	—	<15.2>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ、摩耗	完全実測	No3、EWベルト、H3 IV区、床、カマド	
15	土師器	ロクロ甕	—	(6.1)	<2.6>	—	ロクロナデ	回転糸切、外周回転ハラケズリ	回転実測	P1	
16	土師器	甕	—	—	—	—	ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	
17	石器	打製石斧	<5.0>	<5.8>	<1.3>	<47.6>	刃部残存、裏面に使用痕		完全実測	覆土	
18	鉄器	刀子	<8.6>	<1.2>	<0.4>	<10.0>	刃部基部欠損		完全実測	No10	
19	鉄製品	角軸	<6.5>	<0.6>	<0.5>	<4.1>	両端欠損		完全実測	No9	

第 104 表 H72 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	壺	(16.8)	(7.8)	(26.0)	—	ハケメ、ナデ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No1～5、床		
2	土師器	壺	—	(8.6)	(12.5)	—	ハケメ、ナデ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土		

第 105 表 H73 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	杯	11.6	6.6	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	右回転糸切	完全実測	No3		
2	土師器	杯	12.2	6.1	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	右回転糸切	完全実測	No2		
3	土師器	杯	—	5.9	<3.0>	—	ロクロナデ	右回転糸切	右回転糸切	完全実測	No1		
4	土師器	杯	—	(6.0)	<2.7>	—	ロクロナデ	右回転糸切	右回転糸切	回転実測	No5		
5	土師器	碗	14.7	8.3	6.2	—	黒色処理	右回転糸切→付高台	右回転糸切→付高台	完全実測	No7、カマド		
6	弥生土器	鉢	—	—	—	—	浮線文、ヘラミガキ	—	—	破片実測・拓本	覆土		

第 106 表 H74 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	畿内系暗文杯	—	(6.0)	<1.9>	—	暗文(放射+螺旋)	—	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区		
2	土師器	畿内系暗文杯	—	(7.6)	<2.0>	—	暗文(放射+螺旋)	—	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	SN ベルト		
3	土師器	杯	—	—	—	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	破片実測	Ⅱ区		
4	土師器	畿内系暗文杯	—	—	—	—	暗文(放射+螺旋)	不明	不明	破片実測	SN ベルト		
5	須恵器	杯	(13.5)	(8.0)	<4.0>	—	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	V区、カマド		
6	須恵器	杯	(14.2)	6.5	<3.9>	—	ロクロナデ	静止糸切	静止糸切	完全実測	I区		
7	須恵器	有台杯	—	(12.0)	<1.7>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅲ区		
8	土師器	武蔵甕	(13.2)	—	<10.3>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	I区、Ⅱ区、SN ベルト		
9	土師器	武蔵甕	(22.0)	—	<5.5>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	覆土		
10	土師器	武蔵甕	—	(6.0)	<8.1>	—	ナデ	底部～周縁ヘラケズリ	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区		
11	土師器	台付甕	—	(7.0)	<1.7>	—	ナデ	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区		
12	須恵器	横瓶	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	平行叩目	回転実測	No3		
13	石器	磨石	<12.2>	<10.5>	<1.4>	<21.9>	右側面以外欠損、磨面 1	—	—	完全実測	Ⅲ区		
14	鉄器	長頸鉢	<7.9>	<0.8>	<0.3>	<5.17>	—	—	—	完全実測	覆土		

第 107 表 H75 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	杯	(13.4)	(13.8)	<5.9>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	回転実測	覆土		
2	土師器	杯	(14.0)	(13.4)	<6.1>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	No1		
3	土師器	甕	(14.4)	—	<10.3>	—	ハケメ	ハケメ	ハケメ	回転実測	No3		
4	土師器	台付甕	—	(10.7)	<5.9>	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No2		
5	土師器	壺	(16.0)	—	<6.1>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土		
6	鉄器	刀子	<6.2>	<1.1>	<0.4>	<6.55>	両端欠損	—	—	完全実測	No4		

第108表 H76号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	15.5	—	5.4	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全実測	No5、床、H7	
2	須恵器	坏	(13.0)	(9.4)	3.9	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	覆土	
3	須恵器	坏	(15.2)	(6.6)	4.7	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り、回転ヘラケズリ	回転実測・拓本	No1	
4	灰釉陶器	皿	—	(8.0)	<2.0>	—	施釉	付高台、施釉	回転実測	床	
5	須恵器	甕	—	—	—	—	同心円当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	床	
6	石器	編物石	14.9	5.2	2.9	321.0	—	—	完全実測	No2	

第109表 H77号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(14.4)	7.2	3.6	—	ミガキ→黒色処理	糸切→底部～周縁ヘラケズリ、刻書	完全実測	No1	
2	土師器	坏	(14.6)	(7.4)	(4.0)	—	ミガキ→黒色処理	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	I区、IV区	
3	土師器	坏	15.4	6.3	4.5	—	ミガキ→黒色処理	底部～周縁ヘラケズリ、墨書「西永」	完全実測	No2	
4	須恵器	坏	(12.6)	(6.0)	(3.6)	—	火漉	回転糸切	回転実測	IV区	
5	須恵器	坏	(12.6)	(6.8)	3.8	—	ロクロナデ	回転糸切、火漉	回転実測	I区、IV区、ベルト	
6	須恵器	坏	(12.8)	(7.0)	(3.9)	—	火漉	右回転糸切、火漉	回転実測	III区、ベルト	
7	須恵器	坏	(13.0)	(7.0)	(4.1)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No19	
8	須恵器	坏	(13.4)	(7.0)	3.7	—	火漉	右回転糸切、火漉	回転実測	I区、IV区	
9	須恵器	坏	(13.7)	6.2	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド、ベルト	
10	須恵器	坏	14.0	6.0	3.8	—	火漉	右回転糸切、火漉	完全実測	No1	
11	土師器	坏	—	(5.4)	<2.2>	—	火漉	右回転糸切、火漉	回転実測	II区	
12	土師器	坏	—	(9.0)	<3.3>	—	火漉	ヘラケズリ、火漉	回転実測	IV区	
13	須恵器	有台坏	14.4	—	<5.0>	—	火漉	火漉	完全実測	No8	
14	須恵器	有台坏	(15.8)	7.7	4.3	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全実測	No3	
15	須恵器	有台坏	—	5.8	<2.6>	—	火漉	回転ヘラケズリ→付高台、火漉	完全実測	ベルト	
16	須恵器	有台坏	—	(6.2)	<2.2>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	IV区	
17	須恵器	有台坏	—	(8.0)	<2.1>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	IV区	
18	須恵器	坏蓋	(16.8)	—	<3.1>	—	火漉	回転ヘラケズリ、火漉	回転実測	No6	
19	土師器	甕	(17.8)	—	<7.3>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	I区	
20	土師器	武蔵甕	(18.6)	—	<5.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
21	土師器	甕	—	(6.4)	<4.0>	—	ナデ	ナデ	回転実測	IV区	
22	土師器	甕	—	(7.0)	<3.6>	—	ナデ	糸切	回転実測	I区	
23	須恵器	甕	(28.0)	—	<5.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区	
24	須恵器	甕	—	—	<5.0>	—	ナデ	ロクロナデ	回転実測	II区	
25	須恵器	甕	—	—	<6.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No5	
26	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	櫛描波状文	破片実測・拓本	No5	
27	須恵器	壺	—	(53.8)	<5.3>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	ベルト	
28	土製品	土錘	<3.6>	<2.0>	<1.8>	9.0	ナデ	ナデ	完全実測	No13	
29	土製品	土錘	4.6	1.9	1.8	11.60	ナデ	ナデ	完全実測	No13	
30	土製品	土錘	5.9	2.1	1.9	16.50	ナデ	ナデ	完全実測	No12	
31	石器	砥石	<17.6>	<6.8>	<5.6>	<940.0>	上部欠損、正面敲打痕、右側条痕、砥面数4		完全実測	床	
32	石器	磨石	<7.5>	<4.4>	<2.3>	<152.5>	上部欠損、磨面3		完全実測	床	
33	鉄器	刀子	<8.6>	<1.2>	<0.35>	<7.2>	両端欠損		完全実測	No14	

第110表 H78号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	杯	11.1	6.1	—	3.6	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8	
2	土師器	杯	11.6	4.2	—	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No2	
3	土師器	杓状杯	11.7	3.9	—	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土	
4	土師器	杯	(11.9)	6.4	—	4.6	—	煤付着	右回転糸切	完全実測	No10	
5	土師器	杯	12.0	6.0	—	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8	
6	土師器	杯	(13.5)	5.0	—	3.6	—	墨書	右回転糸切	完全実測	No13	
7	土師器	杯	(13.9)	11.1	—	4.5	—	黒色処理	ケズリ	完全実測	覆土	
8	土師器	杯	—	—	—	—	—	黒色処理	墨書	破片実測	カマド	
9	土師器	碗	12.2	7.2	—	4.7	—	暗文、黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No6	
10	土師器	碗	(13.9)	7.0	—	5.0	—	ロクロナデ	右回転糸切→付高台	完全実測	No23、No24、カマド	
11	土師器	碗	14.3	7.2	—	6.1	—	放射状暗文、黒色処理	付高台、墨書	完全実測	No19	
12	土師器	碗	—	—	—	<40>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全実測	カマド	
13	須恵器	杯	—	(8.0)	—	<09>	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	覆土	
14	土製品	手捏	2.3	—	—	3.3	—	ナデ	ナデ	完全実測	No18	
15	灰釉陶器	碗	13.2	6.2	—	4.1	—	施釉	回転ヘラ切り→付高台、施釉	完全実測	No1	
16	灰釉陶器	碗	15.8	7.6	—	5.3	—	施釉	右回転糸切→付高台、施釉	完全実測	No14、No22	
17	灰釉陶器	碗	16.8	7.6	—	5.7	—	施釉	右回転糸切→付高台、施釉	完全実測	覆土	
18	灰釉陶器	碗	—	(7.8)	—	<18>	—	施釉	付高台、施釉	回転実測	覆土	
19	灰釉陶器	皿	(13.7)	6.9	—	2.5	—	施釉	付高台、施釉	完全実測	No15	
20	緑釉陶器	碗	(12.2)	—	—	<2.5>	—	施釉	施釉	回転実測	覆土	
21	土師器	甕	(14.0)	—	—	<11.2>	—	ナデ	ナデ	回転実測	覆土	
22	土師器	ロクロ甕	(21.8)	—	—	<12.6>	—	ナデ	ナデ	回転実測	覆土	
23	土師器	ロクロ甕	—	(7.4)	—	<5.4>	—	ロクロナデ	底部～周縁ケズリ	回転実測	覆土	
24	土師器	羽釜	—	—	—	<5.7>	—	ナデ	ナデ	回転実測	覆土	
25	土師器	壺	—	4.5	—	<2.7>	—	ロクロナデ	右回転糸切、底部～周縁ケズリ→ミガキ	完全実測	No15	
26	須恵器	甕	—	—	—	<14.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No5	
27	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	No11	
28	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	No17	
29	土製品	管玉	0.8	0.8	2.3	1.86	—	—	—	完全実測	覆土	
30	土製品	土錘	3.9	1.5	1.5	8.51	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	Ⅲ区	
31	石器	砥石	12.0	6.0	1.2	83.4	下辺を刃部とする砥石として使用(砥面2、正裏面に条痕)	—	—	完全実測	No9	
32	石製品	軽石製品	7.3	4.6	3.8	40.89	中央に挟り状の加工?全体に磨	—	—	完全実測	覆土	
33	石器	磨石	4.3	4.3	3.5	88.0	全体に磨	—	—	完全実測	No20	
34	石器	磨石	6.7	4.5	3.2	142.3	全体に磨	—	—	完全実測	覆土	
35	鉄原材	—	10.1	7.6	1.9	174.9	—	—	—	完全実測	No16	

第111表 H79号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	環	(12.1)	—	<3.7>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転実測	EWベルト、H80No8	
2	土師器	環	—	(8.0)	<2.2>	—	ナデ→暗文(放射+螺旋)	ナデ→底部分ケズリ	体部→底部分ケズリ	体部→底部分ケズリ	回転実測	覆土	
3	土師器	環	—	(8.6)	<3.1>	—	黒色処理	回転糸切	回転糸切	回転糸切	回転実測	IV区	
4	土師器	環	—	—	<3.0>	—	火漉	火漉	火漉	火漉	破片実測	IV区	
5	須恵器	環	(13.0)	—	6.9	—	ナデ	火漉	回転糸切、火漉	回転糸切、火漉	完全実測	No7	
6	須恵器	有台環	(15.6)	—	9.0	—	ナデ	ナデ	回転糸切→付高台	回転糸切→付高台	完全実測	I区、EWベルト	
7	須恵器	有台環	(16.1)	—	(8.9)	—	ナデ	ナデ	回転糸切→付高台	回転糸切→付高台	回転実測	III区、B0	
8	須恵器	杯蓋	(18.6)	—	2.6	—	ナデ	ナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	覆土	
9	土師器	武蔵甕	(21.4)	—	(8.7)	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No4	
10	土師器	武蔵甕	(25.3)	—	<10.3>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No9	
11	須恵器	長頸壺	—	—	<9.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No6	
12	須恵器	甌	—	—	<2.8>	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	破片実測	I区	
13	石器	磨石	<9.7>	<4.3>	<2.4>	<96.2>	片側欠損、正裏に磨面	片側欠損、正裏に磨面	片側欠損、正裏に磨面	片側欠損、正裏に磨面	完全実測	覆土	

第112表 H80号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	環	—	—	—	—	暗文状ミガキ	暗文状ミガキ	暗文状ミガキ	暗文状ミガキ	破片実測	IV区	
2	須恵器	環	(14.1)	8.1	4.0	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り→ケズリ	回転ヘラ切り→ケズリ	完全実測	II区、IV区	
3	須恵器	環	(14.1)	9.7	3.8	—	火漉	火漉	ケズリ、火漉	ケズリ、火漉	完全実測	No7、I区	
4	須恵器	環	(14.4)	(6.6)	3.9	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	回転ヘラ切り	回転実測	II区	
5	須恵器	環	(14.4)	10.2	3.7	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り→ケズリ	回転ヘラ切り→ケズリ	完全実測	No15	
6	須恵器	環	(14.6)	(10.2)	4.6	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り→ケズリ	回転ヘラ切り→ケズリ	回転実測	I区	
7	須恵器	環	—	6.8	<1.2>	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	回転ヘラ切り	完全実測	II区	
8	須恵器	有台環	—	10.4	<1.3>	—	ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	No5	
9	土師器	甕	(13.0)	—	<5.8>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	IV区	
10	土師器	甕	(14.8)	—	<4.6>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	No8	
11	土師器	甕	(14.8)	—	<6.6>	—	ケズリ	ケズリ	ナデ	ナデ	回転実測	No11	
12	土師器	甕	(21.0)	—	<5.5>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	IV区	
13	土師器	武蔵甕	—	6.0	(3.0)	—	ナデ	ナデ	底部～周縁ケズリ	底部～周縁ケズリ	回転実測	II区	
14	土師器	武蔵甕	—	(6.2)	<6.0>	—	底部～周縁ケズリ	底部～周縁ケズリ	ナデ	ナデ	回転実測	II区	
15	土師器	甕	(33.0)	—	<16.4>	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ、摩耗	ミガキ、摩耗	回転実測	No10、No11	
16	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	ナデ	叩目	叩目	破片実測・拓本	No9	
17	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	当具痕	叩目	叩目	破片実測・拓本	IV区	
18	石器	台石	<23.9>	<13.6>	<6.5>	<3420.0>	両端欠損、使用面2	両端欠損、使用面2	両端欠損、使用面2	両端欠損、使用面2	完全実測	覆土	
19	石器	台石	26.3	22.7	9.0	8400.0	使用面1	使用面1	使用面1	使用面1	完全実測	No13	
20	鉄製品	紡錘車	<27.2>	<0.8>	<0.8>	<48.2>	円板φ(6.0)、最大厚0.6、円盤部、軸先端欠損	円板φ(6.0)、最大厚0.6、円盤部、軸先端欠損	円板φ(6.0)、最大厚0.6、円盤部、軸先端欠損	円板φ(6.0)、最大厚0.6、円盤部、軸先端欠損	完全実測	覆土	

第113表 H81号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	内面		
1	土師器	環	(13.0)	—	<6.0>	—	ナデ		ケズリ			回転実測	No3
2	須恵器	環	—	(7.4)	<2.4>	—	ナデ		回転糸切			回転実測	Ⅲ区
3	須恵器	環	—	(9.1)	<2.5>	—	ナデ		回転糸切→ケズリ			回転実測	I区
4	須恵器	有台環	(13.2)	—	<3.5>	—	ナデ		ナデ			回転実測	Ⅱ区
5	須恵器	有台環	—	(11.4)	<1.3>	—	ナデ		回転糸切→付高台			回転実測	Ⅲ区
6	須恵器	環蓋	(13.0)	—	<1.4>	—	ナデ		ナデ			回転実測	Ⅱ区
7	土師器	武蔵甕	(22.0)	—	<8.1>	—	ナデ		ケズリ			回転実測	Ⅱ区
8	土師器	武蔵甕	—	(5.0)	<5.5>	—	ナデ		ケズリ			回転実測	Ⅱ区
9	須恵器	甕	—	(18.0)	<5.7>	—	当具痕		平行叩目			回転実測	覆土
10	須恵器	長頸壺	—	—	<13.0>	—	ナデ		ケズリ			回転実測	I区、Ⅱ区、Ⅳ区
11	弥生土器	鉢	—	—	—	—	沈線文					破片実測・拓本	覆土
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	〔r2〕燃糸単軸絡糸体					破片実測・拓本	覆土
13	土製品	羽口	—	—	—	—	外径(4.3)、内径(1.2)、先端部					完全実測	Ⅱ区
14	鉄製品	軸	(5.0)	(0.6)	<0.8>	<16.2>	片側欠損、正裏に磨面					完全実測	カマド

第114表 H82号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面			
1	土師器	環	(15.2)	(9.2)	(3.9)	—	ミガキ		ミガキ			回転実測	Ⅲ区
2	土師器	鉢	(20.2)	—	<6.6>	—	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ→黒色処理				回転実測	Ⅳ区
3	土師器	甕	(33.8)	8.0	(26.6)	—	ナデ		ケズリ			完全実測	I区、Ⅳ区、H13
4	土師器	甕	—	5.9	<4.4>	—	ナデ		ナデ			完全実測	No3
5	土師器	羽釜	(20.8)	—	<11.2>	—	ナデ		ナデ			回転実測	No7
6	土師器	羽釜	(21.8)	—	<11.5>	—	ナデ		ナデ			回転実測	No6、カマド
7	土師器	台付壺	(8.0)	—	<7.4>	—	ミガキ		ケズリ→ミガキ			完全実測	Ⅳ区
8	土製品	人形土器	—	(5.0)	<5.5>	—	腕、弥生時代後期?					完全実測	I区
9	鉄器	芋引金具	5.3	2.9	0.4	15.59	—		—			完全実測	覆土

第115表 H83号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面			
1	土師器	環	10.4	4.8	3.8	—	ナデ		右回転糸切→ケズリ			完全実測	No5
2	土師器	環	10.7	5.0	3.7	—	ナデ		右回転糸切			完全実測	No2
3	土師器	環	10.7	5.4	3.8	—	ナデ		右回転糸切			完全実測	No11
4	土師器	環	11.0	4.8	3.3	—	ナデ		右回転糸切、墨書			完全実測	No4
5	土師器	環	11.1	4.8	3.8	—	ナデ		右回転糸切			完全実測	No3
6	土師器	環	11.7	5.0	3.8	—	ナデ		右回転糸切			完全実測	No15
7	土師器	環	11.9	4.5	4.2	—	ナデ		右回転糸切			完全実測	No16
8	土師器	環	12.7	5.5	4.2	—	ミガキ→黒色処理		右回転糸切、墨書			完全実測	No12、I区
9	土師器	環	13.1	5.3	4.1	—	ミガキ→黒色処理		右回転糸切			完全実測	No9、I区
10	土師器	環	—	—	<3.2>	—	ミガキ→黒色処理		墨書			破片実測	No12

第116表 H83号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
11	土師器	碗	14.2	—	<4.7>	—	ナデ→黒色処理	ナデ	回転糸切→付高台	完全実測	No13	
12	土師器	碗	15.6	—	5.3	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転糸切→付高台、黒色処理	完全実測	No6、I区	
13	土師器	碗	—	—	<4.6>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転糸切→付高台	回転実測	覆土	
14	須恵器	坏	13.0	—	4.2	—	ナデ	ナデ	回転糸切	完全実測	No7、I区	
15	須恵器	坏	—	—	<1.7>	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	完全実測	覆土	
16	須恵器	坏	—	—	<1.0>	—	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り→刻書	回転実測	I区	
17	須恵器	有台坏	—	—	<1.1>	—	ナデ	ナデ	回転糸切→付高台	回転実測	床	
18	土師器	甕	(20.6)	—	<20.3>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
19	土師器	甕	—	—	<4.5>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	No8	
20	須恵器	甕	—	—	<8.6>	—	ナデ	ナデ	タタキ	回転実測	覆土	
21	須恵器	壺	—	—	<3.3>	—	ナデ	ナデ	底部～周縁ケズリ	回転実測	覆土	
22	須恵器	長頸壺	—	—	<5.0>	—	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	I区	
23	鉄製品	金具	<3.5>	<1.9>	<0.15>	<4.0>	片側欠損	ナデ	—	完全実測	覆土	

第117表 H84号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	坏	(11.8)	—	<3.3>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
2	土師器	坏	(13.0)	(5.9)	<4.1>	—	ミガキ→暗文→黒色処理	ナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
3	土師器	坏	—	5.0	<3.3>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転糸切、墨書	完全実測	覆土	
4	土師器	坏	—	—	<3.0>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	墨書	破片実測	覆土	
5	土師器	碗	15.0	—	<5.0>	—	暗文→黒色処理	ナデ	回転糸切→付高台(高台欠損)	完全実測	覆土	
6	土師器	碗	—	—	<2.4>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転糸切→付高台	完全実測	覆土	
7	土師器	碗	—	—	<2.1>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転糸切→付高台	完全実測	覆土	
8	須恵器	坏	(12.4)	(6.2)	4.1	—	火漉	ナデ	回転糸切、火漉	回転実測	覆土	
9	須恵器	坏	(12.6)	5.8	4.3	—	ロクロナデ	ナデ	右回転糸切、火漉	完全実測	No3	
10	須恵器	坏	—	5.4	<3.0>	—	ロクロナデ	ナデ	回転糸切	完全実測	覆土	
11	須恵器	坏	—	—	<1.2>	—	ロクロナデ	ナデ	回転糸切	完全実測	覆土	
12	須恵器	有台坏	—	—	<4.2>	—	ロクロナデ	ナデ	回転糸切→付高台	完全実測	覆土	
13	須恵器	有台坏	—	—	(10.8)	<2.4>	ロクロナデ	ナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	覆土	
14	灰釉陶器	碗	—	—	7.6	<2.9>	施釉、重焼痕	ナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	No2	
15	土師器	ロクロ甕	(19.3)	—	<8.6>	—	ロクロナデ	ナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	
16	須恵器	長頸壺	—	—	<7.6>	—	ロクロナデ	ナデ	ロクロナデ	回転実測	No1	

第118表 H85号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	坏	(12.1)	(6.5)	4.3	—	煤付着	ナデ	右回転糸切	回転実測	カマド	
2	土師器	坏	(12.9)	5.0	4.2	—	ミガキ→黒色処理	ナデ	回転糸切、墨書	完全実測	床	
3	土師器	坏	12.9	5.7	4.0	—	ミガキ→黒色処理、放射状暗文	ナデ	墨書「本」	完全実測	覆土	
4	土師器	坏	(12.9)	6.0	4.8	—	暗文	ナデ	回転糸切	回転実測	No6	

第 119 表 H85 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法 量			成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内 面		
5	土師器	環	(13.0)	(6.8)	5.2	—	回転糸切	回転実測	No1
6	土師器	環	(13.9)	(8.0)	3.7	—	回転糸切	回転実測	No4
7	土師器	環	(14.1)	(5.6)	4.6	—	静止糸切	回転実測	I区、III区、カマド
8	土師器	環	—	6.0	<2.0>	—	黒色処理、放射状暗文	回転実測	覆土
9	土師器	環	—	(7.2)	<2.1>	—	ミガキ→黒色処理	回転実測	床
10	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	破片実測	床
11	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	破片実測	カマド
12	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	破片実測	床
13	土師器	碗	(15.3)	(7.9)	<5.4>	—	回転糸切→付高台	回転実測	IV区
14	土師器	碗	—	—	<3.1>	—	付高台	完全実測	床
15	須恵器	有台杯	—	(5.8)	<1.4>	—	黒色処理、付高台	回転実測	IV区
16	須恵器	碗	—	6.9	<2.6>	—	回転糸切→付高台	完全実測	床
17	須恵器	杯蓋	—	—	<1.7>	—	つまみ貼付	回転実測	覆土
18	土師器	武蔵甕	(13.6)	—	<8.3>	—	ケズリ	回転実測	カマド
19	土師器	ロクロ甕	(19.6)	—	<26.5>	—	ケズリ	回転実測	カマド、No3、4、14
20	土師器	ロクロ甕	20.9	—	<26.4>	—	ケズリ	完全実測	カマド、No1、3、5~8、11、12、II区
21	土師器	ロクロ甕	—	(2.2)	<12.1>	—	ケズリ	回転実測	カマド
22	土師器	武蔵甕	—	(4.0)	<6.6>	—	ケズリ	回転実測	カマド
23	土師器	甕	—	—	<8.2>	—	タタキ	回転実測	覆土
24	土師器	ロクロ甕	—	—	—	—	タタキ	破片実測・拓本	III区
25	土師器	甕	—	—	—	—	タタキ	破片実測・拓本	III区
26	須恵器	甕	—	—	—	—	青海波紋	破片実測・拓本	カマド
27	須恵器	壺	(8.7)	—	<3.0>	—	平行叩目	回転実測	IV区
28	石器	編物石	9.8	6.6	3.6	280.0	正裏、縁辺に挟り有	完全実測	III区
29	鉄器	鎌	<3.4>	<2.5>	<0.15>	<4.84>	両端欠損	完全実測	覆土

第 120 表 H86 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量			成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内 面		
1	土師器	環	13.2	4.4	4.1	—	ミガキ→黒色処理	底部~周縁手持ちへラケズリ	No7、H87
2	土師器	縄内系暗文環	—	(7.8)	<1.4>	—	見込に螺旋暗文	ケズリ	床
3	須恵器	有台杯	(16.6)	(12.1)	3.9	—	ロクロナデ	回転へラケズリ→付高台	No8
4	土師器	鉢	(13.0)	—	<5.8>	—	ハケメ→ナデ→黒色処理	ケズリ	I区、IV区
5	土師器	武蔵甕	(22.0)	—	<6.1>	—	ナデ	ケズリ	II区
6	土師器	ロクロ甕	(22.6)	(9.2)	24.7	—	当具痕→ナデ	タタキ→ケズリ	No5
7	土師器	武蔵甕	—	(6.0)	<16.0>	—	ナデ	ケズリ	No1、No2、床
8	土師器	壺	—	6.2	<4.0>	—	ナデ	ミガキ	床
9	須恵器	甕	29.3	—	<11.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	No14
10	石器	砥石	<7.3>	<3.8>	<2.5>	<91.0>	砥面数4、下部欠損	—	完全実測
11	石器	石核	2.7	3.6	1.6	<11.55>	—	—	完全実測

第121表 H87号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	12.7	5.7	4.1	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No 1	
2	土師器	坏	(13.0)	(5.0)	4.6	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I区	
3	土師器	坏	(13.0)	6.0	4.2	—	暗文→黒色処理	右回転糸切、墨書	完全実測	No6、EWベルト	
4	土師器	坏	(13.3)	5.7	4.2	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、墨書「回」	完全実測	I区	
5	土師器	坏	13.4	5.7	4.2	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、墨書	完全実測	IV区	
6	土師器	坏	13.6	—	<4.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区、IV区、床	
7	土師器	坏	14.4	(6.0)	4.3	—	ミガキ	底部→周縁ヘラケズリ	回転実測	II区	
8	土師器	坏	(16.0)	—	<3.4>	—	ミガキ→黒色処理	墨書	回転実測	I区	
9	土師器	坏	(17.2)	—	<4.1>	—	暗文	ロクロナデ	回転実測	カマド	
10	土師器	坏	—	5.5	<2.6>	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド	
11	土師器	坏	—	5.6	<3.9>	—	ミガキ	右回転糸切、底部→周縁ヘラケズリ	完全実測	I区	
12	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	覆土	
13	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	覆土	
14	土師器	碗	(14.5)	5.8	5.8	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No5、III区、EW	
15	土師器	碗	—	7.0	<2.1>	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、高台欠損	完全実測	SNベルト	
16	土師器	碗	—	—	<1.4>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	IV区	
17	土師器	皿	12.6	5.8	3.0	—	ミガキ→黒色処理	付高台	回転実測	SNベルト	
18	須恵器	坏	—	5.2	<1.9>	—	火漉	回転糸切	回転実測	覆土	
19	灰釉陶器	碗	—	7.6	<2.6>	—	ロクロナデ、施釉	右回転糸切→付高台、施釉	回転実測	IV区	
20	土師器	ロクロ口甕	13.8	—	<12.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV区	
21	土師器	武蔵甕	(17.6)	—	<12.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区、カマド	
22	土師器	武蔵甕	(20.0)	—	<18.4>	—	ナデ、ハケメ	ケズリ	回転実測	No8～10、II区	
23	土師器	武蔵甕	(22.2)	—	<8.4>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	No3	
24	土師器	ロクロ口甕	23.4	—	<23.3>	—	当具痕→ナデ	タタキ→ケズリ	回転実測	No9、I区	
25	須恵器	甕	29.8	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV区	
26	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	回転実測	破片実測・拓本	
27	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	
28	石器	紡錘車	8.0	6.1	4.9	162.0	ヘラケズリ、軽石	—	完全実測	床	
29	鉄器	刀子	<6.8>	<0.8>	<0.3>	<8.05>	—	—	完全実測	No12	
30	鉄器	刀子	<9.9>	<1.1>	<0.2>	<8.79>	—	—	完全実測	No13	
31	鉄製品	不明	<9.4>	<1.0>	<0.5>	<20.82>	—	—	完全実測	No11	

第122表 H88号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	12.8	6.2	4.0	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No4	
2	土師器	碗	(16.4)	—	<3.9>	—	ミガキ→黒色処理	墨書	回転実測	H47	
3	土師器	碗	—	(7.6)	<3.3>	—	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	I区、III区	
4	土師器	碗	—	7.7	<1.9>	—	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	No10	
5	須恵器	坏	(13.4)	—	<4.5>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	H47	
6	須恵器	坏	13.8	6.1	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No2	

第123表 H88号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
7	須恵器	環	(13.8)	-	-	<3.7>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No7	
8	須恵器	環	(14.6)	(6.8)	(6.8)	4.6	-	煤付着	煤付着	右回転糸切、墨書	回転実測、灯明皿?	H47	
9	須恵器	環	-	(4.8)	(4.8)	<1.9>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	H47	
10	須恵器	環	-	(6.2)	(6.2)	<1.8>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	H47	
11	灰釉陶器	碗	(15.0)	-	-	<2.9>	-	施釉	施釉	施釉	回転実測	覆土	
12	土師器	片口鉢	(24.0)	-	-	<7.9>	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	床	
13	土師器	武蔵甕	(14.4)	-	-	<6.0>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	I区	
14	土師器	武蔵甕	(19.4)	-	-	<4.8>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	H47	
15	土師器	武蔵甕	(19.6)	-	-	<6.4>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	No6、H47	
16	土師器	武蔵甕	(20.2)	3.9	3.9	25.9	-	ナデ	ナデ	ケズリ	完全実測	No5、H47	
17	土師器	武蔵甕	(21.4)	-	-	<6.3>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	H47 III区	
18	土師器	武蔵甕	(22.0)	-	-	<5.3>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	H47	
19	土師器	武蔵甕	-	(5.0)	(5.0)	<4.5>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	H47 床	
20	土師器	武蔵甕	-	(7.0)	(7.0)	<5.4>	-	ナデ	ナデ	ケズリ	回転実測	H47	
21	須恵器	甕	-	15.4	15.4	<7.1>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	H47	
22	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ、器面凹滑	当具痕→ナデ、器面凹滑	平行叩目	破片実測・拓本	I区	
23	須恵器	甕	(17.2)	-	-	<8.2>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド	
24	鉄器	鉄鏃	<12.0>	<3.3>	<3.3>	<0.4>	<19.04>	-	-	-	完全実測	No1	

第124表 H89号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	機内糸暗文環	-	-	-	-	-	暗文(螺旋+放射)	暗文(螺旋+放射)	ケズリ	破片実測	覆土	
2	須恵器	環	(14.0)	(7.6)	(7.6)	(3.8)	-	火礫	火礫	回転糸切、火礫	回転実測	I区	
3	須恵器	環	-	(8.6)	(8.6)	<1.3>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	カマド	
4	土師器	武蔵甕	(20.0)	-	-	<13.7>	-	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No2、II区、カマド、ベルト	
5	土師器	武蔵甕	(20.5)	-	-	<6.4>	-	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1、カマド、WEベルト	
6	土師器	武蔵甕	(20.9)	-	-	<10.4>	-	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No4、カマド	
7	土師器	武蔵甕	20.0	-	-	<13.9>	-	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No2、II区、カマド、ベルト	
8	土師器	武蔵甕	21.1	-	-	<26.0>	-	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No2、II区、カマド、ベルト	
9	土師器	武蔵甕	(23.0)	-	-	<8.1>	-	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No3、カマド、ベルト	
10	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	当具痕→ナデ	叩目	破片実測・拓本	No4	
11	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	L[R2]縄文	L[R2]縄文	-	破片実測・拓本	ベルト	
12	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	沈線文	沈線文	-	破片実測・拓本	II区	

第125表 H90号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	環	12.1	4.9	4.9	3.6	-	黒色処理	黒色処理	回転糸切	完全実測	No4	
2	土師器	環	(12.2)	(5.8)	(4.1)	(4.1)	-	暗文→黒色処理	暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	No5	
3	土師器	環	(12.3)	5.0	5.0	4.3	-	黒色処理	黒色処理	右回転糸切、墨書	完全実測	No2	
4	土師器	環	12.3	5.6	5.6	3.0	-	黒色処理	黒色処理	回転糸切	完全実測	No1	

第126表 H90号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
5	土師器	環	12.7	5.4	3.6	—	黒色処理	—	回転糸切	完全実測	覆土	
6	土師器	環	—	4.2	3.1	—	黒色処理	—	右回転糸切	完全実測	覆土	
7	土師器	環	—	(6.4)	<2.9>	—	黒色処理	—	回転糸切	回転実測	覆土	
8	土師器	碗	(15.0)	—	<3.9>	—	ミガキ→暗文→黒色処理	—	ロクロナデ	完全実測	No3	
9	灰釉陶器	碗	—	—	—	—	施釉	—	施釉	破片実測	覆土	
10	土師器	ロクロ甕	—	(6.2)	<3.3>	—	当具痕→ナデ	—	ヘラケズリ	回転実測	I区	
11	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	—	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕、波状口縁	—	—	破片実測・拓本	覆土	
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕	—	—	破片実測・拓本	I区	
14	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕	—	—	破片実測・拓本	覆土	
15	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(12) 燃糸単軸絡糸体	—	—	破片実測・拓本	II区	
16	弥生土器	壺	—	—	—	—	浮線文、L(R2) 縄文、ヘラミガキ	—	—	破片実測・拓本	I区	
17	土製品	不明	(2.5)	(0.9)	(0.8)	—	—	—	—	完全実測	II区	

第127表 H91号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	環	12.1	6.2	3.8	—	暗文→黒色処理	—	右回転糸切、墨書「吉」	完全実測	No1	
2	土師器	環	13.1	6.5	4.7	—	ロクロナデ	—	右回転糸切	完全実測	No5	
3	土師器	環	13.2	(6.2)	<3.8>	—	ロクロナデ	—	墨書、ケズリ	回転実測	No4、カマド	
4	土師器	環	13.6	(7.4)	2.9	—	ロクロナデ	—	右回転糸切	回転実測	カマド	
5	土師器	環	13.8	—	<3.3>	—	黒色処理	—	墨書「東」	回転実測	覆土	
6	土師器	環	14.1	6.0	4.2	—	暗文→黒色処理	—	右回転糸切	完全実測	カマド	
7	土師器	環	14.8	—	<3.1>	—	黒色処理	—	墨書「東」	回転実測	カマド	
8	土師器	環	17.0	(12.0)	<4.2>	—	ミガキ	—	ミガキ	回転実測	床	
9	土師器	環	—	(6.0)	<3.4>	—	黒色処理	—	底部～周縁手持ちヘラケズリ	回転実測	カマド	
10	土師器	環	—	6.2	<2.2>	—	ロクロナデ	—	回転糸切、底部～周縁手持ちヘラケズリ	回転実測	カマド	
11	須恵器	有台環	—	(8.0)	<2.3>	—	ロクロナデ	—	回転糸切→付高台	回転実測	覆土	
12	土師器	ロクロ甕	13.6	—	<8.8>	—	ナデ	—	ケズリ	回転実測	床	
13	須恵器	甕	—	(17.0)	<11.6>	—	当具痕→ナデ	—	平行叩目	回転実測	No13	

第128表 H92号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	環	12.5	6.3	4.3	—	ナデ→暗文→黒色処理	—	回転糸切→底部～周縁ヘラケズリ	完全実測	No3	
2	土師器	環	(12.7)	6.2	4.2	—	黒色処理	—	回転糸切	回転実測	床	
3	土師器	環	(12.8)	(6.0)	<3.1>	—	黒色処理	—	回転糸切	回転実測	No12、II区	
4	土師器	環	(12.8)	6.0	3.6	—	黒色処理	—	回転糸切	回転実測	No17	
5	土師器	環(片口)	(12.8)	(6.4)	3.8	—	暗文→黒色処理	—	回転糸切	完全実測	I区	
6	土師器	環	13.0	5.5	3.7	—	煤付着	—	右回転糸切、煤付着	完全実測	No27、No30	
7	土師器	環	(13.0)	(6.0)	<3.7>	—	暗文→黒色処理	—	回転糸切	回転実測	カマド	

第129表 H 92 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
8	土師器	環	(13.0)	6.3	3.5	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No9、No38	
9	土師器	環	(13.2)	(5.4)	4.3	—	黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド	
10	土師器	環	(13.2)	6.0	3.2	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I、II区	
11	土師器	環	(13.3)	4.4	4.3	—	黒色処理	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	カマド	
12	土師器	環	(13.5)	5.2	4.2	—	黒色処理	回転糸切	回転実測	No2	
13	土師器	環	(13.6)	6.9	3.9	—	暗文→黒色処理	回転ヘラケズリ	完全実測	II区、床	
14	土師器	環	(13.7)	6.2	3.7	—	ロクロナデ	回転糸切、墨書	完全実測	No25	
15	土師器	環	(13.7)	(6.3)	4.1	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	No15、II区	
16	土師器	環	(14.0)	6.0	3.4	—	黒色処理	回転糸切	回転実測	I区、床	
17	土師器	環	(14.0)	(6.6)	3.9	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No9、No36	
18	土師器	環	14.0	6.6	4.1	—	暗文→黒色処理	回転糸切、墨書	完全実測	No23、No24	
19	土師器	環	—	—	<2.2>	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	I区	
20	土師器	環	—	—	<3.4>	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	I区	
21	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	III区	
22	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	IV区	
23	土師器	環	—	—	—	—	ロクロナデ	墨書	破片実測	II区	
24	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	I区	
25	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	III区	
26	土師器	杓状碗	14.8	7.1	5.6	—	黒色処理	付高台、墨書(即天文字?)	完全実測	No1	
27	土師器	碗	15.9	6.5	5.0	—	黒色処理	付高台、墨書	完全実測	No4、II区	
28	土師器	碗	(15.9)	—	<5.4>	—	暗文→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No22、No35	
29	土師器	皿	(13.0)	5.4	2.3	—	黒色処理	回転糸切	回転実測	II区、床	
30	土師器	高環	—	(9.2)	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	IV区	
31	須恵器	環	—	(6.4)	<1.5>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I区	
32	須恵器	環	—	(7.2)	<2.0>	—	ロクロナデ	ヘラ切り	回転実測	床	
33	須恵器	有台杯	—	(7.6)	<1.6>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	I区	
34	灰釉陶器	皿	(10.2)	(5.6)	2.9	—	施釉	付高台→施釉	回転実測	I区	
35	緑釉陶器	碗	—	—	—	—	施釉	施釉	破片実測	II区	
36	土師器	小型ロクロ甕	(6.4)	5.0	5.6	—	ロクロナデ	回転糸切→底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	II区、床	
37	土師器	ロクロ甕	(14.4)	8.0	14.6	—	ロクロナデ	カキメ→回転糸切	回転実測	No27、No30	
38	土師器	ロクロ甕	(17.8)	(11.9)	19.2	—	ロクロナデ	底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	No37、II区、III区、カマド	
39	土師器	小型ロクロ甕	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	覆土	
40	土師器	甕(甲斐型)	—	—	—	—	ハケメ	ハケメ	破片実測	I区	
41	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	平行沈瀬間に櫛描波状文	破片実測・拓本	床	
42	石器	砥石	<7.8>	<3.9>	2.5	122.66	両端欠損、砥面数4	—	完全実測	床	
43	石器	砥石	9.9	5.9	3.7	251.90	上部欠損、砥面数5	—	完全実測	No31	
44	石器	凹・磨石	9.1	<7.9>	6.0	598.03	—	—	完全実測	No28	
45	石製品	石製模造品	<7.1>	<5.2>	<0.7>	<29.45>	一部欠損	—	完全実測	覆土	
46	石製品	白玉	1.3	1.3	0.7	<1.65>	—	—	完全実測	No26	
47	石器	磨・敲石	5.6	5.2	4.3	160.77	質の悪い黒曜石	—	完全実測	床	
48	石器	磨・敲石	12.3	5.6	3.2	421.22	煤付着	—	完全実測	No16	

第130表 H 92号竪穴建物出土遺物観察表(3)

No	器種	器形	法			量			成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面		
49	石器	敲石	12.4	5.0	2.2	236.16					完全実測	床
50	石器	敲石	30.2	23.2	8.4	7200.0	被熱あり、上面中央に煤付着				完全実測	覆土
51	石製品	石錐	3.3	2.0	1.1	5.48	黒曜石				完全実測	I区
52	鉄器	刀子	<7.8>	<1.1>	<0.3>	<5.57>					完全実測	No21
53	鉄器	鉄鎌	<6.1>	<3.1>	<0.3>	<7.57>					完全実測	No39
54	鉄器	鉄鎌	<8.3>	<2.5>	<0.7>	<15.82>					完全実測	No29
55	鉄製品	不明	<4.0>	<0.8>	<0.3>	<3.69>					完全実測	No18
56	銅製品	碗	<8.2>	<3.2>	<1.0>	<13.24>	銅碗を二次加工				完全実測	No32

第131表 H 93号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	碗	—	(10.0)	<3.8>	—	黒色処理		黒色処理		回転実測	Ⅲ区
2	須恵器	环	12.1	4.8	4.0	—	ロクロナデ		右回転糸切		完全実測	覆土
3	須恵器	环	14.0	5.4	4.0	—	ロクロナデ		右回転糸切		完全実測	I区、IV区
4	須恵器	环	—	6.2	<1.9>	—	ロクロナデ		右回転糸切		完全実測	覆土
5	土師器	甕	15.0	—	<4.2>	—	ナデ		ケズリ		完全実測	No1
6	土師器	甕	—	4.5	<2.3>	—	ナデ		ケズリ		完全実測	カマド
7	土師器	横瓶	—	—	<12.2>	—	ナデ		ナデ		完全実測	No4、カマド
8	須恵器	甕	39.6	—	<5.6>	—	ロクロナデ		ロクロナデ		回転実測	H95
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文				破片実測・拓本	覆土
10	鉄器	刀子	<10.1>	<1.0>	<0.3>	<6.10>	両端欠損				完全実測	No5、カマド

第132表 H 94号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	环	13.3	5.9	4.1	—	黒色処理		回転糸切		完全実測	No6、I区
2	土師器	环	(14.5)	(6.3)	<5.1>	—	ミガキ→黒色処理		回転糸切		回転実測	Ⅲ区、カマド
3	土師器	环	(15.0)	—	<3.8>	—	ミガキ→黒色処理		墨書「仁」		回転実測	No13、I区
4	土師器	环	(15.0)	—	<4.3>	—	ミガキ→黒色処理		ロクロナデ		回転実測	I区、IV区
5	土師器	环	—	—	—	—	ロクロナデ		刻書		破片実測	覆土
6	土師器	不明	—	—	—	—	ロクロナデ		墨書		破片実測	I区
7	土師器	碗	(12.6)	(7.0)	<5.3>	—	ミガキ→黒色処理		回転糸切→付高台、ミガキ→黒色処理		完全実測	No6
8	土師器	碗	(15.5)	—	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理		回転糸切→付高台		完全実測	Ⅱ区、EWベルト
9	土師器	碗	(23.2)	—	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理		墨書「加」		回転実測	Ⅳ区、SNベルト
10	土師器	皿	(12.7)	—	<2.4>	—	ミガキ→黒色処理		回転糸切→付高台		完全実測	No7
11	土師器	皿	(13.3)	(6.3)	<3.3>	—	ミガキ→黒色処理		回転糸切→付高台		完全実測	EWベルト
12	須恵器	环	12.7	5.9	3.8	—	ミガキ		回転糸切		完全実測	Ⅳ区
13	須恵器	环	(13.3)	5.9	4.6	—	ロクロナデ		回転糸切		完全実測	Ⅱ区、Ⅲ区、EWベルト
14	須恵器	环	(14.0)	5.8	4.3	—	ロクロナデ		回転糸切		完全実測	I区、IV区
15	須恵器	环	14.2	6.6	4.2	—	ロクロナデ		回転糸切		完全実測	Ⅱ区

第133表 H 94号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
16	須恵器	坏	(14.9)	-	-	<3.9>	-	墨書	回転実測	Ⅲ区	
17	須恵器	坏蓋	-	-	-	<1.2>	-	つまみ貼付	完全実測	No11	
18	須恵器	坏蓋	-	-	-	<2.7>	-	回転ヘラケズリ、つまみ貼付	回転実測	Ⅱ区、Ⅳ区	
19	土師器	ロクロ甕	(5.2)	-	-	<9.5>	-	ケズリ	破片実測	No21、カマド	
20	土師器	ロクロ甕	16.4	-	-	<16.9>	-	ケズリ	完全実測	No8、Ⅰ区、Ⅱ区、ベルト	
21	土師器	武蔵甕	(18.9)	-	-	<8.2>	-	ケズリ	回転実測	覆土	
22	土師器	武蔵甕	(19.5)	-	-	<7.1>	-	ケズリ	回転実測	Ⅳ区	
23	土師器	ロクロ甕	(24.6)	-	-	<7.7>	-	ナデ	回転実測	No25	
24	土師器	ロクロ甕	-	4.6	-	<16.8>	-	ケズリ	完全実測	No19、26、Ⅱ区、カマド、EW ベルト	
25	土師器	ロクロ甕	-	6.3	-	<3.5>	-	回転糸切	完全実測	Ⅰ区	
26	土師器	甕	-	(4.4)	-	<5.5>	-	ケズリ	回転実測	覆土	
27	須恵器	甕	(56.6)	-	-	<16.5>	-	櫛描波状文、横走沈線文	回転実測	Ⅱ区、ベルト	
28	須恵器	甕	-	(18.8)	-	<7.3>	-	底部～周縁ヘラケズリ、ミガキ	回転実測	No6、SN ベルト	
29	須恵器	凸帯文付四耳壺	-	-	-	<5.2>	-	ロクロナデ	破片実測	Ⅰ区	
30	須恵器	壺	-	(11.5)	-	<2.6>	-	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	No20	
31	灰釉陶器	皿	-	(7.7)	-	<1.9>	-	回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	No17	
32	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	L(r2) 燃糸単軸絡糸体	破片実測・拓本	Ⅰ区	
33	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	L(r2) 燃糸単軸絡糸体	破片実測・拓本	Ⅲ区	
34	弥生土器	壺	-	-	-	<3.8>	-	沈線文、H33-12と接合、H107-22と同一個体	破片実測・拓本	Ⅱ区	
35	石器	編物石	10.1	6.1	1.9	134.1	1.9	沈線文、両側に挟り	完全実測	Ⅰ区	
36	鉄器	刀子	<6.7>	<1.2>	<0.3>	<8.68>	<0.3>	関部、柄端欠損	完全実測	No5	
37	鉄製品	角釘	<5.3>	<0.5>	<0.35>	<8.65>	<0.35>	先端部欠損	完全実測	No4	

第134表 H 95号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	-	(8.8)	-	<3.2>	-	黒色処理	ケズリ	回転実測	N区
2	須恵器	坏	-	(6.0)	-	<2.6>	-	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	覆土
3	須恵器	坏	-	-	-	-	-	ロクロナデ	墨書	破片実測	覆土
4	須恵器	坏蓋	-	-	-	<2.8>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全実測	覆土
5	土師器	甕	(20.2)	-	-	<11.5>	-	ハケメ	ケズリ	回転実測	覆土
6	土師器	甕	(20.2)	-	-	<12.0>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
7	土師器	甕	(20.6)	-	-	<9.3>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
8	土師器	甕	(18.0)	-	-	<6.0>	-	ミガキ	ナデ	回転実測	覆土、ケン
9	土師器	甕	(22.4)	-	-	<8.1>	-	ハケメ、ミガキ	ケズリ	回転実測	覆土
10	土師器	甕	-	4.8	-	<2.7>	-	剥落	ナデ、孔φ2.5	完全実測	覆土
11	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土
12	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土
13	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	L(r2) 燃糸単軸絡糸体		破片実測・拓本	覆土
14	石製品	白玉	1.3	1.4	0.8	2.13	0.8	滑石、孔φ0.25		完全実測	床
15	石器	磨石	<10.6>	<4.8>	<2.8>	<128.0>	<2.8>	下部裏面欠損		完全実測	覆土

第135表 H 96号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	碗	—	(12.8)	—	<4.5>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	No10
2	須恵器	有台坏	—	—	(9.4)	<1.4>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	No6
3	須恵器	甕	(18.8)	—	—	<7.6>	—	当具痕→ロクロナデ	平行叩目→ロクロナデ	回転実測	No5
4	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	No9
5	灰釉陶器	長頸壺	—	—	—	<6.8>	—	施釉	施釉	回転実測	No2

第136表 H 97号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	10.6	—	10.9	5.2	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	覆土
2	土師器	有段口縁坏	12.4	—	13.3	7.6	—	ミガキ	ケズリ	完全実測	カマド
3	土師器	高坏	—	—	—	<5.1>	—	ナデ	ミガキ、透かし有	破片実測	床
4	須恵器	坏	13.1	—	5.2	3.5	—	火漉	右回転糸切、火漉	完全実測	覆土
5	須恵器	坏	(13.5)	—	5.8	(4.0)	—	ロクロナデ	右回転糸切、墨書「仁」	回転実測	No1
6	須恵器	坏	(13.6)	—	—	<2.8>	—	ロクロナデ	墨書「仁」	回転実測	床
7	須恵器	坏	(14.2)	—	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No2
8	土師器	甕	(12.8)	—	—	<8.8>	—	ナデ	器面剥落	回転実測	カマド
9	土師器	武蔵甕	—	—	4.6	<2.9>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No3、カマド
10	土師器	甕	—	—	(5.8)	<2.8>	—	ナデ	ケズリ、孔φ(3.4)	回転実測	覆土

第137表 H 98号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	—	—	(6.2)	<2.0>	—	ミガキ	右回転糸切、底部～周縁ヘラケズリ	回転実測	覆土
2	須恵器	坏	14.0	—	6.0	4.1	—	ロクロナデ	右回転糸切、墨書「仁」	回転実測	No1
3	須恵器	坏	14.4	—	6.2	3.9	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
4	須恵器	坏蓋	—	—	—	<1.6>	—	ロクロナデ	つまみ貼付	完全実測	覆土
5	土師器	甕	—	—	11.0	<5.3>	—	ナデ	ミガキ、木葉痕	回転実測・拓本	覆土
6	土師器	甕	—	—	—	<3.9>	—	ナデ	ミガキ	回転実測	覆土
7	土師器	壺	—	—	8.0	<4.5>	—	器面剥落	磨耗	回転実測	覆土
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	L(r2) 燃糸単軸絡条体		破片実測・拓本	覆土

第138表 H 99号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	—	—	5.0	<1.5>	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、黒色処理	完全実測	覆土
2	土師器	碗	14.8	—	7.4	5.2	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	覆土
3	緑釉陶器	碗	—	—	—	—	—	ロクロナデ、施釉	ロクロナデ、施釉	破片実測	覆土
4	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	覆土
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	L(r2) 燃糸単軸絡条体		破片実測・拓本	覆土
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	L(r2) 燃糸単軸絡条体		破片実測・拓本	覆土
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	覆土

第 139 表 H 100 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	重量等	重量等				
1	土師器	坏	12.1	5.0	3.6	—	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	カマド	
2	土師器	坏	12.3	5.2	3.6	—	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No2	
3	土師器	坏	12.3	6.4	3.6	—	—	暗文→黒色処理	回転糸切、墨書、煤付着	完全実測	No9	
4	土師器	坏	(12.4)	5.7	3.2	—	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No13、カマド	
5	土師器	坏	12.6	5.2	3.5	—	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土	
6	土師器	坏	12.6	5.4	3.6	—	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No7	
7	土師器	坏	—	5.8	<2.9>	—	—	暗文→黒色処理	回転糸切、煤付着	完全実測	S 側	
8	土師器	碗	14.4	8.1	5.0	—	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No10	
9	土師器	碗	15.3	8.5	5.5	—	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No1	
10	土師器	碗	(15.0)	—	<4.7>	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	N 側	
11	土師器	碗	—	(7.4)	<1.9>	—	—	暗文→黒色処理	付高台	回転実測	覆土	
12	土師器	皿	(17.8)	(5.0)	3.1	—	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切、周縁回転ヘラケズリ	回転実測	H95	
13	土師器	高坏	—	(11.1)	<7.6>	—	—	ナデ	ミガキ	完全実測	H99E 側	
14	須恵器	坏	—	(5.8)	<2.2>	—	—	ロクロナデ	回転糸切、火礫	回転実測	カマド、S 側	
15	灰釉陶器	碗	(17.8)	—	<5.7>	—	—	施釉	回転ヘラケズリ、施釉	回転実測	カマド、M7	
16	土師器	ロクロ口甕	(21.2)	—	<15.4>	—	—	当具痕→ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
17	土師器	壺	(14.4)	(12.0)	(21.9)	—	—	当具痕→ナデ	底部～周縁ヘラケズリ、平行叩目	回転実測	No12、カマド、S 側	
18	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	口唇部刻目、条痕	—	破片実測・拓本	覆土	
19	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	条痕	—	破片実測・拓本	覆土	

第 140 表 H 101 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			内面	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	重量等	重量等				
1	土師器	坏	(12.6)	5.3	3.9	—	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV 区	
2	土師器	坏	(12.6)	(6.2)	3.1	—	—	ミガキ→暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	IV 区	
3	土師器	坏	—	6.0	<1.7>	—	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	IV 区	
4	須恵器	坏	(9.6)	—	<4.2>	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測・拓本	II 区	
5	須恵器	有台坏	12.8	6.2	3.5	—	—	火礫	右回転糸切、火礫	完全実測	No5	
6	須恵器	坏	(14.5)	7.2	5.6	—	—	火礫	火礫	完全実測	No4、I 区、II 区	
7	須恵器	坏	—	5.9	<1.3>	—	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	I 区	
8	須恵器	坏蓋	(18.2)	—	<2.1>	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	IV 区	
9	土師器	甕	(10.4)	4.9	8.5	—	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No6	
10	土師器	甕	(13.2)	—	<5.6>	—	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No6、H99	
11	土師器	甕	(19.2)	—	<9.2>	—	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I 区、M7	
12	土師器	甕	(22.2)	—	<8.6>	—	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No12、II 区、H98、M7	
13	土師器	甕	—	3.1	<7.6>	—	—	ナデ	ナデ	完全実測	No2、I 区	
14	土師器	甕	—	(4.6)	<5.2>	—	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No7	
15	土師器	壺	—	4.5	<5.3>	—	—	ロクロナデ	底部～周縁ヘラケズリ	完全実測	覆土	
16	須恵器	壺	(6.6)	—	<2.8>	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I 区、II 区	
17	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	波状口縁、波頂部に挟り	—	破片実測・拓本	I 区、II 区	
18	石器	砥石	<7.3>	<6.3>	<3.6>	<236.5>	—	上部が折れた後も砥石として使用、使用面 5	—	完全実測	I 区	
19	石製品	石製模造品	<5.2>	<3.0>	<0.6>	<11.1>	—	未製品	—	完全実測	II 区	
20	鉄器	刀子	<16.0>	<1.6>	<0.4>	<14.4>	—	柄に木質残存	—	完全実測	No13	

第141表 H102号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	備考		
1	土師器	環	9.4	6.2	2.3	—	ロクロナデ	右回転糸切		完全実測	No1		
2	土師器	環	—	(5.4)	<1.9>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切		回転実測	IV区		
3	土師器	環	—	8.0	<3.0>	—	ミガキ→黒色処理	底部～周縁ヘラケズリ		回転実測	II区		
4	須恵器	環	14.0	7.0	4.0	—	火禱	火禱		回転実測	II区		
5	須恵器	環	—	7.4	<1.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	I区		
6	須恵器	甕	—	—	<8.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	IV区		
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部刻目			破片実測・拓本	ベルト		
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(r)2 燃系単軸絡条体			破片実測・拓本	I区		
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(r)2 燃系単軸絡条体			破片実測・拓本	IV区		
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(r)2 燃系単軸絡条体			破片実測・拓本	IV区		
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	中期後半栗林式、櫛描波状文、垂下文			破片実測・拓本	IV区		
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	L(r)2 燃系単軸絡条体			破片実測・拓本	IV区		
13	石器	砥石	<7.5>	<6.1>	<6.0>	<355.54>	上下欠損、砥面数4、正面に種状の使用痕			完全実測	No2		
14	鉄器	長頸鏃	<8.4>	<0.7>	<0.5>	<5.93>	両端欠損			完全実測	No3		
15	鉄製品	鉸具	5.1	4.3	0.7	23.78	断裂箇所あり			完全実測	覆土		
16	鉄製品	不明	3.7	3.1	0.3	6.35	断裂箇所あり			完全実測	IV区		

第142表 H103号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面	備考		
1	土師器	北武蔵型環	(13.9)	—	<3.8>	—	ナデ	ケズリ		回転実測	カマド		
2	土師器	畿内系暗文環	16.4	—	<4.1>	—	暗文	ケズリ		回転実測	I区、II区		
3	土師器	畿内系暗文環	—	—	—	—	暗文	ケズリ		破片実測	床		
4	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ	ケズリ、ミガキ		破片実測	床		
5	土師器	環	—	—	—	—	黒色処理	墨書		破片実測	カマド内		
6	須恵器	環	(13.5)	(6.8)	(3.9)	—	ロクロナデ、火禱	回転糸切、火禱		完全実測	IV区、ベルト		
7	須恵器	環	(13.8)	(6.7)	(3.8)	—	ロクロナデ、火禱	回転糸切、火禱		回転実測	床		
8	須恵器	環	(13.8)	(8.4)	(3.8)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切		回転実測	覆土		
9	須恵器	環	(13.9)	(8.4)	(4.3)	—	ロクロナデ、火禱	回転ヘラ切、火禱		回転実測	床		
10	須恵器	環	(14.0)	(8.0)	(3.9)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切		回転実測	覆土		
11	須恵器	環	14.1	6.4	3.8	—	ロクロナデ、火禱	回転糸切、火禱		完全実測	No5		
12	須恵器	環	—	(6.7)	<1.0>	—	ロクロナデ	回転糸切		回転実測	床		
13	須恵器	環	—	7.0	<2.7>	—	ロクロナデ、火禱	回転糸切、火禱		完全実測	覆土		
14	須恵器	環	—	(8.0)	<1.0>	—	ナデ	回転ヘラ切		回転実測	II区		
15	須恵器	環	—	—	—	—	—	回転ヘラ切、刻書		破片実測	カマド		
16	須恵器	有台環	(14.3)	(8.7)	(4.8)	—	ロクロナデ	付高台		回転実測	床		
17	須恵器	環蓋	(13.9)	—	<2.0>	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ		回転実測	床		
18	須恵器	環蓋	(14.5)	—	(3.3)	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付、墨書		完全実測	No7		
19	須恵器	環蓋	(15.9)	—	<2.4>	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ、火禱		回転実測	覆土		
20	須恵器	環蓋	16.7	—	3.3	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付		完全実測	No8		
21	灰釉陶器	長頸壺	(10.7)	—	<1.9>	—	施釉	施釉		回転実測	II区		

第143表 H103号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
22	灰釉陶器	碗 or 皿	—	(7.2)	<1.3>	—	ロクロナデ	付高台	回転実測	II区	II区	
23	青磁	碗	—	—	—	—	施釉	施釉	破片実測	II区	II区	
24	土師器	甕	(13.5)	—	<6.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No4	No4	
25	土師器	武蔵甕	(21.0)	(5.3)	<26.0>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No6、床、カマド内	No6、床、カマド内	
26	土師器	武蔵甕	(21.6)	—	<8.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド内	カマド内	
27	土師器	武蔵甕	—	(5.2)	<4.8>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	II区	II区	
28	土師器	武蔵甕	—	(7.0)	<5.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	II区	
29	須恵器	甕	(21.2)	—	<4.0>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド	カマド	
30	須恵器	甕	—	—	<7.5>	—	ハケメ?、ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土	覆土	
31	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	II区	II区	
32	弥生土器	鉢	—	—	—	—	R[12] 燃糸単軸絡条体	—	破片実測・拓本	覆土	覆土	
33	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部に沈線、刻目	—	破片実測・拓本	覆土	覆土	
34	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文、口唇部にも施文	—	破片実測・拓本	III区	III区	
35	弥生土器	鉢	—	—	—	—	横位沈線、L[r2] 燃糸、赤彩	—	破片実測・拓本	床	床	
36	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部に刻目	—	破片実測・拓本	III区	III区	
37	弥生土器	甕	—	—	—	—	隆帯に刻目?	—	破片実測・拓本	IV区	IV区	
38	弥生土器	甕	—	—	—	—	L[r2] 燃糸単軸絡条体	—	破片実測・拓本	IV区	IV区	
39	弥生土器	甕	—	—	—	—	L[r2] 燃糸単軸絡条体	—	破片実測・拓本	I区	I区	
40	弥生土器	甕	—	—	—	—	L[r2] 燃糸単軸絡条体	—	破片実測・拓本	カマド内	カマド内	
41	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	I区	I区	
42	弥生土器	甕	—	—	—	—	L[r2] 燃糸単軸絡条体	—	破片実測・拓本	カマド内	カマド内	
43	弥生土器	壺	—	—	—	—	R[L2] 縄文、波状沈線文、栗林式	—	破片実測・拓本	II区	II区	
44	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文	—	破片実測・拓本	覆土	覆土	
45	弥生土器	壺	—	—	—	—	R[L2] 縄文、沈線文、栗林式	—	破片実測・拓本	床	床	
46	石器	打製石斧	<7.0>	<6.6>	<2.0>	<111.0>	基部欠損、刃部に摩滅痕	—	完全実測	覆土	覆土	
47	石器	編物石	<5.3>	<4.9>	<1.2>	<49.0>	下部欠損、使用痕有り	—	完全実測	覆土	覆土	
48	石器	編物石	11.4	4.0	2.6	110.0	—	—	完全実測	覆土	覆土	
49	石器	素材	3.8	2.6	0.8	8.0	右製模造品の素材	—	完全実測	覆土	覆土	
50	鉄器	刀子	<4.1>	<0.9>	<0.3>	<2.82>	両端欠損	—	完全実測	床	床	
51	鉄器	刀子	<7.9>	<1.0>	<0.4>	<7.44>	両端欠損、木質残る	—	完全実測	I区	I区	
53	鉄器	刀子	<3.9>	<1.0>	<0.3>	<2.73>	両端欠損、同一個体	—	完全実測	床	床	
			<3.6>	<0.8>	<1.51>				完全実測			

第144表 H104号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	11.8	4.3	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV区、カマド	IV区、カマド	
2	土師器	環	(11.8)	5.5	3.7	—	暗文状へラ描文字「令」→黒色処理	右回転糸切	完全実測	I区、床	I区、床	
3	土師器	環	12.2	5.4	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	No7	No7	
4	土師器	環	(12.2)	(6.2)	(3.4)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	III区	III区	
5	土師器	環	12.3	6.0	3.8	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No2	No2	

第145表 H104号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
6	土師器	坏	(12.4)	5.8	3.7	—	右回転糸切	完全実測	床				
7	土師器	坏	(12.8)	5.7	4.2	—	ミガキ→黒色処理	完全実測	I区、カマド、H25				
8	土師器	坏	(13.0)	(6.0)	(4.1)	—	右回転糸切	回転実測	No9、IV区				
9	土師器	坏	—	(6.0)	<21.0>	—	ミガキ→黒色処理	回転実測	I区、II区				
10	土師器	坏	—	—	—	—	暗文→黒色処理	破片実測	II区				
11	土師器	碗	—	6.4	<3.6>	—	付高台	完全実測	No6				
12	土師器	碗	—	7.2	<2.8>	—	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	No4				
13	土師器	碗	—	7.8	<2.4>	—	付高台	完全実測	No5、H47				
14	土師器	碗	—	8.6	<2.8>	—	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	III区				
15	須恵器	有台坏	—	(11.8)	<1.7>	—	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	覆土				
16	灰釉陶器	碗	(16.0)	—	<3.8>	—	施釉	回転実測	IV区				
17	灰釉陶器	碗	—	8.2	<2.4>	—	施釉	完全実測	No1				
18	灰釉陶器	碗	—	(8.4)	<2.0>	—	施釉	回転実測	II区				
19	土師器	ロクロ甕	(21.2)	—	<9.1>	—	ナデ	回転実測	III区、H105				
20	土師器	ロクロ甕	—	9.3	<2.8>	—	ハケメ	完全実測	No3、II区				
21	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	破片実測・拓本	IV区				
22	須恵器	壺	—	8.9	<3.5>	—	平行叩目	完全実測	カマド				
23	灰釉陶器	壺	—	(13.2)	<13.0>	—	回転ヘラケズリ→付高台、下半部回転ヘラケズリ	回転実測	床				

第146表 H105号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
1	土師器	坏	11.1	5.9	3.9	—	右回転糸切	完全実測	No5				
2	土師器	坏	11.1	6.1	4.0	—	右回転糸切	完全実測	覆土				
3	土師器	坏	11.5	5.8	4.0	—	右回転糸切	完全実測	No9				
4	土師器	坏	11.5	6.2	4.0	—	右回転糸切	完全実測	覆土				
5	土師器	坏	11.8	6.2	3.9	—	右回転糸切	完全実測	No27				
6	土師器	坏	12.0	5.0	2.6	—	回転糸切	回転実測	No20				
7	土師器	坏	15.6	7.4	4.6	—	ヘラケズリ	完全実測	No2				
8	土師器	碗	11.9	6.8	5.8	—	回転糸切→付高台	完全実測	H25				
9	土師器	碗	(13.6)	—	<4.1>	—	回転糸切、高台欠損	完全実測	No8				
10	土師器	碗	14.1	(7.2)	5.2	—	回転糸切→付高台	完全実測	覆土				
11	土師器	碗	14.2	—	<4.9>	—	高台欠損、墨書「？」	完全実測	No17				
12	土師器	碗	(14.4)	7.9	6.2	—	回転糸切→付高台	完全実測	H26				
13	土師器	碗	(15.1)	(7.8)	6.1	—	回転糸切→付高台	完全実測	No1				
14	土師器	碗	—	7.9	<2.6>	—	回転糸切→付高台	完全実測	覆土				
15	須恵器	坏	13.8	6.5	3.8	—	右回転糸切	完全実測	No3				
16	灰釉陶器	碗	(13.2)	6.8	4.5	—	回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	覆土				
17	灰釉陶器	碗	(16.6)	7.8	5.7	—	回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉	完全実測	No6				
18	灰釉陶器	皿	11.8	5.3	2.2	—	右回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉	完全実測	No4				
19	灰釉陶器	皿	14.2	6.7	3.5	—	右回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉、輪花	完全実測	覆土				

第 146 表 H105 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
20	土師器	甕	(11.0)	(6.6)	<12.5>	-	ナデ	ハケメ	回転実測	No3、No22、カマド			
21	土師器	甕	(16.4)	-	<8.6>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	No11			
22	須恵器	甕	-	-	-	-	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	覆土			
23	須恵器	壺	-	8.3	<7.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土			
24	須恵器	壺	-	(4.4)	<5.5>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土			
25	須恵器	壺	-	-	<11.1>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土			
26	灰釉陶器	壺	-	8.3	<7.0>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台、施釉	回転実測	覆土			
27	灰釉陶器	壺	-	(8.8)	<10.1>	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台、施釉	回転実測	No12			
28	石器	磨・敲石	7.8	6.4	3.8	236.5	磨面1、縁辺に敲打痕		完全実測	覆土			
29	石器	磨・敲石	<8.6>	<10.8>	<4.3>	<478.0>	上部欠損、磨面2、端部に敲打痕		完全実測	覆土			
30	石器	石核	<4.2>	<7.6>	<2.1>	<63.2>	頁岩、下部欠損		完全実測	覆土			

第 147 表 H106 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
1	土師器	畿内系暗文坏	(14.6)	(7.8)	<4.1>	-	放射暗文	ケズリ	回転実測	カマド			
2	土師器	畿内系暗文坏	-	-	-	-	暗文(放射+螺旋)	ケズリ	破片実測	覆土			
3	土師器	武蔵甕	(23.2)	-	<11.6>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド、H57			
4	土師器	武蔵甕	(25.0)	-	<8.7>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No1			
5	土師器	甕	-	6.9	<5.4>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土			
6	土師器	甕	-	9.0	<1.2>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土			
7	須恵器	甕	-	(12.8)	<13.0>	-	ナデ	平行叩目	回転実測	No4			
8	須恵器	甕	-	-	-	-	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	覆土			
9	弥生土器	甕	-	-	-	-	波頂部押捺		破片実測・拓本	覆土			
10	石器	磨石	<5.7>	<2.4>	<1.3>	<25.0>	下部欠損、全体に擦痕		完全実測	覆土			

第 148 表 H107 号竪穴建物出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
1	土師器	坏	(11.4)	(4.5)	4.0	-	暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	II区			
2	土師器	坏	(12.0)	5.1	3.7	-	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No9、SNベルト			
3	土師器	坏	12.0	5.5	3.6	-	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No10、II区			
4	土師器	坏	12.2	4.9	3.5	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	II区、SNベルト			
5	土師器	坏	12.3	(5.5)	3.8	-	ロクロナデ	右回転糸切、摩耗	完全実測	床			
6	土師器	坏	(12.4)	6.1	3.4	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	N土坑			
7	土師器	坏	(12.5)	5.1	4.2	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No2、IV区			
8	土師器	坏	(12.6)	6.0	3.9	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切→ナデ	完全実測	II区			
9	土師器	坏	(13.0)	6.6	4.7	-	黒色処理	右回転糸切	完全実測	I区、IV区			
10	土師器	坏	-	4.5	<1.5>	-	ロクロナデ	右回転糸切、底部に刻書	完全実測・拓本	II区			
11	土師器	坏	-	6.5	<2.2>	-	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No16			
12	土師器	坏	-	-	-	-	ロクロナデ	墨書	破片実測	III区			

第148表 H107号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
13	土師器	坏	—	—	—	—	ロクロナデ	墨書	破片実測	SNベルト			
14	土師器	碗	14.2	—	<5.1>	—	黒色処理→ナデ	付高台、墨書	完全実測	No13、N土坑			
15	土師器	碗	15.6	8.3	5.4	—	ナデ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	S土坑、N土坑			
16	土師器	碗	—	6.5	<2.4>	—	ミガキ→黒色処理	付高台	完全実測	No19			
17	土師器	碗	—	7.5	<2.3>	—	ミガキ→黒色処理	付高台	完全実測	N土坑			
18	灰釉陶器	碗	(16.4)	(8.8)	5.4	—	施釉(つけがけ)	付高台→施釉(つけがけ)	回転実測	II区、SNベルト			
19	土師器	ロクロ甕	—	(6.0)	<5.3>	—	ナデ	回転糸切→胴下半ナデ→ケズリ	回転実測	IV区			
20	須恵器	甕	—	(12.6)	<8.6>	—	ロクロナデ	ケズリ→付高台	回転実測	No10			
21	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	櫛描波状文(6本)	破片実測・拓本	SNベルト、III区			
22	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線文、H33-12、H94-34と同一個体	—	破片実測・拓本	I区			
23	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケス、ミガキ、縄文L(R2)、横位沈線、栗林式	—	破片実測・拓本	I区			
24	鉄器	刀子	<10.8>	<1.3>	<0.4>	<12.55>	両端欠損、木質残る	—	完全実測	No6			
25	鉄器	刀子	<11.0>	<1.7>	<0.5>	<14.42>	両端欠損	—	完全実測	No8			
26	鉄製品	不明	5.2	3.3	0.9	12.68	鉾状の突起	—	完全実測	No1			

第149表 H108号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
1	土師器	坏	(11.2)	(5.4)	4.1	—	ナデ	回転糸切	回転実測	焼土			
2	土師器	坏	(11.3)	5.0	3.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	焼土			
3	土師器	坏	11.4	5.2	3.3	—	煤付着	右回転糸切、煤付着	完全実測	No19			
4	土師器	坏	11.9	4.4	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	焼土			
5	土師器	坏	(11.9)	5.2	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	III区			
6	土師器	坏	(12.0)	(5.4)	4.1	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	回転実測	No14、IV区			
7	土師器	坏	(12.0)	(6.0)	3.5	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	III区			
8	土師器	坏	(12.0)	—	<2.6>	—	ナデ	墨書	回転実測	II区			
9	土師器	坏	12.1	5.1	2.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	床			
10	土師器	坏	12.1	5.4	3.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8、床			
11	土師器	坏	(12.3)	5.9	3.4	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	I区			
12	土師器	坏	12.3	6.7	3.4	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No1			
13	土師器	坏	(12.4)	(5.4)	3.8	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	No18			
14	土師器	坏	12.5	5.7	3.9	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No6			
15	土師器	坏	12.7	5.4	4.3	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No3			
16	土師器	杓状坏	12.7	5.5	3.3	—	黒色処理	右回転糸切、墨書	完全実測	覆土			
17	土師器	坏	12.7	6.0	3.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No10、I区			
18	土師器	杓状坏	13.0	5.2	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No7			
19	土師器	杓状坏	(13.0)	6.9	4.1	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No16			
20	土師器	坏	—	(8.0)	<3.9>	—	暗文→黒色処理	ケズリ	回転実測	覆土			
21	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	II区			
22	土師器	碗	(14.8)	6.2	5.4	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No9、No12			
23	灰釉陶器	碗	(15.7)	7.6	4.9	—	施釉	回転ヘラケケズリ→付高台、施釉	完全実測	No21			

第150表 H108号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
24	緑釉陶器	碗	(13.6)	(7.0)	—	3.8	—	付高台、施釉、輪花	回転実測	No20	
25	土師器	ロクロ甕	—	—	—	<5.8>	—	下半部ケズリ	回転実測	I区、カマド	
26	須恵器	甕	—	(21.6)	—	<6.4>	—	平行叩目	回転実測	I区	
27	須恵器	甕	—	—	—	—	—	平行叩目	破片実測・拓本	III区	
28	須恵器	甕	—	—	—	—	—	平行叩目	破片実測・拓本	No22	
29	須恵器	甕	—	—	—	—	—	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	
30	灰釉陶器	壺	—	—	7.2	<16.9>	—	回転糸切→付高台、施釉	完全実測	No13、No17	
31	石製品	磨石	<12.1>	<7.5>	<1.2>	<146.3>	—	側面欠損、磨面1	完全実測	I区	

第151表 H109号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(13.0)	(4.6)	—	3.3	—	回転糸切	回転実測	III区	
2	土師器	坏	—	(5.6)	—	<2.1>	—	右回転糸切	回転実測	床	
3	土師器	坏	—	(6.9)	—	<1.5>	—	回転糸切→ヘラケズリ	回転実測	床	
4	土師器	碗	—	(7.9)	—	<2.2>	—	付高台	回転実測	No3	
5	土師器	碗	—	—	—	<2.6>	—	付高台	回転実測	IV区	
6	土師器	碗	—	—	—	<4.2>	—	回転糸切→付高台	回転実測	III区	
7	須恵器	坏	—	(5.4)	—	<2.5>	—	ヘラケズリ、火礫	回転実測	No1	
8	須恵器	坏	—	(8.0)	—	<3.1>	—	回転糸切、火礫	回転実測	III区	
9	須恵器	有台坏	—	(10.6)	—	<2.7>	—	回転糸切→付高台	回転実測	II区	
10	須恵器	蓋	—	—	—	<1.8>	—	回転ヘラケズリ	完全実測	IV区	
11	灰釉陶器	碗	—	(6.6)	—	<1.8>	—	回転ヘラケズリ→付高台、施釉(つけかけ)	回転実測	床	
12	灰釉陶器	碗	—	(8.5)	—	<1.9>	—	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	II区	
13	灰釉陶器	碗	—	—	—	—	—	施釉	破片実測	I区	
14	緑釉陶器	碗	—	(9.0)	—	<1.7>	—	付高台→施釉	回転実測	床	
15	土師器	ロクロ甕	(11.3)	—	—	<5.0>	—	ロクロナデ	回転実測	床	
16	土師器	ロクロ甕	(21.2)	—	—	<9.6>	—	ロクロナデ	回転実測	III区、H111	
17	土師器	壺	(14.9)	—	—	<6.4>	—	ナデ→ミガキ	回転実測	No4	
18	須恵器	凸帯文付四耳壺	—	—	—	—	—	凸帯、耳貼付	破片実測	II区	
19	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	L(r2) 燃糸単軸絡条体	破片実測・拓本	IV区	
20	鉄器	刀子	<6.7>	<2.0>	<0.3>	<9.6>	—	両端欠損	完全実測	カマド	

第152表 H110号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	11.6	6.0	—	3.9	—	回転糸切	完全実測	No5	
2	土師器	坏	(13.0)	(7.0)	—	3.4	—	回転糸切	回転実測	覆土	
3	土師器	坏	13.5	5.2	—	4.5	—	右回転糸切	完全実測	No1	
4	土師器	坏	(15.0)	—	—	5.0	—	ケズリ→ミガキ	回転実測	I区、H109、H111	
5	土師器	坏	(15.6)	—	—	<5.0>	—	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土	

第152表 H110号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
6	土師器	碗	—	7.2	<4.6>	—	—	—	—	—	—	完全実測	I区
7	須恵器	坏	(12.8)	(9.4)	<3.5>	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
8	須恵器	坏	(13.0)	(10.4)	<3.7>	—	—	—	—	—	—	回転実測	I区
9	須恵器	坏	14.0	7.3	4.4	—	—	—	—	—	—	完全実測	I区
10	須恵器	坏	—	(10.0)	<2.2>	—	—	—	—	—	—	回転実測・拓本	I区
11	土師器	ロクロナデ	(11.4)	—	<6.7>	—	—	—	—	—	—	回転実測	I区
12	土師器	武蔵甕	(21.6)	—	<5.8>	—	—	—	—	—	—	回転実測	I区
13	須恵器	甕	—	—	<5.7>	—	—	—	—	—	—	破片実測	I区
14	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測	I区
15	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	覆土

第152表 H111号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	(12.2)	(7.5)	3.8	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
2	土師器	坏	(12.3)	—	<4.6>	—	—	—	—	—	—	回転実測	II区
3	土師器	坏	(12.8)	—	<3.4>	—	—	—	—	—	—	回転実測	床
4	土師器	坏	13.2	5.7	3.8	—	—	—	—	—	—	完全実測	覆土
5	土師器	坏	(14.0)	6.8	3.4	—	—	—	—	—	—	完全実測	II区
6	土師器	坏	(14.2)	(6.6)	4.0	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
7	土師器	坏	(14.9)	7.8	5.0	—	—	—	—	—	—	完全実測	No8
8	土師器	坏	—	(7.0)	<2.2>	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
9	土師器	坏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測	覆土
10	土師器	碗	(14.4)	—	<3.5>	—	—	—	—	—	—	回転実測	床
11	土師器	碗	—	7.8	<2.2>	—	—	—	—	—	—	完全実測	No24
12	土師器	皿	(12.0)	(6.6)	2.7	—	—	—	—	—	—	回転実測	床
13	須恵器	坏	(14.0)	—	<3.7>	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
14	須恵器	坏	(14.6)	(6.6)	4.3	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
15	須恵器	坏	—	(7.0)	<2.1>	—	—	—	—	—	—	回転実測	II区
16	土師器	鉢	(14.0)	—	<7.9>	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
17	土師器	甕	(25.2)	—	<12.2>	—	—	—	—	—	—	回転実測	床
18	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	覆土
19	須恵器	壺	(13.4)	—	<6.9>	—	—	—	—	—	—	回転実測	II区、床
20	須恵器	甗	—	(17.8)	<5.5>	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
21	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	II区
22	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	II区
23	弥生土器	鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	II区
24	石器	磨石	8.2	5.6	4.0	340.0	—	—	—	—	—	完全実測	覆土

第153表 H112号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	-	7.2	<2.5>	-	ロクロナデ	右回転糸切、火礫	回転実測	覆土	
2	須恵器	坏	-	7.8	<1.2>	-	ロクロナデ、火礫	右回転糸切、火礫	完全実測	覆土	
3	灰釉陶器	碗	(13.0)	-	<1.9>	-	施釉	施釉	回転実測	覆土	
4	灰釉陶器	碗	-	5.2	<2.8>	-	施釉	付高台、施釉	回転実測	覆土	
5	土師器	武蔵甕	-	4.0	<6.8>	-	ナデ	ケズリ、底部にへラ記号	回転実測	No1	
6	土師器	武蔵甕	-	5.2	<3.1>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
7	鉄器	刀子	<5.4>	<0.8>	<0.2>	<3.4>	両端欠損		完全実測	覆土	

第154表 H113号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	-	5.0	<1.4>	-	ロクロナデ	墨書	回転実測	I区	
2	土師器	坏	-	7.2	<2.8>	-	ミガキ→黒色処理	へラケズリ	完全実測	Ⅲ区	
3	土師器	坏	-	-	-	-	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	I区	
4	土師器	坏	-	-	-	-	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	II区	
5	土師器	坏	-	-	-	-	ロクロナデ	墨書	破片実測	I区	
6	土師器	碗	-	(6.6)	<2.2>	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	回転実測	II区	
7	土師器	碗	-	6.8	<2.3>	-	ロクロナデ	右回転糸切→付高台	完全実測	II区	
8	土師器	碗	-	7.8	<3.9>	-	ロクロナデ	回転へラケズリ→付高台	回転実測	Ⅲ区	
9	須恵器	坏	12.6	5.8	3.8	-	火礫	火礫	回転実測	IV区	
10	灰釉陶器	碗	18.0	8.4	5.8	-	施釉	施釉	回転実測	II区	
11	灰釉陶器	碗	-	6.6	1.7	-	ロクロナデ	回転へラケズリ→付高台	回転実測	覆土	
12	灰釉陶器	碗	-	(7.0)	<2.2>	-	施釉	回転へラケズリ→付高台、施釉	回転実測	E Wベルト	
13	灰釉陶器	碗 or 皿	-	(7.2)	<1.9>	-	施釉	回転へラケズリ→付高台、施釉	回転実測	II区	
14	土師器	片口鉢	21.4	-	<3.7>	-	ナデ	ナデ	回転実測	覆土	
15	土師器	甕	22.6	-	<5.9>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅲ区	
16	土師器	土鍋	(20.8)	(16.2)	(8.8)	-	ハケナデ	へラナデ	回転実測	II区	
17	土師器	羽釜	-	-	-	-	ナデ	ナデ	破片実測	I区	
18	土師器	羽釜	-	-	-	-	ナデ	ナデ	破片実測	カマド	
19	須恵器	甕	-	-	-	-	ロクロナデ	櫛描波状文	破片実測・拓本	II区	
20	須恵器	壺	-	7.8	2.7	-	ロクロナデ	回転へラケズリ→付高台	回転実測	Ⅲ区	
21	弥生土器	壺	-	-	-	-	半截竹管による沈線文		破片実測・拓本	I区	
22	弥生土器	鉢	-	-	-	-	沈線文、条痕		破片実測・拓本	覆土	
23	弥生土器	甕	-	-	-	-	口唇部押捺(縄文R(1.2)原体)		破片実測・拓本	I区	
24	弥生土器	甕	-	-	-	-	口唇部内外押捺、体部条痕		破片実測・拓本	IV区	
25	弥生土器	鉢	-	-	-	-	浮線文、へらミガキ		破片実測・拓本	II区	
26	弥生土器	甕	-	-	-	-	条痕文		破片実測・拓本	Ⅲ区	
27	弥生土器	壺	-	6.2	<15.0>	-	ナデ	ケズリ、赤彩	回転実測	I区、カマド	
28	石器	砥石	<8.4>	<5.5>	<4.3>	<325.0>	下部欠損、砥面数5		完全実測	覆土	
29	石製品	打製石斧	<7.1>	<7.6>	<2.3>	<154.0>	上部欠損		完全実測	I区	
30	石器	石錐	<2.9>	2.3	0.8	4.3	先端欠損、黒曜石		完全実測	覆土	
31	鉄製品	角釘	5.4	0.5	0.3	3.38	-	-	完全実測	II区	

第155表 H114号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	坏	(13.7)	(6.3)	<4.4>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	覆土		
2	土師器	坏	(14.0)	(6.2)	<4.3>	—	ミガキ	ロクロナデ	回転実測	No4		
3	土師器	坏	—	5.6	<1.9>	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	覆土		
4	土師器	碗	(14.6)	—	<4.8>	—	ミガキ	墨書	回転実測	覆土		
5	土師器	碗	(14.8)	—	<4.9>	—	ロクロナデ	ナデ→付高台	回転実測	No3		
6	土師器	碗	(15.3)	(7.2)	<5.4>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ→付高台	完全実測	覆土		
7	土師器	碗	—	(6.5)	<1.9>	—	ミガキ→黒色処理	付高台・墨書	回転実測	覆土		
8	土師器	碗	—	(9.0)	<3.4>	—	ミガキ	ナデ→付高台	回転実測	覆土		
9	灰釉陶器	碗	—	7.1	<2.8>	—	施釉(つげがけ)	付高台・施釉(つげがけ)	完全実測	No1		
10	土師器	片口鉢	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	破片実測	覆土		
11	土師器	武蔵甕	(13.0)	—	<3.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土		
12	土師器	武蔵甕	(21.3)	—	<12.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド		
13	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目、カキメ	破片実測・拓本	覆土		
14	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	II区		
15	鉄器	刀子	<15.4>	1.5	0.5	<17.23>	一部欠損	—	完全実測	覆土		
16	鉄製品	角釘	<10.3>	<0.6>	<0.5>	<8.75>	頭部欠損	—	完全実測	覆土		
17	鉄製品	角軸	<10.4>	<0.7>	<0.5>	<9.08>	上部欠損	—	完全実測	覆土		

第156表 H115号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	坏	(11.6)	—	<3.1>	—	ミガキ→黒色処理	墨書「？」	回転実測	覆土		
2	土師器	坏	(14.4)	(9.4)	(4.2)	—	ミガキ	ヘラケズリ	回転実測	カマド		
3	土師器	碗	—	7.0	<1.6>	—	ミガキ→黒色処理	付高台、ヘラ記号「-」+刻書「生万」?、ミガキ→黒色処理	完全実測	カマド		
4	須恵器	坏	(12.9)	6.0	4.3	—	火礫	右回転糸切、火礫	完全実測	カマド		
5	須恵器	坏	(13.2)	(6.0)	(3.7)	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	カマド		
6	須恵器	坏	(14.1)	7.2	3.6	—	火礫	右回転糸切、火礫	完全実測	覆土		
7	須恵器	坏蓋	(13.6)	—	<2.4>	—	火礫	回転ヘラケズリ、火礫	回転実測	II区		
8	土師器	武蔵甕	19.7	4.0	26.6	—	ナデ	ケズリ	完全実測	カマド、H113 IV区、H31床		
9	土師器	武蔵甕	19.7	—	<6.1>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	カマド、H31床		
10	土師器	武蔵甕	20.3	4.2	26.8	—	ナデ	ケズリ	完全実測	IV区、カマド		
11	土師器	武蔵甕	20.4	—	<22.9>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土		
12	土師器	甕	—	4.8	<7.4>	—	ナデ	ケズリ、木葉痕	完全実測・拓本	覆土		
13	土師器	武蔵甕	—	(5.2)	<16.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド、H31床		
14	土師器	武蔵甕	—	(6.2)	<7.1>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	覆土		
15	土師器	甕	—	7.2	<3.3>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土		
16	須恵器	甕	—	—	<8.7>	—	当具痕→ナデ	平行叩目	回転実測	カマド		
17	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土		
18	灰釉陶器	壺	—	(9.8)	<4.2>	—	施釉	回転糸切→付高台・施釉	回転実測	覆土		
19	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部押捺(縄文原体?)	—	破片実測・拓本	カマド		
20	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土		

第157表 H115号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
21	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	波状口縁	破片実測・拓本	カマド	
22	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	波状口縁、沈線文	破片実測・拓本	覆土	
23	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	口唇部刻目、条痕	破片実測・拓本	カマド	
24	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	波状口縁、沈線文	破片実測・拓本	覆土	
25	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
26	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	ハラケズリ	破片実測・拓本	覆土	
27	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
28	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
29	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
30	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	条痕文	破片実測・拓本	覆土	
31	弥生土器	壺	-	-	-	-	-	口唇部刻目、沈線文	破片実測・拓本	覆土	

第158表 H116号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(12.7)	(5.6)	(3.8)	-	-	ロクロナデ	右回転糸切、墨書	回転実測	覆土
2	土師器	坏	12.8	6.0	3.9	-	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土
3	土師器	坏	-	6.3	<2.6>	-	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土
4	土師器	碗 or 皿	-	7.8	<1.3>	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	覆土
5	土師器	碗 or 皿	-	(7.9)	<1.7>	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
6	土師器	碗 or 皿	-	8.3	<1.3>	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	覆土
7	土師器	武蔵甕	(21.0)	-	<7.0>	-	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
8	土師器	武蔵甕	-	-	<3.9>	-	-	ナデ	ケズリ、台付	回転実測	覆土
9	土師器	把手	6.0	1.1	1.1	-	-	ナデ		完全実測	覆土

第159表 H117号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(12.2)	(6.7)	(4.1)	-	-	暗文→黒色処理	右回転糸切	回転実測	カマド
2	土師器	坏	(12.6)	(5.8)	(4.1)	-	-	暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド
3	土師器	坏	(12.6)	6.5	4.0	-	-	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No7
4	土師器	坏	(13.0)	6.1	4.8	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全実測	No2
5	土師器	坏	13.1	6.6	4.1	-	-	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切、墨書「左」	完全実測	No27
6	土師器	坏	(13.3)	5.8	3.9	-	-	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	E側
7	土師器	坏	(13.4)	6.4	3.9	-	-	暗文→黒色処理	静止糸切	完全実測	カマド、E側
8	土師器	坏	(13.5)	7.0	4.3	-	-	ミガキ→暗文→黒色処理	静止糸切→ケズリ、墨書、刻書	完全実測	No17
9	土師器	坏	(13.6)	(5.4)	(3.2)	-	-	ミガキ	回転糸切	回転実測	カマド
10	土師器	坏	(14.0)	5.5	4.5	-	-	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No15
11	土師器	坏	(14.0)	7.3	4.4	-	-	暗文→黒色処理	右回転糸切→ケズリ、墨書「左」	完全実測	No26、カマド
12	土師器	坏	(14.6)	6.5	3.9	-	-	暗文→黒色処理	静止糸切	完全実測	No8
13	土師器	坏	-	6.4	<2.2>	-	-	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No11

第160表 H117号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形、調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
14	土師器	坏	—	(6.8)	<3.4>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	カマド	
15	土師器	坏	—	(6.8)	<2.7>	—	暗文→黒色処理	静止糸切	回転実測	カマド	
16	土師器	坏	—	(7.4)	<3.2>	—	暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	E側	
17	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	E側	
18	土師器	碗	(16.5)	—	4.9	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	E側	
19	土師器	碗	(17.5)	—	<8.3>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	カマド	
20	土師器	碗	(19.0)	—	<8.9>	—	ミガキ→黒色処理	底部～周縁ヘラケズリ→付高台	完全実測	No4、カマド	
21	土師器	碗	—	7.8	<2.4>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No1	
22	須恵器	坏	13.4	5.6	4.2	—	見込部に朱墨、火燻	右回転糸切	完全実測	No5、E側	
23	須恵器	坏	(13.4)	(5.4)	4.0	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	カマド	
24	須恵器	坏	13.6	4.8	4.3	—	黒色処理	左回転糸切→黒色処理、底部に刻書	完全実測	No6	
25	土師器	ロクロナデ	(20.0)	—	<7.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド	
26	土師器	ロクロナデ	(21.0)	—	<6.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	E側	
27	土師器	ロクロナデ	—	7.4	<8.6>	—	ロクロナデ	回転糸切→下半部ヘラケズリ	完全実測	No14	
28	土師器	武蔵甕	(19.2)	—	<6.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No3、E側	
29	土師器	武蔵甕	(20.6)	3.7	24.9	—	ハケメ	底部～周縁ヘラケズリ	完全実測	No2、カマド、E側	
30	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	カマド	
31	須恵器	壺	—	10.0	<7.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド	
32	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
33	弥生土器	鉢	—	—	—	—	口唇部押捺、ヘラミガキ	—	破片実測・拓本	E側	
34	弥生土器	甕	—	—	—	—	口唇部レンズ状、沈線文	—	破片実測・拓本	E側	
35	弥生土器	甕	—	—	—	—	口縁部に小突起、口唇部縄文原体押捺	—	破片実測・拓本	E側	
36	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
37	弥生土器	壺?	—	—	—	—	刺突文	—	破片実測・拓本	E側	
38	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
39	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
40	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
41	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
42	弥生土器	鉢	—	—	—	—	ヘラ描文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
43	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線走文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
44	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
45	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
46	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線文、外面赤彩	—	破片実測・拓本	E側	
47	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文	—	破片実測・拓本	E側	
48	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
49	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
50	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜線文、条痕文	—	破片実測・拓本	E側	
51	鉄製品	鉸具	5.3	4.5	1.0	<23.99>	一部欠損	—	完全実測	No13	
52	鉄製品	芋引金具	<6.1>	<1.3>	<0.2>	<9.53>	両端欠損	—	完全実測	No10	
53	鉄製品	鉸	11.6	5.3	0.8	<30.56>	一部欠損	—	完全実測	No9	

第 161 表 H118 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量			成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面		
1	土師器	坏	—	5.6	1.4	—	回転糸切	完全実測	覆土
2	土師器	坏	—	7.6	1.5	—	回転糸切	完全実測	覆土
3	須恵器	坏	(14.0)	(7.2)	<3.6>	—	回転糸切	回転実測	覆土
4	須恵器	坏	(14.1)	8.0	3.5	—	右回転糸切	完全実測	No4
5	須恵器	坏	14.2	7.4	3.9	—	右回転糸切、火礫	完全実測	No3
6	須恵器	坏	(14.3)	(8.5)	<3.4>	—	ロクロナデ	回転実測	覆土
7	須恵器	有台坏	(16.2)	11.3	6.8	—	付高台	完全実測	No5
8	須恵器	有台坏	—	11.6	1.3	—	付高台	完全実測	No6
9	土師器	武蔵甕	11.6	—	<4.5>	—	ケズリ	完全実測	No2
10	土師器	武蔵甕	(21.4)	—	<7.2>	—	ケズリ	回転実測	覆土
11	土師器	武蔵甕	(22.6)	—	<19.3>	—	ケズリ	回転実測	覆土
12	須恵器	甕	—	(15.1)	<6.7>	—	平行叩目	回転実測	No8、カマド
13	須恵器	短頸壺	—	—	<5.3>	—	平行叩目	回転実測	覆土、H39S
14	青磁	碗	—	—	—	—	—	破片実測	覆土
15	弥生土器	土器片円盤	5.5	6.7	1.3	—	ケズリ	完全実測	覆土

第 162 表 H119 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量			成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面		
1	土師器	坏	—	5.2	<2.1>	—	右回転糸切	完全実測	No10
2	土師器	坏	—	5.5	<3.1>	—	右回転糸切	完全実測	I 区
3	土師器	坏	—	5.6	<2.7>	—	右回転糸切、煤付着	完全実測	No6
4	土師器	碗	(14.8)	—	<4.7>	—	回転糸切→付高台	回転実測	No7、Ta1
5	土師器	碗	—	—	<2.7>	—	回転糸切、高台欠損	完全実測	Ⅲ区
6	土師器	盤	(27.8)	—	<9.7>	—	付高台	回転実測	No4
7	灰釉陶器	皿	12.9	6.5	2.6	—	ナデ→施釉、高台内朱墨付着	完全実測	Ta1
8	灰釉陶器	皿	—	(6.8)	<2.0>	—	ナデ→施釉	完全実測	Ⅲ区
9	土師器	武蔵甕	(13.0)	—	<5.1>	—	ロクロナデ	回転実測	No12
10	土師器	武蔵甕	(19.0)	—	<5.8>	—	ケズリ	回転実測	No1、Ta1
11	須恵器	甕	(29.6)	—	<12.0>	—	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区、H107
12	須恵器	甕	—	(18.8)	<7.1>	—	平行叩目、底部→周縁ケズリ	回転実測	No8
13	灰釉陶器	壺	—	—	<5.5>	—	回転ヘラケズリ→施釉	回転実測	I 区、Ta1
14	灰釉陶器	壺	—	—	<6.9>	—	ナデ→施釉	回転実測	I 区

第 163 表 H120 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法 量			成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面		
1	土師器	坏	(13.2)	—	<3.7>	—	煤付着	回転実測	カマド
2	土師器	坏	(14.2)	(5.4)	(4.5)	—	回転糸切	回転実測	カマド
3	土師器	坏	(14.2)	6.2	5.5	—	右回転糸切、煤付着	完全実測	カマド
4	須恵器	坏	(15.2)	—	<3.9>	—	ロクロナデ	回転実測	覆土

第164表 H120号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
5	須恵器	蓋	(14.2)	—	<2.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	回転実測	覆土
6	土師器	武蔵甕	(11.8)	—	<5.9>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド
7	土師器	武蔵甕	(19.2)	—	<15.4>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド
8	土師器	武蔵甕	(20.2)	—	<6.3>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド
9	土師器	武蔵甕	—	—	<6.1>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全実測	カマド
10	土師器	武蔵甕	—	—	<5.2>	—	ナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転実測	カマド
11	弥生土器	壺	—	—	—	—	条痕	—	—	—	破片実測・拓本	カマド

第165表 H121号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	—	(4.8)	<2.1>	—	暗文→黒色処理	—	右回転糸切	—	回転実測	I区
2	土師器	坏	—	6.2	<2.0>	—	暗文→黒色処理	—	右回転糸切	—	完全実測	No2
3	土師器	坏	—	(7.2)	<3.0>	—	黒色処理	—	回転糸切	—	回転実測	No3、SNベルト
4	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	—	墨書	—	破片実測	I区
5	土師器	碗	(16.5)	—	<5.1>	—	ミガキ	—	ロクロナデ	—	回転実測	SNベルト
6	土師器	碗	—	7.0	<2.3>	—	暗文→黒色処理	—	付高台	—	完全実測	No1
7	須恵器	有台坏	—	(10.4)	<2.6>	—	ロクロナデ	—	付高台	—	回転実測	IV区
8	灰釉陶器	碗	(15.1)	—	<3.7>	—	施釉	—	施釉	—	回転実測	II区
9	灰釉陶器	碗	—	(6.8)	<1.5>	—	—	—	付高台、施釉	—	回転実測	II区
10	灰釉陶器	皿	(13.9)	—	<2.0>	—	施釉	—	ロクロナデ	—	回転実測	I区
11	土師器	甕(把手付?)	(10.9)	(3.9)	<10.0>	—	ナデ	—	ケズリ	—	回転実測	床、Q12、Q13
12	土師器	ロクロ甕	(15.3)	—	<10.4>	—	ロクロナデ	—	ロクロナデ	—	回転実測	I区、Q12、Q13
13	土師器	ロクロ甕	—	(9.3)	<3.7>	—	ロクロナデ	—	ロクロナデ	—	回転実測	I区
14	土師器	羽釜	(33.1)	—	<17.9>	—	ナデ	—	ケズリ	—	回転実測	II区~IV区、EWベルト
15	白磁	碗	—	—	—	—	玉縁	—	—	—	破片実測	覆土
16	石器	磨石	4.5	4.0	2.6	56.4	全体に磨り	—	—	—	完全実測	III区

第166表 H122号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	高坏	13.6	8.8	7.5	—	ミガキ→黒色処理	—	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No7
2	土師器	高坏	—	8.7	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理	—	ケズリ→ミガキ	—	完全実測	No3
3	須恵器	坏蓋	(14.8)	—	3.2	—	ロクロナデ	—	回転ヘラケズリ	—	完全実測	No4
4	須恵器	高盤	23.2	(12.2)	8.7	—	ロクロナデ	—	ロクロナデ、つまみ貼付	—	完全実測	No5
5	土師器	甕	15.5	8.0	17.4	—	ナデ	—	ケズリ	—	完全実測	No6、カマド
6	土師器	甕	16.8	—	20.8	—	ナデ	—	ケズリ	—	完全実測	No1
7	土師器	甕	—	(9.6)	<6.6>	—	ナデ	—	ケズリ、須恵器横版	—	回転実測	I区
8	土師器	甕	—	(11.4)	<7.5>	—	ナデ	—	ケズリ	—	回転実測	I区
9	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	—	平行叩目	—	破片実測・拓本	No2
10	須恵器	壺	—	9.0	<8.3>	—	ロクロナデ	—	底部~周縁ケズリ	—	回転実測	I区、IV区

第167表 H122号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
11	須恵器	壺	-	-	<7.7>	-	ロクロナデ	底部周縁回転(ヘラケズ)	回転実測	I区、IV区	
12	弥生土器	甕	-	-	-	-	波状口縁、縄文		破片実測・拓本	II区	
13	弥生土器	甕	-	-	-	-	口縁部レンズ状、刻目、条痕		破片実測・拓本	I区	
14	弥生土器	甕	-	-	-	-	口縁に小突起、縄文		破片実測・拓本	III区	
15	弥生土器	甕	-	-	-	-	16と同一個体、沈線文		破片実測・拓本	覆土	
16	弥生土器	甕	-	-	-	-	15と同一個体、沈線文		破片実測・拓本	ベルト	
17	弥生土器	壺	-	-	-	-	沈線、刺突文		破片実測・拓本	III区	
18	石器	横刃型石器	10.3	6.6	1.0	70.0	自然面残る、下辺に使用痕		完全実測	I区	
19	鉄器	長頸鍬	<6.6>	<0.7>	<0.3>	<5.17>	上部欠損、角関?		完全実測	IV区	
20	鉄器	長頸鍬	<10.9>	<1.0>	<0.4>	<8.43>	両端欠損、台形関?		完全実測	IV区	

第168表 H123号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	甕	(17.0)	-	<5.6>	-	剥落	ミガキ	回転実測	III区	
2	土師器	甕	13.7	-	<3.9>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	III区	
3	須恵器	甕	-	-	-	-	ロクロナデ	櫛描波状文	破片実測・拓本	No5	
4	弥生土器	甕	-	-	-	-	単軸絡糸体(R12)		破片実測・拓本	III区	
5	石器	磨石	11.5	6.7	1.2	117.4	正面と右側に擦痕		完全実測	覆土	
6	石器	加工痕のある剥片	<3.5>	<2.2>	<0.85>	<5.2>	黒曜石、上部欠損、両面に二次加工		完全実測	III区	

第169表 H124号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(13.6)	-	<3.1>	-	ナデ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	I区	
2	土師器	坏	(14.2)	6.3	4.7	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	No2、床	
3	土師器	坏	(14.2)	7.2	3.8	-	ミガキ→暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	I、II区	
4	土師器	坏	(18.2)	-	<5.2>	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	No3、II区、EWベルト	
5	土師器	坏	-	5.8	<1.8>	-	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	II区	
6	土師器	坏	-	6.8	<2.6>	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド	
7	須恵器	坏	13.8	6.6	4.0	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	H129N	
8	須恵器	坏	14.0	5.6	4.7	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I区	
9	須恵器	坏	15.0	4.2	5.4	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I区	
10	土師器	武蔵甕	(15.4)	-	<5.1>	-	ナデ	ナデ	回転実測	カマド	
11	土師器	ロクロ甕	(19.2)	-	<9.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区	
12	須恵器	甕	-	-	-	-	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	II区	
13	弥生土器	甕	-	-	-	-	条痕文		破片実測・拓本	II区	

第170表 H125号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成 形、調 整		備 考	出 土 層 位
			口径(長)	口径(短)	底径	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	坏	(12.2)	6.2	—	4.8	—	回転ヘラ切り、底部周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区、ベルト	
2	土師器	坏	13.6	—	—	<4.5>	—	墨書	回転実測	I区	
3	土師器	坏	15.2	7.8	—	4.7	—	回転ヘラ切り、底部周縁ヘラケズリ	完全実測	覆土	
4	土師器	坏	16.2	—	—	<4.9>	—	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区	
5	土師器	坏	—	—	—	—	—	墨書	破片実測	覆土	
6	須恵器	坏	13.0	6.0	—	3.7	—	回転糸切、火瘻	完全実測	No31、I区、カマド	
7	須恵器	坏	(13.0)	6.1	—	4.5	—	右回転糸切、火瘻	完全実測	No7、No23、ベルト	
8	須恵器	坏	13.3	5.0	—	4.3	—	ロクロナデ	完全実測	Ⅲ区	
9	須恵器	坏	13.3	6.7	—	3.2	—	ロクロナデ	完全実測	Ⅱ区	
10	須恵器	坏	13.4	5.4	—	3.5	—	ヘラ切り→ケズリ、火瘻	回転実測	覆土	
11	須恵器	坏	(13.6)	(6.4)	—	4.1	—	回転糸切、火瘻	回転実測	Ⅲ、Ⅳ区	
12	須恵器	坏	14.2	(7.6)	—	3.8	—	右回転糸切、火瘻	回転実測	Ⅱ区、ベルト	
13	須恵器	坏	14.7	8.0	—	4.3	—	右回転糸切、火瘻	完全実測	I区	
14	須恵器	坏	—	6.9	—	<1.3>	—	右回転糸切、火瘻	完全実測	Ⅱ区	
15	須恵器	坏	—	8.2	—	<3.5>	—	底部周縁ヘラケズリ、火瘻	回転実測	No5	
16	須恵器	有台坏	(15.8)	(9.4)	—	6.6	—	付高台	回転実測	I区	
17	須恵器	有台坏	15.8	10.2	—	7.0	—	付高台	完全実測	No14	
18	須恵器	坏蓋	16.2	2.6	—	2.8	—	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	Ⅲ区	
19	灰釉陶器	碗	14.6	—	—	<2.8>	—	施釉	回転実測	覆土	
20	土師器	武蔵甕	21.8	—	—	<5.7>	—	ケズリ	回転実測	カマド	
21	土師器	武蔵甕	22.0	—	—	<6.7>	—	ケズリ	回転実測	I区、カマド、ベルト	
22	土師器	武蔵甕	—	5.4	—	<10.6>	—	ケズリ	完全実測	No12	
23	須恵器	甕	—	15.8	—	<13.5>	—	平行叩目	回転実測	覆土	
24	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	破片実測・拓本	Ⅱ区	
25	須恵器	甕	—	—	—	—	—	当具痕→ナデ	破片実測・拓本	Ⅱ区、カマド	
26	須恵器	壺	7.6	—	—	<2.5>	—	ロクロナデ	回転実測	ベルト	
27	須恵器	甌	—	—	—	—	—	ロクロナデ	破片実測・拓本	カマド	
28	土師器	蓋	—	—	—	<2.1>	—	ハケメ	完全実測、穿孔4ヶ	I区	
29	石器	台石	36.3	29.5	—	12.5	18100	使用面2、正裏に条痕	完全実測	No24	
30	石器	磨石	9.0	2.9	—	2.1	82.0	磨面4	完全実測	Ⅱ区	
31	石器	敲石	<7.9>	<4.4>	—	<2.0>	<126.0>	上部欠損、端部に敲打痕	完全実測	I区	
32	石器	敲石	12.0	5.8	—	3.3	268.0	両端部に敲打痕	完全実測	覆土	
33	石器	敲石	16.2	6.0	—	5.0	742.0	端部に敲打痕	完全実測	No25	
34	石器	加工痕のある剥片	4.0	2.4	—	0.9	9.27	両端に二次加工、黒曜石	完全実測	一括	
35	鉄器	刀子	<14.0>	1.9	—	0.5	<25.21>	両端欠損、折れ曲がる	完全実測	No4	
36	鉄製品	紡錘車軸	<13.3>	<0.5>	—	<0.5>	<40.10>	両端欠損、円板径φ5.6、厚0.2	完全実測	覆土	
37	鉄器	長頸鎌	<6.7>	<0.6>	—	<0.2>	<3.38>	同一個体、角関か？	完全実測	No11	
38	鉄製品	角釘	<9.9>	<0.5>	—	<0.3>	<6.29>	一部欠損	完全実測	No4	
39	鉄製品	角釘	4.5	0.5	—	0.4	<3.36>	一部欠損	完全実測	No4	
40	鉄器	不明	<6.0>	<0.4>	—	<0.3>	<2.73>	一部欠損	完全実測	No4	
			<17.5>	<2.5>	—	<0.8>	<66.84>	欠損あり	完全実測	No20	

第 171 表 H126 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	須恵器	環	—	7.0	<1.0>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	完全実測	カマド	
2	須恵器	有台環	—	(7.4)	<1.9>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	No6	
3	須恵器	有台環	—	(9.7)	<1.4>	—	ロクロナデ	回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	覆土	
4	土師器	武蔵甕	(23.0)	—	<27.5>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No7、No10、I区、カマド	
5	土師器	武蔵甕	(23.4)	—	<5.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区~III区	
6	土師器	武蔵甕	(25.0)	—	<13.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区	
7	須恵器	甕	—	—	<8.6>	—	当具痕(青海波文)	平行叩目	回転実測	No9、I区、皿区、カマド	

第 172 表 H127 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	須恵器	環	(14.0)	(3.6)	(3.9)	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	カマド	
2	土師器	鉢	—	(8.0)	<3.5>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	ベルト	
3	土師器	武蔵甕	—	(4.6)	<5.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	ベルト	
4	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土	

第 173 表 H128 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	(13.7)	6.0	4.3	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土	
2	土師器	環	(13.8)	6.3	3.9	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、墨書	完全実測	No4、No5	
3	土師器	杓状環	14.2	5.4	4.7	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全実測	No2	
4	土師器	環	(14.2)	—	<4.0>	—	朱墨付着	ロクロナデ	回転実測	覆土	
5	土師器	環	(14.4)	(5.2)	3.8	—	ミガキ→黒色処理	底部~底部周縁ケズリ	回転実測	カマド	
6	土師器	環	17.2	7.0	6.4	—	ミガキ→黒色処理	底部~底部周縁ケズリ	完全実測	No6	
7	土師器	碗	16.2	8.0	5.9	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	No5	
8	須恵器	環	(13.6)	(6.2)	4.6	—	朱墨付着	回転糸切	回転実測	カマド	
9	須恵器	環	14.2	6.5	4.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8	
10	須恵器	環	(14.3)	7.0	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド	
11	須恵器	環	(14.8)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド	
12	須恵器	環	—	5.6	<3.2>	—	朱墨付着、火瘻	右回転糸切、墨書、火瘻	完全実測	カマド	
13	土師器	武蔵甕	(20.4)	—	<4.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土	
14	土師器	甕	(22.0)	—	<9.2>	—	ハケメ	ハケメ→ケズリ	回転実測	覆土	
15	土師器	甕	—	4.5	<1.4>	—	ナデ	木葉痕	完全実測・拓本	覆土	
16	須恵器	甕	—	(15.2)	<5.3>	—	ロクロナデ	底部~底部周縁ケズリ	回転実測	No9	
17	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	叩目	破片実測・拓本	No7	
18	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ、朱墨付着	叩目、転用硯	破片実測・拓本	覆土	
19	鉄製品	鈎鍬車	<14.1>	<0.6>	<0.6>	<46.38>	円板φ 6.0、最大厚 0.2、両端欠損		完全実測	No1	

第174表 H129号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	武蔵甕	(18.0)	—	<18.4>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
2	土師器	武蔵甕	(20.4)	—	<7.1>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	カマド	
3	須恵器	甕	(25.2)	—	<6.3>	—	ロクロナデ	カキメ	回転実測	覆土	
4	須恵器	甕	—	(12.0)	<7.0>	—	当具痕→ナデ	ケズリ、平行叩目	回転実測	覆土	

第175表 H130号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	坏	(11.6)	(4.0)	(3.1)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	P5	
2	土師器	坏	11.7	5.5	3.3	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No2	
3	土師器	坏	(11.8)	5.3	3.7	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	No25	
4	土師器	坏	(11.8)	(4.4)	(3.5)	—	ナデ	回転糸切	回転実測	No21、No22	
5	土師器	坏	(11.8)	—	<3.5>	—	ナデ	ロクロナデ	回転実測	I区、IV区	
6	土師器	坏	11.8	5.2	2.9	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	P6	
7	土師器	坏	11.9	5.8	3.0	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	No15、No20	
8	土師器	坏	(12.0)	5.1	3.3	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No10、IV区、P6	
9	土師器	坏	12.2	5.2	2.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No3	
10	土師器	坏	12.4	5.7	3.9	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No12、III区、床	
11	土師器	坏	12.5	5.0	3.4	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	No5	
12	土師器	坏	12.5	5.6	3.7	—	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土	
13	土師器	坏	(12.5)	5.2	3.6	—	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No8、P6	
14	土師器	坏	12.6	(5.6)	3.1	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No4	
15	土師器	坏	(12.6)	—	<3.2>	—	ロクロナデ	墨書	回転実測	覆土	
16	土師器	坏	13.0	4.8	3.9	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	No12、カマド	
17	土師器	坏	13.1	5.1	3.7	—	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No7	
18	土師器	坏	(13.2)	(12.6)	(4.6)	—	黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	覆土	
19	土師器	坏	15.4	6.2	5.0	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No18、カマド、床	
20	土師器	坏	—	5.4	<3.1>	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No19	
21	土師器	坏	—	(6.4)	<1.5>	—	ロクロナデ	回転糸切、墨書	回転実測	EW ベルト	
22	土師器	坏	—	—	<3.4>	—	ナデ	ロクロナデ	破片実測	SN ベルト	
23	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	SN ベルト	
24	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	覆土	
25	土師器	碗	(15.0)	7.1	5.4	—	ミガキ→暗文→黒色処理	高台欠損	完全実測	No3	
26	土師器	碗	(15.2)	—	<3.9>	—	黒色処理	高台欠損	回転実測	覆土	
27	土師器	碗	(16.0)	(8.0)	(5.3)	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転実測	覆土	
28	土師器	ロク口甕	7.0	4.1	5.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	II区	
29	土師器	甕	(12.0)	—	<6.2>	—	ハラナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	P6、IV区、床	
30	土師器	ロク口甕	(17.2)	—	<12.3>	—	当具痕→ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区、II区	
31	土師器	ロク口甕	(19.8)	—	<13.2>	—	当具痕→ナデ	ロクロナデ	回転実測	I区、II区	
32	土師器	ロク口甕	(22.0)	—	<21.3>	—	当具痕→ナデ	ハラケズリ	回転実測	No23、P4、床	
33	土師器	甕	—	9.2	<2.0>	—	ロクロナデ	底部～周縁ケズリ	完全実測	覆土	

第176表 H130号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
34	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—	ナデ	楕円状文	—	—	No3
35	土製品	勾玉	<2.5>	<1.5>	<1.1>	<3.40>	孔φ(0.2)	—	ナデ	—	—	—	床
36	鉄器	鎌	<3.5>	<2.5>	<0.4>	<6.18>	基部のみ残存	—	ナデ	—	—	—	覆土
37	鉄器	鉄斧	8.1	4.3	2.0	124.38	内部に木質残	—	ナデ	—	—	—	No1
38	鉄器	鍬	8.2	2.4	0.3	<15.3>	一部欠損、木質残	—	ナデ	—	—	—	覆土

第177表 H131号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
1	土師器	坏	(13.6)	(5.0)	(4.7)	—	ミガキ→暗文→黒色処理	—	ナデ	ロクロナデ	—	—	皿区
2	須恵器	坏	(13.6)	6.7	3.6	—	ロクロナデ	—	ナデ	右回転糸切	—	—	カマド
3	須恵器	坏	—	7.5	<2.1>	—	火礫	—	ナデ	右回転糸切、火礫	—	—	覆土
4	須恵器	有台坏	(14.3)	8.7	6.2	—	ロクロナデ	—	ナデ	回転ヘラケズリ→付高台	—	—	カマド
5	土師器	武蔵甕	(20.5)	—	<25.2>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	I区~III区、カマド
6	土師器	武蔵甕	(23.2)	—	<8.1>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	No1
7	須恵器	甕	—	(14.8)	<9.6>	—	ナデ	—	ナデ	平行叩目、底部~周縁ケズリ	—	—	II区、カマド
8	鉄器	長頸鍬	<8.2>	0.8	0.5	<8.62>	両端欠損、角閃片刃	—	ナデ	—	—	—	No3
9	鉄製品	鉄塊	7.3	4.7	3.4	137.7	—	—	ナデ	—	—	—	II区

第178表 H132号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考			
1	土師器	坏	(12.9)	(13.9)	<3.2>	—	暗文	—	ナデ	ケズリ	—	—	No6
2	土師器	北武蔵型坏	(14.5)	(13.1)	<5.2>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	No1、カマド
3	土師器	坏	(14.7)	(12.9)	<4.9>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	床
4	土師器	坏	(15.4)	(10.4)	<5.1>	—	ミガキ→黒色処理	—	ナデ	ミガキ	—	—	No3
5	土師器	坏	—	(11.5)	<3.8>	—	ミガキ	—	ナデ	全体的に摩耗している	—	—	No2、II区
6	土師器	坏	—	(14.3)	<4.2>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	I区
7	土師器	甕	(10.5)	8.1	<10.7>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	No5
8	土師器	甕	(13.7)	—	<14.5>	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	No4、I区
9	土師器	甕	14.8	6.2	26.8	—	底部~周縁ハケメ、ナデ	—	ナデ	底部~周縁ハケメ→ナデ	—	—	No18、カマド
10	土師器	甕	21.1	4.8	35.6	—	ナデ	—	ナデ	ケズリ	—	—	No4、No6、No15、No18、H25-16と同一個体
11	土師器	壺	(19.2)	—	<13.2>	—	ナデ	—	ナデ	全体的に摩耗している	—	—	No11~No13、カマド
12	石器	台石	35.5	32.2	9.0	17500.0	使用面1、擦痕と敲打痕あり	—	ナデ	—	—	—	覆土
13	石器	磨石	<7.3>	<4.6>	<2.1>	<97.0>	全周欠損、擦痕あり	—	ナデ	—	—	—	IV区

第179表 H133号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
1	土師器	杓状坏	116	4.6	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土			
2	土師器	坏	(11.4)	(5.8)	3.7	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	覆土			
3	土師器	坏	(13.3)	—	<3.2>	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	No1、No4			
4	土師器	坏	(16.6)	—	<3.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土			
5	須惠器	短頸壺	9.1	—	<9.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	No2			
6	弥生土器	甕	(26.8)	—	<12.4>	—	縦羽状の櫛描斜走文、中期後半栗林式	回転実測	回転実測	覆土			
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片実測・拓本	破片実測	覆土			

第180表 H134号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備				
1	土師器	坏	(13.2)	(5.6)	(4.2)	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	II区			
2	土師器	坏	13.3	6.9	4.0	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	No1～No3			
3	土師器	坏	(13.6)	6.1	4.4	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、墨書「用」	完全実測	No19			
4	土師器	杓状坏	13.7	5.4	4.3	—	ロクロナデ	回転糸切、墨書「加」	完全実測	II区床			
5	土師器	坏	(13.8)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土、H136			
6	土師器	坏	14.0	5.5	4.2	—	ミガキ→暗文→黒色処理	墨書「加」	完全実測	覆土			
7	土師器	坏	(14.0)	6.3	3.8	—	ミガキ→黒色処理	底部～周縁ケズリ	完全実測	II区床			
8	土師器	坏	(14.0)	(6.4)	(4.0)	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	No5、床			
9	土師器	坏	(14.0)	—	<3.6>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	覆土			
10	土師器	坏	(14.4)	—	<3.9>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	床			
11	土師器	坏	14.8	6.9	4.9	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、周縁回転ケズリ	完全実測	覆土			
12	土師器	坏	17.7	6.5	5.8	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土			
13	土師器	坏	—	6.3	<1.9>	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、墨書	完全実測	覆土			
14	土師器	坏	—	—	—	—	ロクロナデ	墨書「用」	破片実測	II区床			
15	土師器	坏	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	II区床			
16	土師器	坏	—	—	—	—	ロクロナデ	墨書	破片実測	覆土			
17	土師器	碗	14.9	7.6	5.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→付高台	完全実測	覆土			
18	土師器	碗	(14.9)	7.0	5.2	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→付高台	完全実測	床、H64-2 同一個体			
19	土師器	碗	15.2	8.0	6.2	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	覆土			
20	土師器	碗	(16.6)	(7.6)	5.7	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	回転実測	覆土			
21	土師器	碗	19.0	9.4	7.1	—	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	覆土			
22	土師器	皿	(12.4)	—	<2.4>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	II区			
23	土師器	皿	13.3	—	<2.9>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全実測	覆土			
24	土師器	皿	13.6	—	<2.0>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全実測	II区			
25	土師器	高坏	—	—	<4.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カマド			
26	須惠器	坏	13.2	6.5	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No28			
27	須惠器	坏	13.7	5.7	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土			
28	須惠器	坏	13.8	5.8	4.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No3、No4			
29	須惠器	坏	14.4	6.8	4.1	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土			
30	須惠器	坏	14.5	6.5	4.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	II区床			

第181表 H134号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
31	須恵器	坏	14.8	6.2	6.2	4.5	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No2~No4		
32	須恵器	坏	14.9	6.9	6.9	4.8	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No3、No4		
33	土師器	甲斐型甕	13.1	8.4	8.4	11.8	-	ナデ	ハケメ	完全実測	床		
34	土師器	ロクロナデ	(13.8)	-	-	<9.9>	-	ロクロナデ	回転糸切、下半部ケズリ	完全実測	No25、No26、床		
35	土師器	武蔵甕	(17.4)	-	-	<9.9>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	床		
36	土師器	甕	-	-	6.6	<6.2>	-	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土		
37	須恵器	甕	-	-	(9.0)	<8.2>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	床		
38	須恵器	甕	-	-	-	-	-	ハケメ	ロクロナデ	破片実測・拓本	No6、No7		
39	須恵器	甕	-	-	-	-	-	当具痕→ナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	No20		
40	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	沈線文	叩目	破片実測・拓本	床		
41	石器	磨・敲石	<13.5>	<7.0>	<7.0>	<4.0>	<51.9>	下部欠損、正面一部黒化、裏面敲打又は被熱割、使用面3		完全実測	床		

第182表 H136号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	ロクロナデ	(19.2)	-	-	<6.0>	-	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	覆土		

第183表 H137号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	坏	13.1	5.5	5.5	4.9	-	ミガキ→黒色処理	底部~周縁ケズリ	完全実測	カマド		
2	土師器	坏	(15.0)	7.4	7.4	6.0	-	見込部ナデ	底部~周縁ケズリ	回転実測	覆土、H64		
3	土師器	坏	(15.4)	(5.6)	(5.6)	(5.0)	-	ミガキ→黒色処理	底部~周縁ケズリ	回転実測	カマド		
4	土師器	坏	-	7.2	7.2	<2.3>	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全実測	カマド		
5	土師器	皿	14.2	(6.8)	(6.8)	2.8	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理、刻書「馬の絵」?	完全実測	No1、カマド、B区		
6	須恵器	坏	(13.0)	(6.6)	(6.6)	(3.5)	-	火漉	右回転糸切、火漉	回転実測	覆土		
7	須恵器	坏	13.7	5.6	5.6	4.1	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	カマド		
8	須恵器	坏	13.8	6.3	6.3	4.3	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド		
9	須恵器	坏	13.9	6.4	6.4	4.0	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド、床		
10	須恵器	坏	(14.6)	6.2	6.2	4.1	-	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	カマド、床		
11	土師器	武蔵甕	(11.6)	-	-	<5.5>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土、H64 カマド		
12	土師器	甕	(13.2)	-	-	<9.1>	-	ハケメ	ハケメ	回転実測	カマド、H138		
13	土師器	武蔵甕	(19.0)	-	-	<8.3>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	No4、カマド		
14	弥生土器	甕	-	-	-	-	-	単軸絡糸体L(r2)	ケズリ	破片実測・拓本	カマド		

第184表 H138号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	土師器	坏	12.7	6.2	6.2	4.4	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全実測	No1		
2	土師器	坏	(14.6)	6.0	6.0	4.0	-	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全実測	覆土		
3	須恵器	坏	(15.4)	-	-	<2.7>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土		
4	土師器	甕	(17.2)	-	-	<9.6>	-	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土		
5	土師器	甕	-	(5.0)	(5.0)	<2.6>	-	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土		

第185表 Y1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	弥生土器	甕	(22.0)	—	<7.9>	—	ナデ		櫛描斜走文、口唇部縄文(R(L2))	回転実測	No3~No5		
2	弥生土器	甕	(23.4)	—	<13.8>	—	ミガキ		櫛描斜走文、櫛描波状文、口唇部縄文(R(L2))	回転実測	No1、II区		
3	弥生土器	甕	—	(8.2)	<5.2>	—	ナデ		ミガキ	回転実測	I区、II区、H24		
4	弥生土器	台付甕	—	(7.6)	<2.9>	—	ナデ		ハケメ、穿孔2ヶ	回転実測	II区		
5	弥生土器	壺	—	—	<10.0>	—	ナデ		頸部縄文(R(L2))、沈線、ミガキ	回転実測	I区、II区		
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	剥落		沈線文、波状口縁	破片実測・拓本	II区		
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	剥落		沈線文、波状口縁	破片実測・拓本	II区		
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文		沈線文	破片実測・拓本	II区		
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	—		摺糸文(単軸絡条体L(r2))、押捺文、波状口縁	破片実測・拓本	II区		
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	—		沈線文、ミガキ	破片実測・拓本	覆土		
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	—		摺糸文(単軸絡条体L(r2))	破片実測・拓本	I区		
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	—		条痕文	破片実測・拓本	覆土		

第186表 Y2号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	須恵器	甕	(24.6)	—	<4.2>	—	ロクロナデ		ロクロナデ	回転実測	覆土		
2	弥生土器	甕	—	5.4	<2.3>	—	底部~周縁ミガキ		—	完全実測	No1		
3	弥生土器	甕	—	(7.0)	<1.2>	—	木葉痕		—	回転実測・拓本	覆土		
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラ描沈線		—	破片実測・拓本	覆土		
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描波状文、櫛描直線文		—	破片実測・拓本	覆土		

第187表 Y3号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	(15.4)	9.2	3.7	—	ハラミガキ		—	回転実測	No410		
2	土師器	ミニチュア土器?	5.4	—	<5.0>	—	ナデ		—	回転実測	No341		
3	弥生土器	鉢	(10.4)	(2.4)	(4.8)	—	ミガキ→赤彩、突起あり		—	回転実測	No66		
4	弥生土器	鉢	(11.8)	—	<3.0>	—	ミガキ→赤彩、穿孔2ヶ		—	回転実測	No85		
5	弥生土器	鉢	(13.2)	—	<2.7>	—	ミガキ→赤彩		—	回転実測	III区		
6	弥生土器	鉢	(14.0)	—	<3.5>	—	ミガキ→赤彩、穿孔2ヶ		—	回転実測	No1		
7	弥生土器	鉢	(14.4)	—	<5.3>	—	ミガキ→赤彩、突起あり		—	回転実測	No142		
8	弥生土器	鉢	16.2	—	<4.5>	—	ミガキ→赤彩		—	回転実測	No192		
9	弥生土器	鉢	(20.2)	—	<6.4>	—	ミガキ→赤彩		—	回転実測	No64、No74、No76~No78		
10	弥生土器	鉢	—	7.1	<3.2>	—	ミガキ→赤彩		—	完全実測	No17、III区		
11	弥生土器	高坏	19.2	11.4	11.9	—	坏部ミガキ→赤彩、脚部ナデ		ミガキ→赤彩	完全実測	No240、No378、No379		
12	弥生土器	高坏	(31.2)	—	<9.9>	—	ミガキ→赤彩		—	完全実測	No37、No38、No150		
13	弥生土器	甕	12.7	4.8	10.8	—	ミガキ		櫛描波状文、ミガキ	完全実測	覆土		
14	弥生土器	甕	12.8	—	<3.6>	—	ミガキ、ナデ		櫛描横線文、口唇部縄文(R(L2))	回転実測	No216、No340、III区		
15	弥生土器	甕	13.1	—	<8.3>	—	ミガキ		櫛描波状文、櫛描横線文、口唇部縄文(R(L2))、ミガキ	完全実測	No210、No211		
16	弥生土器	甕	(14.3)	5.6	14.5	—	ミガキ		櫛描波状文、櫛描垂下文、口唇部刻目、ミガキ	完全実測	No232、No233、No244、No376		

第 188 表 Y3 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量		成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面			
17	弥生土器	甕	14.7	6.6	16.7	-	ミガキ	ミガキ、頸部へラ描沈線、口唇部刻目	完全実測	No131、No390	
18	弥生土器	甕	(15.2)	-	8.7	-	ミガキ	櫛描波状文、櫛描垂下文、櫛描横線文、口唇部縄文 (R(L2))	回転実測	No237、No242、No243	
19	弥生土器	甕	-	5.5	<3.1>	-	ハケメ	ミガキ	完全実測	No221	
20	弥生土器	甕	-	5.6	<4.7>	-	ミガキ		完全実測	No132	
21	弥生土器	甕	-	6.4	<8.5>	-	ハケメ	櫛描波状文、下部ハケメ	完全実測	No258、No310、No312、No370、H25	
22	弥生土器	甕	-	7.4	<4.7>	-	ミガキ	櫛描斜走文、ミガキ	回転実測	I 区	
23	弥生土器	甕	-	-	<7.7>	-	ハケメ	櫛描垂下文、櫛描波状文	回転実測	No220、No337、No338	
24	弥生土器	甕	-	-	-	-	ナデ	口唇部～口縁部縄文 (R(L2))	破片実測・拓本	No171	
25	弥生土器	甕	-	-	-	-	ミガキ	波状口縁、波頂部に孔	破片実測・拓本	No185	
26	弥生土器	甕	-	-	-	-	ミガキ	櫛描波状文、櫛描垂下文、貼付文	破片実測・拓本	No238	
27	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハケメ→ミガキ	櫛描斜走文、口唇部刻目	破片実測・拓本	覆土	
28	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハケメ	口唇部刻目	破片実測・拓本	No216	
29	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハケメ	櫛描波状文	破片実測・拓本	No258、No260、H25	
30	弥生土器	甕	-	-	-	-	ミガキ	沈線文、縄文 (R(L2))	破片実測・拓本	No219	
31	弥生土器	甕	-	-	-	-	ミガキ	条痕	破片実測・拓本	No151	
32	弥生土器	甕	-	-	-	-	ミガキ	単軸糸条体 (Lr2)	破片実測・拓本	No145	
33	弥生土器	甕	-	-	-	-	ナデ	櫛描斜走文?	破片実測・拓本	No357	
34	弥生土器	台坏甕	12.1	-	<13.1>	-	ミガキ	櫛描波状文、櫛描垂下文、ナデ、口唇部縄文 (R(L2))	完全実測	No183	
35	弥生土器	台付甕	15.3	-	<13.2>	-	ミガキ	へラ描沈線、貼付文、口縁口唇部縄文 (R(L2))、下部ミガキ	完全実測	No200、No212、No216、No219、IV 区	
36	弥生土器	台付甕	-	6.4	<4.5>	-	坏部ミガキ、脚部ナデ	ミガキ	完全実測	覆土	
37	弥生土器	台付甕	-	6.6	<2.7>	-	ナデ		完全実測	No131	
38	弥生土器	台付甕	-	8.8	<7.4>	-	坏部ミガキ、脚部ハケメ	ハケメ、ナデ、ケズリ	完全実測	No232	
39	弥生土器	台付甕	-	9.2	<7.8>	-	ナデ		完全実測	No134	
40	弥生土器	台付甕	-	9.8	<5.2>	-	坏部ミガキ、脚部ハケメ	ミガキ	完全実測	No217	
41	弥生土器	台付甕	-	-	<6.0>	-	ナデ	ミガキ	完全実測	No253	
42	弥生土器	台付甕	-	-	-	-	ミガキ	櫛描波状文、貼付文、口縁部へラ描山形文	破片実測・拓本	IV 区	
43	弥生土器	台付甕	-	-	-	-	ミガキ	コの字重ね文	破片実測・拓本	No216、No356	
44	弥生土器	壺	7.0	6.3	17.4	-	ナデ	へラ描沈線、へラ描連弧文、縄文 (R(L2))	完全実測	No333	
45	弥生土器	壺	11.6	5.0	9.0	-	ミガキ→赤彩、穿孔2ヶ所	4個	完全実測	No353	
46	弥生土器	壺	14.7	8.2	<34.3>	-	口縁ミガキ、体部ナデ	ミガキ、口唇部縄文 (R(L2))	完全実測	No18、No19、III 区	
47	弥生土器	壺	(16.3)	8.2	16.4	-	ミガキ、口縁ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、穿孔5ヶ体部5ヶ突起あり、穿孔2ヶ	完全実測	No34、No36、No152、No153、No156、No158、No159、No301、No302	
48	弥生土器	壺	-	-	<10.5>	-	ハケメ	頸部縄文 (R(L2))、沈線、体部ハケメ	回転実測	No282、No314、No316、No317	
49	弥生土器	壺	-	-	<24.5>	-	ナデ、剥離	ミガキ、へラ描沈線文、波状文、刺突文、櫛描条線、縄文 (R(L2))、貼付文	完全実測	No222～224、227、239、351、I 区	
50	弥生土器	甕	-	5.9	<7.8>	-	ハケメ、ミガキ	ミガキ	完全実測	No280、No384	
51	弥生土器	ミニチュア土器	-	5.0	<3.7>	-	ナデ	ナデ、ハケメ	回転実測	IV 区	
52	弥生土器	ミニチュア土器	-	-	<2.8>	-	ナデ	ミガキ、赤彩?	回転実測	覆土	
53	石器	環状石斧	<5.3>	<5.4>	<2.5>	<5.5>	内φ(2.3)、外φ(10.7)、約1/6残存		完全実測	覆土	
54	石器	編物石	11.0	6.3	5.3	489.0	端面に使用痕		完全実測	No58	
55	石器	磨・敲石	9.2	8.6	2.3	199.0	端面に敲打痕、縁刃に条痕		完全実測	No415	
56	石器	石核	14.8	10.1	4.8	774.0	打面左側は自然面		完全実測	No347	
57	石器	石錐	<2.5>	<0.85>	<0.5>	<0.72>	黒曜石、上部欠損、先端部摩擦痕か		完全実測	覆土	

第189表 Y4号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	10.5	5.4	4.0	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	D10			
2	土師器	坏	(11.4)	(6.0)	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	覆土			
3	土師器	坏	(13.6)	—	<2.8>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	II区			
4	土師器	碗	(14.2)	—	<4.6>	—	黒色処理	回転糸切→付高台→剥離	回転実測	床			
5	弥生土器	甕	—	(6.0)	<5.6>	—	ナデ	ナデ	回転実測	I区			
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	櫛描波状文、櫛描籬状文	回転実測・拓本	II区			
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	ハケメ、櫛描波状文、口唇部押捺	破片実測・拓本	I区			
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	櫛描籬状文、縦位の櫛描直線文	破片実測・拓本	床			
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描波状文、縦位の櫛描直線文	破片実測・拓本	覆土			
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描波状文、縦位の櫛描直線文	破片実測・拓本	床			
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ	櫛描波状文、縦位の櫛描直線文	破片実測・拓本	床			
12	弥生土器	ミニチュア土器	5.0	3.5	4.6	—	輪積痕	ケズリ	完全実測	床			

第190表 Y5号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	—	—	—	—	暗文状ヘラミガキ	暗文状ヘラミガキ	破片実測	覆土			
2	土師器	甕	(13.6)	—	<5.8>	—	ナデ	ナデ	回転実測	床			
3	土師器	甕?	—	—	—	—	ナデ	ナデ	破片実測	覆土			
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	覆土			
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	破片実測・拓本	床			

第191表 Y6号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文(R(L2))、ヘラ描沈線文	—	破片実測・拓本	H125			
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文(R(L2))	—	破片実測・拓本	H40			
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描波状文、中期後半	—	破片実測・拓本	H127、ベルト			
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	櫛描斜走文(縦羽状)	—	破片実測・拓本	H127、ベルト			
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	単軸絡条体(L(r2))	—	破片実測・拓本	H40			
6	弥生土器	壺	—	—	—	—	口唇部縄文(R(L2))、中期後半	—	破片実測・拓本	H40			
7	弥生土器	壺	—	—	—	—	沈線文、赤彩	—	破片実測・拓本	H125、I区			
8	弥生土器	壺	—	—	—	—	単軸絡条体(L(r2))、沈線、赤彩	—	破片実測・拓本	H125、I区			
9	弥生土器	壺	—	—	—	—	縄文(R(L2))、ヘラ描沈線文	—	破片実測・拓本	H129、カマド			

第192表 Y7号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	甕	—	(9.6)	<3.9>	—	ナデ	ハケメ	回転実測・拓本	覆土			
2	弥生土器	鉢	16.0	4.9	7.0	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No4			
3	弥生土器	甕	13.6	4.4	15.5	—	ミガキ	櫛描籬状文(9本1組2連止)、櫛描斜走文、ミガキ	完全実測	No3、No7			
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	波状口縁、波頭部に孔、半截竹管による沈線文	—	破片実測・拓本	I区			

第193表 Y7号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備			
5	弥生土器	壺	16.0	6.4	27.4	-	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、頸部縹織状文(2連止2段)、縹描横線文	完全実測	No1		
6	弥生土器	壺	20.8	6.6	26.7	-	口縁部ミガキ→赤彩、体部剥離	ミガキ→赤彩、頸部縹織状文	完全実測	No2		
7	弥生土器	壺	-	-	-	-	凸帯文	破片実測・拓本	破片実測・拓本	II区		
8	弥生土器	壺	-	-	-	-	沈線文	ハケメ	破片実測・拓本	II区		
9	弥生土器	壺	-	-	-	-	ハケメ	ハケメ→ミガキ	破片実測・拓本	No7		

第194表 Ta1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備			
1	土師器	坏	-	(5.4)	<3.3>	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	H139		
2	土師器	碗	-	(6.7)	<1.9>	-	ロクロナデ	付高台	回転実測	覆土		
3	須恵器	坏	-	(7.0)	<1.3>	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	覆土		
4	土師器	片口鉢	-	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ミガキ	破片実測	覆土		
5	土師器	甕	(14.4)	-	<5.9>	-	ナデ	ケズリ→ナデ	回転実測	H139		
6	須恵器	甕	-	-	-	-	青海波文	平行叩目→ハケメ	破片実測	覆土		
7	土師器	壺	(23.0)	-	<5.9>	-	ミガキ	ミガキ	回転実測	H139		
8	鉄製品	不明	<3.1>	<3.3>	<0.5>	<7.42>	下部欠損?		完全実測	覆土		

第195表 Ta2号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備			
1	土師器	坏	(11.1)	(6.0)	(3.9)	-	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	IV区		
2	土師器	坏	(11.4)	6.3	3.9	-	ロクロナデ	右回転糸切、墨書	完全実測	IV区		
3	土師器	坏	(11.7)	6.3	3.7	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土		
4	土師器	坏	11.7	6.0	4.0	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	灰層		
5	土師器	坏	12.0	5.5	4.0	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV区		
6	土師器	坏	12.0	6.2	4.0	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	灰層		
7	土師器	坏	12.1	5.8	3.8	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV区		
8	土師器	坏	12.2	5.0	3.9	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	II区		
9	土師器	坏	12.4	6.2	4.4	-	ロクロナデ	右回転糸切、輪花	完全実測	覆土		
10	土師器	坏	12.5	6.7	4.0	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV区		
11	土師器	坏	(12.8)	-	<3.9>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	灰層		
12	土師器	坏	-	5.1	<1.9>	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土		
13	土師器	坏	-	5.9	<2.6>	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	覆土		
14	土師器	坏	-	5.9	<1.8>	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	灰層		
15	土師器	坏	-	6.1	<2.3>	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	灰層		
16	土師器	坏	-	6.2	<2.0>	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	灰層		
17	土師器	坏	-	6.2	<1.8>	-	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	IV区		
18	土師器	坏	-	6.6	<2.7>	-	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土		
19	土師器	坏	-	(7.0)	<2.9>	-	ロクロナデ	墨書	回転実測	灰層		
20	土師器	坏	-	-	-	-	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	覆土		

第196表 Ta2号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
21	土師器	碗	—	6.9	<3.0>	—	ロクロナデ	右回転糸切→付高台	完全実測	灰層			
22	土師器	碗	—	7.2	<2.6>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	灰層			
23	土師器	碗	—	(8.5)	<5.2>	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台、墨書	完全実測	IV区、灰層			
24	土師器	皿	10.7	5.1	3.0	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台、ミガキ→黒色処理	完全実測	覆土			
25	須恵器	坏	(14.1)	—	<4.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	II区			
26	灰釉陶器	碗	—	(7.3)	<2.2>	—	施釉	付高台、施釉	回転実測	覆土			
27	灰釉陶器	碗	—	(7.8)	<2.2>	—	施釉	付高台、施釉	回転実測	IV区			
28	須恵器	甕	(53.8)	—	<11.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土			
29	須恵器	甕	—	(22.0)	<5.4>	—	当具痕→ナデ	平行叩目	回転実測	覆土			
30	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	波状文	破片実測・拓本	覆土			
31	須恵器	横瓶	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	IV区			
32	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文	—	破片実測・拓本	覆土			
33	弥生土器	甕	—	—	—	—	架帯文	—	破片実測	覆土			
34	弥生土器	甕	—	6.1	<2.5>	—	木葉痕、沈線文	—	完全実測	I区			
35	土製品	羽口	—	—	—	—	先端部ノロ付着	—	完全実測	I区			

第197表 Ta3号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	(11.9)	—	<2.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土			
2	土師器	碗	—	(7.2)	<2.8>	—	暗文→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	覆土			
3	須恵器	坏	(12.9)	(7.0)	<4.1>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	覆土			
4	灰釉陶器	碗	—	7.9	1.9	—	見込円滑	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	覆土			
5	土師器	武蔵甕	(10.6)	—	<3.4>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土			
6	土師器	武蔵甕	—	(10.4)	<2.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土			

第198表 Ta4号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	機内系暗文坏	—	—	—	—	螺旋暗文	ヘラ記号	破片実測・拓本	覆土			

第199表 Ta5号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	坏	11.8	5.3	4.3	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	No1			

第200表 M7号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	環	(11.4)	(5.6)	3.2	—	黒色処理	右回転糸切	回転実測	覆土		
2	土師器	杓状環	11.9	5.0	3.3	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	No14		
3	土師器	環	(12.1)	6.7	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土		
4	土師器	環	(12.2)	(5.4)	3.2	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土		
5	土師器	北武蔵型環	(12.5)	(11.6)	<3.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土		
6	土師器	環	12.7	5.0	3.9	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土		
7	土師器	環	13.4	6.7	4.3	—	黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土		
8	土師器	環	(17.0)	—	<4.6>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	覆土		
9	土師器	環	—	5.8	<1.8>	—	暗文→黒色処理	切り離した後ヘラケズリ	完全実測	覆土		
10	土師器	環	—	—	—	—	ロクロナデ	墨書	破片実測	覆土		
11	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片実測	覆土		
12	土師器	高環	(14.0)	—	<5.9>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	覆土		
13	土師器	高盤	(28.0)	—	<7.9>	—	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	覆土		
14	須恵器	環	(13.4)	5.8	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土		
15	須恵器	環	(14.0)	8.0	4.2	—	ロクロナデ、火燻	右回転糸切、火燻	完全実測	覆土		
16	灰釉陶器	碗	—	(7.6)	<1.8>	—	施釉	付高台	回転実測	覆土		
17	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	櫛描波状文、ヘラ描沈線文	破片実測・拓本	覆土		
18	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片実測・拓本	覆土		
19	須恵器	壺	—	(16.8)	<3.4>	—	ロクロナデ	付高台	回転実測	覆土		
20	灰釉陶器	短頸壺	(10.4)	—	<2.8>	—	ロクロナデ	施釉	回転実測	覆土		
21	灰釉陶器	長頸壺	(12.4)	—	<10.7>	—	施釉	施釉	回転実測	覆土		
22	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文(R(L2))	施釉	破片実測・拓本	覆土		
23	弥生土器	甕	—	—	—	—	単軸絡糸体(L(r2))	施釉	破片実測・拓本	覆土		
24	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	施釉	破片実測・拓本	覆土		
25	弥生土器	壺	—	—	—	—	半截竹管による沈線文	施釉	破片実測・拓本	覆土		
26	弥生土器	壺	—	—	—	—	半截竹管による沈線文、内外赤彩	施釉	破片実測・拓本	覆土		
27	土製品	土錘	2.1	0.85	0.85	—	孔径φ0.4	施釉	完全実測	覆土		
28	鉄器	長頸鎌	<5.8>	0.8	<0.3>	<5.59>	頸部欠損、片刃	施釉	完全実測	覆土		

第201表 M8号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	環	12.4	5.3	3.3	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	覆土		
2	土師器	環	(12.4)	(6.5)	(3.5)	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	回転実測	覆土		
3	土師器	環	(12.7)	(5.2)	<3.6>	—	黒色処理	回転糸切	回転実測	覆土		
4	土師器	環	—	5.2	1.3	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	覆土		
5	灰釉陶器	皿	—	(6.1)	<1.8>	—	施釉	施釉、付高台	回転実測	覆土		

第202表 M9号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備			
1	土師器	坏	(11.7)	4.3	—	3.7	—	右回転糸切	回転実測	覆土			
2	土師器	坏	11.9	4.8	—	3.6	—	左回転糸切	完全実測	No4			
3	土師器	坏	12.1	6.1	—	2.8	—	右回転糸切、煤付着	完全実測	No5			
4	土師器	坏	(12.8)	(5.4)	—	(3.4)	—	回転糸切	回転実測	覆土			
5	土師器	坏	—	—	—	—	—	墨書	破片実測	覆土			
6	土師器	碗	(13.2)	(8.9)	—	(5.3)	—	回転糸切→付高台	回転実測	覆土			
7	土師器	碗	(14.3)	7.3	—	5.2	—	右回転糸切→付高台	完全実測	No3			
8	土師器	碗	14.6	7.8	—	5.1	—	右回転糸切→付高台	完全実測	No4			
9	土師器	足高台碗	16.7	9.7	—	7.7	—	回転糸切→付高台	完全実測	No9、No10、M8			
10	土師器	足高台碗	(16.9)	(10.4)	—	8.1	—	回転糸切→付高台	完全実測	No9、No11			
11	土師器	足高台碗	(17.4)	10.8	—	7.2	—	回転糸切→付高台	完全実測	No9、No12、M8			
12	土師器	足高台碗	17.5	10.2	—	7.8	—	回転糸切→付高台	完全実測	No11			
13	土師器	足高台碗	(17.5)	10.7	—	8.4	—	回転糸切→付高台	完全実測	No8、No11、No12			
14	土師器	足高台碗	(17.7)	10.6	—	8.4	—	回転糸切→付高台、輪花	完全実測	No9			
15	土師器	碗	—	7.0	—	<3.3>	—	回転糸切→付高台	完全実測	No7			
16	土師器	碗	—	(7.4)	—	<3.0>	—	回転糸切→付高台	完全実測	覆土			
17	土師器	碗	—	7.6	—	<3.4>	—	回転糸切→付高台	完全実測	No13			
18	土師器	碗	—	7.7	—	<3.4>	—	回転糸切→付高台	完全実測	No2			
19	土師器	碗	—	8.0	—	<3.0>	—	回転糸切→付高台	完全実測	覆土			
20	土師器	碗	—	(8.8)	—	<3.0>	—	回転糸切→付高台	完全実測	No6			
21	土師器	足高台碗	—	10.5	—	<3.0>	—	回転糸切→付高台	完全実測	覆土			
22	灰釉陶器	皿	12.9	7.3	—	2.7	—	回転糸切→付高台	完全実測	No1			
23	土師器	口ウコ甕	—	(7.6)	—	<3.1>	—	ケズリ、ナデ	回転実測	覆土			
24	土師器	甕	—	8.2	—	<10.8>	—	ミガキ	完全実測	No13			
25	土師器	武蔵甕	—	—	—	—	—	ケズリ	破片実測	No19			
26	須恵器	甕	—	—	—	—	—	櫛描波状文、隆帯	破片実測・拓本	No15			

第203表 遺構外出土遺物 縄文土器一覽表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備			
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	楕円押型文、早期	破片実測・拓本	表採			

第204表 遺構外出土遺物 弥生土器観察表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備			
1	弥生土器	甕	(18.8)	—	—	<5.3>	—	口唇部小突起に刻目	回転実測	—			
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	—			
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部小突起に刻目	破片実測・拓本	—			
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	—			
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部押捺	破片実測・拓本	—			
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部刻目、条痕文	破片実測・拓本	—			

第 205 表 遺構外出土遺物 弥生土器觀察表 (2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	口唇部縄文原体押捺		破片実測・拓本	—
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	波状口縁、条痕文		破片実測・拓本	—
9	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	赤彩、小突起、沈線文		破片実測・拓本	O4
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	波状口縁		破片実測・拓本	—
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	—
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	波状口縁、波頂部刻目		破片実測・拓本	—
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
14	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	M22
15	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	—
16	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
17	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
18	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	M22
19	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	縄文 (R(L2))		破片実測・拓本	—
20	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	縄文 (R(L2))		破片実測・拓本	—
21	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	—
22	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
23	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	I5
24	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
25	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
26	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
27	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
28	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
29	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本	—
30	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
31	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
32	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	I5
33	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	M22
34	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
35	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
36	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
37	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	N9
38	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	燃糸文		破片実測・拓本	—
39	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	車軸絡条体 (L(L2))		破片実測・拓本	L22
40	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	縄文 (R(L2))		破片実測・拓本	—
41	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
42	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
43	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	I5
44	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
45	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
46	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	—
47	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	条痕文		破片実測・拓本	表採

第206表 遺構外出土遺物 弥生土器觀察表(3)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
48	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
49	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
53	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
54	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
55	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
56	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
57	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
58	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
60	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
62	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
65	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
66	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
67	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
68	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
73	弥生土器	甕	(8.0)	—	<5.1>	—	—	—	—	—	—
74	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
75	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—
76	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 207 表 遺構外出土遺物 土師器一覽表 (1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	環	(10.6)	(6.0)	(3.8)	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	O21
2	土師器	環	(11.5)	5.2	3.9	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全実測	Bトレ
3	土師器	環	11.7	5.8	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	—
4	土師器	環	(12.0)	(5.0)	(3.0)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	O12
5	土師器	環	(12.0)	(5.4)	(3.3)	—	ナデ→黒色処理	回転糸切	回転実測	表採
6	土師器	環	(12.4)	—	<3.5>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—
7	土師器	環	(12.8)	(5.2)	(3.7)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I8
8	土師器	環	(12.8)	—	<3.9>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	—
9	土師器	環	12.8	—	<6.9>	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	表採
10	土師器	環	(13.2)	(12.4)	<3.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	—
11	土師器	環	(13.4)	(5.0)	4.6	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	回転実測	F2
12	土師器	環	(13.6)	(7.2)	3.5	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	I5
13	土師器	北武蔵型環	(13.6)	(10.4)	<3.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	E3
14	土師器	北武蔵型環	(13.6)	(12.0)	<3.7>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	表採
15	土師器	環	(13.6)	(12.8)	<4.2>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	—
16	土師器	環	(13.8)	(12.2)	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	A4
17	土師器	環	(14.0)	(5.8)	3.2	—	黒色処理	回転糸切、墨書	回転実測	—
18	土師器	有段口縁環	(14.0)	(12.0)	<3.3>	—	摩耗	摩耗	回転実測	—
19	土師器	環	(14.2)	—	<3.0>	—	ナデ→暗文→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	—
20	土師器	環	(14.4)	(12.4)	<3.9>	—	ナデ→黒色処理	ケズリ	回転実測	C7
21	土師器	環	(14.4)	—	<3.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—
22	土師器	環	(14.6)	(7.2)	3.9	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転実測	—
23	土師器	北武蔵型環	(14.6)	(12.4)	<4.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	—
24	土師器	環	(14.8)	(8.4)	(5.2)	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	表採
25	土師器	環	(16.0)	(11.8)	<3.7>	—	ナデ	ミガキ	回転実測	—
26	土師器	環	(16.0)	—	<4.6>	—	ミガキ→黒色処理	ナデ→一部ミガキ	回転実測	—
27	土師器	環	(18.6)	—	<3.0>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	表採
28	土師器	環	—	4.5	<1.8>	—	黒色処理	底部→周縁ケズリ	完全実測	H14
29	土師器	環	—	4.9	<1.4>	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	—
30	土師器	環	—	5.1	<1.2>	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	O12
31	土師器	環	—	5.4	<2.0>	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全実測	表採
32	土師器	環	—	(5.8)	<2.7>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I4
33	土師器	環	—	(6.0)	<2.7>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	表採
34	土師器	環	—	6.1	<1.5>	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	—
35	土師器	環	—	(6.2)	<3.2>	—	ミガキ→暗文→黒色処理	回転糸切	回転実測	—
36	土師器	環	—	7.1	<3.2>	—	ミガキ→黒色処理	摩耗	完全実測	表採
37	土師器	環	—	(7.8)	<3.2>	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転実測	—
38	土師器	機内系暗文環	—	(10.6)	<1.9>	—	暗文→黒色処理	摩耗	回転実測	表採
39	土師器	環	—	—	<4.8>	—	ナデ	底部周縁ケズリ、剥落	回転実測	H1
40	土師器	環	—	—	—	—	ミガキ	墨書	破片実測	表採
41	土師器	碗	(11.2)	(6.2)	(4.8)	—	ミガキ→暗文→黒色処理	付高台	回転実測	—

第208表 遺構外出土遺物 土師器一覽表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
42	土師器	碗	(14.2)	—	<4.3>	—	ミガキ→暗文→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	—	—	
43	土師器	碗	14.3	7.7	6.1	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	—	—	
44	土師器	碗	(15.1)	(8.4)	5.0	—	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全実測	—	—	
45	土師器	碗	(15.2)	—	<4.7>	—	ミガキ→黒色処理	高台欠損、墨書	回転実測	—	—	
46	土師器	碗	—	8.3	<2.9>	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	—	—	
47	土師器	碗	—	—	<1.4>	—	暗文→黒色処理	回転糸切→付高台	回転実測	—	—	
48	土師器	碗	—	—	<2.9>	—	暗文→黒色処理	高台欠損	回転実測	—	—	
49	土師器	耳皿	9.7	4.1	3.2	—	黒色処理	黒色処理、孔φ0.5	完全実測	—	—	
50	土師器	皿	(12.4)	(6.8)	2.2	—	ミガキ→黒色処理	糸切→付高台	回転実測	—	—	
51	土師器	高坏	—	(12.0)	<4.0>	—	ナデ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	—	—	
52	土師器	手捏	—	(3.2)	<2.7>	—	ナデ	ナデ	回転実測	—	表採	
53	土師器	甕	(11.8)	—	<5.7>	—	ハケナデ	ナデ	回転実測	—	—	
54	土師器	ロクロ甕	(12.7)	—	<6.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—	—	
55	土師器	甕	(16.2)	—	<4.8>	—	ミガキ	ナデ	回転実測	—	C11	
56	土師器	ロクロ甕	(21.6)	—	<5.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—	—	
57	土師器	武蔵甕	(22.0)	—	<4.5>	—	ナデ	ナデ	回転実測	—	K1	
58	土師器	武蔵甕	(22.2)	—	<6.5>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	—	—	
59	土師器	ロクロ甕	(22.2)	—	<14.0>	—	カキメ	ケズリ	回転実測	—	—	
60	土師器	武蔵甕	(22.9)	—	<7.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	—	B1	
61	土師器	武蔵甕	(25.6)	—	<6.0>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	—	—	
62	土師器	ロクロ甕	—	(5.4)	<2.5>	—	ナデ	回転糸切	回転実測	—	表採	
63	土師器	甕	—	(8.4)	<1.7>	—	ナデ	ハケメ	回転実測	—	—	
64	土師器	ロクロ甕	—	(10.8)	<3.2>	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	—	I5	
65	土師器	東海系(北野)?	—	—	—	—	ハケメ	ケズリ	回転実測	—	R12	
66	土師器	羽釜	—	—	<8.8>	—	ナデ	ナデ	破片実測	—	O22	
67	土師器	甕	—	—	—	—	ナデ	ミガキ	回転実測	—	—	
68	土師器	把手	—	—	—	—	ナデ	ナデ	完全実測	—	—	
69	土師器	甕	(9.8)	—	<6.8>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	—	—	
70	土師器	甕	(10.0)	—	<4.0>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	—	—	

第209表 遺構外出土遺物 須恵器一覽表(1)

No	器種	器形	法			量		成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面				
1	須恵器	坏	(13.3)	(7.5)	<3.2>	—	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	—	—	
2	須恵器	坏	(13.7)	(8.2)	(4.2)	—	火礫	ケズリ、火礫	回転実測	—	A 耕作土	
3	須恵器	坏	(13.8)	(7.4)	(4.1)	—	火礫	回転糸切、火礫	回転実測	—	表採	
4	須恵器	坏	(13.8)	(9.0)	(2.9)	—	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	—	—	
5	須恵器	坏	(14.0)	(7.2)	(3.6)	—	火礫	回転糸切、火礫	回転実測	—	表採	
6	須恵器	坏	(14.0)	(8.4)	(4.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ、底部摩擦	回転実測	—	—	
7	須恵器	坏	(14.2)	(7.4)	(5.8)	—	ロクロナデ	ケズリ	回転実測	—	—	
8	須恵器	坏	(14.5)	(8.9)	(3.7)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	—	A 耕作土	

第210表 遺構外出土遺物 須恵器一覽表(2)

No	器種	器形	法			量		成形、調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(厚)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
9	須恵器	環	—	(5.8)	<2.8>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	覆土		
10	須恵器	環	—	6.0	<1.4>	—	火礫	右回転糸切	完全実測	表探		
11	須恵器	環	—	6.0	<2.9>	—	火礫	右回転糸切、火礫	完全実測	表探		
12	須恵器	環	—	6.1	<2.0>	—	火礫	回転ヘラ切り→ヘラケズリ、火礫	完全実測	—		
13	須恵器	環	—	6.2	<2.1>	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	—		
14	須恵器	環	—	(7.3)	<2.1>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	—		
15	須恵器	環	—	7.7	<1.3>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全実測	C0		
16	須恵器	環	—	8.1	<4.2>	—	火礫	回転ヘラ切り、火礫	完全実測	—		
17	須恵器	環	—	(8.7)	<2.2>	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転実測	B0		
18	須恵器	環	—	—	—	—	ロクロナデ	ケズリ、刻書	破片実測	C2		
19	須恵器	環	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	—		
20	須恵器	環	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	I7		
21	須恵器	有台環	(7.8)	(6.0)	<4.6>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	—		
22	須恵器	有台環	—	6.6	<1.8>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	A耕作土		
23	須恵器	有台環	—	(8.9)	<1.7>	—	ロクロナデ	右回転糸切→付高台	回転実測	I7		
24	須恵器	环蓋	(15.9)	—	<2.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—		
25	須恵器	环蓋	(17.5)	—	<2.7>	—	ロクロナデ	火礫	回転実測	I8		
26	須恵器	环蓋	—	—	<1.3>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	覆土		
27	須恵器	环蓋	—	—	<2.4>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	—		
28	須恵器	高环	(8.4)	—	<3.8>	—	ロクロナデ	櫛歯状工具による刺突文、沈線	回転実測	—		
29	須恵器	高环	—	—	<3.3>	—	ロクロナデ	ヘラ描沈線、透かし有り	回転実測	表探		
30	須恵器	高环(脚)	—	—	<7.3>	—	ロクロナデ	沈線、三角形透孔(3ヶ所)	完全実測	表探		
31	須恵器	甕	(29.8)	—	<6.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—		
32	須恵器	甕	(30.0)	—	<4.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—		
33	須恵器	甕	(38.6)	—	<10.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—		
34	須恵器	甕	—	(10.7)	<4.2>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	B耕作土		
35	須恵器	甕	—	(11.2)	<2.3>	—	ナデ	指頭圧痕→ナデ	完全実測	—		
36	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	隆帯	破片実測	—		
37	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	—		
38	須恵器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	沈線、櫛描波状文	破片実測	—		
39	須恵器	甕	—	—	—	—	青海波文	—	破片実測	—		
40	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測	—		
41	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	口縁部櫛描波状文	破片実測・拓本	—		
42	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	ロクロナデ	破片実測	O22		
43	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	ケズリ→ナデ	破片実測	C2		
44	須恵器	壺	(9.0)	—	<4.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	R17		
45	須恵器	壺	—	(7.6)	<3.3>	—	ロクロナデ	付高台	回転実測	—		
46	須恵器	壺	—	(7.9)	<2.8>	—	ロクロナデ	付高台	回転実測	—		
47	須恵器	壺	—	9.6	<2.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	表探		
48	須恵器	壺	—	—	<5.3>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	—		
49	須恵器	壺	—	—	<7.1>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	K1		

第211表 遺構外出土遺物 須恵器一覧表(3)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面	外面		
50	須恵器	壺	—	—	<7.6>	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	—
51	須恵器	壺	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	H1
52	須恵器	凸帯文付四耳壺	—	—	<6.2>	—	—	—	当具痕	当具痕	凸帯、耳貼付	回転実測	H14
53	須恵器	凸帯文付四耳壺	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	凸帯、耳貼付	破片実測	—
54	須恵器	凸帯文付四耳壺	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	凸帯、耳貼付	破片実測	—
55	須恵器	凸帯文付四耳壺	—	—	—	—	—	—	当具痕	当具痕	平行叩目、凸帯、耳貼付	破片実測	—
56	須恵器	平瓶	(6.8)	—	<2.7>	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	口唇部に隆帯	回転実測	—

第212表 遺構外出土遺物 灰釉・緑釉・青磁一覧表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面	外面		
1	灰釉陶器	碗	(12.4)	(7.2)	(2.5)	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	—	
2	灰釉陶器	碗	(13.0)	—	<2.6>	—	施釉	—	施釉	施釉	回転実測	—	
3	灰釉陶器	碗	(13.6)	—	<3.7>	—	施釉	—	施釉	施釉	回転実測	B13	
4	灰釉陶器	碗	—	(6.6)	<3.3>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ、施釉	回転実測	—	
5	灰釉陶器	碗	—	(6.8)	<2.6>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ、施釉	回転実測	—	
6	灰釉陶器	碗	—	(7.0)	<2.3>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ、施釉	回転実測	A 耕作土	
7	灰釉陶器	碗	—	(8.0)	<1.5>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	—	
8	灰釉陶器	碗	—	(8.0)	<2.1>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	—	
9	灰釉陶器	碗	—	(8.2)	<3.7>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	Q10	
10	灰釉陶器	碗	—	(8.8)	<1.8>	—	施釉	—	施釉	回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転実測	C1	
11	灰釉陶器	平瓶	—	—	<3.9>	—	施釉	—	施釉	ヘラ描格子目文、施釉	回転実測	表探	
12	緑釉陶器	碗	—	—	—	—	施釉	—	施釉	破片実測	破片実測	O22	
13	青磁	碗	—	—	<1.9>	—	施釉	—	施釉	施釉	回転実測	C5	
14	青磁	碗	—	—	—	—	施釉	—	施釉	施釉	破片実測	D3	

第213表 遺構外出土遺物 土製品一覧表

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面	外面		
1	土製品	土器片円盤	4.2	4.3	0.8	—	—	—	—	—	—	完全実測	—
2	土製品	土器片円盤	2.7	2.5	1.0	—	—	—	—	—	—	完全実測	—

第214表 遺構外出土遺物 石器・石製品一覧表(1)

No	器種	器形	法			量			成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	口径(長)	口径(短)	器高(厚)	内面	外面	外面		
1	石器	凹石	9.6	8.7	5.4	218.0	凹	φ 5.9-6.4、凹深 1.8、擦面あり	—	—	—	完全実測	B'0
2	石器	打製石斧	<7.3>	<3.8>	<1.6>	<689.0>	基部欠損、頭部磨減顕著	—	—	—	—	完全実測	A12
3	石器	石鏃	<1.6>	<1.4>	<0.3>	<0.36>	黒曜石、片脚のみ残存	—	—	—	—	完全実測	—
4	石製品	白玉	0.7	0.7	0.45	0.27	φ 0.3	—	—	—	—	完全実測	G8
5	石製品	白玉	0.75	0.75	0.25	0.22	φ 0.2	—	—	—	—	完全実測	—
6	石製品	碧玉	0.45	0.5	2.15	0.88	φ 0.25	—	—	—	—	完全実測	I7

第 215 表 遺構外出土遺物 石器・石製品一覽表 (2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	重量等			
7	石器	編物石	11.1	7.3	3.1	341.0		完全実測	—	
8	石器	編物石	11.2	6.2	3.0	254.0	両側に抉り、使用痕あり	完全実測	表採	
9	石器	磨石	2.1	2.0	<1.8>		一部欠損、全体に磨り	完全実測	—	
10	石器	磨石	6.2	4.0	1.1	38.0	磨面 1	完全実測	—	
11	石器	磨石	6.5	6.3	5.4	317.0	全体に磨り	完全実測	—	
12	石器	磨石	8.2	5.4	2.6	151.0	磨面 1	完全実測	—	
13	石器	磨・敲石	<8.1>	<10.0>	<5.8>	<768.0>	磨面 2、正裏と端部に敲打痕	完全実測	C4	
14	石製品	石錐	3.7	0.9	0.8	2.57	黒曜石、両端使用、潰れあり	完全実測	E1'	
15	石器	石匙	<4.0>	<3.7>	<1.1>	<12.86>	黒曜石、一部欠損	完全実測	Bトシ	
16	石器	二次加工のある剥片	1.5	1.5	0.4	0.71	黒曜石、正裏に加工痕	完全実測	—	
17	石材	石材	3.0	1.2	0.5	1.56		完全実測	—	
18	石材	石材	3.1	1.2	0.7	2.41		完全実測	—	
19	石器	石材	5.9	2.5	1.2	20.47		完全実測	—	
20	石製品	硯	<6.7>	<2.6>	<0.6>	<14.23>	左側～下部欠損	完全実測	—	

第 216 表 遺構外出土遺物 鉄器・鉄製品・銅製品一覽表

No	器種	器形	法			量		成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	器高(厚)	重量等	重量等			
1	鉄器	刀子	<10.4>	<0.8>	<0.3>	<9.20>	両端欠損	完全実測	H14	
2	鉄器	長頸鍬	<2.2>	<0.9>	<0.3>	<4.64>	同一個体(接合しない)	完全実測	—	
3	鉄器	長頸鍬	<9.5>	1.1	0.4	<10.28>	両端欠損	完全実測	D0	
4	鉄製品	角釘	<3.9>	0.7	0.3	<1.89>	先端欠損	完全実測	—	
5	鉄製品	角釘	<4.1>	0.7	0.7	<3.42>	先端欠損	完全実測	—	
6	鉄製品	角釘	<6.1>	<0.5>	<0.3>	<4.31>	両端欠損	完全実測	A4	
7	鉄製品	角釘	<7.7>	0.7	0.4	<7.63>	先端欠損	完全実測	A6	
8	鉄製品	鍬	<3.8>	<3.5>	<0.9>	<7.17>	両端欠損	完全実測	—	
9	鉄製品	角軸	<9.5>	<0.5>	<0.5>	<8.06>	両端欠損	完全実測	A 耕作土	
10	銅製品	古銭	径 2.40	—	0.08	2.39	「皇宋通」	完全実測・拓本	C2	
11	銅製品	古銭	径 2.45	—	0.10	3.54	「不明」	完全実測・拓本	I8	



H 1号竪穴建物



H 2号竪穴建物



H 3号竪穴建物



H 4号竪穴建物



H 5号竪穴建物



H 5号竪穴建物カマド



H 6号竪穴建物



H 7号竪穴建物



H 9号竪穴建物



H 11号竪穴建物



H 12号竪穴建物



H 13号竪穴建物



H 15号竪穴建物



H 16号竪穴建物



H 17号竪穴建物



H 18号竪穴建物



H 20 号竖穴建物



H 21 号竖穴建物



H 22 号竖穴建物



H 23 号竖穴建物



H 24 号竖穴建物



H 25 号竖穴建物



H 26 号竖穴建物



H 27 号竖穴建物



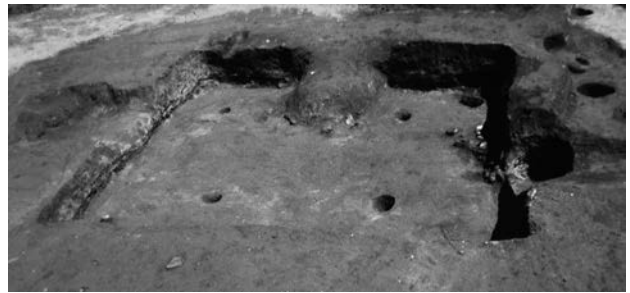
H 28 号竖穴建物



H 29 号竖穴建物



H 30 号竖穴建物



H 32 号竖穴建物



H 33 号竖穴建物



H 34 号竖穴建物



H 36 号竖穴建物



H 37 号竖穴建物



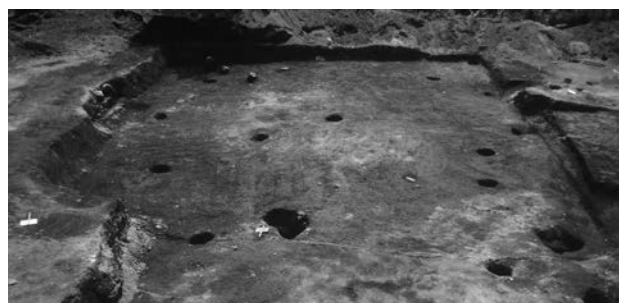
H 38 号竖穴建物



H 39 号竖穴建物



H 40 号竖穴建物



H 41 号竖穴建物



H 42 号竖穴建物



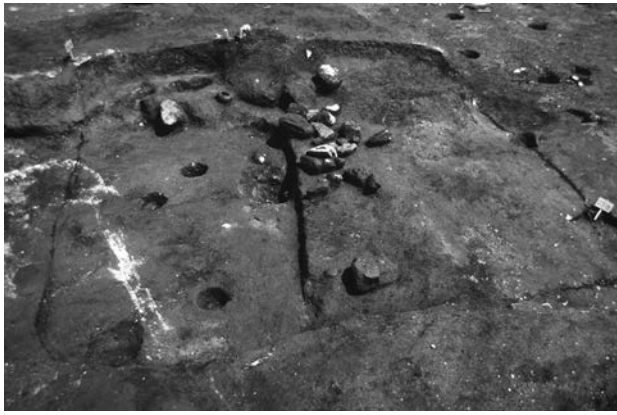
H 43 号竖穴建物



H 44 号竖穴建物



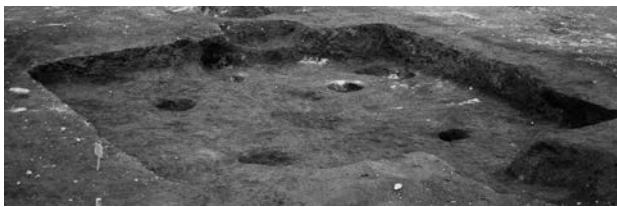
H 45 号竖穴建物



H 46 号竖穴建物



H 47 号竖穴建物



H 48 号竖穴建物



H 49 号竖穴建物



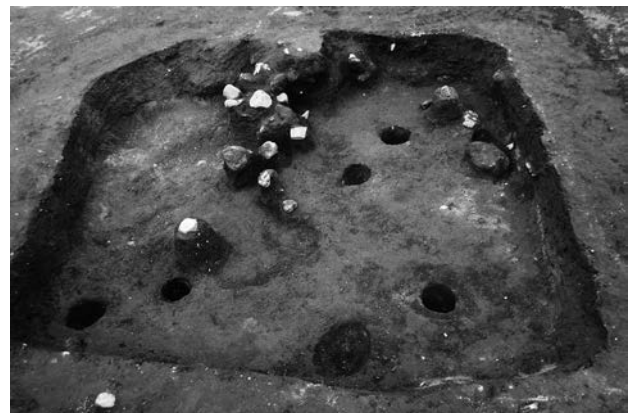
H 50 号竖穴建物



H 51 号竖穴建物



H 52 号竖穴建物



H 53 号竖穴建物



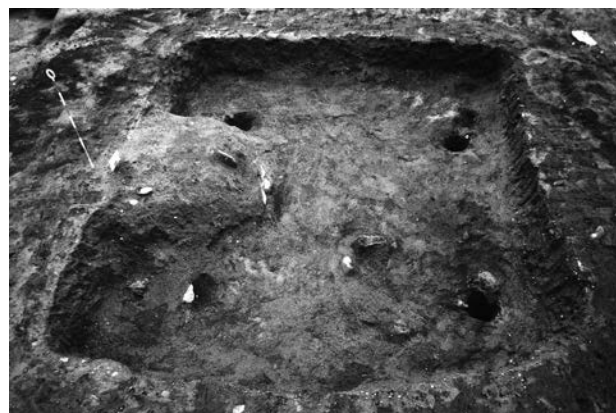
H 54 号竪穴建物



H 55 号竪穴建物



H 56 号竪穴建物



H 57 号竪穴建物



H 58 号竪穴建物



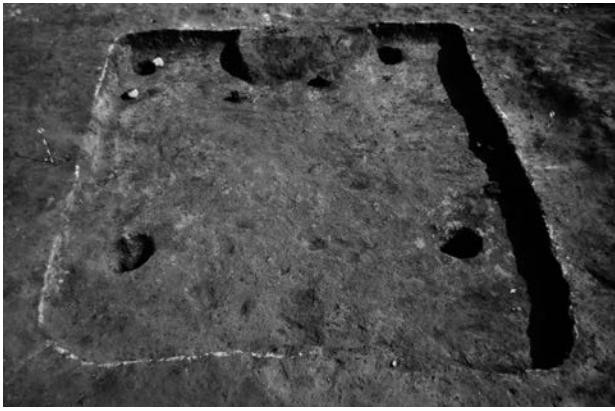
H 59 号竪穴建物



H 60 号竪穴建物



H 61 号竪穴建物



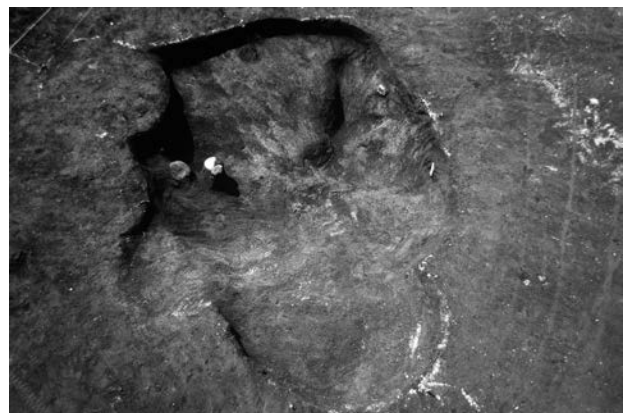
H 62 号竖穴建物



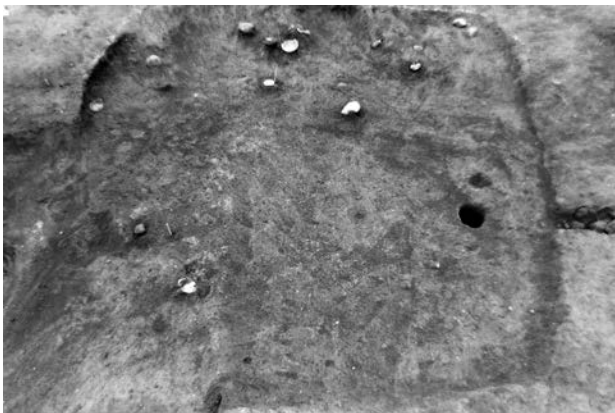
H 63 号竖穴建物



H 64 号竖穴建物



H 68 号竖穴建物



H 69 号竖穴建物



H 71 号竖穴建物



H 72 号竖穴建物



H 74 号竖穴建物



H 75 号竖穴建物



H 76 号竖穴建物



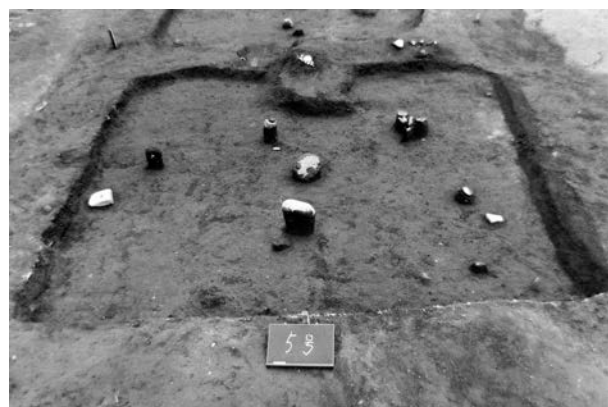
H 77 号竖穴建物



H 78 号竖穴建物



H 79 号竖穴建物



H 80 号竖穴建物



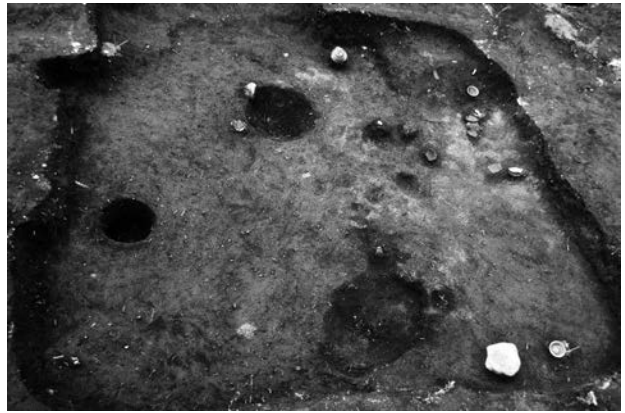
H 81 号竖穴建物



H 82 号竖穴建物



H 82 号竖穴建物



H 83 号竖穴建物



H 84 号竖穴建物



H 85 号竖穴建物



H 86 号竖穴建物



H 87 号竖穴建物



H 88 号竖穴建物



H 89 号竖穴建物



H 90-91 号竖穴建物



H 92 号竖穴建物



H 93 号竖穴建物



H 94 号竖穴建物



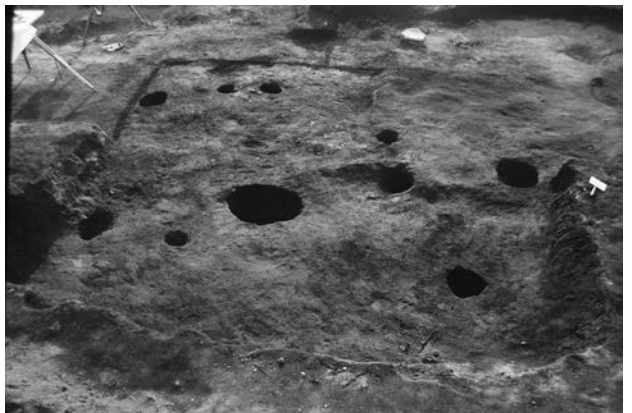
H 96 号竖穴建物



H 97 号竖穴建物



H 98 号竖穴建物



H 99 号竖穴建物



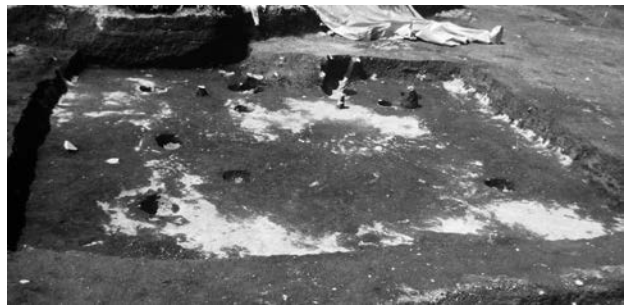
H 100 号竖穴建物



H 101 号竖穴建物



H 102 号竖穴建物



H 103 号竖穴建物



H 104 号竖穴建物



H 106 号竖穴建物



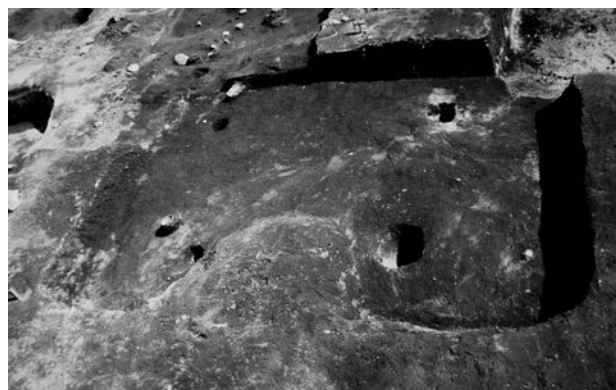
H 107 号竖穴建物



H 108 号竖穴建物



H 109 号竖穴建物



H 110 号竖穴建物



H 111 号竖穴建物



H 112 号竖穴建物



H 113 号竖穴建物



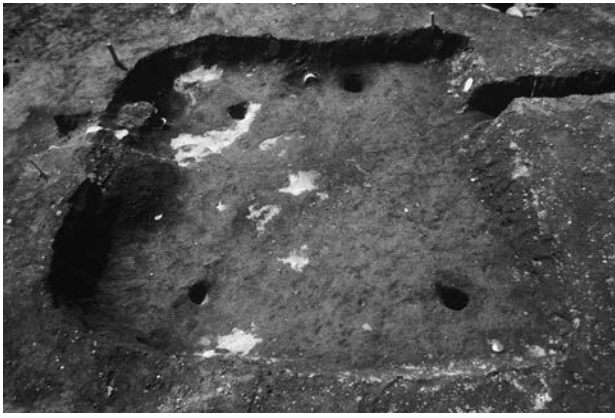
H 114 号竖穴建物



H 115 号竖穴建物



H 117 号竖穴建物



H 118 号竖穴建物



H 119 号竖穴建物



H 120 号竖穴建物



H 121 号竖穴建物



H 124 号竖穴建物



H 125 号竖穴建物



H 126 号竖穴建物



H 127 号竖穴建物



H 128 号竖穴建物



H 129 号竖穴建物



H 130 号竖穴建物



H 133 号竖穴建物



H 131 号竖穴建物



H 134 号竖穴建物



H 135 号竖穴建物



H 137 号竖穴建物



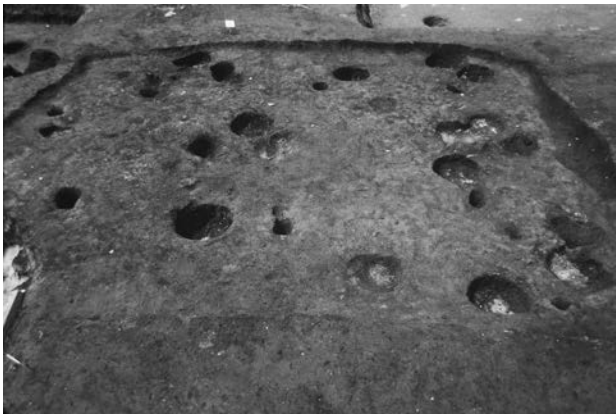
H 138 号竖穴建物



Y1 号竖穴建物



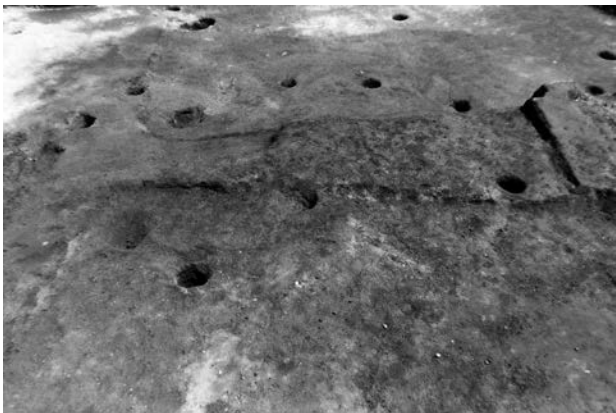
Y2 号竖穴建物



Y3 号竖穴建物



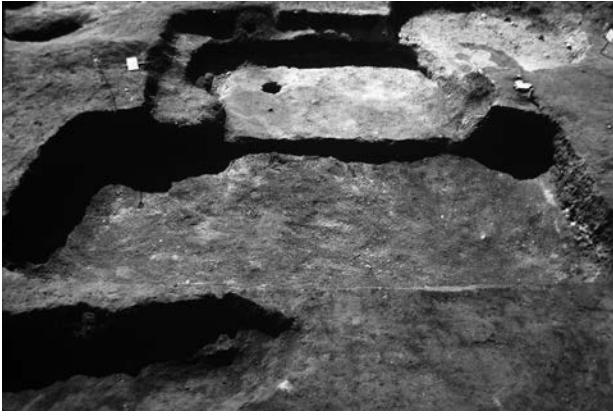
Y4 号竖穴建物



Y6 号竖穴建物



Y7 号竖穴建物



Ta1 号竖穴建物



Ta2 号竖穴建物



Ta3 号竖穴建物



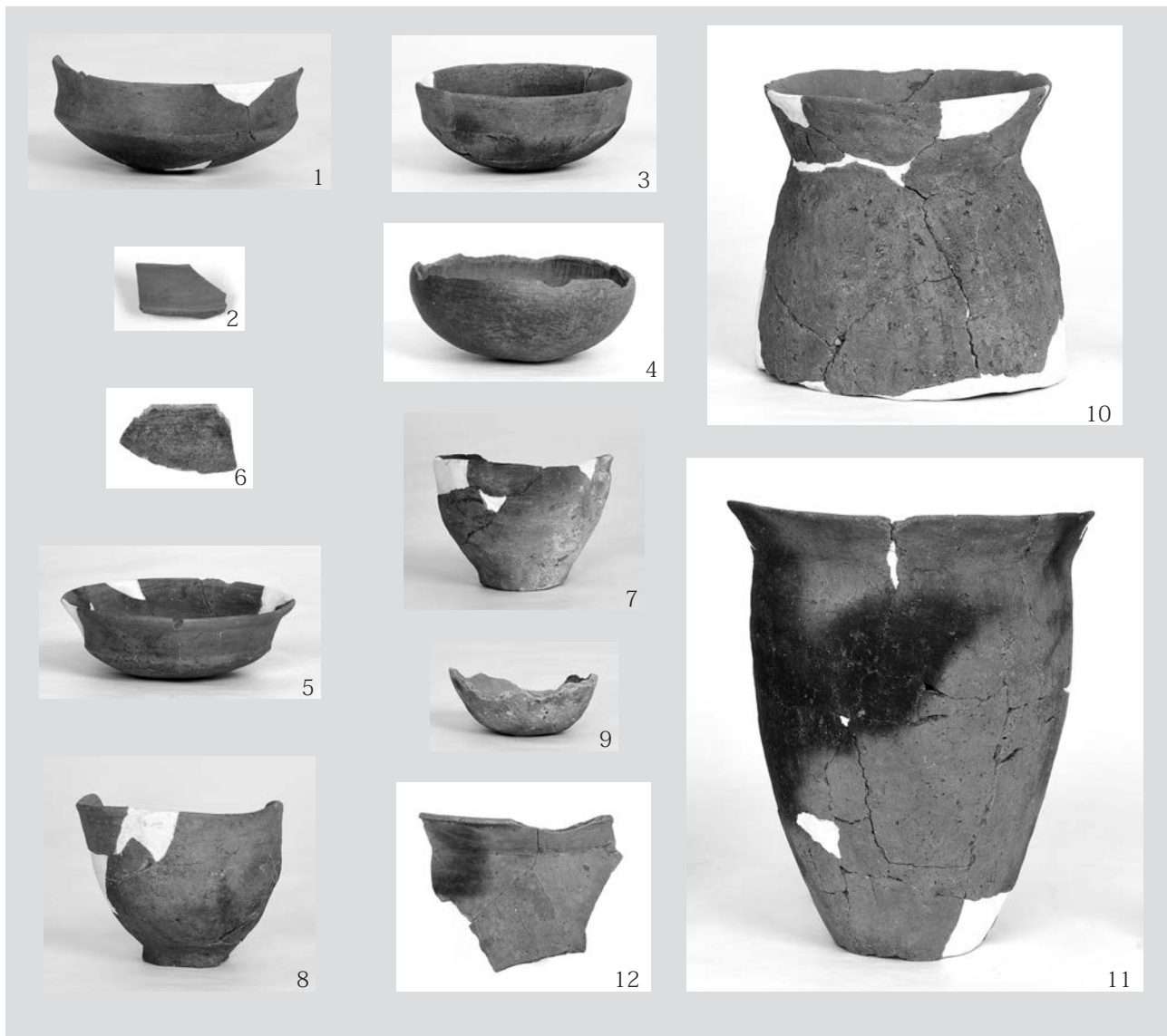
D1 号土坑



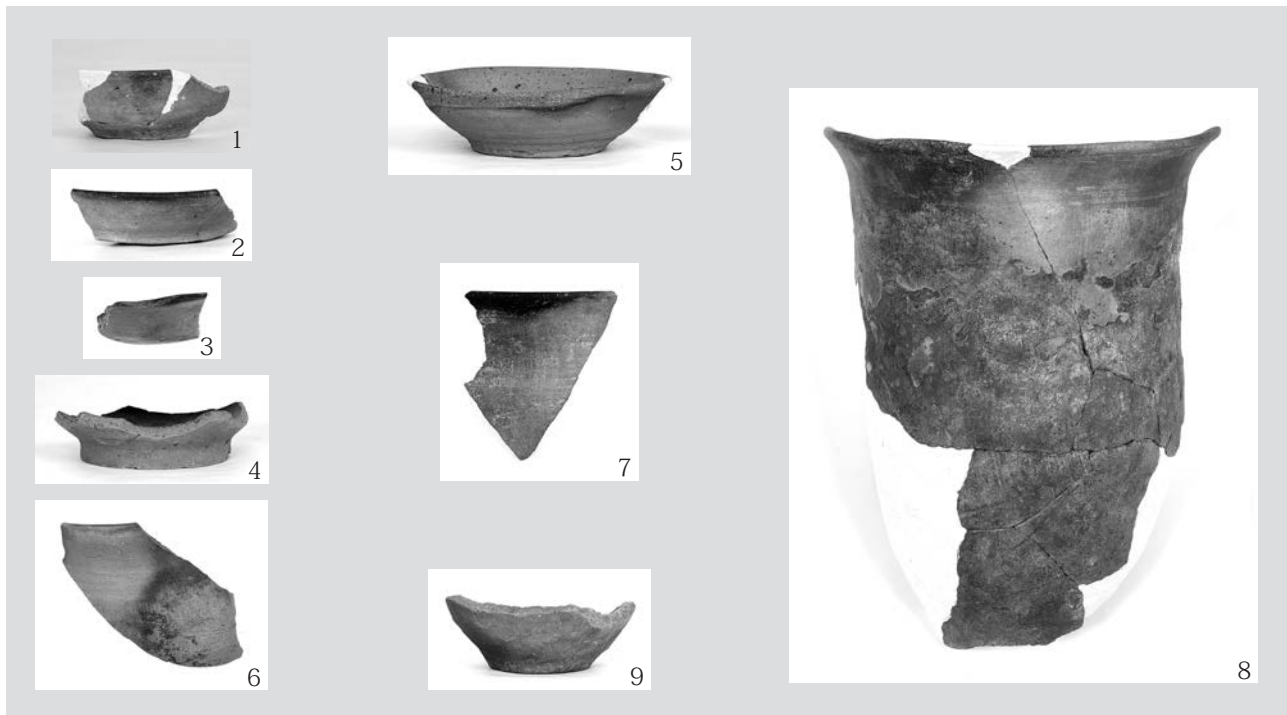
D2 号土坑



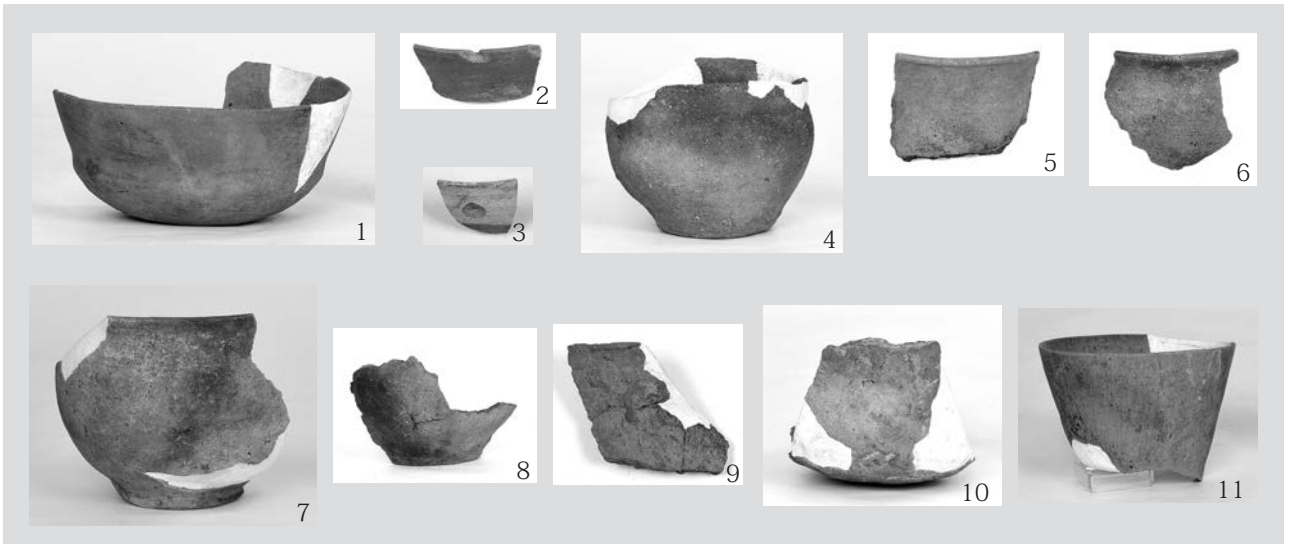
調査風景



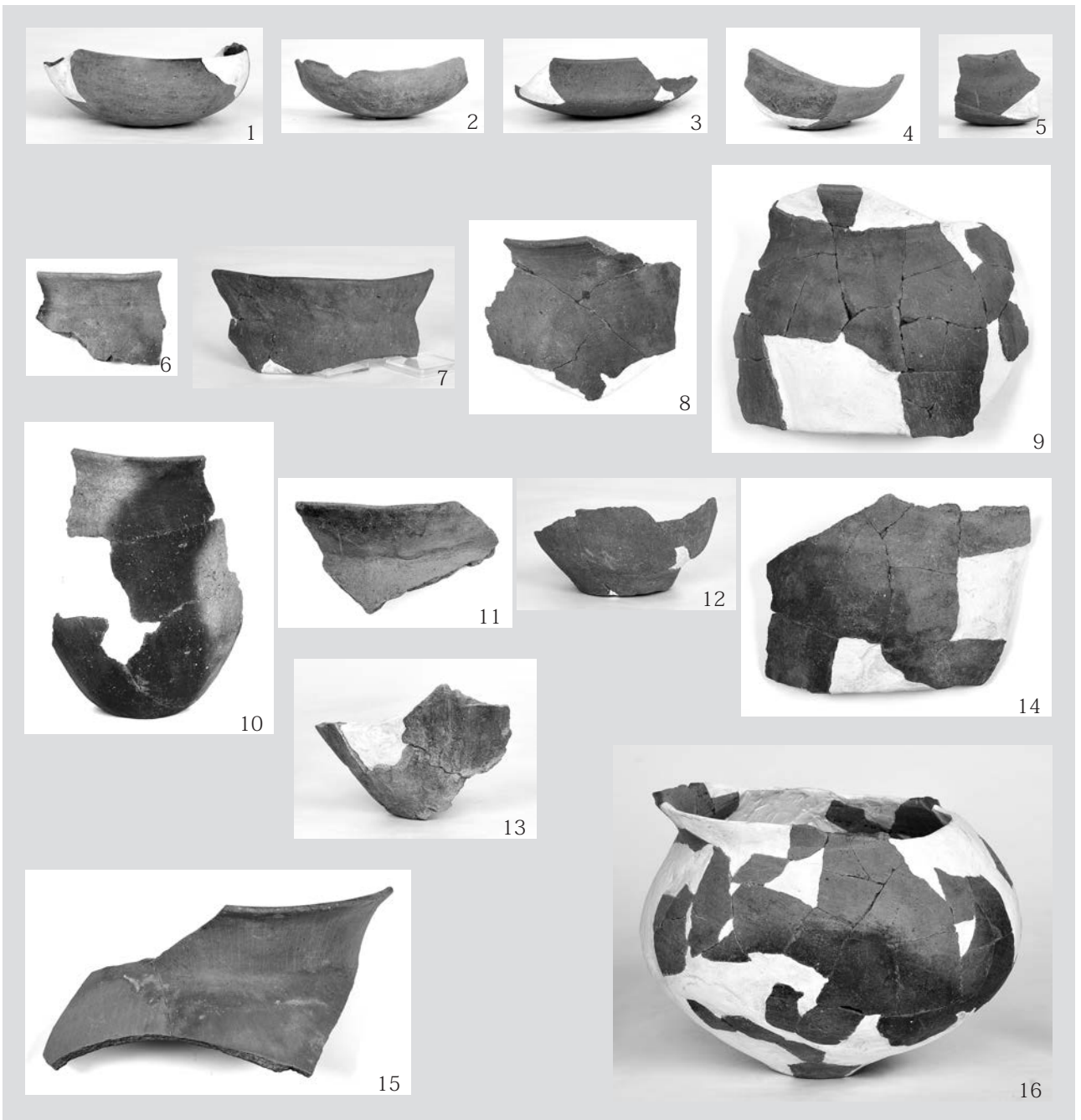
H1 号竖穴建物出土遺物



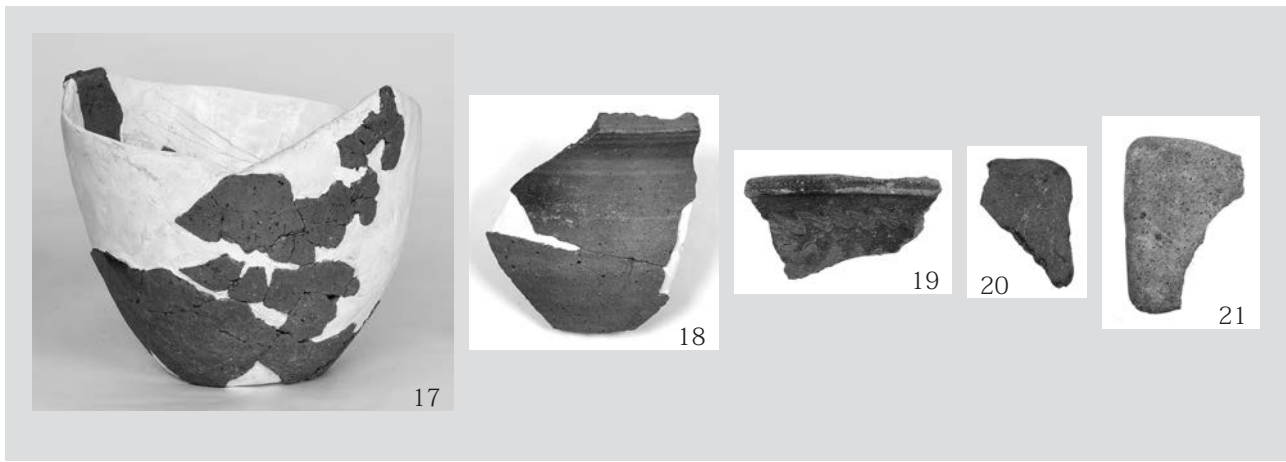
H2 号竖穴建物出土遺物



H3 号竖穴建物出土遺物



H4 号竖穴建物出土遺物 (1)



H4 号竖穴建物出土遺物 (2)



H5 号竖穴建物出土遺物 (1)



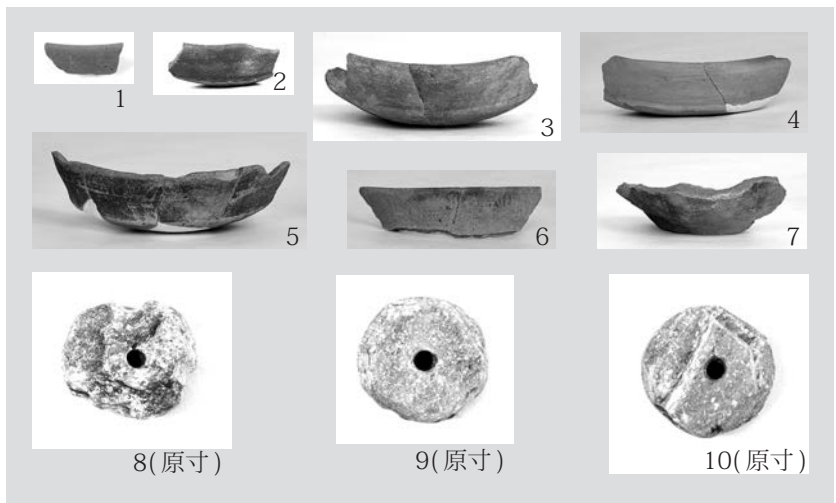
H5 号竖穴建物出土遺物 (2)



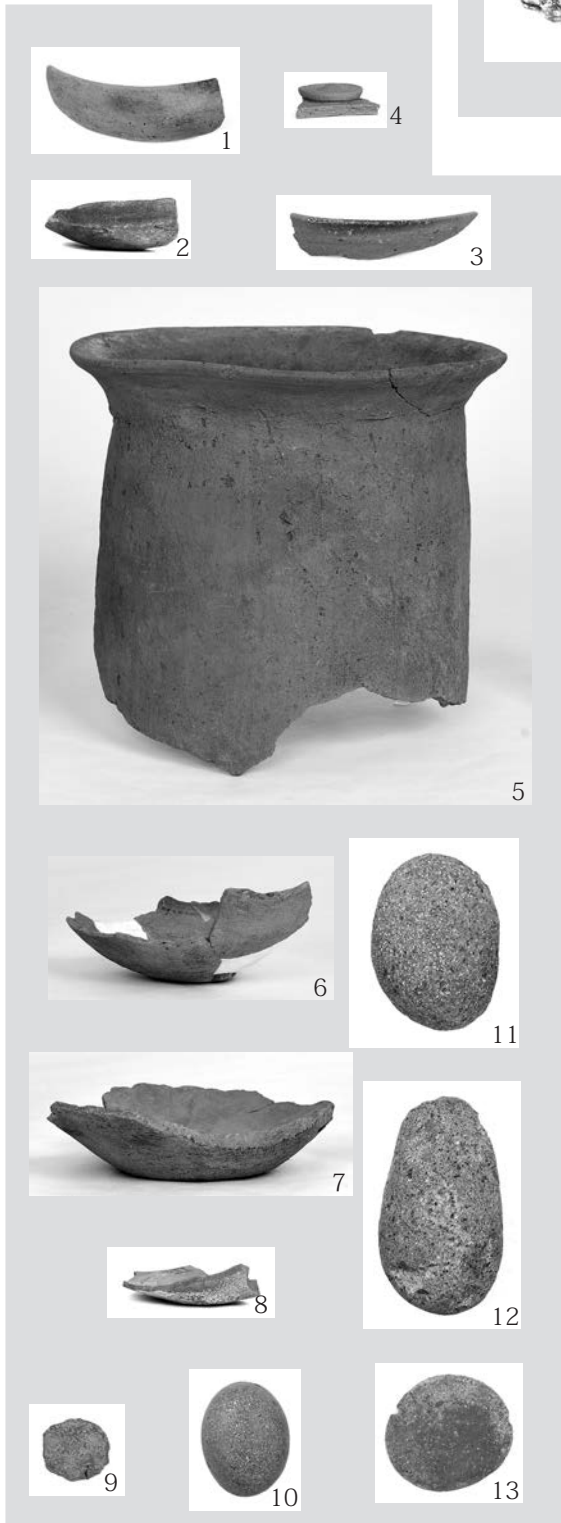
H6 号竖穴建物出土遺物



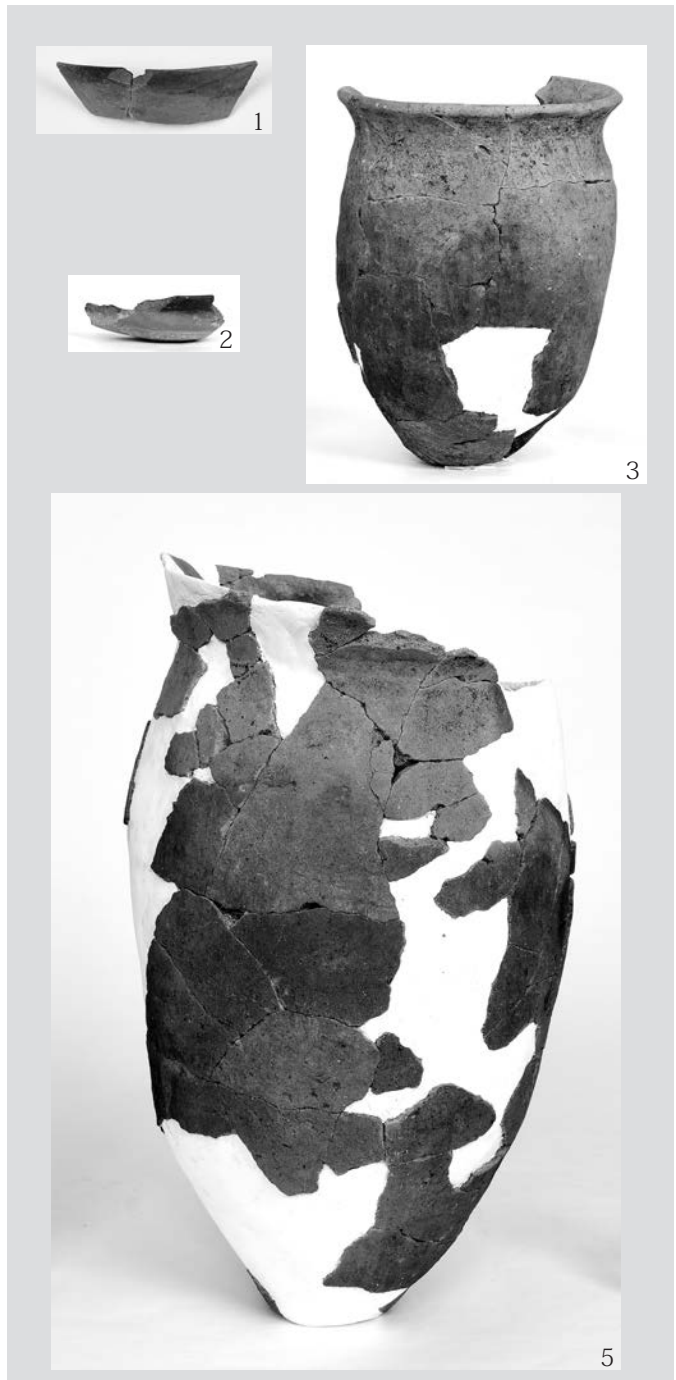
H7 号竖穴建物出土遺物



H8 号竖穴建物出土遺物



H9 号竖穴建物出土遺物



H10 号竖穴建物出土遺物 (1)



H10 号竖穴建物出土遺物 (2)



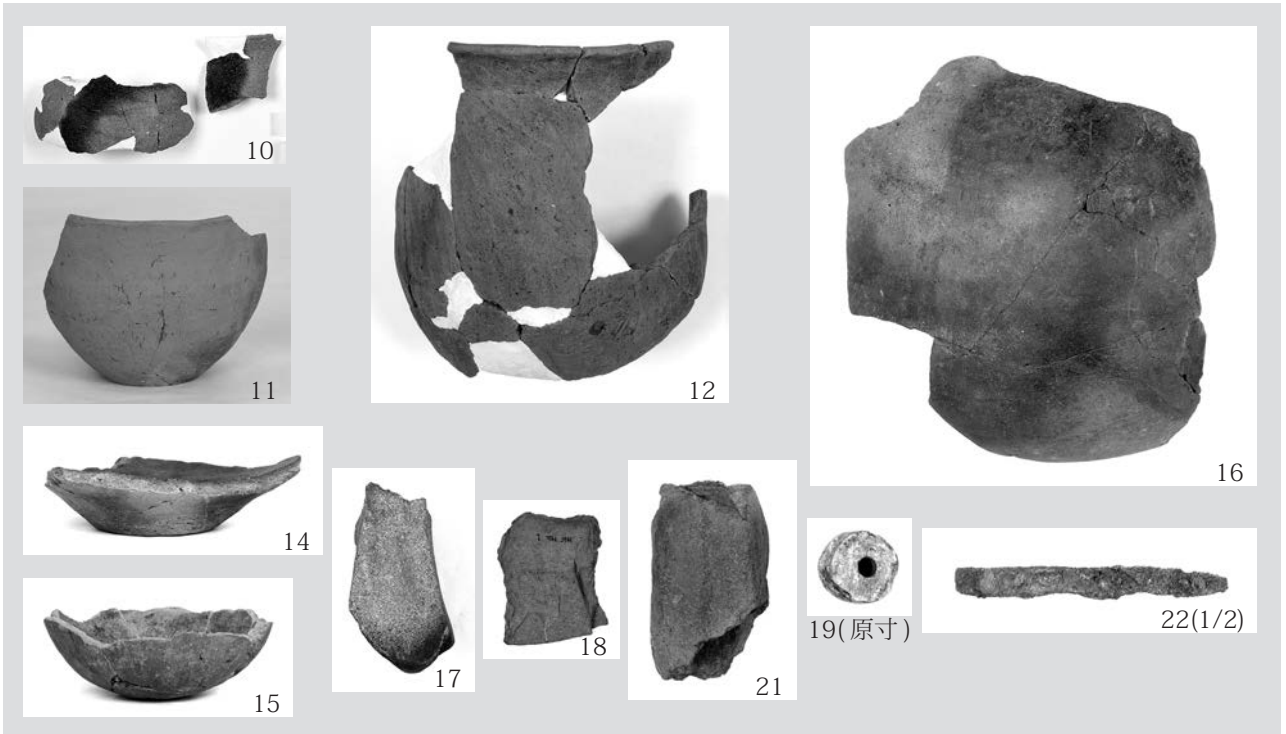
H11 号竖穴建物出土遺物 (1)



H11 号竪穴建物出土遺物 (2)



H12 号竪穴建物出土遺物 (1)



H12 号竖穴建物出土遺物 (2)



H13 号竖穴建物出土遺物



1

H 14 号竖穴建物出土遺物



1



2



3



4

H 15 号竖穴建物出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



10



8



9

H16 号竖穴建物出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8

H17 号竖穴建物出土遺物 (1)



H17 号竖穴建物出土遺物 (2)



H18 号竖穴建物出土遺物 (1)



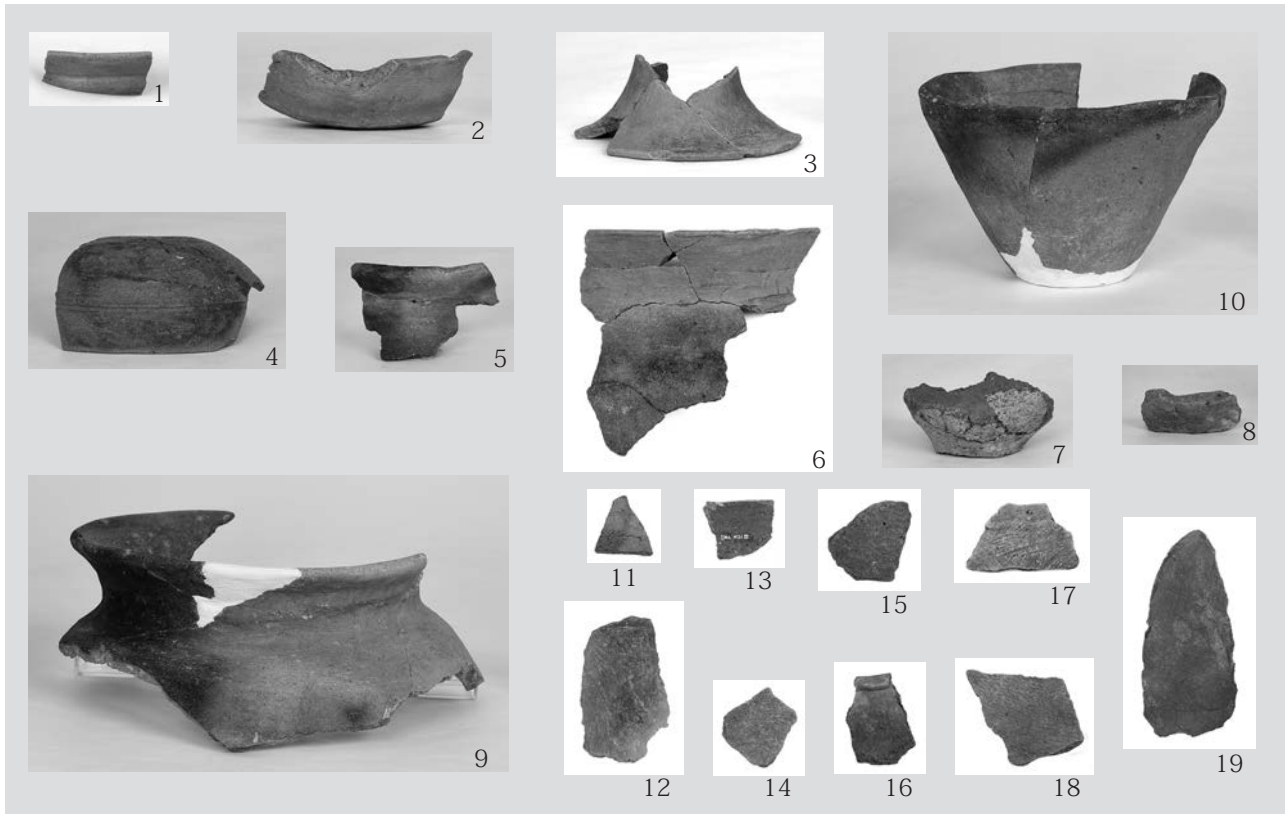
H18 号竖穴建物出土遺物 (2)



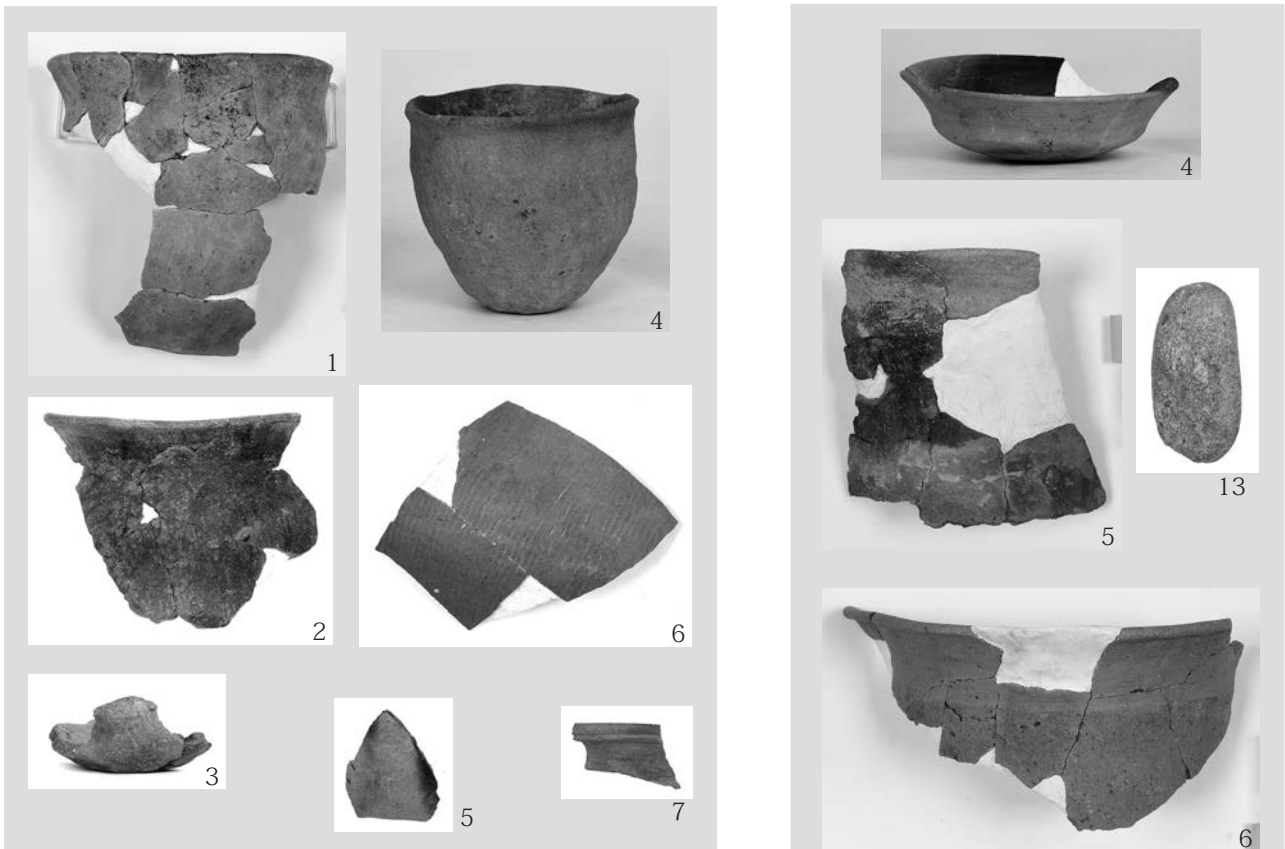
H19 号竖穴建物出土遺物



H20 号竪穴建物出土遺物



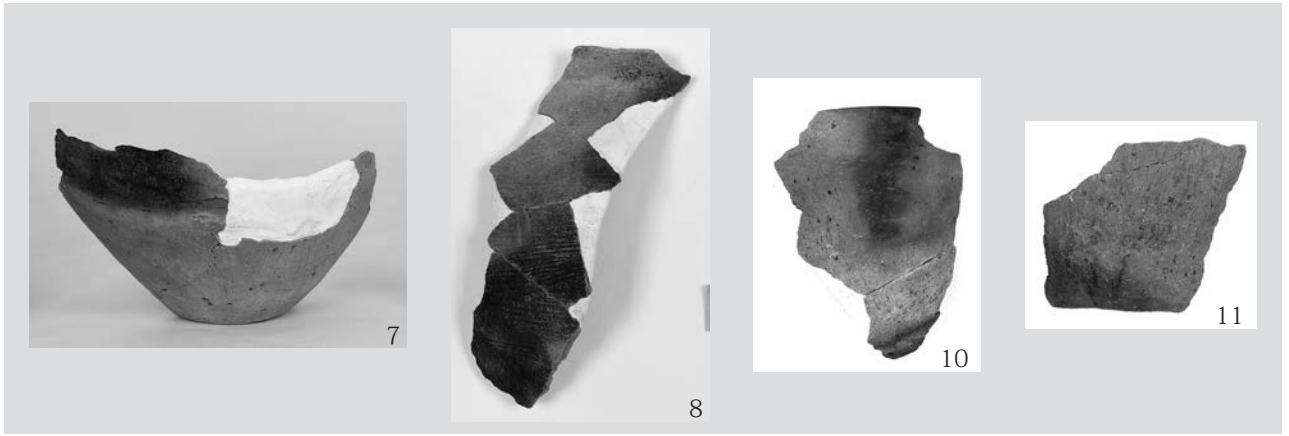
H21 号竖穴建物出土遺物



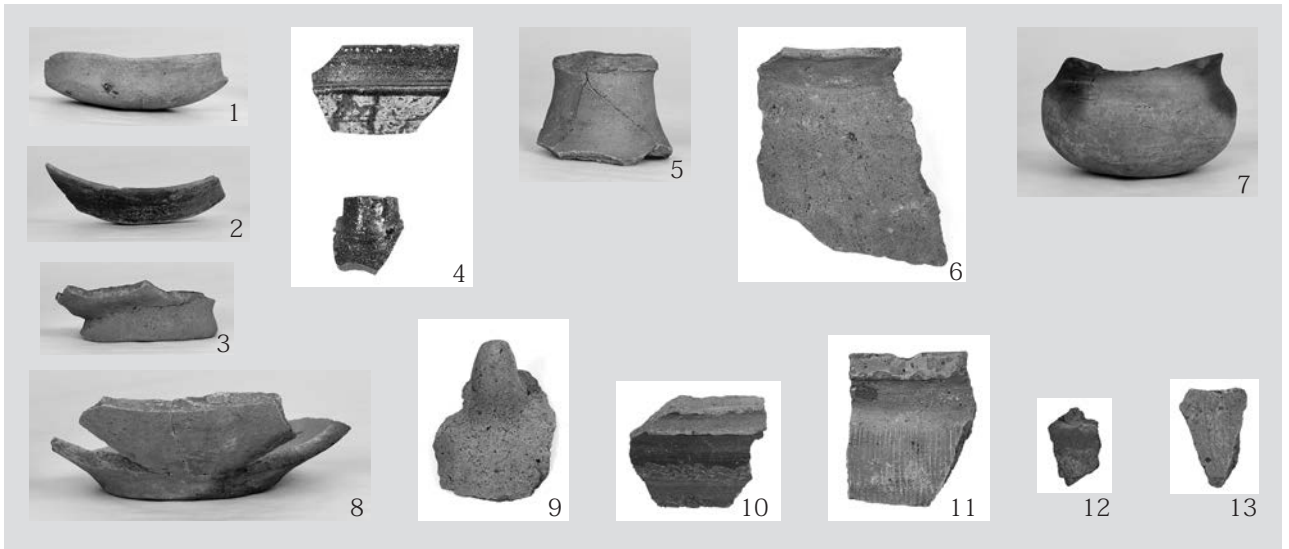
H22 号竖穴建物出土遺物



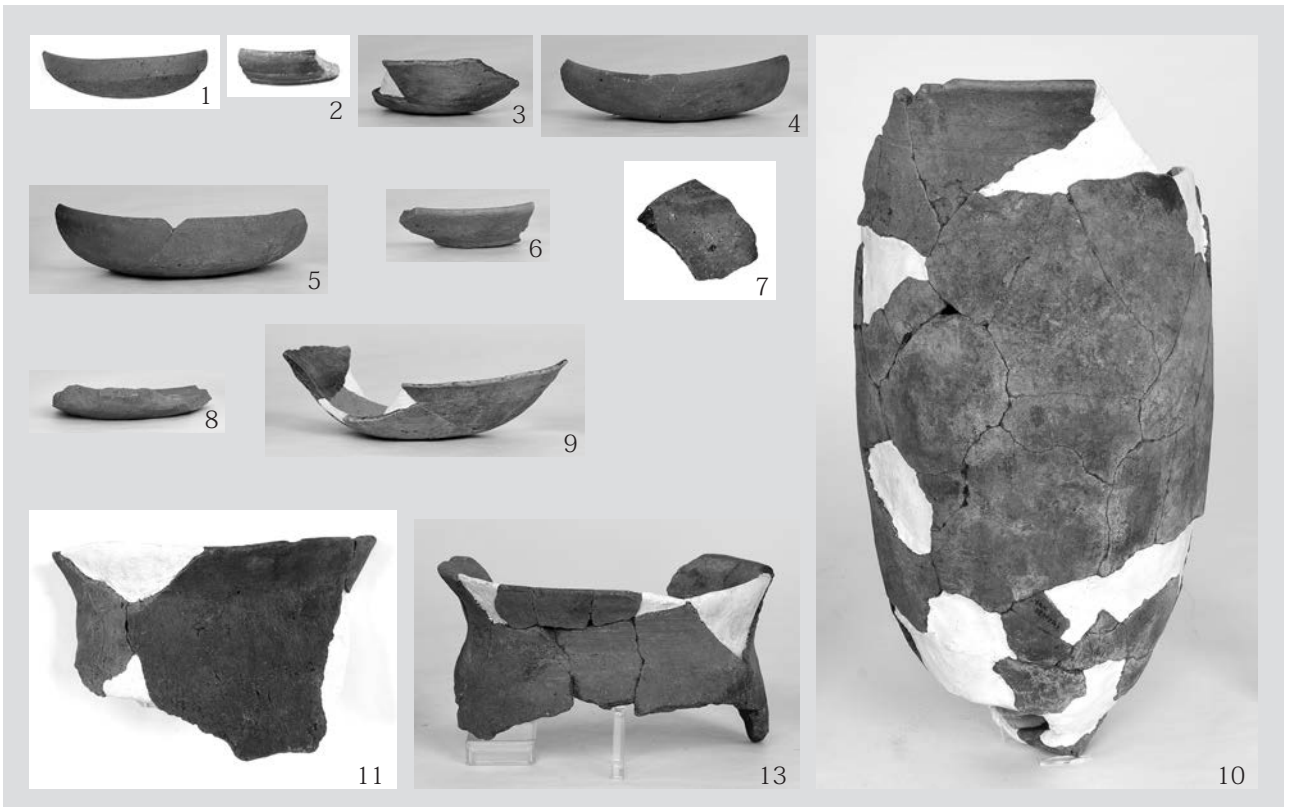
H23 号竖穴建物出土遺物 (1)



H23 号竖穴建物出土遺物 (2)



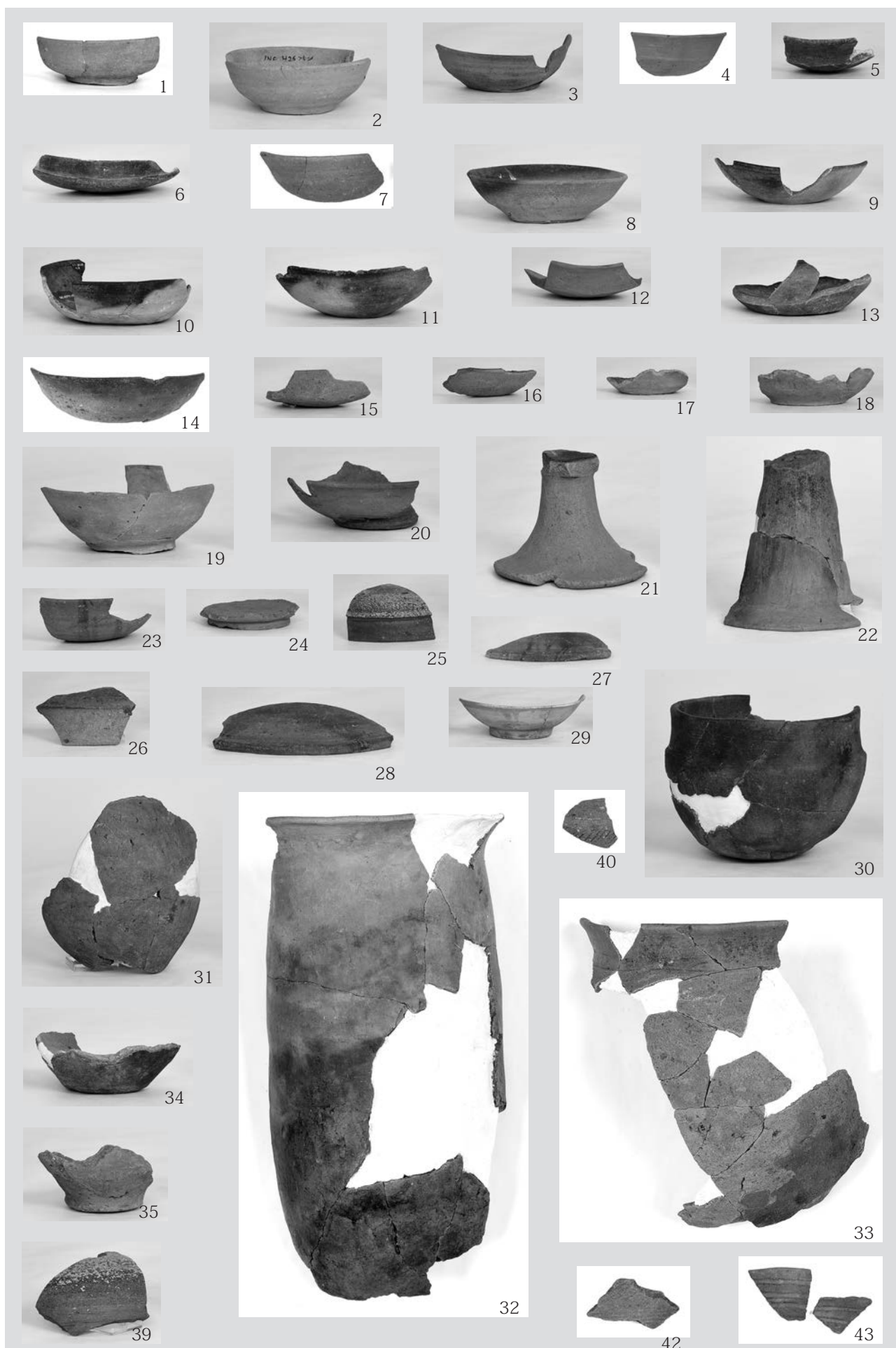
H24 号竖穴建物出土遺物



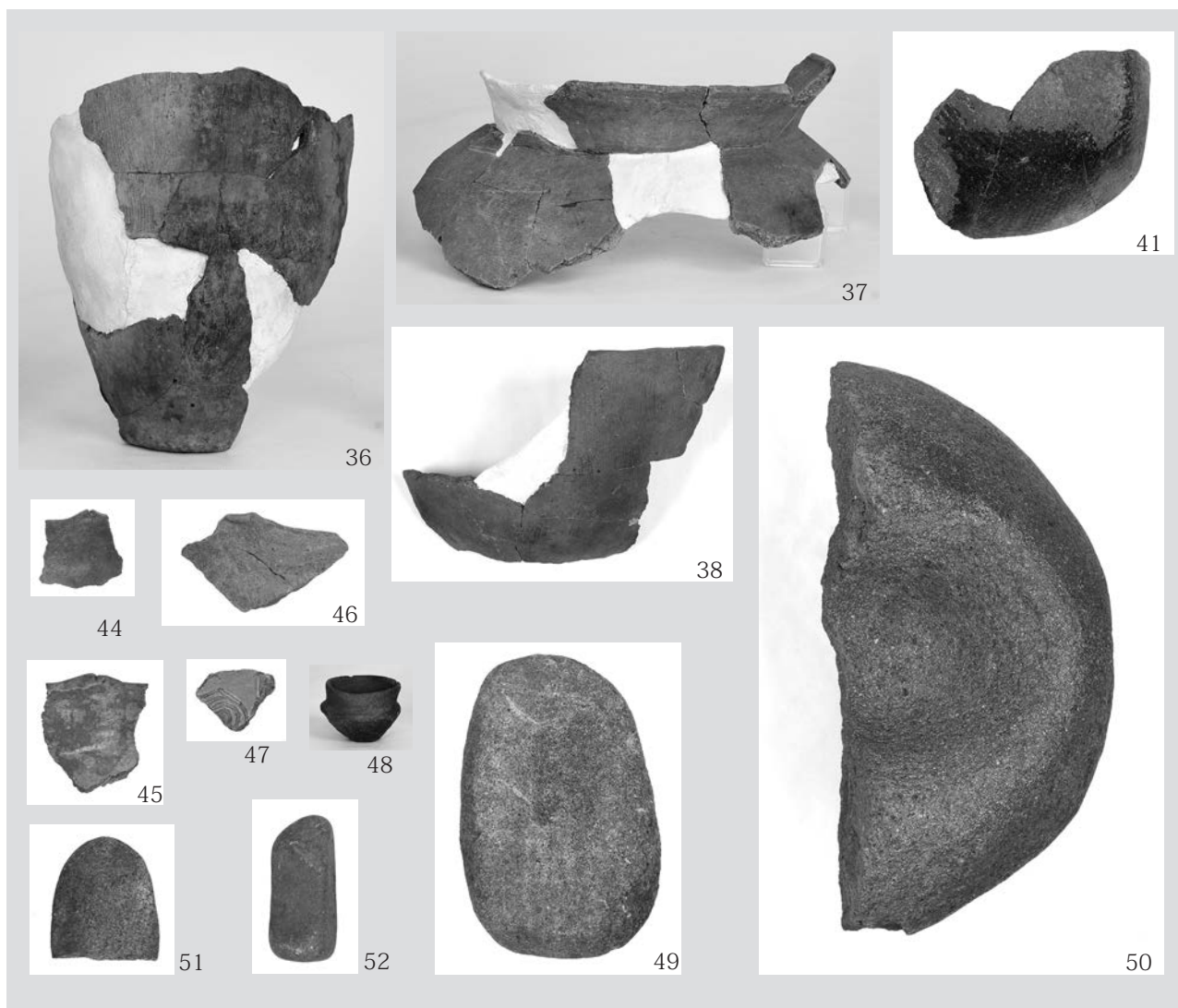
H25 号竖穴建物出土遺物 (1)



H25 号竪穴建物出土遺物 (2)



H26 号竖穴建物出土遺物 (1)



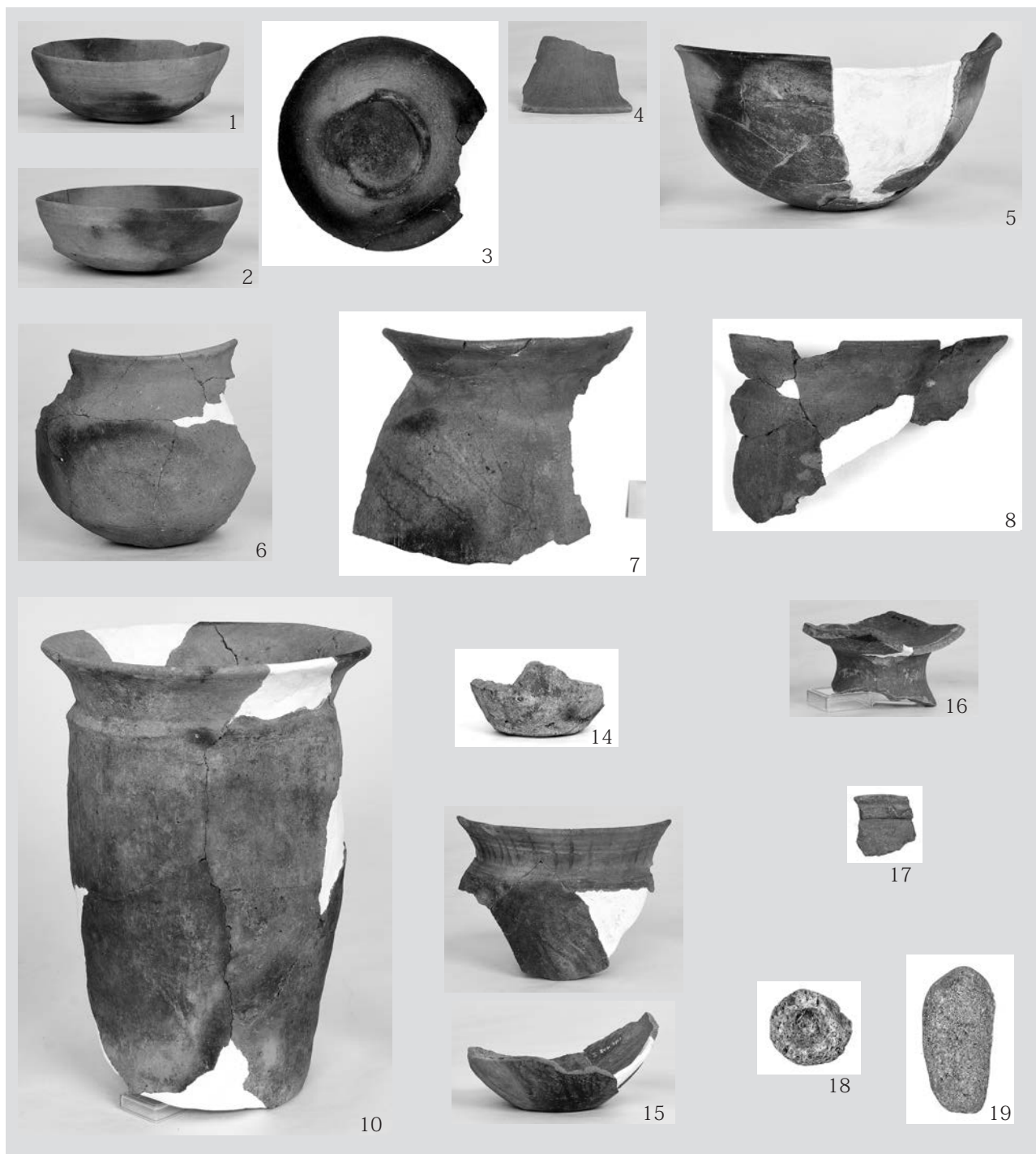
H26 号竖穴建物出土遺物 (2)



H27 号竖穴建物出土遺物 (1)



H27 号竖穴建物出土遺物 (2)



H28 号竖穴建物出土遺物 (1)



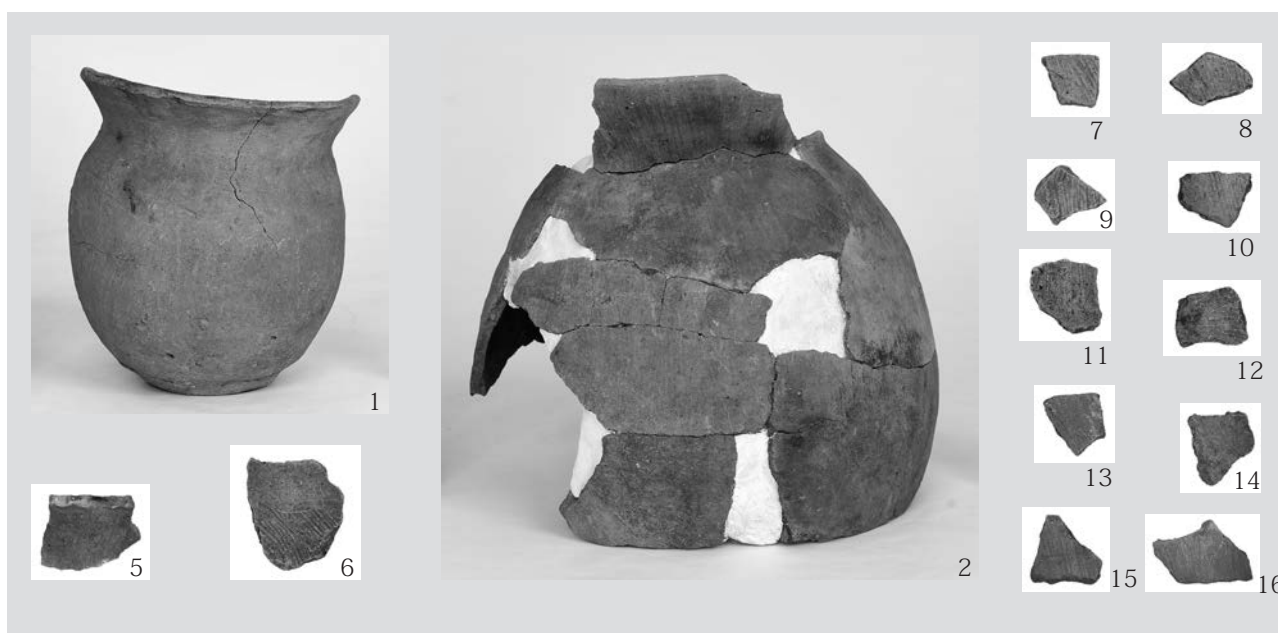
H28 号竖穴建物出土遺物 (2)



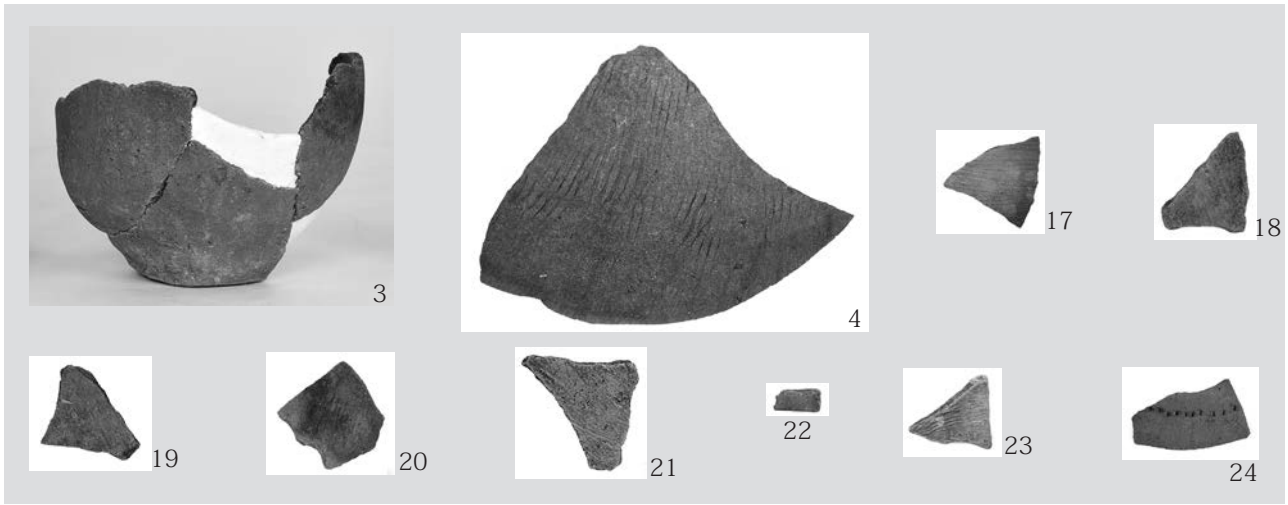
H29 号竖穴建物出土遺物 (1)



H29 号竖穴建物出土遺物 (2)



H30 号竖穴建物出土遺物 (1)



H30 号竖穴建物出土遺物 (2)



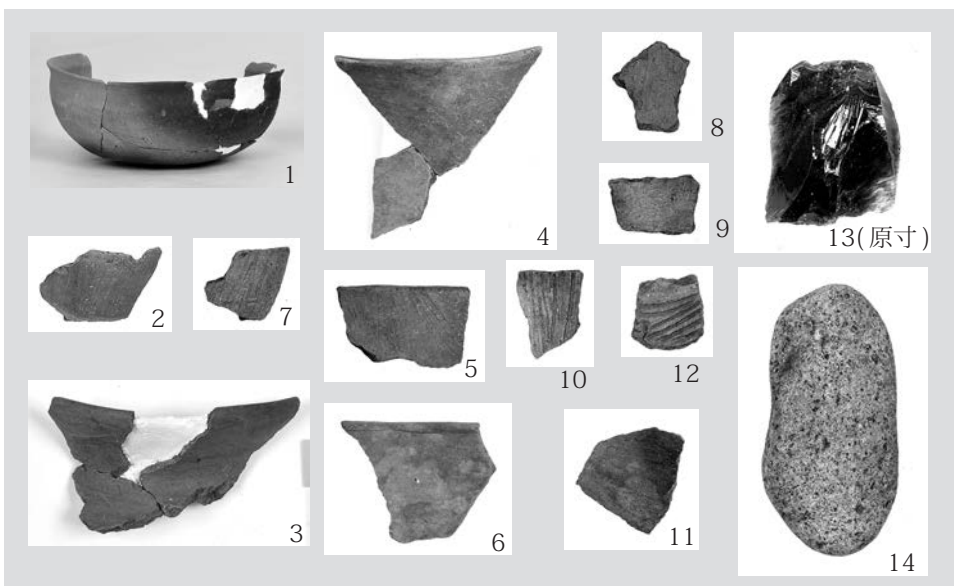
H31 号竖穴建物出土遺物



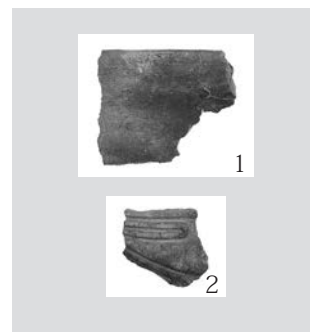
H32 号竖穴建物出土遺物 (1)



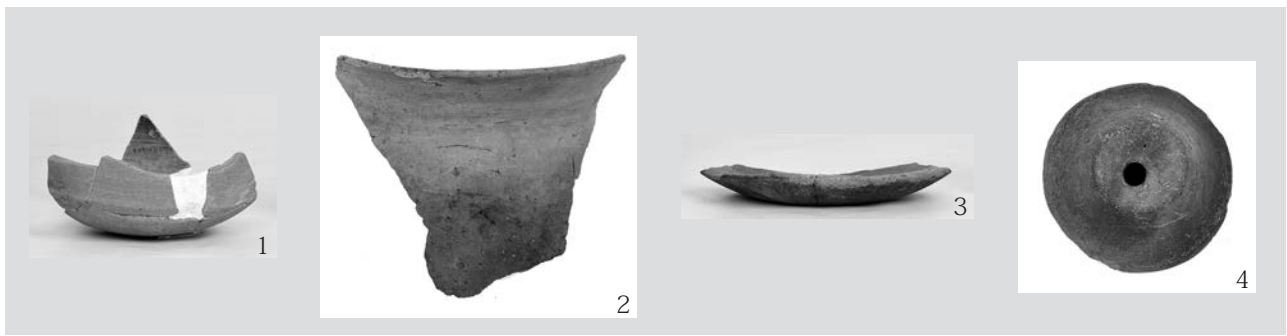
H32 号竖穴建物出土遺物 (2)



H33 号竖穴建物出土遺物



H34 号竖穴建物出土遺物



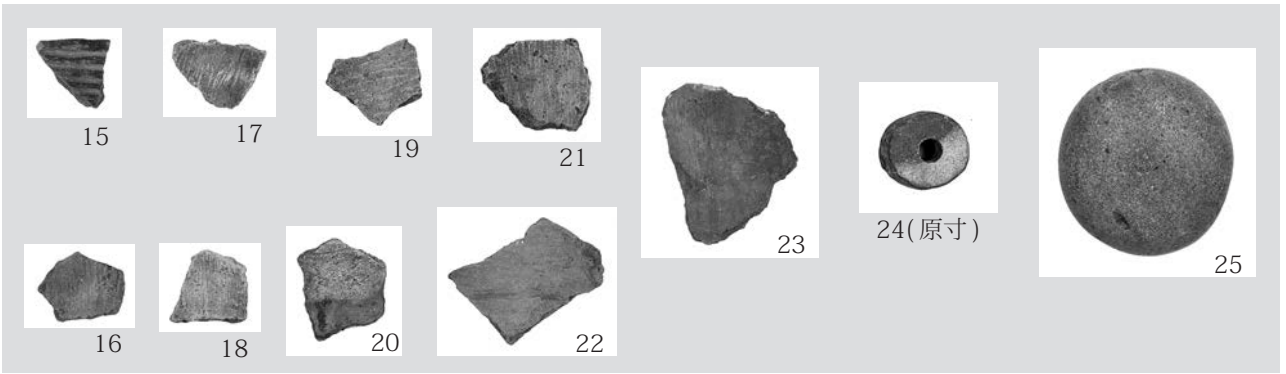
H35 号竖穴建物出土遺物



H36 号竖穴建物出土遺物



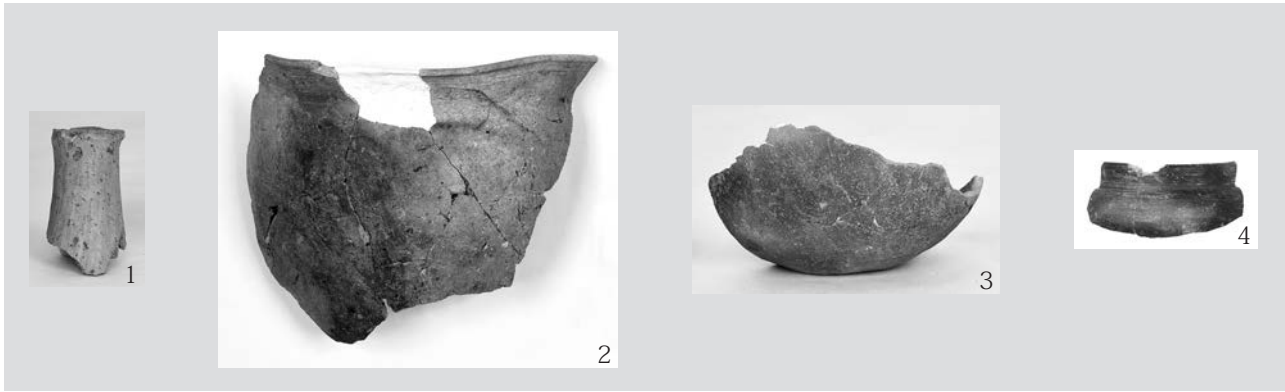
H37 号竖穴建物出土遺物 (1)



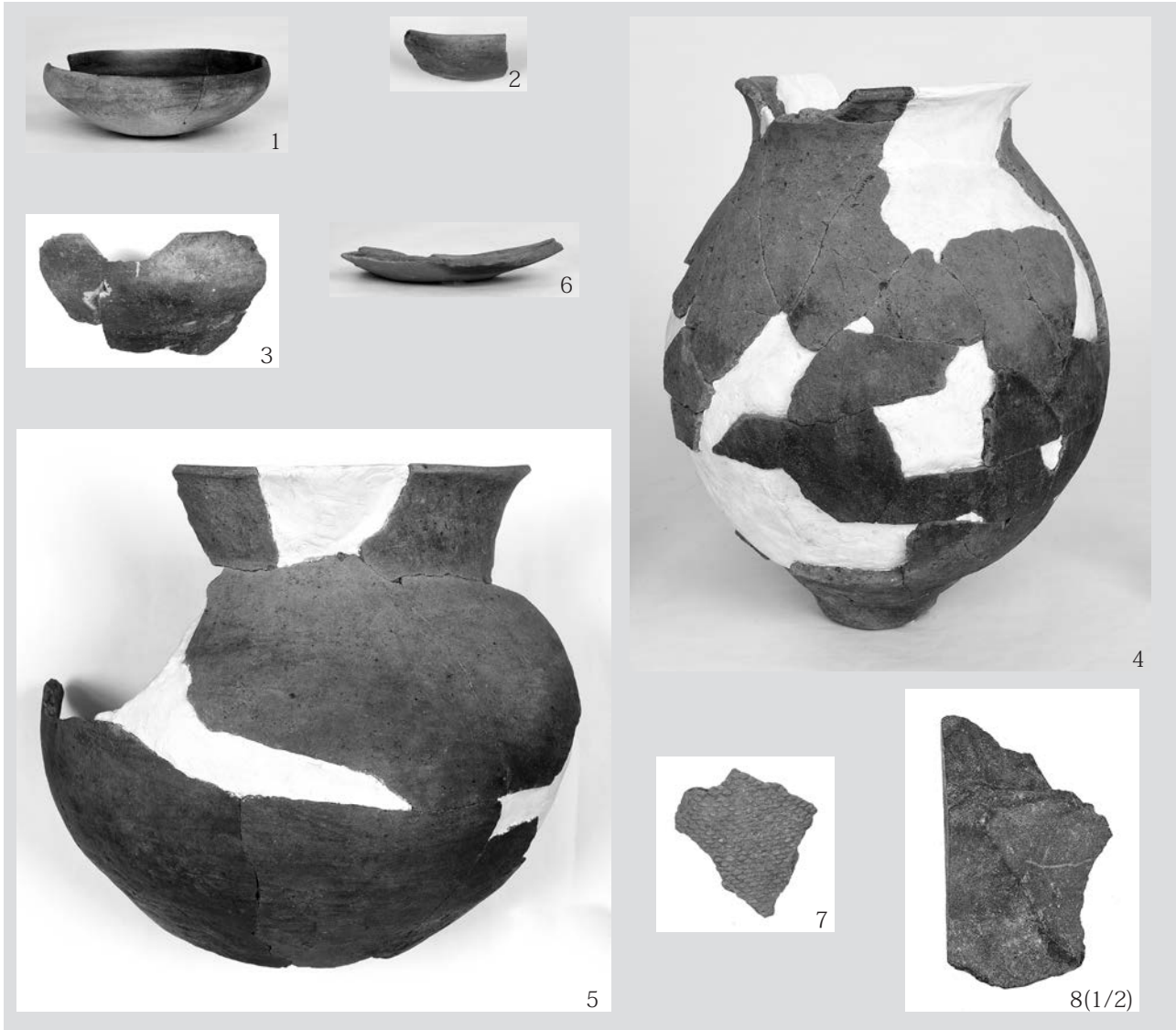
H37 号竖穴建物出土遺物 (2)



H38 号竖穴建物出土遺物



H39 号竖穴建物出土遺物



H40 号竖穴建物出土遺物



H41 号竖穴建物出土遺物



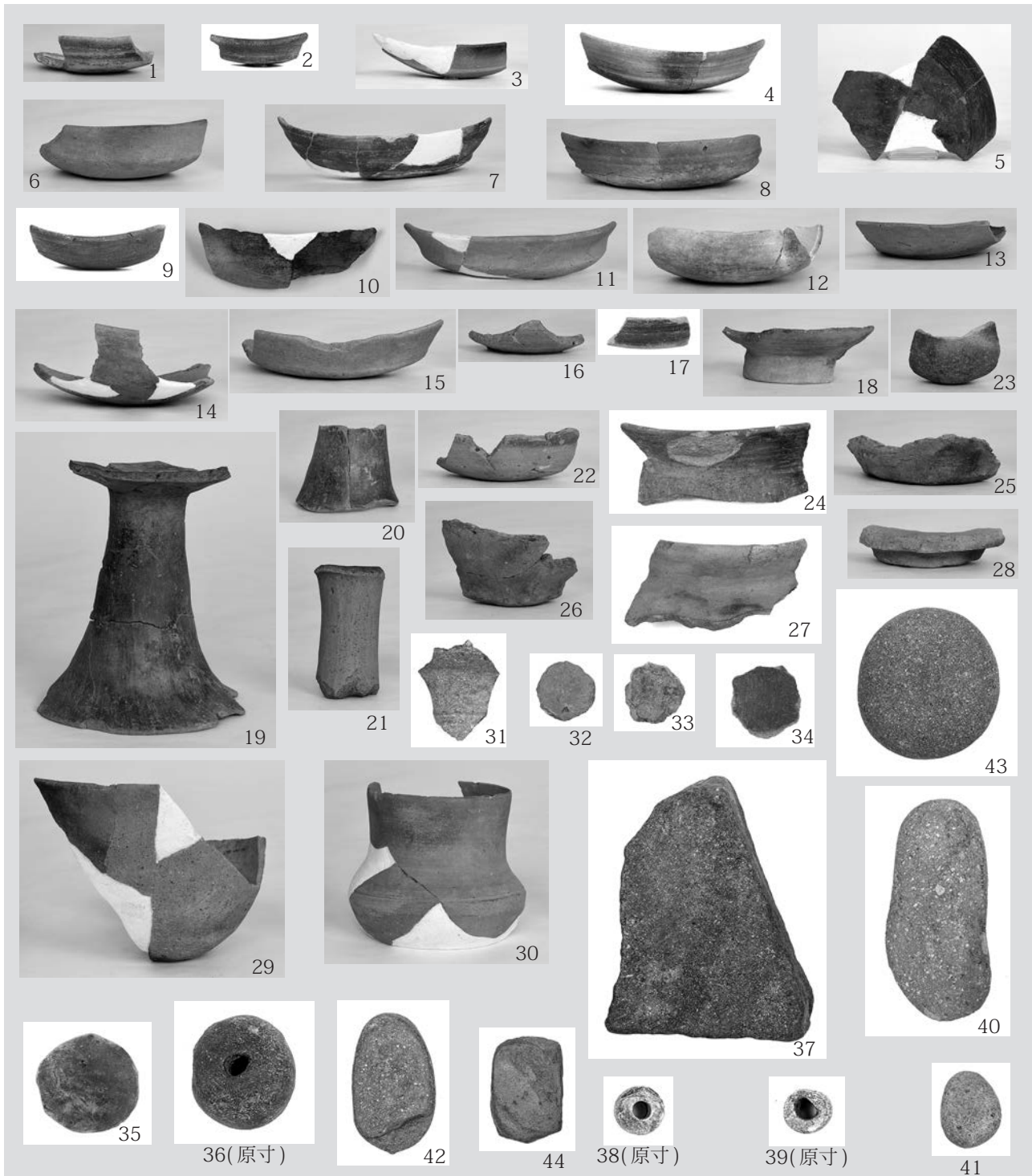
H42 号竖穴建物出土遺物



H43 号竖穴建物出土遺物 (1)



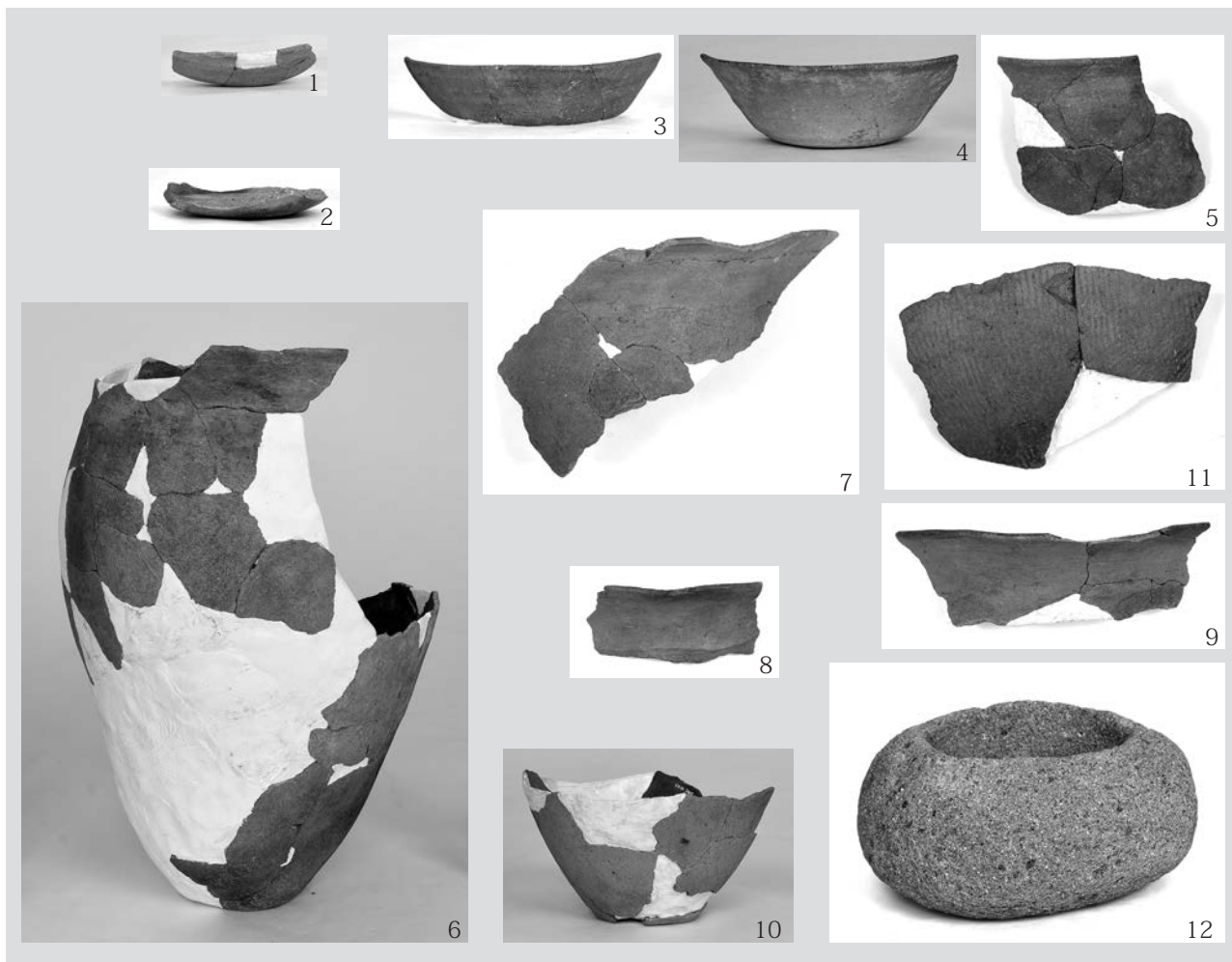
H43 号竪穴建物出土遺物 (2)



H44 号竪穴建物出土遺物



H45 号竖穴建物出土遺物



H46 号竖穴建物出土遺物



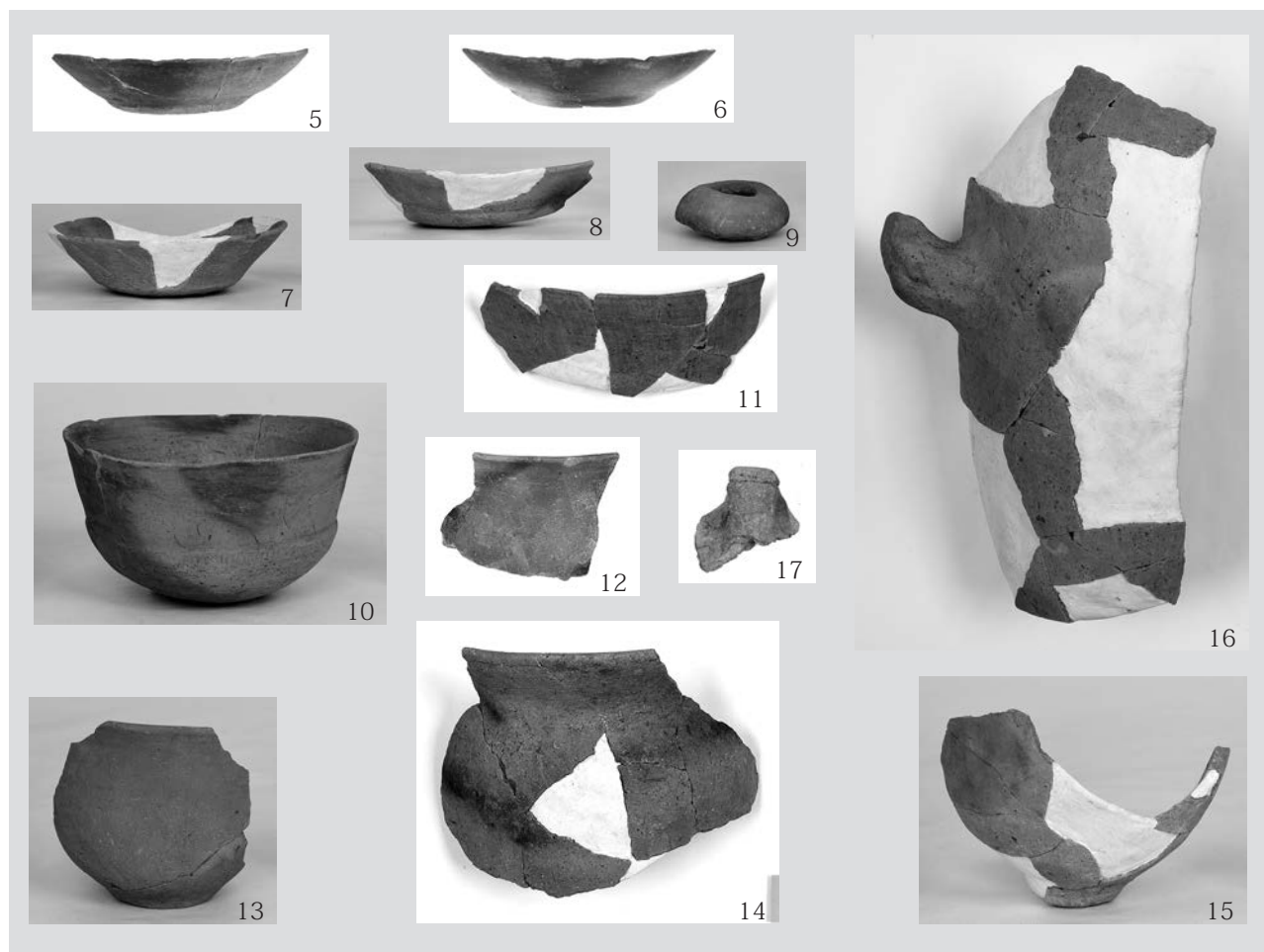
H47 号竖穴建物出土遺物 (1)



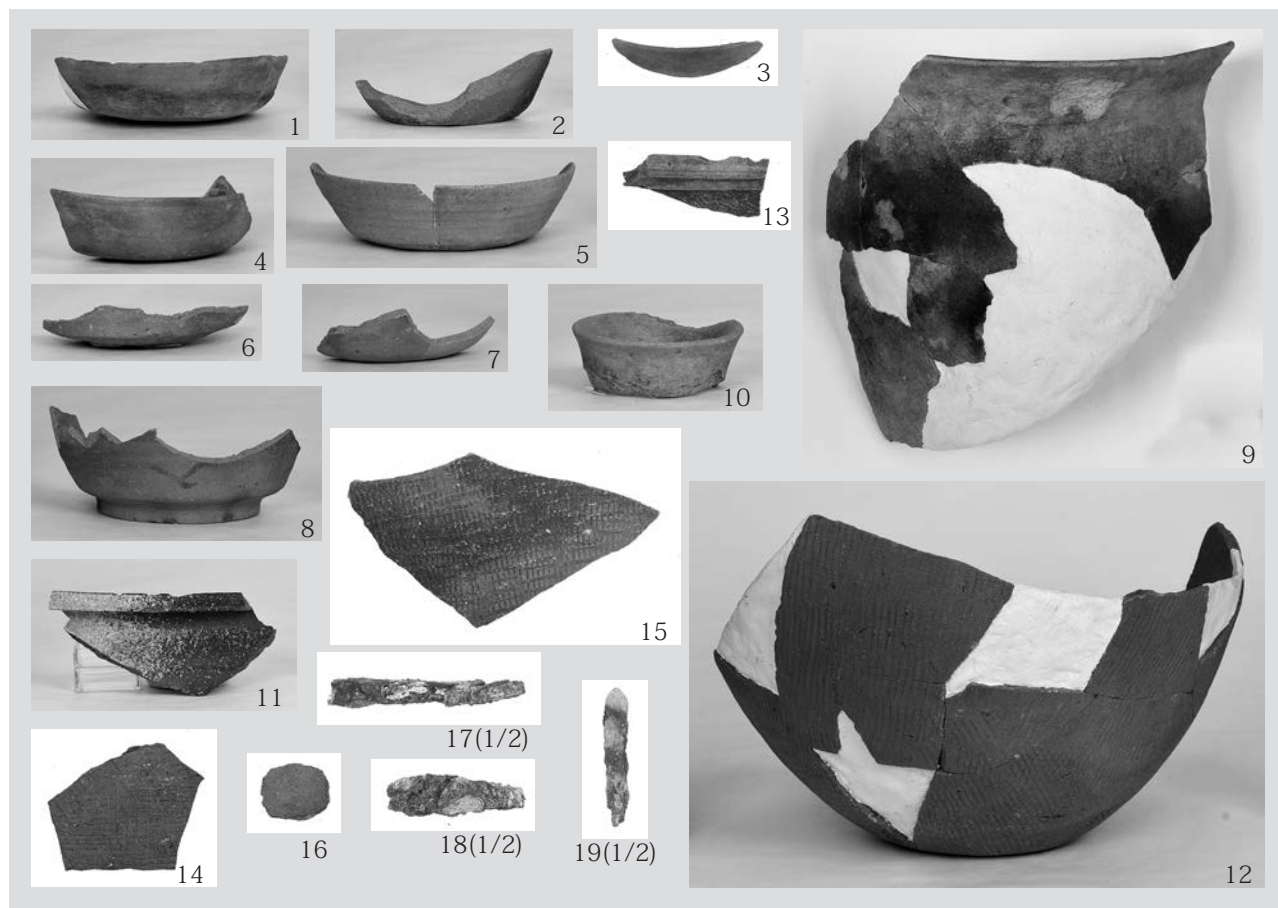
H47 号竖穴建物出土遺物 (2)



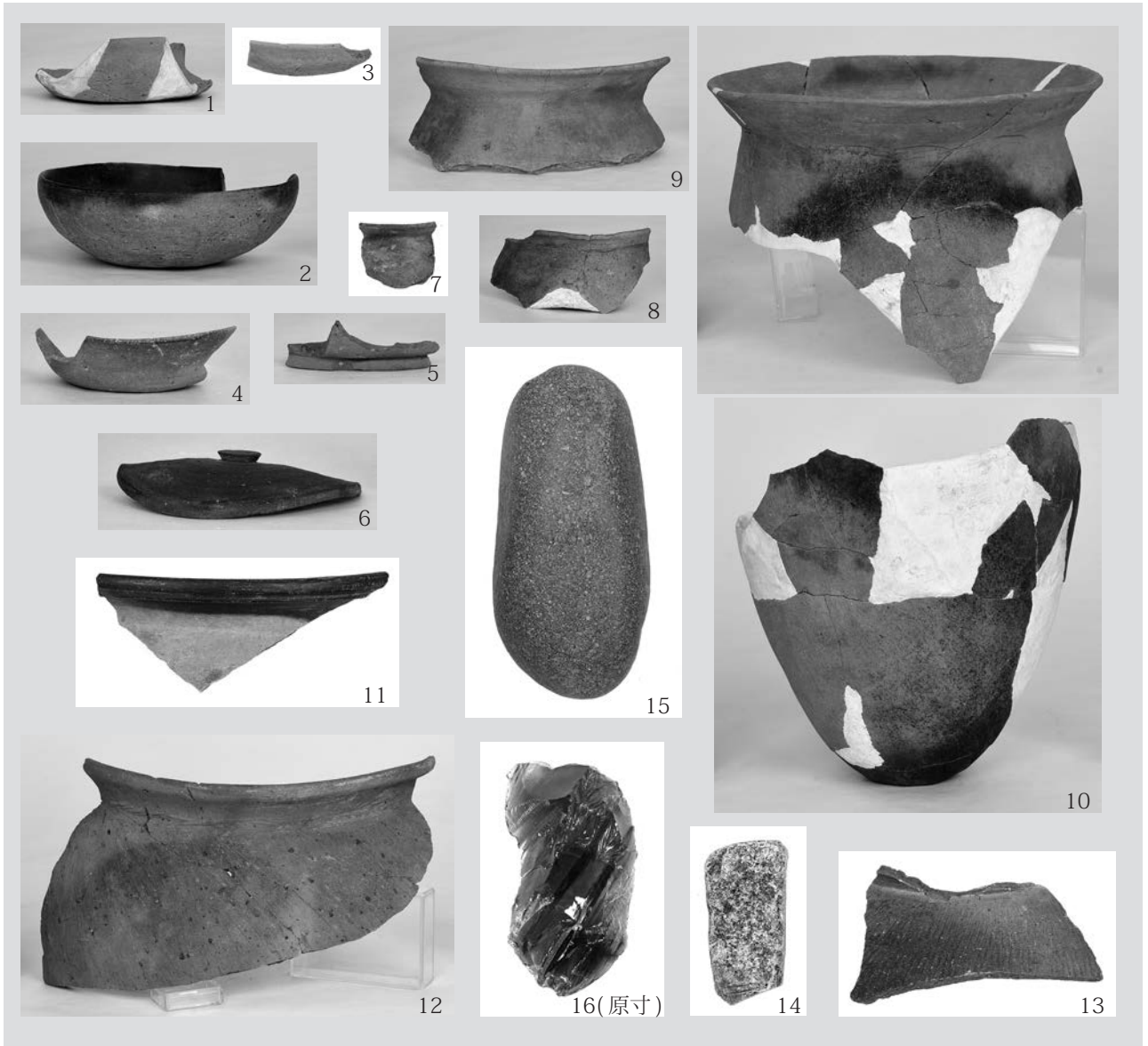
H48 号竖穴建物出土遺物 (1)



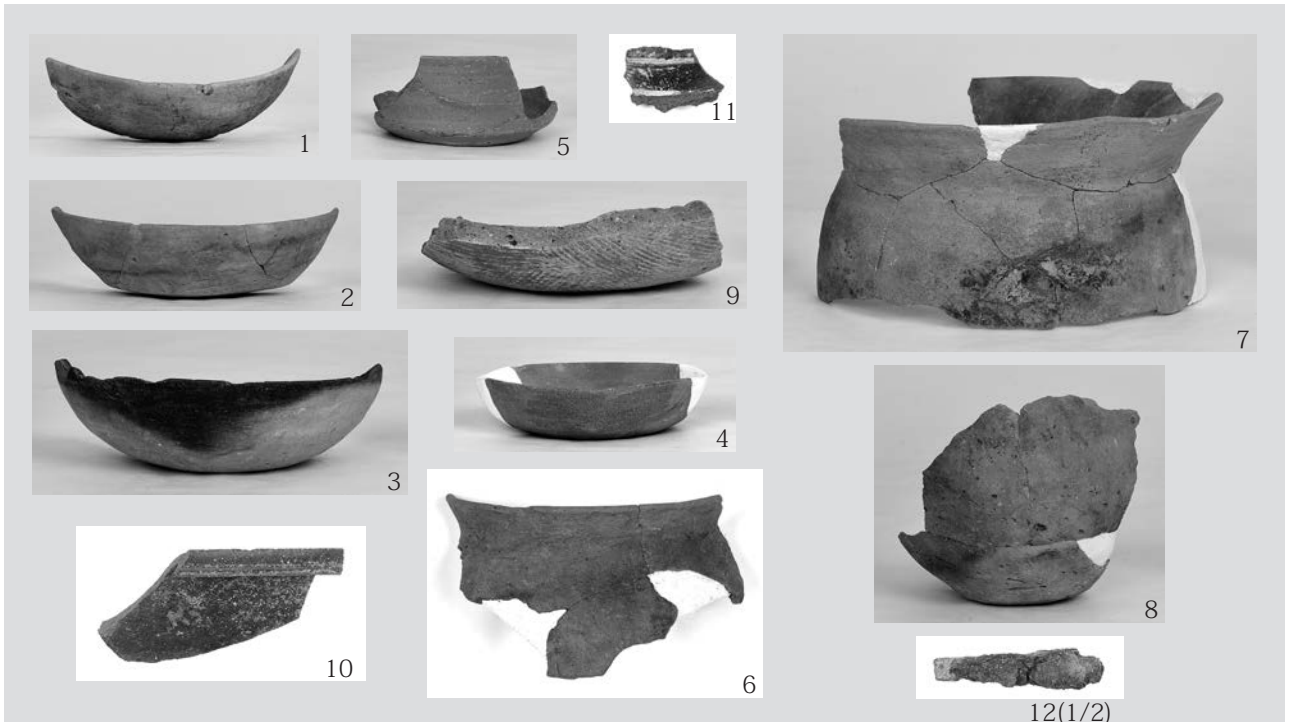
H48 号竖穴建物出土遺物 (2)



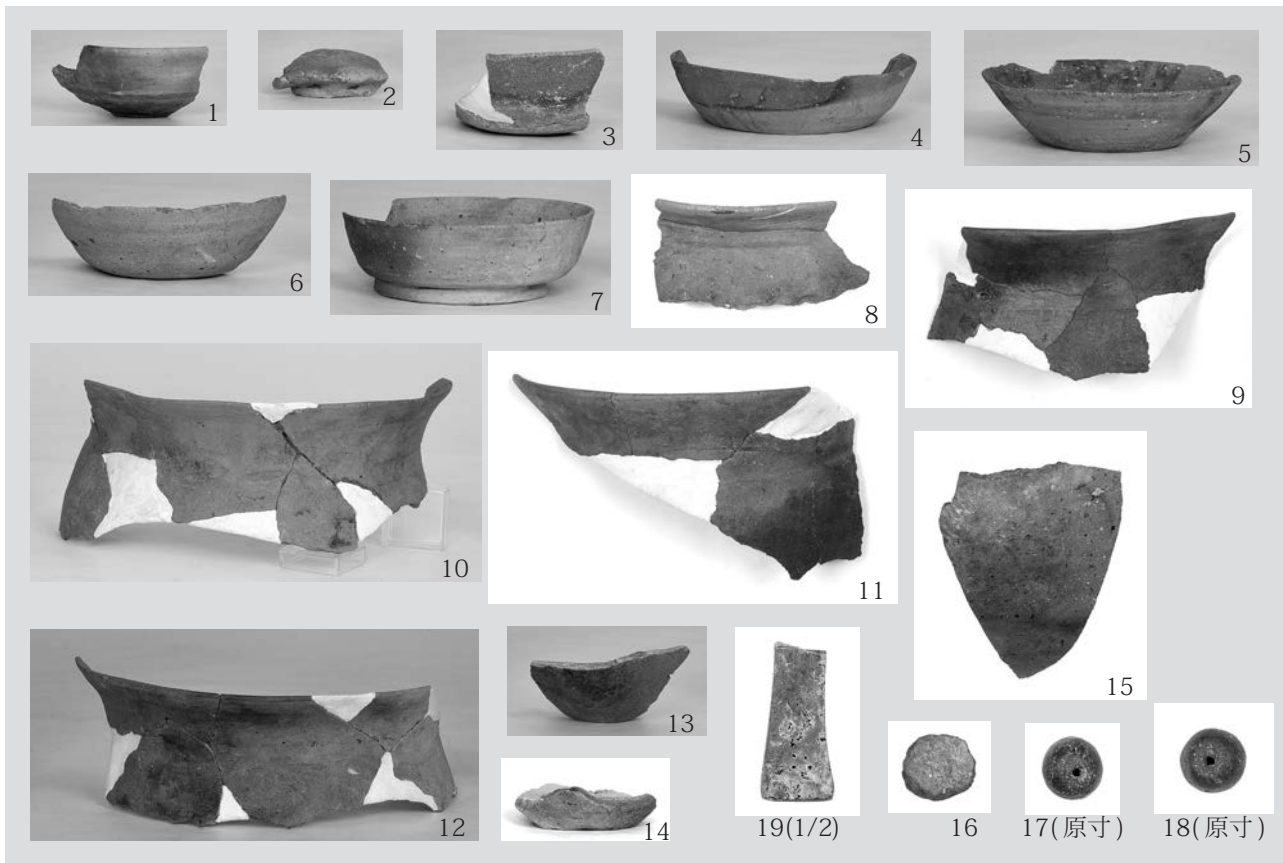
H49 号竖穴建物出土遺物



H50 号竪穴建物出土遺物



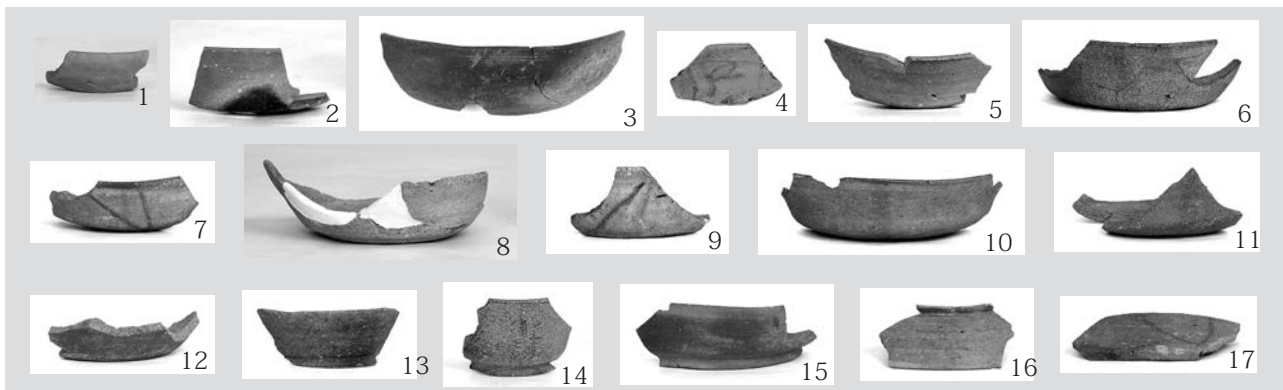
H51 号竪穴建物出土遺物



H52 号竖穴建物出土遺物



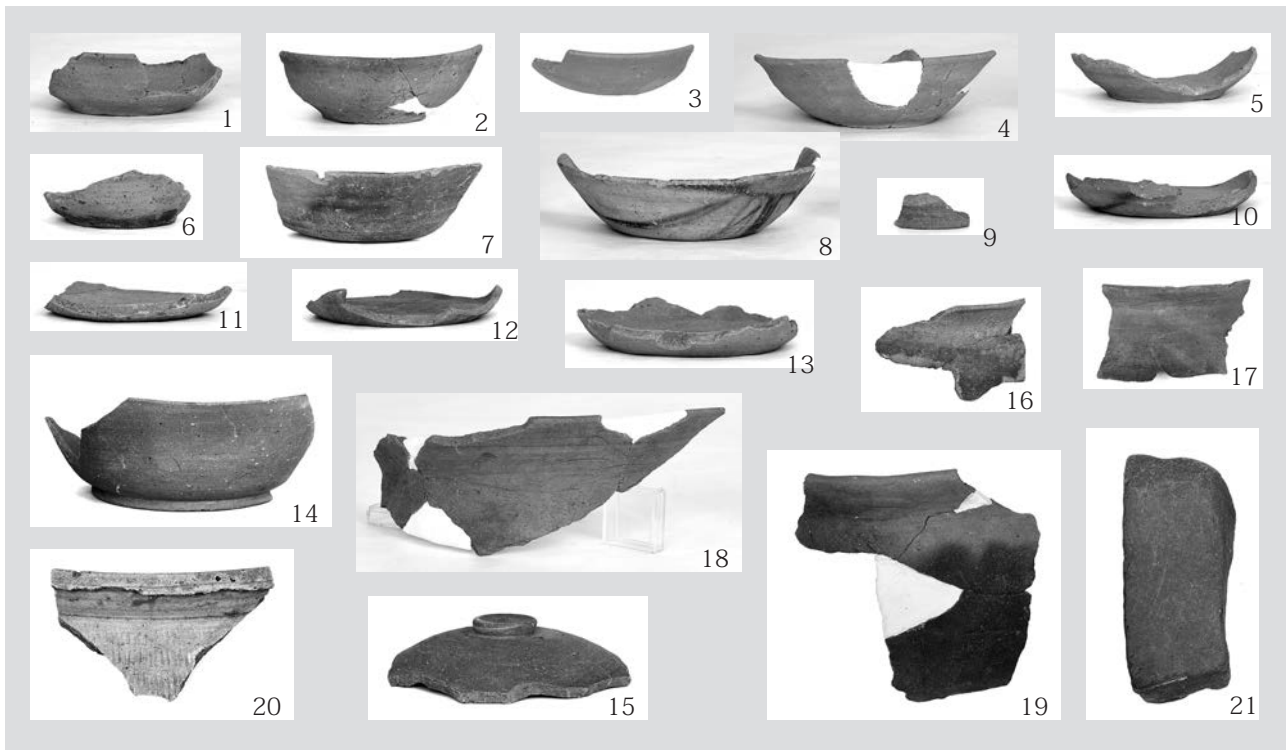
H53 号竖穴建物出土遺物



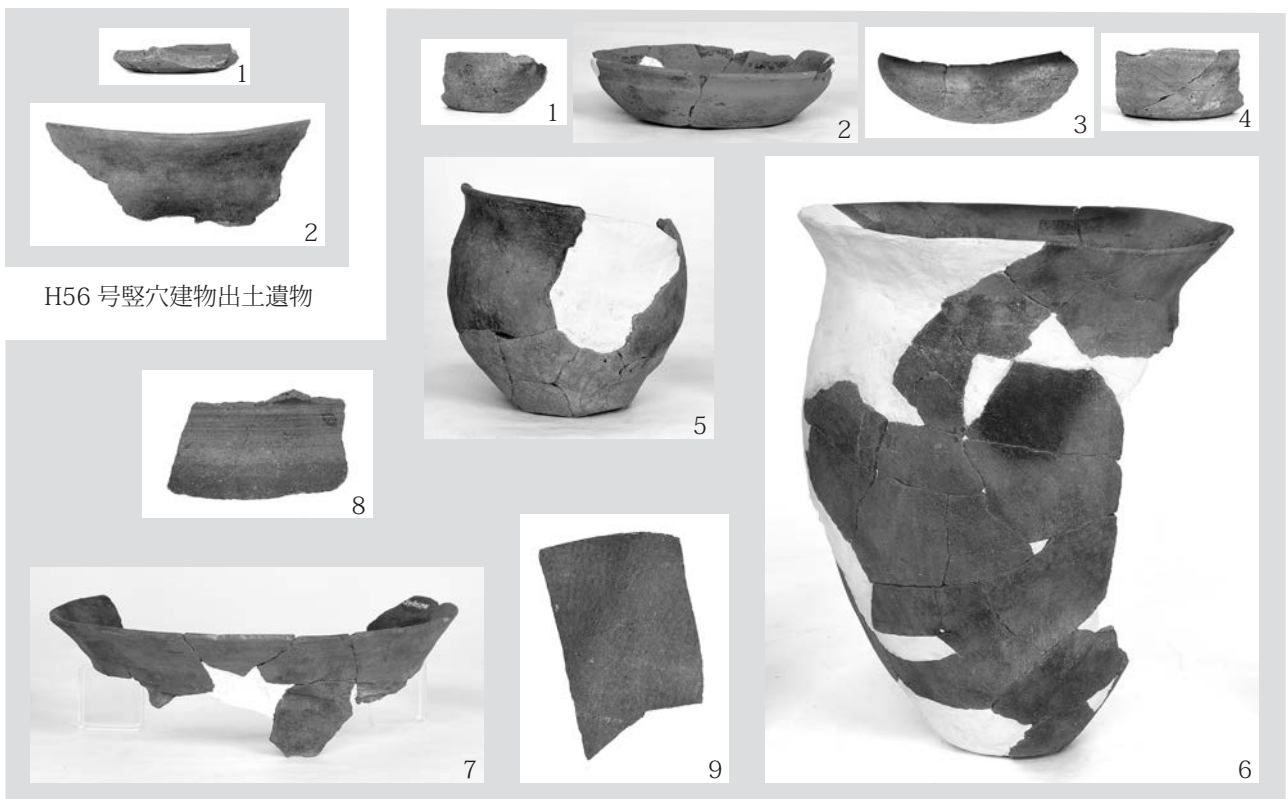
H54 号竖穴建物出土遺物 (1)



H54 号竖穴建物出土遺物 (2)

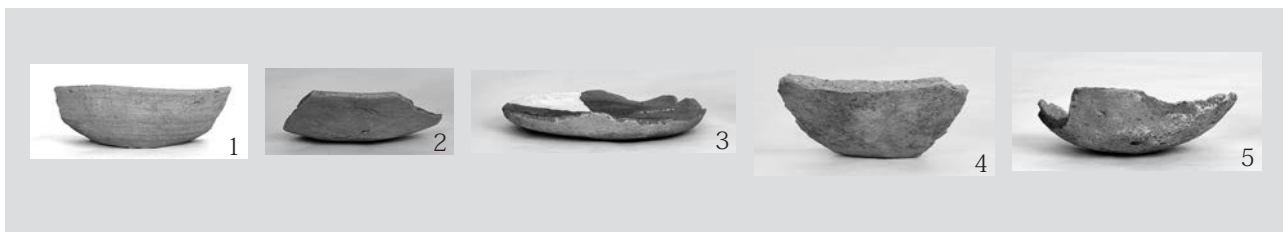


H55 号竖穴建物出土遺物

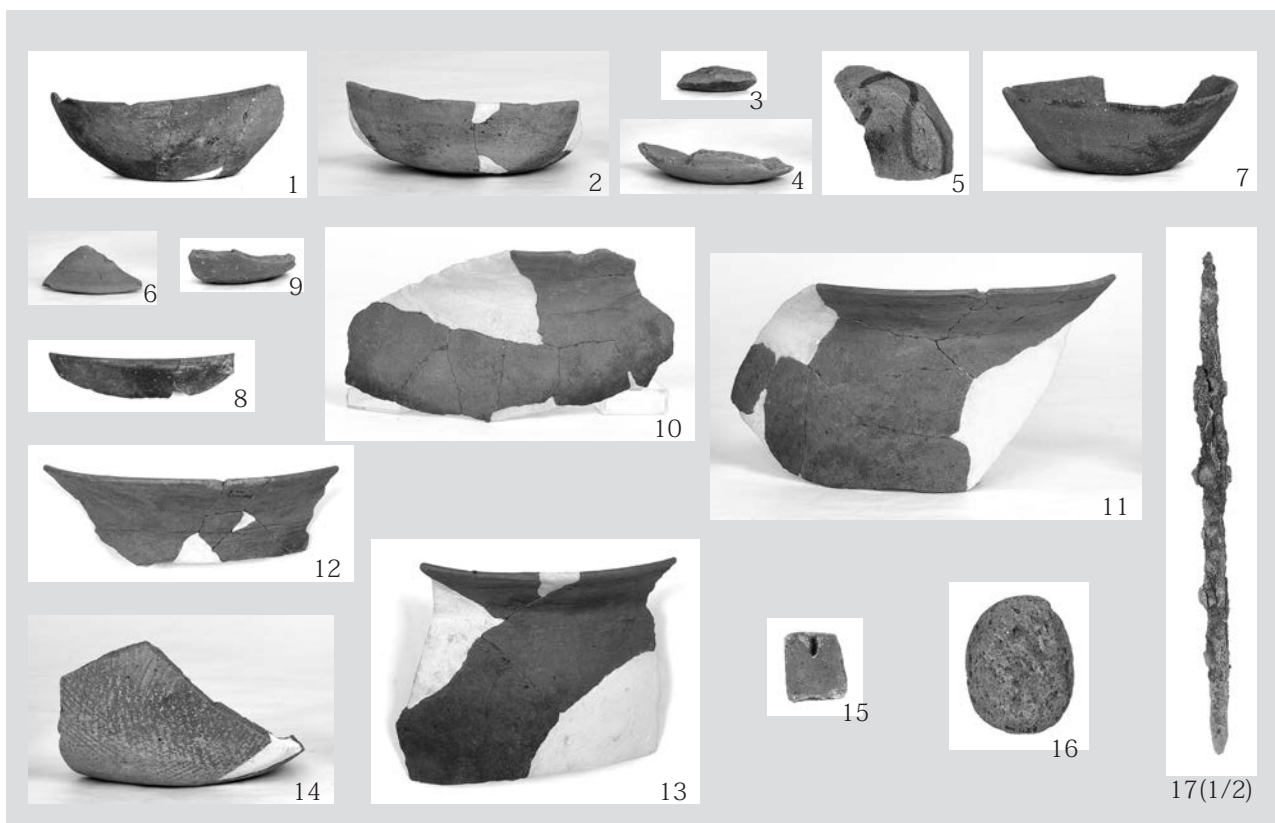


H56 号竖穴建物出土遺物

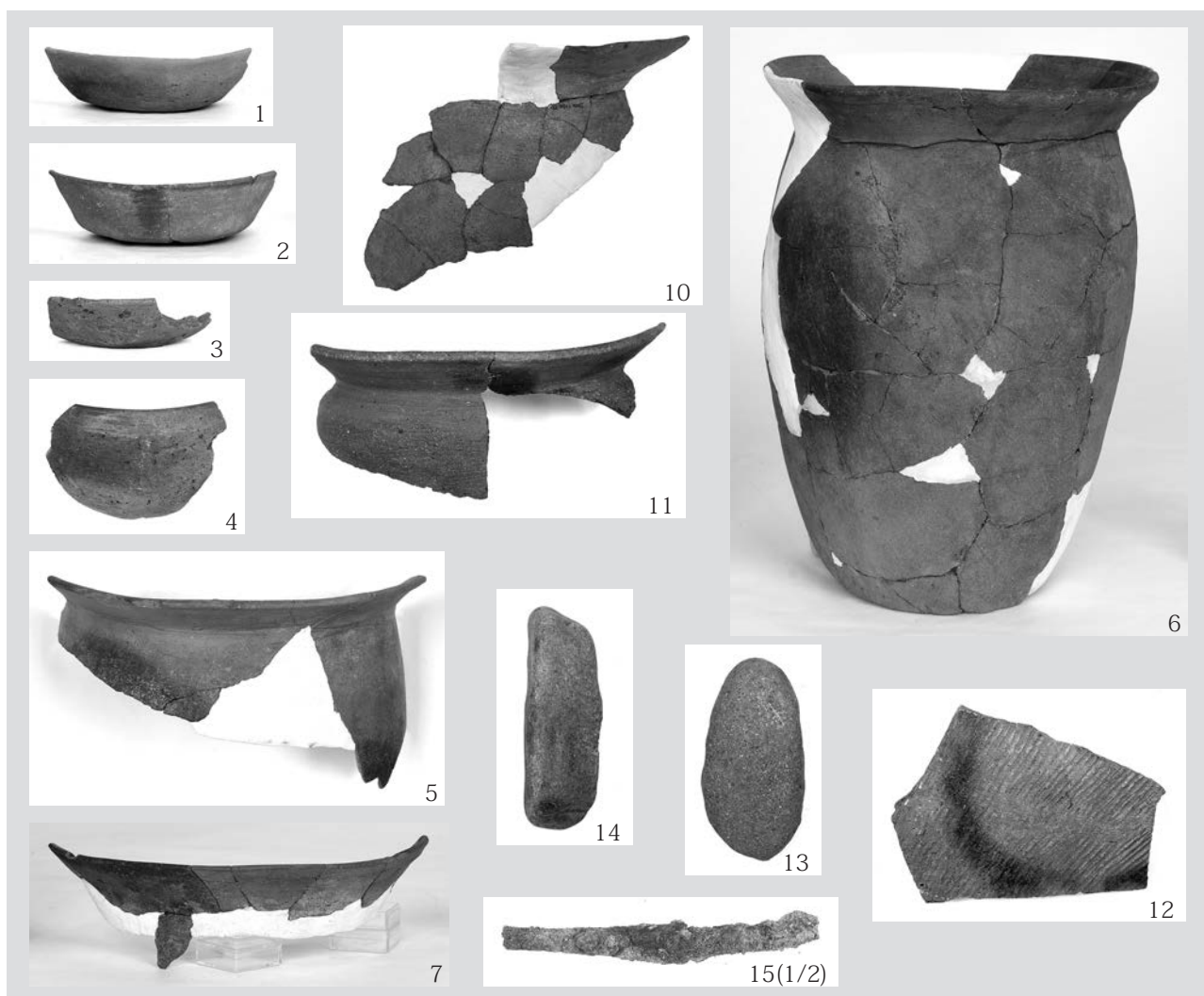
H57 号竖穴建物出土遺物



H58 号竖穴建物出土遺物



H59 号竖穴建物出土遺物



H60 号竖穴建物出土遺物 (1)



8



9

H60 号竖穴建物出土遺物 (2)



1



5



2



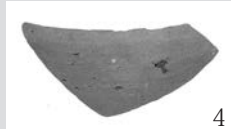
12



15



3



4



14



6



10



7



8



9



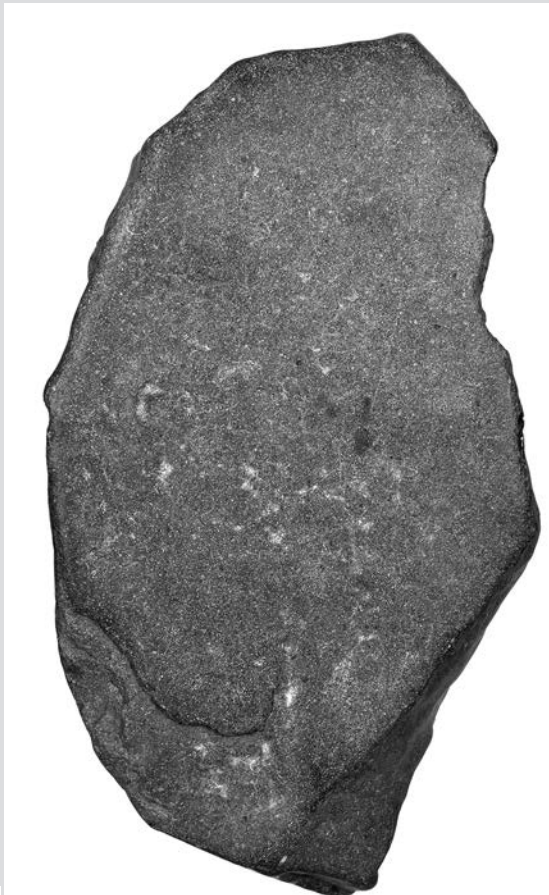
11



16



13

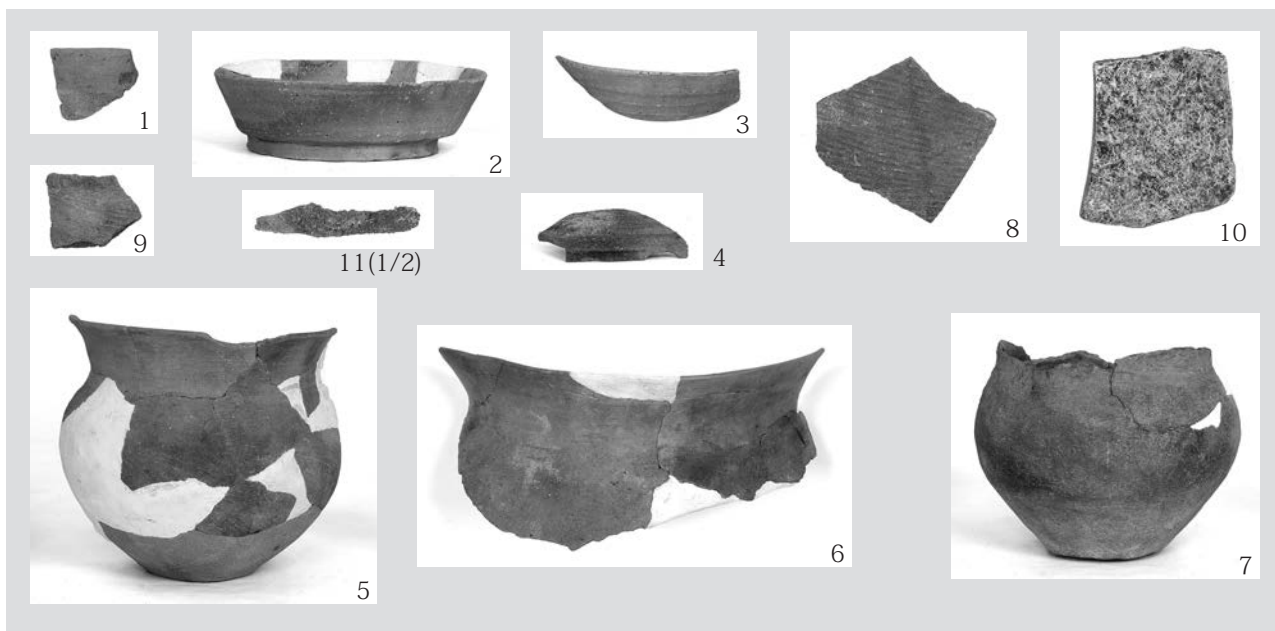


17

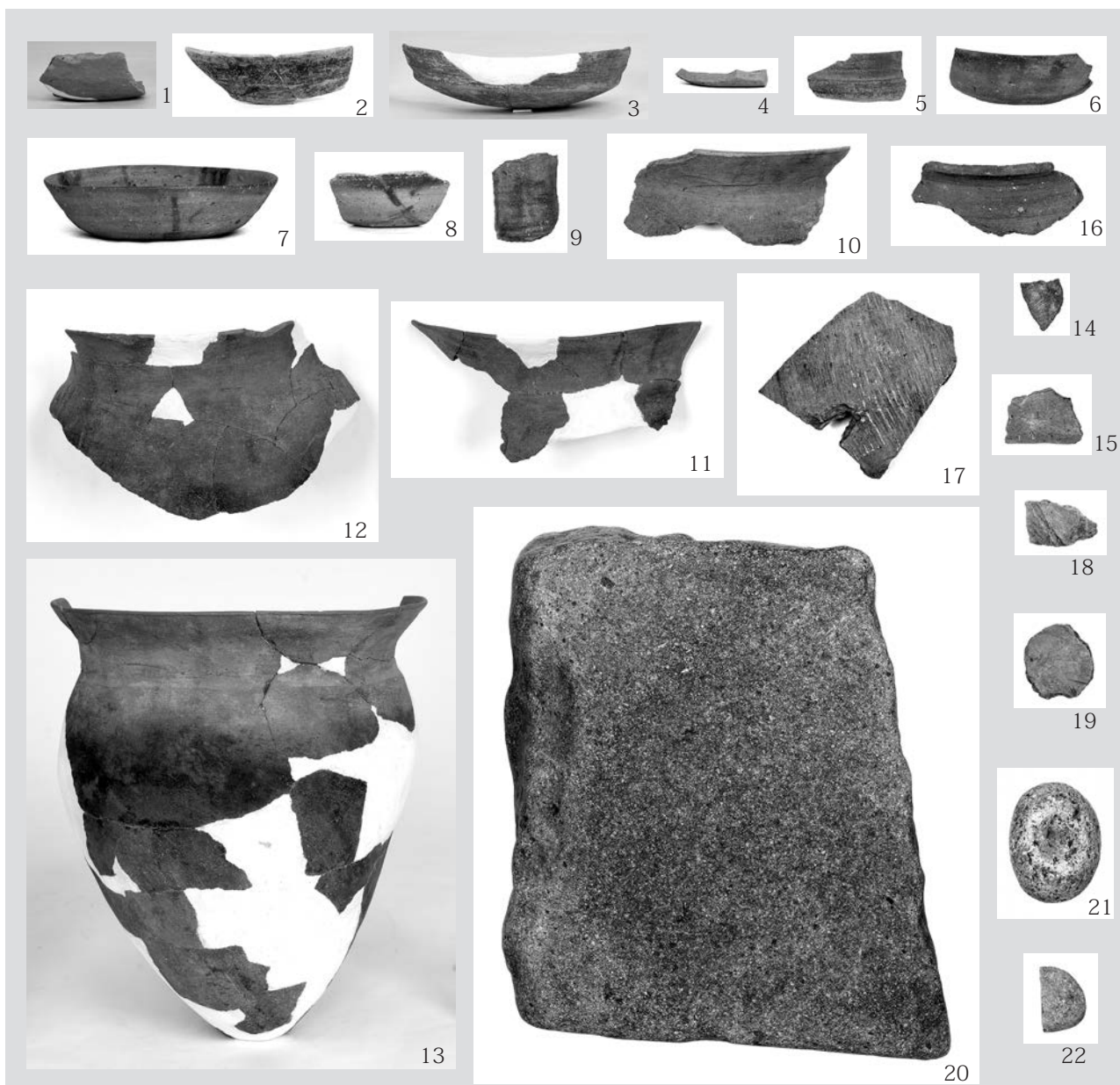


18(1/2)

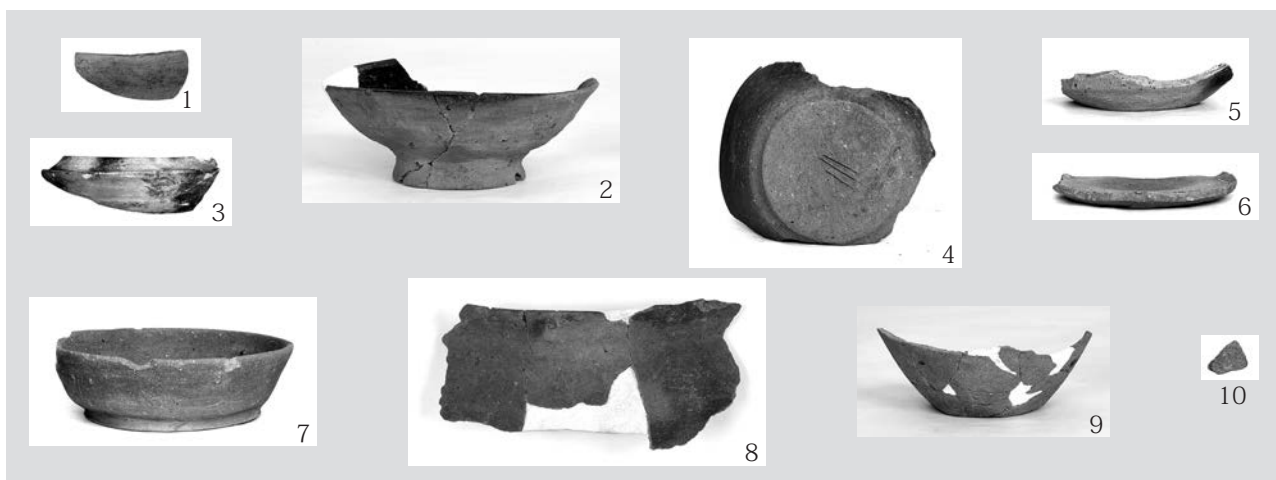
H61 号竖穴建物出土遺物



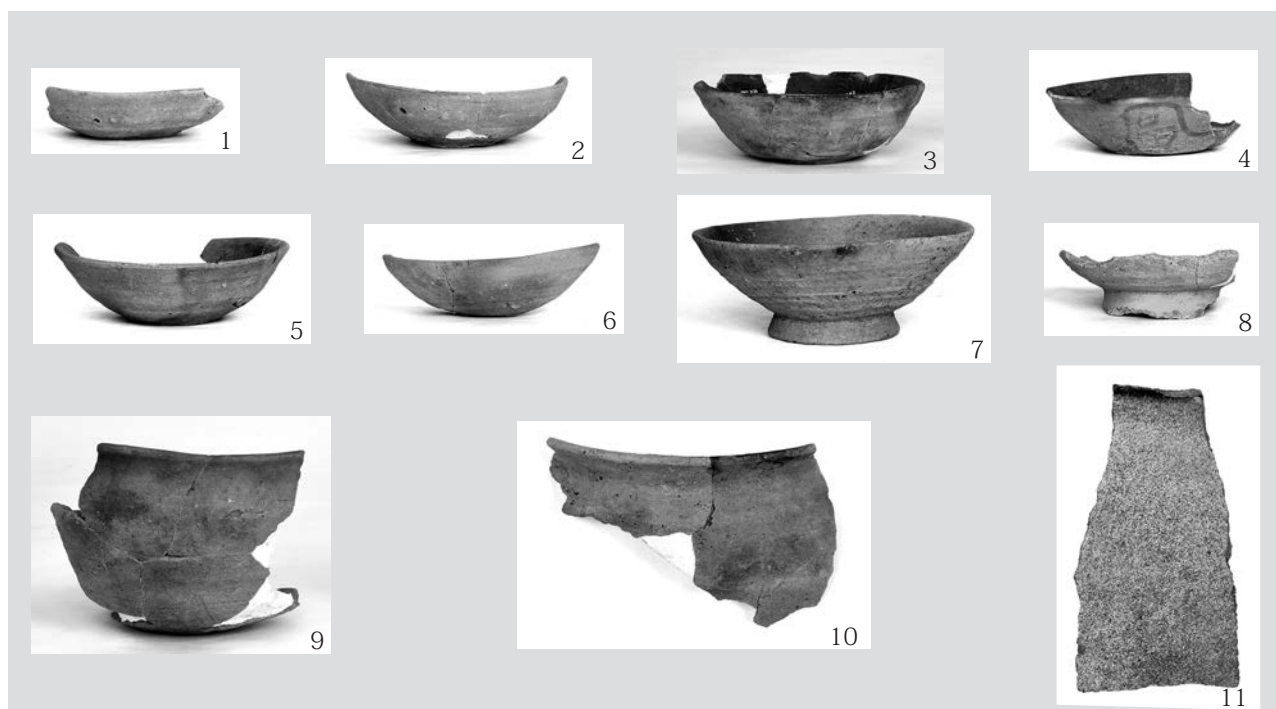
H62 号竖穴建物出土遺物



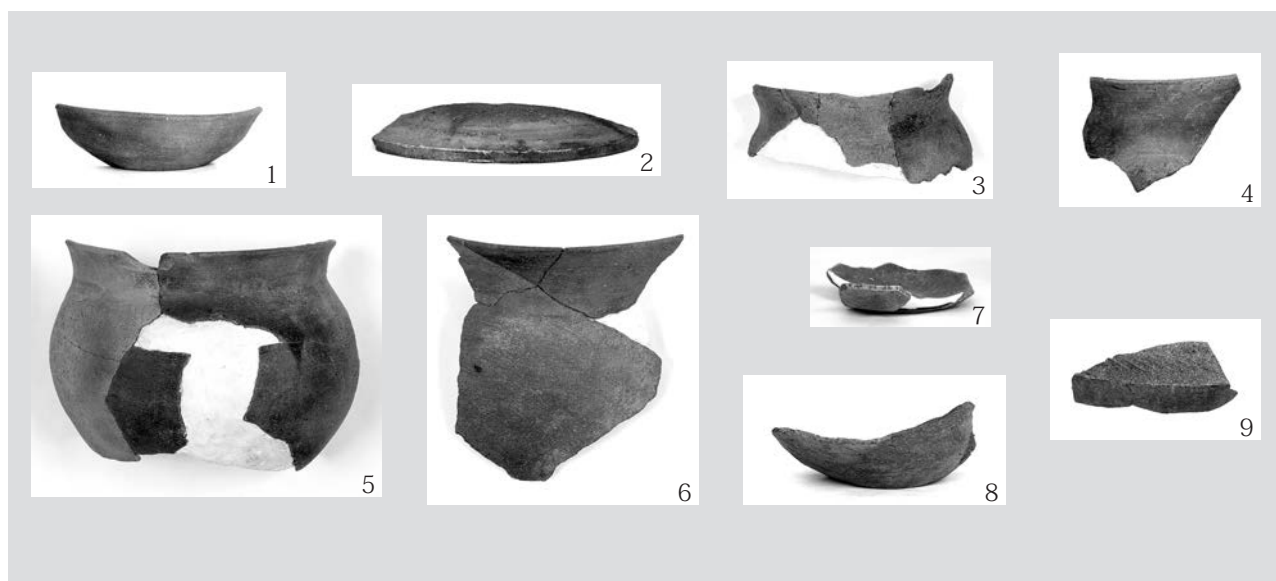
H63 号竖穴建物出土遺物



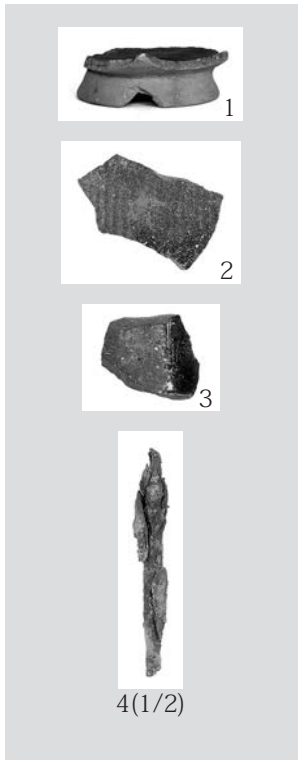
H64 号竖穴建物出土遺物



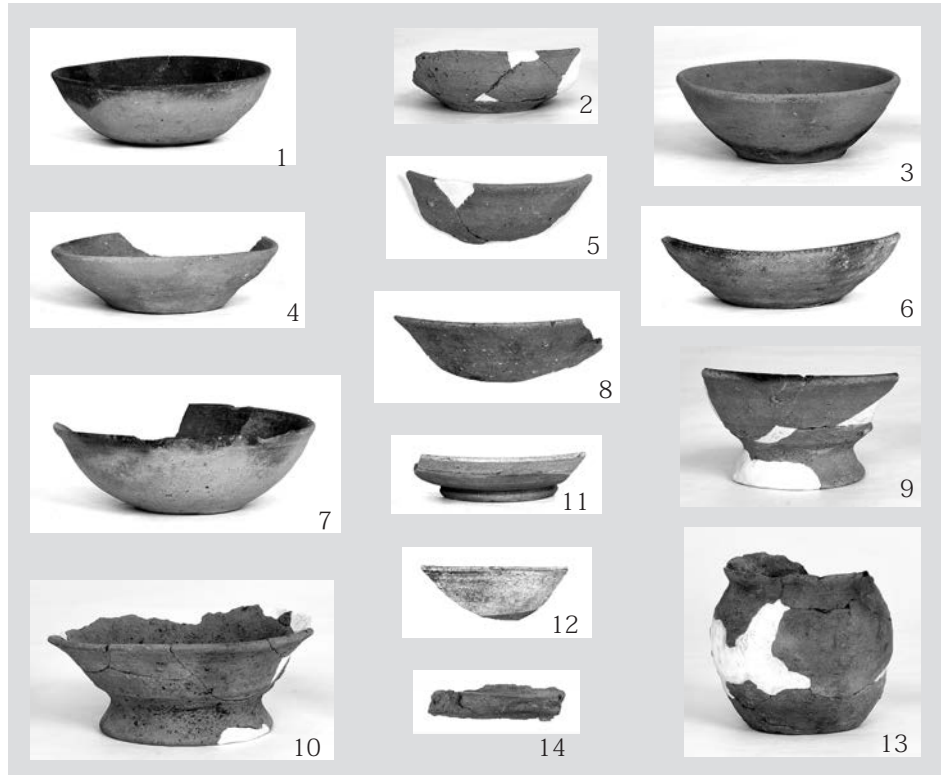
H66 号竖穴建物出土遺物



H67 号竖穴建物出土遺物



H68 号豎穴建物出土遺物



H69 号豎穴建物出土遺物



H70 号豎穴建物出土遺物



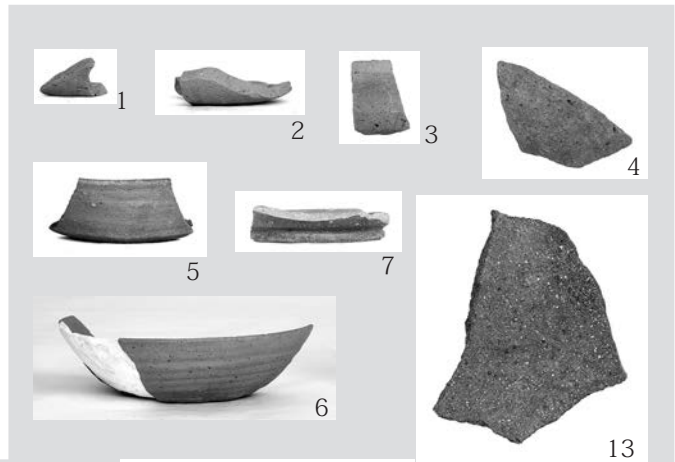
H71 号豎穴建物出土遺物 (1)



H71 号竖穴建物出土遺物 (2)



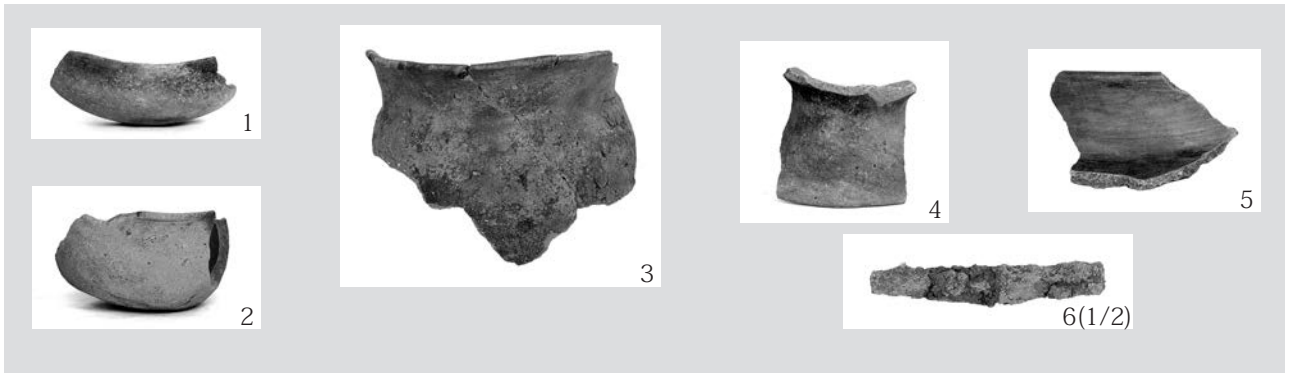
H72 号竖穴建物出土遺物



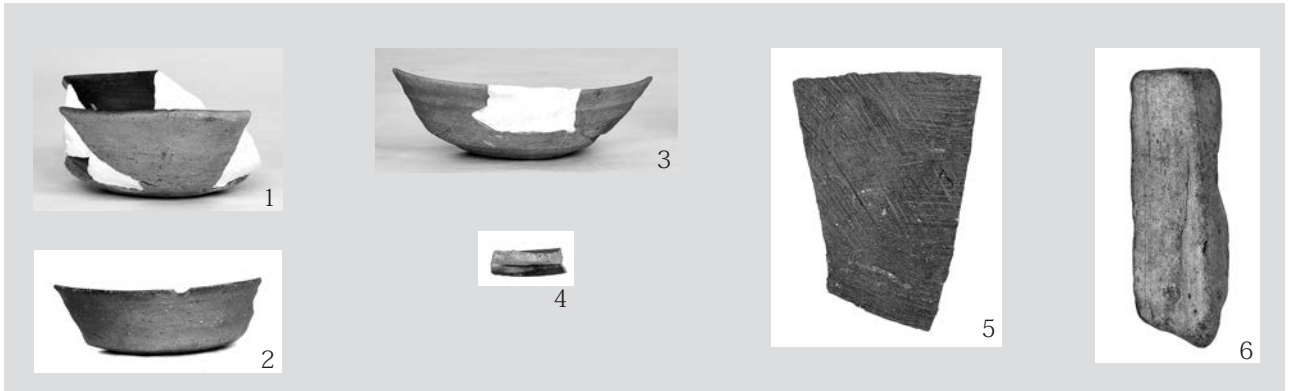
H73 号竖穴建物出土遺物



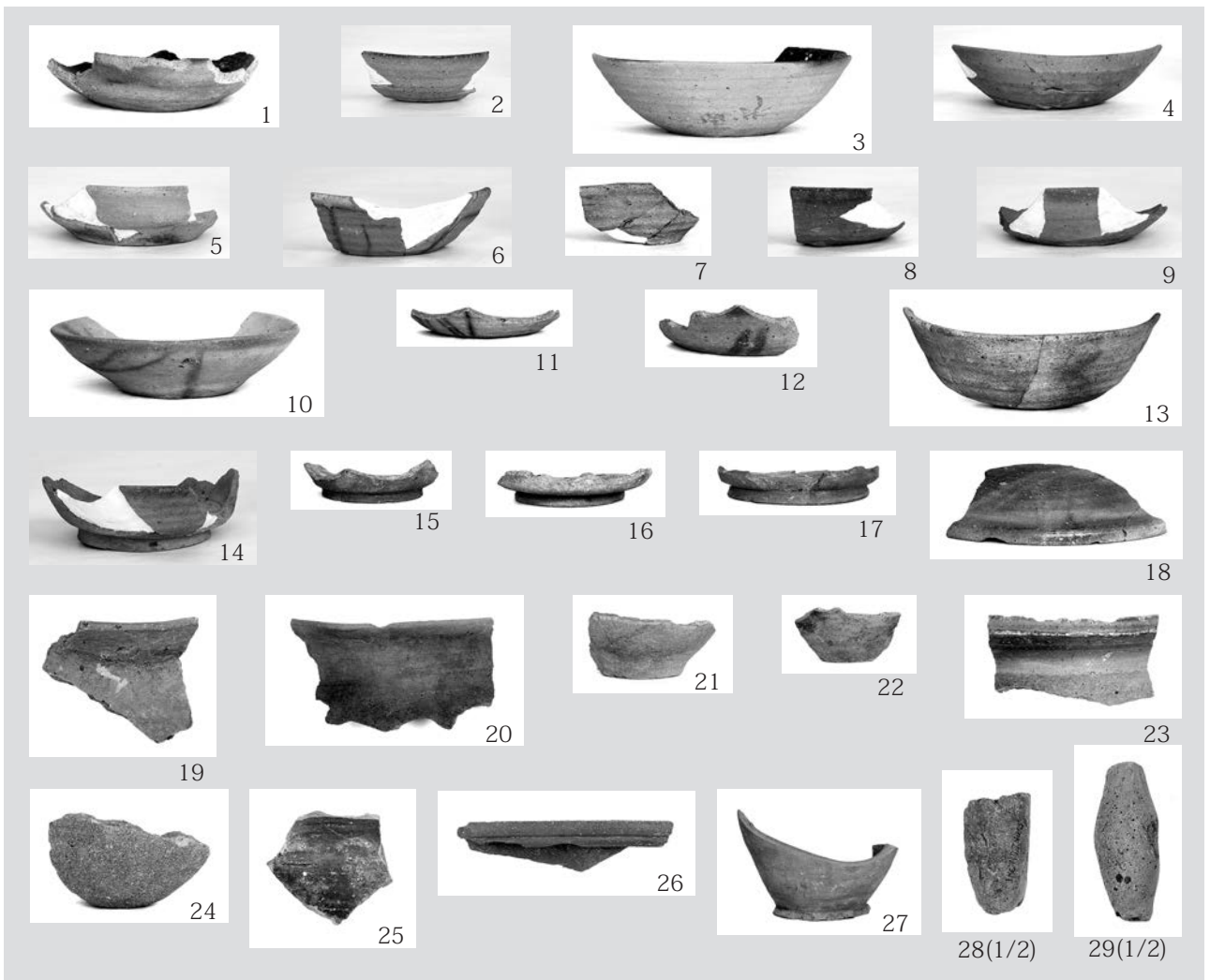
H74 号竖穴建物出土遺物



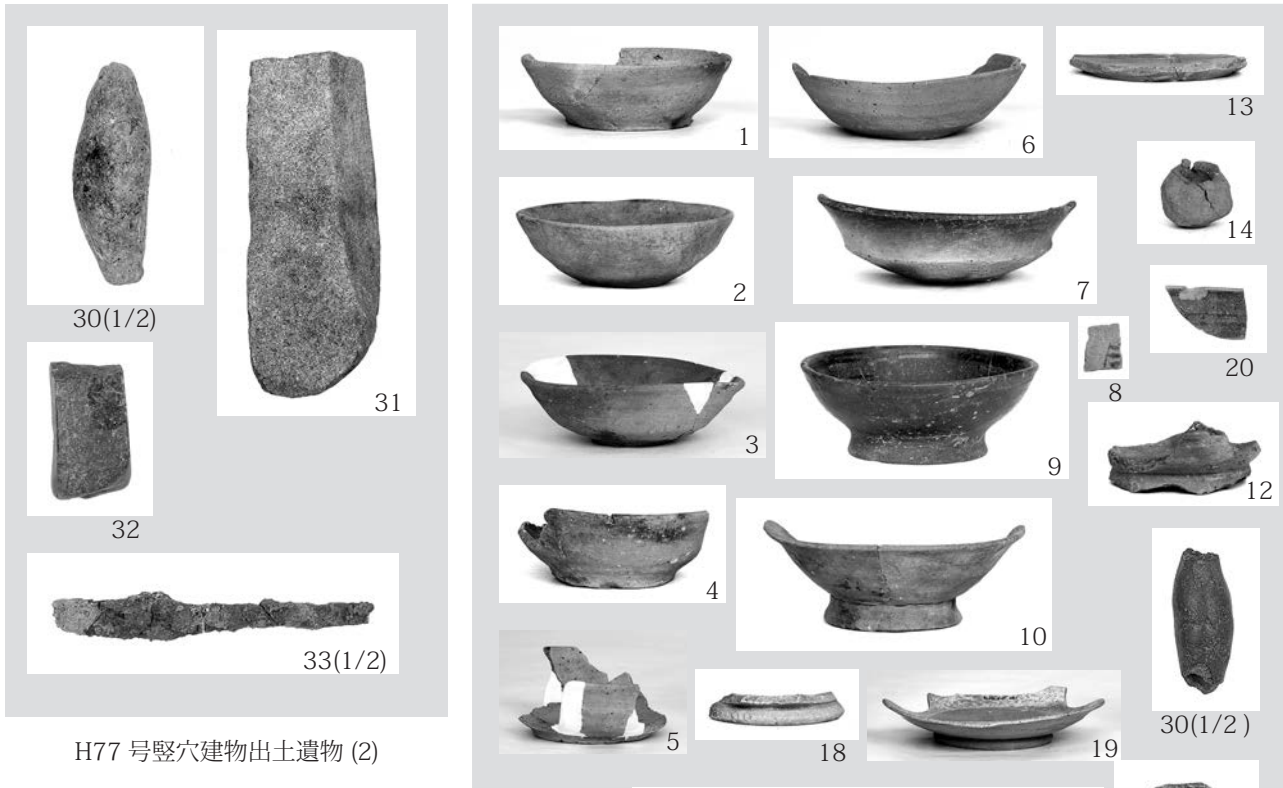
H75 号竖穴建物出土遺物



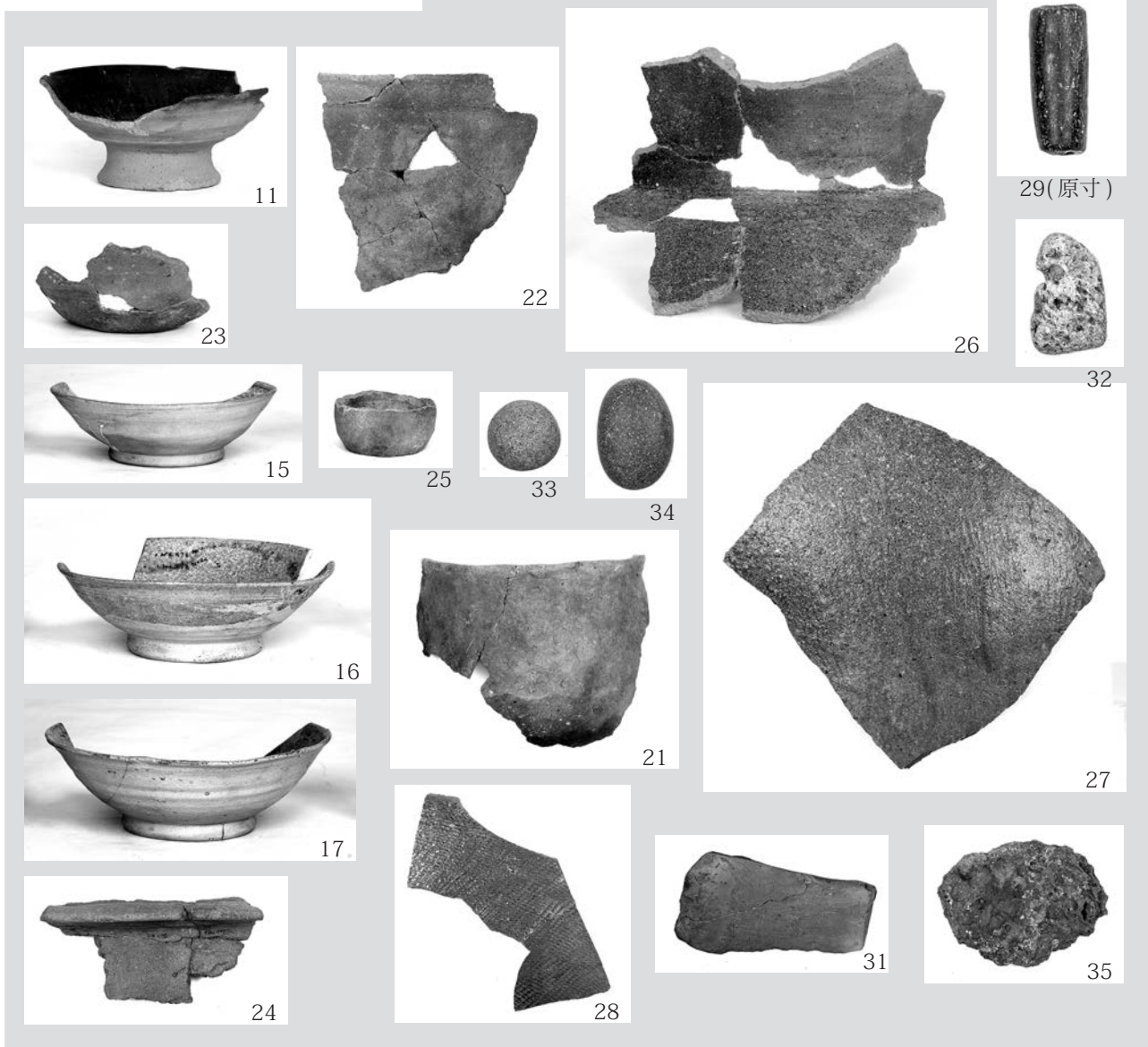
H76 号竖穴建物出土遺物



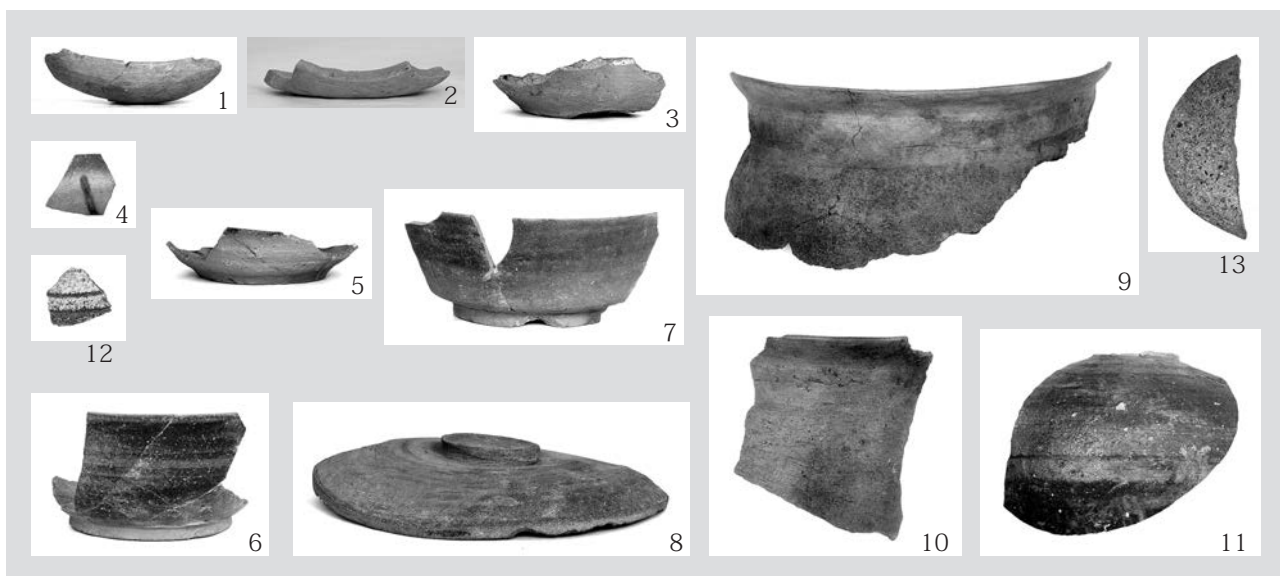
H77 号竖穴建物出土遺物 (1)



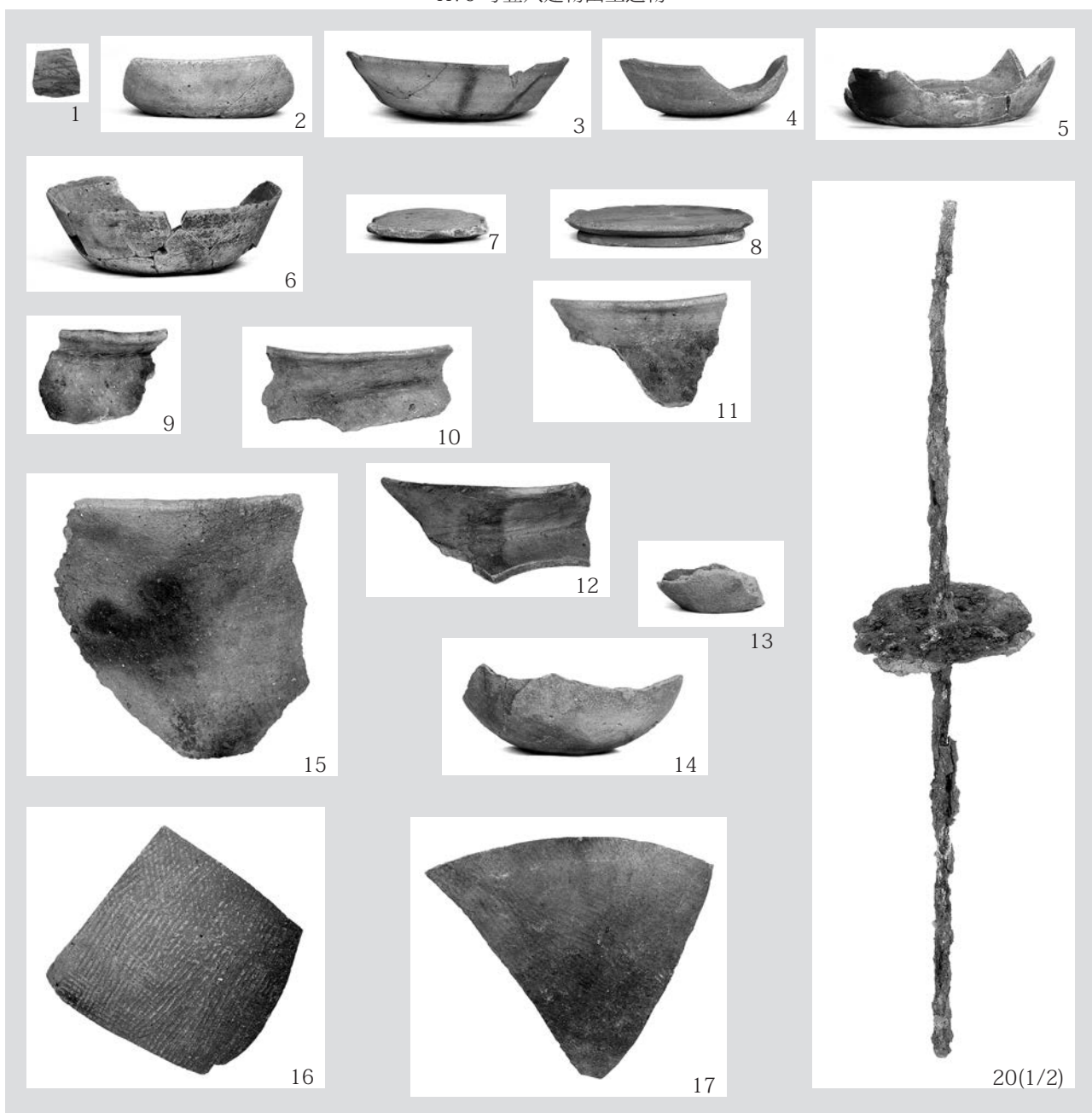
H77 号竖穴建物出土遺物 (2)



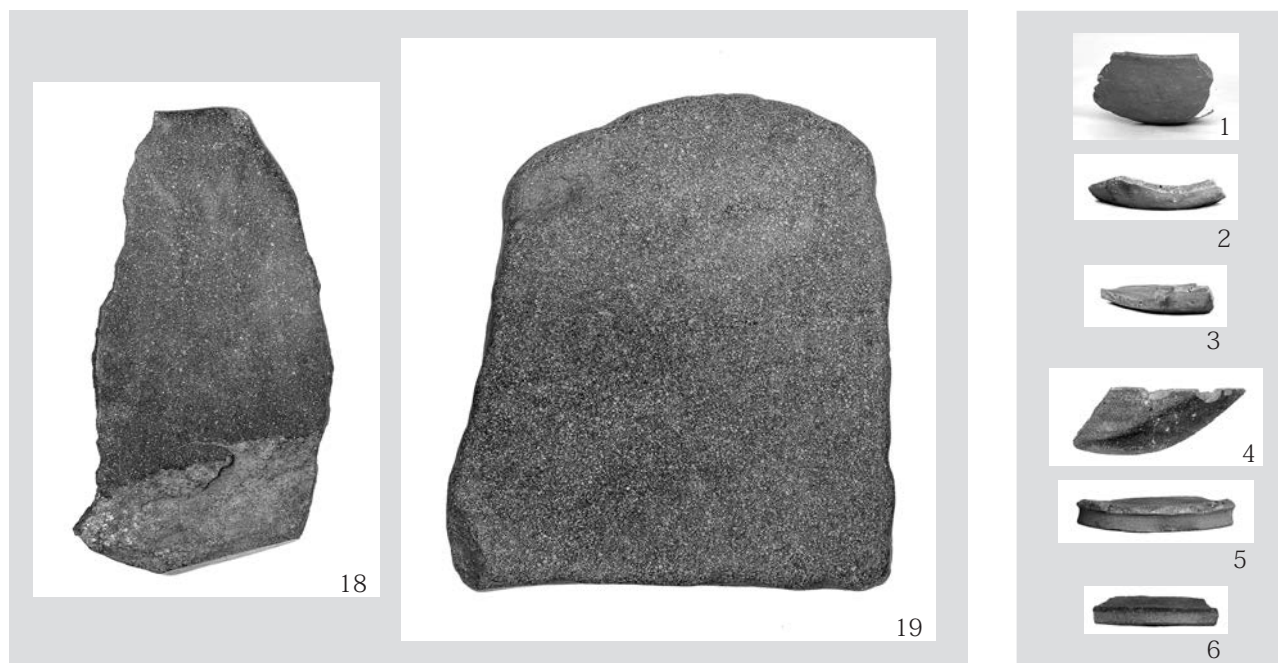
H78 号竖穴建物出土遺物



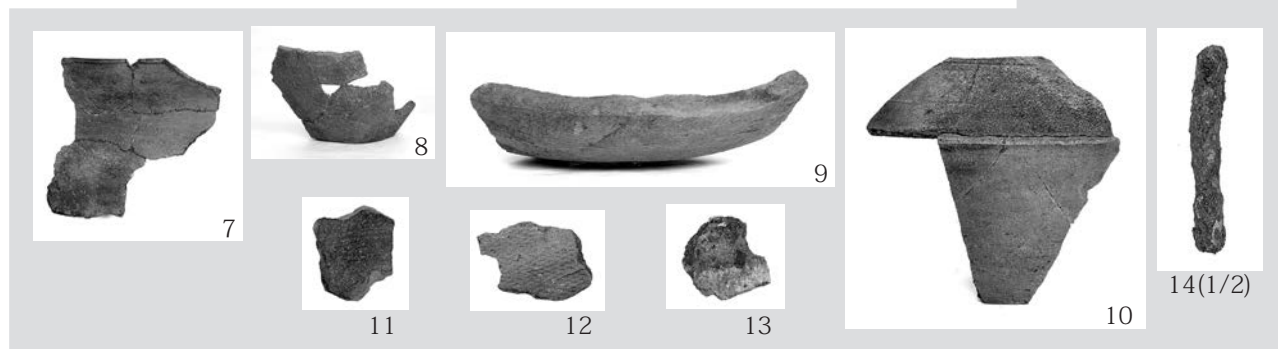
H79 号竖穴建物出土遺物



H80 号竖穴建物出土遺物 (1)



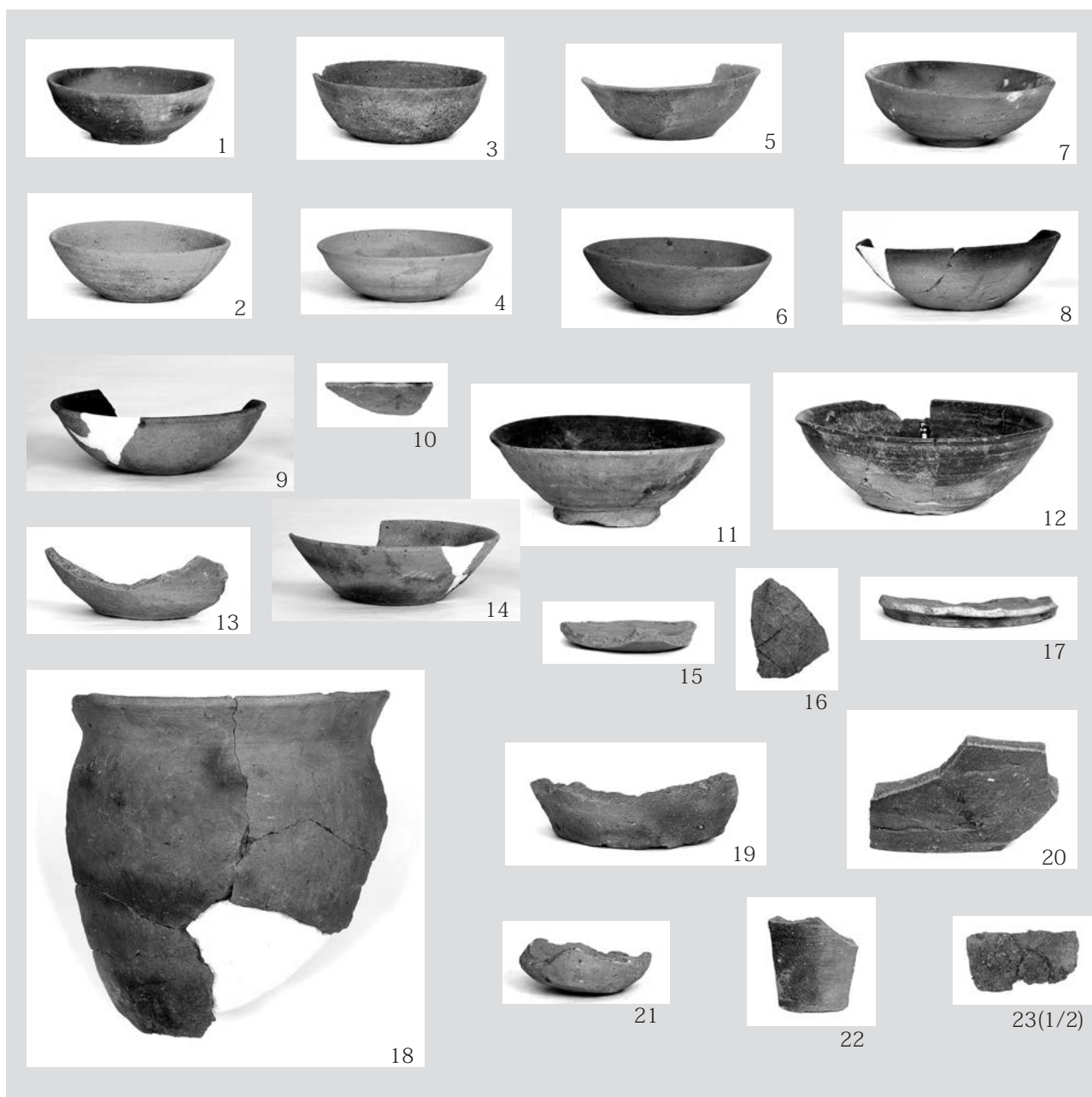
H80 号竖穴建物出土遺物 (2)



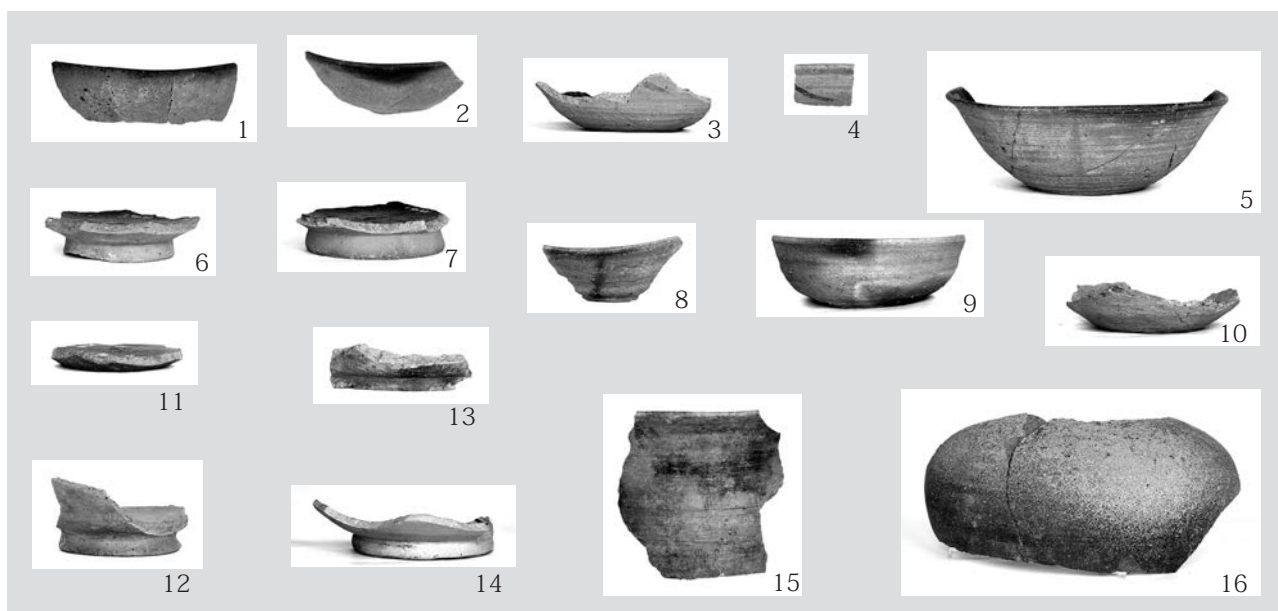
H81 号竖穴建物出土遺物



H82 号竖穴建物出土遺物



H83 号竖穴建物出土遺物



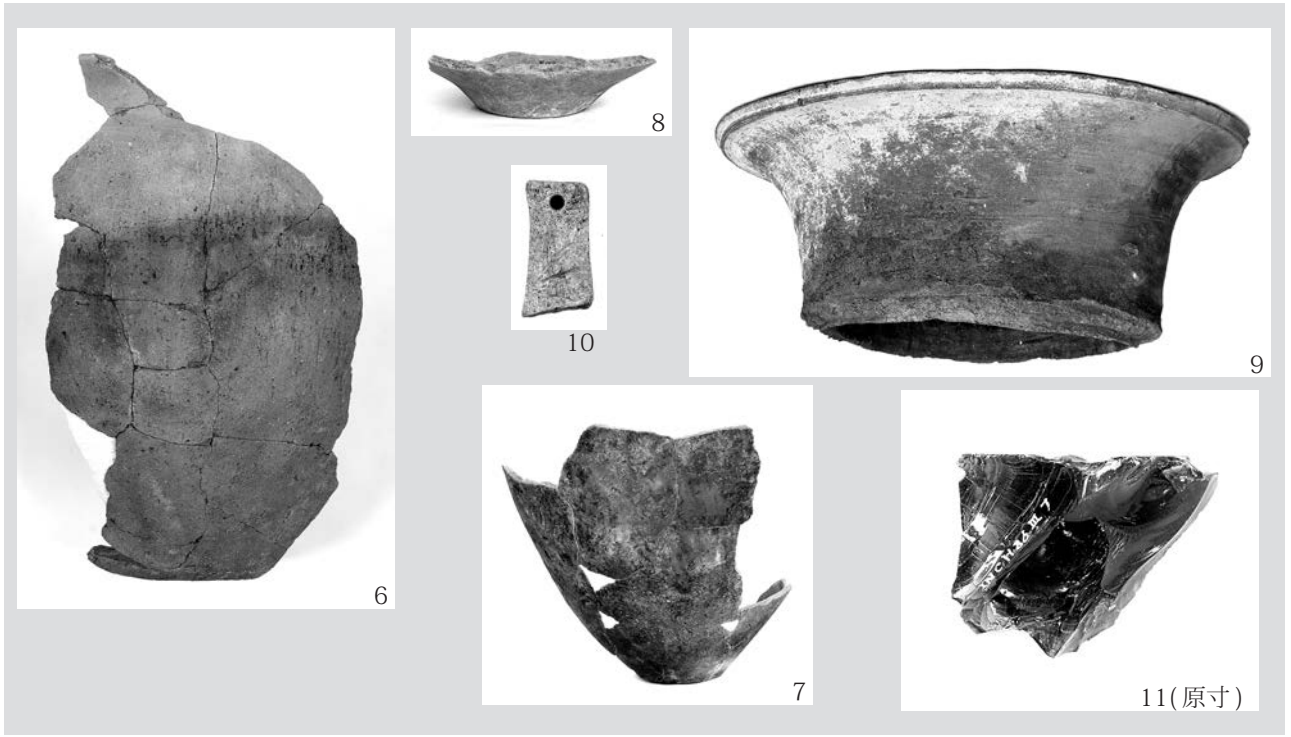
H84 号竖穴建物出土遺物



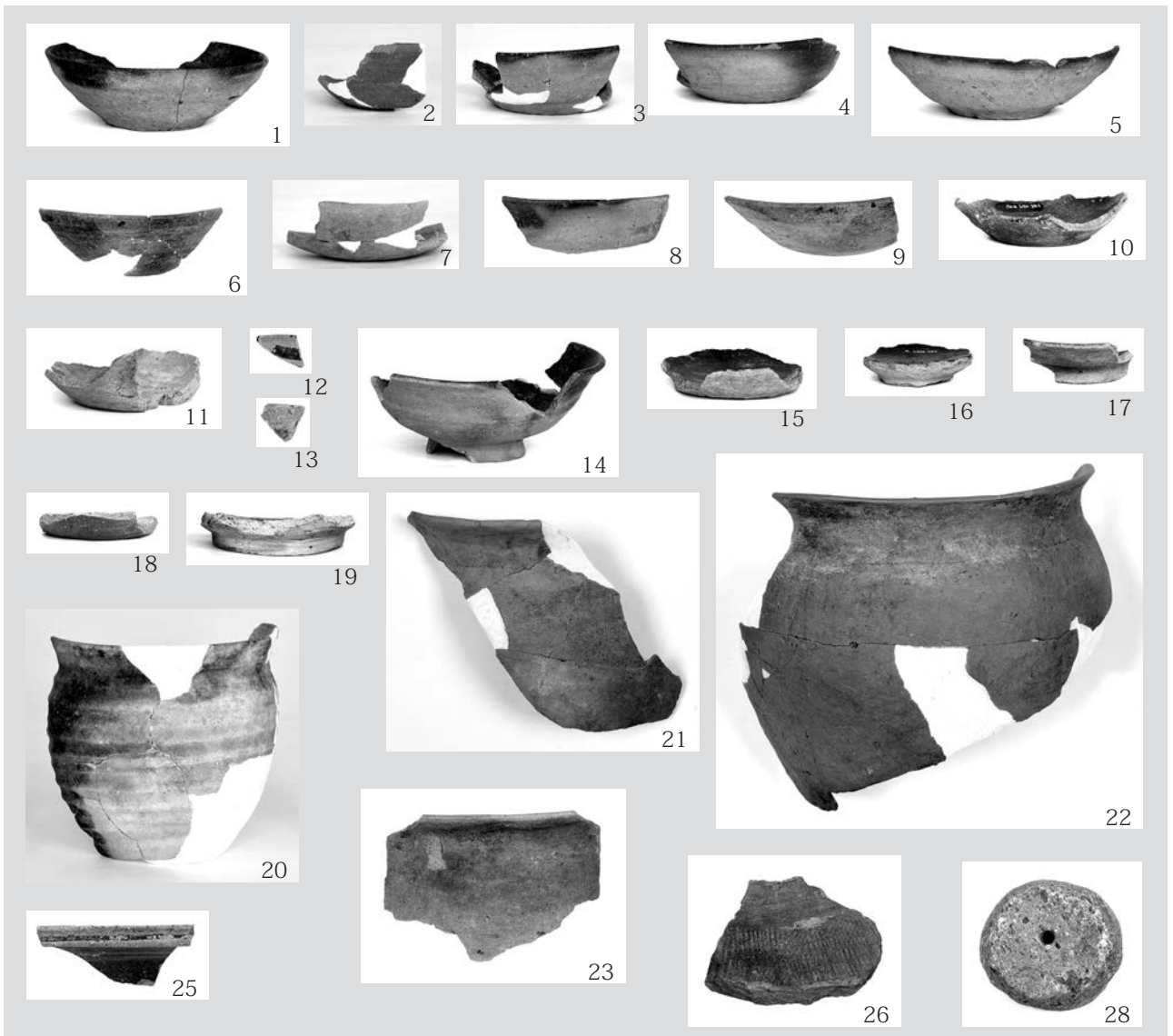
H85 号竖穴建物出土遺物



H86 号竖穴建物出土遺物 (1)



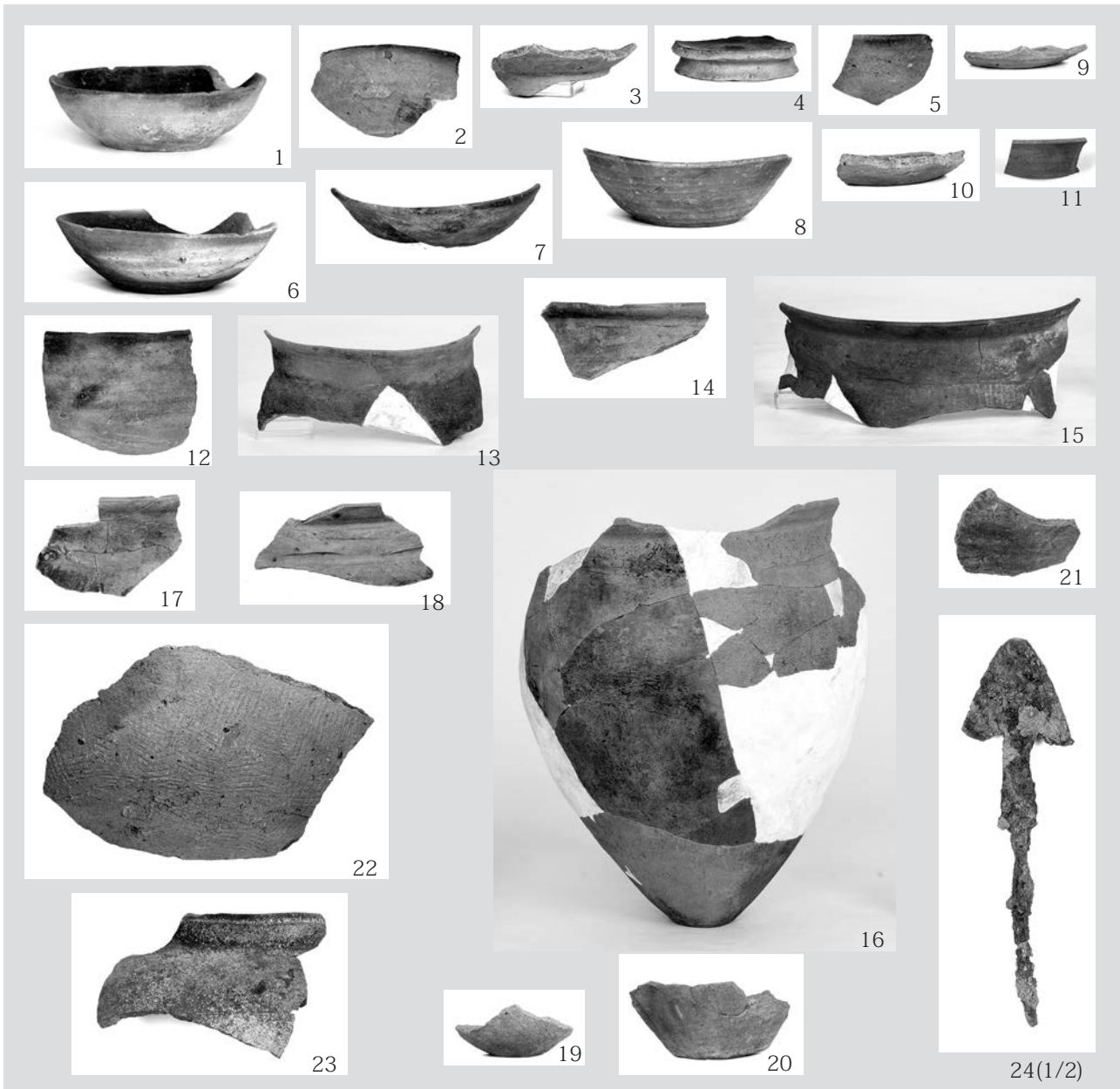
H86 号竪穴建物出土遺物 (2)



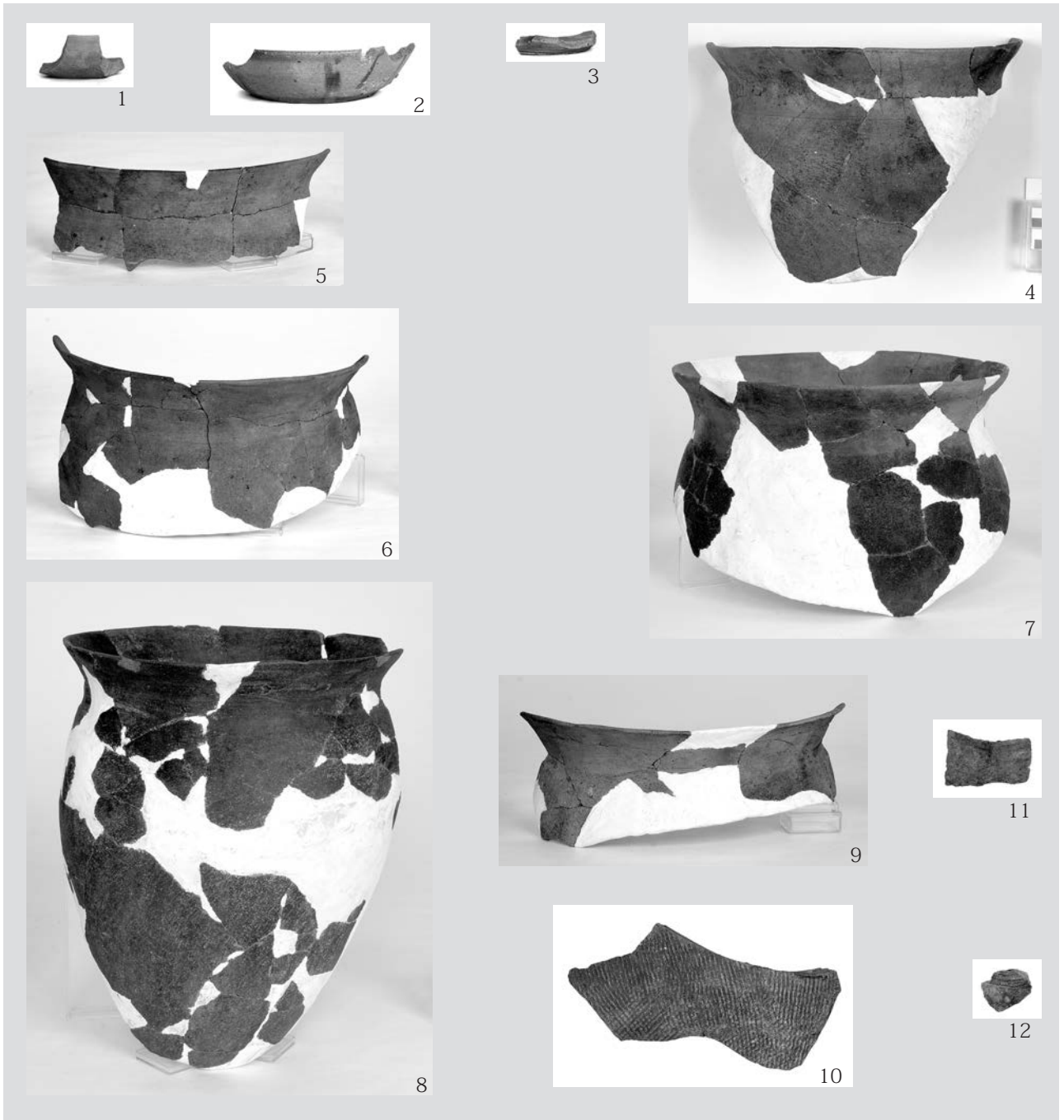
H87 号竪穴建物出土遺物 (1)



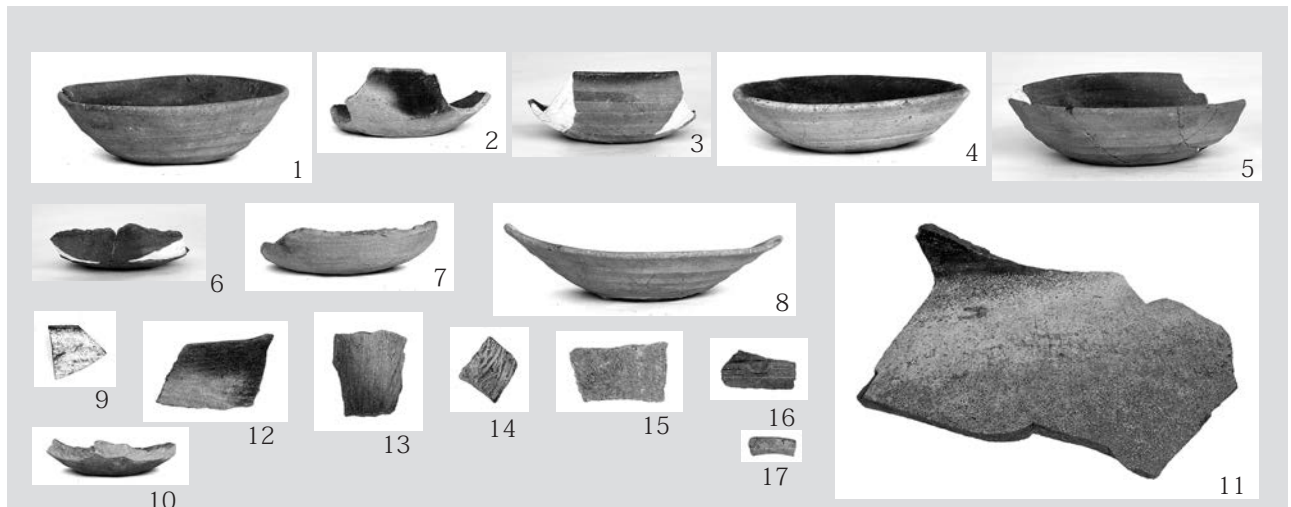
H87 号竖穴建物出土遺物 (2)



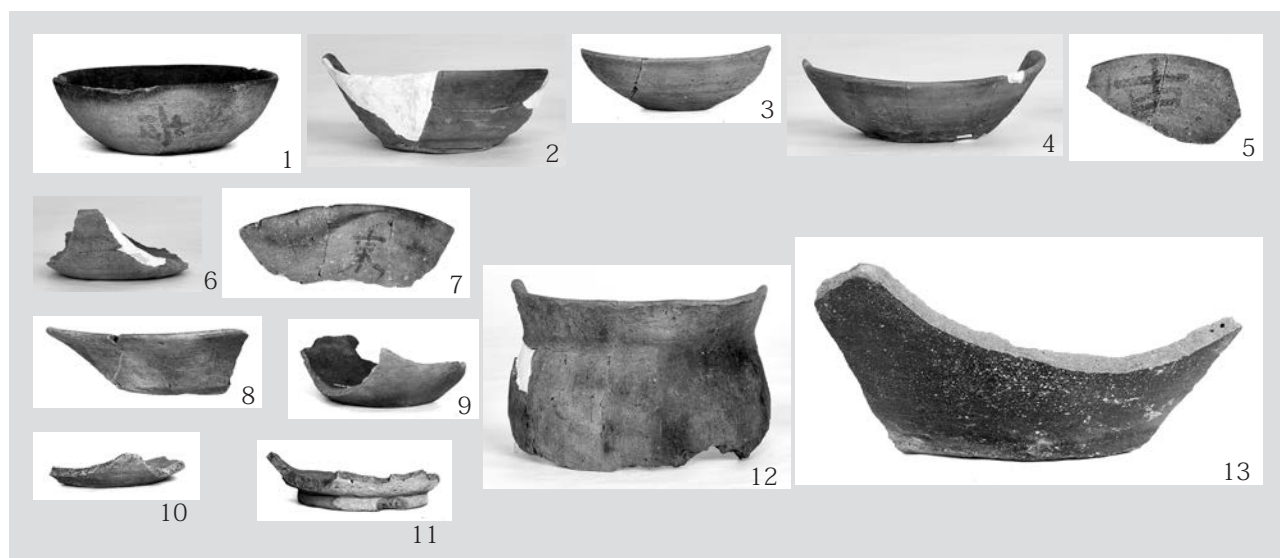
H88 号竖穴建物出土遺物



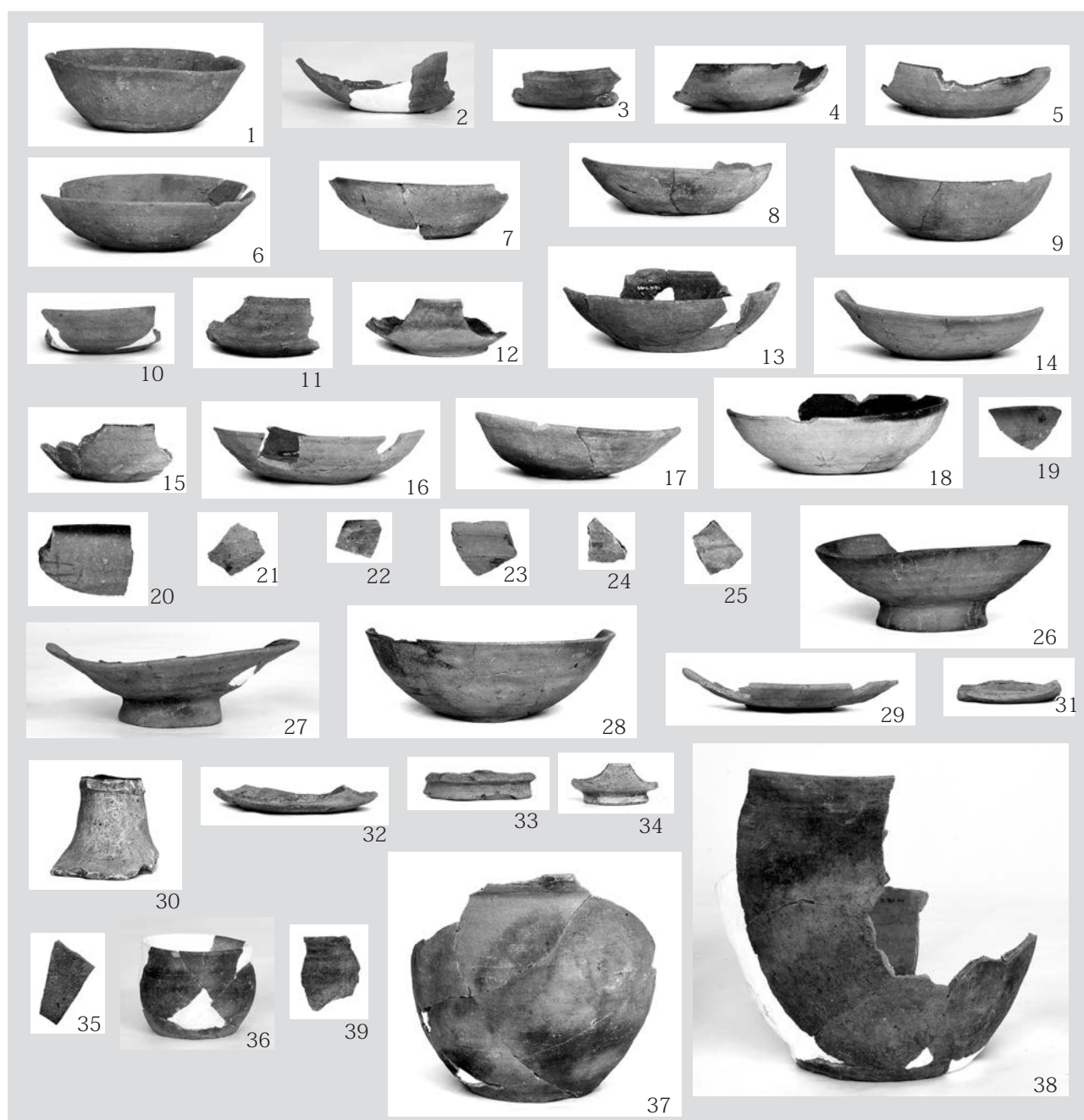
H89 号竖穴建物出土遺物



H90 号竖穴建物出土遺物



H91 号竖穴建物出土遺物



H92 号竖穴建物出土遺物 (1)



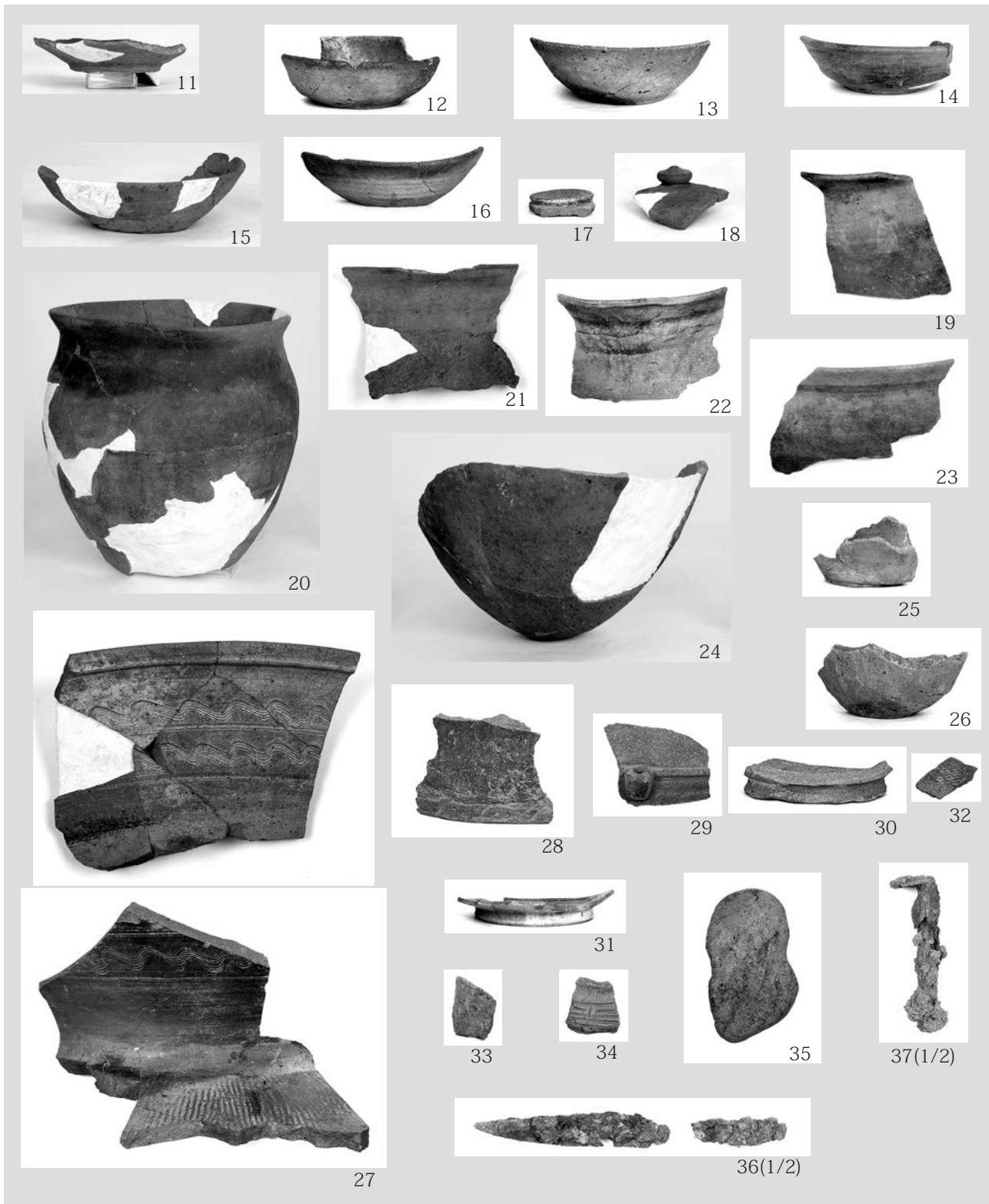
H92 号竖穴建物出土遺物 (2)



H93 号竖穴建物出土遺物



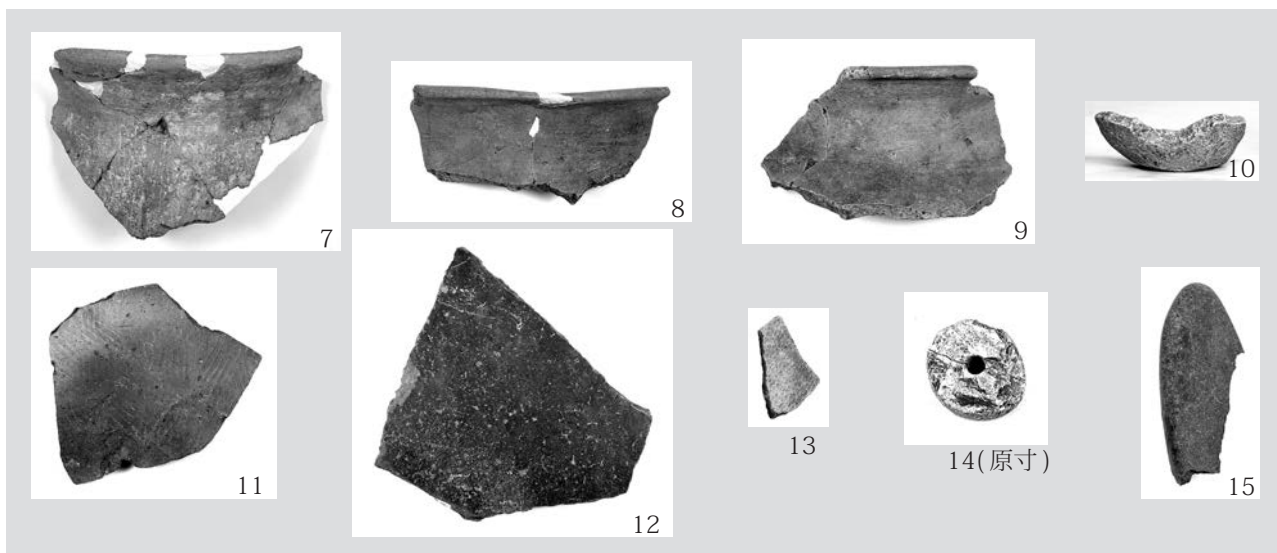
H94 号竖穴建物出土遺物 (1)



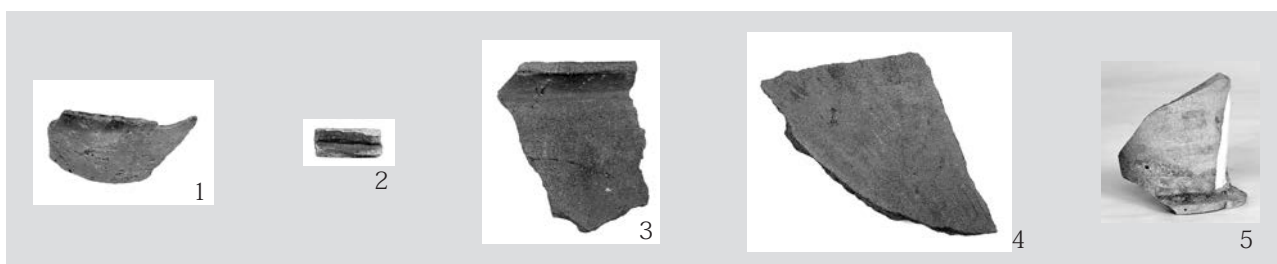
H94 号竖穴建物出土遺物 (2)



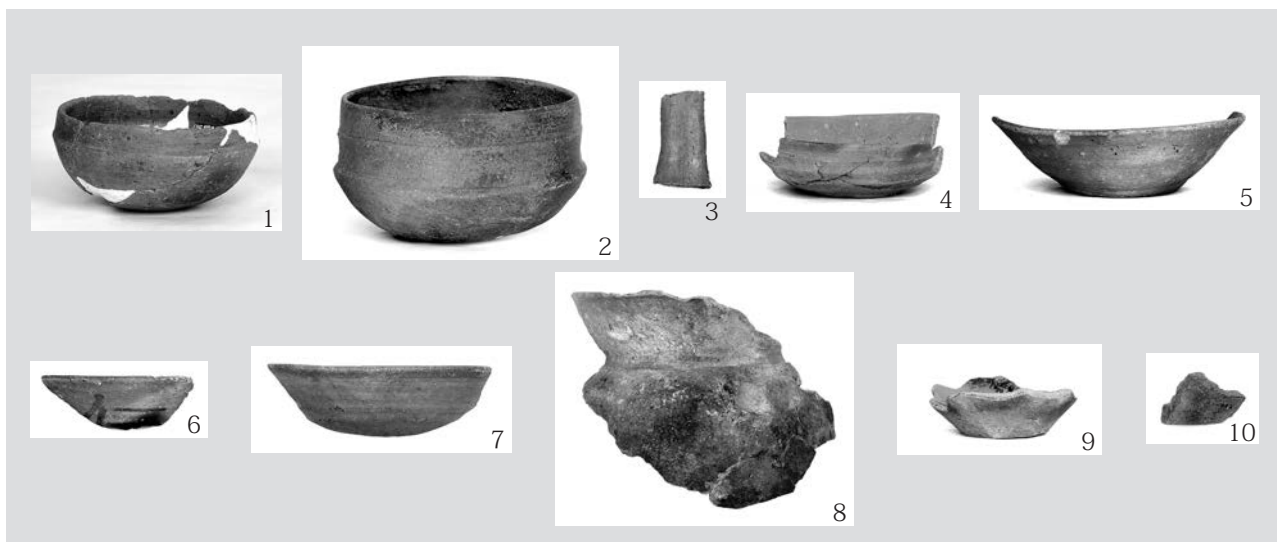
H95 号竖穴建物出土遺物 (1)



H95 号竖穴建物出土遺物 (2)



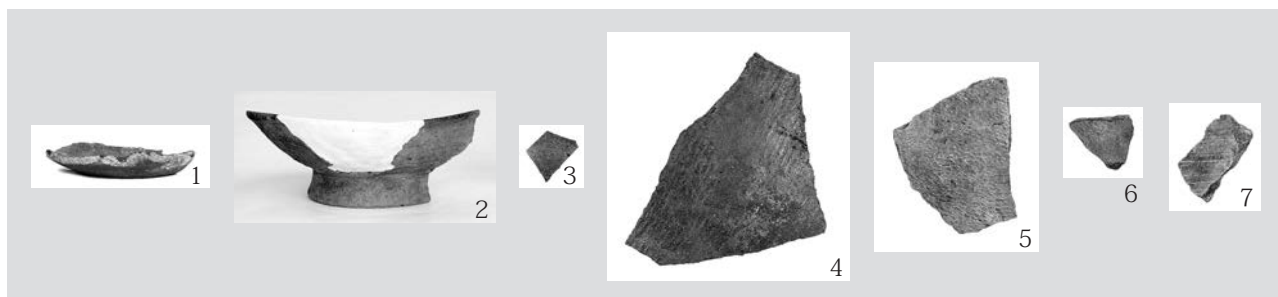
H96 号竖穴建物出土遺物



H97 号竖穴建物出土遺物



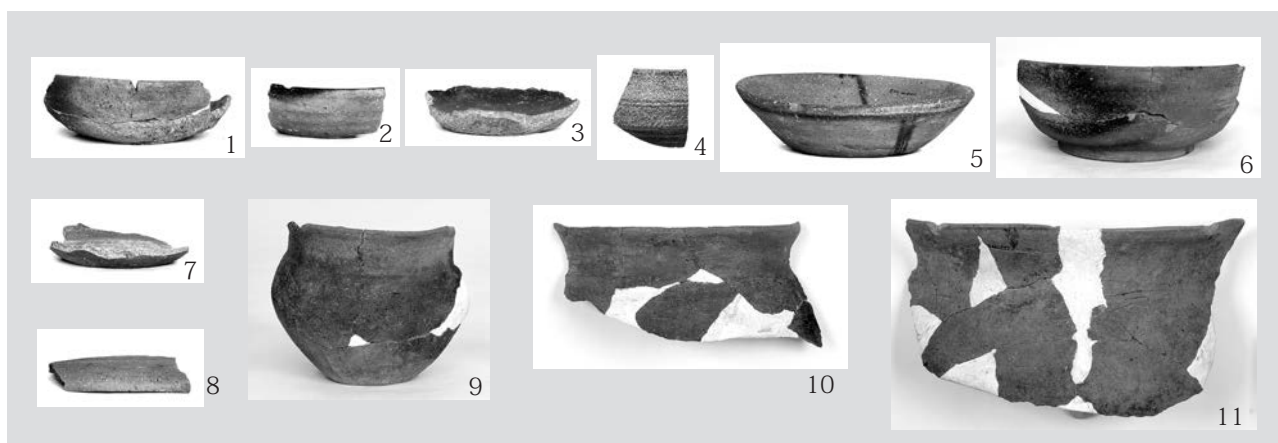
H98 号竖穴建物出土遺物



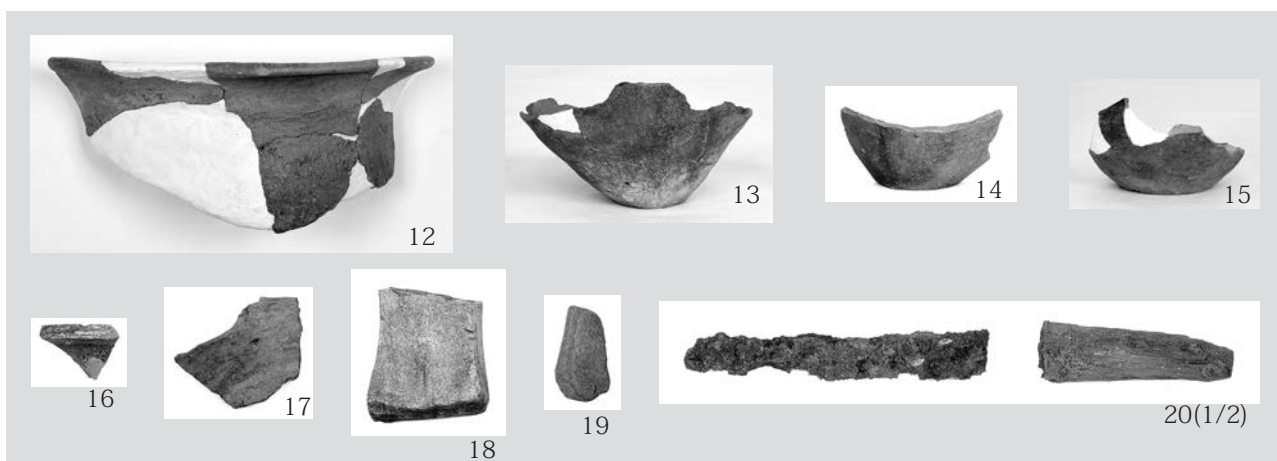
H99 号竖穴建物出土遺物



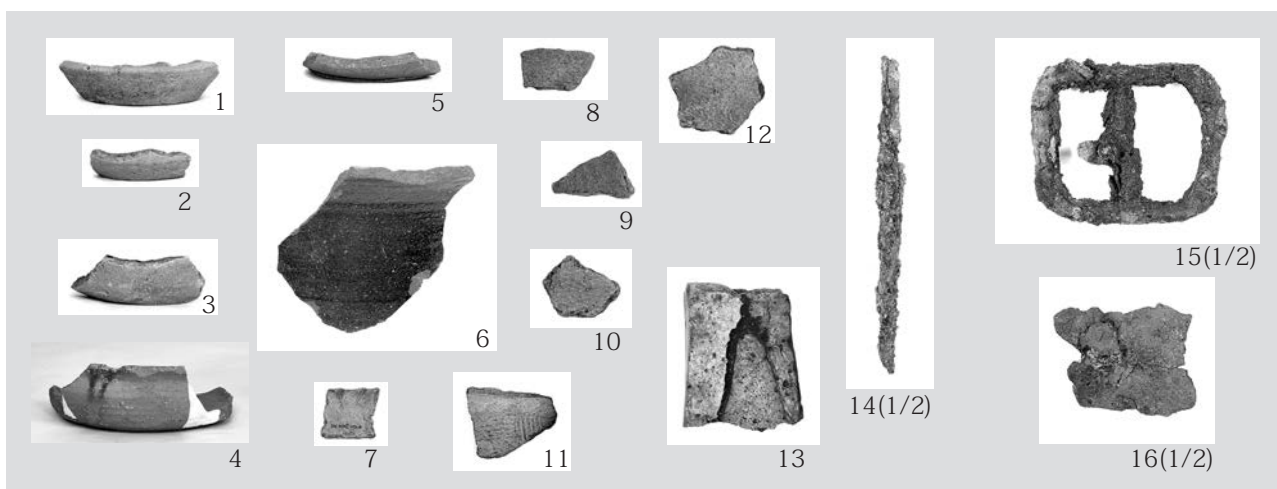
H100 号竖穴建物出土遺物



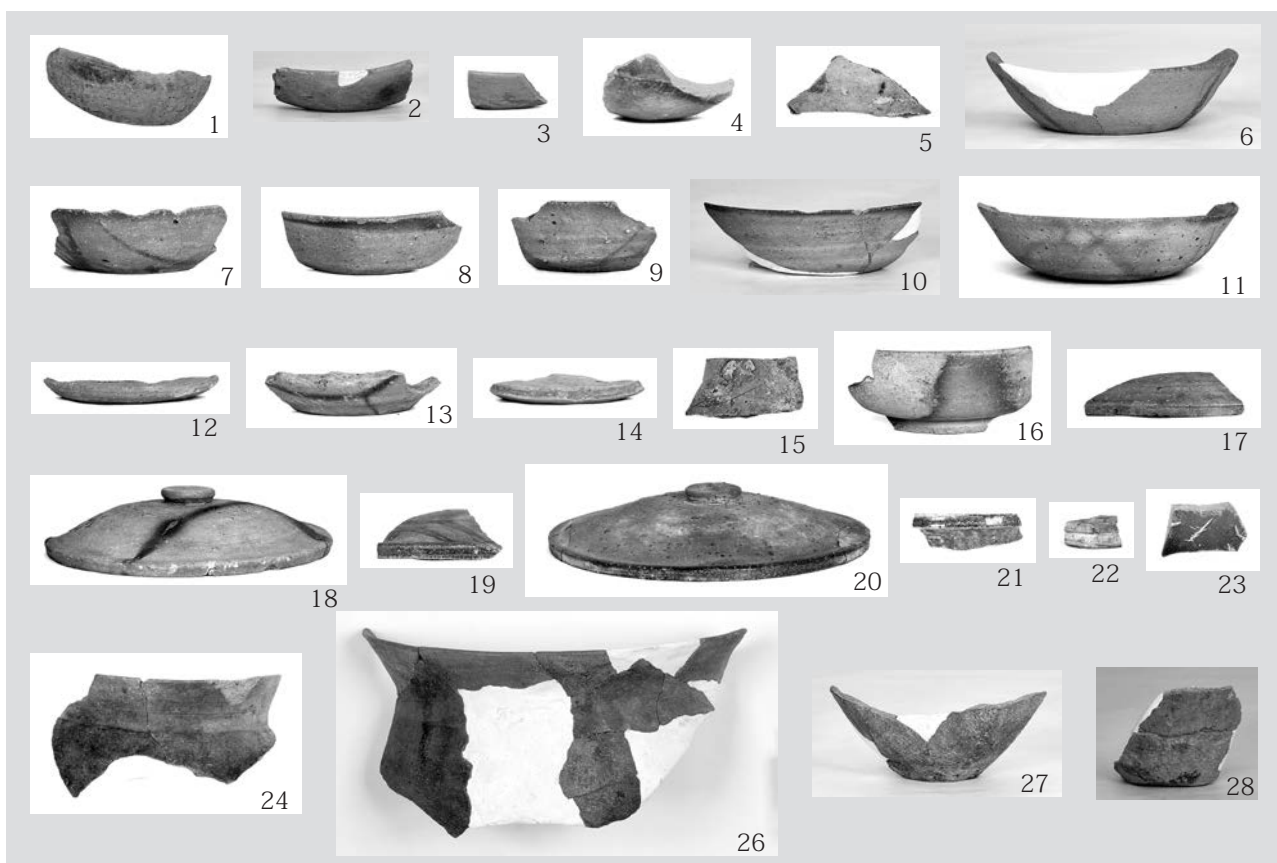
H101 号竖穴建物出土遺物 (1)



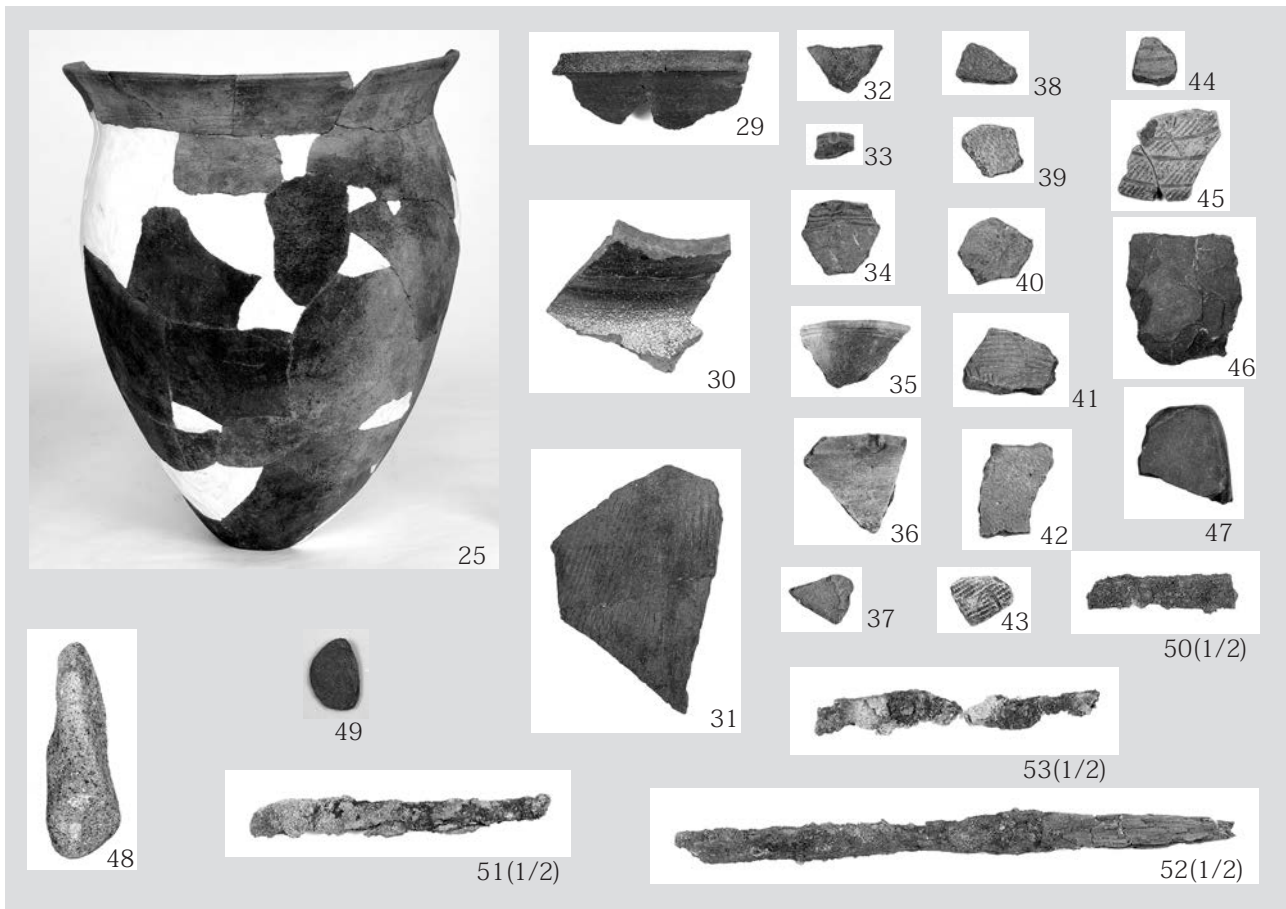
H101 号竖穴建物出土遺物 (2)



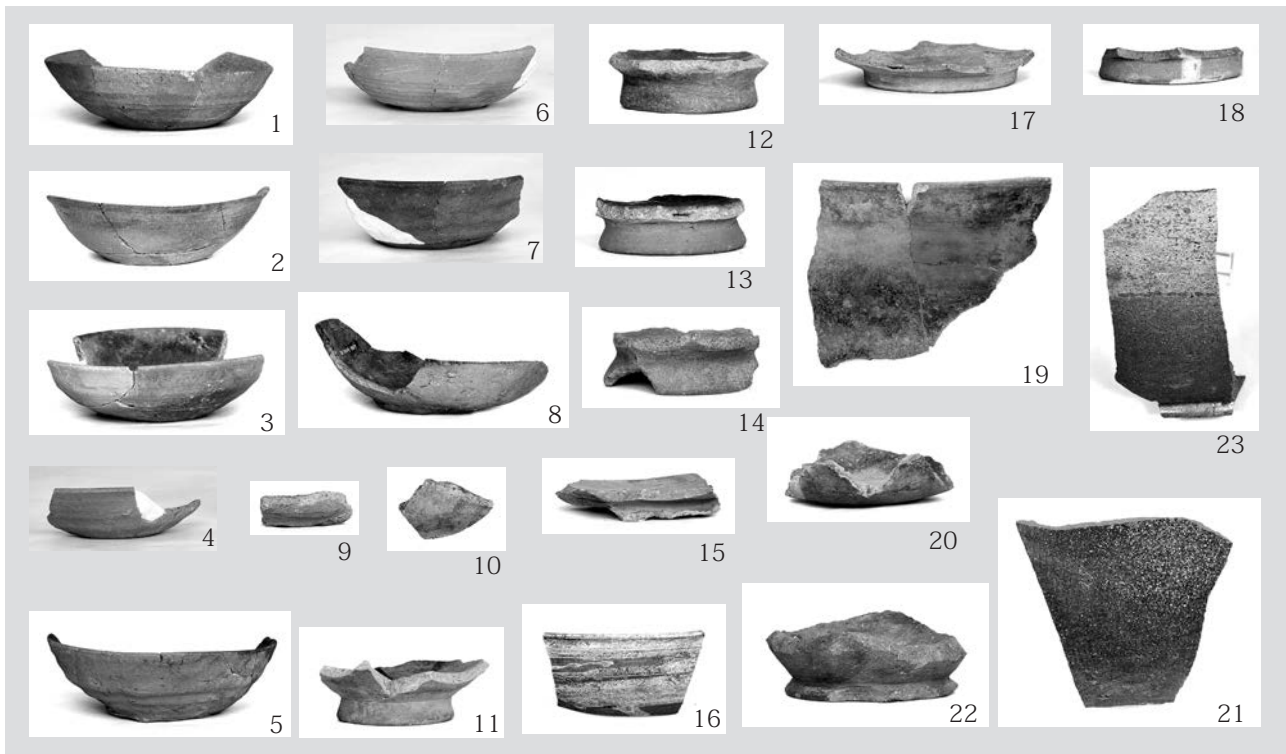
H102 号竖穴建物出土遺物



H103 号竖穴建物出土遺物 (1)



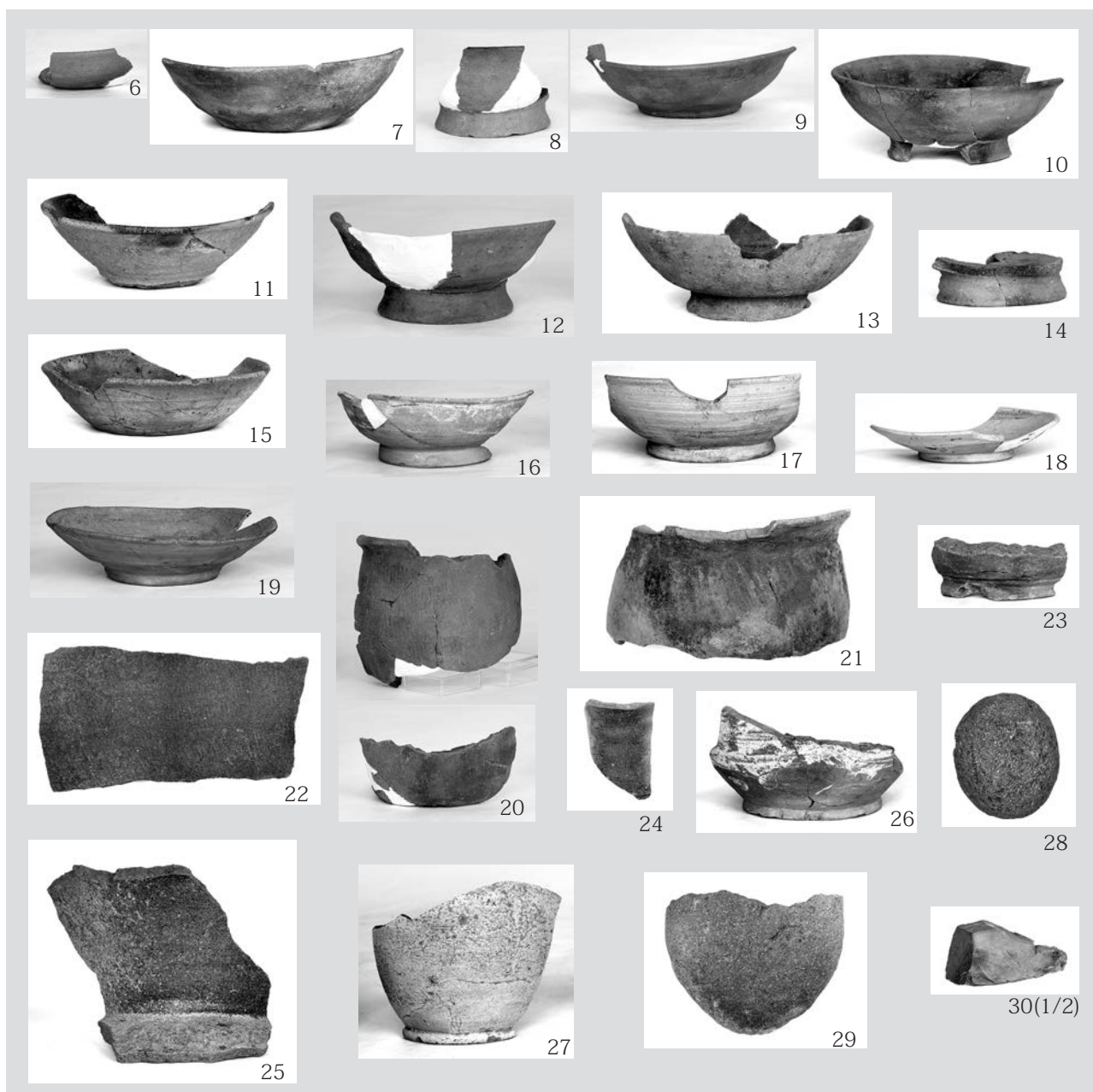
H103 号竖穴建物出土遺物 (2)



H104 号竖穴建物出土遺物



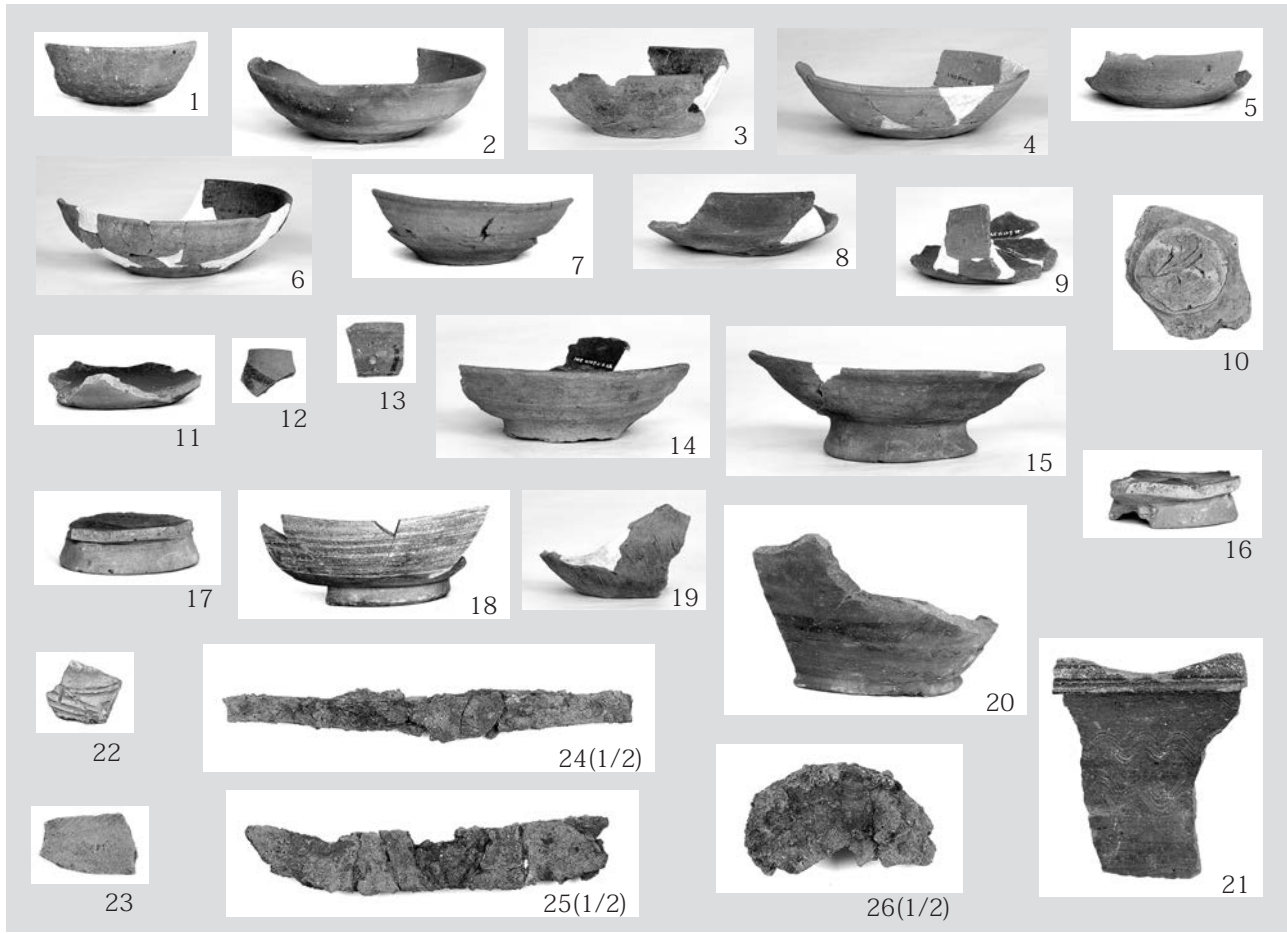
H105 号竖穴建物出土遺物 (1)



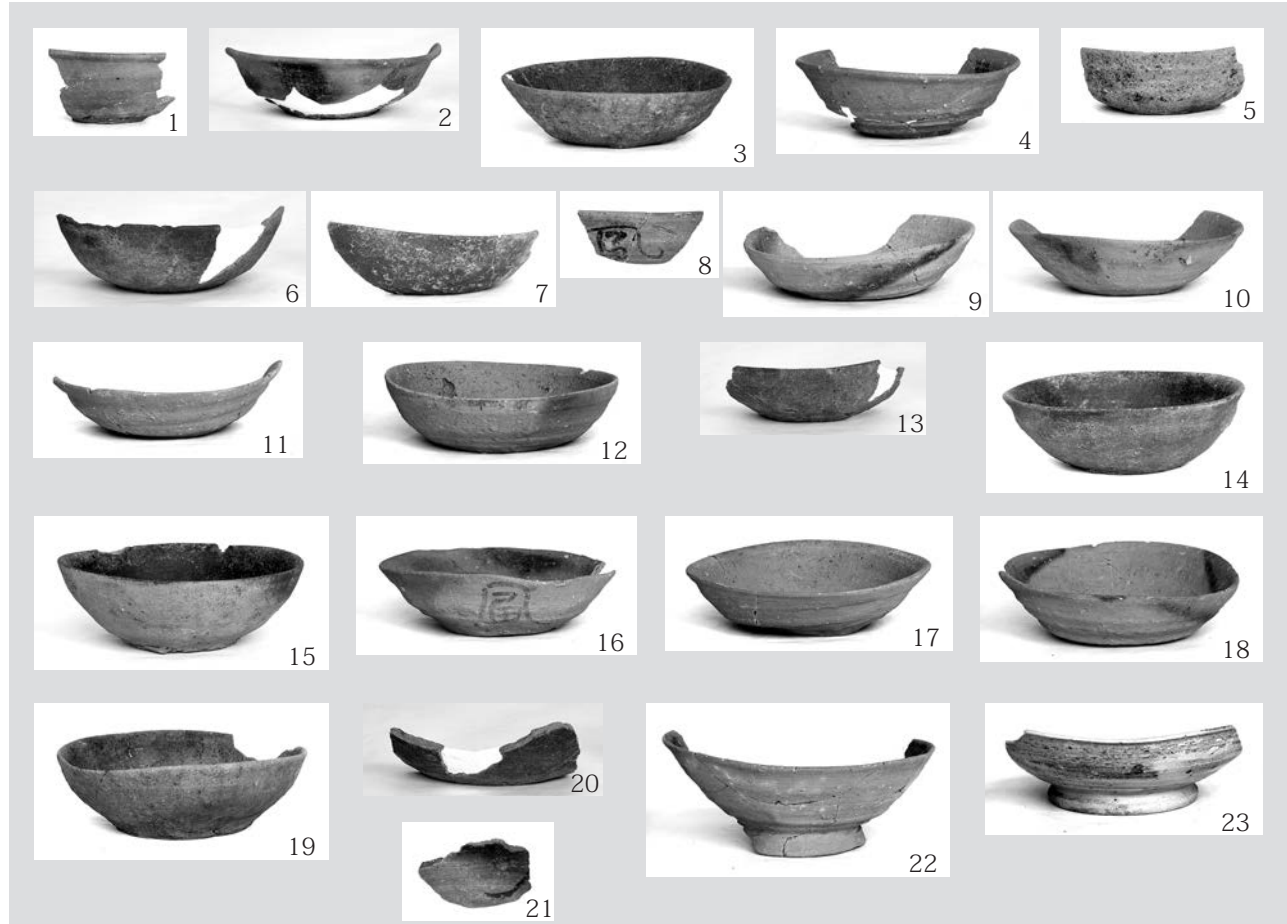
H105 号竖穴建物出土遺物 (2)



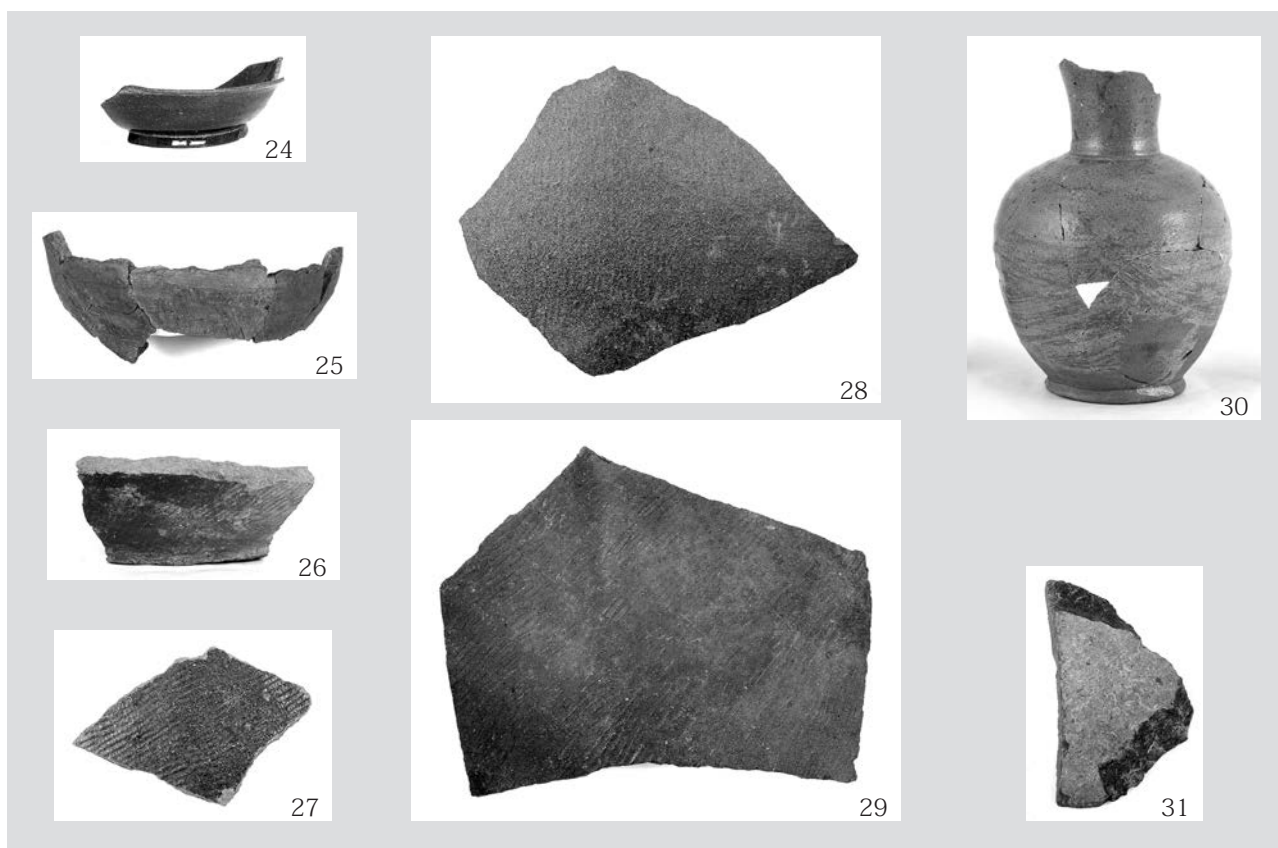
H106 号竖穴建物出土遺物



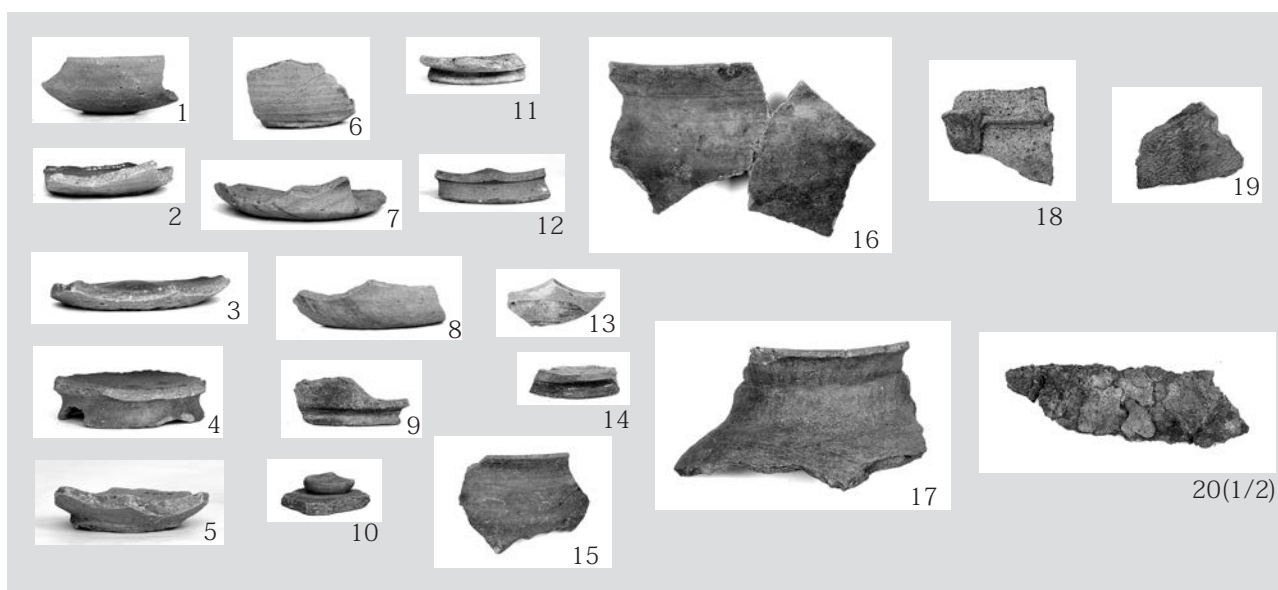
H107 号竪穴建物出土遺物



H108 号竪穴建物出土遺物 (1)



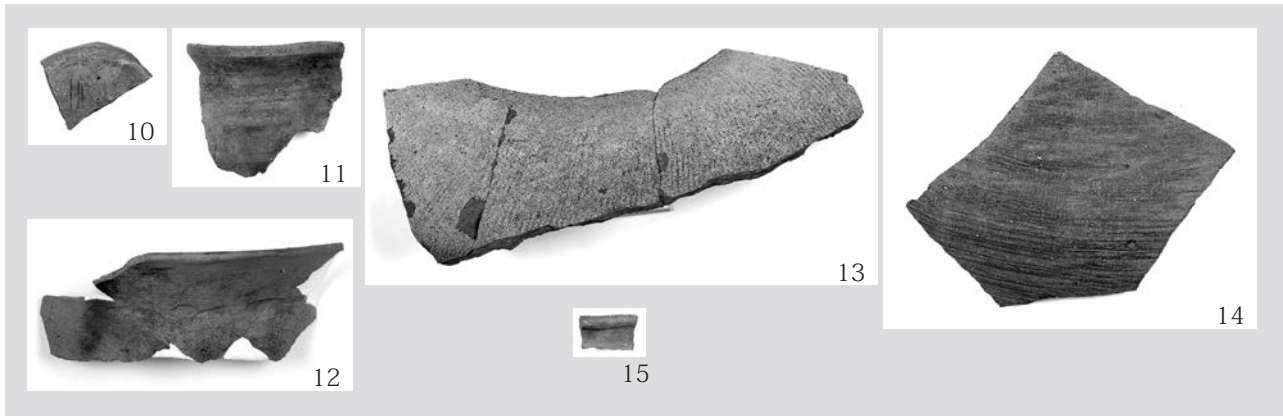
H108 号竖穴建物出土遺物 (2)



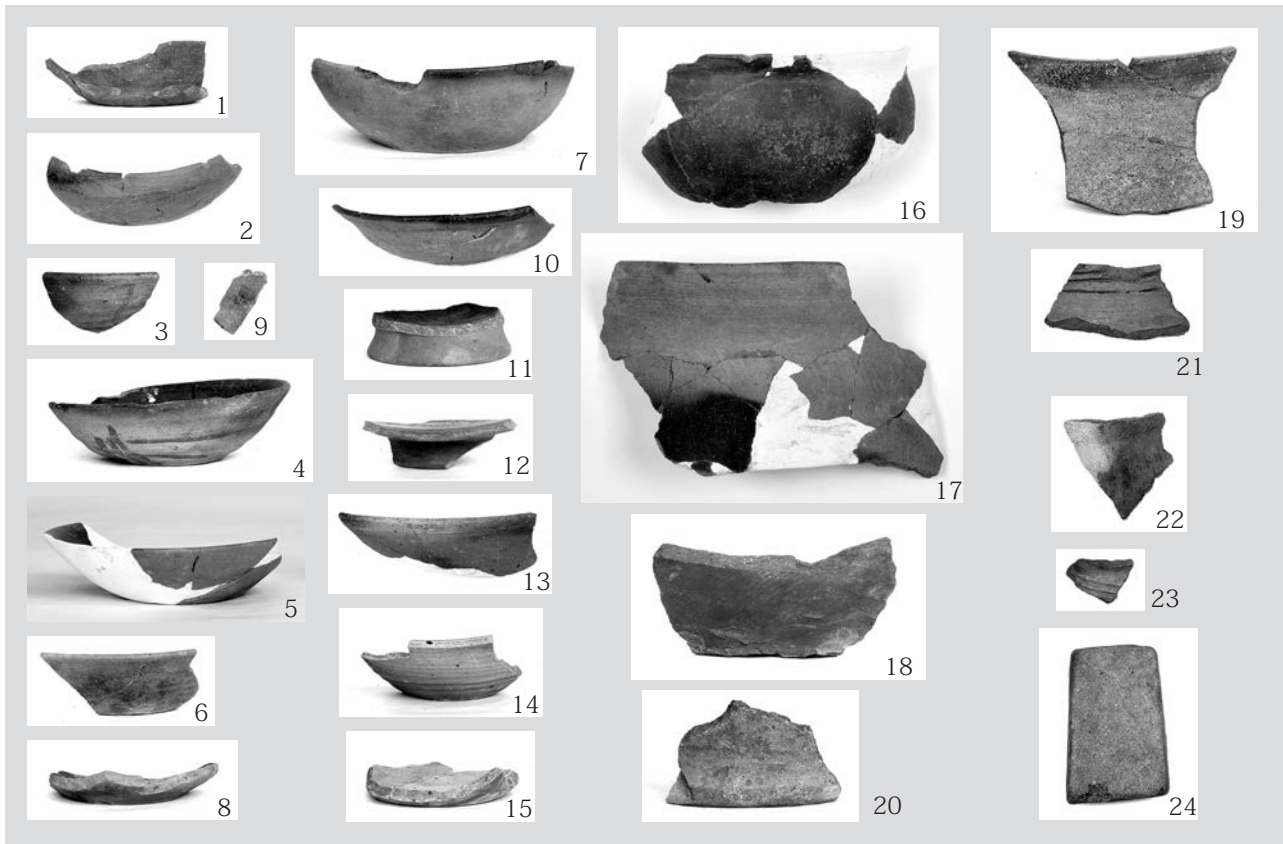
H109 号竖穴建物出土遺物



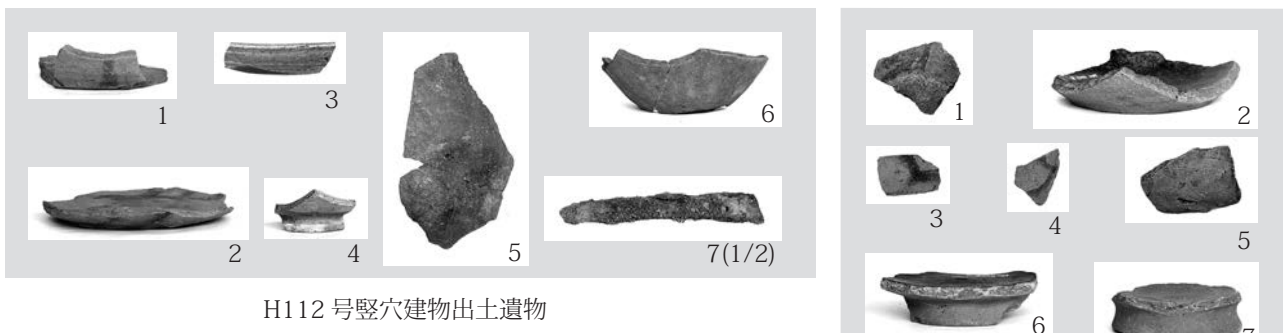
H110 号竖穴建物出土遺物 (1)



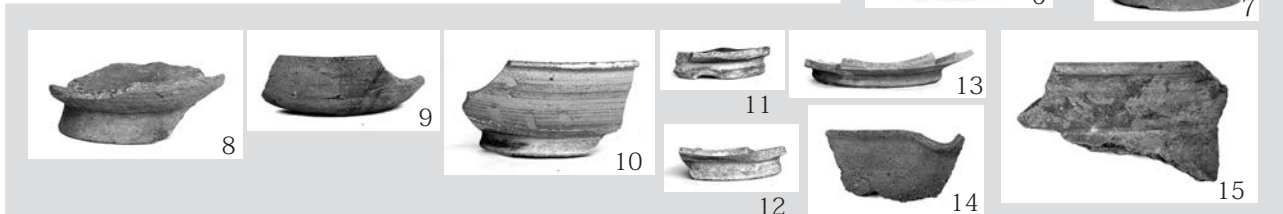
H110 号竖穴建物出土遺物 (2)



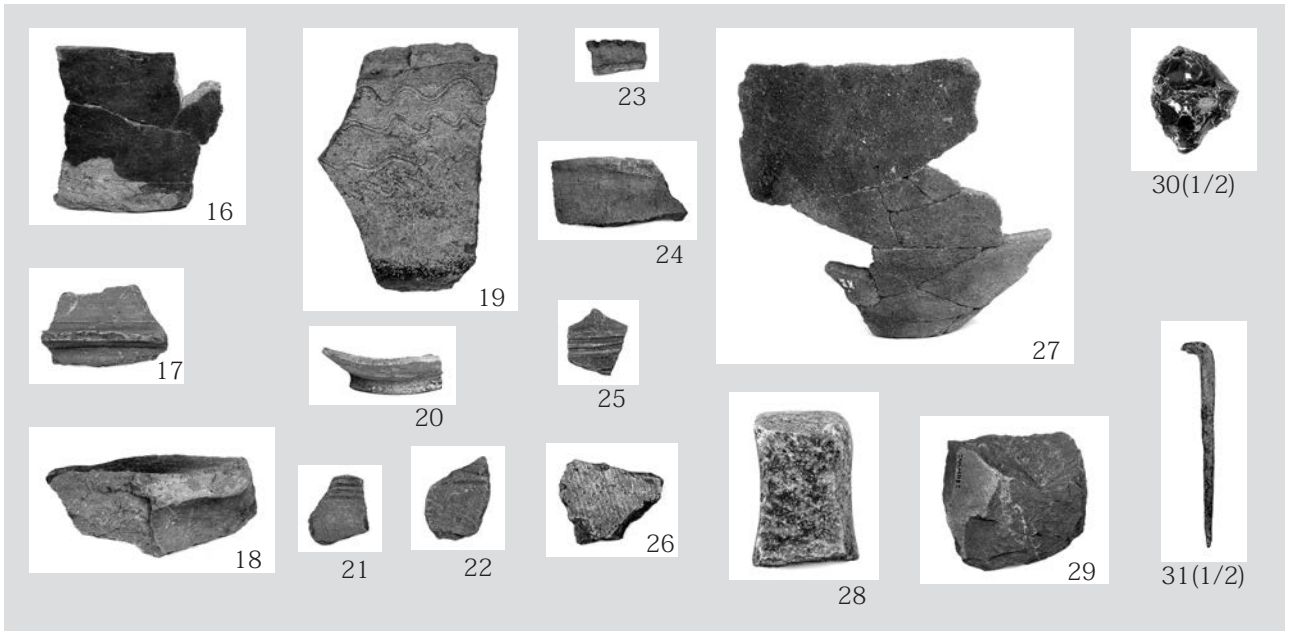
H111 号竖穴建物出土遺物



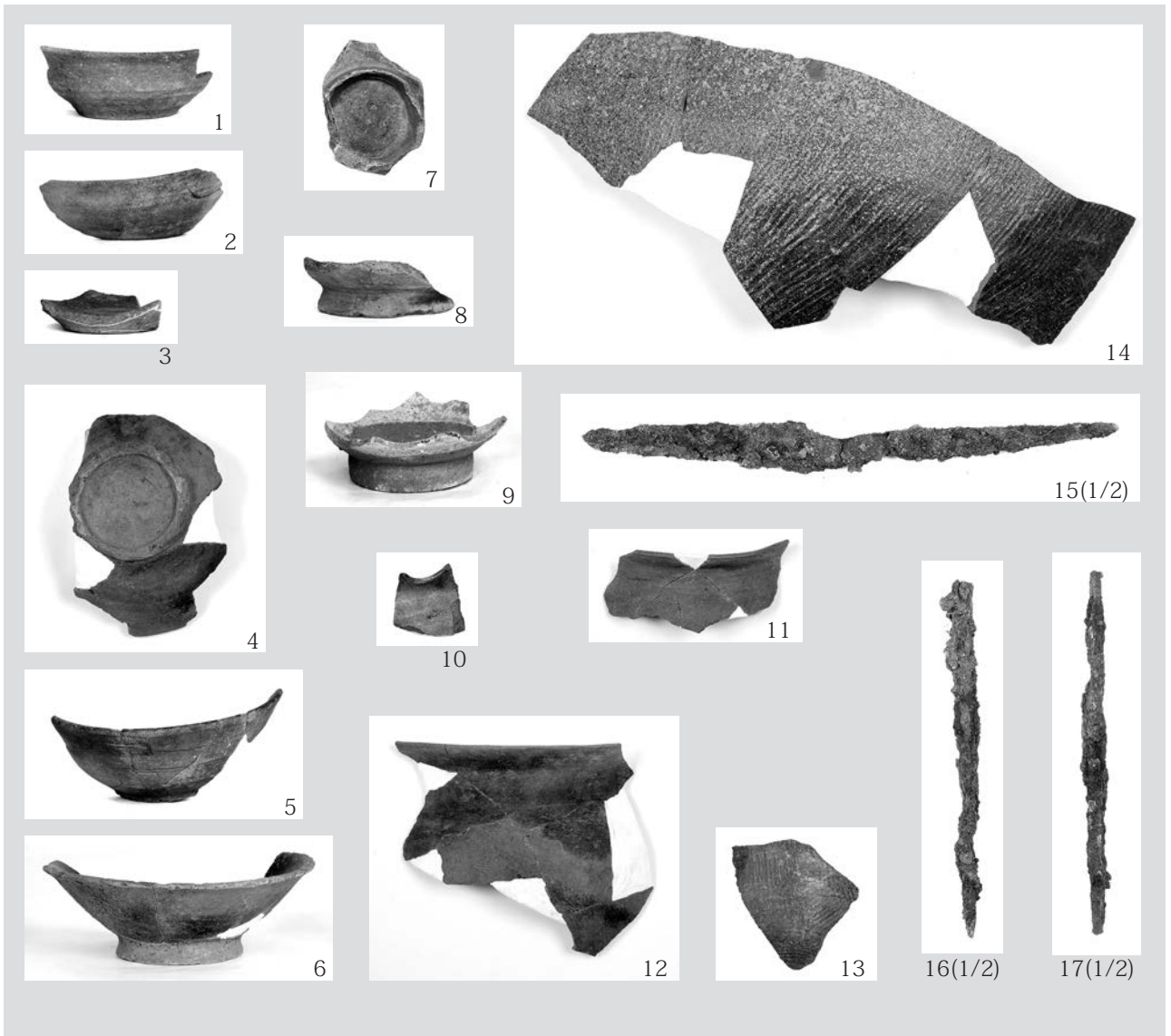
H112 号竖穴建物出土遺物



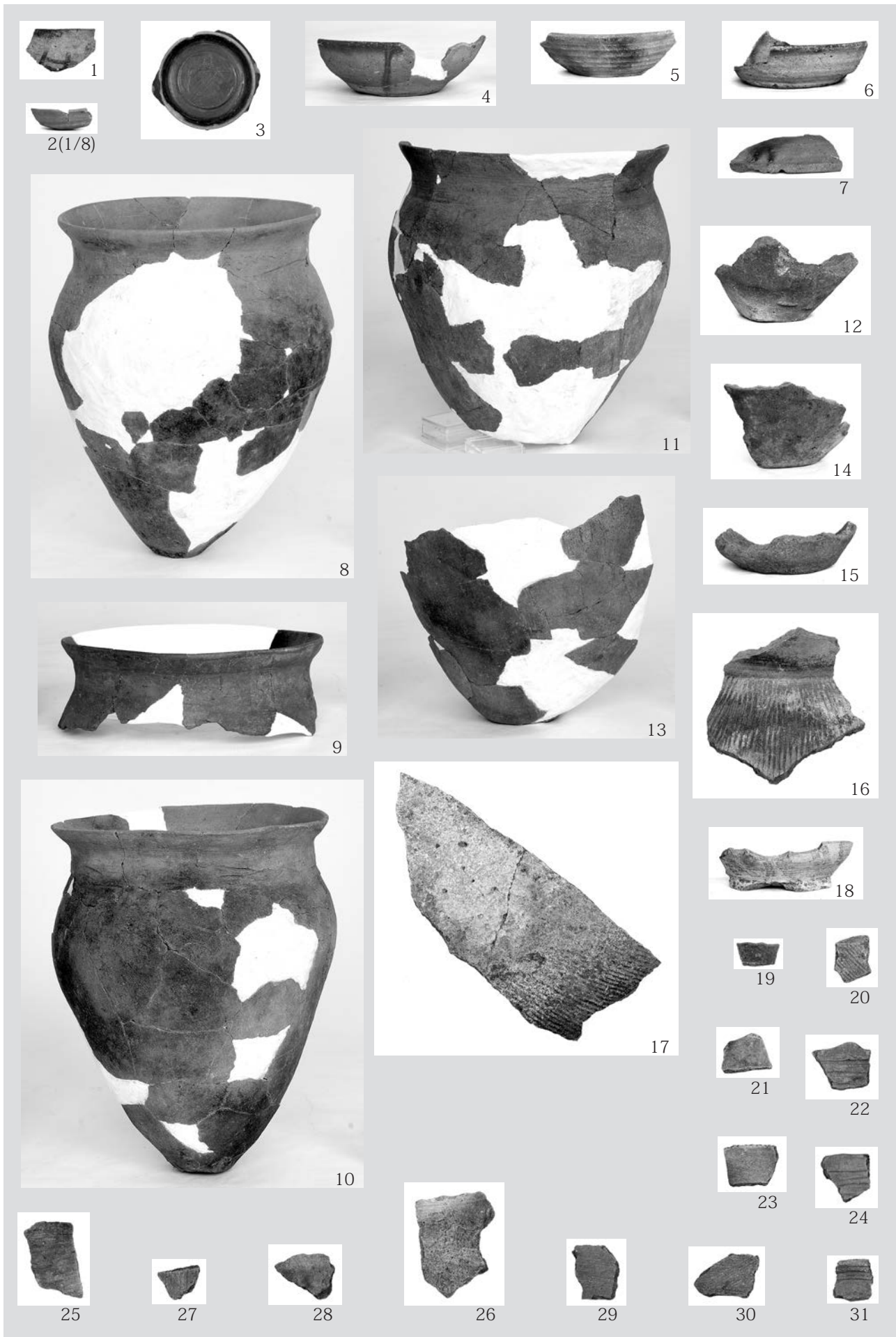
H113 号竖穴建物出土遺物 (1)



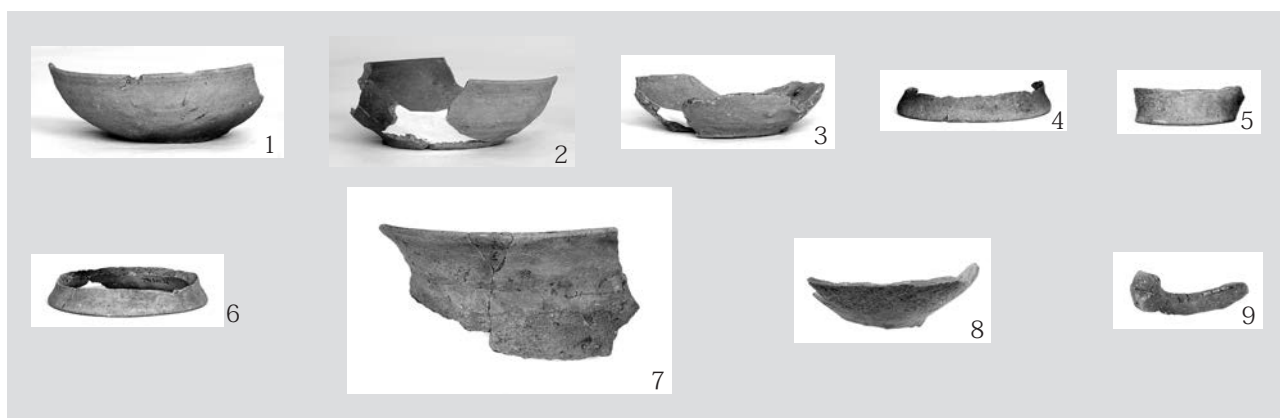
H113 号竖穴建物出土遺物 (2)



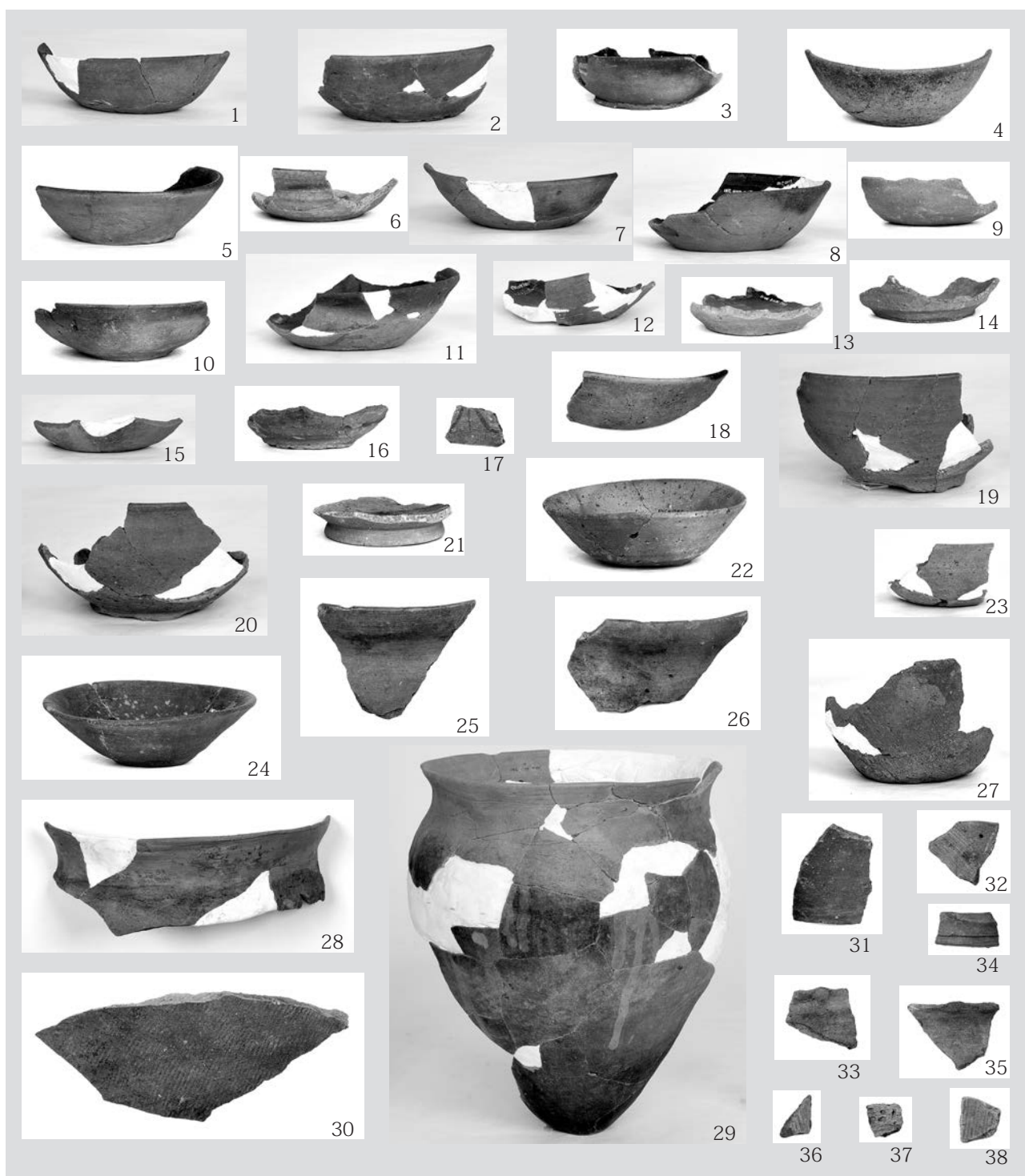
H114 号竖穴建物出土遺物



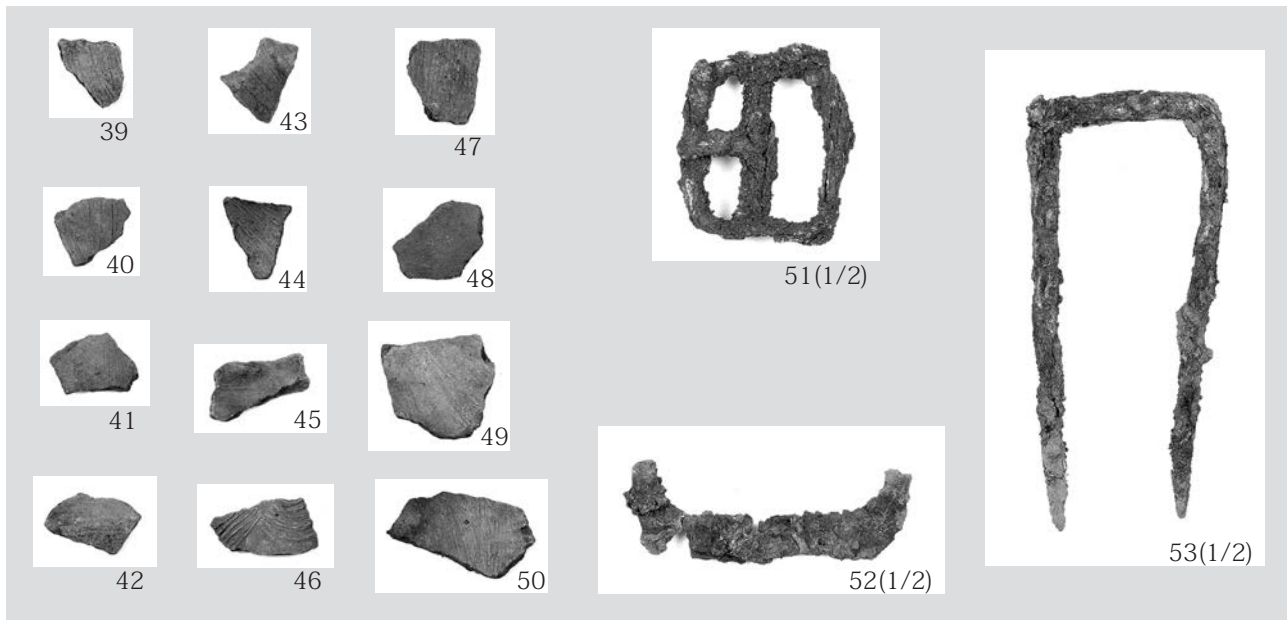
H115 号竖穴建物出土遺物



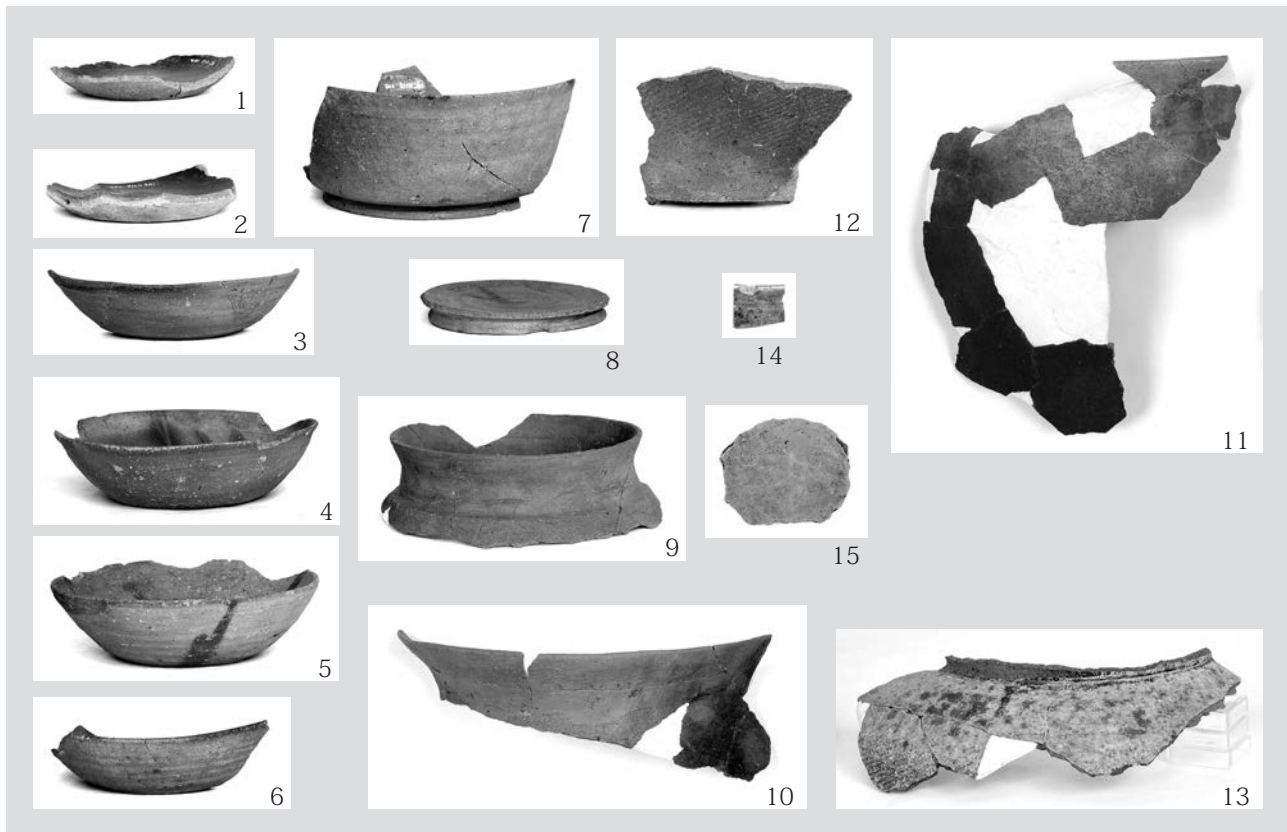
H116 号豎穴建物出土遺物



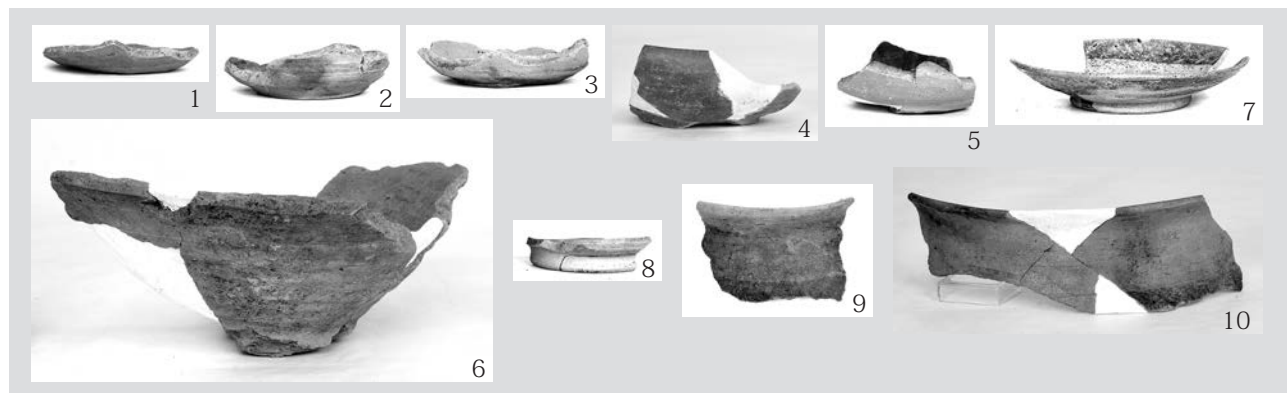
H117 号豎穴建物出土遺物 (1)



H117 号竖穴建物出土遺物 (2)



H118 号竖穴建物出土遺物



H119 号竖穴建物出土遺物 (1)



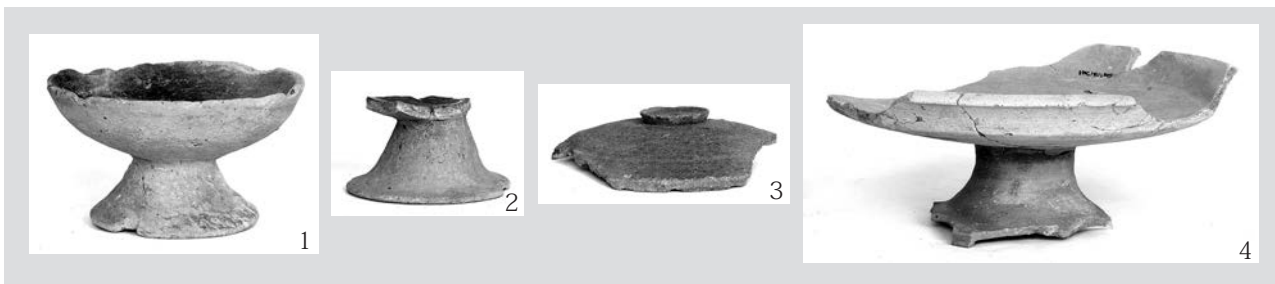
H119 号竖穴建物出土遺物 (2)



H120 号竖穴建物出土遺物



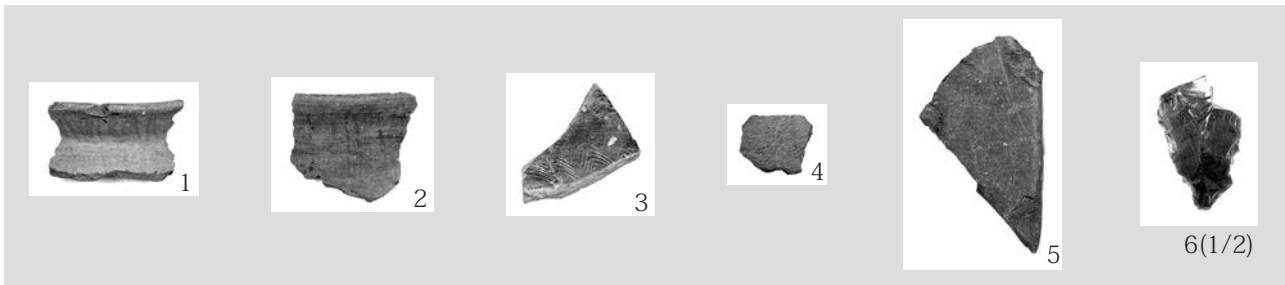
H121 号竖穴建物出土遺物



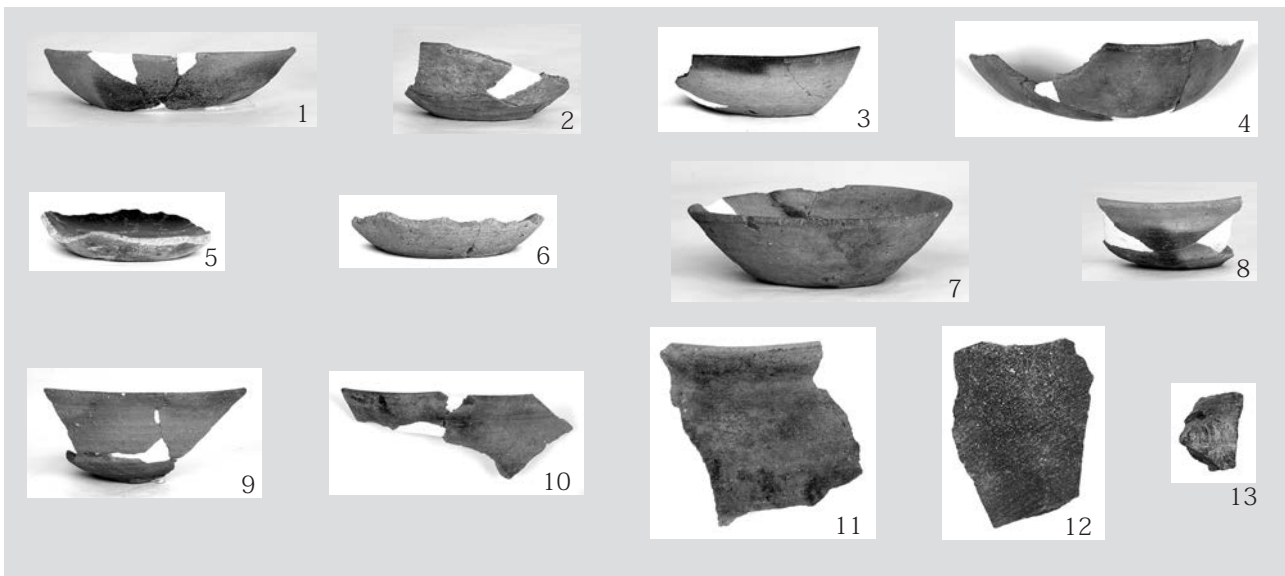
H122 号竖穴建物出土遺物 (1)



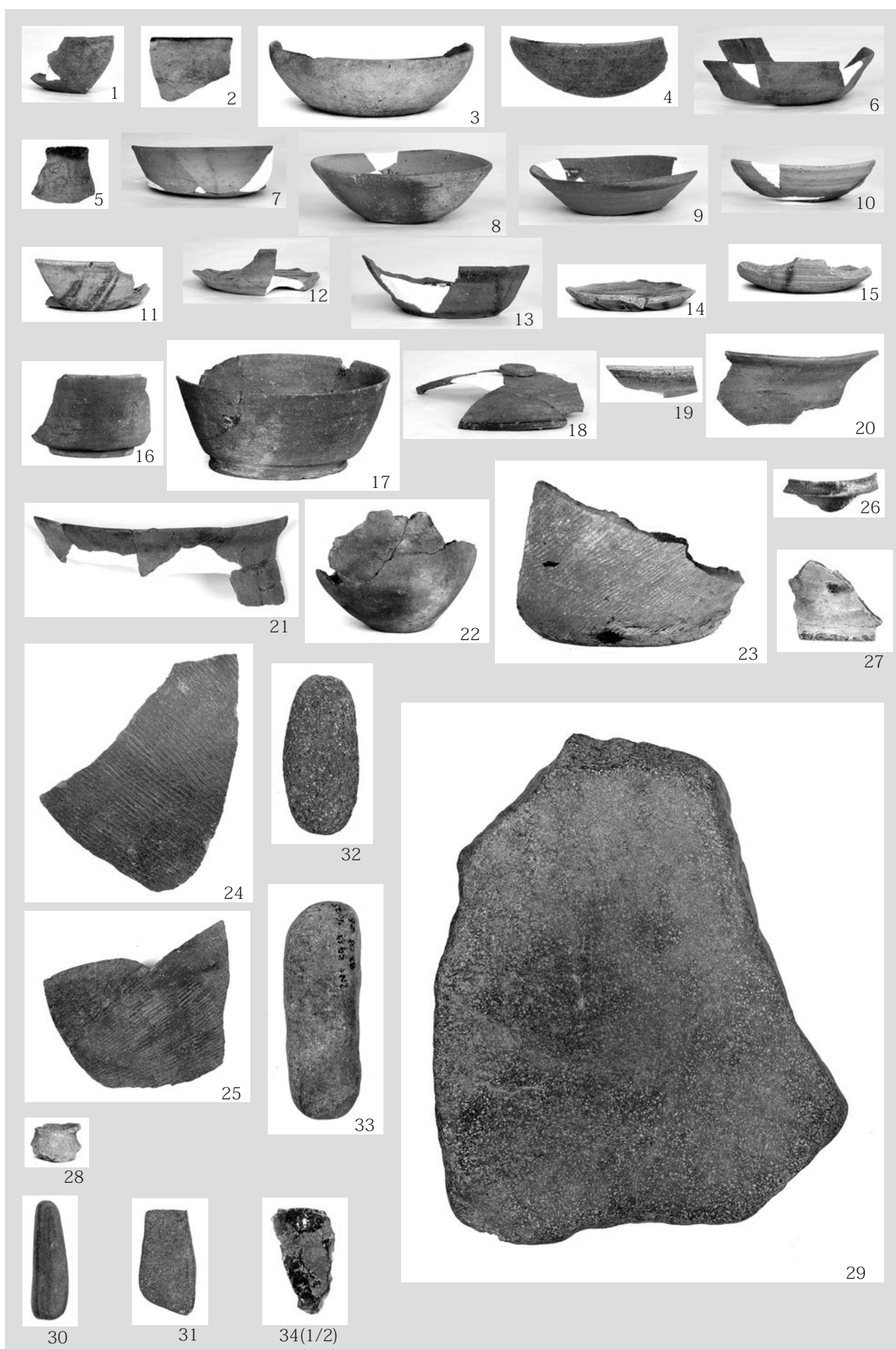
H122 号竖穴建物出土遺物 (2)



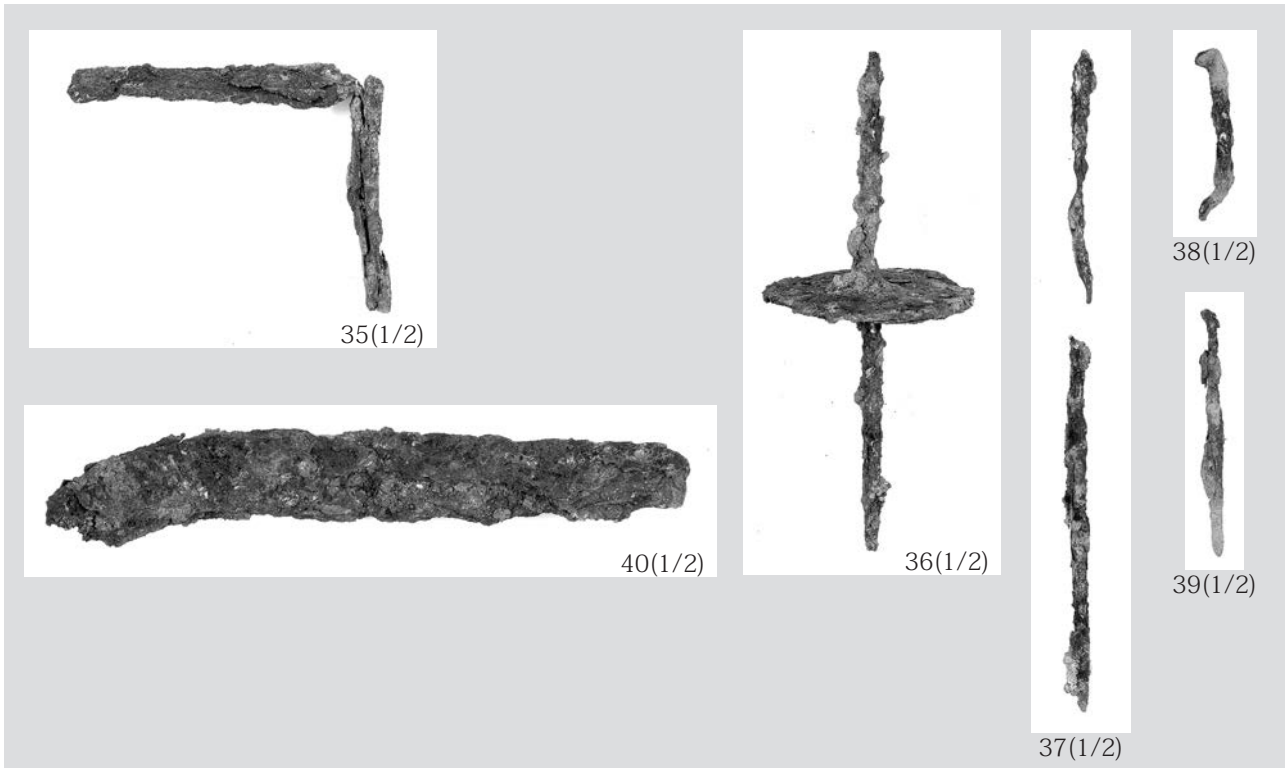
H123 号竖穴建物出土遺物



H124 号竖穴建物出土遺物



H125 号竖穴建物出土遺物 (1)



H125 号竖穴建物出土遺物 (2)

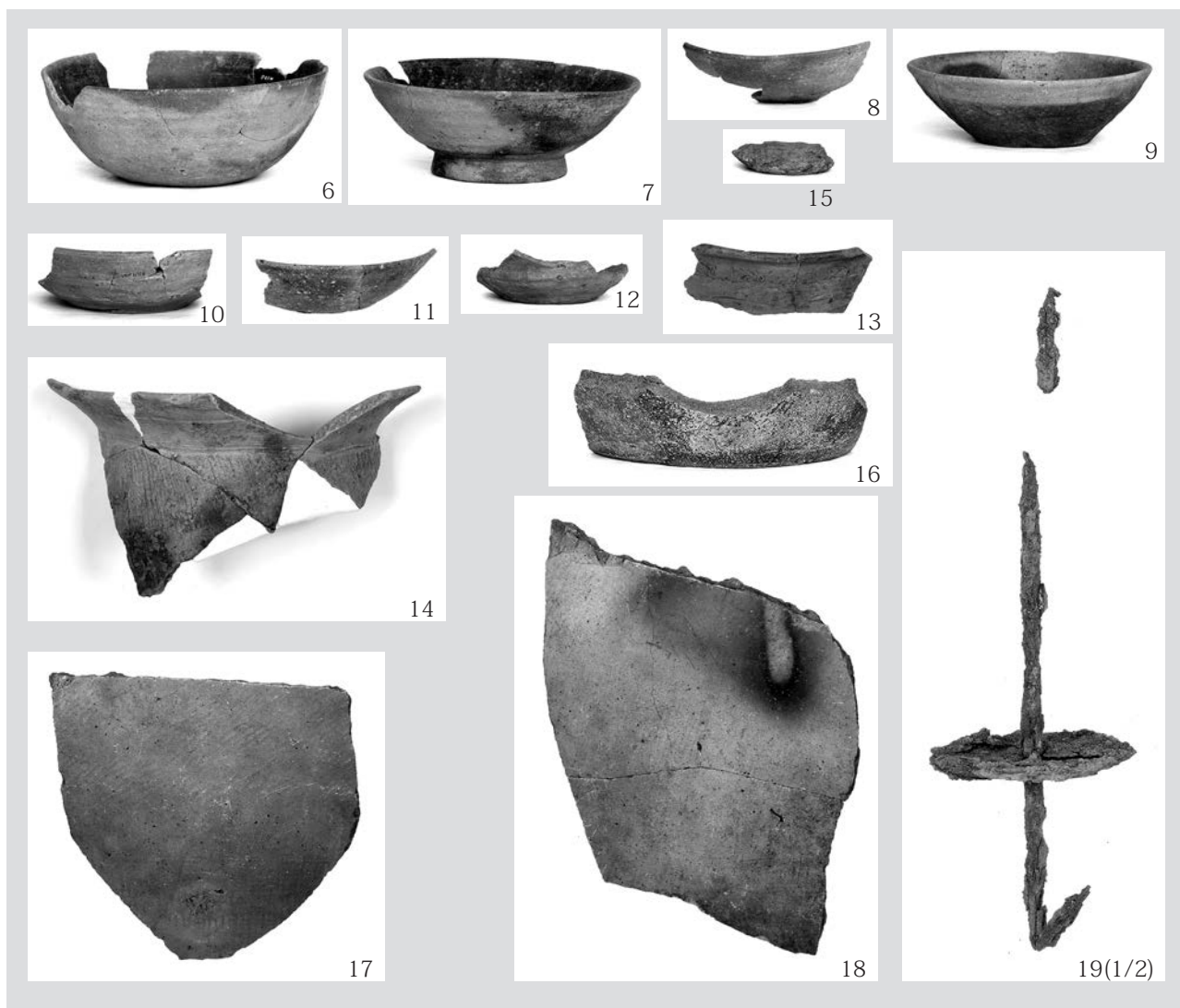


H126 号竖穴建物出土遺物

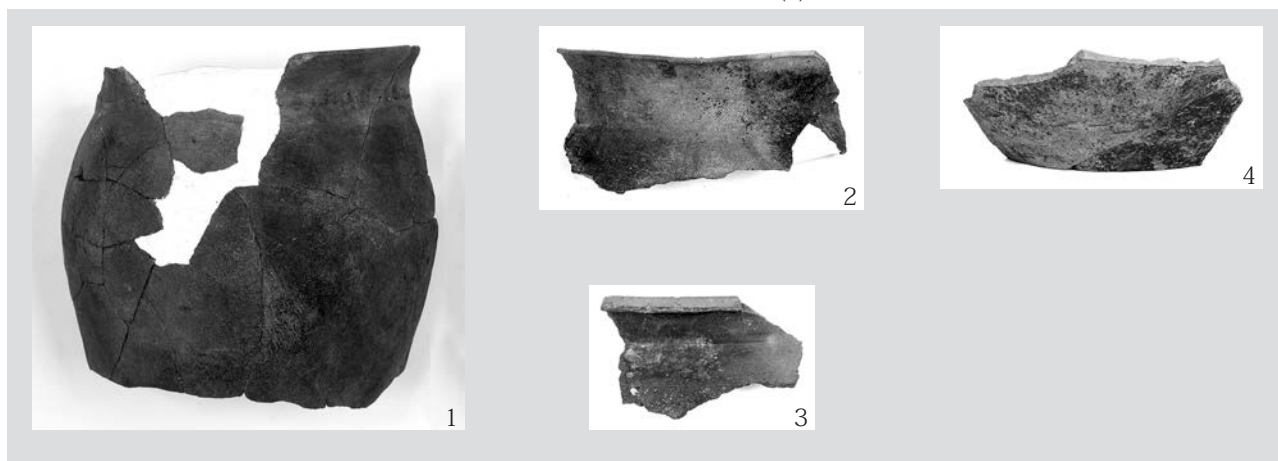


H127 号竖穴建物出土遺物

H128 号竖穴建物出土遺物 (1)



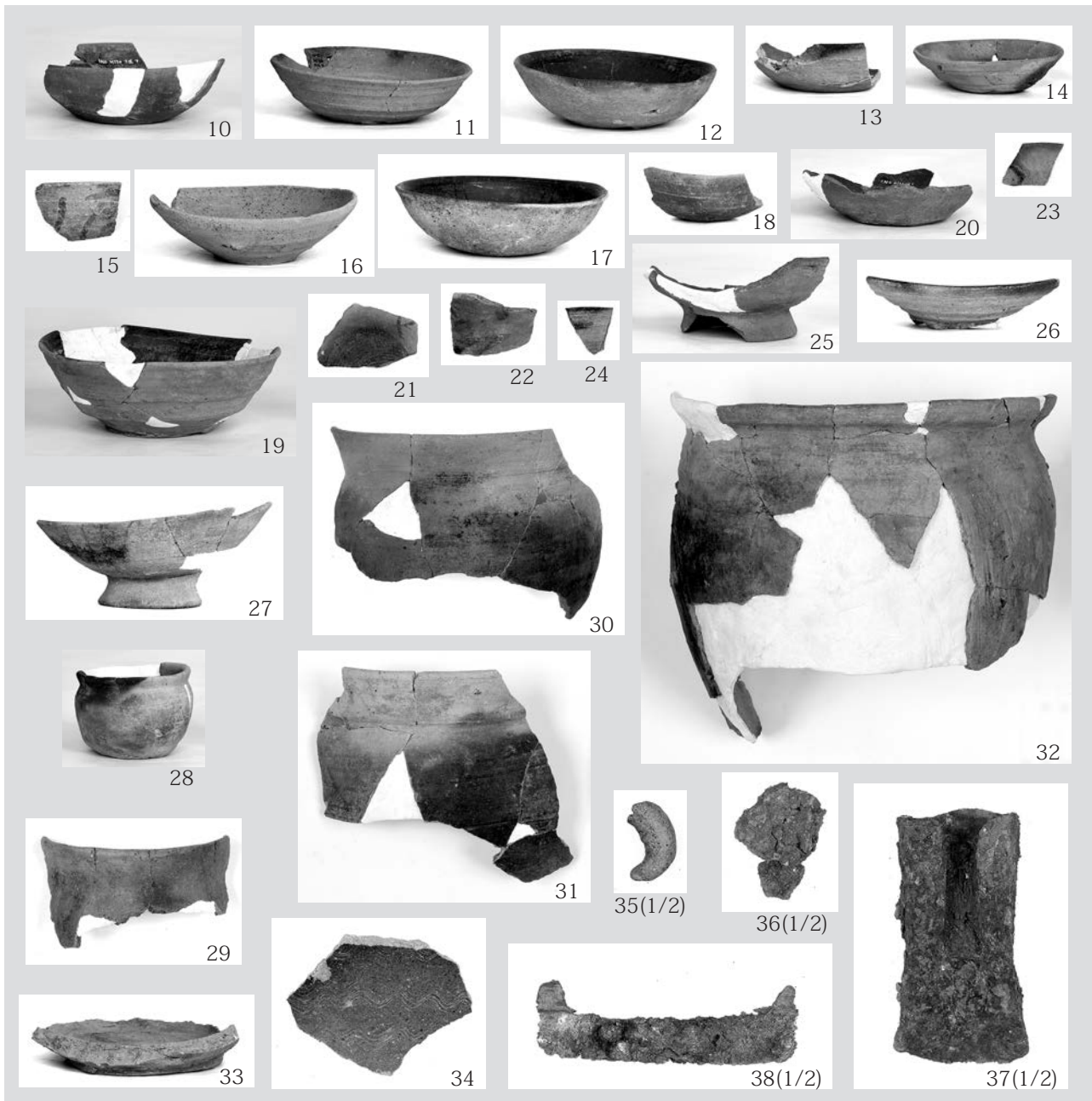
H128 号竖穴建物出土遺物 (2)



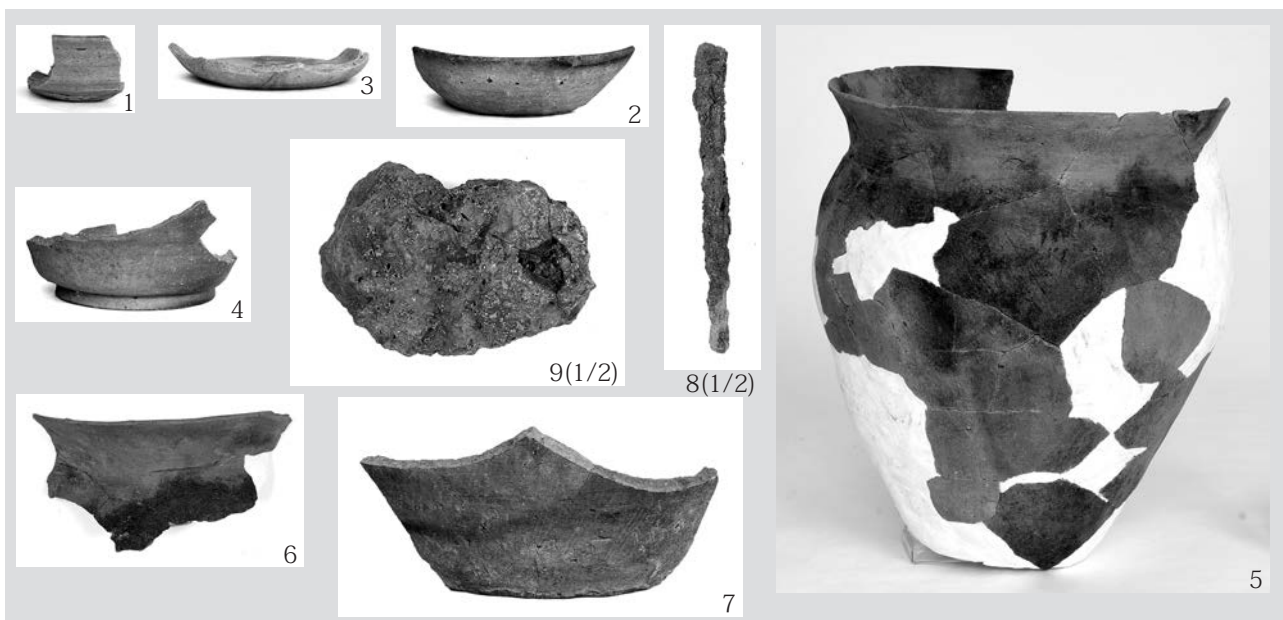
H129 号竖穴建物出土遺物



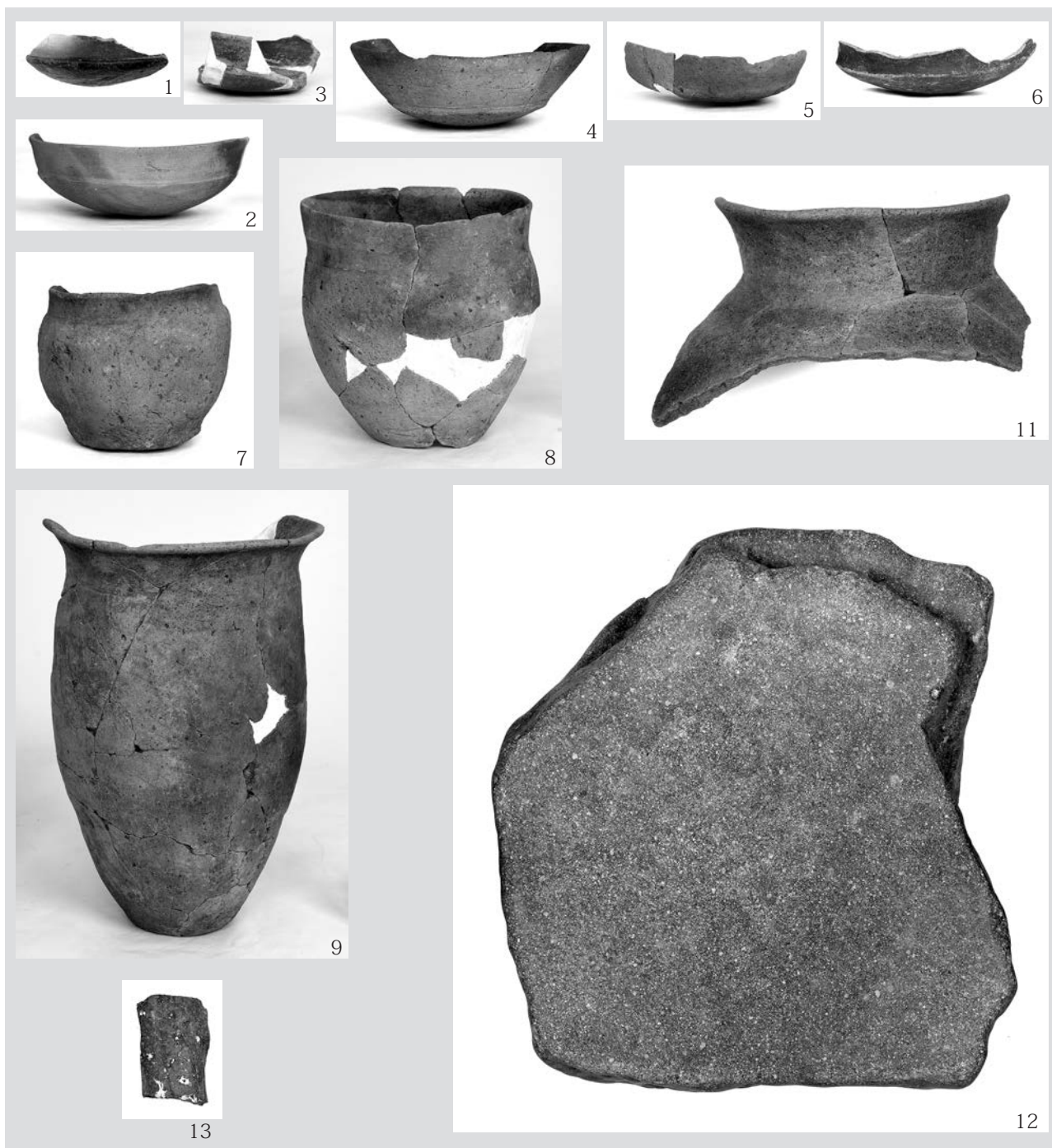
H130 号竖穴建物出土遺物 (1)



H130 号竪穴建物出土遺物 (2)



H131 号竪穴建物出土遺物



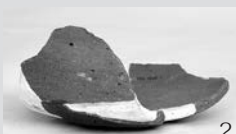
H132 号竖穴建物出土遺物



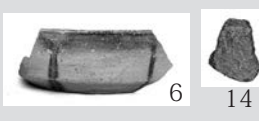
H133 号竖穴建物出土遺物



H134 号竪穴建物出土遺物



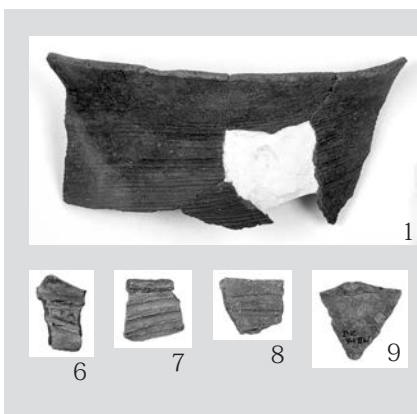
H136 号竖穴建物出土遺物



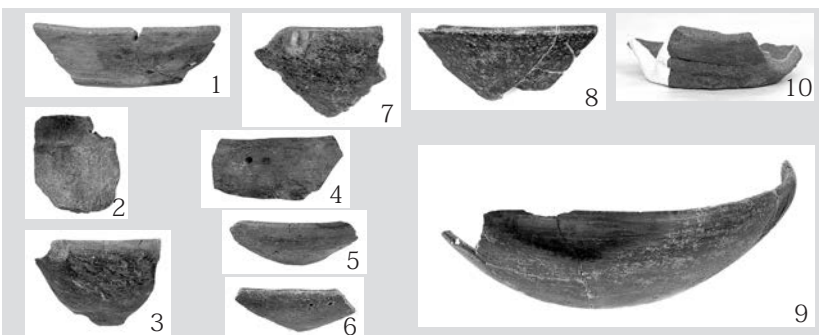
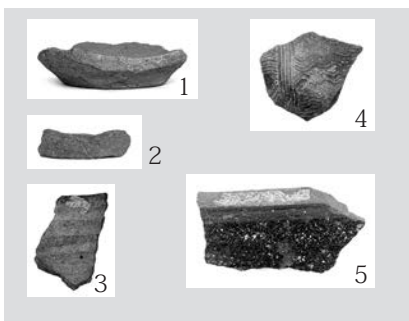
H137 号竖穴建物出土遺物



H138 号竖穴建物出土遺物



Y1 号竖穴建物出土遺物



Y2 号竖穴建物出土遺物

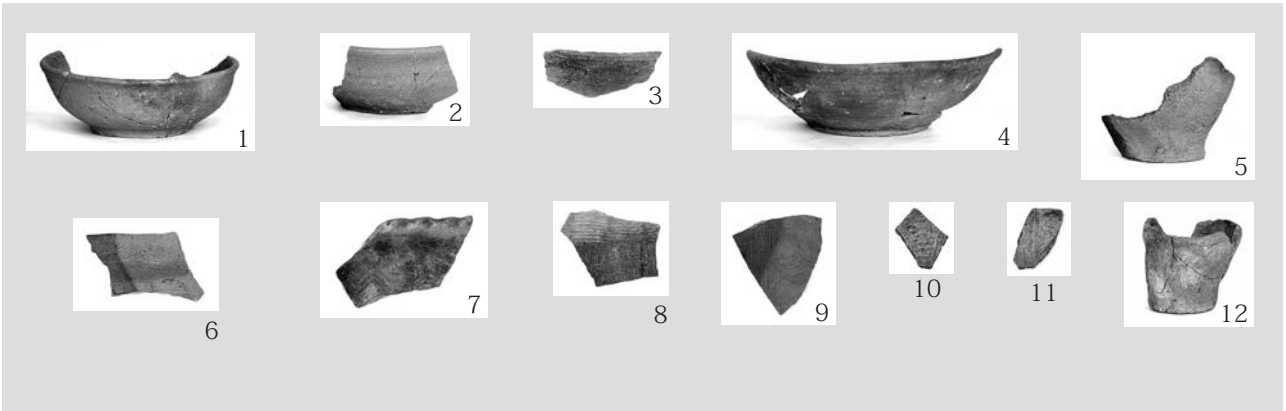
Y3 号竖穴建物出土遺物 (1)



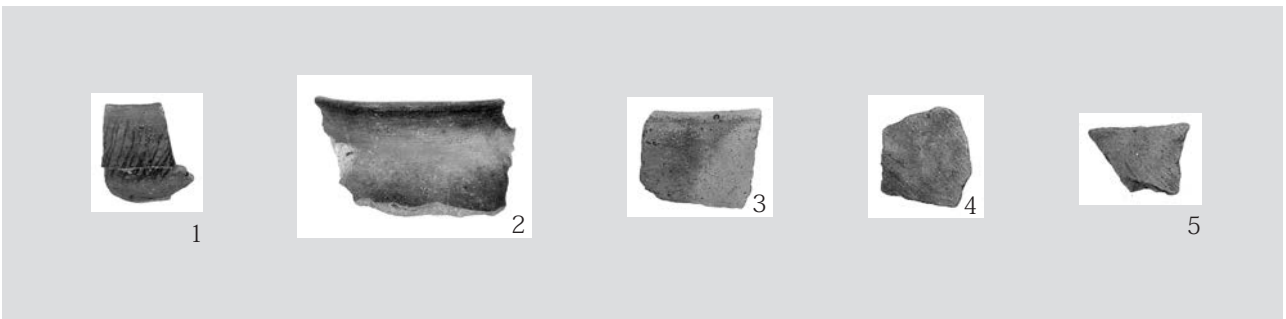
Y3 号竖穴建物出土遺物 (2)



Y3 号竖穴建物出土遺物 (3)



Y4 号竖穴建物出土遺物



Y5 号竖穴建物出土遺物



Y6 号竖穴建物出土遺物



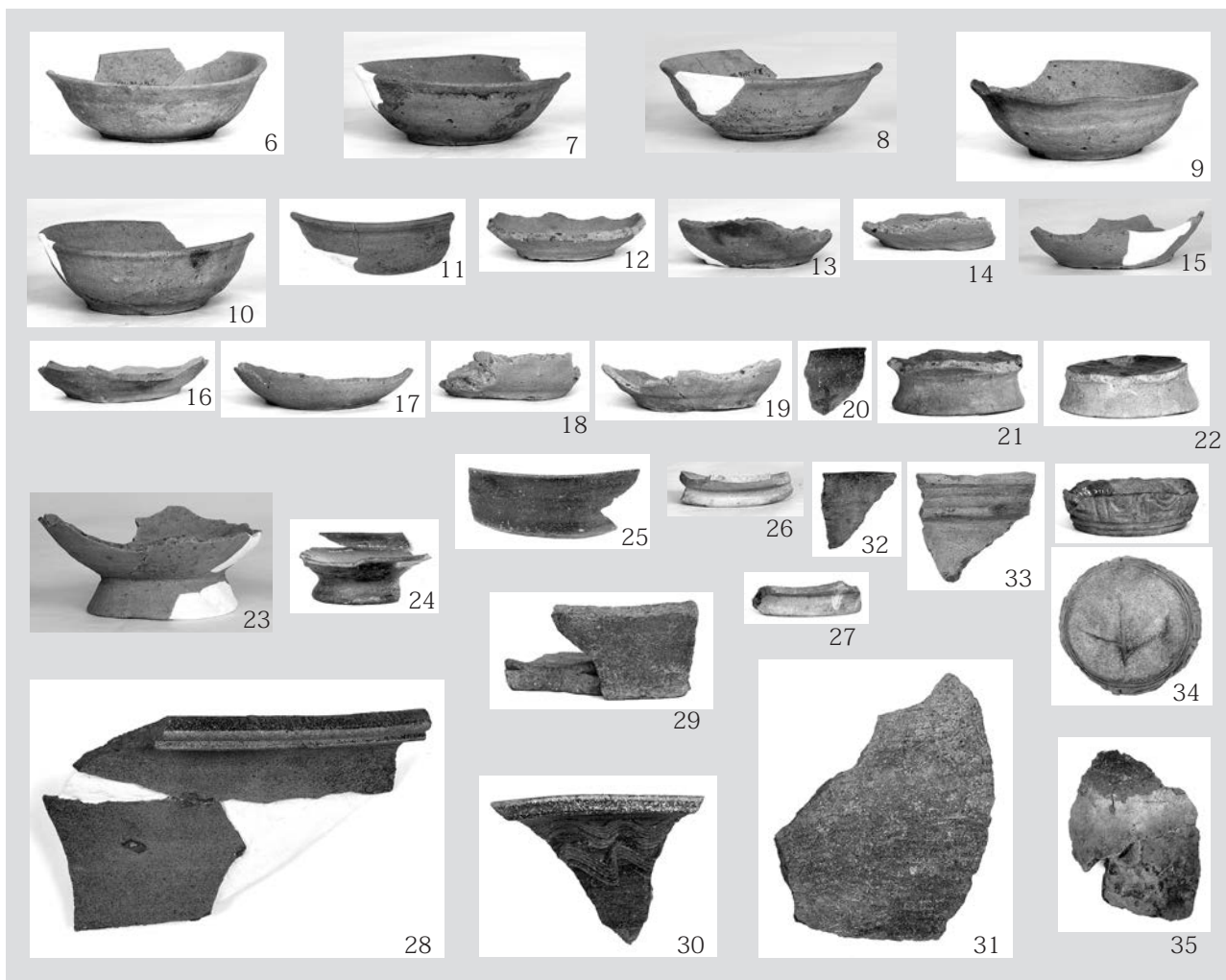
Y7 号竖穴建物出土遺物



Ta1 号竖穴建物出土遺物



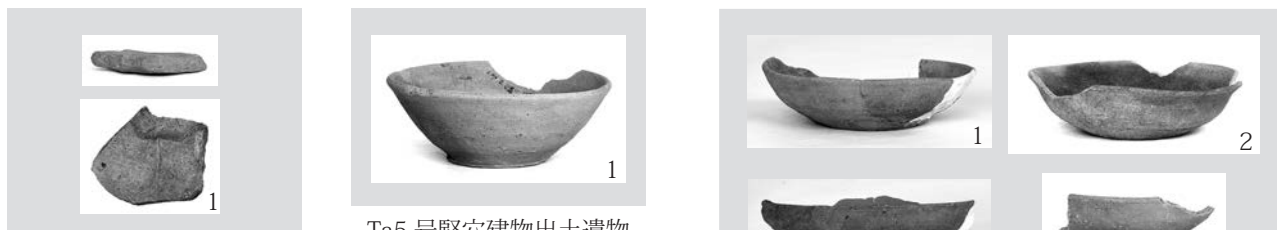
Ta2 号竖穴建物出土遺物 (1)



Ta2 号竖穴建物出土遺物 (2)



Ta3 号竖穴建物出土遺物

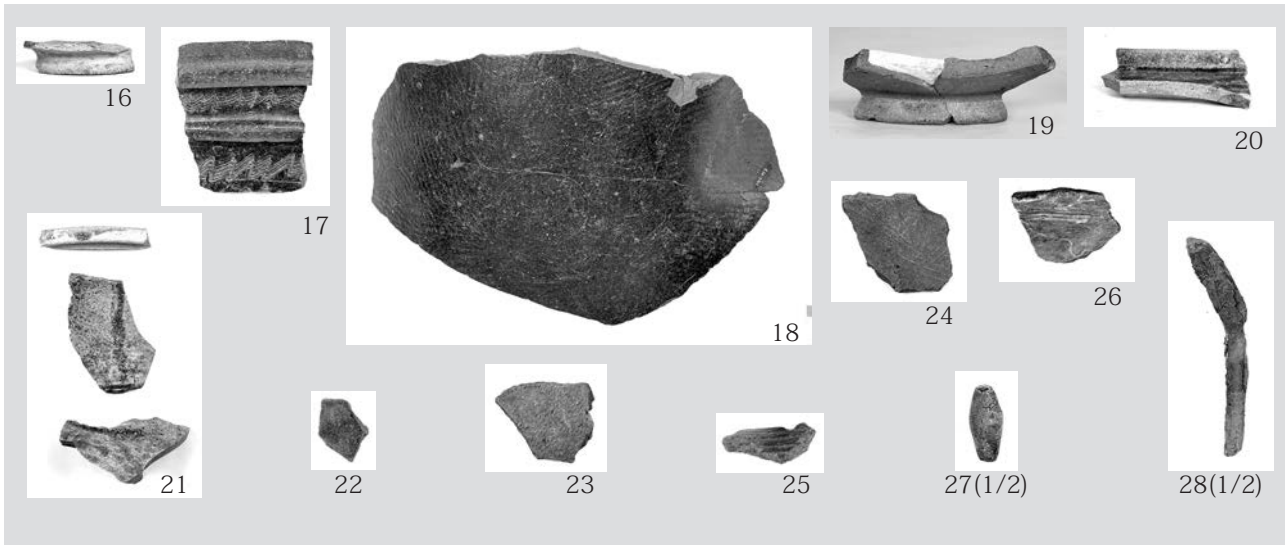


Ta5 号竖穴建物出土遺物

Ta4 号竖穴建物出土遺物



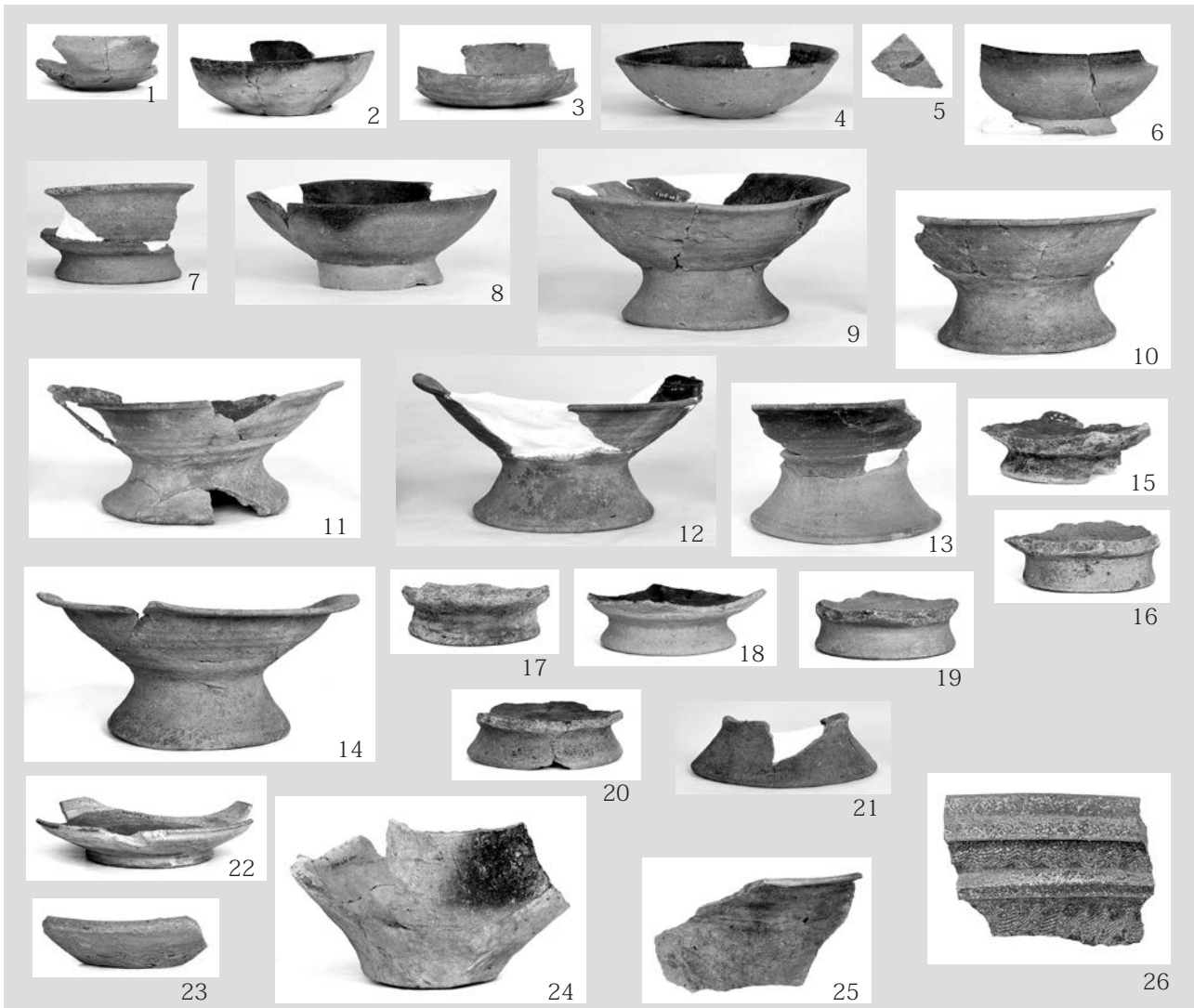
M7 号溝址出土遺物 (1)



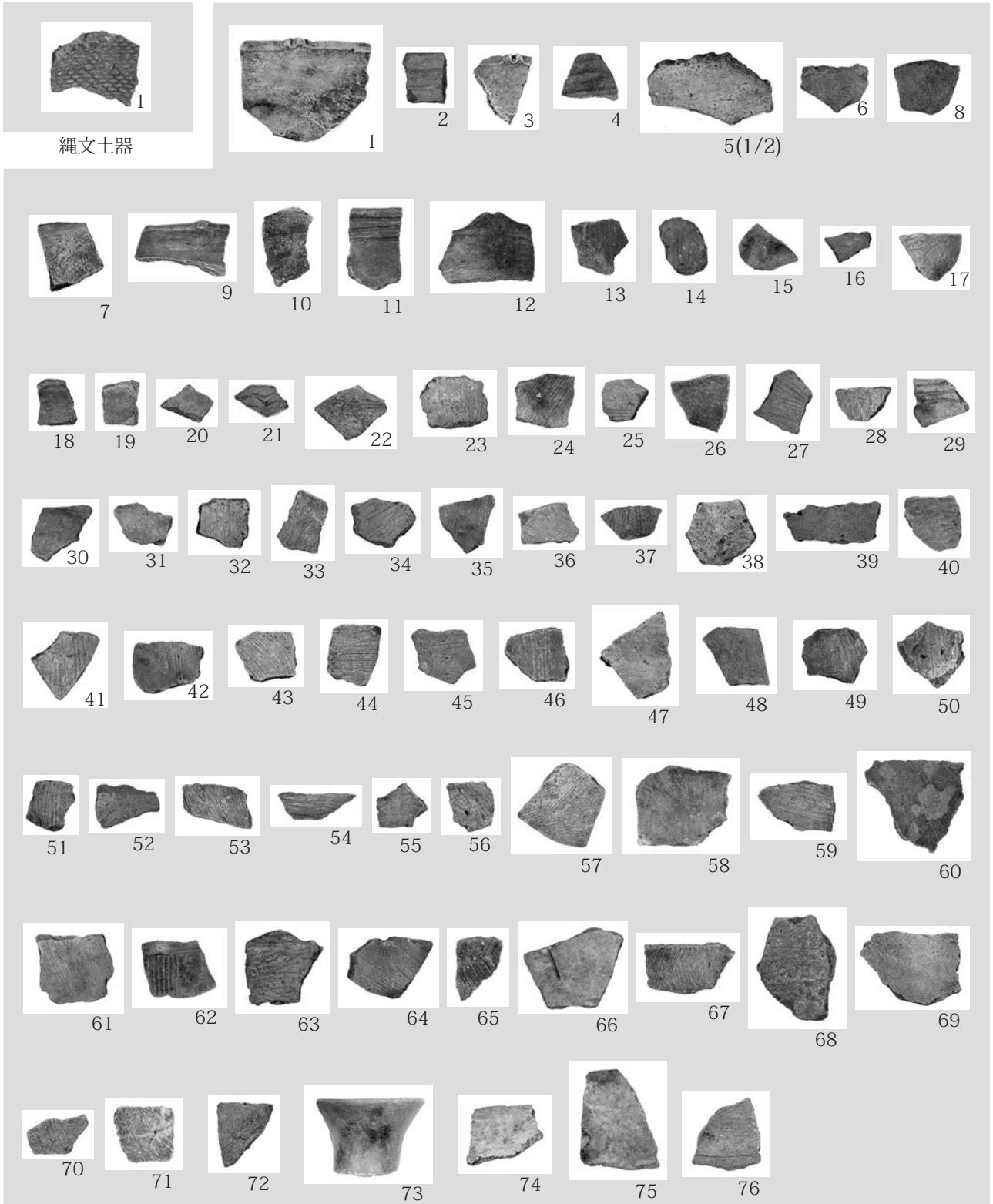
M7 号溝址出土遺物 (2)



M8 号溝址出土遺物



M9 号溝址出土遺物



縄文土器

弥生土器



遺構外出土遺物 (1)



9



12



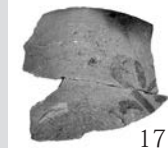
14



15



16



17



13



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



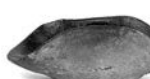
46



47



48



49



50



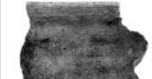
51



52



53



54



55



56



57



59



60



61



65



58



62



63



64



66



67



68



69



70

土師器



1



2



3

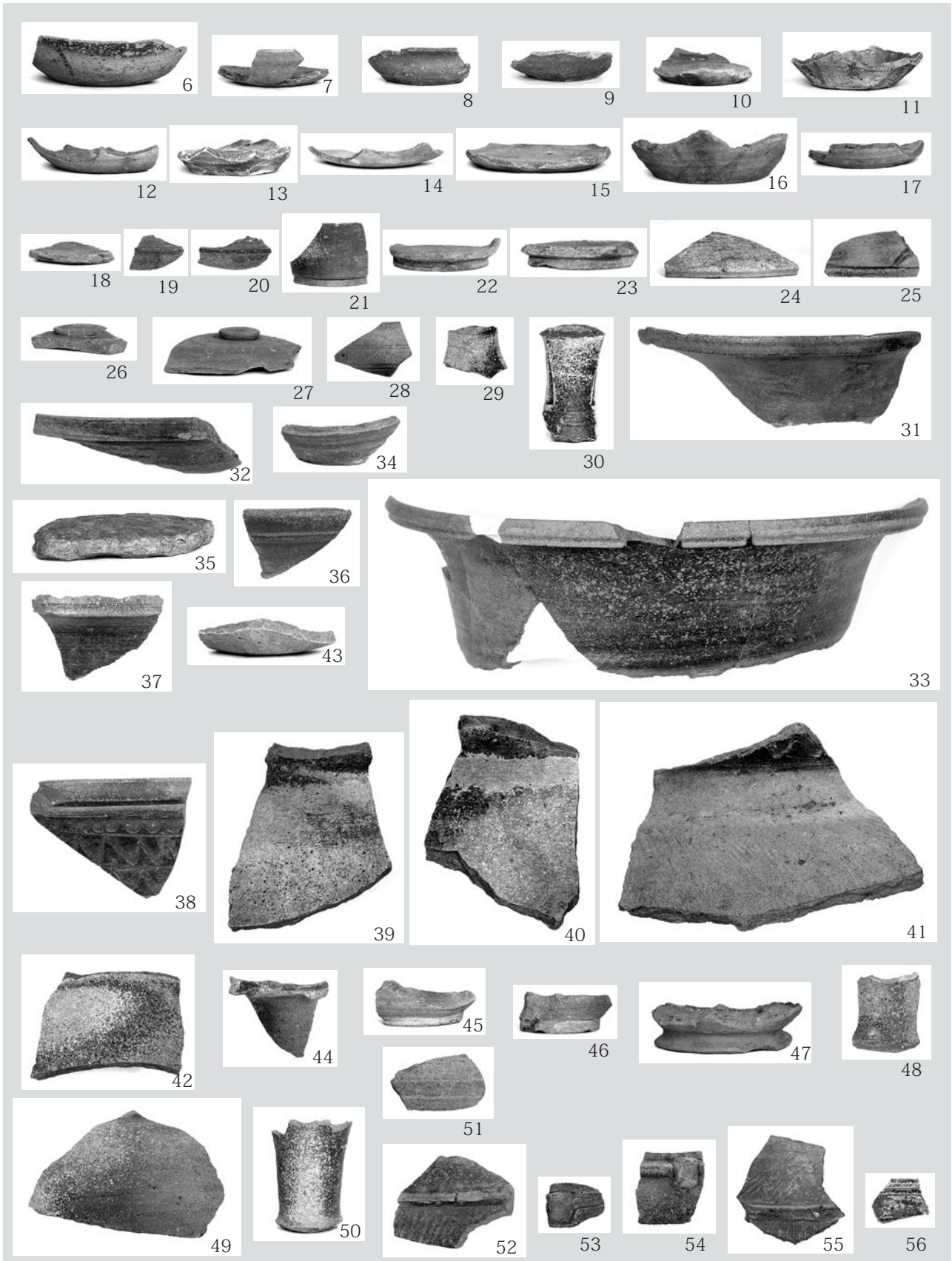


4



5

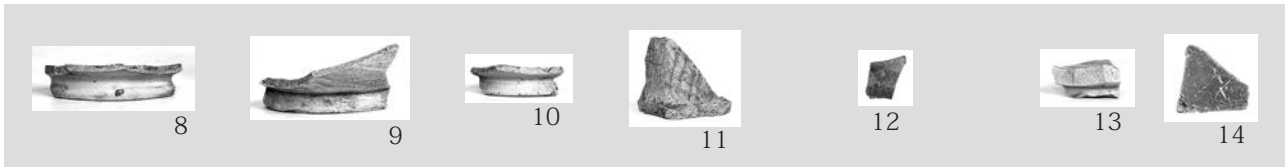
遺構外出土遺物 (2)



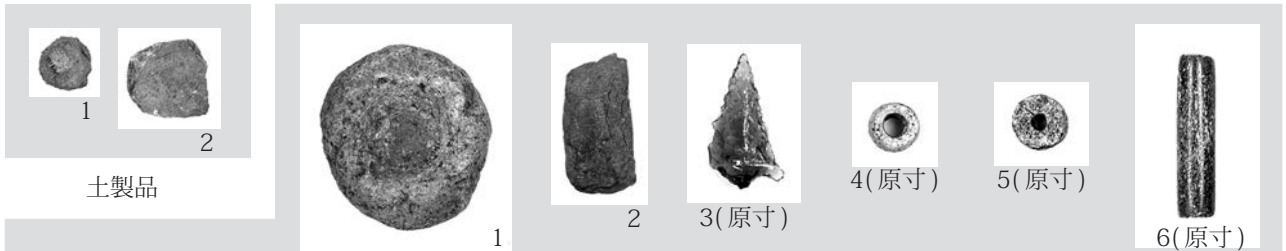
須恵器



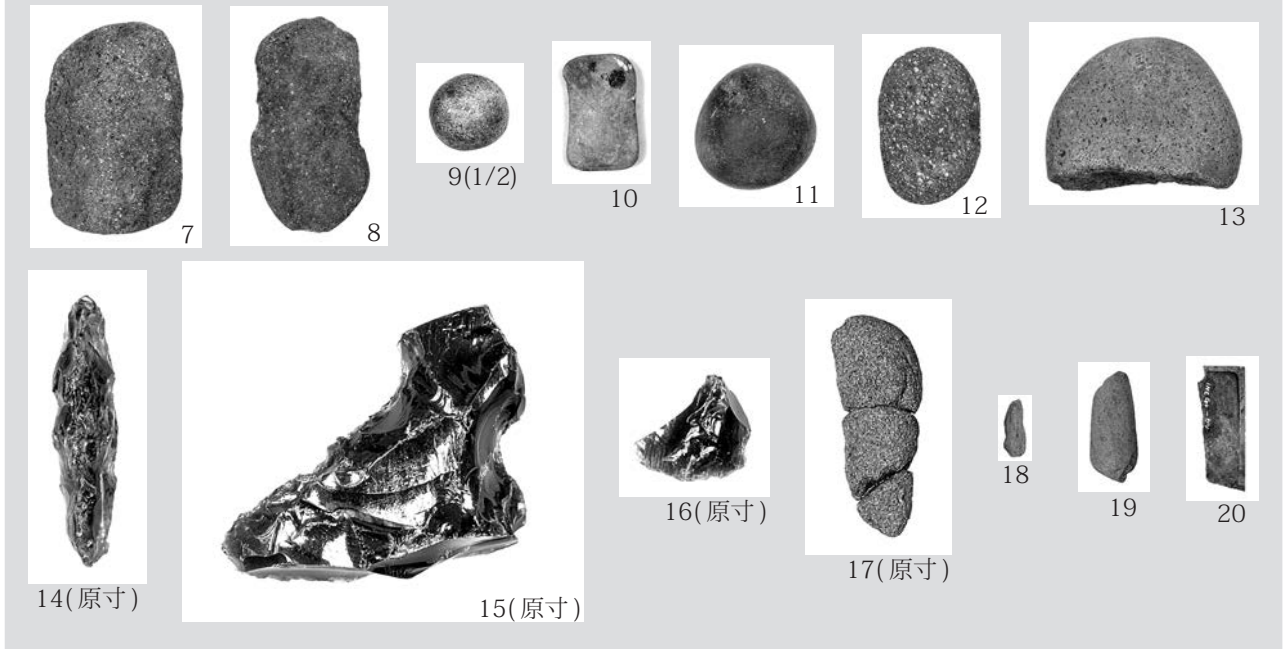
遺構外出土遺物 (3)



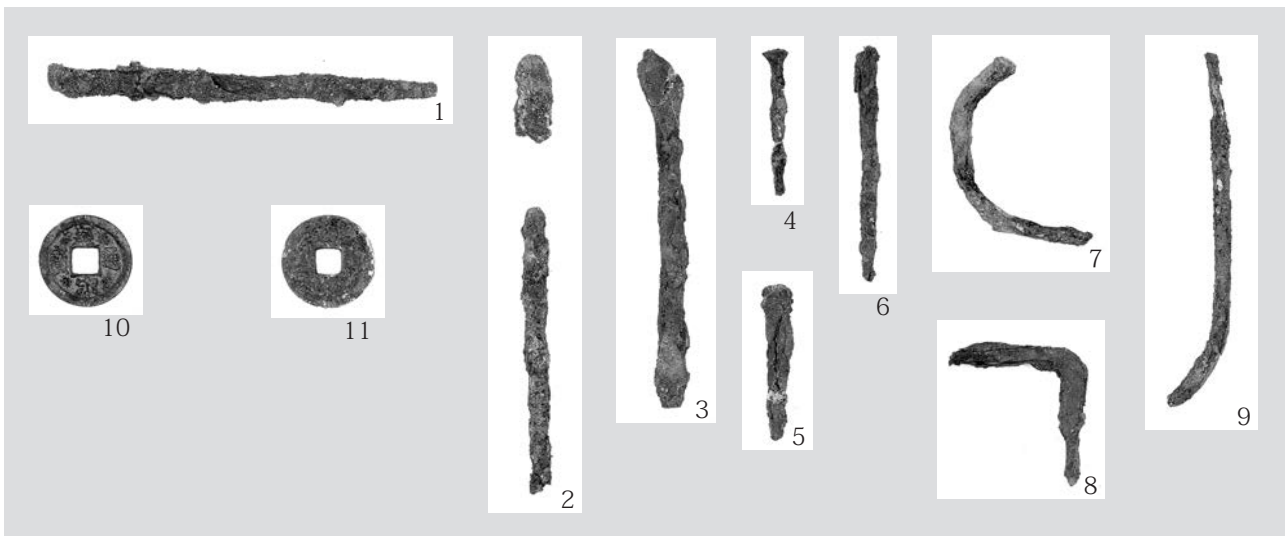
灰釉陶器・緑釉陶器・青磁



土製品



石器・石製品



金属器・金属製品 (全て 1/2)

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしようかまちいせき いち							
書名	岩村田遺跡群 西八日町遺跡 I							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 287 集							
編著者名	小林真寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 TEL 0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和 4 年 (2022) 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			昭和 58 年		
にしようかまちいせきいち	さくしいわむらだ 2152-13 ほか	20217	52	36° 26'45"	138° 47'77"	5 月 8 日～ 8 月 31 日	4,850㎡	宅地造成
西八日町遺跡 I	佐久市岩村田 2152-13 外							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西八日町遺跡 I	集落址	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴建物址 -150 棟 掘立柱建物址 -2 棟 土坑 -11 基 溝址 -3 条 ピット -16 基	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 石器・石製品 金属器 木器	弥生時代前期資料の出土。 7 世紀代の竪穴建物から炭化した横櫓が出土。			
要約	湯川段丘上に営まれた集落遺跡である。初現は弥生時代前期であり、後期まで連綿と続いた可能性が高い。古墳時代前期、中期に断絶期間が認められるが、古墳時代後期以降、平安時代まで大規模集落が展開する。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 287 集

岩村田遺跡群 西八日町遺跡 I

2022 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

TEL 0267-63-5321

印刷所 キクハラインク株式会社